



取扱説明書

よくお読みになってご使用ください。

VELLFIRE



安全・安心のために

お客様に必ずお読みいただきたいこと

(主な項目：チャイルドシートの取扱い、盗難防止装置)

走行に関する情報表示

走行に関する情報を表示する計器類の見方

(主な項目：メーター・マルチインフォメーションディスプレイ)

運転する前に

ドア・ドアガラスの開閉や、運転操作前の調整

(主な項目：キー、ドア、シート、パワーウィンドウ)

運転

運転に必要な操作やアドバイス

(主な項目：エンジン始動のしかた、給油のしかた)

室内装備・機能

室内装備の使い方など

(主な項目：エアコン・収納装備の使い方)

お手入れのしかた

車のお手入れ・メンテナンスの方法

(主な項目：内装・外装の手入れ、ランプの交換)

万一の場合には

故障したときや、緊急時などの対処

(主な項目：バッテリーあがりやタイヤがパンクしたときの対処)

車両情報

車の仕様や好みに合わせて選べる機能の情報

(主な項目：指定燃料、各オイル量、タイヤ空気圧)

さくいん

症状から検索

音から検索

アルファベットで検索

五十音で検索

1

2

3

4

5

6

7

8

知っておいていただきたいこと	6
本書の見方	12
検索のしかた	13
イラスト目次	14

1 安全・安心のために

1-1. 安全にお使いいただくために	
運転する前に	26
安全なドライブのために	27
シートベルト	29
SRS エアバッグ	34
排気ガスに対する注意	40
1-2. お子さまの安全	
お子さまを乗せるときは	41
チャイルドシート	42
1-3. 盗難防止装置	
エンジンイモビライザーシステム	57
オートアラーム	58

2 走行に関する情報表示

2-1. 計器の見方	
警告灯／表示灯	62
計器類	67
マルチインフォメーションディスプレイ	72
ヘッドアップディスプレイ	73
ディスプレイの表示内容	78

3 運転する前に

3-1. キー	
キー	86
デジタルキー	89
3-2. ドアの開閉、ロックのしかた	
フロントドア	92
スライドドア	96
バックドア	107

スマートエントリー＆スタートシステム	117
--------------------	-----

3-3. シートの調整

フロントシート	123
セカンドシート	124
サードシート	126
ヘッドレスト	128
シートアレンジ	130

3-4. ハンドル位置・ミラー

ハンドル	137
デジタルインナーミラー	138
ドアミラー	146

3-5. ドアガラスの開閉

パワーウィンドウ	149
----------	-----

3-6. 好み設定

パワーイージーアクセスシステム／ポジションメモリー／メモリーコール機能	152
マイセッティング	156

4 運転

4-1. 運転にあたって

運転にあたって	161
荷物を積むときの注意	168

4-2. 運転のしかた

エンジン（イグニッション）スイッチ	170
オートマチックトランスミッション	174
方向指示レバー	180
パーキングブレーキ	181
ブレーキホールド	185

4-3. ランプのつけ方・ワイパーの使い方

ランプスイッチ	187
AHS（アダプティブルハイビームシステム）	190
AHB（オートマチックハイビーム）	193
フォグランプスイッチ	196

ワイパー＆ウォッシャー（フロント）	197	RCTA（リヤクロストラフィックアラート）	311
ワイパー＆ウォッシャー（リヤ）	200	RCD（リヤカメラディテクション）	316
4-4. 給油のしかた		PKSB（パーキングサポートブレーキ）	319
給油口の開け方	202	パーキングサポートブレーキ（前後方静止物／周囲静止物）	323
4-5. 運転支援装置について		パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）	326
ソフトウェアアップデートを確認する（Toyota Safety Sense／アドバンスト ドライブ [渋滞時支援] 装着車）	204	パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）	328
Toyota Safety Sense	207	プラスサポート（販売店装着オプション）	329
ドライバーモニター	215	トヨタチームメイト アドバンスト パーク	334
PCS（プリクラッシュセーフティ）	216	運転を補助する装置	358
LTA（レントレーシングアシスト）	225	4-6. 運転のアドバイス	
LCA（レーンチェンジアシスト）	230	寒冷時の運転	364
LDA（レーンディパーチャーラート）	234	5 室内装備・機能	
PDA（プロアクティブドライビングアシスト）	239	5-1. エアコンの使い方	
FCTA（フロントクロストラフィックアラート）	244	ALL AUTO 制御	368
発進遅れ告知機能	246	フロントオートエアコン	369
RSA（ロードサインアシスト）	248	リヤオートエアコン	377
レーダークルーズコントロール	251	ステアリングヒーター／シートヒーター／シートベンチレーター	380
クルーズコントロール	261	5-2. 室内灯のつけ方	
ドライバー異常時対応システム	264	室内灯一覧	383
アドバンスト ドライブ（渋滞時支援）	267	5-3. 収納装備	
ITS Connect	271	収納装備一覧	386
Stop & Start システム	277	ラゲージルーム内装備	391
BSM（ブラインドスポットモニター）	283	5-4. その他の室内装備の使い方	
後方車両接近告知	289	その他の室内装備	393
周辺車両接近時サポート（録画機能、通報提案機能）	291	6 お手入れのしかた	
後方車両への接近警報	295	6-1. お手入れのしかた	
セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中後突対応）	297	外装の手入れ	412
安心降車アシスト	299	内装の手入れ	416
クリアランスソナー	304		

6-2. 簡単な点検・部品交換

ボンネット	419
ガレージジャッキ	421
ウォッシャー液の補充	422
タイヤについて	423
タイヤ空気圧について	425
エアコンフィルターの交換	426
電子キーの電池交換	428
ヒューズの点検・交換	430
外装のランプの交換	432

7 万一の場合には

7-1. まず初めに

故障したときは	434
非常点滅灯（ハザードランプ）	435
発炎筒	435
車両を緊急停止するには	436
水没・冠水したときは	437
車中泊が必要なときは	438

7-2. 緊急時の対処法

けん引について	439
フューエルポンプシャットオフシステム	444
警告灯がついたときは	445
警告メッセージが表示されたときは	451
パンクしたときは（タイヤパンク応急修理キット装着車）	458
パンクしたときは（応急用タイヤ装着車）	468
エンジンがかからないときは	476
キーをなくしたときは	477
電子キーが正常に働かないときは	478
バッテリーがあがったときは	480
オーバーヒートしたときは	483
スタックしたときは	486

8 車両情報

8-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）	488
------------------------	-----

8-2. カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ機能一覧	493
----------------	-----

8-3. 初期設定

初期設定が必要な項目	508
------------	-----

さくいん

こんなときは（症状別さくいん）	510
車から音が鳴ったときは（音さくいん）	512
アルファベット順さくいん	514
五十音順さくいん	516

1

2

3

4

5

6

7

8

知っておいていただきたいこと

本書の内容について

本書はオプションを含むすべての装備の説明をしています。

そのため、お客様の車にはない装備の説明が記載されている場合があります。また、車の仕様変更により、内容がお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。

トヨタ販売店で取り付けられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取扱説明書をお読みください。

イラストは、記載している仕様などの違いにより、お客様の車の装備と一致しない場合があります。

不正改造について

- トヨタが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、不正改造になることがあります。
- 車高を下げたり、ワイドタイヤを装着するなど、車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因となったり、事故を起こし、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

また、このような改造は Toyota Safety Sense のような先進安全装備にも影響を与え、正しく作動しない危険や作動すべきでない場面での作動をする恐れがあり危険です。

- ハンドルの改造は絶対にしないでください。ハンドルには SRS

エアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 次の場合はトヨタ販売店にご相談ください。

- ・ タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットの交換

異なる種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、不正改造になることがあります。

- ・ 電気品・無線機の取り付け・取りはずし

電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあり危険です。

RF 送信機の取り付けについては、P.9 も参照してください。

- フロントウインドウガラス、および運転席・助手席のドアガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼り付けないでください。視界をさまたげるばかりでなく、不正改造につながるおそれがあります。

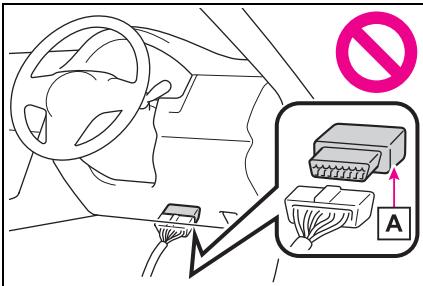
サイバー攻撃のリスクについて

電子機器や無線機を取り付けると、装着された部品を通じてサイバー攻撃のリスクを高め、思わぬ事故や個人情報の流出などにつながるおそれがあります。トヨタ純正品以外を取り付けたことに起因する問題に関してトヨタは保証いたしません。

故障診断コネクターなどへの電装品取り付けについて

故障診断コネクター**A** などに、点検整備用の故障診断装置以外の電装品を取り付けないでください。

電子機器に悪影響をおよぼしたり、バッテリーがあががつたりするなど、思わぬトラブルを招くおそれがあります。



車両データの記録

本車両には、車両の制御や操作に関するデータなどを記録するコンピューターが装着されています。

■ コンピュータに記録されるデータ^{*1}

^{*1}グレード／オプション装備により記録されるデータ項目は異なります。

各機能の作動時や操作状況により、主に次のようなデータを記録します。

- 車両の挙動に関する基本的なデータ（エンジン回転数・アクセルペダルの操作状況・ブレーキペダルの操作状況、車速など）
- 運転支援システムの作動状況（システムの作動に付随して記録される車両の挙動に関する基本的なデータも含みます）

- 運転支援システムのセンサーのデータ
- 画像データ（前方・後方・周辺・ドライバーモニターのカメラ画像）^{*2}

^{*2}車両には複数のカメラがついています。どのカメラが画像を記録しているかはトヨタ販売店にお問い合わせください。

● 位置情報

コンピューターは会話などの音声や車内の映像は記録しません。

また、お客様個人を特定できる種類のデータ（氏名・性別・年齢など）は車両に記録されません。

■ Toyota Safety Senseによるデータの記録・個人情報の取り扱いについて

トヨタ自動車は Toyota Safety Sense により車両に記録された各システムの作動状況・各センサーのデータ・画像データ（前方・後方カメラの画像）・位置情報を次の場合に該当するときに限り、お客様が販売店に入庫されたときに取得するほか、トヨタ自動車のサーバーに送信する形で取得します。

- 一定の衝突や衝突に近い状態などが発生した場合
- 渋滞や悪路、悪天候などの特定の交通環境にある道路を走行している場合
- 新規開通道路、拡張された道路などの特定の道路を走行している場合
- エンジン始動後の一定のタイミング

Toyota Safety Sense によって記録され、トヨタ自動車が取得したデータの取り扱いについての詳細は、T-Connect ご契約時にご署名いただいた留意事項説明をご覧ください。

■ データの利用目的と第三者提供について

コンピューターに記録されたデータは、事故解析・故障診断、自動運転・先進安全・地図関連技術のための研究開発（技術・商品開発、品質向上など）、データを利用した商品・サービス（自動運転・先進安全技術用の地図の提供、走行状況の分析・道路インフラなど走行環境の分析・交通状況の配信など）があります。以下、これらを「個別サービス」といいます。）および事故に関するお客様対応、事故の解決のための協議を目的に利用することがあります。

なお、次の場合に、トヨタ自動車は、取得したデータを第三者へ開示または提供することができます。

- お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- 警察／裁判所／政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- トヨタ自動車が訴訟で使用する場合
- 統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

Toyota Safety Senseによって記録され、トヨタ自動車が取得したデータについては、上記に加え、次の場合に第三者に提供することがあります。

- お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合。トヨタ以外の第三者が提供する車両記録データを利用する個別サービスに申し込みされた場合などであって、第三者がトヨタに代わり、トヨタから第三者へのデータの提供についてお客様の同意を取得した場合も含みます。
- 自動運転・先進安全・地図関連技術の

ための研究開発（技術、商品開発、品質向上など）の目的で、自動運転ソフトウェア関連の会社などの第三者に提供する場合

- 地図関連技術のための研究開発の目的で、地図作成会社などの第三者に画像データと位置情報を提供する場合
- 道路整備などの目的で、地方自治体などの第三者に画像データと位置情報を提供する場合
- 交通状況配信などの個別サービスの申込者に対して、画像データと位置情報を加工した情報を提供する場合
- トヨタと別途契約を締結した各自治体の消防組織に対して、火災発生時または救急出動時に、現場付近の画像データを提供する場合

知識

車両に記録されている画像情報は、トヨタ販売店にて、消去することが可能です。

また、画像情報を記録する機能を停止することも可能ですが、ただし、機能を停止するとシステム作動時のデータは残りません。

Toyota Safety Senseによって研究開発、および個別サービスの提供を目的としてトヨタのサーバーに送信する形で取得しているデータの取得と利用を停止したい場合は、My TOYOTA より停止いただけます。詳細は、My TOYOTA のマイページをご覧ください。

T-Connectによるデータの取り扱いについて

お客様が T-Connect をご利用の場合、記録データとその使用について、T-Connect 利用規約をご覧ください。

イベントデータレコーダー

お車には、イベントデータレコーダー (EDR) が装備されています。EDR は、一定の衝突や衝突に近い状態 (SRS エアバッグの作動および路上障害物との接触など) が発生した時に車両システムの作動状況に関するデータを記録します。EDR は車両の動きや安全システムに関するデータを短時間記録するように作られています。ただし、衝突の程度と形態によっては、データが記録されない場合があります。

EDR は次のようなデータを記録します。

- ・ 車両の各システムの作動状況
- ・ アクセルペダルおよびブレーキペダルの操作状況
- ・ 車速

これらのデータは、衝突や傷害が発生した状況を把握するのに役立ちます。

注意：EDR は衝突が発生したときにデータを記録します。通常走行時にはデータは記録されません。また、個人情報（例：氏名・性別・年齢・衝突場所）は記録されません。ただし、事故調査の際に法執行機関などの第三者が、通常の手続きとして収集した個人を特定できる種類のデータと EDR

データを組み合わせて使用することができます。EDR で記録されたデータを読み出すには、特別な装置を車両または EDR へ接続する必要があります。トヨタにくわえ、法執行機関などの特別な装置を所有する第三者が車両または EDR

に接続した場合でも情報を読み出すことができます。

● EDR データの情報開示

次の場合を除き、トヨタは EDR で記録されたデータを第三者へ開示することはありません。

- ・ お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
 - ・ 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
 - ・ トヨタが訴訟で使用する場合
- ただし、トヨタは
- ・ データを車両安全性能の研究に使用することがあります。
 - ・ 使用者・車両が特定されないデータを調査目的で第三者に開示することがあります。

RF 送信機の取り付けについて

お車へ RF 送信機を取り付けると、次のようなシステムに影響をおぼす可能性があります。

● EFI コンピュータ

● Toyota Safety Sense

● ABS (アンチロックブレーキシステム)

● SRS エアバッグ

● シートベルトプリテンショナー

悪影響を防ぐための措置や取り付け方法については、必ずトヨタ販売店にお問い合わせください。

ご希望により、RF 送信機の取り付けに関する詳しい情報（周波数帯域・電力レベル・アンテナ位置・取り付け条件）をトヨタ販売店にてご提供します。

保証および点検について

保証および点検整備については、別冊「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施してください。（法律で義務付けられています）

プラスサポートについて

トヨタ販売店で専用の電子キーをご購入し、ご使用いただくことで、プラスサポート（→P.329）の機能が利用可能になります。詳細については、トヨタ販売店にお問い合わせください。

QR コードについて

QR コードは（株）デンソー ウェーブの登録商標です。

高電圧部品に貼り付けられている記号について

パワーコントロールユニットなどの高電圧部位には、取り使いに注意することを示すラベルが貼付されている場合があります。

記号の示す意味は次の通りです。

記号	意味
	危険であることを示しています。
	高電圧部位であることを示しています。
	手で触れてはいけない部位であることを示しています。
	高温部位であることを示しています。

アクセサリーパーツ・用品について

下記サイトより取扱説明書（デジタル配信）をご確認いただけます。ご購入いただきましたアクセサリーパーツの取扱説明書をご使用前にお読みいただき、記載された内容に従って正しくお使いください。

商品の使用方法や安全にお使いいただく上での注意点を記載しております。

なお、デジタル配信により印刷や輸送にともなう CO₂ 排出量の低減が見込まれます。

持続可能な社会を構築するためにトヨタはこれからも取扱説明書のあり方を見直してまいります。

アクセサリーパーツ取扱説明書掲載サイト：

お持ちのスマートフォンやタブレット、携帯電話等にて QR コードを読み取りいただくか、URL より閲覧してください。

URL : <https://manual-accessories.toyota/CAWeb/index.html>



なお、紙面で必要な場合はサイトより印刷いただくか、トヨタ販売店にご相談ください。

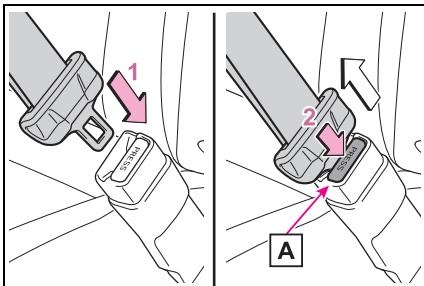
本書の見方

本書で使用している、記号について説明します。

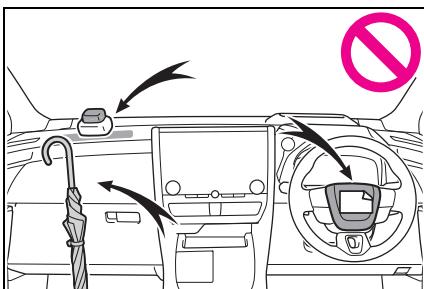
本文の記号について

記号	意味
	警告： お守りいただかないと、 お客様自身と周囲の人々 が死亡、または重大な傷 害につながるおそれがあ ることを説明していま す。
	注意： お守りいただかないと、 車や装備品の故障や破損 につながるおそれがあ ることを説明していま す。
1 2 3 ...	操作・作業の手順を示 しています。番号の順に 従ってください。
	機能や操作方法の説明以 外で知っておいていただき たい、知っておくと便 利なことを説明していま す。

イラスト上の記号について



記号	意味
	押す・まわすなど、してい ただきたい操作を示してい ます。
	フタが開くなど、操作後の 作動を示しています。

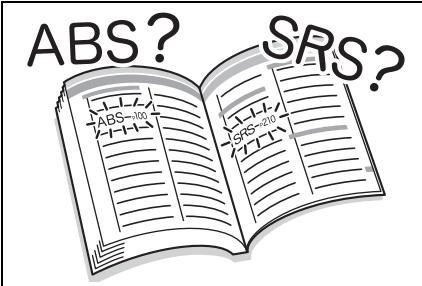


記号	意味
	説明の対象となるもの・場 所を示しています。
	してはいけません、このよ うにしないでください、こ のようなことを起こさない でくださいという意味で す。

検索のしかた

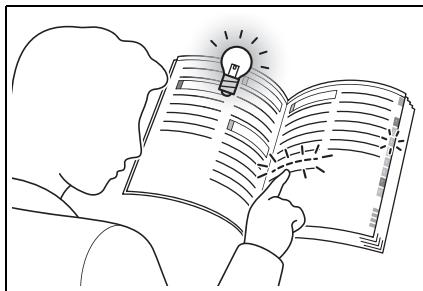
■ 名称から探す

- 五十音順さくいん : →P.516
- アルファベット順さくいん : →P.514



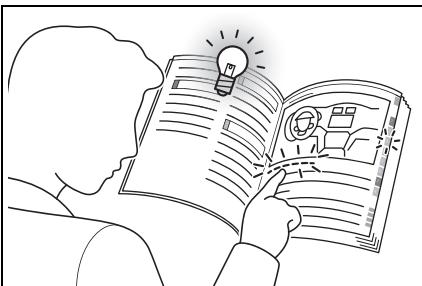
■ タイトルから探す

- 目次 : →P.2



■ 取り付け位置から探す

- イラスト目次 : →P.14



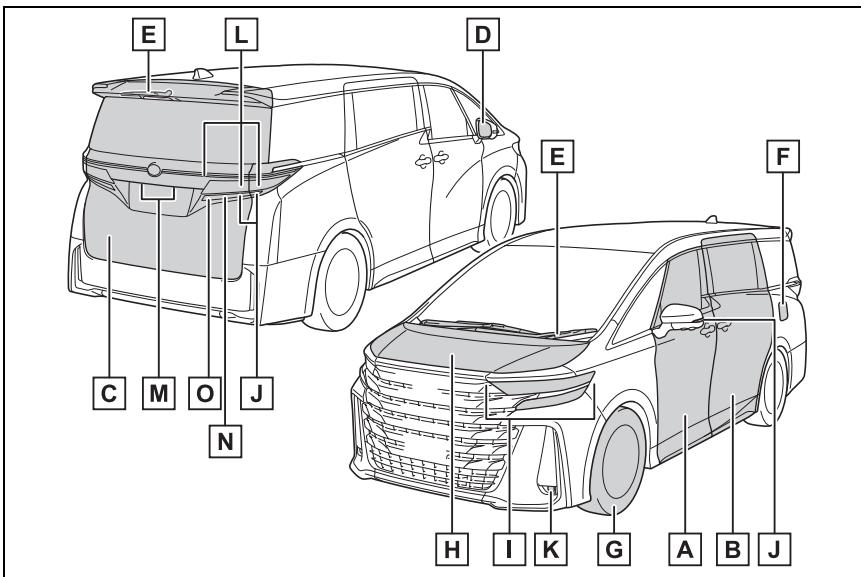
■ 症状や音から探す

- こんなときは（症状別さくいん） : →P.510
- 車から音が鳴ったときは（音さくいん） : →P.512



イラスト目次

■ 外観



A フロントドア P.92

- 施錠／解錠 P.92
- ドアガラスの開閉 P.149
- メカニカルキーでの施錠／解錠 P.478
- 警告ブザー P.96

B スライドドア P.96

- 施錠／解錠 P.92
- スライドドアの開閉 P.105
- パワースライドドア P.98
- ドアガラスの開閉 P.149
- 警告ブザー P.96

C バックドア P.107

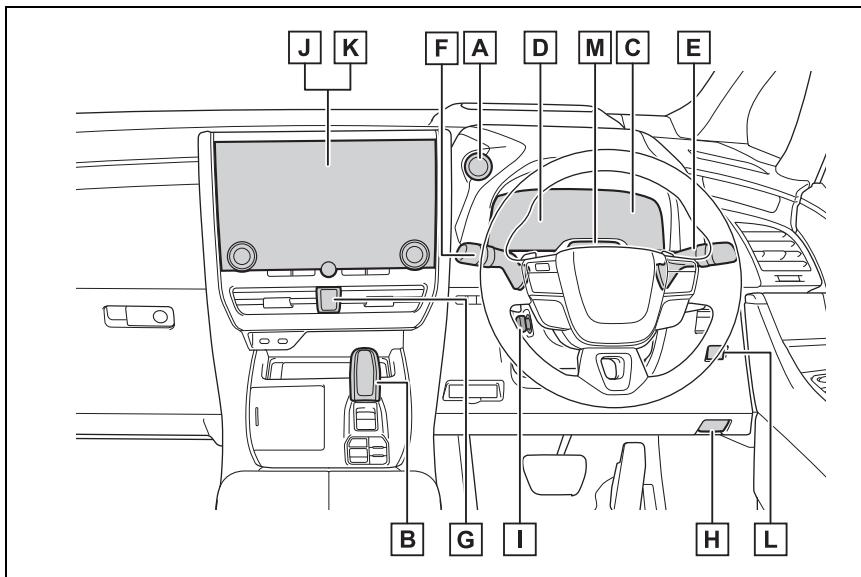
- 施錠／解錠 P.108
- バックドアの開閉 P.116
- パワーバックドア P.109

警告ブザー	P.96
D ドアミラー	P.146
鏡面の角度調整	P.146
ミラーの格納	P.147
調整位置の登録	P.152
曇りを取る（ミラーヒーター）	P.373
E ワイパー	P.197, 200
冬季の注意	P.364
凍結防止（ウインドシールドデアイサー）★	P.373
洗車時の注意	P.414
F 給油口	P.202
給油方法	P.202
燃料の種類・燃料タンク容量	P.488
G タイヤ	P.423
サイズ・空気圧	P.492
冬用タイヤ・タイヤチェーン	P.364
点検・ローテーション	P.423
パンク時の対処	P.458, 468
H ボンネット	P.419
開け方	P.419
エンジンオイル	P.488
オーバーヒート時の対処	P.483
警告メッセージ	P.451
走行に関わる外装のランプ (交換について : P.432)	
I ヘッドライト・車幅灯・LED デイライト・コーナリングランプ	P.187
方向指示灯	P.180
J 方向指示灯	P.180
K フロントフォグランプ	P.196

L	尾灯	P.187
M	番号灯	P.187
N	後退灯 シフトポジションを R にする	P.174
O	リヤフォグランプ★	P.196

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ インストルメントパネル



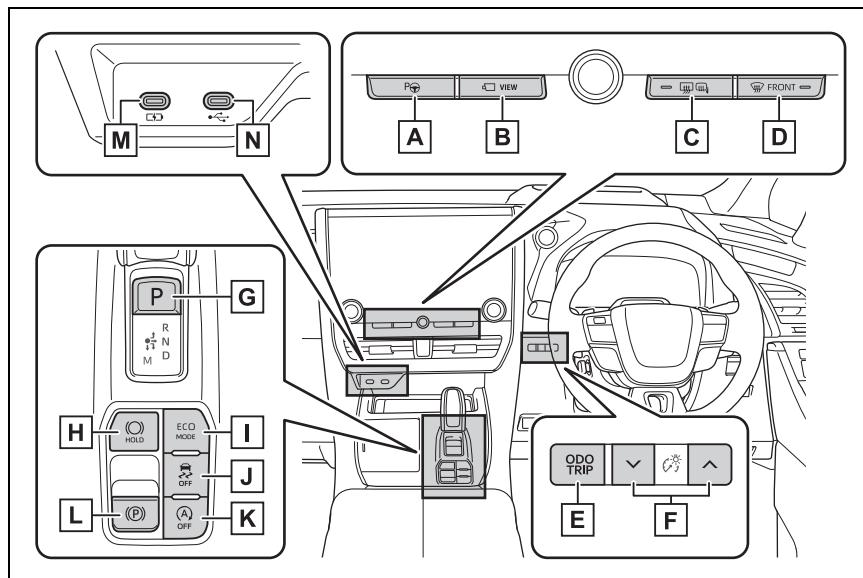
A エンジンスイッチ	P.170
エンジンの始動・モード切りかえ	P.170, 172
エンジンの緊急停止	P.436
エンジンが始動できないときの対処	P.476
警告メッセージ	P.171, 451
B シフトレバー	P.174
シフトポジションの切りかえ	P.175
けん引時の注意	P.439
C メーター	P.67
見方・明るさの調整	P.67, 71
警告灯／表示灯	P.62
警告灯点灯時の対処	P.445
D マルチインフォメーションディスプレイ	P.72
表示内容	P.72
警告メッセージ表示時の対処	P.451

E	方向指示レバー	P.180
	ランプスイッチ	P.187
	ヘッドライト・車幅灯・尾灯・番号灯・LED デイライト	P.187
	AHS (アダプティブハイビームシステム)	P.190
	AHB (オートマチックハイビーム)	P.193
	フロントフォグランプ・リヤフォグランプ★	P.196
F	ワイパー&ウォッシャースイッチ	P.197, 200
	使い方	P.197, 200
	ウォッシャー液の補充	P.422
G	非常点滅灯スイッチ	P.435
H	ボンネット解除レバー	P.419
I	ハンドル位置調整スイッチ	P.137
	調整方法	P.137
	調整位置の登録	P.152
J	オートエアコン	P.369
	操作方法	P.369
	リヤウインドウの曇り取り (リヤウインドウデフォッガー)	P.373
K	オーディオ *	
	音楽を聴く *	
L	給油扉オープナースイッチ	P.203
M	ドライバーモニターカメラ	P.215

* : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

* 別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

■スイッチ類



- A** アドバンストパーク（駐車支援システム）メインスイッチ P.339
- B** カメラスイッチ *
- C** リヤウインドウデフォッガー&ミラーヒータースイッチ P.373
- D** フロントデフロスター スイッチ P.373
- E** ODO TRIP スイッチ P.70
- F** インストルメントパネル照度調整スイッチ P.71
- G** Pポジションスイッチ P.175
- H** ブレーキホールドスイッチ P.185
- I** エコドライブモードスイッチ P.177
- J** VSC OFF スイッチ P.359
- K** Stop & Start キャンセルスイッチ P.282
- L** パーキングブレーキスイッチ P.181
かける／解除する P.181

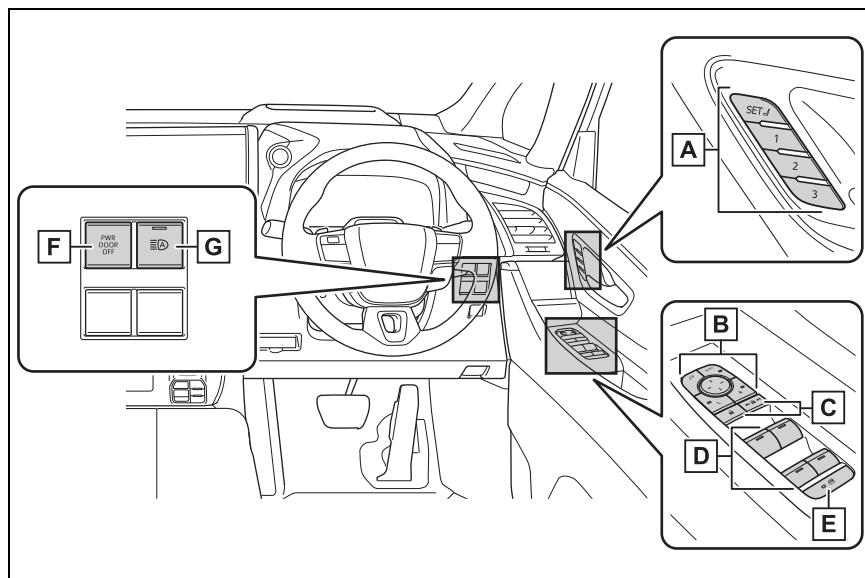
冬季の注意 P.365

警告ブザー／警告メッセージ P.183, 445, 452

M 充電用 USB Type-C 端子 P.395

N USB Type-C 入力端子 *

* 別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。



A ポジションメモリースイッチ P.153

B ドアミラースイッチ P.146

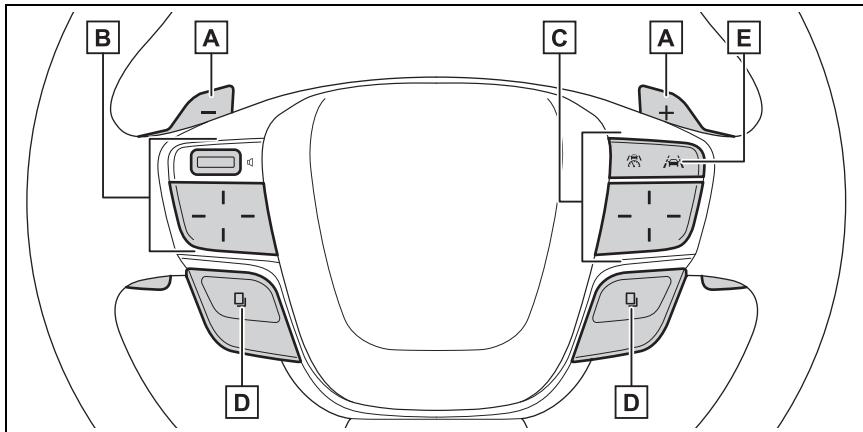
C ドアロックスイッチ P.95

D パワーウィンドウスイッチ P.149

E ウィンドウロックスイッチ P.151

F パワードアオフスイッチ P.100, 116

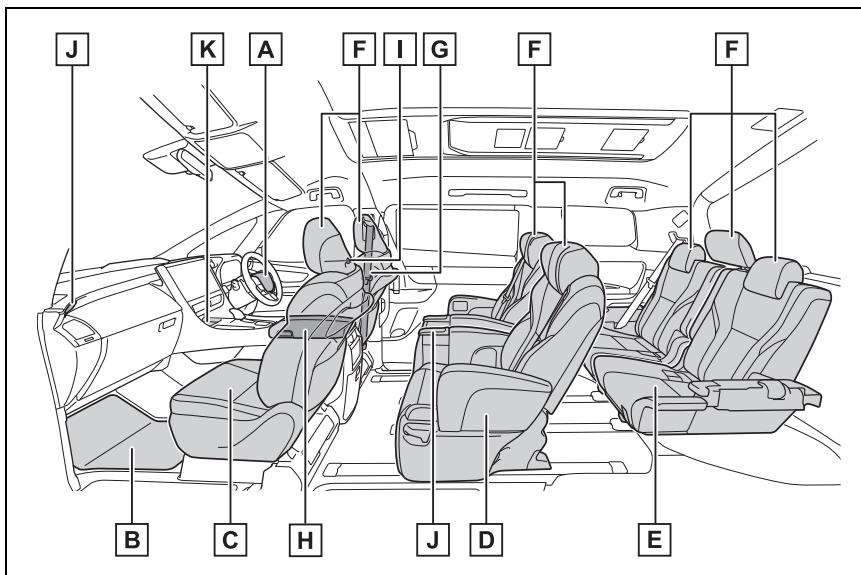
G アダプティブルハイビームシステムスイッチ P.190



- A** パドルシフトスイッチ P.178
- B** オーディオ操作スイッチ ※
- C** クルーズコントロールスイッチ
レーダークルーズコントロール P.251
クルーズコントロール P.261
- D** 機能切りかえスイッチ P.78
- E** LTA（レーントレーシングアシスト）スイッチ P.225

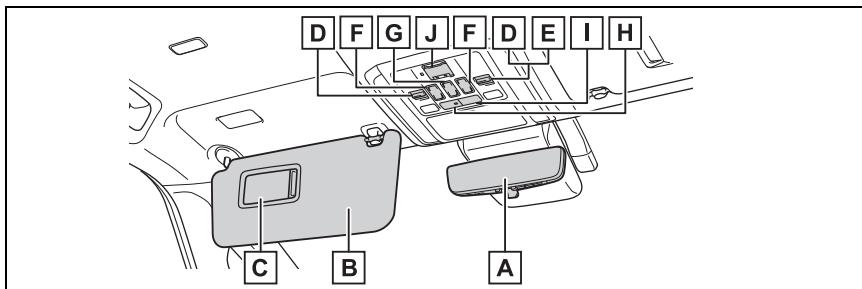
※ 別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

■ 室内



- A** SRS エアバッグ P.34
- B** フロアマット P.26
- C** フロントシート P.123
- D** セカンドシート P.124
- E** サードシート P.126
- F** ヘッドレスト P.128
- G** シートベルト P.29
- H** コンソールボックス P.387
- I** ドアロックボタン P.95
- J** カップホルダー P.387
- K** ワイヤレス充電器 P.396

■天井

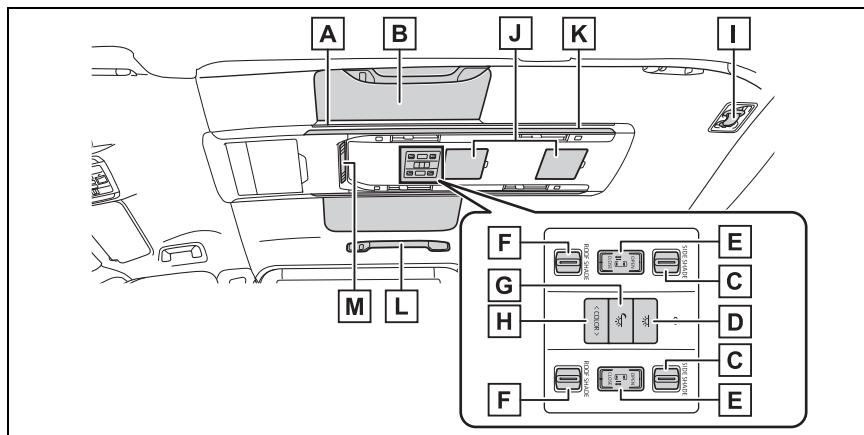


- | | | |
|----------|-----------------------------|-------|
| A | デジタルインナーミラー | P.138 |
| B | サンバイザー ^{※1} | P.393 |
| C | バニティミラー | P.393 |
| D | ルーフサンシェードスイッチ | P.403 |
| E | サイドサンシェードスイッチ | P.406 |
| F | パワースライドドアスイッチ | P.99 |
| G | パワーバックドアスイッチ | P.109 |
| H | ルームランプドア運動スイッチ | P.384 |
| I | ルームランプスイッチ | P.384 |
| J | ヘルプネットスイッチパネル ^{※2} | |

※¹やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。（→P.44）



*2別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。



- A** ルーフカラーイルミネーション P.385
- B** ルーフサンシェード P.403
- C** サイドサンシェードスイッチ P.406
- D** リヤパーソナルランプスイッチ P.384
- E** パワースライドドアスイッチ P.99
- F** ルーフサンシェードスイッチ P.403
- G** ルーフカラーイルミネーションスイッチ P.385
- H** イルミネーションカラー変更スイッチ P.385
- I** 分離格納式シートベルト P.31
- J** 小物入れ P.389
- K** リヤパーソナルランプ P.384
- L** アシストグリップ P.409
- M** リヤエアコン P.377

安全・安心のために

～必ずお読みください～

1

1-1. 安全にお使いいただくために

運転する前に	26
安全なドライブのために	27
シートベルト	29
SRS エアバッグ	34
排気ガスに対する注意	40

1-2. お子さまの安全

お子さまを乗せるときは	41
チャイルドシート	42

1-3. 盗難防止装置

エンジンイモビライザーシステム	57
オートアラーム	58

運転する前に

お車を安全に運転していただくために、運転する前は必ず次のことを確認してください。

点検整備

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施していくことが法律で義務付けられています。適切な時期に点検整備を実施し、車に異常がないことを確認してください。

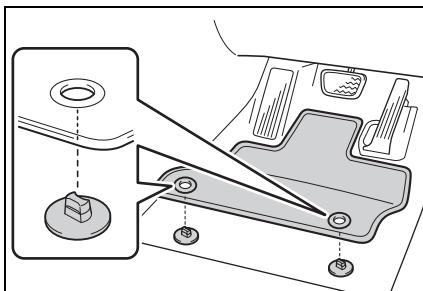
日常点検整備や点検項目などの詳細については、別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

異常が見つかった場合は、トヨタ販売店で必ず点検整備を受けてください。

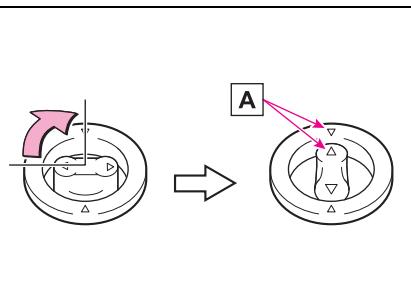
フロアマットを固定するには

専用のフロアマットを、フロアカーペットの上にしっかりと固定してお使いください。

- 1 固定フック（クリップ）にフロアマット取り付け穴をはめ込む



- 2 固定フック（クリップ）上部のレバーをまわして、フロアマットを固定する



△マーク[A]を必ず合わせてください。

固定フック（クリップ）の形状はイラストと異なる場合があります。

⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかない場合、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わずスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、事故の原因になり重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

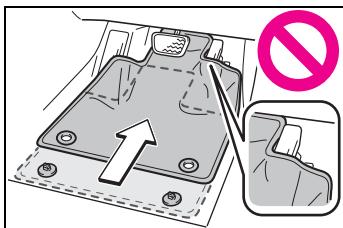
■ 運転席にフロアマットを敷くとき

- トヨタ純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しない
- 運転席専用のフロアマットを使用する
- 固定フック（クリップ）を使って、常にしっかりと固定する
- 他のフロアマット類と重ねて使用しない
- フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しない

⚠ 警告

■ 運転する前に

- フロアマットがすべての固定フック(クリップ)で正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的に確認し、特に洗車後は必ず確認を行う

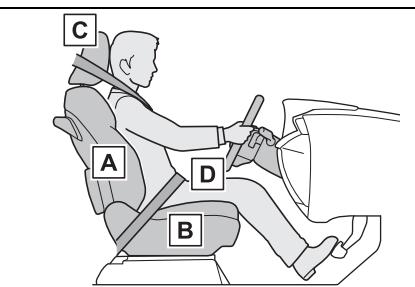


- エンジン停止およびシフトポジションがPの状態で、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認する

安全なドライブのために

安全に運転するために、走行前にシートやミラーなどを適切に調整してください。

正しい運転姿勢をとるには



A まっすぐ座り、運転操作時に体が背もたれから離れないよう、背もたれの角度を調整する
(→P.123)

B ペダルがしっかりと踏み込め、ハンドルを握ったときにひじが少し曲がるようなシート位置にする
(→P.123)

C ヘッドレストの中央が耳のいちばん上のあたりになるようにする
(→P.128)

D シートベルトを正しく着用する
(→P.30)

⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 警告

- 走行中は運転席の調整をしないでください。
運転を誤るおそれがあります。
- 背もたれと背のあいだにクッションなどを入れないでください。
正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドレストなどの効果が十分に発揮されないおそれがあります。
- フロントシートの下にものを置かないでください。
ものが挟まるとシートが固定されず、思わぬ事故や調整機構の故障の原因になります。
- 公道を走行するときは、法定速度や制限速度を遵守してください。
- 他の車や歩行者など、周囲の状況に常に注意を払い、安全運転を心がけてください。
- 飲酒運転は絶対にしないでください。
お酒を飲むと注意力と判断力がにぶり、思いがけない事故を引き起こすおそれがあります。また、眠気をもよおす薬を飲んだときも運転を控えてください。
- 運転中に携帯電話を使用したり、装置の調節などをしないでください。
周囲の状況などへの注意が不十分になり、大変危険です。ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転中に使用することは法律で禁止されています。
- 長距離ドライブの際は、疲れを感じる前に定期的に休憩してください。
また、運転中に疲労感や眠気を感じたときは、無理に運転せず、すみやかに休憩してください。

シートベルトを正しく着用するには

すべての乗員は、走行前に必ずシートベルトを正しく着用してください。(→P.30)

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切なチャイルドシートをご用意ください。(→P.42)

ミラーを調整するには

後方が確実に確認できるように、デジタルインナーミラー・ドアミラーを正しく調整してください。
(→P.138, 146)

シートベルト

走行前にすべての乗員は必ずシートベルトを正しく着用してください。

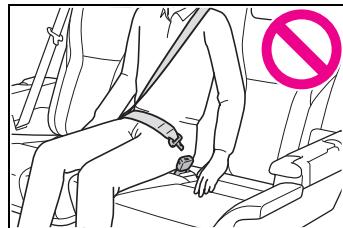
⚠ 警告

急ブレーキや事故の際のけがを避けるため、次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ シートベルトの着用について

- 全員がシートベルトを着用する
- シートベルトを正しく着用する
- シートベルトは一組につき一人で使用する
お子さまでも一組のベルトを複数の人で使用しない
- お子さまはセカンドシートまたはサードシートに座らせてシートベルトを着用させる
- 背もたれは必要以上に倒さず、上体を起こし、シートに深く座る
- 肩部ベルトを腕の下に通して着用しない
- 腰部ベルトはできるだけ低い位置に密着させ着用する

- サードシート中央席シートベルトを使用するときは、必ずプレートAとプレートBをそれぞれのバックルに結合してください。(→P.31) 結合しない状態で使用すると、シートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



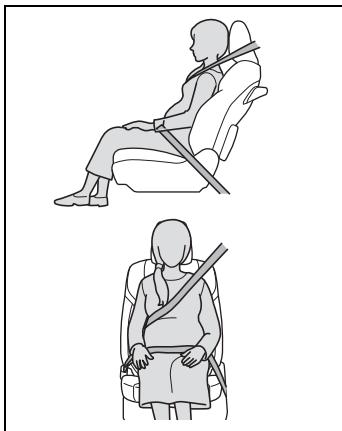
■ 妊娠中の女性の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。(→P.30)

通常の着用のしかたと同じように、腰部ベルトが腰骨ができるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。

⚠ 警告

ベルトを正しく着用していないと、衝突したときなどに、母体だけでなく胎児までが重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



■ 疾患のある方の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。

■ お子さまを乗せるとき

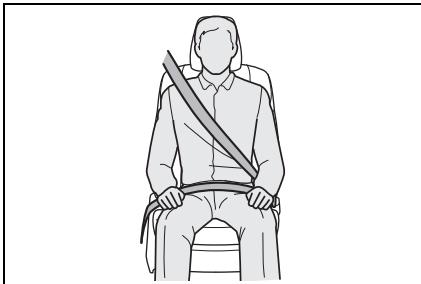
→P.41

■ シートベルトの損傷・故障について

- ベルトやプレート・バックルなどは、シートやドアに挟むなどして損傷しないようにしてください。
- シートベルトが損傷したときはシートベルトを修理するまでシートは使用しないでください。
- プレートがバックルに確実に挿し込まれているか、シートベルトがねじれていなかを確認してください。うまく挿し込めない場合はただちにトヨタ販売店に連絡してください。

- もし重大な事故にあったときは、明らかな損傷が見られない場合でも、シート・シートベルトを交換してください。
- プリテンショナー付きシートベルトの取り付けや取りはずし・分解・廃棄などは、トヨタ販売店以外でしないでください。
不適切に扱うと、正常に作動しなくなるおそれがあります。

正しく着用するには



● 肩部ベルトを肩に十分かける

首にかかるつたり、肩からはずれないようにしてください。

● 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる

● 背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座る

● ねじれがないようにする

□ 知識

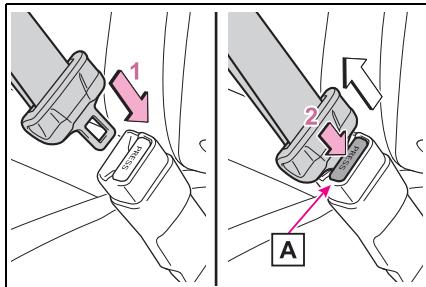
■ お子さまのシートベルトの使い方

この車のシートベルトは、シートベルトを装着するのに十分な、大人の体格を持った人用に設計されています。

- シートベルトが正しい位置で着用できない小さなお子さまの場合は、お子さまの体に合ったチャイルドシートを使用してください。 (→P.42)

- シートベルトが正しい位置で着用できるお子さまの場合は、シートベルトの着用のしかたに従ってください。
(→P.29)

着け方・はずし方（サードシート中央席を除く）



- 1 ベルトを固定するには、“カチッ”と音がするまでプレートをバックルに挿し込む
- 2 ベルトを解除するには、解除ボタン**A**を押す

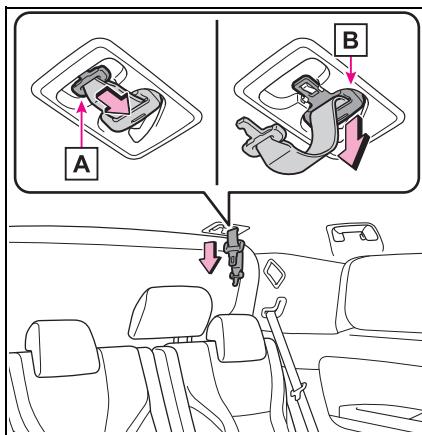
知識

■シートベルトロックの解除方法

急停止や衝撃があったときベルトがロックされます。急に体を前に倒したり、シートベルトをすばやく引き出してもロックする場合があります。一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ゆっくり動かせば、ベルトを引き出すことができます。

着け方（サードシート中央席）

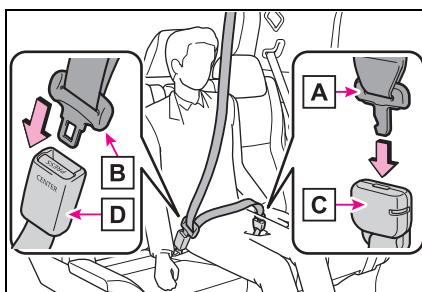
1 プレートを取り出す



A プレート A

B プレート B

- 2 ベルトを固定するには、プレート A、プレート B の順に “カチッ”と音がするまでプレートをバックルに挿し込む



A プレート A

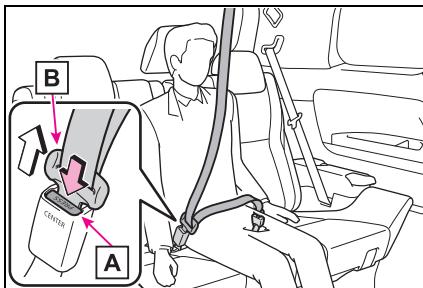
B プレート B

C バックル A

D バックル B

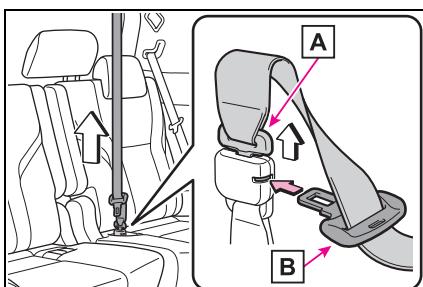
はずし方・格納のしかた（サードシート中央席）

- 1 プレートBを解除するには、
解除ボタンAを押す



- 2 メカニカルキー（→P.86）、またはプレートBをバックルの切り欠きに挿し込み、プレートAを分離する

シートベルトを格納するときは、ベルトを持ちながらゆっくり巻きもどします。



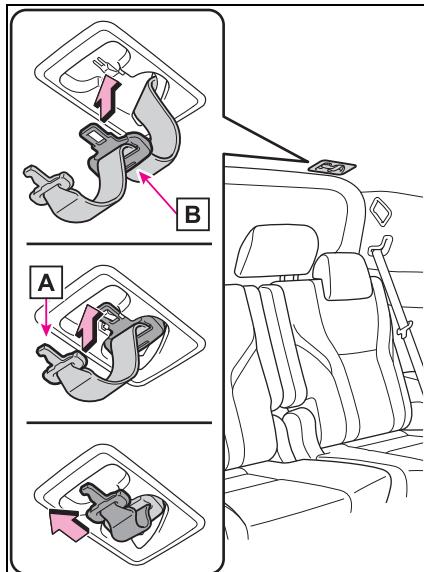
A プレートA

B プレートB

- 3 プレートA、Bを図のように
し、もとにもどす

確実に固定されるよう、しっかりと奥ま

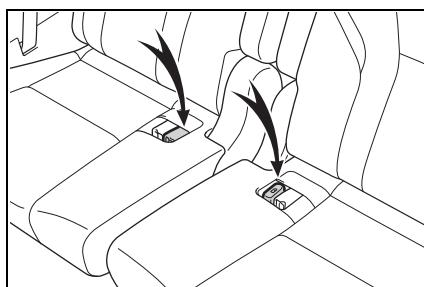
で挿し込みます。



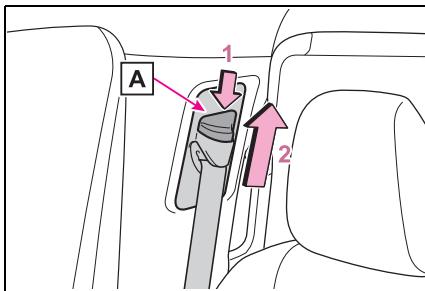
A プレートA

B プレートB

- 4 バックルを格納する



シートベルトの高さ調節（フロント席）

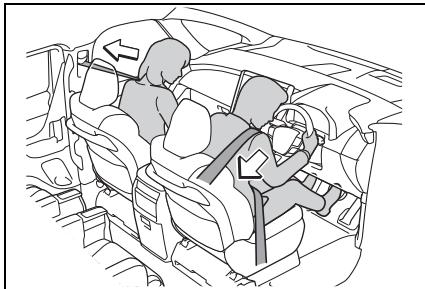


- 1 解除ボタン**A**を押しながら、アジャスターを下げる
- 2 アジャスターを上げる
“カチッ”と音がして固定されるとここまで動かしてください。

シートベルトプリテンショナー（フロント席）

前方・側方から強い衝突を受けたとき、シートベルトを引き込むことで適切な乗員拘束効果を確保します。

前方・側方からの衝撃が弱いときや、うしろからの衝撃、横転のときは通常は作動しません。



知識

■シートベルトプリテンショナーについて

シートベルトプリテンショナーは一度しか作動しません。玉突き衝突などで連続して衝撃を受けた場合でも、一度作動したあとは、その後の衝突では作動しません。

■予防連携機能について

プリクラッシュセーフティによって車両との衝突の可能性が高いと判断されたとき、シートベルトプリテンショナーの作動準備を整えます。

警告

■プリテンショナー付きシートベルトについて

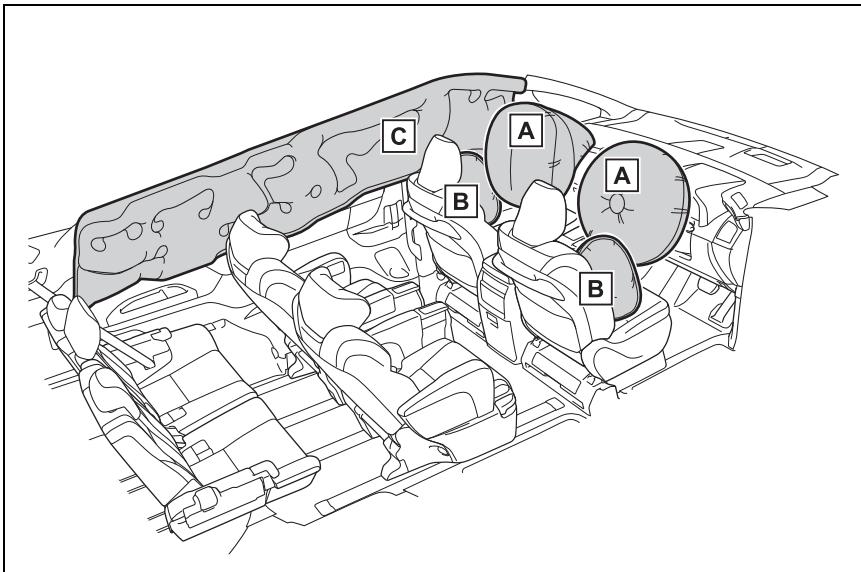
シートベルトプリテンショナーが作動すると、SRSエアバッグ／プリテンショナー警告灯が点灯します。その場合はシートベルトを再使用することができないため、必ずトヨタ販売店で交換してください。お守りいただかないで重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

SRS エアバッグ

SRS エアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、シートベルトが体を拘束する働きと併せて乗員への衝撃を緩和させます。

SRS エアバッグシステム

■ SRS エアバッグの配置



A フロント SRS エアバッグ（運転席 SRS エアバッグ／助手席 SRS エアバッグ）

運転者と助手席乗員の頭や胸などへの衝撃を緩和

B SRS サイドエアバッグ

フロント席乗員の胸などへの衝撃を緩和

C SRS カーテンシールドエアバッグ

フロント席とリヤ外側席乗員の主に頭部への衝撃を緩和

□ 知識

やけど・打撲などを受けることがあります。

■ SRS エアバッグが作動すると

● SRS エアバッグは高温のガスにより非常に速い速度でふくらむため、すり傷・

- 作動音と共に白いガスが発生します。

- エアバッグ近辺の部品の一部分などだけでなくエアバッグ構成部品（ハンド

ルのハブ・エアバッグカバー・インフレーター) も数分間熱くなることがあります。エアバッグそのものも熱くなります。

- フロントウインドウガラスが破損することがあります。
- すべてのドアが解錠されます。
(→P.93)
- 自動的にブレーキと制動灯を制御します。
(→P.358)
- 室内灯が自動で点灯します。
(→P.383)
- 非常点滅灯が自動で点滅します。
(→P.435)
- 燃料供給を停止します。
(→P.444)
- T-Connect の契約期間内は、次の場合、自動的に緊急通報がヘルプネットセンターに送信されます。オペレーターからの呼びかけに応答がない場合は、緊急車両などを手配します。詳しくは「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。
- ・ SRS エアバッグが作動した
- ・ シートベルトプリテンショナーが作動した
- ・ 後方から強い衝撃を受けた

■正面からの衝撃で SRS エアバッグが作動するとき

- 次のエアバッグは、衝撃の強さが設定値（移動も変形もしない固定された壁に、車速約 20 ~ 30km/h で正面衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。
 - ・ フロント SRS エアバッグ
- 次の場合はエアバッグが作動する車速は設定値より高くなります。
 - ・ 駐車している車や標識のような衝撃によって移動や変形するものに衝突した場合
 - ・ もぐり込むような衝突の場合（例えば、車両前部がもぐり込む、下に入り込む、

トラックの下敷きになるなど）

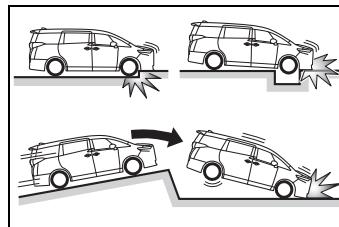
- 衝突条件によっては次の部品のみが作動する場合があります。
 - ・ シートベルトプリテンショナー
- 前面衝突時でも、特に衝撃が大きい場合は左右の SRS カーテンシールドエアバッグが作動する場合があります。

■側面からの衝撃で SRS エアバッグが作動するとき

- 次の SRS エアバッグは、衝撃の強さが設定値（約 1.5t の車両が、約 20 ~ 30km/h の速度で客室へ直角に衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。
 - ・ SRS サイドエアバッグ
 - ・ SRS カーテンシールドエアバッグ

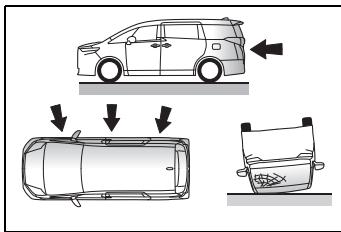
■車両下部からの衝撃で SRS エアバッグが作動するとき

- 次の SRS エアバッグは、車両下部が固いものにぶつかったときなどの状況で作動する場合があります。
 - ・ フロント SRS エアバッグ
 - ・ SRS サイドエアバッグ
 - ・ SRS カーテンシールドエアバッグ



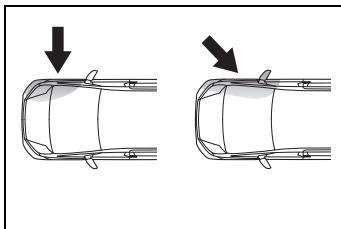
■SRS エアバッグが作動しないとき

- 次の SRS エアバッグは、側面や後方からの衝撃・横転・または低速での前方からの衝撃では、通常は作動しません。ただし、それらの衝撃が前方への減速を十分に引き起こす場合には、作動することがあります。
 - ・ フロント SRS エアバッグ



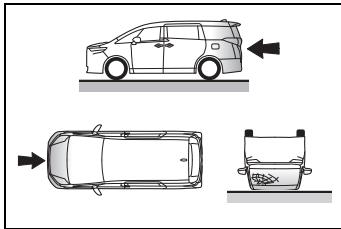
- 次のSRSエアバッグは、斜めから衝撃を受けた場合や、客室部分以外の側面に衝撃を受けたときに作動しない場合があります。

- ・ SRS サイドエアバッグ
- ・ SRS カーテンシールドエアバッグ



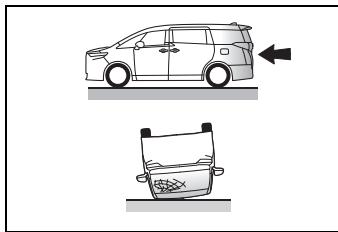
- 次のエアバッグは、前方や後方からの衝撃・横転・または低速での側面からの衝撃では、通常は作動しません。

- ・ SRS サイドエアバッグ



- 次のエアバッグは、後方からの衝撃・横転・または低速での前方や側面からの衝撃では、通常は作動しません。

- ・ SRS カーテンシールドエアバッグ

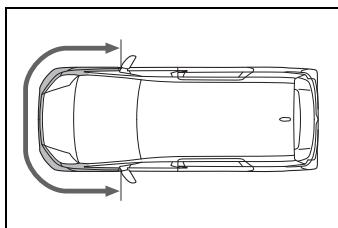


■ トヨタ販売店に連絡が必要な場合

次のような場合には、点検・修理が必要になります。できるだけ早くトヨタ販売店へご連絡ください。

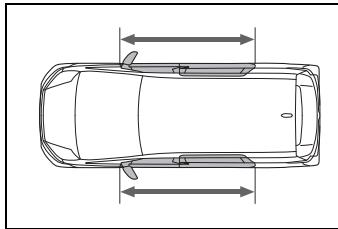
- いずれかのSRSエアバッグがふくらんだとき

- 次のエアバッグはふくらまなかつたが、事故で車両の前部を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき
- ・ フロントSRSエアバッグ



- 次のエアバッグはふくらまなかつたが、事故でドアおよびその周辺部分を衝突したとき、または破損・変形・穴あきなどがあるとき

- ・ SRS サイドエアバッグ
- ・ SRS カーテンシールドエアバッグ



- ハンドルのパッド部分・ダッシュボードの助手席SRSエアバッグ付近が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷

を受けたとき

- SRS サイドエアバッグが内蔵されているシート表面が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき
- SRS カーテンシールドエアバッグが内蔵されているフロントピラー・リヤピラー部・ルーフサイド部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



SRS エアバッグについて

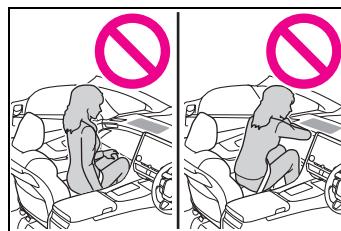
次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害によぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 運転者と乗員すべてがシートベルトを正しく着用してください。
SRS エアバッグはシートベルトを補助するためのものです。
- 助手席 SRS エアバッグは強い力でふくらむため、特に乗員がエアバッグに近付きすぎると、重大な傷害によぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。乗員が SRS エアバッグのふくらむ場所に近い場合は特に危険です。シートの背もたれを調整して、シートをできるだけ SRS エアバッグから離し、まっすぐに座ってください。

- お子さまがシートにしっかり座っていないと、SRS エアバッグのふくらむ衝撃で重大な傷害によぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。お子さまが小さくてシートベルトを使用できないときは、チャイルドシートでしっかり固定してください。

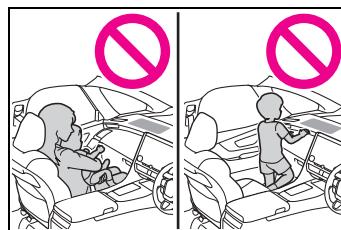
お子さまはリヤ席に乗せ、チャイルドシートまたはシートベルトを着用させることをおすすめします。
(→P.42)

- シートの縁に座ったり、ダッシュボードにもたれかかったりしない



- お子さまを助手席 SRS エアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしない

- 運転者および助手席乗員は、ひざの上に何も持たない



⚠ 警告

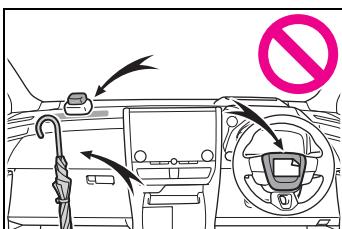
- ドアやフロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールへ寄りかからない



- ドアに向かってひざをついたり、窓から顔や手を出したりしない

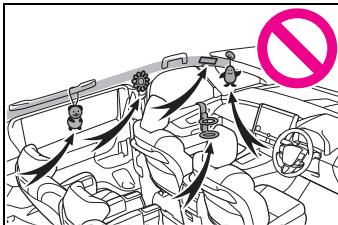


- ダッシュボード・ハンドルのパッド部分などには何も取り付けたり、置いたりしない



- ドア・フロントウインドウガラス・ドアガラス・フロントピラーおよびリヤピラー、ルーフサイドレール・アシストグリップなどには何も取り付けない

(速度制限ラベルを除く →P.462)



- コートフックにハンガーなどの硬いものをかけないでください。
SRS カーテンシールドエアバッグが作動したときに投げ出されて重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- エアバッグがふくらむ場所を覆うようなアクセサリーを使用しないでください。エアバッグが作動する際、アクセサリーが干渉するおそれがあります。そのようなアクセサリーがエアバッグが正常に作動するのをさまたげ、システムを不能にしたり、またはエアバッグが誤って作動したりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- SRS エアバッグシステム構成部品の周辺およびフロントドアの周辺は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- SRS エアバッグがふくらんだ直後は、構成部品が熱くなっているため、ふれないでください。

⚠️ 警告

- SRS エアバッグがふくらんだあとに、もし呼吸が苦しく感じたら、ドアやドアガラスを開けて空気を入れるか、安全を確認して車外に出てください。皮膚の炎症を防ぐため、残留物はできるだけ早く洗い流してください。
- SRS エアバッグが収納されている部分に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、そのまま使用せずトヨタ販売店で交換してください。

■ 改造・廃棄について

トヨタ販売店への相談なしに、次の改造・廃棄をしないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- SRS エアバッグの取りはずし・取り付け・分解・修理
- 次の部品周辺の修理・取りはずし・改造
 - ・ ハンドル
 - ・ インストルメントパネル
 - ・ ダッシュボード
 - ・ シート
 - ・ シート表皮
 - ・ フロントピラー
 - ・ センターピラー
 - ・ リヤピラー
 - ・ ルーフサイドレール
 - ・ フロントドアパネル
 - ・ フロントドアトリム
 - ・ フロントドアスピーカー

- フロントドアパネルの穴あけなどの改造
- 次の部品やその周辺の修理・改造
 - ・ フロントフェンダー
 - ・ フロントバンパー
 - ・ 車内側面部
- 次の部品、または装置の取り付け
 - ・ グリルガード
 - ・ 除雪装置
 - ・ ウインチ
- サスペンションの改造
- CD プレーヤー・無線機などの電化製品の取り付け

排気ガスに対する注意

排気ガスには吸引すると人体に有害な物質が含まれています。

!**警告**

排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素（CO）が含まれているため、次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、排気ガスが車内に侵入し、多量の排気ガスが眠気を招き事故の原因となるほか、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行中の留意事項

バックドアを閉じてください。

バックドアが閉じているのに車内で排気ガス臭がするときは、ドアガラスを開けて空気を入れかえ、すみやかにトヨタ販売店で点検整備を受けてください。

■駐車するとき

●車庫内など換気が悪い場所や囲まれた場所では、エンジンを停止してください。

●長時間エンジンが作動したままにしないでください。

やむを得ないときは、開かれた場所に車を停め、排気ガスが車内に入つてこないことを確認してください。

●降雪時や雪が積もった場所では、エンジンが作動したままにしないでください。まわりに積もった雪で排気ガスが滞留して、車内に侵入するおそれがあります。

■排気管について

排気管は定期的に点検する必要があります。排気管等の腐食などによる穴や亀裂、および継ぎ手部の損傷、また、排気音の異常などに気付いた場合は、必ずトヨタ販売店で点検を受けてください。

お子さまを乗せるときは

お子さまを乗せるときは、次のことをお守りください。

- お子さまにも必ずシートベルトを着用させてください。シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切なチャイルドシートをご用意ください。
(→P.42)
- 運転装置にふれるのを防ぐため、お子さまはセカンドシートまたはサードシートに乗せることをおすすめします。
- 走行中にドアを開けたり、パワーウィンドウを誤操作したりしないように、チャイルドプロテクター(→P.106)・ウインドウロックスイッチ(→P.151)をご使用ください。
- 小さなお子さまには、パワーウィンドウ・ボンネット・スライドドア・バックドアやシートなど、体を挟まれるおそれがある装備類を操作させないでください。
- お子さまには取りはずしができる部品を操作させたり、取りはずした部品で遊ばせたりしないでください。

⚠️ 警告

■ お子さまを乗せるときは

- お子さまを車の中に残したままにしないでください。車内が高温になって熱射病や脱水症状になり、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。また、お子さまが車内の装置を操作し、ドアガラスなどに挟まれたり、発炎筒などでやけどしたり、運転装置を動かして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 車にお子さまを乗せる場合は、お子さまの安全を確保するための注意事項やチャイルドシートの取り付け方などをまとめた「チャイルドシート」を参照してください。
(→P.42)

チャイルドシート

ここでは、お車にチャイルドシートを取り付ける前にお守りいただきたいことや、チャイルドシートの種類および取り付け方法などを記載しています。

- シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはセカンドシートまたはサードシートに取り付けてください。
取り付け方法は、商品に付属の取扱説明書に必ず従ってください。
- トヨタでは、より安全にお使いいただくために、トヨタ純正チャイルドシートの使用を推奨しています。
トヨタ純正チャイルドシートは、トヨタ車のために作られたチャイルドシートです。
トヨタ販売店で購入することができます。

目次

知っておいていただきたいこと :
P.42

チャイルドシートを使用するときは : P.43

シート位置別チャイルドシートの適合性について : P.46

チャイルドシートの取り付け方法 : P.51

- ・ シートベルトで固定する : P.52
- ・ ISOFIX ロアアンカレッジで固定する : P.53
- ・ トップテザーアンカレッジを使用する : P.55

知っておいていただきたいこと

- チャイルドシートに関する注意事項および法規について、優先してお守りください。
- お子さまが成長し、適切にシートベルトが着用できるようになるまではチャイルドシートを使用してください。
- お子さまの年齢・体格に合わせて、適切なチャイルドシートをお選びください。
- すべてのチャイルドシートがすべての車両に適合するわけではありません。チャイルドシートの使用・購入の際は、あらかじめ取り付けるシート位置との適合性を確認してください。
(→P.46)



お子さまを乗せるときは

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかない場合、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 事故や急停止の際、効果的にお子さまを保護するために、必ず正しく取り付けられたチャイルドシートを使用して、しっかり体を固定してください。お子さまに最適なチャイルドシートについては、チャイルドシート製造業者、または販売業者にご相談ください。

⚠️ 警告

- トヨタでは、お子さまの年齢や体の大きさに合った適切なチャイルドシートをセカンドシートまたはサードシートに取り付けることを推奨します。事故統計によると、フロントシートよりセカンドシートまたはサードシートに適切に取り付けるほうがより安全です。
- お子さまを腕の中に抱くのはチャイルドシートのかわりにはなりません。事故の際、お子さまがフロントウインドウガラスや乗員、車内の装備にぶつかるおそれがあります。
- チャイルドシートについて**

次のことをお守りいただかないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに飛ばされるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 事故等で車両に強い衝撃を受けた場合は、チャイルドシートにも目に見えない破損があるおそれが強いため、再使用しないでください。
- チャイルドシートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。その場合は、車への取り付けに適したチャイルドシートであるか確認してください(→P.46)。本書のチャイルドシート固定方法およびチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。
- チャイルドシートを使用しないときであっても、シートに適切にしっかりと取り付けた状態にしてください。ゆるめた状態で客室内に置くことは避けてください。

- チャイルドシートの取りはずしが必要な場合は、車両からはずして保管するか、ラゲージルーム内に容易に動かないように収納してください。

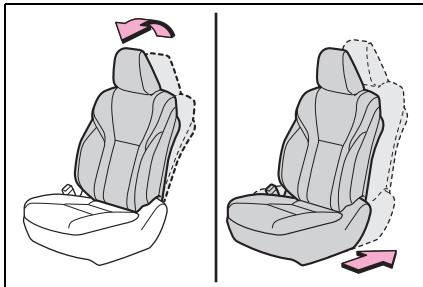
チャイルドシートを使用するときは

■ 助手席にチャイルドシートを取り付けるとき

お子さまの安全のために、チャイルドシートはセカンドシートまたはサードシートに取り付けてください。

やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートを次のように調整し、チャイルドシートを取り付けてください。

- シートをいちばんうしろに下げた状態で取り付けてください。シートの高さ調整ができる場合は、いちばん高い位置に調整してください。
- 背もたれを可能な限り起こす前向きにチャイルドシートを取り付けるときに、背もたれとチャイルドシートの間にすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。
- シートベルトの高さをいちばん低い位置まで下げてください。



- ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずしてください。取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。

■ セカンドシートまたはサードシートにチャイルドシートを取り付けるとき

セカンドシートまたはサードシートにチャイルドシートを取り付ける場合には、セカンドシートまたはサードシートを次のように調整し、チャイルドシートを取り付けてください。

● 背もたれを可能な限り起こす

前向きにチャイルドシートを取り付けるときに、背もたれとチャイルドシートの間にすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。

- ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、ヘッドレストを取りはずしてください。取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。

▲ 警告

■ チャイルドシートを使用するとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。
うしろ向きに取り付けていると、事故などで助手席 SRS エアバッグがふくらんだとき、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
助手席側のサンバイザーに、同内容のラベルが貼られています。併せて参照してください。

⚠ 警告



⚠ 警告

- やむを得ず助手席に前向きにチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートをいちばんうしろに下げて取り付けてください。助手席 SRS エアバッグはかなりの速度と力でふくらむので、お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



● チャイルドシートに座らせている場合でも、ドア・シート・フロントピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール付近にお子さまの頭や体のどの部分も、もたれかけないようにしてください。SRS エアバッグがふくらんだ場合、大変危険であり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



- ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。
- お子さまの年齢や体の大きさに合ったチャイルドシートを使用して、セカンドシートまたはサードシートに取り付けてください。

⚠ 警告

- 運転席とチャイルドシートが干渉し、チャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、助手席側のセカンドシートに取り付けてください。



- 助手席シートとチャイルドシートが干渉しないように、助手席シートを調整してください。

シート位置別チャイルドシートの適合性について

■ シート位置別チャイルドシートの適合性について

シート位置別チャイルドシートの適合性（→P.47）は、使用可能なチャイルドシートの種類や取り付け可能な座席位置を記号で表しています。また、お子さまに合った推奨チャイルドシートについても選択することができます。

推奨チャイルドシートについては、「推奨チャイルドシートと適合性一覧表」を確認してください。

（→P.50）

次に記載されている、「シート位置別チャイルドシートの適合性を確認する前に」も併せて確認してください。

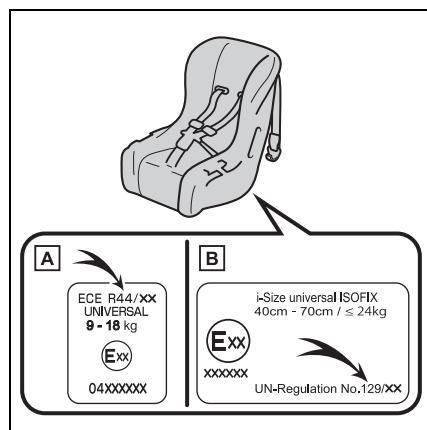
■ シート位置別チャイルドシートの適合性を確認する前に

1 チャイルドシートの規格を確認する

UN (ECE) R44^{*1} または、UN (ECE) R129^{*1} に適合したチャイルドシートを使用してください。

適合したチャイルドシートには、次の認可マークが表示されています。

チャイルドシートに付いている認可マークを確認してください。



法規番号の表示例

A UN (ECE) R44 認可マーク

*2

対象となるお子さまの体重の範囲が記載されています。

B UN (ECE) R129 認可マーク

*2

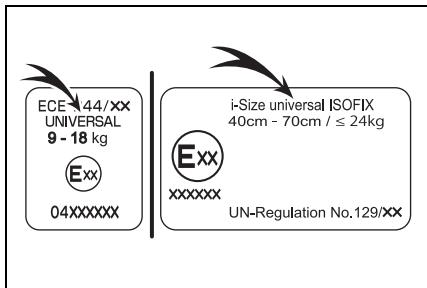
対象となるお子さまの身長の範囲および使用可能な体重が記載されています。

2 チャイルドシートのカテゴリーを確認する

チャイルドシートのカテゴリーが次のどのカテゴリーに該当するのか、チャイルドシートの認可マークを確認ください。

また、ご不明な場合はチャイルドシートに付属の取扱説明書を確認頂くか、または販売業者へ確認してください。

- ユニバーサル「universal (汎用)」
- セミユニバーサル「semi-universal (準汎用)」
- リストリクトィッド「restricted (限定)」
- ビークルスペシフィック「vehicle-specific (特定車両)」

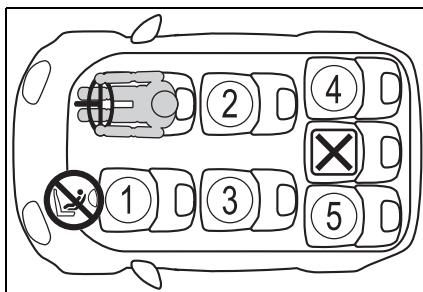


*¹ UN (ECE) R44、UN (ECE)

R129は、チャイルドシートに関する国連法規です。

*²表示されているマークは、商品により異なります。

■ シート位置別チャイルドシートの適合性



(1) ※1, 2, 3	※ ⁴
(2) ※2, 3, 5	
(3) ※2, 3, 5	

	※2, 3 
	※2, 3 

車両のシートベルトで固定するタイプのユニバーサル（汎用）カテゴリーのチャイルドシートに適しています。

車両のシートベルトで固定するタイプの前向きに取付けるユニバーサル（汎用）カテゴリーのチャイルドシートに適しています。

推薦チャイルドシートと適合性一覧表（→P.50）に記載されたチャイルドシートに適しています。

i-Size チャイルドシートおよびISOFIX チャイルドシートに適しています。

トップテザーアンカレッジが装備されています。

 チャイルドシートの取り付けに適していません。

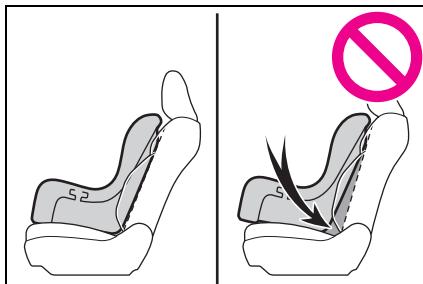
やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。

*1 シートをいちばんうしろに下げた状態で取り付けてください。シートの高さ調整ができる場合は、いちばん高い位置に調整してください。

*2 背もたれを可能な限り起こしてください。

前向きにチャイルドシートを取り付けるときに、背もたれとチャイルドシートの間にすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。

さい。



*3 ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずしてください。

取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。

*4 チャイルドシートを必ず、前向きで使用してください。

*5 ISOFIX チャイルドシートを取り付ける場合には、背もたれを後方に倒してからチャイルドシートを取り付け、チャイルドシートが安定する位置まで背もたれをもどしてください。チャイルドシートのレッグがサイドリフトアップチルトシートのレッグカバーに干渉するときは、サイドリフトアップチルトシートを前方にスライドさせ、フロアに接地させてください。

■ チャイルドシート取り付けに関する詳細情報

シート位置の番号	着座位置				
	①	②	③	④	⑤
ユニバーサル（汎用）ベルト式が搭載可能な着座位置（有／無）	有 前向き のみ	有	有	有 前向き のみ	有 前向き のみ
アイサイズ着座位置（有／無）	無	有	有	無	無
搭載可能な横向きチャイルドシートの治具（L1/L2）	×	×	×	×	×
搭載可能なうしろ向きチャイルドシートの治具（R1/R2X/R2/R3）	×	R1, R2X, R2, R3	R1, R2X, R2, R3	×	×
搭載可能な前向きチャイルドシートの治具（F2X/F2/F3）	×	F2X, F2, F3	F2X, F2, F3	×	×
搭載可能なジュニアシートの治具（B2/B3）	×	B2, B3	B2, B3	×	×

ISOFIX チャイルドシートはいくつかの「治具」に分かれています。上記の表に示す「治具」の着座位置でチャイルドシートを使用することができます。「治具」の種類は、次の表を確認ください。

チャイルドシートの「治具」の種類を確認するために、チャイルドシートに付属の取扱説明書を確認してください。お手持ちのチャイルドシートに「治具」の種類がない（または必要な情報が表の中にはない）場合は、チャイルドシートの「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。

治具	使用の向き・形状・大きさ
F3	全高前向きチャイルドシート
F2	低型前向きチャイルドシート
F2X	低型前向きチャイルドシート
R3	大型うしろ向きチャイルドシート
R2	小型うしろ向きチャイルドシート

治具	使用の向き・形状・大きさ
R2X	小型うしろ向きチャイルドシート
R1	うしろ向きチャイルドシート
L1	左向き寝台式チャイルドシート
L2	右向き寝台式チャイルドシート
B2	ジュニアシート
B3	ジュニアシート

■ 推奨チャイルドシートと適合性一覧表

推奨チャイルド シート	適応範囲	搭載 する 向き	着座位置				
			(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
トヨタ純正 NEO G-Child i-Size	身長：～83cm (体重：～13kg)	後向き	×	○	○	×	×
	月齢 15か月以上かつ、 身長：76～100cm (体重：～18kg)	前向き	×	○	○	×	×
トヨタ純正 NEO G-Child Junior	身長：100～ 150cm (体重：15～36kg)	前向き のみ	×	○	○	×	×

チャイルドシートの隣の席を使用するときは、肩部ベルトが確実に肩を通り、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置に密着することを確認してください。チャイルドシートの隣の席に座ったときに、チャイルドシートの種類によっては、乗員の体またはシートベルトがチャイルドシートと干渉するためシートベルトが正しく着用できず、十分な効果を発揮できない場合があります。その場合は、他の席を使用してください。

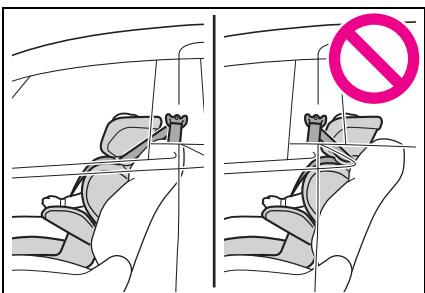
お守りいただかないとい、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● セカンドシートまたはサード

シートにチャイルドシートを取り付けるときは、お子様やチャイルドシートが前の座席と干渉しないように前の座席を調整してください。

- サポートベース付きのチャイルドシートを取り付けるときに、チャイルドシートをサポートベースへ固定する際にチャイルドシートが背もたれと干渉する場合は、チャイルドシートが干渉しなくなるまで背もたれを調整してください。
- シートベルトのショルダーアンカーがチャイルドシートベルトガイドより前にある場合は、

シートを前方に動かします。

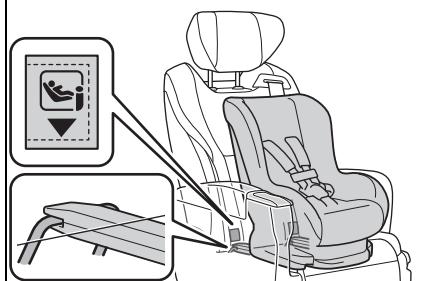
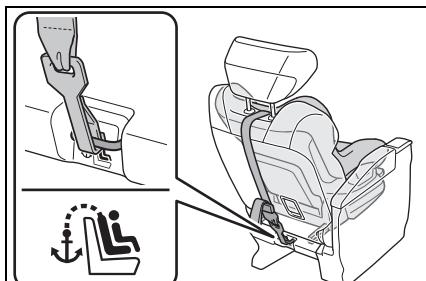


- ジュニアシートを取り付けるときに、お子様がかなり直立した姿勢になる場合は、背もたれの角度を最も快適な位置に調整します。また、シートベルトのショルダーアンカーがチャイルドシートベルトガイドよりも前にある場合は、シートを前方に移動します。

チャイルドシートの取り付け方法

チャイルドシートの取り付けについては、チャイルドシートに付属の取扱説明書を確認してください。

固定方法	ページ
シートベルトで固定する	P.52

固定方法	ページ	
ISOFIX ロアアンカレッジで固定する		P.53
テザーベルトを固定する		P.55

チャイルドシートをシートベルトで固定する

■ シートベルトで固定する

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

お手持ちのチャイルドシートが「ユニバーサル」カテゴリーでない（または必要な情報が表の中にならない）場合は、チャイルドシートメーカーが提供する「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。（→P.46, 47）

1 やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合は、助手席シートを正しく調整してください。（→P.43）

2 背もたれを可能な限り起こす

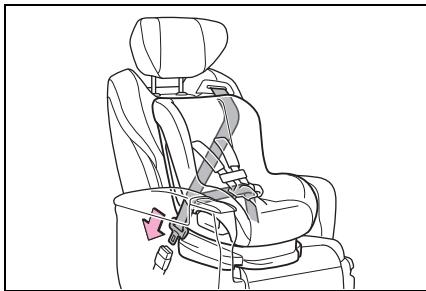
前向きにチャイルドシートを取り付けるときに、背もたれとチャイルドシートの間にすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。

3 ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずしてください。取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。（→P.128）

4 チャイルドシートにシートベルトを取り付け、プレートをバックルに“力チッ”と音がするまで挿し込む。ベルトがねじれていないようにする

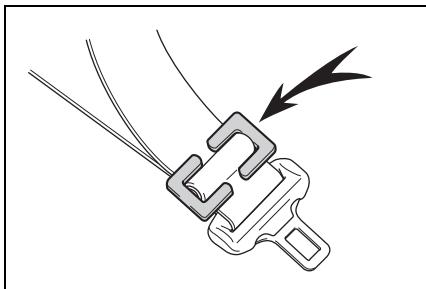
チャイルドシートに付属の取扱説明書に

従い、シートベルトをチャイルドシートにしっかりと固定させてください。



5 チャイルドシートにシートベルトの固定装置が備わっていない場合は、ロッキングクリップ（別売）を使用して固定する

ロッキングクリップの購入にあたっては、トヨタ販売店にご相談ください。（ロッキングクリップ品番：73119-22010）



6 取り付け後はチャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかりと固定されていることを確認してください。（→P.53）

■ チャイルドシートの取りはずし
バックルの解除ボタンを押し、シートベルトをチャイルドシートから取りはずす

バックル解除時に、シートクッションの反発により、チャイルドシートが跳ね上がることがあります。
チャイルドシートを抑えながらバックルの解除をしてください。

シートベルトは自動的に巻き取られますので、ゆっくりもどしてください。

**!
警告**

■ チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかない場合、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

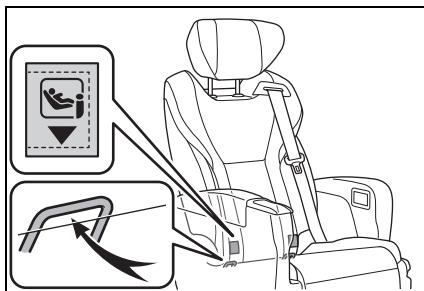
- お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。
- シートベルトのプレートとバックルがしっかりと固定されて、ベルトがねじれていなか確認してください。
- チャイルドシートを前後左右にゆすって、しっかりと固定されているか確認してください。
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

チャイルドシートを ISOFIX ロアアンカレッジで固定する

■ ISOFIX ロアアンカレッジについて

この車はセカンドシートに ISOFIX

口アアンカレッジが装備されています。(口アアンカレッジが装備されていることを示すタグがシートに付いています)



■ ISOFIXロアアンカレッジで固定する

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

お手持ちのチャイルドシートが「ユニバーサル」カテゴリーでない(または必要な情報が表の中にならない)場合は、チャイルドシートメーカーが提供する「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。→P.46, 47)

- 1 背もたれを後方に倒してからチャイルドシートを取り付け、チャイルドシートが安定するまで背もたれをもどす

前向きにチャイルドシートを取り付けるときに、背もたれとチャイルドシートのあいだにすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。

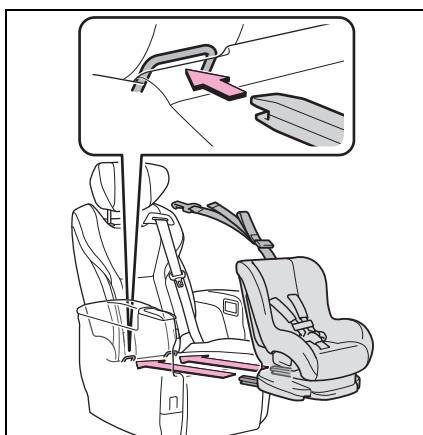
- 2 ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレスト

を取りはずしてください。取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。→P.128)

3 チャイルドシートをシートに取り付ける

チャイルドシートのコネクタ(取り付け金具)をロアアンカレッジに取り付けます。

取り付け方法は、それぞれのチャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってください。



4 取り付けたチャイルドシートを前後左右にゆすり、固定していることを確認する →P.53)

⚠ 警告

■ チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないとい、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。

⚠️ 警告

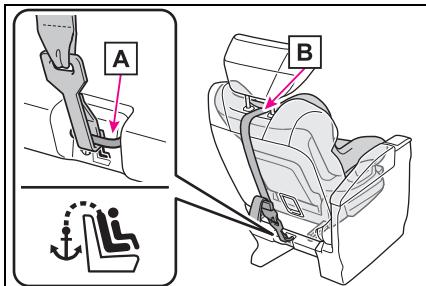
- ISOFIX ロアアンカレッジを使用するときは、周辺に障害物がないか、シートベルトが挟まっていないかなどを確認してください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

トップテザーアンカレッジを使用する

■ トップテザーアンカレッジについて

この車はセカンドシートにトップテザーアンカレッジが装備されています。

テザーベルトを固定するときに使います。



A トップテザーアンカレッジ

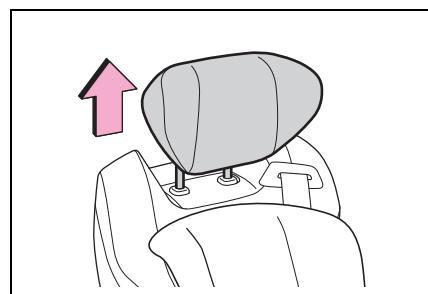
B テザーベルト

■ テザーベルトをトップテザーアンカレッジに固定する

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

1 ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合

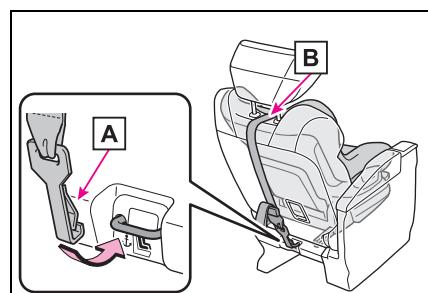
合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずしてください。取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。（→P.128）



2 トップテザーアンカレッジにフックを固定し、テザーベルトを締める

テザーベルトをピンと張り、フックがしっかりと固定されていることを確認します。（→P.53）

ヘッドレストを上げた状態でチャイルドシートを取り付けるときは、テザーベルトは必ずヘッドレストの下へ通してください。



A フック

B テザーベルト



警告

■ チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害に
およぶか、最悪の場合死亡につながる
おそれがあります。

- テザーベルトがしっかりと固定されて、
ベルトがねじれていなかいか確認して
ください。
- テザーベルトはトップテザーアンカ
レッジ以外に掛けないでください。
- チャイルドシートを固定したあとは、
シートを調整しないでください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取扱
説明書をよくお読みの上、確実に取
り付け、使用方法をお守りください。
- ヘッドレストを上げた状態でチャイ
ルドシートを取り付けるときは、
ヘッドレストを引き上げてトップテ
ザーアンカレッジに固定したあとに、
ヘッドレストを下げないでください。

エンジンイモビライザーシステム

キーに信号発信機が内蔵しており、あらかじめ登録されたキー以外ではエンジンを始動できません。

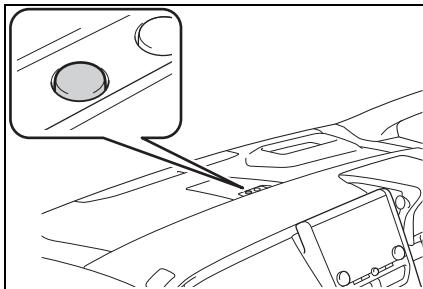
車両から離れる場合は、車内にキーを残さないでください。

このシステムは車両盗難の防止に寄与する機能であり、すべての車両盗難に対する完全なセキュリティを保証するものではありません。

システムを作動させるには

エンジンスイッチを OFF にすると、システムの作動を知らせるためにセキュリティ表示灯が点滅します。

登録されたキーを携帯し、エンジンスイッチを ACC または ON になるとシステムが解除され、セキュリティ表示灯が消灯します。



□ 知識

■メンテナンスについて

エンジンイモビライザーシステムのメンテナンスは不要です。

■システムが正常に作動しないとき

- キーが金属製のものに接したり、覆われているとき
- キーが他の車両のセキュリティシステム用キー（信号発信機内蔵キー）と重なっているときや接近しているとき

注意

■エンジンイモビライザーシステムを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしてください。システムが正常に作動しないことがあります。

オートアラーム

オートアラームとは、侵入を検知した場合に音と光で警報する機能です。

オートアラームを設定すると、次のような状況でオートアラームが作動します。

- 施錠されたドアまたはバックドアが、スマートエントリー＆スタートシステム・ワイヤレスリモコンを使わずに解錠されたり、開けられたとき

- ボンネットが開けられたとき
T-Connect サービスをご利用のお客様へは、オートアラームが作動した場合、ご登録のメールアドレスやスマートフォンアプリへお知らせすることができます。
T-Connect については、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

オートアラームを設定／解除／停止する

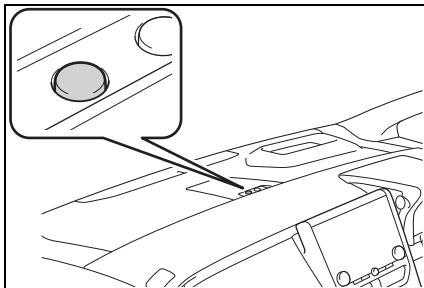
■ ドアを施錠する前の確認

オートアラームの思わぬ作動、および盗難を防ぐため、次のことを必ず確認してください。

- 車内に人が乗っていないか
- ドアガラスが閉じているか
- 車内に貴重品などを放置していないか
- オートアラームを設定するには
ドア・バックドア・ボンネットを

閉め、スマートエントリー＆スタートシステム・ワイヤレスリモコンを使って施錠します。
30 秒以上経過すると、自動的に設定されます。

オートアラームがセットされるとインジケーターは点灯から点滅に変わります。



■ オートアラームを解除／停止するには

次のいずれかを行ってください。

- スマートエントリー＆スタートシステム・ワイヤレスリモコンを使ってドアまたはバックドアを解錠する
- エンジンスイッチを ACC または ON にするか、エンジンを始動する（数秒後に解除・停止します）

知識

■ オートアラームの設定について

ボンネットを開けていても、すべてのドアが閉じていれば、オートアラームは設定できます。

■ メンテナンスについて

オートアラームシステムのメンテナンスは不要です。

■ T-Connect (ご契約のお客様のみ)

- うっかり通知機能によって、施錠のし

忘れや非常点滅灯の消し忘れ、ドアガラスの閉め忘れなどを、ご登録のメールアドレスやスマートフォンアプリへお知らせすることができます。うっかり通知機能は車内の電子キー検知を使用しているため、スマートエントリー＆スタートシステムが正しく作動しない場合は、うっかり通知機能が正しく働かないことがあります。

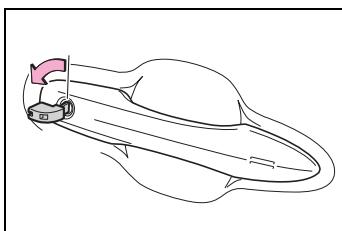
- リモート確認機能によって、ドアの開閉や施錠の状態、非常点滅灯の点滅状態、電子キーの車内への置き忘れなどをスマートフォンアプリで確認できます。

T-Connectについては、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

■オートアラームの作動について

次のような場合、オートアラームが作動することがあります。オートアラームを解除・作動を停止する操作を行ってください。

- メカニカルキーを使ってドアを解錠したとき

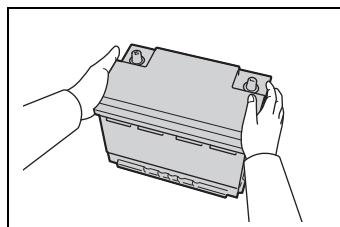


- 車内に残った人が、ドア・バックドア・ボンネットを開けたり、解錠したとき



- 施錠後、バッテリーあがりなどで、

バッテリーの充電や交換をしたとき
(→P.480)



■オートアラーム作動によるドアロック機能

次のような場合、車内への不正な侵入を防止するため自動的にドアが施錠されることがあります。

- 車内に残った人がドアを解錠し、オートアラームが作動したとき
- オートアラーム作動中に車内に残った人がドアを解錠したとき
- バッテリーあがりなどで充電・交換したとき

■カスタマイズ機能

機能の一部は設定を変更することができます。(→P.494)

! 注意

■オートアラームを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

走行に関する情報表示

2

2-1. 計器の見方

警告灯／表示灯	62
計器類	67
マルチインフォメーションディスプレイ	72
ヘッドアップディスプレイ	73
ディスプレイの表示内容	78

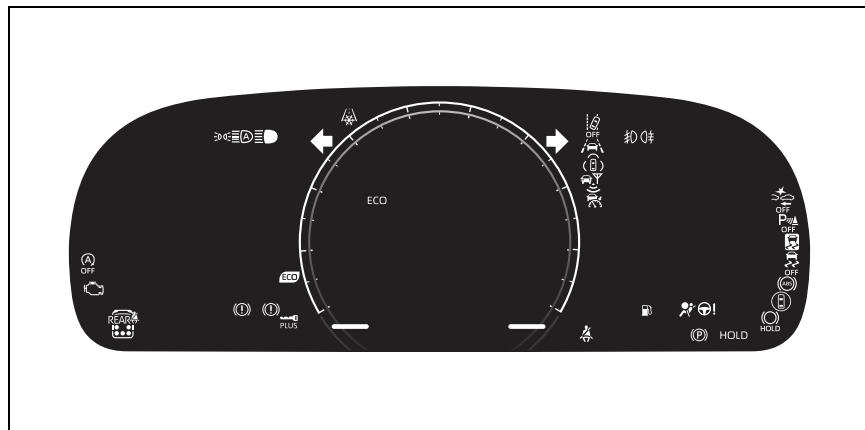
警告灯／表示灯

メーター・ドアミラーの警告灯／表示灯でお車の状況をお知らせします。

メーターの警告灯／表示灯

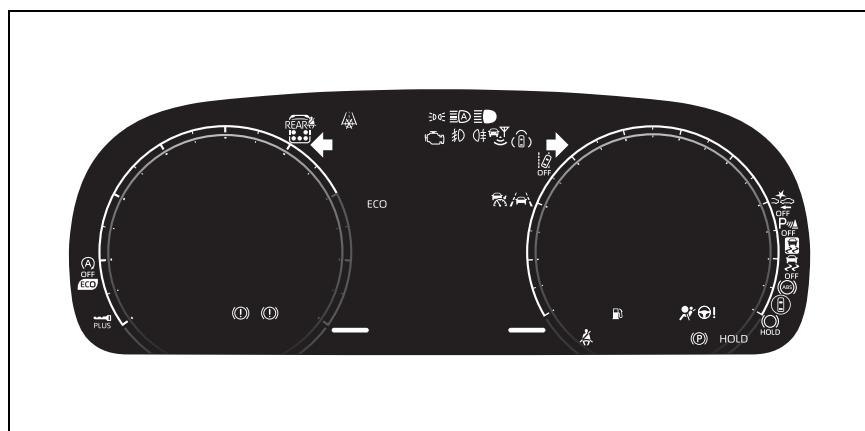
メーター表示のタイプを選択することができます。(\rightarrow P.79)

▶ タイプ 1



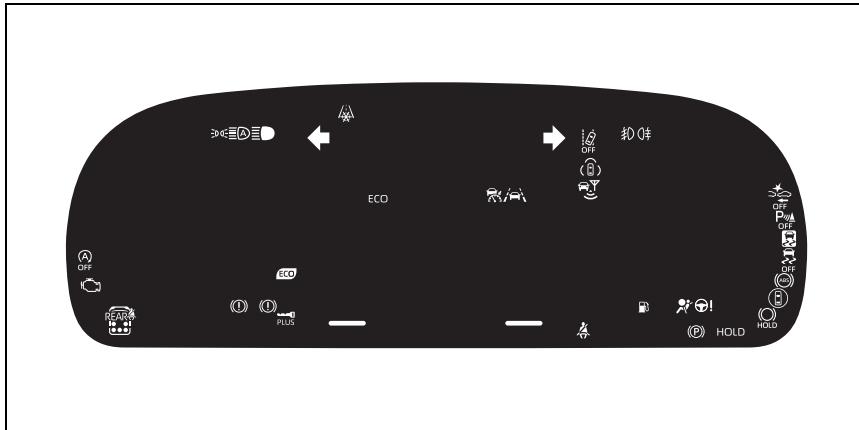
実際の表示内容は、イラストと異なる場合があります。

▶ タイプ 2



実際の表示内容は、イラストと異なる場合があります。

▶ タイプ3



実際の表示内容は、イラストと異なる場合があります。

警告灯一覧

システム異常などを警告します。

	ブレーキ警告灯 ^{※1} (→P.445) (赤色)		パワーステアリング警告灯 ^{※1} (→P.447) (赤色)
	ブレーキ警告灯 ^{※1} (→P.445) (黄色)		パワーステアリング警告灯 ^{※1} (→P.447) (黄色)
	高水温警告灯 ^{※2} (→P.445)		燃料残量警告灯 (→P.447)
	充電警告灯 ^{※2} (→P.445)		運転席・助手席シートベルト 非着用警告灯 (→P.447)
	油圧警告灯 ^{※2} (→P.446)		リヤ席シートベルト非着用警 告灯 (→P.447)
	エンジン警告灯 ^{※1} (→P.446)		Stop & Start キャンセル表示 灯 ^{※1} (→P.448) (点滅)
	SRSエアバッグ／プリテン ショナー警告灯 ^{※1} (→P.446)		PCS 警告灯 ^{※1} (→P.448)
	ABS & ブレーキアシスト警告 灯 ^{※1} (→P.446)		LTA 表示灯 (→P.448) (黄色)
	ペダル誤操作警告灯 ^{※2} (→P.446)		LDA 表示灯 (→P.448) (黄色)



PDA 表示灯 (→P.448)

(黄色)

クルーズコントロール表示灯
(→P.448)

(黄色)

レーダークルーズコントロール表示灯
(→P.449)

(黄色)

運転支援情報表示灯 ※1
(→P.449)クリアランスソナー OFF 表示
灯 ※1 (→P.449)スリップ表示灯 ※1
(→P.449)パーキングブレーキ表示灯
(→P.450)

(点滅)

ブレーキホールド作動表示灯
※1 (→P.450)

(点滅)

※¹ 作動確認のためにエンジンスイッチを ON にすると点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

※² メッセージと一緒にマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

警告

■ 安全装置の警告灯が点灯しないとき

ABS や SRS エアバッグなど安全装置の警告灯がエンジンスイッチを ON にしても点灯しない場合や点灯したままの場合は、事故にあったときに正しく作動せず、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

表示灯一覧

システムの作動状況を表示します。



方向指示表示灯 (→P.180)



尾灯表示灯 (→P.187)

ハイビーム表示灯
(→P.189)

AHS 表示灯 (→P.191)

AHB 表示灯★ (→P.193)
フロントフォグランプ表示灯
(→P.196)リヤフォグランプ表示灯★
(→P.196)PCS 警告灯 ※1, 2
(→P.216)LTA 表示灯 (→P.228)
(白色)LTA 表示灯 (→P.228)
(緑色)

(黄色点滅)

LTA 表示灯 (→P.228)

LDA 表示灯 (→P.237)
(緑色)

(黄色点滅)

LDA 表示灯 (→P.237)

LDA OFF 表示灯 ※2
(→P.237)

(白色)

PDA 表示灯 (→P.243)



(緑色)

PDA 表示灯 (→P.243)

	クルーズコントロール表示灯 (→P.263)		クルーズコントロール表示灯 (→P.263)		ブレーキホールド作動表示灯 ※1 (→P.185)
	レーダークルーズコントロール表示灯 (→P.258)		レーダークルーズコントロール表示灯 (→P.258)		低温表示灯 ※6 (→P.69)
	運転支援情報表示灯 ※1, 2 (→P.285, 301, 312, 316, 320)		ドアミラーインジケーター ※1, 3 (→P.283, 299, 312)		ITS Connect アイコン★ (→P.273)
	クリアランスソナー OFF 表示灯 ※1, 2 (→P.304)		クリアランスソナー検知表示灯 ※4 (→P.304)		ITS Connect アイコン★ (→P.273)
	Stop & Start 表示灯 ※1 (→P.277)		Stop & Start キャンセル表示灯 ※1, 2 (→P.282)		プラスサポート表示灯★ (→P.330)
	スリップ表示灯 ※1 (→P.359)		VSC OFF 表示灯 ※1, 2 (→P.359)		制動灯表示灯 (→P.66)
	エコドライブインジケーター ランプ ※1 (→P.80)		スマートエントリー＆スタートシステム表示灯 ※5 (→P.170)		エコドライブモード表示灯 (→P.177)
	パーキングブレーキ表示灯 (→P.181)		ブレーキホールドスタンバイ表示灯 ※1 (→P.185)		★ : グレード、オプションなどにより、 装備の有無があります。

2

走行に関する情報表示

★ : グレード、オプションなどにより、
装備の有無があります。

※1 作動確認のためにエンジンスイッチを
ON にすると点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯します。点灯し
ない場合や点灯したままのときはシス
テム異常のおそれがあります。トヨタ
販売店で点検を受けてください。

※2 システムが OFF のときに点灯します。

※3 ドアミラーに表示されます。

※4 マルチメディアまたはリヤカメラ非装
着車

※5 メッセージと一緒にマルチインフォ
メーションディスプレイに表示されま
す。

※6 外気温が約 3° C 以下のとき、約 10
秒間点滅後に点灯します。

□ 知識

■ クリアランスソナー OFF 表示灯につい て

マルチメディアまたはリヤカメラ非装着
車は、クリアランスソナー機能の ON /

OFF の状態に関わらずシフトポジションを R にすると消灯します。

■制動灯表示灯について

ブレーキペダルの操作や運転支援システムの作動により、制動灯が点灯したときに点灯します。

計器類

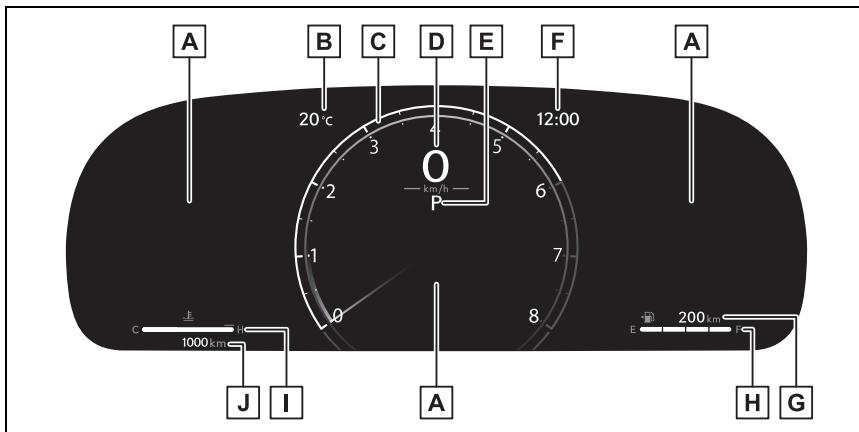
走行に関する各種の情報がメーターに表示されます。

メーターの表示について

■ 計器類の位置

メーター表示のタイプを選択することができます。([→P.79](#))

▶ タイプ1／タイプ3



【A】マルチインフォメーションディスプレイ

車両に関するさまざまな情報を表示します。([→P.72](#))

車両に異常が発生したときは警告メッセージを表示します。([→P.451](#))

【B】外気温 ([→P.69](#))

【C】タコメーター (タイプ1のみ)

毎分のエンジン回転数を示します。

【D】デジタルスピードメーター

車両の走行速度を示します。

【E】シフトポジション／シフトレンジ／ギヤ段 ([→P.174](#))

【F】時計

GPSの時刻情報（GPS時計）を利用して、時刻を自動で調整します。詳しくは別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

【G】航続可能距離

現在の燃料残量で走行可能なおよその距離を表示します。(\rightarrow P.69)

[H] 燃料計

燃料残量を示します。次の場合、実際の燃料残量が正しく表示されないことがあります。

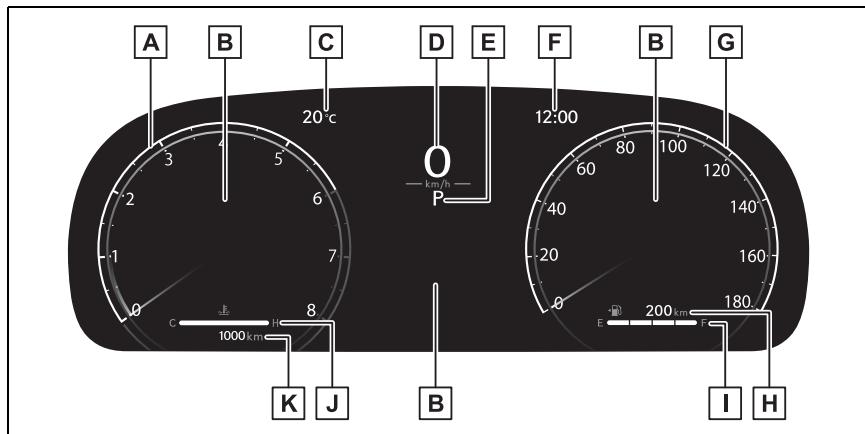
- ・ 少量給油（約2L以下）を行ったとき
- ・ 坂道など傾いた場所に停車したとき
- ・ 坂道やカーブを走行したとき

[I] 水温計

エンジン冷却水の温度を示します。

[J] オドメーター／トリップメーターディスプレイ (\rightarrow P.70)

▶ タイプ2



[A] タコメーター

毎分のエンジン回転数を示します。

[B] マルチインフォメーションディスプレイ

車両に関するさまざまな情報を表示します。(\rightarrow P.72)

車両に異常が発生したときは警告メッセージを表示します。(\rightarrow P.451)

[C] 外気温 (\rightarrow P.69)

[D] デジタルスピードメーター

車両の走行速度を示します。

[E] シフトポジション／シフトレンジ／ギヤ段 (\rightarrow P.174)

[F] 時計

GPSの時刻情報（GPS時計）を利用して、時刻を自動で調整します。詳しくは別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

【G】アナログスピードメーター

車両の走行速度を示します。

【H】航続可能距離

現在の燃料残量で走行可能なおよその距離を表示します。（→P.69）

【I】燃料計

燃料残量を示します。次の場合、実際の燃料残量が正しく表示されないことがあります。

- ・ 少量給油（約 2L 以下）を行ったとき
- ・ 坂道など傾いた場所に停車したとき
- ・ 坂道やカーブを走行したとき

【J】水温計

エンジン冷却水の温度を示します。

【K】オドメーター／トリップメーターディスプレイ（→P.70）

□ 知識

■ メーター・ディスプレイの作動条件

エンジンスイッチが ON のとき

■ 航続可能距離について

- 運転履歴から学習した燃費と現在の燃料残量から算出した走行可能な距離を表示します。使用環境（気象、渋滞など）や運転方法（急発進、エアコンの使用など）に応じて燃費がかわるため、実際に走行できる距離とは異なります。
- 燃料給油量が少量（約 2L 以下）のときは、表示が更新されないことがあります。この場合、燃料計の表示と共に更新することができます。（→P.69）
- 「給油してください」と表示されたときは、燃料残量が少ないため、航続可能距離の計算ができません。その場合は、すみやかに給油してください。

■ 燃料計と航続可能距離の手動更新について

燃料計と航続可能距離は連動しています。少量給油後に燃料計と航続可能距離の表示が更新されない場合、次の操作を行う

ことで表示を更新することができます。

- 1 車両を平坦な場所に停車させる
- 2 ODO TRIP スイッチを押してオドメーター／トリップメーターディスプレイをオドメーター表示に切りかえる
- 3 エンジンスイッチを OFF にする
- 4 ODO TRIP スイッチを押したまま、エンジンスイッチを ON にする
- 5 そのまま約 5 秒間 ODO TRIP スイッチを押し続け、オドメーターが点滅を開始したら手をはなす

オドメーターが約 5 秒間点滅したあと通常の表示にもどれば、更新は終了です。

■ 外気温表示について

- 外気温度を -40 ℃～60 ℃のあいだで表示します。
- 外気温度が約 3 ℃以下のときは、外気温表示の横に / \ が点滅し、その後点灯します。
- 次の場合は、正しい外気温が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがあります。故障ではありません。
 - ・ 停車しているときや、低速走行（約

20km/h 以下) のとき

- 外気温が急激に変化したとき（車庫・トンネルの出入り口付近など）
- “--”または“E”が表示されたときは、システム故障のおそれがあります。
トヨタ販売店で点検を受けてください。

■液晶ディスプレイについて

ディスプレイに小さな斑点や光点が表示されることがあります。これは液晶ディスプレイ特有の現象でそのまま使用しても問題ありません。

■フリー／オープンソースソフトウェア情報について

本製品はフリー／オープンソースソフトウェアを含んでいます。

このようなフリー／オープンソースソフトウェアのライセンス情報やソースコードの両方またはどちらか片方は以下の URL で入手することができます。

<https://www.denso.com/global/enopensource/meter/toyota/>

■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。（→P.493）



警告

■低温時の画面表示について

画面の温度が極めて低いときは、画面表示の切りかえが遅れる場合がありますので、車室内を暖めてからご使用ください。

例えば変速段表示を使用した場合、シフト操作をしてもすぐに変速段の表示が切りかわらないことで運転者がダウンシフトしなかったと誤解し、再度ダウンシフトすることによって急激に過度のエンジンブレーキがかかり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



注意

■エンジンや構成部品への損傷を防ぐために

- タコメーターの針がレッドゾーン（エンジンの許容回転数をこえている範囲）に入らないようにしてください。
- 水温計の表示が H のレッドゾーンに入ったときは、オーバーヒートのおそれがあるので、ただちに安全な場所に停車してください。完全に冷えたあと、エンジンを確認してください。（→P.483）

オドメーター／トリップメータディスプレイ

■表示項目

● オドメーター

走行した総距離を表示します。

● トリップメーター A / トリップメーター B

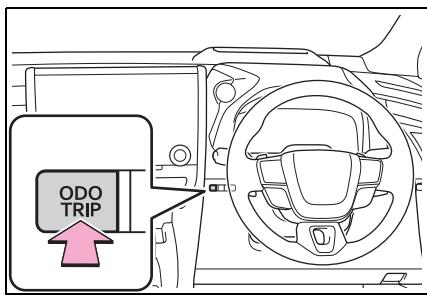
リセットしてからの走行距離を表示します。トリップ A・トリップ B の 2 種類で使い分けることができます。

● アイドリングストップ時間割り込み表示

現在のアイドリングストップ時間 (Stop & Start システムによるエンジン停止時間) を表示します。

■表示の切りかえ

スイッチを押すごとに表示が切りかわります。また、トリップメーター表示中にスイッチを押し続けると、走行距離を 0 にすることができます。



□ 知識

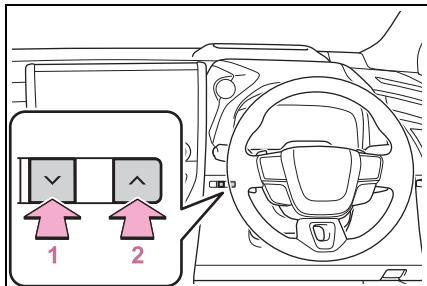
■ 音声対話サービスでのオドメーター／トリップメーター操作について★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

音声対話サービスを使用して、オドメーター・トリップメーターの表示を切り替えることができます。音声対話サービスについては、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

メーター照度を調整するには

メーター照度を調整できます。



- 1 暗くする
- 2 明るくする

□ 知識

■ メーターの照度について（昼照度と夜照度）

メーターの照度には昼照度と夜照度があ

り、それぞれの明るさのレベルを調整することができます。

昼照度と夜照度は、次のときに切りかわります。

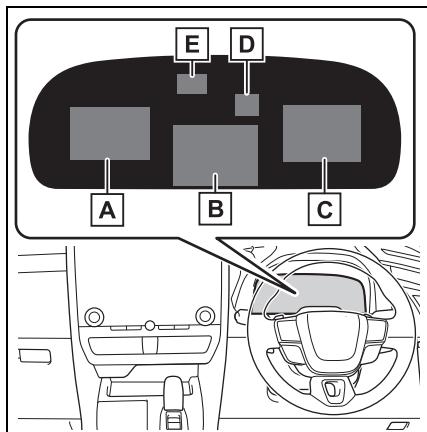
- 昼照度：周囲が明るいときに車幅灯が点灯しているとき、または車幅灯が消灯しているとき
- 夜照度：周囲が暗いときに車幅灯が点灯しているとき

マルチインフォメーションディスプレイ

マルチインフォメーションディスプレイは、燃費に関する情報や、走行に関する各種の情報などを表示します。また、メーター操作スイッチの操作で、各システムの設定などを変更するともできます。

ディスプレイの表示

マルチインフォメーションディスプレイの各エリアには、次の情報が表示されます。



- A** コンテンツ表示エリア（左）
- B** コン텐ツ表示エリア（中央）
- C** コン텐ツ表示エリア（右）
- D** 運転支援システム情報表示エリア

コンテンツ表示エリアで運転支援システム情報を選択している場合は、表示されません。

E RSA（ロードサインアシスト）
表示エリア (→P.248)

■ コンテンツ表示エリア（中央）

- ブランク (→P.81)
- 運転支援システム情報 (→P.80)
- 地図表示 (→P.82)
- 警告メッセージ

■ コンテンツ表示エリア（左／右）

- ブランク (→P.81)
- 燃費グラフ (→P.80)
- エコドライブインジケーター (→P.80)
- 運転支援システム情報 (→P.80)
- ナビゲーションシステム連携表示 (→P.82)
- オーディオシステム連携表示 (→P.82)
- ドライブインフォメーション (→P.81)

□ 知識

■ マルチインフォメーションディスプレイの作動条件

エンジンスイッチが ON のとき

■ 液晶ディスプレイについて

→P.70

■ 走行モードを切りかえたとき

選択したモードに従って、マルチインフォメーションディスプレイの背景色が変化します。 (→P.177)

⚠️ 警告

■ 運転中の使用について

- マルチインフォメーションディスプレイを操作する時は、周囲の安全に十分注意してください。
- マルチインフォメーションディスプレイを見続けないでください。前方の歩行者、障害物などを見落とすおそれがあり危険です。

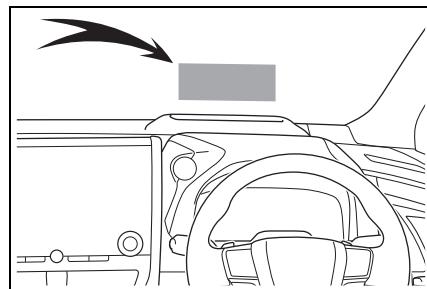
■ 低温時の画面表示について

→P.70

ヘッドアップディスプレイ

ヘッドアップディスプレイは、フロントウインドウガラスに運転支援システムの作動状況や走行に関するさまざまな情報を表示することができます。

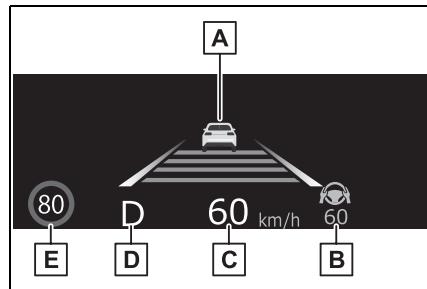
ディスプレイの表示



ヘッドアップディスプレイ表示のタイプを変更することができます。
(→P.75)

表示内容は、走行状況・走行モードやヘッドアップディスプレイの表示モードによって異なります。また、状況に応じて割り込み表示されます。

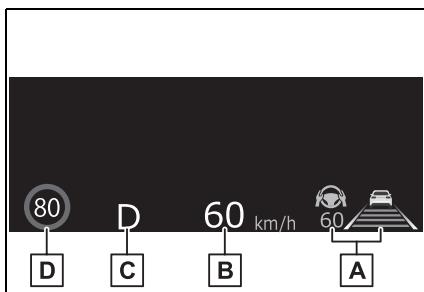
■ フル



イラストは説明のための例であり、実際の表示状況とは異なります。

- A** 運転支援システム表示エリア
(→P.80) / ナビゲーションシステム連携表示エリア / タコメーター表示エリア (→P.76)
- B** 運転支援システム表示エリア
(→P.80)
- C** スピードメーター
- D** シフトポジション / シフトレンジ / ギヤ段 (→P.174)
- E** RSA (ロードサインアシスト)
表示エリア (→P.248)

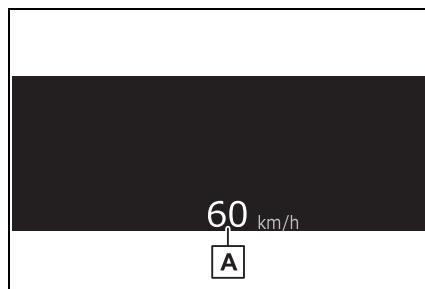
■ スタンダード



イラストは説明のための例であり、実際の表示状況とは異なります。

- A** 運転支援システム表示エリア
(→P.80)
- B** スピードメーター
- C** シフトポジション / シフトレンジ / ギヤ段 (→P.174)
- D** RSA (ロードサインアシスト)
表示エリア (→P.248)

■ ミニマム



A スピードメーター

□ 知識

■ ヘッドアップディスプレイの作動条件

エンジンスイッチが ON のとき

■ ヘッドアップディスプレイを使用するときは

サングラス（特に偏光サングラス）を着用していると、ヘッドアップディスプレイの表示が見づらくなる場合があります。表示が見づらい場合は、輝度を調整するか、サングラスをはずしてください。

■ 交差点名表示について

地図データに情報がない場合など、状況によっては交差点名称が表示されない場合があります。

■ レーン（車線）表示について

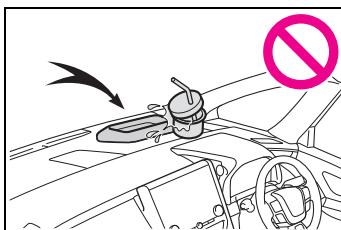
地図データに情報のない交差点では、レーン表示は行われません。また、交差点によっては、レーン表示と実際の交差点形状が異なる場合があります。現場の標識、道路形状に従ってください。（レーン情報のある交差点の手前 300m 以内にレーン情報のない交差点がある場合、道路形状が工事等で変更になった場合など）

⚠️ 警告

- ヘッドアップディスプレイを使用するときは
 - 映像の明るさ、および表示位置は、安全運転に支障がないよう適切な状態に調整してください。
調整が不適切だと運転者の視界のさまたげとなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
 - ヘッドアップディスプレイを見続けないでください。前方の歩行者、障害物などを見落とすおそれがあり危険です。

⚠️ 注意

- ヘッドアップディスプレイ映写部について
 - 映写部の付近に飲み物を置かないでください。水やその他の液体が映写部にかかると、装置が故障する原因になります。



- 映写部の上にものを置いたり、シールなどを貼り付けたりしないでください。
ヘッドアップディスプレイの表示のさまたげとなります。
- 映写部の内部にふれたり、とがったものを押し付けたりしないでください。
装置が故障する原因となります。

ヘッドアップディスプレイの使い方

■ ヘッドアップディスプレイの設定

- 1 マルチメディアディスプレイの を選択する
- 2 “車両カスタマイズ” を選択する
- 3 “ヘッドアップディスプレイ” を選択する

次の設定を変更することができます。（→P.494）

● ヘッドアップディスプレイの表示／非表示

ヘッドアップディスプレイの表示／非表示を切りかえることができます。

● 表示の明るさ／上下位置

表示の明るさや、上下の位置を調整することができます。

● 表示の傾き

表示の傾きを調整することができます。

● 表示タイプ

ヘッドアップディスプレイ表示のタイプ（→P.73）を変更することができます。

□ 知識

■ ステアリングスイッチでの切りかえ

ステアリングスイッチお気に入り機能に次の項目が設定されているときは、ステアリングスイッチからヘッドアップディスプレイの設定を変更することができます。

- : 表示 ON / OFF
- : 表示モード

-  /  : 高さ
-  /  : 明るさ

■ヘッドアップディスプレイの表示／非表示について

ヘッドアップディスプレイを非表示にしたときは、エンジンスイッチを OFF にしたあとで再度 ON にしても、非表示のままでです。

■表示の明るさについて

●明るさの設定に加えて、周囲の明るさに応じて表示の明るさが自動で調整されます。

●ヘッドアップディスプレイ周辺の温度が高温になると、ヘッドアップディスプレイの保護のため、表示の明るさが徐々に暗くなります。周辺の温度が下がると徐々に元に戻ります。

■ヘッドアップディスプレイ表示位置の自動調整

お好みのヘッドアップディスプレイ表示をポジションメモリーに登録すると、自動で調整されます。（→P.152）

■バッテリー端子の脱着をしたときは

ヘッドアップディスプレイの設定がリセットされます。

■音声対話サービスでのヘッドアップディスプレイ操作について

音声対話サービスを使用して、ヘッドアップディスプレイの表示／非表示を切りかえることができます。音声対話サービスについては、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

⚠ 警告

■ヘッドアップディスプレイの設定を変更するときは

エンジンがかかった状態で操作を行うため、車庫内など囮まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■ヘッドアップディスプレイの設定を変更するときは

バッテリー上がりを起こす可能性がありますので、確実にエンジンがかかっている状態で実施してください。

タコメーター表示エリア

■ タコメーター

毎分のエンジン回転数を表示します。

■ エコドライブインジケーター

エコ運転の範囲と現状のアクセル開度を表示します。詳しくは、P.80 を参照してください。

□ 知識

■ヘッドアップディスプレイの作動条件

エンジンスイッチが ON のとき

■タコメーターの表示条件

- 次の条件をすべて満たしているときタコメーターが表示されます。
 - ・運転支援システム情報（→P.80）が表示されていないとき
 - ・ヘッドアップディスプレイをフル表示（→P.73）しているとき

- ・走行モードがエコドライブモード以外のとき（→P.177）

■エコドライブインジケーターの表示条件

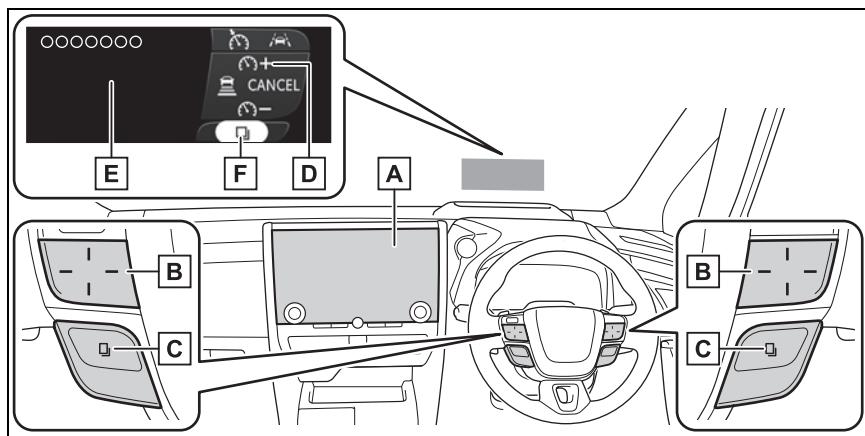
- 次の条件をすべて満たしているときエコドライブインジケーターが表示されます。
- ・運転支援システム情報（→P.80）が表示されていないとき
- ・ヘッドアップディスプレイをフル表示（→P.73）しているとき
- ・走行モードがエコドライブモードのとき（→P.177）

2

走行に関する情報表示

ディスプレイの表示内容

構成部品／操作について



A マルチメディアディスプレイ

B ステアリングスイッチ

状況や設定によって、スイッチの機能がかわります。

スイッチに触れると、各スイッチの機能がヘッドアップディスプレイとマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

また、マルチメディアディスプレイでお好みの機能をスイッチに設定することができます。

C 機能切りかえスイッチ

スイッチを押すごとに、スイッチの機能が切りかわります。

スイッチを長押しすると、割り込み表示されているメッセージを非表示にすることができます。

D スイッチアイコン表示

各スイッチのアイコンを表示します。触れているスイッチは強調表示されます。(F)

E スイッチ機能ガイド表示

触れているスイッチの機能ガイドを表示します。

□ 知識

■ ステアリングスイッチに触れても反応しないとき

● スイッチに触れたまま指を動かすと、

反応しやすくなります。

- スイッチの表面が汚れている場合は、エンジンスイッチを OFFにしてスイッチを清掃してください。
- 防寒手袋モードを ON にすることで、ス

イッヂセンサーの感度を高くすることができます。 (→P.493)

■ ステアリングスイッチでの切りかえ

ステアリングスイッチお気に入り機能に

〔DISP〕 / **DISP〕を設定している場合**

は、**〔DISP〕** または **DISP**〕を押すことで表示を切りかえることができます。

走行に関する情報について

走行に関する情報は次のディスプレイに表示されます。

- マルチインフォメーションディスプレイ
- ヘッドアップディスプレイ
- マルチメディアディスプレイ

表示される項目は、ディスプレイによって異なります。

マルチインフォメーションディスプレイの表示を切りかえるには

■ メーター表示タイプの切りかえ

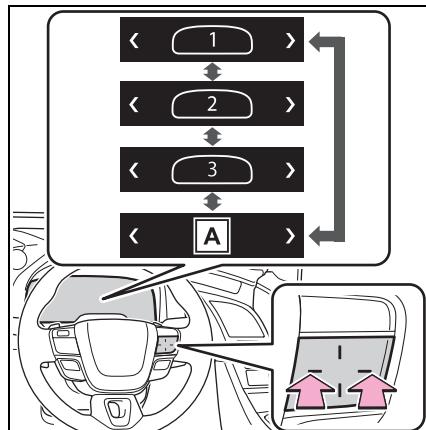
マルチメディアディスプレイの  から、メーター表示タイプを切りかえることができます。
(→P.493)

■ ページの切りかえ

3 エリアのコンテンツ表示を、3 ページ分の組み合わせから選択することができます。

ステアリングスイッチの **〔DISP〕** または **DISP**〕を押してページを切り

かえます。



A 警告メッセージ

非表示にした警告メッセージを確認することができます。

警告メッセージがない場合は表示されません。 (→P.83)

■ コンテンツ表示項目の切りかえ

コンテンツ表示エリア（左／中央／右）の項目を切りかえることができます。

1 スイッチアイコンの **〔DISP〕** ま

たは **DISP**〕を押してページを選択する

2 **〔DISP〕** または **DISP**〕を長押ししてコンテンツ表示エリア（中央）にカーソルを表示させる

3 **〔DISP〕** または **DISP**〕を押してカーソルを移動し、コンテンツ表示エリアを選択する

4 ステアリングスイッチ（上／下）を押して表示項目を選択する

燃費グラフ



A 瞬間燃費

現在の瞬間燃費を表示します。

B リセット間平均燃費*

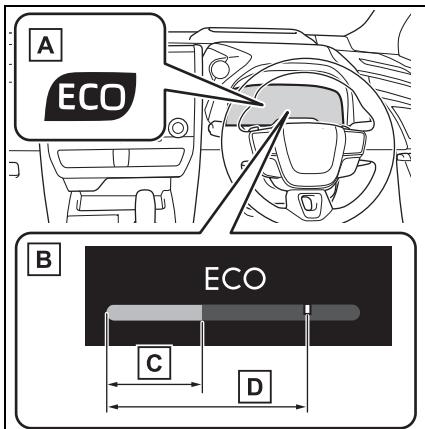
マルチメディアディスプレイの燃費履歴画面で「履歴削除」を選択すると、燃費データがリセットされます。

(→P.81)

* 表示される燃費は参考として利用してください。

エコドライブインジケーター

■ エコドライブインジケーターの見方



A エコドライブインジケーター

ンプ

環境に配慮した運転をしているとき、エコドライブインジケーターランプが点灯します。必要以上にアクセルペダルを踏んだときや停車中は消灯します。

B エコドライブインジケーター ゾーン表示

エコ運転の範囲と現状のアクセル開度を表示します。

C 現状のアクセル開度

現状のアクセル開度がエコ運転の範囲をこえたとき、エコドライブインジケーターゾーン表示の右側が点灯します。このとき、エコドライブインジケーターランプは消灯します。

D エコ運転の範囲

知識

■ エコドライブインジケーターの作動条件

次の場合、エコドライブインジケーターの作動が停止します。

- シフトポジションが D 以外にあるとき
- パドルシフトスイッチを操作しているとき
- 車速が約 130km/h 以上のとき

運転支援システム情報

マルチインフォメーションディスプレイやヘッドアップディスプレイに次のシステムの作動状況を表示します。

- LTA（レントレーシングアシスト）(→P.225)
- LCA（レーンチェンジアシスト）(→P.230)
- LDA（レーンディパーチャーア

ラート) (→P.234)

- PDA (プロアクティブドライビングアシスト) (→P.239)
- レーダークルーズコントロール (→P.251)
- クルーズコントロール (→P.261)

ドライブインフォメーション

マルチインフォメーションディスプレイに次の項目を表示できます。表示される情報は、参考としてご利用ください。

- 平均車速：リセット後の平均車速を表示
- 走行時間：リセット後の経過時間を表示

ブランク（非表示）

マルチインフォメーションディスプレイにブランク画面を表示します。

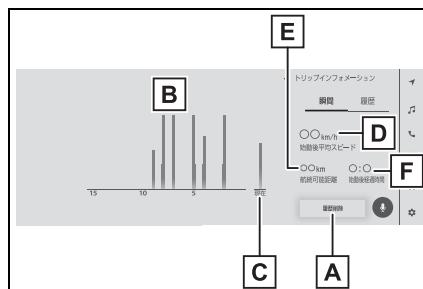
瞬間燃費／燃費履歴画面

燃費に関する情報をマルチメディアディスプレイに表示します。

- マルチメディアディスプレイに瞬間燃費／燃費履歴画面を表示させるには

- 1 メインメニューの  を選択する
- 2 “トリップインフォメーション”を選択する
- 3 “瞬間”または“履歴”を選択する

■ 瞬間燃費画面



A 履歴消去

B 過去 15 分間の 1 分ごとの燃費
(平均燃費)

C 瞬間燃費

D エンジン始動後平均車速

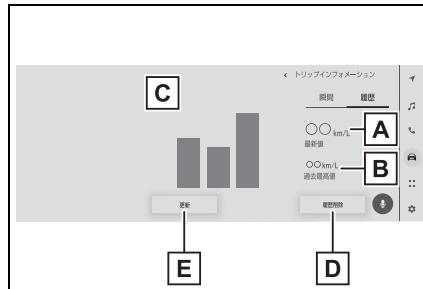
E 航続可能距離

F エンジン始動後経過時間

表示される平均燃費は、参考として利用してください。

表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

燃費履歴画面



A 最新値表示

B 過去最高値表示

C 過去平均燃費表示

D 履歴削除

E 最新値更新

表示される平均燃費は、参考として利用してください。

表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。



■過去の区間平均燃費の記録を更新するには

燃費履歴画面で“更新”を選択すると、平均燃費の値とグラフが更新され、新たに平均燃費の記録を開始します。

■燃費データをリセットするには

“履歴削除”を選択すると、燃費データがリセットされます。

■航続可能距離について

現在の燃料残量で走行できるおよその距離を示します。表示される距離は、過去の平均燃費をもとに算出されるため、表示される距離を実際に走行できるとは限りません。

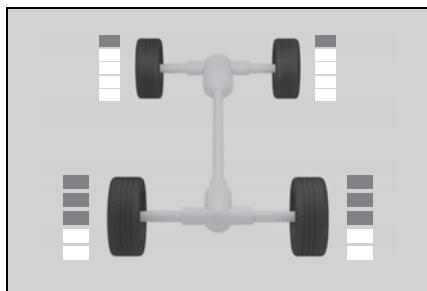
4WD 作動状態表示（4WD 車）

4WD の作動状態がマルチメディアディスプレイに表示できます。

■マルチメディアディスプレイに4WD 作動状態表示を表示させるには

- 1 メインメニューの を選択する
- 2 “4WD” を選択する

■4WD 作動状態



駆動力表示：0～5 の 6 段階で、各車輪の駆動状態を表示します。

図の画面表示は、使用状況や車両の仕様により実際の表示と異なる場合があります。

地図表示

ナビゲーションシステムと連携して、マルチインフォメーションディスプレイに地図情報を表示します。

オーディオシステム連携表示について

オーディオシステムの作動状況をマルチインフォメーションディスプレイに表示できます。

ナビゲーションシステム連携表示について

マルチインフォメーションディスプレイに次の情報を表示します。

- 目的地案内
- レーン（車線）案内
- 交差点にさしかかったとき、車線・進行方向などのレーン情報が表示されます。
- コンパス

知識

■ レーン表示について

地図データに情報のない交差点では、レーン表示は行われません。また交差点によっては、レーン表示と実際の交差点形状が異なる場合があります。現場の道路標識・表示や道路状況に従って走行してください。

■ 表示位置について

ヘッドアップディスプレイの表示設定によっては、ヘッドアップディスプレイに表示され、マルチインフォメーションディスプレイのコンテンツ表示エリアは非表示になります。

優先的に表示される情報

状況に応じて、マルチインフォメーションディスプレイやヘッドアップディスプレイに割り込み表示されます。

割り込み表示される項目によっては、一部の表示エリアが非表示になります。割り込み表示終了後、との表示にもどります。

■ 運転支援システム

状況に応じて、次のシステムの警告・注意喚起・通知・作動状況を割り込み表示します。

- PCS (プリクラッシュセーフティ)
- LTA (レントレーシングアシスト)
- LCA (レーンチェンジアシスト)
- LDA (レーンディバーチャーアラート)
- PDA (プロアクティブドライビ

ングアシスト)

- FCTA (フロントクロストラフィックアラート)
 - 発進遅れ告知機能
 - RSA (ロードサインアシスト)
 - レーダークルーズコントロール
 - クルーズコントロール
 - ドライバー異常時対応システム
 - アドバンスト ドライブ (渋滞時支援)
 - ITS Connect ★
 - Stop & Start システム
 - BSM (ブラインドスポットモニター)
 - 後方車両接近告知
 - 周辺車両接近時サポート (通報提案機能)
 - 後方車両への接近警報
 - 安心降車アシスト
 - RCTA (リヤクロストラフィックアラート)
 - RCD (リヤカメラディテクション)
 - PKSB (パーキングサポートブレーキ)
 - プラスサポート★
 - トヨタチームメイト アドバンストパーク
- ★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 警告メッセージ

状況に応じて、警告メッセージが割り込み表示されます。

警告メッセージは機能切りかえス

イッチを長押しすることで非表示にすることができます。 (→P.78)

■ ハンズフリー作動表示

ハンズフリーの作動中に表示されます。

■ 提案サービス機能

状況に応じて運転者に提案メッセージを表示する機能です。提案メッセージが表示されたときにハンドル上のスイッチを操作することで、提案された内容を直接操作することができます。

● ヘッドライト消灯提案

エンジンスイッチを OFF にしたあとにヘッドライトを点灯したまましばらく車内にいると、ヘッドライトの消灯を提案するメッセージを表示します。

● 窓閉め提案（ワイパー連動）

雨が車内に入ることを防ぐために、ドアガラスが開いている状態でワイパーが動き始めるとドアガラスを閉める提案メッセージを表示します。

このとき “YES” を選択すると、開いているすべてのドアガラスが閉まります。

● 窓閉め提案（高速走行時）

ドアガラスが開いている状態で一定以上の車速になると、ドアガラスを閉める提案メッセージを表示します。

このとき “YES” を選択すると、開いているすべてのドアガラスが閉まります。

■ ステアリングスイッチ操作表示

ステアリングスイッチに触れると、各スイッチのアイコンとスイッチの機能ガイドが表示されます。

■ ナビゲーションシステム連携情報

状況に応じて、ナビゲーションシ

ステムと連携した次の項目を表示します。

- 目的地案内

- レーン（車線）案内

交差点にさしかかったとき、車線・進行方向などのレーン情報が表示されます。

エンジンスイッチを OFF にしたときに表示される項目

エンジンスイッチを OFF にしたときに、マルチインフォメーションディスプレイに次の項目を表示します。

- 始動後走行距離 *

- 始動後走行時間 *

- 始動後平均燃費 *

* エンジンを始動するたびに、表示がリセットされます。

3-1. キー

キー	86
デジタルキー	89

3-2. ドアの開閉、ロックのしかた

フロントドア	92
スライドドア	96
バックドア	107
スマートエントリー&スタートシステム	117

3-3. シートの調整

フロントシート	123
セカンドシート	124
サードシート	126
ヘッドレスト	128
シートアレンジ	130

3-4. ハンドル位置・ミラー

ハンドル	137
デジタルインナーミラー	138
ドアミラー	146

3-5. ドアガラスの開閉

パワーウィンドウ	149
----------	-----

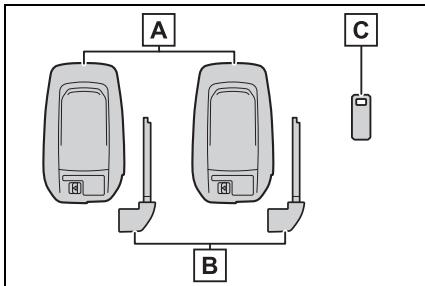
3-6. お好み設定

パワーイージーアクセスシステム／ ポジションメモリー／メモリー	
コール機能	152
マイセッティング	156

キー

キーの種類

お客様へ次のキーをお渡しします。



A 電子キー

- ・スマートエントリー&スタートシステムの作動（→P.117）
- ・ワイヤレス機能の作動

B メカニカルキー

C キーナンバープレート

知識

■航空機に乗るとき

航空機に電子キーを持ち込む場合は、航空機内で電子キーのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすことがあります。

■電池の消耗について

- 電池の標準的な寿命は1～2年です。
- 電池残量が少なくなると、エンジンを停止した際に車内から警告音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。
- 電子キーを長時間使用しないときは、節電モードにすることで電池の消耗を

抑えることができます。（→P.118）

●電子キーは常に電波を受信しているため、使用していないあいだでも電池が消耗します。次のような状態になったときは、電池が消耗している可能性があります。新しい電池に交換してください。（→P.428）

- ・スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンが作動しない
- ・作動範囲が狭くなった
- ・電子キーのLEDが点灯しない

●電池はお客様自身で交換することができます（→P.428）が、交換の際にキーが破損するおそれがあるため、トヨタ販売店での交換をおすすめします。

●電池の著しい消耗を防ぐため、次のような磁気を発生する電化製品の1m以内に電子キーを保管しないでください。

- ・TV
- ・パソコン
- ・携帯電話やコードレス電話機、および充電器
- ・電気スタンド
- ・電磁調理器

●スマートエントリー&スタートシステムによる操作をしなくても、車両周辺に長時間いると、電池の消耗は早くなります。操作をしない場合は、車両周辺に長時間いないことをおすすめします。

●電池の消耗を抑えるため、車両周辺に長時間いるときは、降車オートロック機能を一時的に非作動にすることをおすすめします。（→P.93）

■電子キーの状態や、エンジンスイッチのモードに関するメッセージが表示されたとき

車内への電子キーの閉じ込みや、同乗者による電子キーの持ち出し、電源の切り忘れなどを防止するため、電子キーやエンジンスイッチなどの状態の確認をうな

がすメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示されることがあります。その場合は、表示内容に従つてすみやかに対処してください。

■マルチインフォメーションディスプレイに“キーの電池残量が少なくなっています 電池を交換してください”が表示されたとき

電子キーの電池残量が少なくなっています。新しい電池と交換してください。
（→P.428）

■電池の交換方法

→P.428

■電子キーの取り扱いについて

電子キーは電波法の認証に適合しています。

必ず以下のことをお守り下さい。

- ・電池交換時以外は、不用意に分解しないで下さい。分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。
- ・必ず日本国内でご使用下さい。

JP

 注意
■キーの故障を防ぐために
<ul style="list-style-type: none"> ●落としたり、強い衝撃を与える、曲げたりしない ●温度の高いところに長時間放置しない ●ぬらしたり超音波洗浄器などで洗ったりしない ●キーに金属製または磁気を帯びた製品を取り付けたり、近付けたりしない ●分解しない ●電子キー表面にシールなどを貼らない

■キー登録本数の確認について

車両に登録されたキーの本数を確認することができます。詳しくはトヨタ販売店へご相談ください。

■マルチインフォメーションディスプレイに“新しいキーが登録されました 詳しくは販売店に問い合わせください”と表示されたときは

追加で新しく電子キーが登録された場合、車外から解錠して運転席ドアを開けたときにメッセージが表示されることが10日ほど続きます。電子キーの登録をした覚えがないにも関わらずメッセージが表示されたときは、お持ちの電子キー以外に登録されている電子キーがないかをトヨタ販売店で確認してください。

3

運転する前に

- テレビやオーディオ・電磁調理器などの磁気を帯びた製品の近くに置かない

- 電気医療機器（マイクロ波治療器や低周波治療器など）の近くに置いたり、身につけたまま治療を受けない

■キーを携帯するとき

電源を入れた状態の電化製品とは10cm以上離して携帯してください。10cm以内にあると電化製品の電波と干渉し正常に機能しない場合があります。

00

注意

- スマートエントリー＆スタートシステムの故障などで販売店に車両を持っていくとき

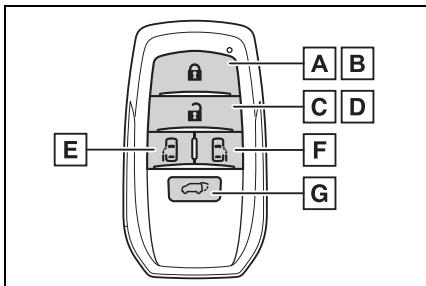
→P.478

- 電子キーを紛失したとき

→P.477

ワイヤレス機能について

キーには次のワイヤレス機能が搭載されています。



A 全ドアを施錠する (→P.92)

B ドアガラスを閉める ※
(→P.92)

C 全ドアを解錠する (→P.92)

D ドアガラスを開く ※ (→P.92)

E 助手席側パワースライドドアを開閉する (→P.98)

F 運転席側パワースライドドアを開閉する (→P.98)

G パワーバックドアを開閉する
(→P.109)

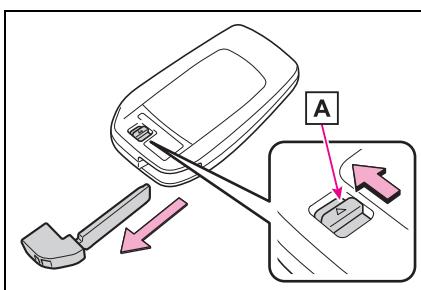
* トヨタ販売店での設定変更が必要です。

メカニカルキーを使うには

メカニカルキーを取り出すには、解除レバー**A**をスライドさせてキーを取り出してください。

メカニカルキーは挿し込み方向に指定のある片溝キーです。キーシリンダーに挿し込めないときは、キー溝面の向きをかえて挿し込んでください。

使用後はもとにもどし、電子キーと一緒に携帯してください。電子キーの電池が切れたときやスマートエントリー＆スタートシステムが正常に作動しないとき、メカニカルキーが必要になります。
(→P.478)



知識

■駐車場などでキーを預けるとき

必要に応じてグローブボックスを施錠(→P.387)します。

メカニカルキーを取り出し、電子キーのみを渡してください。

■メカニカルキーを紛失したとき

→P.477

■不正キーの使用について

指定のメカニカルキー以外のキーを使用すると、キーシリンダーが空まわりして解錠できません。

デジタルキー

スマートフォンに専用のデジタルキーアプリをインストールすることで、スマートフォンを車両の電子キーの代わりとして利用できます。

また、デジタルキーアプリを使って、家族や友人などとのあいだで、デジタルキーを共有することもできます。

本書では、デジタルキーについての基本的な情報のみを記載しています。システム全体の説明や、デジタルキーをお使いいただく上での注意事項やアプリのインストール方法などについては、デジタルキーの Web サイトの説明を必ずご覧の上、正しくご使用ください。

URL : https://toyota.jp/digital_key/

QR コード :



知識

■フリー／オープンソースソフトウェア情報について

本製品はフリー／オープンソースソフトウェアを含んでいます。このようなフリー／オープンソースソフトウェアのライセンス情報やソースコードの両方また

はどちらか片方は以下の URL で入手することができます。

<https://www.denso.com/global/enopensource/dkey/toyota/>

■デジタルキーの取り扱い

JP

- ・本機は、電波法の基準に適合しています。
- ・本機を分解・改造すると、法律により罰せられることがあります。

00

デジタルキーの使用条件

デジタルキーを使用するためには、T-Connect に契約したうえで、デジタルキー契約が必要となります。デジタルキー契約はトヨタ販売店でのみ行なうことができます。

契約は有償（無料期間有）です。詳細は販売店にお問い合わせください。

ダウンロードやご利用時にかかるパケット通信料はお客様のご負担となります。すべてのスマートフォンでの動作を保証している訳ではありません。対応機種・OS バージョンについては、デジタルキーの Web サイトをご覧ください。

デジタルキーの注意事項

- デジタルキーは本書に記載された使用方法および注意事項を守ってご利用ください。

デジタルキーは以下の場合などでは使用できなくなることがあります（詳細は、https://toyota.jp/digital_key/ をご確認ください）。そのため、電子キーを常に携行することを推奨いたします。

- ・ スマートフォンが故障した場合
- ・ スマートフォンとサーバーが通信できない場合

- ・ スマートフォンのバッテリー残量が無くなった場合
- ・ システムメンテナンス等により一時的にサービスが停止している場合
- スマートフォンのバッテリー残量がなくなると、デジタルキーとしての使用もできなくなります。スマートフォンのバッテリー残量が少ない場合はお出かけ前に必ず充電してください。
- デジタルキーは、スマートエンタリー＆スタートシステムに関連するシステムです。そのため、車両のカスタマイズ機能でスマートエンタリー＆スタートシステムを無効にしているときは、デジタルキーも使用できなくなります。
- 電波環境によりデジタルキーが不作動になる場合があります。（デジタルキーの Web サイト参照）
- お客様が車両を売却するときはデジタルキーを必ず削除してください。削除方法はデジタルキーの Web サイトを参照ください。
- 14 日間以上、車両の操作が無い

場合はデジタルキーが自動では接続されません。その際は一度、運転席のドアハンドルに触れて下さい。

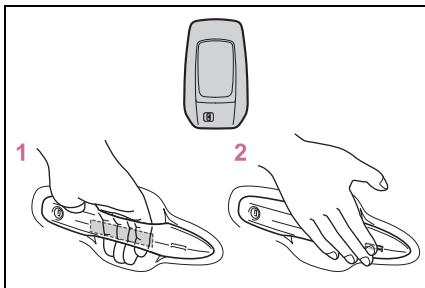
- サーバーメンテナンス期間はサービスを一部停止させて頂く場合があります。ただし、登録済みのデジタルキーは一定期間ご利用いただけます。
- デジタルキーアプリで車両に登録したスマートフォンは、車両の電子キーと同様にドアの施錠／解錠やエンジンの始動などが可能になるため、スマートフォンの車内への置き忘れや盗難などには特にご注意ください。
万一、スマートフォンを紛失した、または盗難にあった場合は、クルマのディスプレイでデジタルキーを削除またはデジタルキーの設定を無効にしてください。または、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。
- 点検や修理などでトヨタ販売店にお越しの際は、電子キーを必ずご持参ください。
- デジタルキーのみでは車両への接近時の照明の点灯、スマートエントリー＆スタートシステムの降車オートロック機能・接近時オートアンロック機能など一部の機能を使用できません。

フロントドア

車外から解錠／施錠するには

■ スマートエントリー＆スタートシステムを使用する

電子キーを携帯して操作します。



1 ハンドルを握って解錠する

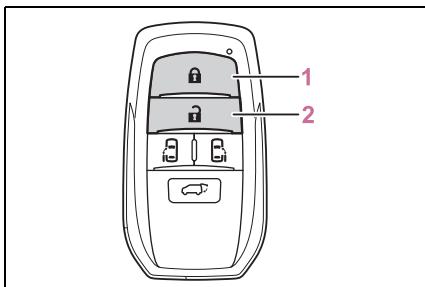
ハンドル裏面のセンサー部に確実に触れてください。

施錠操作後3秒間は解錠できません。

2 ドアハンドル表面のロックセンサー部（ハンドルのくぼみ部）にふれ施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。

■ ワイヤレス機能を使用する



1 全ドアを施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。

押し続けるとドアガラスが閉まります。*

2 全ドアを解錠する

押し続けるとドアガラスが開きます。*

* トヨタ販売店での設定変更が必要です。

□ 知識

■ 降車オートロック機能^{※1, 2}

^{※1} トヨタ販売店での設定変更が必要です。

^{※2} デジタルキーのみでは降車オートロック機能は使用できません。

次の手順で車から離れることで、自動で施錠することができます。

1 電子キーを携帯して降車し、すべてのドアを閉める

車内に電子キーがあると施錠できません。
車内にあるすべての電子キーを携帯してください。

2 電子キーの作動範囲内（→P.118）でブザーが“ピピッ”と鳴るまで待機する

降車オートロック待機状態になります。

3 降車オートロック待機状態になったら、電子キーの作動範囲から離れる

すべてのドアが施錠され、作動の合図でお知らせします。（→P.94）

約1分間電子キーの作動範囲から離れないときは、警告ブザーが鳴り、降車オートロック待機状態が解除されます。この場合は、ドアを開閉することで降車オートロック待機状態にもどります。

■ パワースライドドアおよびパワーバックドア閉作動中降車オートロック機能

パワースライドドアおよびパワーバックドアの閉作動中^{※1}にも、降車オートロック機能の手順ですべてのドアを施錠することができます。^{※2}

^{※1} スライドドアインサイドハンドルおよびバックドアハンドルを使用したときは作動しません。

※²トヨタ販売店での設定変更が必要です。

■降車オートロック機能を一時的に非作動にするには

降車オートロック待機状態のときに電子キーを携帯し、ブザーが“ピッピー”と鳴るまでドアハンドルを握り続けることで、降車オートロック機能を非作動にすることができます。

降車オートロック機能を一時的に非作動にした場合、次の操作のあとドアを開閉することで作動可能状態にもどります。

- ドアを施錠・解錠する
- エンジンを始動する

■接近時オートアンロック機能*

* トヨタ販売店での設定変更が必要です。

次の条件を満たしているときに、電子キーの作動範囲内に電子キーがあるとドアを解錠することができます。

- すべてのドアが閉まっている
- すべてのドアが施錠されている

■接近時オートアンロック機能を一時的に非作動にするには

すべてのドアが閉まっている状態のときに電子キーを携帯し、ブザーが“ピッピー”と鳴るまでドアハンドル表面のロックセンサー部にふれ続けることで、接近時オートアンロック機能を非作動にすることができます。

接近時オートアンロック機能を一時的に非作動にした場合、エンジンを始動することで作動可能状態にもどります。

■解錠するドアを切りかえるには

ワイヤレスリモコンを使用して、スマートエントリー＆スタートシステムで解錠できるドアの設定を切りかえることができます。切りかえ操作は、車内または車から約1m以内の範囲で実施してください。

い。

- 1 エンジンスイッチをOFFにする
- 2 キー表面のインジケーターが消灯しているときに  ボタンと同時に、・ またはのいずれかを約5秒間押し続ける

操作を行うごとに次のように設定が切りかわります。(続けて切りかえ操作を行う場合は、ボタンから手を離したあと5秒以上間隔をあけてから手順2を行ってください)

マルチインフォ ーションディス プレイ表示／ブ ザー音	解錠できるドア
	運転席のドアハンドルを握ると運転席のみ解錠
車外：“ピピッ” (3回)	助手席のドアハンドルを握ると全席解錠
	フロントドアのドアハンドルを握ると全席解錠
車外：“ピピッ” (2回)	

オートアラームの誤作動防止のため、登録後はいったんワイヤレスリモコンで解錠し、ドアを開閉してください。( ボタンを押して30秒以内にドアを開けなかった場合は、ドアが再び施錠されオートアラームが設定されます)

オートアラームが作動し警報が鳴ってしまったときは、作動を停止する操作を行ってください。(→P.58)

■衝撃感知ドアロック解除システム

車両が前後左右から強い衝撃を受けると、すべてのドアが解錠されます。衝撃の度合いや事故の状況によっては作

動しないことがあります。

■作動の合図

ドアの施錠・解錠を、ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。(施錠は1回、解錠は2回)

ドアガラスの開閉をブザーで知らせます。

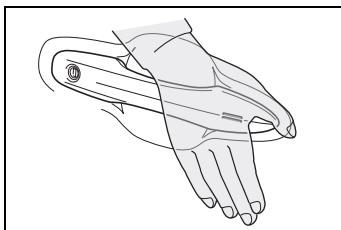
■解錠操作のセキュリティ機能

解錠操作後、約30秒以内にドアを開けなかったときは、盗難防止のため自動的に施錠されます。

セキュリティ機能で施錠されたとき、電子キーの位置によって室内の作動範囲内に電子キーがあると検知されると、再度解錠されることがあります。

■ドアハンドル表面のロックセンサーで施錠できないとき

ドアハンドル表面のロックセンサーに指でふれても施錠できないときは、手のひらでロックセンサーにふれてください。手袋を着用しているときは、手袋をはずしてください。



■半ドア警告ブザー

次のような場合、半ドア警告ブザーが鳴ります。すべてのドアを完全に閉めてから、もう一度施錠してください。

- スマートエントリー＆スタートシステムで施錠操作をしたときに、施錠しようととしたドア以外のドアが開いていた
- ワイヤレス機能で施錠操作をしたときに、いずれかのドアが開いていた

■オートアームの設定制御

施錠するとオートアームが設定されます。(→P.58)

■スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に働かないおそれのあるとき

→P.119

■スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に作動しないとき

- メカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。(→P.478)
- 電子キーの電池が消耗しているときは、電池を交換してください。(→P.428)

■バッテリーがあがったときは

スマートエントリー＆スタートシステムでドアを施錠・解錠することができない場合があります。

ワイヤレスリモコン、またはメカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠をしてください。(→P.478)

■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。

(カスタマイズ一覧: →P.493)

警告

■事故を防ぐために

運転中は次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、不意にドアが開き車外に放り出されるなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- すべてのドアを確実に閉め、施錠する

⚠ 警告

- 走行中はドア内側のドアハンドルを引かない
特に、運転席はドアロックボタンが施錠側になっていてもドアが開くため、注意してください。

■ ドアを開閉するときの留意事項

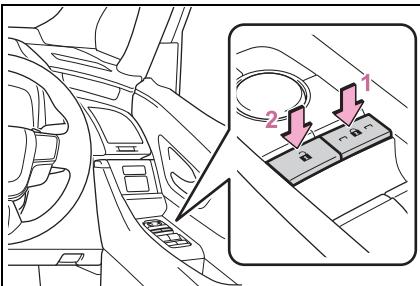
傾斜地・ドアと壁などのあいだが狭い場所・強風など、周囲の状況を確認し、予期せぬ動きにも対処できるよう、ドアハンドルを確実に保持してドアを開閉してください。

■ ワイヤレスリモコンを使ってドアガラスを操作するとき

ドアガラスに人が挟まるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、ワイヤレスリモコンによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

車内から解錠／施錠するには

■ ドアロックスイッチを使用する



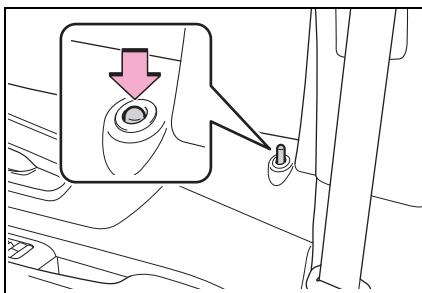
1 全ドアを施錠する

2 全ドアを解錠する

■ ドアロックボタンを使って施錠する

ドアロックボタンを押し下げて、

ドアを施錠する



■ ドアハンドルを使って解錠する

▶ 運転席ドア

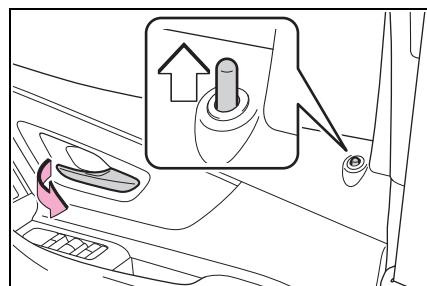
ドアハンドルを引くとドアが解錠され、ドアが開きます。

ドアが解錠されると、ドアロックボタンが上がります。

▶ 運転席以外のドア

ドアハンドルを引くとドアが解錠され、再度ドアハンドルを引くとドアが開きます。

ドアが解錠されると、ドアロックボタンが上がります。



□ 知識

■ キーを使わずに外側からフロント席を施錠するには

1 ドアロックボタンを押し下げる

2 ドアハンドルを引いたままドアを閉める

エンジンスイッチが ACC または ON の

ときや車内に電子キーが放置されているときは施錠されません。ただし、キーが正しく検知されずに施錠される場合があります。

■半ドア走行時警告ブザー

全ドアまたはボンネットが確実に閉まつていない状態のまま、車速が約5km/hをこえると警告ブザーが鳴り、開いているドアまたはボンネットがマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

オートドアロック・アンロック機能

次の機能を設定・解除することができます。

設定変更のしかたについては、P.493を参照してください。

機能	作動内容
車速感応オートドアロック	速度が約20km/h以上になると全ドアが施錠されます。
シフト操作連動ドアロック	エンジンが作動中にシフトポジションをPから動かすと全ドアが施錠されます。
シフト操作連動アンロック	シフトポジションをPにしたとき全ドアが解錠されます。
運転席ドア開運動アンロック	エンジンスイッチをOFFにしてから約45秒以内に運転席ドアを開けると全ドアが解錠されます。

スライドドア

スライドドアは次の方法で解錠・施錠および開閉することができます。

⚠ 警告

■走行中の留意事項

走行中は次のことをお守りください。
お守りいただかないと思いもよらずドアが開き、外に投げ出されるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- すべてのドアを確実に閉める
- すべてのドアを施錠する
- お子様を乗せるときは、チャイルドプロテクターを使用してドアが開かないようにする
- シートベルトを必ず着用する
- 走行中はインサイドドアハンドルを操作しない

■お子さまを乗せているときは

次のことをお守りください。
お守りいただかない、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- お子さまを車内に残さないでください。

誤って閉じ込められた場合、熱射病などを引き起こすおそれがあります。

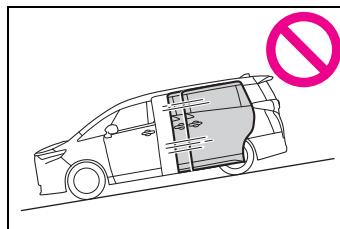
- お子さまにはスライドドアの開閉操作をさせないでください。

不意にスライドドアが動いたり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

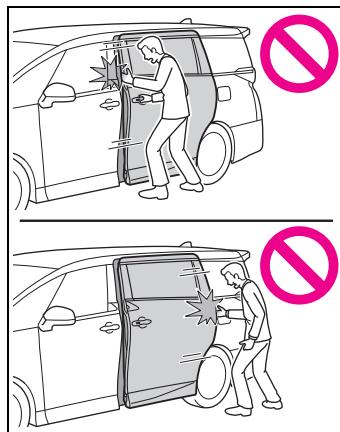
⚠️ 警告

- お子さまをリヤ席に乗せるときは、チャイルドプロテクター（→P.106）を使用して車内からドアが開かないようにする
- **スライドドアの操作にあたって**
次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 乗り降りするときは、スライドドアが全開位置であることを確認してください。
- スライドドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。
- ドアガラスを開けた状態でスライドドアを開閉するときは、窓から手・足・顔などを出さないでください。
- 人がいるときは安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- スライドドアを開けるときは、必ず全開位置まで開き固定してください。（全開にするとスライドドアがストッパーで固定されます）半開状態ではスライドドアが確実に固定されないため、傾斜地などで不意に動き出すおそれがあります。
- 車内からスライドドアにもたれかからないでください。スライドドアを開いたとき、車外へ落ちるなど思わぬ事故につながるおそれがあります。
- スライドドアが中間ストッパーの位置で停止した場合、スライドドアは固定されません。坂道などではドアが不意に動き出すおそれがありますので、十分注意してください。

- 傾斜した場所ではスライドドアの開閉スピードが速くなります。スライドドアにあたったり挟んだりしないように注意してください。

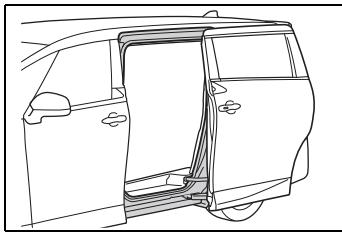


- 下り坂で乗り降りするときは、スライドドアを全開にしておいてください。また、途中でドアハンドルやドアハンドルスイッチを操作しないでください。スライドドアが突然動き出すおそれがあります。
- スライドドアを閉めるときは、指などを挟まないよう十分注意してください。



⚠ 警告

- スライドドアのアーム、レール、ピラー部および配線部には、手足をかけないでください。



車外から解錠／施錠するには

- スマートエントリー＆スタートシステムを使用する

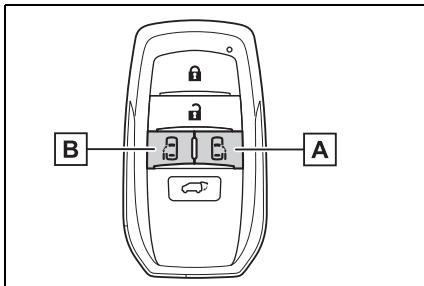
→P.92

- ワイヤレス機能を使用する

→P.92

パワースライドドアを開閉するには（パワースライドドア）

- ワイヤレス機能を使用して開閉する

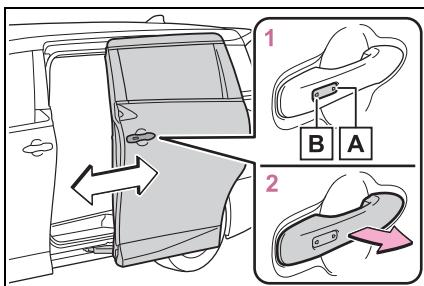


A 運転席側パワースライドドアを開閉する（押し続ける）

B 助手席側パワースライドドアを開閉する（押し続ける）

スライドドアを解錠してから操作してください。

- スライドドアハンドルを使用して開閉する



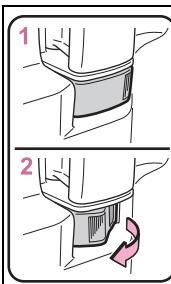
1 スイッチを押して開閉する

A 開ける

B 閉める

ドアが施錠されているとき：

電子キーを携帯してスイッチを押すと、すべてのドアが解錠され、スライドドアが自動で開きます。



1 施錠

2 解錠

電子キーが検知エリア内（→P.118）にある状態で、スイッチを押してください。ドアが解錠されているとき：

電子キーを携帯していないくとも、スイッチを押すとスライドドアが自動で開閉します。

2 ドアハンドルを引いて開閉するスライドドアを解錠してから操作してください。

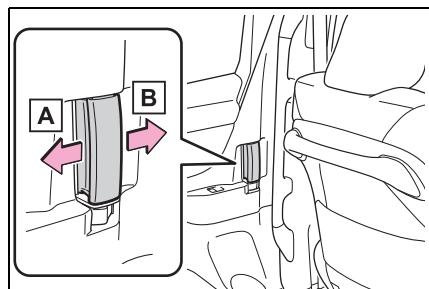
- ・自動開閉中にドアハンドルを引くと、作動を停止します。

再度ドアハンドルを引くと、反転作動します。

- ・自動開閉中にスイッチを押すと、作動を停止します。

■ インサイドドアハンドルを使用して開閉する

インサイドドアハンドルを操作するとパワースライドドアが自動で全開または、全閉になります。



自動開閉作動中に再度ドアハンドルを操作すると自動開閉作動が停止します。

A 開ける

スライドドアを解錠してから操作してください。

B 閉める

■ パワースライドドア開閉スイッチを使用して開閉する

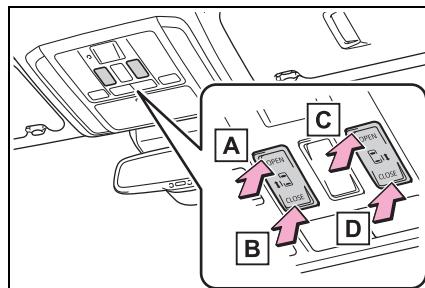
スイッチを約1秒押す

スライドドアを解錠してから操作してください。

ださい。

開閉作動中に再度スイッチを押すと、作動が停止します。

▶ フロント



A 助手席側パワースライドドアを開ける

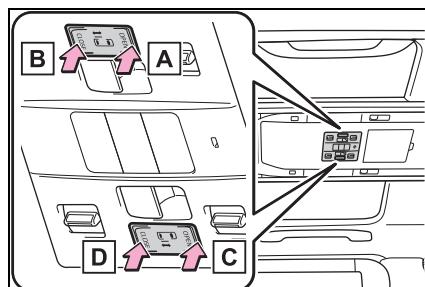
B 助手席側パワースライドドアを閉じる

C 運転席側パワースライドドアを開ける

D 運転席側パワースライドドアを閉じる

▶ リヤ

チャイルドプロテクターを施錠側にするとパワースライドドア開閉スイッチを使用してパワースライドドアを開けられなくなります。

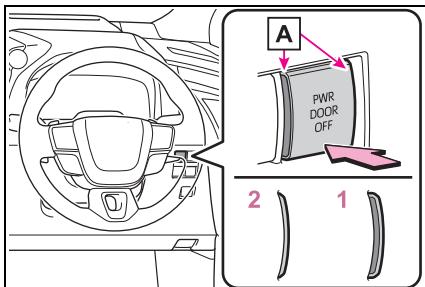


A 助手席側パワースライドドアを開ける

- A 助手席側パワースライドドアを閉じる
- C 運転席側パワースライドドアを開ける
- D 運転席側パワースライドドアを閉じる

パワースライドドアの機能を停止するには

パワードアオフスイッチを ON にしてパワースライドドアの機能を停止します。



1 OFF*

パワースライドドアをワイヤレスリモコン／スライドドアハンドル／インサイドドアハンドル／パワースライドドアスイッチの操作により、自動で開閉できます。

2 ON

スライドドアを手動でのみ開閉できます。ON にするとパワーバックドアも使用できなくなります。

* OFF にすると、スイッチ左右部にオレンジ色[A]のマークが表れます。

□ 知識

■ スライドドアイージークローザー

スライドドアが半ドア状態になったとき、

スライドドアイージークローザーが作動し、スライドドアが自動で完全に閉まります。スライドドアイージークローザーは、両側のスライドドアに装着されています。

● エンジンスイッチのモードに関係なく、スライドドアイージークローザーは作動します。

● スライドドアハンドルまたはインサイドドアハンドルを引いたままドアを閉めたときは、スライドドアイージークローザーが作動しないことがあります。

● スライドドアイージークローザーが作動中でも、車内のドアハンドルを引いてドアを開けることができます。(ロックリバーやチャイルドプロテクターが施錠側のときを除く)

■ 作動の合図（パワースライドドア使用時）

ブザーで知らせます。（作動開始時に 1 回、閉作動中は継続）

ブザーの音量・音色を変更できます。
(→P.493)

■ 給油扉が開いているとき（助手席側スライドドア）

● 給油扉が開いているときは、助手席側パワースライドドアは作動しません。助手席側スライドドアは手動で開閉できますが、途中までしか開きません。(中間ストップ位置で停止します)

中間ストップ位置で停止したスライドドアを全開にするとときは、給油扉を閉じ、いったんスライドドアを全閉にしてから、再度スライドドアを開けてください。

● 助手席側パワースライドドアの自動開閉中に給油扉を開けると、ブザーが鳴り、手動操作に切りかわります。このとき約 7 秒間スライドドアにブレーキをかけ、ドアの速度を抑制します。

■パワースライドドアの作動可能条件

次の作動条件をすべて満たしているときに、自動で開閉できます。

- パワードアオフスイッチが OFF のとき
- スライドドアのドアロックが解錠されている（閉作動を除く）
- 給油扉が閉じている（助手席側パワースライドドアのみ）

エンジンスイッチが ON のときは上記に加え、車速が 3km/h 以下かつ次のいずれかの条件を満たしていることが必要です。ただし、ワイヤレスリモコンによる開閉はできません。

- シフトポジションが P のとき
- パーキングブレーキがかかっているとき
- ブレーキペダルを踏んでいるとき

■パワースライドドアの作動について

- パワードアオフスイッチが OFF のとき、ハンドルをブザーが鳴る位置まで操作すると自動で作動します。

閉作動中は、ブザーが断続的に鳴ります。

- パワードアオフスイッチが ON のときは、手動でのみ開閉できます。
- スライドドアのドアガラスが開いているときはパワースライドドアは全開にならずに途中で停止します。
- パワースライドドアの自動開閉中に、人や異物などにより挟み込みを感じると、ブザーが鳴り、10cm 位反転作動したあとに作動を停止します。停止後にパワースライドドアを操作すると、以下のように作動します

逆方向に動く：

- ・アウトサイドハンドルを引く

開方向に動く：

- ・スライドドアハンドルのスイッチを開方向に押す、インサイドハンドルを開方向に引くまたはパワースライドドアスイッチ (OPEN 側) を押す

閉方向に動く：

- ・スライドドアハンドルのスイッチを閉方向に押す、インサイドハンドルを開方向に引くまたはパワースライドドアスイッチ (CLOSE 側) を押す

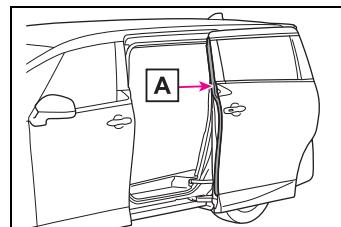
挟み込み防止機構作動後、電子キーのパワースライドドア開閉スイッチを押しても、パワースライドドアは作動しません。

■バッテリー端子を脱着したとき

パワースライドドアを適切に作動させるために、初期設定が必要です。スライドドアハンドルまたはインサイドドアハンドルを使用して、スライドドアを手動で一度全閉にしてください。

■挟み込み防止機構（パワースライドドア）

パワースライドドアの前端部には、センサー A が付いています。ドアを自動で閉めているときに、挟み込みなどによりセンサーが押されると挟み込み防止機構が作動し、ドアは 10cm 位反転作動したあとに停止します。



■予約ロック機能について（パワースライドドア）

パワースライドドアの自動閉作動中に、あらかじめ全ドアの施錠を予約する機能です。

次の操作をすると、パワースライドドア

以外のすべてのドアが施錠され、パワースライドドアも閉まるとき同時に施錠されます。

- 1 パワースライドドア以外のすべてのドアを閉じる
- 2 パワースライドドアの自動閉作動中にフロントドアまたはバックドアでスマートエントリー＆スタートシステムによる施錠操作を行う（→P.92）またはワイヤレスリモコンによる施錠操作を行う（→P.92）

すべてのドアが閉まり施錠されると、ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。

- 予約ドアロック機能使用時、施錠操作をしたあとに、キーを車内にもどすと、車内にキーが閉じ込められることがあります。
予約ドアロック機能は、必ずキーを携帯した状態で使用してください。
- 予約ドアロック操作をしてパワースライドドアが自動閉作動中に、挟み込み防止機能が作動するなど停止操作が行われると、予約ドアロック機能が解除されすべてのドアが解錠されます。
- 車から離れるときは、すべてのドアが閉まり施錠されたことを確認してください。

■ リヤシートリマインダー機能

リヤシートへの荷物の置き忘れなどを防止するため、次の操作を行ってからエンジンスイッチを OFF になるとブザーが鳴り、約 6 秒間マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

また、ドアを施錠したときにマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示され、ブザーと非常点滅灯が数秒作動します。

エンジンスイッチを OFF にしてからスライドドアを開けた場合は、ドアを施錠してもリヤシートリマインダー機能は作動

しません。

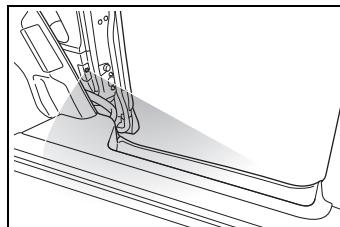
- スライドドアを開閉したあと約 10 分以内にエンジンを始動した
- エンジンがかかっている状態でスライドドアを開閉した

ただし、スライドドアを開けてから約 2 秒以内にスライドドアを閉めたときは、リヤシートリマインダー機能は作動しません。

リヤシートリマインダー機能は、スライドドアの開閉によりリヤシートに荷物などを載せたと判断します。そのため、使い方によってはリヤシートに荷物を置き忘れていてもリヤシートリマインダー機能が作動しないなど、実際の状況とは異なる作動をする場合があります。

■ ステップランプ

スライドドアを開けるとランプが点灯します。



■ 自動洗車機を使うとき

→P.412

■ カスタマイズ機能（パワースライドドア）

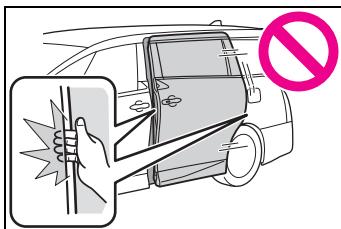
機能の一部は、設定を変更することができます。

（カスタマイズ一覧：→P.493）

⚠ 警告

■ スライドドアイージークローザーについて

- スライドドアが半ドア状態になったとき、スライドドアイージークローザーが動き自動で完全に閉まります。また、作動し始めるまでに数秒かかります。指などを挟まないように注意してください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあります。
(→P.100)

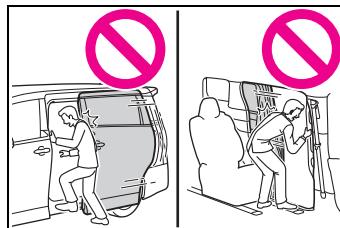


- スライドドアイージークローザーは、パワードアオフスイッチが ON であっても作動するため、指などの挟み込みには十分注意してください。
- ロックレバーやチャイルドプロテクターが施錠側のとき、スライドドアイージークローザー作動中にインサイドドアハンドルを引くとスライドドアイージークローザーが半ドア状態で停止し、開けられません。指などを挟まないように注意してください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあります。

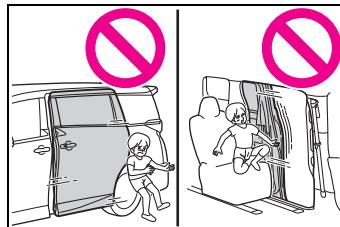
■ パワースライドドアについて

パワースライドドアの操作時は、次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- パワースライドドア作動中に乗り降りしないでください。



- ドアハンドルを使ってパワースライドドアを開閉するときは、操作後すぐにドアハンドルから手を離してください。ドアハンドルを握ったままスライドドアが作動すると、手・指・腕などに無理な力がかかるおそれがあるので十分注意してください。
- 周辺の安全を確かめ、障害物がないか、身のまわりの品が挟み込まれる危険がないか確認してください。
- 人がいるときは、作動させる前に安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。また、車外および車内のスライドドア付近にもたれている人がいるときは、パワースライドドアを作動させないでください。



警告

- 自動開閉中にパワードアオフスイッチを ON にすると、作動が停止し手動操作に切りかわります。この場合、傾斜した場所では、スライドドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので、十分注意してください。
- 自動開閉中、または全開以外のときは、ドアが急に反転作動したり、動きだすおそれがあります。必ず全開で静止していることを確認してください。
- 傾斜した場所では、開いたあとにドアが閉まる場合があります。ドアは必ず全開で静止していることを確認してください。
- 自動開閉中に作動可能条件を満たさなくなったときは、ブザーが鳴り、作動が停止し、手動操作に切りかわる場合があります。
この場合、傾斜した場所では、スライドドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので、十分注意してください。
- 次のような場合、システムが異常と判断し自動作動が停止することがあります。手動作動に切り替わり、急にスライドドアが閉まるなどして思わぬ事故につながるおそれがあるため、十分に注意してください。
 - ・ 自動作動中、障害物に干渉したとき
 - ・ エンジン停止時でパワースライドドアが自動作動しているときに、エンジンスイッチを ON にしたりエンジンを始動したりして、バッテリー電圧が急に低下したとき
 - ・ チャイルドプロテクターを施錠側にしているときは、パワースライドドアの誤操作防止のため、パワードアオフスイッチを ON にしてください。

● ドアガラスを開けた状態で自動開閉するときは、絶対に窓から手足や顔などを出さないでください。

● タイヤ交換時や洗車時は、パワードアオフスイッチを ON にしてください。ON にしないと誤ってスイッチにふれたときにスライドドアが動き、手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

■ 挟み込み防止機能（パワードアオフスイッチ OFF 時）

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● 挟み込み防止機構を故意に作動させようとして、体の一部を挟んだりしないでください。

● 挟み込み防止機能は、スライドドアが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

● 挟み込み防止機能は、挟まれるものの中や挟まれ方によっては作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

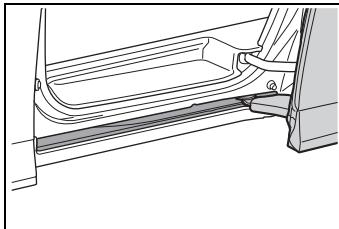
注意

■ スライドドアについて

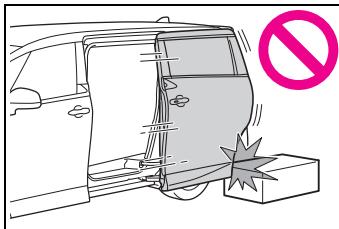
● スライドドアを開閉する前に、運転者はスライドドアが安全に開閉できるように車外および車内のスライドドア付近の状態を必ず確認してください。

⚠ 注意

- 走行するときやドアを開閉するときは、ジュースなどが入っている紙コップやガラス製のコップなどをスライドドア内側のボトルホルダー(→P.388)に収納しないでください。
- スライドドアのリヤステップ下のローラー滑走面に、石などの異物が入り込まないように注意してください。異物が入り込んだままスライドドアを開閉すると、スライドドアの故障の原因になります。



- スライドドアを開けるときは縁石や壁などにあたらないように注意してください。スライドドアを損傷するおそれがあります。



- ### ■ スライドドアイージークローザーについて
- スライドドアイージークローザーの作動中は無理な力をかけないでください。

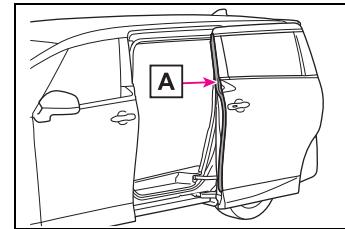
- ドアの開け閉めを短時間にくり返すとスライドドアイージークローザーが作動しないことがあります。この場合、一度ドアを開け、少し時間をおいてから閉め直すと作動します。

■ パワースライドドアについて

パワースライドドア前端部のセンサー

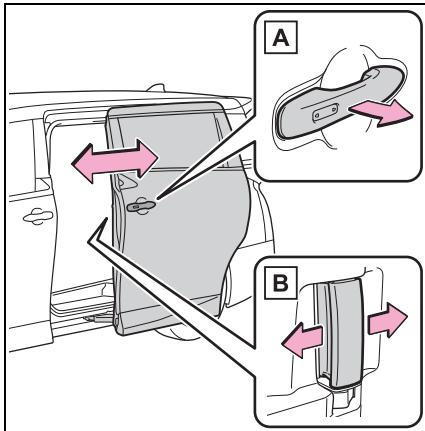
- A** を刃物などの鋭利なもので傷付けないよう注意してください。

センサーが切斷されると自動で閉めることができなくなります。また、自動で閉めているときにセンサーが切斷されると、スライドドアはただちに停止します。



スライドドアの手動開閉

パワードアオフスイッチ(→P.100)がONのとき、車外のスライドドアハンドル、または車内のインサイドドアハンドルを操作します。



A スライドドアハンドル

B インサイドドアハンドル

知識

■ チャイルドプロテクター使用時のドアの開け方

ドアを解錠して車外のドアハンドルを引くと開きます。万一、車内から開ける場合は、ドアガラスを下げて手を出し、車外のドアハンドルを引いてください。

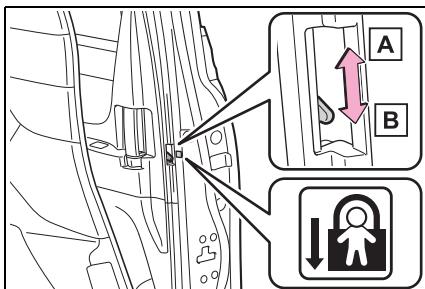
ユニバーサルステップ（格納式ステップ）★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

スライドドアの開閉と連動して、ステップが展開・格納されます。

チャイルドプロテクター

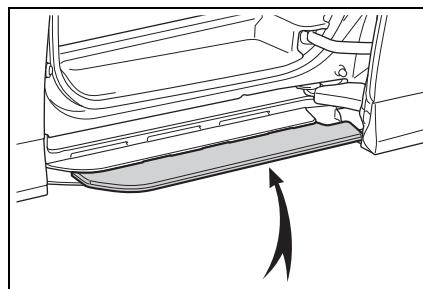
施錠側にすると、インサイドドアハンドルを使用してスライドドアを開けられなくなります。



A 解錠

B 施錠

お子さまが車内からスライドドアを開けられないようにできます。両側のスライドドアを施錠側にしてください。



知識

■ ユニバーサルステップ（格納式ステップ）を非作動にするには

ユニバーサルステップは非作動にすることができます。

詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

⚠ 警告

■ ユニバーサルステップ（格納式ステップ）について

ステップが濡れていたり、凍結したりしている場合は、ステップで足を滑らせないように注意してください。転倒し、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

バックドア

バックドアは次の方法で施錠・解錠および開閉することができます。

⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかない場合に重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 走行する前に

- 走行前にバックドアが閉まっていることを確認してください。
完全に閉まっていないと走行中に突然開き、車外のものにあたったり、荷物が投げ出されたりして思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ラゲージスペースでお子さまを遊ばせないでください。
誤って閉じ込められた場合、熱射病などを引き起こすおそれがあります。
- お子さまにはバックドアの開閉操作をさせないでください。
不意にバックドアが開いたり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

■ 走行中の留意事項

- 走行中はバックドアを閉めてください。
開けたまま走行すると、バックドアが車外のものにあたったり荷物が投げ出されたりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ラゲージスペースには絶対に人を乗せないでください。
急ブレーキ・急旋回をかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 警告

■ バックドアの操作にあたって

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● バックドアを開ける前に、バックドアに貼り付いた雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでバックドアが突然閉じるおそれがあります。

● バックドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。

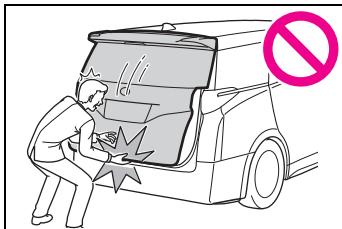
● 人がいるときは、安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。

● 強風時の開閉、中間保持には十分注意してください。

バックドアが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。

● 傾斜が急な場所で半開状態で使用すると、バックドアが突然閉じて重大な傷害を受けるおそれがあります。必ずバックドアが静止していることを確認して使用してください。

● バックドアを閉めるときは、指などを挟まないよう十分注意してください。



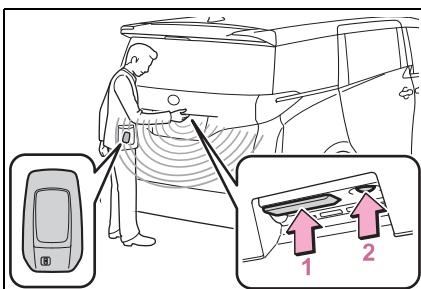
● スピンドルユニット (→P.114) を持つてバックドアを閉めたり、ぶら下がったりしないでください。手を挟んだり、スピンドルユニットが破損したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

● バックドアにキャリアなどの重いものを取り付けると、開けたあとにドアが突然閉じて、手・頭・首などを挟むおそれがあります。バックドアへのアクセサリー用品の取り付けは、トヨタ純正品を使用することをおすすめします。

車外から解錠／施錠するには

■ スマートエントリー＆スタートシステムを使用する

電子キーを携帯して操作します。



1 全ドアを解錠する

施錠操作後 3 秒間は解錠できません。

2 全ドアを施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。

■ ワイヤレス機能を使用する

→P.88

□ 知識

■ 作動の合図

→P.94

■解錠操作のセキュリティ機能

→P.94

車内から施錠／解錠するには

■ ドアロックスイッチを使用する

→P.95

パワーバックドアを開閉するには

■ ワイヤレス機能を使用して開閉する

スイッチを約1秒押し続ける

ブザーが鳴りバックドアが自動で開閉します。*

* カスタマイズ機能により、施錠時からでも作動できるように設定できます。

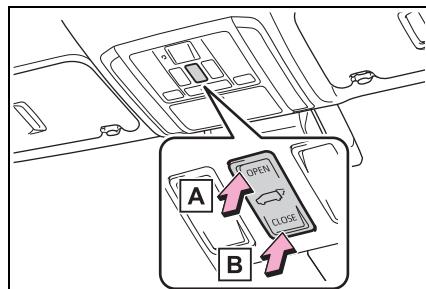
バックドアを解錠してから操作してください。

開閉作動中にスイッチを押すと、作動が停止します。作動が停止した状態から再度スイッチを約1秒間押し続けると、

バックドアは反転作動します。

さい。

開閉作動中にスイッチを押すと、作動が停止します。



A 開ける

B 閉める

■ バックドアのスイッチを使用して開閉する

● 開ける

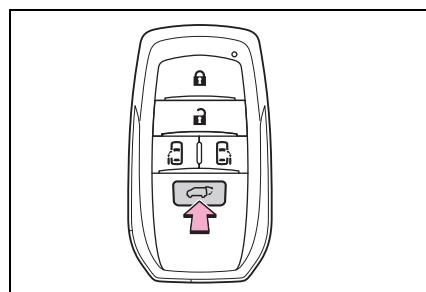
バックドア解錠時：バックドアオープンスイッチを押す

バックドア施錠時：電子キー*を携帯して、バックドアオープンスイッチを押し続ける

ブザーが鳴りバックドアが自動で開きます。

バックドアが開く途中でバックドアのスイッチを押すと、作動が停止します。作動が停止した状態から再度バックドアオープンスイッチを押すと自動で開きます。

* デジタルキーのみでは作動できません。

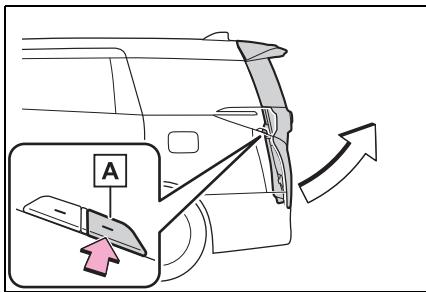


■ 車内からスイッチ操作で開閉する

スイッチを約1秒押し続ける

ブザーが鳴りバックドアが自動で開閉します。

バックドアを解錠してから操作してください



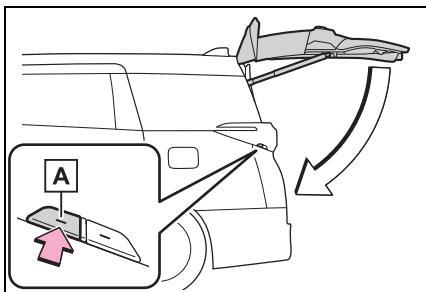
A バックドアオープンスイッチ

● 閉じる

バックドアクローズスイッチを押す

ブザーが鳴りバックドアが自動で閉まります。

バックドアが閉まる途中でスイッチを押すと、作動が停止します。作動が停止した状態から再度バックドアオープンスイッチを押すと自動で開き、バックドアクローズスイッチを押すと自動で閉じます。



A バックドアクローズスイッチ

● 閉じると同時に全ドアを施錠する（クローズ＆ロック機能）

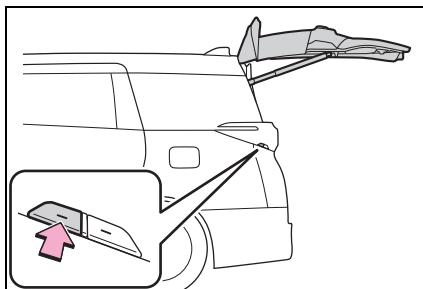
電子キー*を携帯してバックドアクローズスイッチを2回連続で押す

パワーバックドアを閉じると同時に全ドアを施錠します。

通常ブザーと異なるブザー音が鳴り、パワーバックドアが自動で閉まります。閉まるときにすべてのドアが施錠された

ことをドアロックアンサーパックでお知らせします。

* デジタルキーのみでは作動できません。



■ 車外からスイッチ操作で閉じる

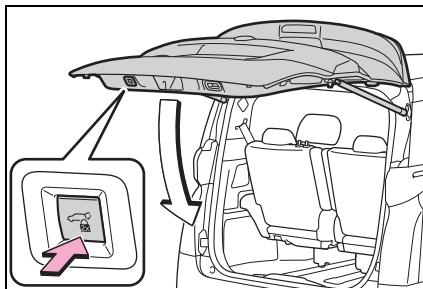
● 閉じる

バックドア下部のスイッチを押す

ブザーが鳴りパワーバックドアが自動で閉まります。

パワーバックドアが閉まる途中でパワーバックドア下部のスイッチを押すと作動を停止します。

再度スイッチを押すとパワーバックドアは自動で閉まります。



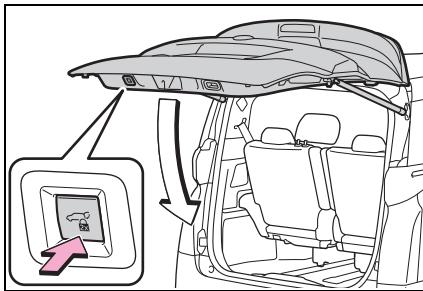
● 閉じると同時に全ドアを施錠する（クローズ＆ロック機能）

電子キー*を携帯してバックドア下部のスイッチを2回連続で押す

パワーバックドアを閉じると同時に全ドアを施錠します。

通常ブザーと異なるブザー音が鳴り、パワーバックドアが自動で閉まります。閉まるときにすべてのドアが施錠された

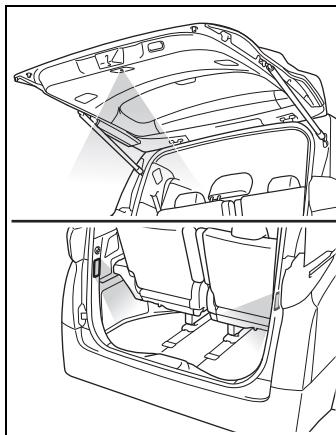
ことをドアロックアンサーバックでお知らせします。



■ バックドアハンドルを使用して閉じる

バックドアハンドルを持ってバックドアを引き下げるとき、ブザーが鳴りバックドアが自動で閉まります。

* デジタルキーのみでは作動できません。



■ 半ドア走行時警告ブザー

→P.96

■ バックドアイージークローザー

バックドアが半ドア状態になったとき、イージークローザーが作動し自動で完全に閉まります。

- エンジンスイッチがどの状態であっても、イージークローザーは作動します。

■ パワーバックドアの作動条件

次の作動条件を満たしているときに作動します。

- パワードアオフスイッチが OFF のとき
(→P.116)

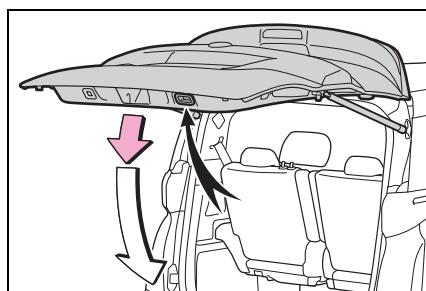
● バックドアが解錠されているとき

ただし電子キーを携帯してバックドアオープンスイッチを押し続けたときは、バックドアが施錠されてもパワーバックドアは作動します。(→P.109)

- エンジンスイッチが ON のとき開作動するには、上記に加え、車速が約 3km/h 未満でシフトポジションが P にある必要があります。

■ パワーバックドアの作動について

- 作動開始時にブザーが鳴り、非常点滅灯が 2 回点滅します。



□ 知識

■ ラゲージルームランプ

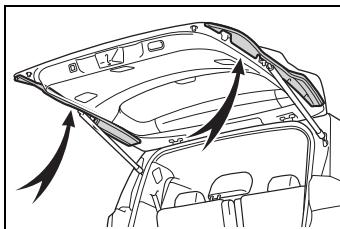
バックドアを開けたとき、ラゲージルームランプが点灯します。

エンジンスイッチが OFF の場合、ラゲージルームランプが点灯したままのときは、約 20 分後に自動消灯します。

- パワードアオフスイッチがONのときは、パワーバックドアは作動しませんが手動で開閉できます。
- パワーバックドアが自動で開いているときに、人や異物などにより異常を感じると、作動が停止します。

■挟み込み防止機能

パワーバックドアの左右端部には、センサーが付いています。ドアを自動で閉めているときに、挟み込みなどによりセンサーが押されると挟み込み防止機能が作動し、その位置からドアは自動的に反対方向に少し動き、作動が停止します。



■予約ロック機能について

パワーバックドアの自動閉作動中に、あらかじめ全ドアの施錠を予約する機能です。

次の操作をすると、パワーバックドア以外のすべてのドアが施錠され、パワーバックドアも閉まるとき同時に施錠されます。

- 1 パックドア以外のすべてのドアを閉じる
- 2 パワーバックドアの自動閉作動中にドアハンドルのロックセンサーにふれてスマートエントリー＆スタートシステムによる施錠操作を行う（→P.92）、またはワイヤレスリモコンによる施錠操作を行う（→P.92）

すべてのドアが閉まり施錠されると、ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。

- 予約ドアロック機能使用時、施錠操作をしたあとに、キーを車内にもどすと、

車内にキーが閉じ込められることがあります。

予約ドアロック機能は、必ずキーを携帯した状態で使用してください。

- 予約ドアロック操作をしてパワーバックドアが自動閉作動中に、挟み込み防止機能が作動するなど停止操作が行われると、予約ドアロック機能が解除されすべてのドアが解錠されます。

- 車から離れるときは、すべてのドアが閉まり施錠されたことを確認してください。

■クローズ＆ロック機能が正常に作動しない状況

クローズ＆ロック機能は、次のような状況では作動しないことがあります。

- 電子キーを持った手でクローズ＆ロック機能の操作をしたとき
- 地面に置いたかばんなどに電子キーを入れたままクローズ＆ロック機能の操作をしたとき
- バックドア下部のバックドアクローズスイッチから離れた位置からクローズ＆ロック機能の操作をしたとき

■バッテリーを再接続したとき

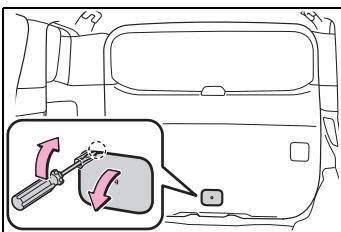
パワーバックドアを適切に作動させるために、初期設定としてバックドアを手動で一度全閉にしてください。

■バックドアが開かないとき

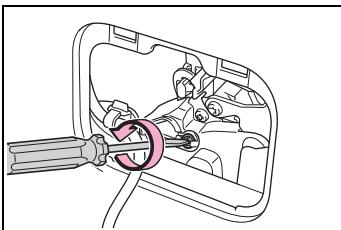
バックドアのロックを内側から解除することができます。

- 1 カバーをはずす

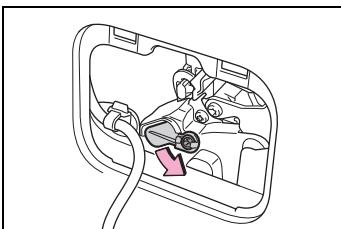
傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



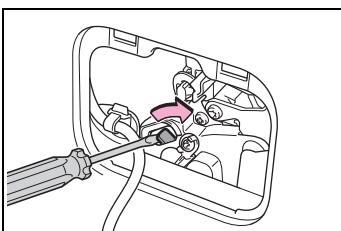
2 ネジをゆるめる



3 カバーをまわす



4 レバーを押す



5 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

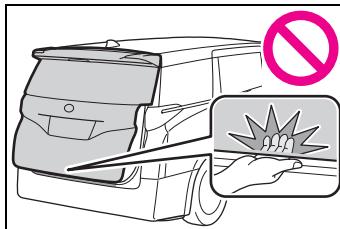
■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。(カスタマイズ一覧:→P.493)

⚠ 警告

■バックドアイージークローザーについて

- バックドアが半ドア状態になったとき、バックドアイージークローザーが作動し自動で完全に閉まります。また、作動し始めるまでに数秒かかります。指などを挟まないように注意してください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあります。



- バックドアイージークローザーは、パワーバックドアの作動が OFF のときにも作動するため、指などの挟み込みには十分注意してください。

■パワーバックドアについて

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 周辺の安全を確かめ、障害物がないか、身のまわりの品が挟み込まれる危険がないか確認してください。
- 人がいるときは、作動させる前に安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- 自動開閉中にパワーバックドアの作動を OFF にすると、作動が停止し手動操作に切りかわります。この場合、バックドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので、十分注意してください。

⚠ 警告

- 自動開閉中に作動条件（→P.111）を満たさなくなったときは、ブザーが鳴り、作動が停止し手動操作に切りかわる場合があります。
この場合、坂道などの傾斜した場所ではバックドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので十分注意してください。
- 傾斜した場所では、開いたあとにドアが突然閉じる場合があります。必ずドアが静止していることを確認してください。
- 次のような場合、システムが異常と判断して自動作動が停止し、手動操作に切りかわることがあります。この場合、バックドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので、十分注意してください。
 - ・ 自動作動中、障害物に干渉したとき
 - ・ エンジン停止時でパワーバックドアが自動作動しているときに、エンジンスイッチを ON にしたりエンジンを始動したりして、バッテリー電圧が急に低下したとき
 - ・ バックドアにキャリアなどの重いものを取り付けると、自動で作動できずにパワーバックドアが故障したり、開いたあとにドアが突然閉じて、手・頭・首などを挟むおそれがあります。バックドアへのアクセサリー用品の取り付けは、トヨタ純正品を使用することをおすすめします。

■ 挟み込み防止機能

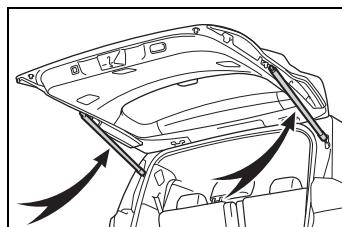
次のことを必ずお守りください。
お守りいただかない場合、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 挟み込み防止機能を故意に作動させようとして、体の一部を挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、バックドアが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。
- 挟み込み防止機能は、挟まれるもの形状や挟まれたによっては作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

⚠ 注意

■ スピンドルユニットについて

バックドアにはバックドアを支えるためのスピンドルユニットが取り付けられています。スピンドルユニットの損傷や作動不良を防ぐため次のことをお守りください。



- ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をスピンドルユニットに付着させない
- バックドアにトヨタ純正品以外のアクセサリー用品を付けない
- スピンドルユニットに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない



■ バックドアイージークローザーの故障を防ぐために

- バックドアイージークローザーの作動中は無理な力をかけないでください。無理な力をかけると、バックドアイージークローザーの故障の原因となります。
- パワーバックドアの開け閉めを短時間にくり返すとバックドアイージークローザーが作動しないことがあります。この場合、いったんパワーバックドアを開け、少し時間をおいてから閉めなおすと作動します。

■ パワーバックドアの故障を防ぐために

- パワーバックドアを作動させる前に、凍結によるバックドアの貼り付きがないことを確認してください。バックドアに無理な力がかかるている状態で作動させると、故障の原因になります。
- パワーバックドアの作動中は、バックドアに無理に力をかけないでください。
- パワーバックドア左右端部のセンサー（→P.112）を刃物などの鋭利なもので傷付けないように注意してください。センサーが切断されると自動で閉めることができなくなります。

■ クローズ＆ロック機能について

クローズ＆ロック機能でパワーバックドアを閉じると、通常ブザーと異なるブザー音が鳴り作動します。

正常に作動開始したことを確認するため、通常ブザーと異なるブザー音が鳴ったことを確認してください。

またパワーバックドアが完全に閉じ施錠されると、すべてのドアが施錠されたことをドアロックアンサーバックでお知らせします。

車から離れるときは、ドアロックアンサーバックを確認し、全ドアが施錠されたことを確認してください。

パワーバックドアの設定を変更するには

マルチインフォメーションディスプレイの設定画面から、パワーバックドアの設定を変更することができます。（→P.493）

パワーバックドアの設定を変更した場合、エンジンスイッチを OFF にしても設定内容はリセットされません。設定をもとにもどすには、再度、マルチインフォメーションディスプレイの設定画面での設定操作が必要です。

バックドア自動開停止位置調整について

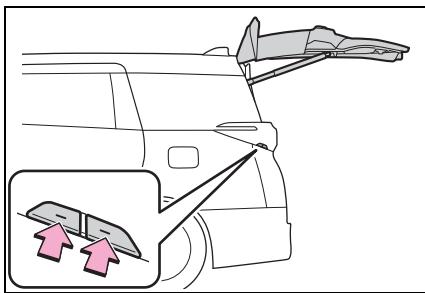
パワーバックドアを自動で開けたときに、開く位置を調整できます。

- 1 バックドアをお好みの位置で停止させる（→P.109）
- 2 バックドアオープンスイッチとバックドアクローズスイッチを同時に約 2 秒間押し続ける

設定が完了するとブザーが 4 回鳴ります。

す。

次回パワーバックドアを開けると、その位置でバックドアが停止します。

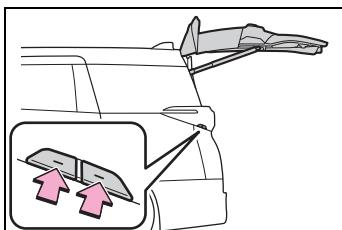


■ 知識

■ バックドア自動開停止位置を初期状態の位置にもどすには

バックドアオープンスイッチとバックドアクローズスイッチを同時に約6秒間押し続けてください。

ブザーが4回鳴ったあと、さらに2回鳴ります。次回パワーバックドアを開ける操作をすると、初期状態の位置までバックドアが開きます。



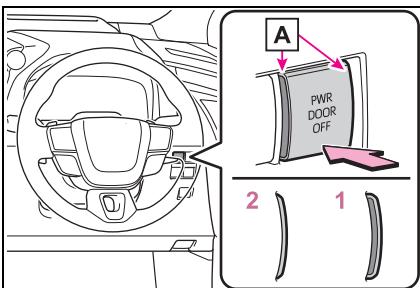
■ カスタマイズ機能

マルチメディアディスプレイからもパワーバックドアの自動開停止位置の変更ができます。（→P.493）

車両側面のパワーバックドア開閉スイッチまたはマルチメディアディスプレイのうち、最後に設定した方の停止位置が優先されます。

■ パワーバックドアの機能を停止するには

パワードアオフスイッチをONにしてパワーバックドアの機能を停止します。



1 OFF*

パワーバックドアを開閉スイッチなどの操作により、自動で開閉できます。

2 ON

バックドアを手動でのみ開閉できます。

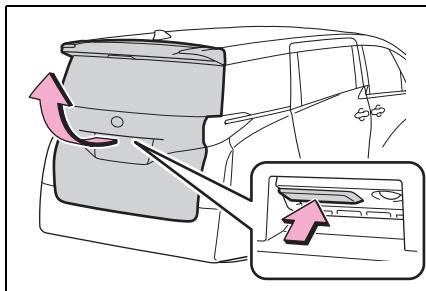
* OFF にすると、スイッチ左右部にオレンジ色[A]のマークが表れます。

■ バックドアを開閉するには（パワーバックドア機能停止時）

■ 開ける

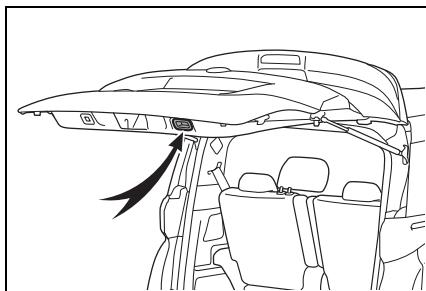
バックドアオープンスイッチを押したまま、バックドアを持ち上げる

バックドアオープンスイッチを押した直後はバックドアを閉めることができません。



■ 閉める

バックドアハンドルを持って、横方向に力をかけないように引き下げ、必ず外から押して閉めてください。



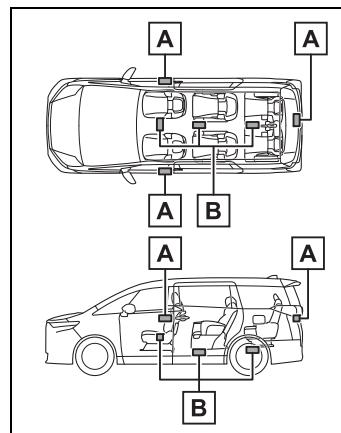
スマートエントリー＆スタートシステム

電子キーをポケットなどに携帯していると、次の操作が行えます。必ず運転者がキーを携帯してください。

- ドアを解錠・施錠する
(→P.92)
- バックドアを解錠・施錠する
(→P.108)
- エンジンを始動する
(→P.170)

□ 知識

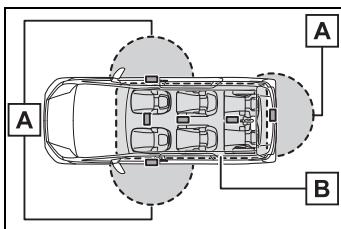
■ アンテナの位置



A 車外アンテナ

B 車室内アンテナ

■作動範囲（電子キーの検知エリア）



A ドアの施錠・解錠時

フロントドアのドアハンドル・バックドアオーブンスイッチから周囲約70cm以内で電子キーを携帯している場合に作動します。（電子キーを検知しているドアハンドルのみ作動します）

B エンジン始動時またはエンジンスイッチ切りかえ時

車内で電子キーを携帯している場合に作動します。

■警告音が鳴ったり警告表示が出たりしたとき

誤操作などによる予期せぬ事故や盗難を防ぐため、警告音が鳴ったり、マルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されることがあります。警告が表示されたときは、ディスプレイの表示をもとに適切に対処してください。

警告音のみが鳴る場合の状況と対処方法は次の通りです。

●車外から警告音が“ピー”と5秒鳴るとき

状況	対処方法
いずれかのドアが開いているときにスマートエントリー＆スタートシステムもしくは、ワイヤレス機能で施錠しようとした	全ドアを閉めたあと、再度施錠する

●車内から警告音が“ポーン、ポーン”と鳴り続けるとき

状況	対処方法
運転席ドアが開いている状態でエンジンスイッチをACCにした（エンジンスイッチがACCのとき運転席ドアを開いた）	エンジンスイッチをOFFにしたあと、運転席ドアを閉める

■マルチインフォメーションディスプレイに“車室内にキーがあります”が表示されたときは

車内に電子キーを置いたまま、スマートエントリー＆スタートシステムでドアを施錠しようとすると、警告メッセージが表示されます。車内から電子キーを取り出したあと、再度施錠してください。

■節電機能

長期駐車時に電子キーの電池と車両のバッテリーあがりを防止するため、節電機能が働きます。

●次の状況では、スマートエントリー＆スタートシステムによる解錠に時間がかかる場合があります。またイルミネーテッドエントリーシステムが作動しない、接近時オートアンロック機能による解錠が作動しない場合があります。

- ・車の外約3.5m以内に電子キーを10分以上放置した
- ・5日間以上スマートエントリー＆スタートシステムを使用しなかった

●14日間以上スマートエントリー＆スタートシステムを使用しなかった場合、運転席以外での解錠ができなくなります。この場合は、運転席のドアハンドルを握る、もしくは、ワイヤレス機能、メカニカルキーで解錠してください。

■電子キーを節電モードにするには

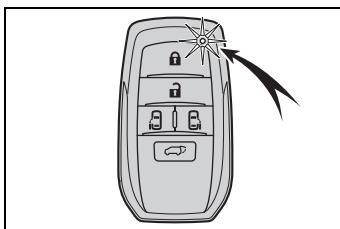
- 節電モードに設定すると、電子キーに

よる、電波の受信待機を停止し、電子キーの電池の消耗を抑えることができます。

電子キーの  を押しながら、

 を2回押し、電子キーのインジケータが4回光ることを確認してください。

節電モード中は、スマートエントリー＆スタートシステムを使用できません。節電モードを解除するには、電子キーのいずれかのスイッチを押してください。



●長期間使用しない電子キーは、節電モードにしておくことをおすすめします

■電子キーの機能が停止するとき

電子キーを置いたままにするなど、一定時間電子キーの位置に変化がなかった場合、電池の消耗を抑えるために電子キーの機能が停止します。

この場合は、電子キーを持ち上げるなどして位置を動かすことで、自動的に復帰します。

■機能が正常に働かないおそれのある状況

スマートエントリー＆スタートシステムは微弱な電波を使用しています。次のような場合は電子キーと車両間の通信をさまたげ、スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコン、エンジンイモビライザーシステムが正常に作動しない場合があります。

●電子キーの電池が消耗しているとき

●近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき

●電子キーが、次のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているとき

- ・アルミ箔などの金属の貼られたカード
- ・アルミ箔を使用したタバコの箱
- ・金属製の財布やかばん
- ・小銭
- ・カイロ
- ・CDやDVDなどのメディア

●近くで他の電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき

●電子キーを、次のような電波を発信する製品と一緒に携帯しているとき

- ・無線機や携帯電話・コードレス式電話などの無線通信機器
- ・他の電子キーや電波式ワイヤレスリモコン
- ・パソコンや携帯情報端末（PDAなど）
- ・デジタルオーディオプレーヤー
- ・ポータブルゲーム機器

●リヤウインドウガラスに金属を含むフィルムなどが貼ってあるとき

●充電器など電子機器の近くに電子キーを置いたとき

●コインパーキングなど通信をさまたげる電波がある場所に駐車したとき

スマートエントリー＆スタートシステムでドアを施錠・解錠できない場合は、次の方法を試してください。

●ドアハンドルに電子キーを近付けて操作する

●ワイヤレス機能を使用する

上記の方法でも施錠・解錠できない場合は、メカニカルキーを使用してください。（→P.478）

また、スマートエントリー＆スタートシ

ステムでエンジンが始動できない場合は、P.479 を参照してください。

■ ご留意いただきたいこと

- 電子キーが作動範囲内（検知エリア内）にあっても、次のような場合は正しく作動しないことがあります。
 - ・ ドアの施錠・解錠時に電子キーがドアガラスやドアハンドルに近付きすぎている、または地面の近くや高い場所にある
 - ・ エンジン始動時またはエンジンスイッチの切りかえ時に、電子キーがインストルメントパネルやフロア上・ラゲージルーム・ドアポケット・またはグローブボックス内などに置かれている
- インストルメントパネル上面やドアポケット付近に電子キーを置いたまま車外に出ると、電波の状況によっては車外アンテナに検知され車外から施錠でき、電子キーが車内に閉じ込められるおそれがあります。
- 電子キーが作動範囲内にあれば、電子キーを携帯している人以外でも施錠・解錠できます。ただし、電子キーを検知しているドア以外では解錠できません。
- 車外でも電子キーがドアガラスに近付いていると、エンジンを始動できることがあります。
- 電子キーが作動範囲内にあるとき、洗車や大雨などでドアハンドルに大量の水がかかると、ドアが施錠・解錠することができます。（ドアの開閉操作がなければ、解錠されても約 30 秒後に自動で施錠します）
- ワイヤレスリモコンなどの施錠時にキーが車両の近くにあると、スマートエントリー＆スタートシステムでの解錠ができないことがあります。（ワイヤレスリモコンを使用すると解錠できます）

- 手袋を着用していると施錠・解錠しないことがあります。
- ロック操作は、連続で 2 回まで有効です。3 回目以降はロック動作しません。
- 電子キーを携帯したまま洗車をすると、水がドアハンドルにかかったときに施錠・解錠をくり返すことがあります。その場合は次のような処置をしてください。
 - ・ キーを車両から約 2m 以上離れた場所に置く（盗難に注意し保管してください）
 - ・ キーを節電モードに設定してスマートエントリー＆スタートシステムの作動を停止する（→P.118）
- 洗車機での洗車中にキーが車内にあると、水がドアハンドルにかかったときに、マルチインフォメーションディスプレイに警報が表示され車外のブザーが吹鳴することがあります。すべてのドアを施錠すると警報は止まります。
- ロックセンサーの表面に氷や雪、泥が付着すると、センサーが反応しないことがあります。その場合は氷や雪、泥を取り除いて再度操作してください。
- すぐやいドアハンドル操作や、車外アンテナの作動範囲内へ入ってすぐのドアハンドル操作では、解錠しないことがあります。センサーにふれ解錠したことを見認してからドアハンドルを引いてください。
- 作動範囲内に他の電子キーがあると、解錠に時間がかかることがあります。
- 降車オートロック機能^{※1}についてご留意いただきたいこと**
- 車内に人が乗っている場合でも、車内に電子キーがないときは降車オートロック機能が作動します。施錠したくないときは、降車オートロック機能を一時的に非作動にしてください。（→P.93）

- 乗員を残して施錠するとオートアラームが作動することがあります。
- 洗車機などの大きな金属物が動くような場所では、電子キーの位置が正しく検知されないおそれがあります。降車オートロック機能の誤作動を防ぐために、車から離れるときは車内に電子キーを残さないでください。
- すべてのドアを閉めたあと（パワーバックドア閉作動中も含む^{※2)}）に次の操作をすると、降車オートロック機能が解除されます。
 - ・ブレーキペダルを踏む
 - ・エンジンスイッチを押す
 - ・降車オートロック機能以外で施錠・解錠する
- 降車オートロック機能を作動させるには、いずれかのドアを開閉（パワーバックドア閉作動も含む^{※2)}）してください。
- 電子キーのスイッチを押し続けている場合、降車オートロック機能が正常に作動しないおそれがあります。
- 降車オートロック待機状態のときにいずれかのドアを開けると、降車オートロック機能が解除されます。^{※2}
- すべてのドアが閉じたときに電子キーが作動範囲内にない場合でも、一定時間内に電子キーが作動範囲内に入ると降車オートロック機能が作動します。^{※2}
- 電池残量が少ないとときは、降車オートロック機能が正常に作動しないおそれがあります。
- 降車オートロック機能を一時的に非作動にする（→P.93）とき、ブザーが鳴る前に次の操作をすると、降車オートロック機能は非作動になりません。
 - ・いずれかのドアを開ける
 - ・ブレーキペダルを踏む
 - ・エンジンスイッチを押す

降車オートロック機能を一時的に非作動にするには、いずれかのドアを開閉したあと、操作をやり直してください。

- 降車オートロック機能を一時的に非作動する（→P.93）ときは、施錠されていないドアのドアハンドルを握ってください。
- 降車オートロック機能を一時的に非作動する（→P.93）ときにブザーが鳴らない場合は、電子キーの位置を確認してから再度ドアハンドルを握ってください。

^{※1}トヨタ販売店での設定変更が必要です。

^{※2}パワーバックドア閉作動中降車オートロック機能（→P.92）の設定を有効にしている場合は同様にご留意ください。

■長期間運転しないとき

- 盗難防止のため、電子キーを車両から2m以上離しておいてください。
- あらかじめスマートエントリー＆スタートシステムを非作動にすることができます。（→P.497）
- 電子キーを節電モードに設定すると、電池の消耗を抑えることができます。（→P.118）

■システムを正しく作動させるために

電子キーを必ず携帯した上で作動させてください。また、車外から操作する場合は電子キーを車両に近付けすぎないようにしてください。作動時の電子キーの位置や持ち方によっては、電子キーが正しく検知されず、システムが正しく作動しないことがあります。（誤って警報が鳴ったり、キー閉じ込み防止機能が働かないこともあります）

■電子キーが正常に働かないときは

- ドアの解錠・施錠（→P.478）

- エンジンの始動（→P.479）

■ カスタマイズ機能

スマートエントリー＆スタートシステムを非作動にするなどの変更ができます。（カスタマイズ一覧：→P.493）

カスタマイズ機能でスマートエントリー＆スタートシステムを非作動にしたときは、次の操作の説明を参照してください。

- ドアの施錠・解錠：ワイヤレス機能、またはメカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。（→P.92, 478）

- エンジンの始動・エンジンスイッチのモード切りかえ：→P.479

- エンジンの停止：→P.171

⚠ 警告

■ 電波がおよぼす影響について（スマートエントリー＆スタートシステムアンテナ）

- 植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータまたは植込み型除細動器を装着されている方は、スマートアンテナ（→P.117）から22cm以内に植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータまたは植込み型除細動器が近づかないようにしてください。電波により植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータまたは植込み型除細動器の作動に影響を与える場合があります。

- 植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータまたは植込み型除細動器以外の医療用電気機器を使用される場合には、電波による影響について個別に医療用電気機器メーカーなどにご確認ください。電波により医療用電気機器の動作に影響を与える場合があります。

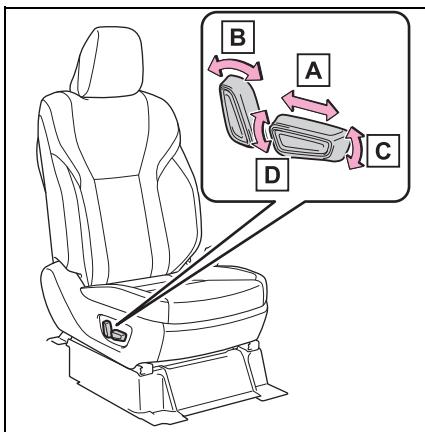
スマートエントリー＆スタートシステムを作動しないようにすることもできます。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

フロントシート

シートの前後・上下位置などの調整ができます。

正しい運転姿勢がとれるよう調整してください。(→P.27)

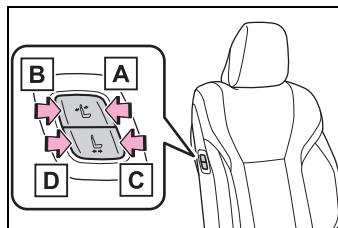
調整するには



- A** 前後位置調整
- B** リクライニング調整
- C** クッション前端の上下調整（運転席のみ）
- D** シート全体の上下調整（運転席のみ）

知識

■助手席側面スイッチ



A 背もたれを前に傾ける

B 背もたれをうしろに傾ける

C シートを前方に動かす

D シートを後方に動かす

■シートを調整するときは

- 周囲の人やものがシートに挟まれないよう注意してください。
- ヘッドレストが天井にあたらないよう注意してください。

■パワーアクセスシステム

エンジンスイッチのモード切りかえ・運転席シートベルトの脱着に連動して、ハンドルとシートが動きます。(→P.152)

■シート位置の自動調整

お好みのシート位置をドライビングポジションメモリーに登録すると自動で調整されます。(→P.152)

警告

■シートを調整するときは

- 同乗者がシートにあたってけがをしないように注意してください。
- シートの下や動いている部分に手を近付けないでください。指や手を挟み、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⚠️ 警告

■ シート調整について

背もたれは必要以上に倒さないでください。

必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 運転席から助手席を操作するとき

助手席に乗員がいるときは操作をしないでください。また、操作中は、助手席に座らないでください。

足を挟むなどして助手席乗員がけがをするおそれがあります。

■ 前後位置調整の操作をするときは

足元のスペースを確保し足を挟まないように注意してください。

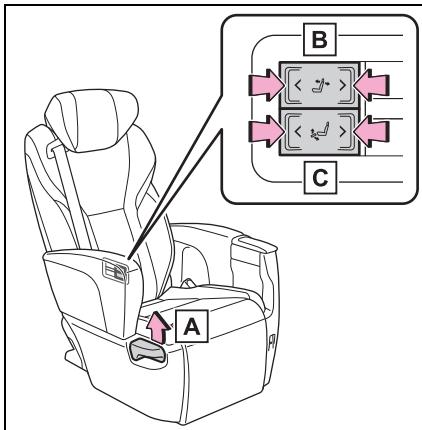
⚠️ 注意

■ 運転席から助手席を操作するとき

操作するときは助手席の上や足元に作動をさまたげるものがないことを確認してください。シートに無理な力がかかり故障するおそれがあります。

セカンドシート

調整するには



A 前後位置調整（手動）

B リクライニング調整（電動）

C オットマン角度調整／格納（電動）

□ 知識

■ サードシートからセカンドシートを前後に移動させるには



レバーを引き、セカンドシートを前後に動かします。

警告

■シート調整について

- 同乗者や荷物などにシートがあたらぬよう、ご注意ください。
- 背もたれは必要以上に倒さないでください。
必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- シート調整後はシートを軽くゆさぶり、シートが確実に固定されていることを確認してください。

■サードシートに乗り降りするとき

- サードシートへ乗り降りしたあとは、必ずセカンドシートを固定させてください。
- シートを調整しているときは、シートの下や動いている部分の近くに手を近付けないでください。指や手を挟み、けがをするおそれがあります。

■前後調整やオットマンの操作をするとき

- 足元のスペースを確保し足を挟まないように注意してください。
- 走行中はシートの調整をしないでください。
急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

■オットマンを使用するとき

- オットマン部分に座らないでください。
シートベルトが適切に着用できないため、急ブレーキや事故のときに体がシートから投げ出され、重大な傷害を受けたり最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- オットマンの上には絶対に乗らないでください。
オットマンが破損し、転倒などして生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- つまずいてけがをするのを防ぐため、車に乗り降りする際、オットマンを上げているときは格納してください。
- 格納するときにシートの下に手や足を入れないでください。挟まれてけがをするおそれがあります。

■サードシートからセカンドシートを操作するとき

- セカンドシートに乗員がいるときは操作をしないでください。
セカンドシートの乗員がけがをするおそれがあります。

注意

■オットマンの故障を防ぐために

- 足元のスペースを確保しオットマンの作動をさまたげないようにしてください。
- オットマン部分に重いものを載せないでください。
- オットマンを上げているときに、下にものを置かないでください。格納時にものを挟み破損するおそれがあります。

⚠ 注意

■ サードシートからセカンドシートを操作するとき

操作する前に、セカンドシートの足元に作動をさまたげるものが無いことを確認してください。シートに無理な力がかかり故障するおそれがあります。

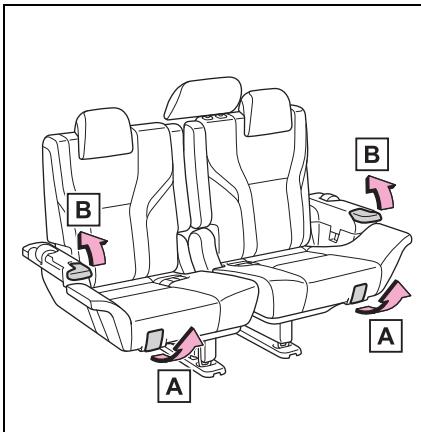
サードシートへの乗り降り

- 1 車を停止させ、しっかりとパークリングブレーキをかける
- 2 オットマンを格納する
- 3 サイドテーブルを格納する
(→P.408)

左右セカンドシートの間から乗り降りします

サードシート

調整するには



A 前後位置調整

B リクライニング調整

サードシートへの乗り降り

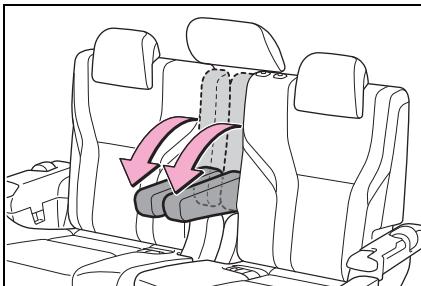
→P.126

サードシートを格納するには

→P.132

アームレスト

手前に倒して使用する

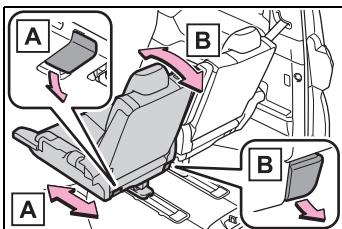


知識

- サードシートからセカンドシートを前後に移動させるには

→P.124

- バックドア側からサードシートを調整するには



A 前後位置調整

レバーを引いたまま、シートを前後に動かします。

B リクライニング調整

レバーを引いたまま、背もたれを前後に動かします。

⚠ 警告

■ シート調整について

- 背もたれは必要以上に倒さないでください。

必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 走行中はシートの調整をしないでください。

急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- シート調整後はシートを軽くゆさぶり、シートが確実に固定されていることを確認してください。

- 中央席に座るときは、前後位置およびリクライニング位置を左右のシートで同じにしてください。お守りいただかない場合、サードシート中央席シートベルトが正しく着用できず重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■ アームレストの破損を防ぐために

過度の負荷をかけないでください。

ヘッドレスト

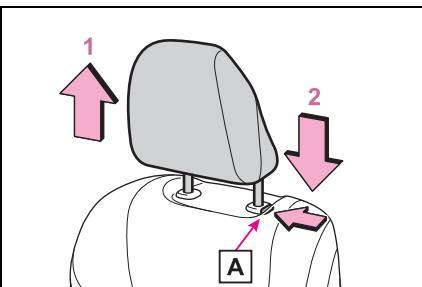
ヘッドレストはすべてのシートに装備されています。

!**警告**

■ヘッドレストについて

- 次のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ヘッドレストは、それぞれのシート専用のものを使用する
- ヘッドレストを必ず正しい位置に調整する
- ヘッドレストを調整したあとは、ヘッドレストを押し下げて固定されていることを確認する
- ヘッドレストをはずしたまま走行しない

上下調整するには（サードシート中央席以外）



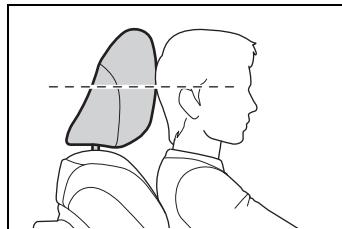
- 1** 上げる
2 下げる

下げるときは、解除ボタン**A**を押しながら操作します。

□知識

■ヘッドレストの高さについて（フロントシート／セカンドシート）

必ずヘッドレストの中心が両耳のいちばん上のあたりになるよう調整してください。

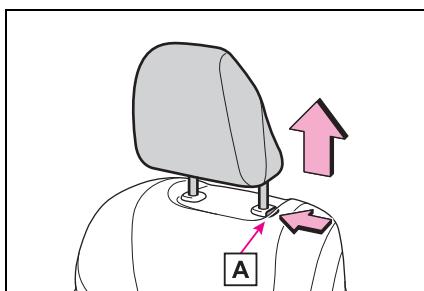


■サードシート（外側席）のヘッドレストの使用について

使用するときは、常に格納位置から一段上げた位置にしてください。

ヘッドレストを取りはずすには

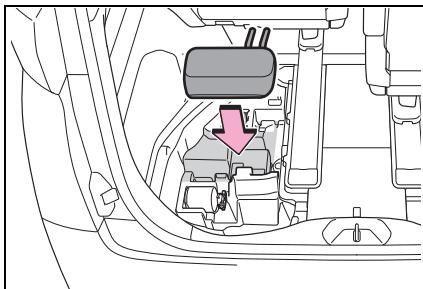
解除ボタン**A**を押しながらヘッドレストを引き上げます。
ヘッドレストが天井にあたって取りはずしにくいときは、シートの高さ（フロントシートのみ）や角度をかえてください。（→P.123）



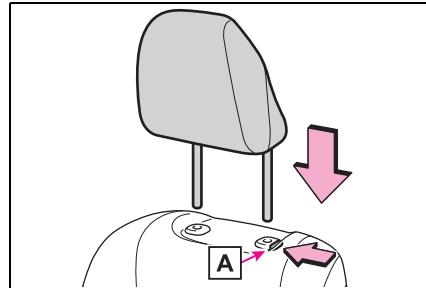
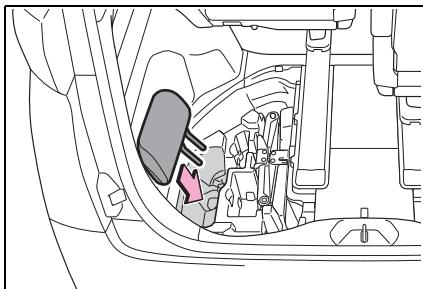
 知識

■ サードシート（中央席）のヘッドレストの格納について

- 1 助手席側のサードシートをいちばん前まで移動させる (→P.126)
 - 2 助手席側のデッキボードを取りはずす (→P.391)
 - 3 ヘッドレストを格納する
- ▶ タイプA

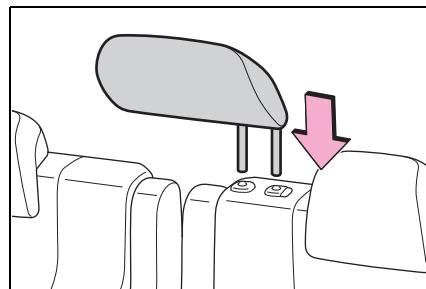


▶ タイプB



▶ サードシート中央席

ヘッドレストを取り付け穴に合わせて、ロック位置まで押し下げてください。



ヘッドレストを取り付けるには

▶ サードシート中央席以外

ヘッドレストを取り付け穴に合わせて、ロック位置まで押し下げてください。

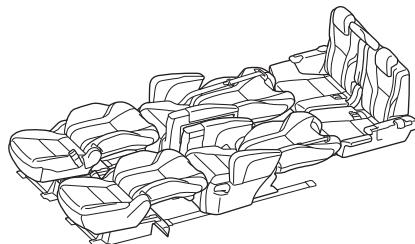
さらに下げるときは、解除ボタン
[A] を押しながら操作してください。

シートアレンジ

シートアレンジ

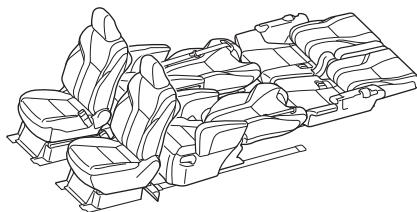
■ フロントフラットモード

フロントシート・セカンドシートをフルフラットにする：→P.131



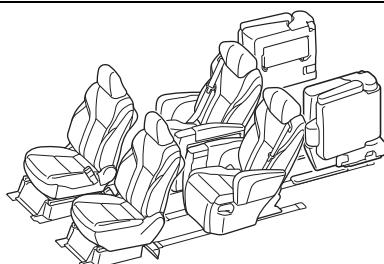
■ リヤフラットモード

セカンドシート・サードシートをフルフラットにする：→P.131



■ ラゲージモード

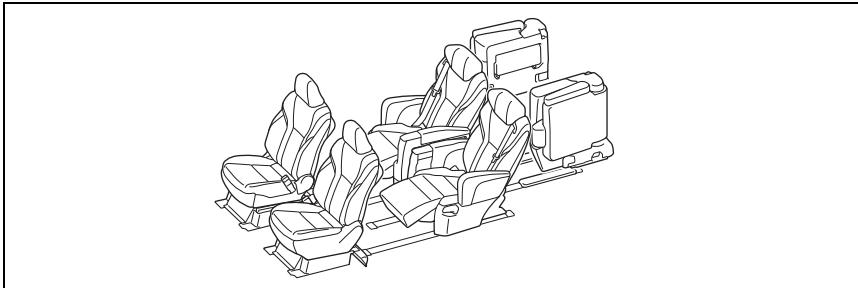
サードシートを格納する：→P.132



■ リラックスモード

サードシートを格納、または後方へ移動し、セカンドシートを後方へ移動

する：→P.133



フロントフラットモード

- 1 車を安全な場所に駐車し、パーキングブレーキを確実にかける
- 2 サードシート中央席のシートベルトを格納する (→P.32)
- 3 サードシートをいちばんうしろまで移動させる (→P.126)
サードシートのアームレストを格納してください (→P.126)
- 4 セカンドシートをいちばんうしろまで移動させる (→P.124)
- 5 フロントシートをいちばん前まで移動させる (→P.123)
- 6 フロントシートのヘッドレストをはずす (→P.128)
- 7 フロントシートの背もたれを後方いっぱいまで倒す (→P.123)
- 8 フロントシートとセカンドシートのすき間がなくなるようにセカンドシートを移動させる (→P.124)
- 9 セカンドシートのヘッドレストをはずす (→P.128)

- 10** セカンドシートの背もたれを後方いっぱいまで倒す
(→P.124)

- 11** セカンドシートとサードシートのすき間がなくなるようにサードシートを移動させる
(→P.126)

シートをもとにもどすときは、逆の手順でもどしてください。

サードシート中央席シートベルトを使用するときは：→P.31

リヤフラットモード

- 1 車を安全な場所に駐車し、パーキングブレーキを確実にかける
- 2 サードシート中央席のシートベルトを格納する (→P.32)
- 3 サードシートをいちばん前まで移動させる (→P.126)
サードシートのアームレストを格納してください (→P.126)
- 4 サードシートのヘッドレストをはずす (→P.128)
中央席ヘッドレストは、ラゲージボックスに格納してください。 (→P.129)
- 5 サードシートの背もたれを後方いっぱいまで倒す (→P.126)

- 6 サードシートがバックドアに触れる位置までうしろに移動させる（→P.126）
- 7 セカンドシートをいちばん前まで移動させる（→P.124）
- 8 セカンドシートのヘッドレストをはずす（→P.128）
- 9 セカンドシートの背もたれを後方いっぱいまで倒す（→P.124）
- 10 サードシートとのすき間がなくなるようにセカンドシートを移動させる（→P.124）
シートをもとにもどすときは、逆の手順でもどしてください。
サードシート中央席シートベルトを使用するときは：→P.31

ラゲージモード

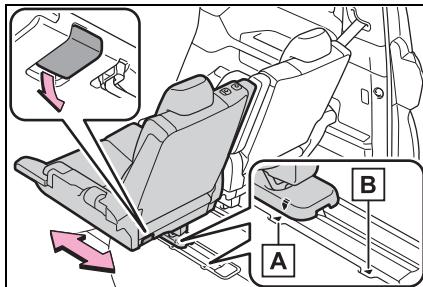
- 1 車を安全な場所に駐車し、パークィングブレーキを確実にかける
- 2 サードシート中央席のシートベルトを格納する（→P.32）
- 3 サードシートの各シートベルトのバックルを格納する（→P.32）
- 4 サードシート中央席のヘッドレストを取りはずす（→P.128）

取りはずしたヘッドレストは、ラゲージボックスに格納してください。（→P.129）

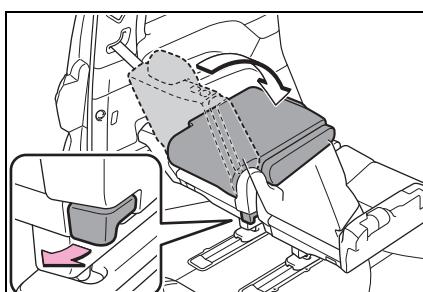
- 5 サードシート外側席のヘッドレストをいちばん下まで下げる（→P.128）
- 6 サードシートのアームレストを格納する（→P.126）

- 7 レバーを引いてサードシートを前後に動かし、シート側のマークをレール側の前方**A**または後方**B**のマークに合わせる

シートを軽くゆすり、確実にロックしていることを確認します。



- 8 スペースアップレバーを引いて、背もたれを前方に倒す

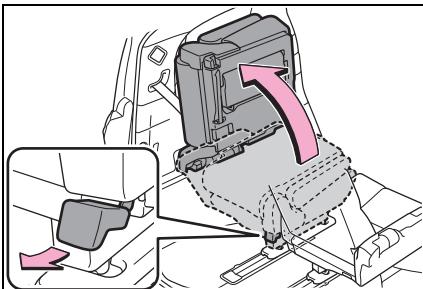


- 9 スペースアップレバーをさらに引いて、シートを跳ね上げる

シート脚部のロックが解除され、シートがね上がります。

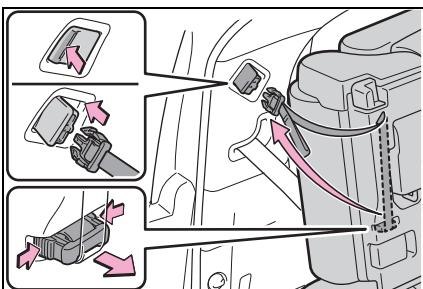
シートのはね上げと連動して、シート脚

部が格納されます。



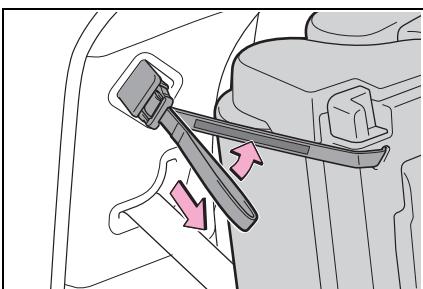
10 シートクッション裏側からシート固定ベルトを取り出し、壁面のロック部と結合する

ロック部は、図のように押してから引き出します。



11 シートを手で押さえながら、シート固定ベルトを引っ張る

ベルトの長さを調整したあと、図のように面ファスナーでベルトを固定します。



12 シートを軽く揺さぶり、確実に固定されていることを確認する

シートをもとにもどすときは、逆

の手順でもどしてください。

サードシート中央席シートベルトを使用するときは：→P.31

リラックスモード

- 1 車を安全な場所に駐車し、パーキングブレーキを確実にかける
- 2 サードシートをいちばんうしろまで移動、または後方の位置で格納する（→P.126, 132）
- 3 セカンドシートとサードシートのあいだのライドストッパーをはずす（→P.134）
- 4 セカンドシートを後方へ移動させる（→P.124）

背もたれやオットマンの角度を調整してください

シートをもとにもどすときは、逆の手順でもどしてください。

サードシート中央席シートベルトを使用するときは：→P.31

知識

■ ラゲージモードについて

サードシートを格納し、セカンドシートを前方に動かすことによりラゲージルームを広げることができます。

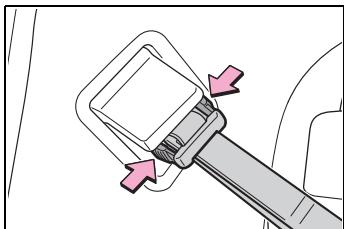
■ サードシートを格納するとき

サードシートを格納するときは、バックドア側から操作してください。

■ シート固定ベルトをはずすときは

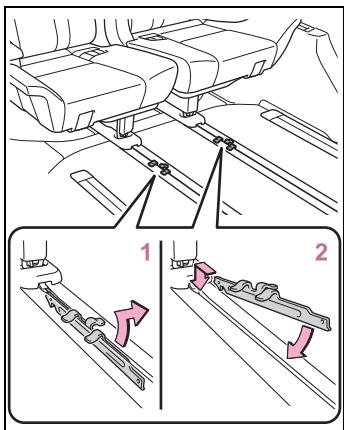
シート固定ベルトの上下のツメを押してはずし、シートクッション裏側に格納します。

シートを押して、ベルトをゆるめた状態でツメを押してください。



■スライドストッパーについて

- サードシートの足元に、スライドストッパーがあります。これはシートをスライドさせたとき、誤って乗員がシートとシートのあいだに足を挟まないようにするために取り付けられています。
- スライドストッパーを取りはずしたときは、紛失しないように大切に保管してください。工具袋に入れておくことをおすすめします（→P.469）



1 取りはずし

2 取り付け

⚠️ 警告

■シートアレンジについて

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 走行中にシートアレンジ操作をしない
- 平坦な場所でシフトポジションを P に入れて、パーキングブレーキを確実にかける
- シートに人が乗っている状態でシートアレンジ操作をしない
- 操作をするときに可動部や結合部に手足を挟まないように注意する
- シートが乗員や荷物にあたらないように注意する
- シートアレンジをしたあとは、シートを軽くゆさぶり確実に固定されていることを確認する
- シートの間にシートベルト、バックルが挟み込まれていないか確認する
- ラゲージルームに人を乗せて走行しない
- ラゲージルームにお子様を乗せない

■フラットシートについて

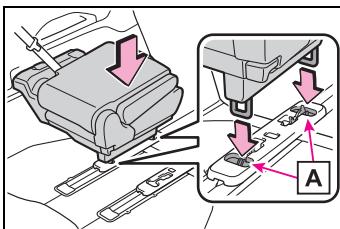
フラットにした状態で人や荷物を乗せて走行しないでください。

■サードシートの格納について

- ラゲージルームに人を乗せて走行しないでください。
- ボトルホルダーに物が入っていないことを確認してください。
- シートベルトが、背もたれやシートクッションに挟まれていないことを確認してください。

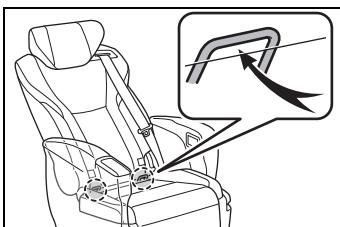
⚠ 警告

- 左右のシートを同時に格納しないでください。指や手を挟み、けがをするおそれがあります。シートを格納するときは、片側ずつ操作してください。
- スペースアップレバーを引くとシート全体が自動的にはね上がりますので注意してください。
- シート格納時にシート固定ベルトで固定されていない場合、シート脚部が動き、荷物やシートが破損したり、けがをするおそれがあります。シートを格納したときは、必ずシートを固定してください。
- シートを降ろすときは、シートを上から押し込んでシート脚部が床面ロック部Aに確実に固定されたことを確認してください。



■ 背もたれを大きく倒しているとき

背もたれを大きく倒したときは、ISOFIX ロアアンカレッジの周辺に乗らないでください。けがをするおそれがあります。



■ シートをもとにもどしたあとは

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- シートを軽くゆさぶり、確実に固定する
- シートの間にシートベルト、バックルが挟み込まれていないか確認する
- ヘッドレストが取り付けられていることを確認してください。

⚠ 注意

■ シートアレンジについて

シートレールの上にマットなどを敷かないでください。

■ サードシートの格納について

- シートを降ろすときは、床面にものがないことを確認してから行ってください。

- セカンドシートの位置によってはサードシートがあたり格納できないことがあります。

- サードシートのバックルを格納(→P.32)しないでサードシートを格納(→P.132)すると、背もたれがへこむことがあります。

- サードシートの格納時は、持ち上げたシートの前後位置を動かさないでください。持ち上げた状態からシートの位置がかわると、もとにもどす際にシートが破損するおそれがあります。

■ フラットシートについて

- 背もたれをもどすときは、背もたれを押さえながらリクライニング調整を行ってください。(サードシート)

 注意

- フラットにした状態でシートの上を走りまわらないでください。またシートの上を移動するときは、シートの中央を踏んでゆっくりと移動してください。

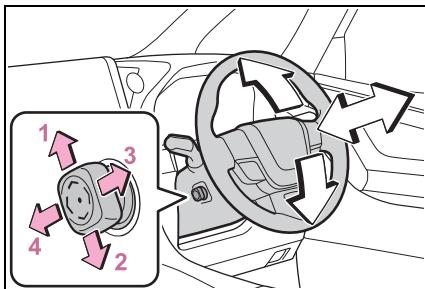
■スライドストッパーについて

スライドストッパーは必ず正しい向きで取り付けてください（→P.134）。逆向きで取り付けた状態でシートをスライドさせると、レール部やストッパーなどが破損するおそれがあります。

ハンドル

調整のしかた

スイッチを操作すると、ハンドルを次の方向に動かします。



- 1** 上方へ
- 2** 下方へ
- 3** 手前へ
- 4** 前方へ

□ 知識

■ 電動チルト&テレスコピックステアリングの作動条件

エンジンスイッチが ACC または ON のとき*

* 運転席シートベルトを装着していれば、エンジンスイッチのモードにかかわらず、ハンドルの調整ができます。

■ ハンドル位置の自動調整

お好みのハンドル位置をドライビングポジションメモリーに登録すると、自動で調整されます。 (→P.153)

警告

■ 走行中の留意事項

走行中はハンドル位置の調整をしないでください。

運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

パワーアイージーアクセスシステム

→P.152

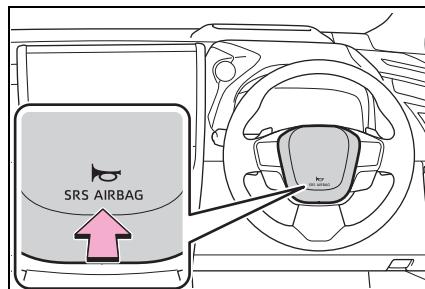
□ 知識

■ パワーアイージーアクセスシステム

エンジンスイッチのモード切りかえ・運転席シートベルトの脱着に連動して、ハンドルとシートが動きます。 (→P.152)

ホーン（警音器）を使うには

ハンドルの 周辺部を押すとホーンが鳴ります



デジタルインナーミラー

車両後方カメラの映像をミラー内のディスプレイに表示する装置です。

切りかえレバーを操作することで、光学ミラーモードからデジタルミラーモードに切りかえることができます。

ヘッドレストや荷物などで視界をさえぎられずに後方を確認することができます。

また、リヤ席を映さないことで乗員のプライバシーを保護することができます。

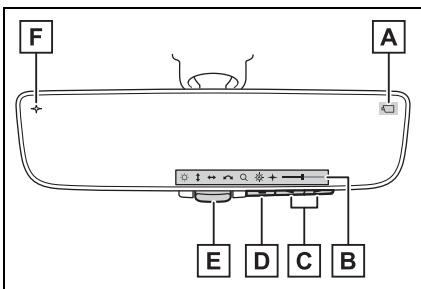
⚠ 警告

次のことをお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ デジタルインナーミラーをお使いになる前に

- 走行前に必ずミラーの調整を行ってください。(→P.139)
- ・ 光学ミラーモードに切りかえて、鏡面を後方が正しく映る位置に調整する
- ・ デジタルミラーモードに切りかえて、ディスプレイに表示される映像を調整する
- ディスプレイに表示される映像と鏡面ミラーに映る範囲は異なりますので、あらかじめ違いを確認してください。

各部の名称



A カメラインジケーター

カメラが正常に作動していることを示します。

B アイコン表示エリア

調整アイコン(→P.140)・調整ゲージが表示されます。

C 選択／調整スイッチ

調整項目の設定を変更します。

D メニュースイッチ

調整アイコンの表示や、調整項目の移動を行います。

E 切りかえレバー

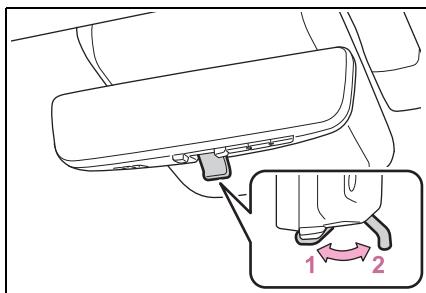
デジタルミラーモードと光学ミラーモードの切りかえを行います。

F デジタル防眩モードインジケーター

デジタルミラーモード時、防眩機能がONに設定されていることを示します。(→P.140)

モードを切りかえるには

切りかえレバーを操作することで、デジタルミラーモードと光学ミラーモードを切りかえることができます。



1 デジタルミラーモード

車両後方の映像を表示します。

ディスプレイに □ が表示されます。

2 光学ミラーモード

映像が消え、鏡面ミラーとして使用できます。



■ デジタルミラーモードの作動条件

エンジンスイッチが ON のとき

エンジンスイッチを ON から OFF または ACC にすると、数秒後に表示が消えます。

■ デジタルミラーモードについて

- ミラーの反射や汚れ、カメラに水滴やほこりが付いているなどでディスプレイに表示される映像が見えにくい場合や、後続車のライトのちらつきや圧迫感が気になる場合は、光学ミラーモードに切りかえてください。

- 雨天時リアガラスに水滴が付いて映像が見にくい場合は、リヤワイパを作動させてください。

- バックドアが開いているときは、デジタルインナーミラーの映像が正しく表示されません。走行前に必ずバックドアが閉まっていることを確認してください。

- ディスプレイが反射して見えにくい場合は、ルーフサンシェードを閉めてく

ださい。

- 夜間など暗いところでは、次のような現象が発生することがあります、異常ではありません。

- 映像の色と実際の色が異なって見える
- 後続車のライトの高さなどによっては、後続車の周囲が白くぼやけて見える
- 周辺を明るく見せるために映像が自動的に調整されることにより、特有のちらつきが発生する

映像が見えにくい場合や、ちらつきが気になる場合は、光学ミラーモードに切りかえてください。

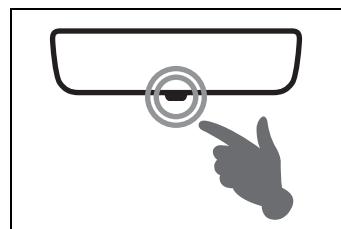
- デジタルインナーミラー本体が発熱することがありますが、異常ではありません。

- 体調・年齢などにより、ディスプレイに表示される映像に焦点が合うまで時間がかかる場合があります。焦点が合わせづらいと感じたときは、光学ミラーモードに切りかえてください。

- 主に同乗者がディスプレイを凝視すると、車酔いを起こすことがあります。

■ システムに異常が発生したとき

デジタルミラーモード時に、図で示すシンボルが表示されます。シンボルの表示は数秒後に消えます。切りかえレバーを操作し、光学ミラーモードに切りかえて、トヨタ販売店で点検を受けてください。



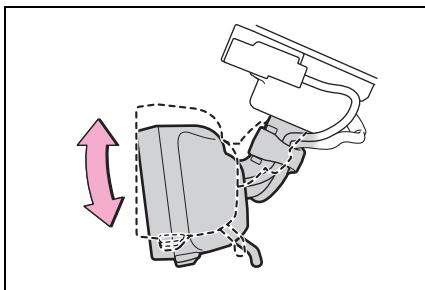
調整するには

■ ミラー本体の上下調整

運転姿勢に合わせてインナーミ

ラーの高さを調整することができます。

光学ミラーモードに切りかえて、インナーミラー本体を持って、上下方向に調整する

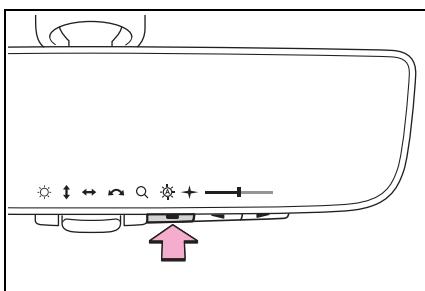


■ ディスプレイの調整（デジタルミラーモード）

デジタルミラーモードの調整や機能の ON / OFF ができます。

1 メニュースイッチを押す

調整アイコンが表示されます。



2 メニュースイッチをくり返し押して、調整したい項目（調整アイコン）を選択する

3 ▶または◀を押して、設定を変更する

約 5 秒以上スイッチ操作をしないと、調整アイコンと各調整画面の表示が消えます。

調整アイコン	設定内容
☀	ディスプレイの明るさを調整することができます。
↕	ディスプレイの表示映像を上下に調整することができます。
↔	ディスプレイの表示映像を左右に調整することができます。
↖	ディスプレイの表示映像の傾きを調整することができます。
🔍	ディスプレイの表示映像を拡大／縮小することができます。
⌚	自動防眩機能の ON / OFF を切りかえることができます。※ ON にすることで、後続車のヘッドライトのまぶしさに応じて反射光を自動的に調整します。 エンジンスイッチを ON にしたときは、常に自動防眩機能が ON になっています。
✚	デジタル防眩モードの ON / OFF を切りかえることができます。 ON にすることで、夜間にディスプレイの表示映像の明るさを抑えて表示し、後続車のヘッドライトのまぶしさを抑えます。

* 光学ミラーモード使用時の機能ですが、デジタルミラーモード使用時にも設定できます。

■自動防眩機能のON／OFF切りかえ（光学ミラーモード）

光学ミラーモードの自動防眩機能のON／OFFを変更できます。変更はデジタルミラーモード使用時、光学ミラーモード使用時のいずれからでも行えます。

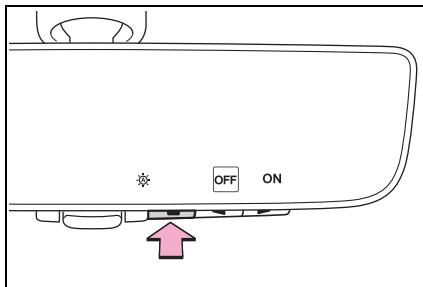
▶ デジタルミラーモード使用時

→P.140

▶ 光学ミラーモード使用時

1 メニュースイッチを押す

設定画面が表示されます。



2 ▶または◀を押して、自動防眩機能のON／OFFを切りかえる

約5秒以上スイッチを操作しない状態が続くと、設定画面の表示が消えます。

知識

■ディスプレイの調整について（デジタルミラーモード）

●約5秒以上スイッチ操作をしないと、調整アイコンと各調整画面の表示が消えます。

●ディスプレイ表示の調整を限界値まで行うと、映像がゆがむ場合がありますが故障ではありません。

●ディスプレイ表示が明るすぎると、目が疲れることができます。適度な明る

さに調整してください。

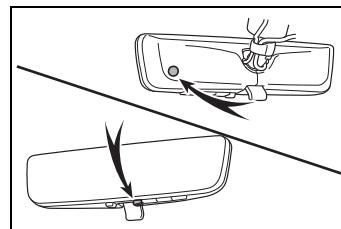
目が疲れた場合には、光学ミラーモードに切りかえてご使用ください。

●ディスプレイ表示の明るさは、車両前方の明るさに合わせて自動でかわります。

●デジタル防眩モードは周囲が暗い場所でのみ動き、周囲の照度環境によっては映像の明るさが抑えられず、後続車のヘッドライトのまぶしさが低減できない場合があります。

■センサーの誤作動防止

センサーの誤作動を防ぐため、センサーにふれたりセンサーを覆ったりしないでください。



⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行中の留意事項

●走行中は、デジタルインナーミラーの位置やディスプレイに表示される映像を調整しないでください。

デジタルインナーミラーの操作スイッチは、安全な場所に停車して操作してください。走行中に操作すると、ハンドル操作を誤るなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 警告

- 必ず車両周辺の状況を直接確認してください。

デジタルミラーモード使用時は、ディスプレイ上に映る車両や障害物が実際の大きさと異なる場合があります。後退時は、必ず後方や周囲の安全を直接確認しながら運転してください。また、夜間など暗いところで後続車が接近したときは、周囲が暗く映る場合があります。

■ 安全にお使いいただくために

煙が出る、異臭がするなど異常な状態で使用すると、発火の原因になります。ただちに使用を中止してトヨタ販売店にご相談ください。

お手入れについて

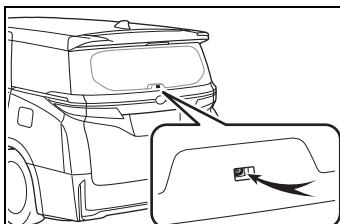
■ デジタルインナーミラーのお手入れについて

ミラー表面が汚れていると、映像が見えにくくなることがあります。あらかじめ、乾いたやわらかい布などで汚れをそつとふき取ってください。



■ カメラについて

デジタルインナーミラーのカメラは、図の位置にあります。



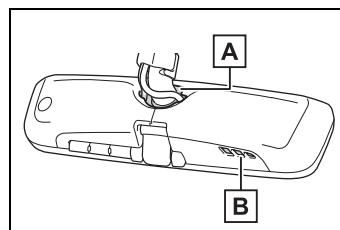
■ 冷却用のファンについて

デジタルインナーミラー内には、ミラー冷却用のファンがあります。デジタルインナーミラーの使用中は、冷却用のファンの音が聞こえることがあります。

⚠ 注意

■ デジタルインナーミラーの故障や誤作動を防ぐために

- ミラーをふくときはシンナー・ベンジン・アルコールなどの溶剤を使用しないでください。変色・劣化・故障の原因になります。
- ミラーの近くでは、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こしたりしないでください。故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。
- ミラー本体の取りはずし・分解・改造はしないでください。
- ミラーの通風口をふさがないでください。ミラー内部に熱がこもり、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。



A 排気口

B 吸気口

 注意

■ カメラの故障や誤作動を防ぐために

- デジタルインナーミラーが正常に作動しなくなるおそれがありますので、次のことにご注意ください。
 - ・ カメラ部を強くたたいたり、ものをぶつけるなど、強い衝撃を与えないでください。カメラの位置・取り付け角度がずれるおそれがあります。
 - ・ カメラ部は取りはずし・分解・改造をしないでください。
 - ・ 有機溶剤・ボデーワックス・油膜取り剤・ガラスコート剤などを付着させないでください。付着したときは、すぐにふき取ってください。
 - ・ リヤウインドウガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼る場合は、カメラ前部に貼らないでください。カメラ前部に貼り付けた場合、映像が正しく映らなくなる場合があります。
- カメラ部をぶつけたときは、カメラの故障などのおそれがあります。早めにトヨタ販売店で点検を受けてください。

3

運転する前に

故障とお考えになる前に

デジタルミラーモード使用時に次のような症状で気になったときやお困りになったときは、考えられる原因と処置を参考に、もう一度確認してください。

処置をしても直らないときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

症状	考えられる原因	処置
ディスプレイに表示される映像が見にくい	ミラー表面が汚れている	乾いたやわらかい布などで汚れをそっとふき取ってください。
	強い光（太陽やヘッドライトの光など）がデジタルインナーミラーにあたった	光学ミラーモードに切りかえてください。 (天井からの光があたっているときは、サンシェードを閉めてください)
	<ul style="list-style-type: none"> ・夜間など暗いところで使用した ・テレビ塔・放送局・発電所など、強い電波やノイズが発生する場所の近くで使用した ・カメラ付近の温度が高い、または低い ・外気温が低い ・雨天時など湿度が高い ・太陽やヘッドライトの光が直接カメラのレンズにあたった ・蛍光灯・ナトリウム灯・水銀灯などの照明の下で使用した ・排気ガスが映り込んでいる 	光学ミラーモードに切りかえてください。 (カメラおよびその周辺環境が改善されてから、再びデジタルミラーモードをご使用ください)
	カメラのレンズに水滴、ほこりなどの異物や汚れが付着している	トヨタ販売店で点検を受けてください。
	ラゲージルームの荷物がガラス等に反射して映り込んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・光学ミラーモードに切りかえてください。 ・荷物を映りこまない位置に移動するか、黒い布等で覆いガラスへの反射を抑えてください。
	リヤウインドウガラスが曇っている	リヤウインドウデフォッガー(→P.373)を使用し、曇りを取ってください。
ディスプレイに表示される映像が見にくい	リヤウインドウガラスの外側が汚れている	リヤワイパーで汚れをふき取ってください。
	リヤウインドウガラスの内側が汚れている	トヨタ販売店で点検を受けてください。

症状	考えられる原因	処置
ディスプレイに表示される映像がずれている	バックドアが完全に閉まっていない カメラ部に強い衝撃が与えられた	バックドアを閉めてください。 光学ミラーモードに切りかえて、トヨタ販売店で点検を受けてください。
ディスプレイ上に が表示され、ディスプレイに表示される映像が暗くなった	システムに異常が発生した	光学ミラーモードに切りかえて、トヨタ販売店で点検を受けてください。
ディスプレイ上の が消灯した		
ディスプレイ上に が表示された	デジタルインナーミラーの温度が非常に高い (徐々にディスプレイが暗くなり、その後も温度が上がり続けると映像が消えます)	ミラーの温度を下げるために、車室内の温度を下げるなどを推奨します。 (ミラーの温度が下がると が消えます) ミラーの温度が下がっても が消えない場合は、光学ミラーモードに切りかえて、トヨタ販売店で点検を受けてください。
切りかえレバーが正常に作動しない	切りかえレバーに異常が発生した	光学ミラーモードに切りかえて、トヨタ販売店で点検を受けてください。 (メニュースキッチを約 10 秒間押し続けることで、光学ミラーモードに切りかえることができます)

ドアミラー

安全に運転していただくために、運転する前に視界が確保できるようミラーの角度を調整してください。

□ 知識

■ 寒冷時にドアミラーを使用するとき

寒冷時にドアミラーが凍結していると、ドアミラーの格納・復帰や鏡面の調整ができない場合があります。ドアミラーに付着している氷や雪などを取り除いてください。

⚠ 警告

■ 走行中の留意事項

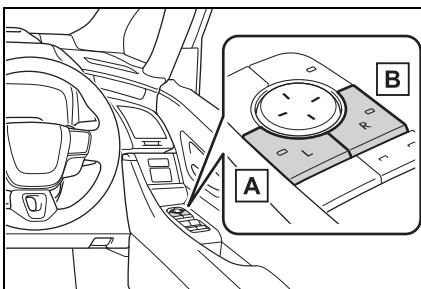
走行中は次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、運転を誤って重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ミラーの調整をしない
- ドアミラーを格納したまま走行しない
- 走行前に必ず、運転席側および助手席側のミラーをもとの位置にもどして、正しく調整する

調整するには

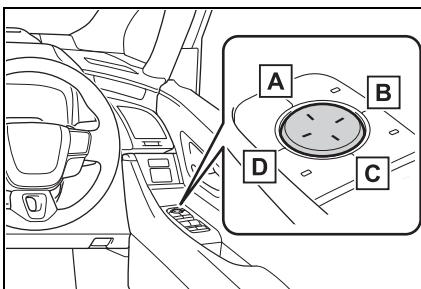
1 調整するミラーを選ぶ



A 左 (L)

B 右 (R)

2 ミラーの鏡面を調整するにはスイッチを押す



A 上

B 右

C 下

D 左

□ 知識

■ 鏡面調整の作動条件

エンジンスイッチが ACC または ON のとき

■ ミラーの曇りを取りたいときは

リヤウインドウデフォッガーを作動させると、ミラーヒーターが同時に作動し、

曇りを取ることができます。 (→P.373)

■ミラー角度の自動調整

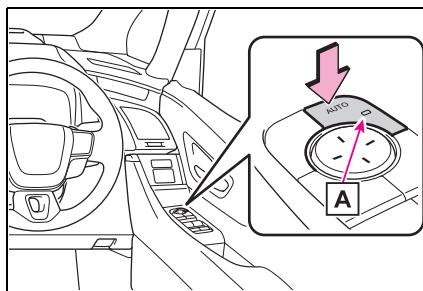
お好みのミラー角度をドライビングポジションメモリーに登録すると、自動で調整されます。 (→P.153)



警告

■ミラーヒーターが作動しているとき

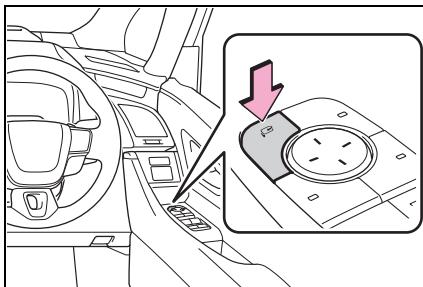
ドアミラーの鏡面が非常に熱くなります。やけどをするおそれがあるのでふれないでください。



ドアミラーを格納するには

■マニュアル作動での格納・復帰ボタンを押す

もう一度押すと、もとの位置にもどります。



■オート作動での格納・復帰

スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンによるドアの施錠・解錠に連動して、ドアミラーを自動的に格納・復帰させることができます。

ボタンを押す

ボタンを押すと、インジケーター[A]が点灯します

もう一度ボタンを押すと、マニュアル作動にもどります。



■バッテリー端子の脱着をしたとき

オート電動格納機能の設定がリセットされ、OFFの状態にもどります。機能をONにするときは、再度、オート電動格納機能のON・OFF切り替えを行ってください。

■カスタマイズ機能

オート格納の設定を変更できます。(カスタマイズ一覧: →P.493)



■ミラーが動いているとき

手をふれないでください。

手を挟んでけがや、ミラーの故障などの原因になるおそれがあります。

リバース連動機能

ミラー選択スイッチのLまたはRどちらかが選択されているときは、後退時に鏡面が下向きになり、下方が見やすくなります。

この機能を使用しないときは、ミラー選択スイッチの選択が解除された状態にしてください。

■後退時に下向きになる角度を調整するときは

シフトポジションをRにした状態で鏡面位置を調整することで、下

向きに動く角度を調整できます。

次回からシフトポジションを R にするたびに、その角度で作動します。

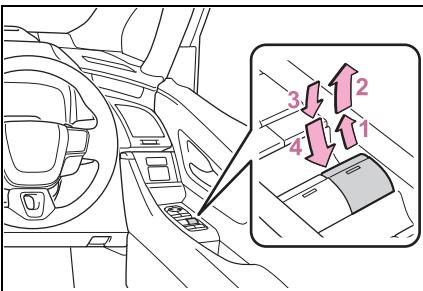
通常時（シフトポジションが R 以外のとき）の鏡面位置を基準に下向きに動く角度を記憶するため、調整後に通常時の鏡面位置を変更すると、それに伴って後退時の鏡面位置も変化します。

通常時の鏡面位置を変更したときは、後退時に下向きになる角度も調整してください。

パワーウィンドウ

ドアガラスを開閉するには

スイッチを操作し、自動でドアガラスを開閉できます。



1 閉める

2 自動全閉 *

3 開ける

4 自動全開 *

* 途中で停止するときは、スイッチを反対側へ操作します。

□ 知識

■作動条件

エンジンスイッチが ON のとき

■エンジン停止後の作動

エンジンスイッチを ACC または OFF にしたあとでも、約 45 秒間はドアガラスを開閉できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

■音声対話サービスでの操作について★

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

音声対話サービスを使用して、ドアガラスを開閉することができます（ウインドウロックスイッチが OFF のときのみ操作可能）。

音声対話サービスについては、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

■挟み込み防止機能

ドアガラスを閉めているときに、窓枠とドアガラスのあいだに異物が挟まると、作動が停止し、少し開きます。

■巻き込み防止機能

ドアガラスを開けているときに、異物がドアガラスとドアのすき間に巻き込まれると、作動が停止します。

■ドアガラスを開閉することができないとき

挟み込み防止機能や巻き込み防止機能が異常に作動してしまい、ドアガラスを開閉することができないときは、開閉できないドアのパワーウィンドウスイッチで、次の操作を行ってください。

●車を停止し、エンジンスイッチを ON の状態で、挟み込み防止機能や、巻き込み防止機能が作動したあと約 4 秒以内に、パワーウィンドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続ける。または、「自動全開」の位置で押し続けることでドアガラスを開閉することができます。

●上記の操作を行ってもドアガラスが開閉できない場合、機能の初期化を次の手順で実施してください。

1 エンジンスイッチを ON にする

2 パワーウィンドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを全閉にする

3 いったんパワーウィンドウスイッチから手を離して、再度パワーウィンドウスイッチを「自動全閉」の位置で約 6 秒以上引き続ける

4 パワーウィンドウスイッチを「自動全開」の位置で押し続け、ドアガラスを全開にしたあと、さらにスイッチを約 1 秒以上押し続ける

- 5 いったんパワーウィンドウスイッチから手を離して、再度パワーウィンドウスイッチを「自動全開」の位置で約4秒以上押し続ける。
- 6 再度、パワーウィンドウスイッチを「自動全開」の位置で引き続け、ドアガラスを閉めたあと、さらにスイッチを約1秒以上引き続ける

ドアガラス作動途中でスイッチから手を離すと、最初からやり直しとなります。

以上の操作を行っても反転して閉じ切らない、または全開にならない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ ドアロック運動ドアガラス開閉機能

- メカニカルキーでドアガラスを開閉できます。※ (→P.478)
- ワイヤレスリモコンでドアガラスを開閉できます。※ (→P.92)
- オートアラームがセットされているときに、ドアロック運動ドアガラス開閉機能でドアガラスを閉めると、オートアラームが作動することがあります。(→P.58)

* トヨタ販売店での設定変更が必要です。

■ 窓開警告機能

エンジンスイッチがOFFでドアガラスが開いていると、運転席ドアを開けたときにブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

■ カスタマイズ機能

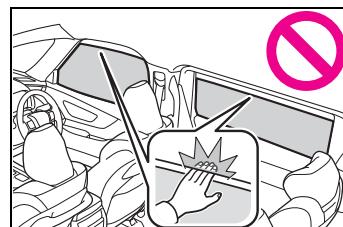
ドアロック運動ドアガラス開閉機能などの設定を変更できます。
(カスタマイズ一覧: →P.493)

⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ ドアガラスを開閉するとき

- 運転者は、乗員の操作を含むすべてのドアガラス開閉操作について責任があります。特にお子さまの誤った操作による事故を防ぐため、お子さまにはドアガラスの操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。
また、お子さまが同乗するときはウインドウロックスイッチを使用することをおすすめします。(→P.151)
- ドアガラスを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりしないようにしてください。特にお子さまへは手などを出さないよう声かけをしてください。



- ワイヤレスリモコンやメカニカルキーを使ってドアガラスを操作するときは、ドアガラスに人が挟まるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、ワイヤレスリモコンやメカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

⚠ 警告

- 車から離れるときはエンジンスイッチをOFFにし、キーを携帯してお子さまと一緒に車から離れてください。いたずらなどによる誤った操作により、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■挟み込み防止機能

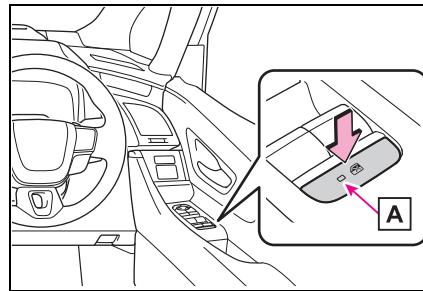
- 挟み込み防止機能を故意に作動させようとして、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、ドアガラスが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを引き続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。

■巻き込み防止機能

- 巻き込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・服などを巻き込ませたりしないでください。
- 巻き込み防止機能は、ドアガラスが完全に開く直前に異物を巻き込むと作動しない場合があります。手・腕・服などが巻き込まれないように注意してください。

閉することを防止できます。

スイッチを押すと、インジケーターAが点灯し、運転席以外のドアガラスが非作動になります。



□ 知識

■作動条件

エンジンスイッチがONのとき

■バッテリーをはずしたとき

ウインドウロックスイッチがOFFになるため、バッテリーを接続したあと、再度ウインドウロックスイッチをONにする必要があります。

⚠ 注意

■挟み込み防止機能・巻き込み防止機能について

ドアガラスを開閉しているときに、ドアを強く閉めると挟み込み防止機能や巻き込み防止機能が作動し、ドアガラスが反転・停止することがあります。

誤操作を防止するには（ウインドウロックスイッチ）

お子さまが誤ってドアガラスを開

パワーイージーアクセスシステム／ポジションメモリー／メモリーコール機能

自動で運転席・ハンドル・ドアミラー・ヘッドアップディスプレイを動かし、乗り降りしやすい位置に調整したり、お好みのドライビングポジションに調整します。

マイセッティングが ON の場合：

ドライビングポジションは、マイセッティングに登録した運転者とゲストにそれぞれ 3 パターンまで登録できます。

マイセッティングに電子キーの割り当てを登録することで、登録した運転者ごとにドライビングポジションを自動で呼び出すことができます。(メモリーコール機能)

マイセッティングが OFF の場合：

ドライビングポジションは、3 パターンまで登録できます。

ドライビングポジションを電子キーに登録することで、電子キーごとにドライビングポジションを自動で呼び出すことができます。(メモリーコール機能)

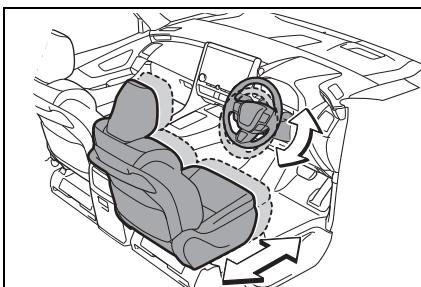
マイセッティングについては、P.156 を参照してください。

運転席への乗り降りをしやすくするには（パワーイージーアクセスシステム）（運転席のみ）

乗降時に運転者が乗り降りしやすいよう、シートやハンドルが自動で動きます。

次のすべての操作を行ったとき、シートとハンドルが乗り降りしやすい位置に自動で調整されます。

- シフトポジションを P に入れる
- エンジンスイッチを OFF にする
- シートベルトをはずす



次のいずれかの操作を行ったとき、シートとハンドルがもとの位置にもどります。

- エンジンスイッチを ACC または ON にする
- シートベルトを着用する

□ 知識

■ パワーイージーアクセスシステムの動作について

降車時に、シートの位置が最後方付近にあるなど、パワーイージーアクセスシステムが作動しない場合があります。

■ カスタマイズ機能

パワーイージーアクセスシステムによるシート移動量を変更できます。

(カスタマイズ一覧 : →P.493)

⚠ 警告

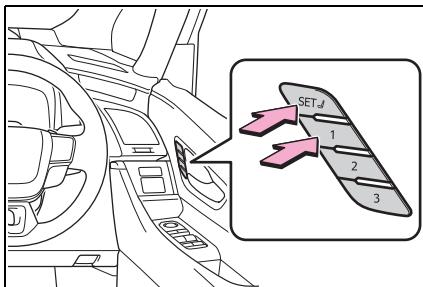
- パワーイージーアクセスシステムでハンドル・シートが作動しているときは

体や荷物などが挟まれないようにしてください。けがをしたり、荷物が破損するおそれがあります。

ドライビングポジションをポジションメモリーに登録するには

- シフトポジションが P の位置にあることを確認する
- エンジンスイッチを ON にする
- 運転席・ハンドル・ドアミラー角度・ヘッドアップディスプレイ表示をお好みの位置に調整する
- SET ボタンを押しながら、または SET ボタンを押したあと 3 秒以内に 1 ~ 3 のうち登録したいボタンをブザーが鳴るまで押す

すでに同じボタンに登録されている場合は、上書きされます。



知識

■ 登録できるシート位置 (→P.123)

すべての位置が登録できます。

■ ポジションメモリーを正しくお使いいただくために

登録位置がシート各調整位置の最端部にある状態で、さらに同じ方向に操作をすると、呼び出し位置にずれが生じことがあります。

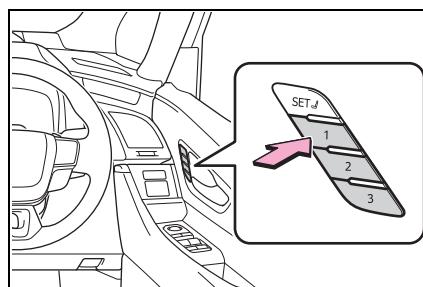
⚠ 警告

■ シート調整時の警告

シート調整中は、シートがセカンド席乗員にあたったり、運転者の体がハンドルに圧迫されたりしないよう注意してください。

ドライビングポジションを呼び出すには

- シフトポジションが P の位置にあることを確認する
- エンジンスイッチを ON にする
- 1 ~ 3 のうち呼び出したいポジションのボタンをブザーが鳴るまで押す



知識

■ ポジションの呼び出し作動を途中で止めたいとき

次のいずれかの操作をします。

- SET ボタンを押す
- 1 ~ 3 のボタンを押す
- シート調整スイッチのいずれかを操作する（シートのみ作動停止）
- ハンドル位置調整スイッチを操作する（ハンドルのみ作動停止）

■ 音声操作システムでの操作について★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

音声操作システムを使用して次の操作をすることができます。

- ドライビングポジションの登録
- ドライビングポジションの呼び出し
(シフトポジションが P の位置にあるときのみ操作可能)

音声操作システムについては、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

■ エンジンスイッチ OFF 後の作動

運転席ドアを開けて 180 秒以内、または運転席ドアを閉めて 60 秒以内に呼び出したいポジションのボタンを押すと、シートの位置が調整されます。

■ ポジションを呼び出すとき

ヘッドレストが天井にあたらないよう注意してください。

■ 登録したシート位置が呼び出せないとき

シート位置を特定の範囲内に登録した場合、状況によってはシート位置を呼び出せないことがあります。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

乗車時にドライビングポジションを自動で呼び出すには（メモリーコール機能）

■ マイセッティングが ON（電子キーで個人を特定）の場合

マイセッティングに電子キーの割り当てを登録することで、登録した運転者ごとのドライビングポジションを自動で呼び出すことができます。

● ドライビングポジションの登録方法

運転を終了したあとにシフトポジションを P にすると、現在のドライビングポジションが登録されます。

● ドライビングポジションの呼び出し方法

- 1 マイセッティングに割り当てを登録している電子キーを携帯し、運転席ドアをスマートエンター＆スタートシステムまたはワイヤレスリモコンで解錠してドアを開ける

ハンドルおよびヘッドアップディスプレイ表示を除くドライビングポジションが登録された位置へ動きますが、シート位置は乗り込みやすくするために、登録された位置より少し後方に動きます。

ドライビングポジションがすでに登録された位置にある場合は動きません。

- 2 エンジンスイッチを ACC または ON にする

シート・ハンドル・ヘッドアップディスプレイ表示（エンジンスイッチを ON にしたときのみ）が登録したドライビングポジションに動きます。

● メモリーコール機能の解除方法

マイセッティングで運転者の登録内容を

初期化する（→P.156）

■マイセッティングがOFFの場合

お好みのドライビングポジションを電子キーに登録することで、電子キーごとにお好みのドライビングポジションを自動で呼び出すことができます。

●ドライビングポジションの登録方法

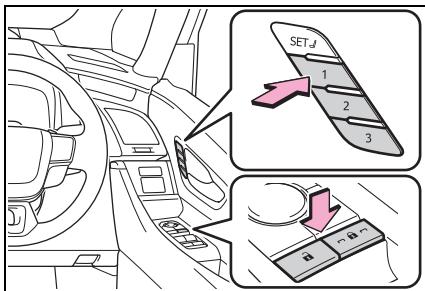
お好みのドライビングポジションをあらかじめ1～3のいずれかのボタンに登録しておきます。

登録させたいキーのみ携帯して、運転席ドアを閉めてください。

車内にキーが2つ以上あると、正確に登録できません。

- 1 シフトポジションがPの位置にあることを確認する
- 2 エンジンスイッチをONにする
- 3 登録させたいドライビングポジション（1～3）を呼び出す
- 4 呼び出したドライビングポジションのボタンを押しながら、ドアロックスイッチの施錠側または解錠側を“ピー”とブザーが鳴るまで押す

登録できなかった場合は、約3秒間ブザーが鳴り続けます。



- ドライビングポジションの呼び出し方法

- 1 ドライビングポジションを登録した電子キーを携帯し、運転席ドアをスマートエントリー＆スタートシステムまたはワイヤレスリモコンで解錠してドアを開ける

ハンドルおよびヘッドアップディスプレイ表示を除くドライビングポジションが登録された位置へ動きますが、シート位置は乗り込みやすくするために、登録された位置より少し後方に動きます。

ドライビングポジションがすでに登録された位置にある場合は動きません。

- 2 エンジンスイッチをACCまたはONにするか、運転席シートベルトを着用する

シート・ハンドル・ヘッドアップディスプレイ表示（エンジンスイッチをONにしたときのみ）が登録したドライビングポジションに動きます。

●メモリーコール機能の解除方法

解除させたいキーのみ携帯して、運転席ドアを閉めてください。

車内にキーが2つ以上あると、正確に解除できません。

- 1 エンジンスイッチをONにする
- 2 SETボタンを押しながら、ドアロックスイッチの施錠側または解錠側を“ピッピッ”とブザーが鳴るまで押す

解除できなかった場合は、約3秒間ブザーが鳴り続けます。

□ 知識

■メモリーコール機能によるドライビングポジションの呼び出しについて

運転席ドア以外のドアをスマートエントリー＆スタートシステムで解錠した場合は、ドライビングポジションの呼び出し

は行われません。その場合は、登録したドライビングポジションのボタンを押してください。

■ カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。

(カスタマイズ一覧 : →P.493)

マイセッティング

電子キーなどのデバイスから個人を特定し、運転者ごとのドライビングポジションや車両設定を記憶しておくことで、次回乗車時に再生します。

あらかじめ認証デバイスを割り当てておくことで、運転者に合わせたお好みの設定で乗車することができます。

マイセッティングには、運転者3名分の設定を記憶することができます。

認証デバイスの割り当て／削除、ドライバー名の設定、初期化方法、運転者の手動切り替え、記憶してあるドライバーの削除については別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

割り当てる認証デバイスの種類

次の認証デバイスから個人を特定します。

● 電子キー

スマートエントリー＆スタートシステムが電子キーを検出することで個人を特定します。 (→P.117)

● デジタルキー

スマートエントリー＆スタートシステムがデジタルキーを検出することで個人を特定します。
(→P.89)

● 顔認証システム

ドライバーモニターカメラで登録した顔

情報をドアの開閉時に顔認証することで個人を特定します。→P.215)

顔情報の登録・削除などについては、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

電子キーまたは、デジタルキーで個人を特定した場合でも、顔認証による個人の特定が優先されます。

● Bluetooth デバイス★

ハンズフリー電話で利用する、前回乗車時と同じ Bluetooth® デバイスがマルチメディアシステムに接続されることで個人を特定します。

電子キーを検出して個人を特定したときは、Bluetooth® デバイスでの個人の特定はしません。

Bluetooth® ワードマークおよびロゴは登録商標であり、Bluetooth SIG, Inc. が所有権を有します。

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

- ・顔認証システムで個人を特定：ドライバーモニターカメラが顔情報を認証したあとにエンジンスイッチを ACC または ON にする

● メーター表示／ヘッドアップディスプレイ表示／マルチメディア設定※

個人が特定されると、前回エンジンスイッチを OFF にしたときの表示設定を再生します。

● マルチメディアディスプレイで設定可能な車両設定※

個人が特定されると、前回エンジンスイッチを OFF にしたときの車両設定を再生します。

● 安全運転支援機能※

個人が特定されると、前回エンジンスイッチを OFF にしたときの車両設定を再生します。

※一部の設定項目を除く

再生される機能

認証デバイスから個人が特定されたとき、次の機能の設定を再生します。

● ドライビングポジション（メモリーコール機能）

個人が特定されたあとに、次の操作を行うと前回運転終了時（シフトポジションを P にしたとき）のドライビングポジションを再生します。

- ・電子キーで個人を特定：スマートエンタリー＆スタートシステムまたはワイヤレスリモコンで解錠してドアを開けます。
- ・デジタルキーで個人を特定：スマートエントリー＆スタートシステムで解錠してドアを開けたとき

4-1. 運転にあたって

運転にあたって	161
荷物を積むときの注意	168

4-2. 運転のしかた

エンジン（イグニッション）スイッチ	170
オートマチックトランスミッション	174
方向指示レバー	180
パーキングブレーキ	181
ブレーキホールド	185

4-3. ランプのつけ方・ワイパーの使い方

ランプスイッチ	187
AHS（アダプティブハイビームシステム）	190
AHB（オートマチックハイビーム）	193
フォグランプスイッチ	196
ワイパー＆ウォッシャー（フロント）	197
ワイパー＆ウォッシャー（リヤ）	200

4-4. 給油のしかた

給油口の開け方	202
---------------	------------

4-5. 運転支援装置について

ソフトウェアアップデートを確認する（Toyota Safety Sense／アドバンスト ドライブ【渋滞時支援】装着車）	204
Toyota Safety Sense	207
ドライバーモニター	215
PCS（プリクラッシュセーフティ）	216

LTA（レーントレーシングアシスト）	225
LCA（レーンチェンジアシスト）	230
LDA（レーンディバーチャーラート）	234
PDA（プロアクティブドライビングアシスト）	239
FCTA（フロントクロストラフィックアラート）	244
発進遅れ告知機能	246
RSA（ロードサインアシスト）	248
レーダークルーズコントロール	251
クルーズコントロール	261
ドライバー異常時対応システム	264
アドバンスト ドライブ（渋滞時支援）	267
ITS Connect	271
Stop & Start システム	277
BSM（ブラインドスポットモニター）	283
後方車両接近告知	289
周辺車両接近時サポート（録画機能、通報提案機能）	291
後方車両への接近警報	295
セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中後突対応）	297
安心降車アシスト	299
クリアランスソナー	304
RCTA（リヤクロストラフィックアラート）	311
RCD（リヤカメラディテクション）	316

PKSB (パーキングサポートブレー キ)	319
パーキングサポートブレーキ (前後 方静止物／周囲静止物)	323
パーキングサポートブレーキ (後方 接近車両)	326
パーキングサポートブレーキ (後方 歩行者)	328
プラスサポート (販売店装着オプ ション)	329
トヨタチームメイト アドバンスト パーク	334
運転を補助する装置	358
4-6. 運転のアドバイス	
寒冷時の運転	364

4-6. 運転のアドバイス

寒冷時の運転	364
--------------	------------

運転にあたって

安全運転を心がけて、手順に従って走行してください。

安全に走行するには

■ エンジンをかける

→P.170

■ 発進する

- ブレーキペダルを踏んだまま、シフトポジションをDにする

シフトポジション表示灯がDであることをメーターで確認します。

- パーキングブレーキがかかっているときは、パーキングブレーキを解除する(→P.181)

パーキングブレーキがオートモードのときは、自動でパーキングブレーキが解除されます。(→P.182)

- ブレーキペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏み発進する

■ 停車する

- ブレーキペダルを踏む
- 必要に応じて、パーキングブレーキをかける

長時間停車する場合は、シフトポジションをPにします。(→P.175)

■ 駐車する

- ブレーキペダルを踏み、車を完全に停止させる
- パーキングブレーキが解除されているときは、パーキングブレーキをかける(→P.181)
- シフトポジションをPにする(→P.175)

シフトポジション表示灯がPであることと、パーキングブレーキ表示灯が点灯していることを確認します。

- エンジンスイッチを押してエンジンを停止する

- ブレーキペダルからゆっくり足を離す

- 電子キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する

坂道の途中で駐車する場合は、必要に応じて輪止め^{*}を使用してください。

* 輪止めはトヨタ販売店で購入することができます。

■ 上り坂で発進する

- ブレーキペダルをしっかりと踏み、シフトポジションをDにする

ヒルスタートアシストコントロールが作動します。

- パーキングブレーキをかける(→P.181)

- ブレーキペダルから足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏み車を発進する

- 車が動き出す感触を確認したら、パーキングブレーキを解除する(→P.181)

□ 知識

■ 上り坂発進について

ヒルスタートアシストコントロールが作動します。(→P.358)

■ 雨の日の運転について

●雨の日は視界が悪くなり、またガラスが曇ったり、路面がすべりやすくなったりするので、慎重に走行してください。

●雨の降りはじめは路面がよりすべりや

すいため、慎重に走行してください。

- 雨の日の高速走行などでは、タイヤや路面のあいだに水膜が発生し、ハンドルやブレーキが効かなくなるおそれがあるので、スピードは控えめにしてください。

■ 走行中のエンジン回転数について

次の場合、走行中にエンジン回転数が高くなることがあります。これは走行状況に合わせてシフトアップの制限、またはシフトダウンの実施を自動的に行うためで、急加速を示すものではありません。

- 車両が上り坂、または下り坂を走行していると判断したとき
- アクセルペダルを離したとき
- ブレーキペダルを踏んだとき

■ エンジン出力の抑制について（ブレーキオーバーライドシステム）

- アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれたとき、エンジン出力を抑制する場合があります。
- ブレーキオーバーライドシステム作動中は、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

■ 運転標識の取り付けについて

磁石式の初心運転者標識や高齢運転者標識などを樹脂バンパーやアルミ部分に取り付けることはできません。

■ オーバーヒートについて

次のようなきびしい走行状況ではオーバーヒートになるおそれがあります。

- 暑い日に長い上り坂を走行する
- 高速走行直後に急減速や急停止をする

■ エンジン停止前のアイドル運転について

ターボ装置などの損傷を防ぐため、高負荷走行直後は、アイドル運転を行ってからエンジンを停止してください。

走行状況	アイドル運転時間
市街地、郊外などの一般走行および高速走行（高速道路の法定または制限速度）	不要
山岳ドライブウェイなどの急な登坂路走行およびサーキットなどの連続走行	約1分

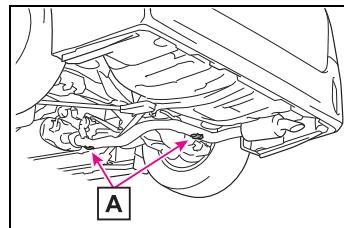
■ 環境に配慮した運転（エコドライブインジケーター）

→P.80

■ 排気管について

エンジンが作動中に排気管から水が出ることがありますが異常ではありません。

また、排気管の途中に排水口Aが設定されており、排水口Aからも水が出ます。特に外気温が低いときは、排気ガス中の水成分が結露して水が出やすくなります。



⚠ 警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 発進するとき

エンジンがかかったまま停車しているときは、常にブレーキペダルを踏んでください。クリープ現象で車が動き出すのを防ぎます。



警告

■運転するとき

- 踏み間違いを避けるため、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を十分把握した上で運転してください。
- ・ アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ・ 後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるよう注意してください。
- ・ 車を少し移動させるときも正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。
- ・ ブレーキペダルは右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 枯れ葉や紙くず、布きれなどの可燃物の上を走行したり、可燃物付近に車を停めたりしないでください。
排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると火災になるおそれがあり危険です。
- 通常走行時は、走行中にエンジンを停止しないでください。走行中にエンジンを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、操作力補助がなくなり、ハンドルとブレーキの操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。
なお、通常の方法で車両を停止することができないような緊急時は、P.436 を参照してください。

● 急な下り坂では、エンジンブレーキを使用してスピードを下げてください。フットブレーキを連続して使いすぎると、ブレーキが過熱して正常に機能しなくなります。(→P.174)

● 走行中はハンドル・シート・ドアミラー・デジタルインナーミラーの調整をしないでください。
運転を誤るおそれがあります。

● すべての乗員は頭や手、その他の体の一部を車から出さないようにしてください。

● 4WD車：オフロード走行をしないでください。
本格的なオフロード走行を目的とした4WD車ではありません。やむを得ずオフロードを走行するときは、慎重に運転してください。

● 渡河などの水中走行はしないでください。
電装品のショートやエンジンの破損など、重大な車両故障の原因になるおそれがあります。

■すべりやすい路面を運転するとき

- 急ブレーキ・急加速・急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなるおそれがあります。
- 急激なアクセル操作、シフト操作によるエンジンブレーキやエンジン回転数の変化は、車が横すべりするなどのおそれがあります。
- 水たまり走行後はブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いたりしてハンドルをとられるおそれがあります。

⚠️ 警告

■ シフトポジションを変更するとき

- 前進側のシフトポジションのまま惰性で後退したり、Rのまま惰性で前進することは絶対にやめてください。エンジンが停止し、ブレーキの効きが悪くなったりハンドル操作が重くなったりして、思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあります。
- 車両が動いているあいだは、Pポジションスイッチを押さないでください。トランスミッションにダメージを与えることなく車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 車両が前進しているあいだは、シフトポジションをRにしないでください。トランスミッションにダメージを与えることなく車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 車両が後退しているあいだは、シフトポジションを前進側のシフトポジションにしないでください。トランスミッションにダメージを与えることなく車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 走行中にシフトポジションをNにすると、トランスミッションとエンジンの動力伝達が解除され、エンジンブレーキが効かなくなります。
- アクセルペダルを踏み込んだままシフト操作をしないでください。シフトポジションがPまたはN以外になると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。シフトポジションの変更後は、メーター内のシフトポジション表示灯で現在のシフトポジションを必ず確認してください。

■ 繼続的にブレーキ付近から警告音（キーキー音）が発生したとき

できるだけ早くトヨタ販売店で点検を受け、ブレーキパッドを交換してください。必要なときにパッドの交換が行われないと、ディスクローターの損傷につながる場合があります。

パッドやローターなどの部品は、役割を果たすと共に摩耗していきます。摩耗の限度をこえて走行すると故障を引き起こすばかりでなく、事故につながるおそれがあります。

■ 停車するとき

- 空ぶかしをしないでください。シフトポジションがPまたはN以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 車が動き出すことによる事故を防ぐため、エンジン回転中は常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
- 坂道で停車するときは、前後に動き出して事故につながることを防ぐため、常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
- 停車中に空ぶかしをしないでください。排気管が過熱し、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあり危険です。
- 駐車するとき
 - 炎天下では、メガネ・ライター・スプレー缶や炭酸飲料の缶などを車内に放置しないでください。放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。
 - ・ ライターやスプレー缶からガスがもれたり、出火する

⚠ 警告

- ・プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが、変形またはひび割れを起こす
- ・炭酸飲料の缶が破裂して車内を汚したり、電気部品がショートする原因になる
- ライターを車内に放置したままにしないでください。ライターをグローブボックスなどに入れておいたり、車内に落としたままにしておくと、荷物を押し込んだりシートを動かしたときにライターの操作部が誤作動し、火災につながるおそれがあり危険です。
- ウインドウガラスなどには吸盤を取り付けないでください。また、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置かないでください。
吸盤や容器がレンズの働きをして、車両火災につながるおそれがあり危険です。
- シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやドアガラスを開けたまま放置しないでください。
直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの働きをして火災につながるおそれがあり危険です。
- 車から離れるときは、必ずパーキングブレーキをかけ、シフトポジションをPにし、エンジンを停止し、施錠してください。
エンジンがかかっているあいだは、車から離れないでください。
パーキングブレーキをかけずにシフトポジションをPにした状態では、車が動き思わず事故につながるおそれがあり危険です。

- エンジン回転中またはエンジン停止直後は排気管にぶれないでください。やけどをするおそれがあります。

■ 仮眠するとき

必ずエンジンを停止してください。エンジンをかけたまま仮眠すると、無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、事故やエンジンの異常過熱による火災が発生するおそれがあります。さらに、風通しの悪い場所に停めると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ ブレーキをかけるとき

- ブレーキがぬれているときは、普段よりも注意して走行してください。ブレーキがぬれないと、制動距離が長くなり、ブレーキのかかりに、左右の違いが出るおそれがあります。また、パーキングブレーキがしっかりとつからないおそれもあります。
- ブレーキ倍力装置が機能しないときは、他の車に近付いたりしないでください。また、下り坂や急カーブを避けてください。
この場合ブレーキは作動しますが、通常よりも強く踏む必要があります。また制動距離も長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。
- 万一本体が停止したときは、ブレーキペダルをくり返し踏まないでください。ペダルを踏むたびに、ブレーキのアシスト力の蓄えを使い切ってしまいます。

⚠ 警告

- ブレーキシステムは2つの独立したシステムで構成されており、一方の油圧システムが故障しても、もう一方は作動します。この場合、ブレーキペダルを通常より強く踏む必要があり、制動距離が長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。

■ 万一脱輪したときは（4WD車）

いずれかのタイヤが宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください。駆動系部品の損傷や、車両の飛び出しによる思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ 床下に衝撃を受けたとき

ただちに安全な場所に停車し、エンジンを止めてください。ブレーキ液や燃料のもれ、マフラーなど車体下部に損傷がないか確認してください。もれや損傷がある場合はただちに販売店で点検整備を受けてください。もれや損傷を放置すると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■ 運転しているとき

- 運転中にアクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏むと、エンジン出力を抑制する場合があります。
- 坂道で停車するために、アクセルペダルを使ったり、アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。

■ 部品の損傷を防ぐために

- パワーステアリングの損傷を防ぐため、ハンドルをいっぱいにまわした状態を長く続けないでください。
- ディスクホイールなどの損傷を防ぐため、段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。

■ ターボ装置の故障を防ぐために

- 高負荷走行直後は、エンジンを停止しないでください。
必ずアイドル運転を行い、ターボ装置などを冷却してからエンジンを停止してください。
- 排気管／エアクリーナ／スパークプラグなどには純正部品または同等品をお使いください。
- 排気管の改造は絶対にしないでください。
- エンジンが冷えているときは、空ぶかしや急加速は絶対に行わないでください。
- 定期的なオイル交換を必ず行ってください。

■ 走行中にタイヤがパンクしたら

次のようなときはタイヤのパンクや損傷が考えられます。ハンドルをしっかり持って徐々にブレーキをかけ、スピードを落としてください。

- ハンドルがとられる
- 異常な音や振動がある
- 車両が異常に傾く

タイヤがパンクした場合の対処法はP.458, 468を参照してください。

■ 冠水路走行に関する注意

大雨などで冠水した道路では、次のような重大な損傷を与えるおそれがあるため、走行しないでください。

⚠ 注意

- エンストする
 - 電装品がショートする
 - 水を吸い込んでのエンジン破損
万一、冠水した道路を走行し、水中に漫かってしまったときは必ずトヨタ販売店で次の点検をしてください。
 - ブレーキの効き具合
 - エンジン・トランスマッキン・トランスファー（4WD車）・ディファレンシャルなどのオイルやフルードの量および質の変化
 - プロペラシャフト（4WD車）・各ベアリング・各ジョイント部などの潤滑不良
冠水によりシフト制御システムが損傷すると、シフトポジションがPに切りかえられない、またはPから他のシフトポジションに切りかえられなくなる可能性があります。
その場合はトヨタ販売店へご連絡ください。
- 駐車するとき**
- 必ずパーキングブレーキをかけ、シフトポジションをPにしてください。
パーキングブレーキをかけ、シフトポジションをPにしておかないと、車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだときに急発進するおそれがあります。

急発進および後退速度の抑制 (ドライブスタートコントロール)

■ 急発進の抑制制御

アクセルペダルを踏み込んだまま、次のようにシフトポジションを切りかえたとき、エンジン出力を抑

制することができます。

- Rに切りかえたとき※
- PまたはRから、Dなどの前進シフトポジションに切りかえたとき※

この場合、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。表示された画面の指示に従ってください。

* 状況によっては操作できない場合があります。

■ 後退速度の抑制制御

後退時の速度が所定以下となるようエンジン出力を抑制※します。

後退速度の抑制制御が作動しているときは、マルチインフォメーションディスプレイに“速度抑制中”が表示されます。

* 状況によっては所定の速度以下に抑制できない場合があります。

□ 知識

■ ドライブスタートコントロールについて

- TRCの作動を停止（→P.359）すると、急発進の抑制制御も停止します。急発進の抑制制御により、ぬかるみや新雪などからの脱出が困難な場合は、TRCの作動を停止してください。（→P.359）
- タイヤがスリップ（空転）していると、後退速度の抑制制御が作動することがあります。
- 後退速度の抑制制御のON（作動）／OFF（非作動）を切りかえることができます。（→P.493）
 - ・ エンジンスイッチをONにしたときは、

後退速度の抑制制御は常に ON（作動）になっています。

- ・後退速度の抑制制御を OFF（非作動）にしても、急発進の抑制制御は作動します。

荷物を積むときの注意

安全で快適なドライブをするために、荷物を積むときは次のことをお守りください。

⚠ 警告

■ 積んではいけないもの

次のようなものを積むと引火するおそれがあり危険です。

- 燃料が入った容器
- スプレー缶

■ 荷物を積むとき

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、ブレーキペダル・アクセルペダルを正しく操作できなかったり、荷物が視界をさえぎったり、荷物が乗員に衝突したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- できるだけ荷物はラゲージルームに積んでください。
- シート背もたれより高いものをラゲージルームに積まないでください。
- セカンドシート・サードシートのシート背もたれを折りたたんで、寸法が長い荷物を積むときは、できるだけ前席シート背もたれの真うしろには積まないでください。
- ラゲージルームに人を乗せないでください。乗員用には設計されていません。乗員は適切にシートベルトを着用させ、座席に座らせてください。

⚠ 警告

- 次の場所には荷物を積まないでください。
 - ・運転席足元または助手席足元
 - ・助手席やセカンドシート／サードシート（荷物を積み重ねる場合）
 - ・インストルメントパネル
 - ・ダッシュボード

- 室内に積んだ荷物はすべてしっかりと安定させてください。

■荷物の重量・荷重のかけ方について

- 荷物を積み過ぎないでください。
- 荷重を不均等にかけないようにしてください。

これはタイヤに負担をかけるだけでなく、ハンドル操作性やブレーキ制御の低下により思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

エンジン（イグニッショ ン）スイッチ

電子キーを携帯して次の操作を行って、エンジンの始動またはエンジンスイッチのモードを切りかえることができます。

エンジンを始動するには

- 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認するため、パーキングブレーキスイッチを引く（→P.181）

メーター内のパーキングブレーキ表示灯が点灯します。

- 2 ブレーキペダルをしっかりと踏む
マルチインフォメーションディスプレイに  とメッセージが表示されます。
表示されないと、エンジンは始動しません。

シフトポジションが N と表示されているときは、エンジンを始動できません。エンジンの始動時は、シフトポジションを P にしてください。（→P.175）

- 3 エンジンスイッチを短く確実に押す

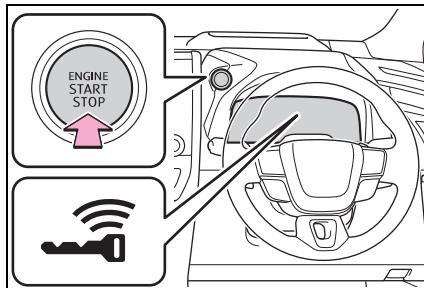
短く確実に押せば、押し続ける必要はありません。

エンジンが始動するまで最大 30 秒間スタートアシストが回転します。

完全にエンジンが始動するまでブレーキペダルを踏み続けてください。

エンジンスイッチのどのモードからでも

エンジンを始動できます。



プラスサポート★をご使用の方は、P.329 も併せて参照してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

□ 知識

■ エンジンが始動しないときは

- エンジンイモビライザーシステムが解除されていない可能性があります。（→P.57）
トヨタ販売店へご連絡ください。
- 始動操作に関するメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示されている場合は、画面の指示に従ってください。
- メカニカルキーを使ってドアを解錠した場合は、スマートエントリー＆スタートシステムでエンジンを始動することができません。エンジンを始動するには、P.479 を参照してください。または、乗車中に電子キーを携帯し、施錠した場合（→P.95）はエンジンを始動できます。

■ バッテリーがあがったときは

スマートエントリー＆スタートシステムでエンジンを始動することができません。エンジンを始動するには、P.480 を参照してください。

■ 電子キーの電池の消耗について

→P.86

■スマートエントリー＆スタートシステムが正常に動かないおそれのある状況

→P.119

■ご留意いただきたいこと

→P.120

■マルチインフォメーションディスプレイに“スマートエントリー＆スタートシステム故障 取扱書を確認”が表示されたときは

システムに異常があるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■電子キーの電池交換

→P.428

■エンジンスイッチの操作について

- スイッチを短く確実に押せてない場合は、モードの切り替えやエンジンの始動ができない場合があります。
- エンジンスイッチ OFF 後、すぐに再始動した場合は、エンジンが始動しない場合があります。エンジンスイッチ OFF 後の再始動は、数秒待ってから操作してください。

■カスタマイズ機能

カスタマイズ機能でスマートエントリー＆スタートシステムを非作動にしたときは、P.478 を参照してください。



警告

■エンジンを始動するとき

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。
思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



注意

■エンジンを始動するとき

- エンジンが冷えた状態で空ぶかしないでください。
- もしエンジンが始動しにくかったり、ひんぱんにエンストする場合は、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■エンジンスイッチの操作について

エンジンスイッチ操作時に引っかかりなどの違和感があるときは、故障のおそれがあります。すみやかにトヨタ販売店にご連絡ください。

エンジンを停止するには

- 1 車両を完全に停止させる
- 2 パーキングブレーキがマニュアルモードのときは、パーキングブレーキをかける (→P.181)
- 3 シフトポジションを P にする (→P.175)

シフトポジション表示灯が P であることと、パーキングブレーキ表示灯が点灯していることを確認します。

4 エンジンスイッチを押す

エンジンが停止し、メーター表示が消えます。(シフトポジション表示灯は、メーター表示が消えたあとも数秒間表示されています)

- 5 ブレーキペダルから足を離して、メーターの“アクセサリー”や“パワー ON”的表示が消灯していることを確認する

□ 知識

■ シフト制御システムについて

シフト制御システムが故障すると、エンジンスイッチを操作して OFF にしようとしても OFF にならないことがあります。その場合は、パーキングブレーキをかけてからエンジンスイッチを操作すると OFF にすることができる場合があります。

システムが故障した場合は、すみやかにお近くのトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ エンジンを停止した時は

エンジンスイッチを OFF にしても、しばらくのあいだ冷却ファンが作動する場合があります。



警告

■ 緊急時のエンジン停止方法

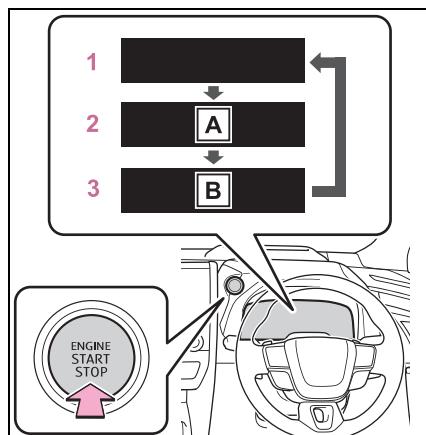
● 走行中にエンジンを緊急停止したい場合には、エンジンスイッチを 2 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押してください。(→P.436) ただし、緊急時以外は走行中にエンジンスイッチにふれないでください。走行中にエンジンを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、バッテリーの残量や使用状況によっては、車両が停止する前に操作力補助がなくなり、ハンドルとブレーキの操作が困難になるおそれがあります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。

● 走行中にエンジンスイッチを操作すると、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示され、警告ブザーが鳴ります。

- 走行中にエンジンを緊急停止したあと、走行中にエンジンを再始動させる場合は、エンジンスイッチを押してください。

■ エンジンスイッチを切りかえるには

ブレーキペダルを踏まずにエンジンスイッチを押すと、モードを切りかえることができます。(スイッチを押すごとにモードが切りかわります)



A アクセサリー

B パワー ON

1 OFF

非常点滅灯が使用できます。

2 ACC※

オーディオなどの電装品が使用できます。メーターに“アクセサリー”が表示されます。

3 ON

すべての電装品が使用できます。

メーターに“パワー ON”が表示されます。

※ カスタマイズメニューで ON / OFF を

切りかえることができます。
(→P.493)

□ 知識

■ ACC カスタマイズが “OFF” のとき

- エンジンスイッチが OFF の状態でも、節電機能が働くまでの一定時間はマルチメディアシステムが使用できます。
- 安心降車アシスト作動時、ブザー吹鳴に加え音声でも案内します。

■ 自動電源 OFF 機能

- シフトポジションが P にあるとき、約 20 分以上エンジンスイッチを ACC または ON（エンジンが始動していない状態）のままにしておくと、エンジンスイッチが自動で OFF になります。
- シフトポジションが P にあるとき、エンジンスイッチが ACC または ON（エンジンが始動していない状態）のときにバッテリーの残量が少なくなると、ブザーが鳴りマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。そのままの状態を続けると、エンジンスイッチが自動で OFF になります。

ただし、自動電源 OFF 機能は、バッテリーあがりを完全に防ぐものではありません。エンジンが始動していないときは、エンジンスイッチを ACC または ON したまま長時間放置しないでください。

⚠ 注意

■ バッテリーあがりを防止するために

- エンジン停止中は、エンジンスイッチを ACC または ON にしたまま長時間放置しないでください。

- エンジン停止中に、メーターの“アクセサリー”または“パワーON”的表示が消灯していない場合、エンジンスイッチが OFF になってしまふ。エンジンスイッチを OFF にしてから車両を離れてください。

オートマチックトランスマッision

目的や状況に応じてシフトポジションを選択してください。

シフトポジションの使用目的について

シフトポジション	目的および状態
P	駐車またはエンジンの始動
R	後退
N	動力が伝わらない状態
D	通常走行※1
M	M モード走行※2 （→P.179）

※¹燃費向上や騒音の低減のために、通常は D を使用してください。パドルシフトスイッチの操作で、走行に適したレンジを選択することができます。

※²M モードは任意のギヤ段に固定して走行することができます。

知識

■レーダークルーズコントロールを使って走行しているとき

エンジンブレーキを目的に D から M にシフトしたり、M ポジションで走行中にシフトダウンしたりしても、レーダークルーズコントロールが解除されずにエンジンブレーキが効かない場合があります。（→P.251）

■AI-SHIFT

AI-SHIFT：

AI-SHIFT は、運転者の運転操作と走行状況により、自動的に適切な変速ギヤ段切

りかえを行います。

AI-SHIFT は、シフトポジションを D にしているときに自動的に作動します。シフトレバーを M にすると、機能が解除されます。

NAVI・AI-SHIFT (T-Connect ナビゲーションシステム装着車)：

NAVI・AI-SHIFT は、ナビゲーションシステムの機能を利用した、高度な自動変速制御の機能です。使用方法は別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

■急発進の抑制について（ドライブスタートコントロール）

→P.167

■シフト操作に関するメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示されたとき

誤操作やシステムの状況等によりシフトポジションが切りかわらない、またはシフト操作が無効にされたときには、切りかえができない原因や、正しい操作方法などに関するメッセージが、マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。その場合は、メッセージに従って操作し直してください。

■バッテリーを脱着したとき

→P.481



警告

■すべりやすい路面を走行するとき

急なアクセル操作や、シフト操作を行わないでください。エンジンブレーキ力の急激な変化が横すべりやスピンの原因になりますので注意してください。

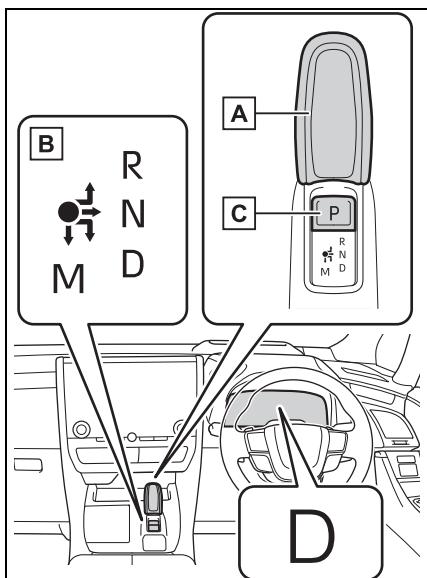
⚠ 注意

■ シフト制御システムの異常が考えられるとき

次のような状態になったときは、シフト制御システムの異常が考えられます。安全で平坦な場所に停車し、パーキングブレーキをかけて、トヨタ販売店にご連絡ください。

- マルチインフォメーションディスプレイにシフト制御システムに関する警告メッセージが表示されたとき（→P.451）
- シフトポジションが選択されていない表示状態が、数秒以上続いているとき

シフトポジションの切りかえ方法と表示について



■ シフトレバー

シフトレバーは、シフトポジション表示灯の矢印に従って、ゆっくり確実に操作してください。

N に切りかえるときは、矢印に沿って操作したあと、しばらく保持します。

シフトレバーを操作したあとは、シフトレバーから手を離してください。シフトレバーが定位置（●）にもどります。

M への切りかえは、シフトポジションが D のときのみ可能です。

P から N・D・R、および N・D・M・R から P へ、または D・M から R、および R から D へ切りかえるときは、ブレーキペダルを踏み、車が完全に停止している状態で行ってください。

■ シフトポジション表示灯

メーター表示：

現在のシフトポジションが表示されます。シフトレバー表示：

現在のシフトポジションが点灯表示されます。

シフトレバーを操作したあとは、シフトポジション表示灯で、目的のシフトポジションに切りかわったことを必ず確認してください。

■ P ポジションスイッチ

P ポジションに切りかえるには、車を完全に停止させ、パーキングブレーキをかけ、P ポジションスイッチを押してください。

シフトポジションを P にすると、スイッチが点灯します。

シフトポジション表示灯が P であることを必ず確認してください。

□ 知識

■ エンジンスイッチの各モードにおけるシフトポジション切りかえ

- エンジンスイッチが OFF または ACC のときはシフトポジションの切りかえはできません。

- エンジンスイッチが ON のときは、N の

みに切りかえが可能です。

- エンジンがかかっているときは、Pから、D・N・Rを選択できます。

■Pから他のシフトポジションに切りかえる

- ブレーキペダルをしっかりと踏みながら、シフトレバーを操作します。(ブレーキペダルを踏まずにシフトレバーを操作すると、ブザーが鳴りシフトポジションの切りかえができません)
- 操作後は、シフトポジション表示灯で、目的のシフトポジションに切りかわったことを必ず確認してください。
- Pから直接、シフトポジションをMに切りかえることはできません。

■シフトポジションを切りかえられなかつた場合

次の操作を行うとブザーが鳴り、シフトポジションが切りかえられなかつたことをお知らせします。適切な操作で、再度シフトポジションを切りかえてください。

- ブレーキペダルを踏まずに、Pからシフトレバーを操作したとき
- アクセルペダルを踏んだまま、Pからシフトレバーを操作したとき
- ブレーキペダルを踏まずに、停車中または極低速走行中にNからシフトレバーを操作したとき
- アクセルペダルを踏んだまま、停車中または極低速走行中にNからシフトレバーを操作したとき
- PまたはNから、Mを選択した
- 走行中に、Pポジションスイッチを押した

極低速走行時は、Pに切りかわることがあります

■シフトポジションが自動的にNに切りかわった場合

次の操作を行うとブザーが鳴り、シフトポジションがNに切りかわったことをお知らせします。適切な操作で、再度シフトポジションを切りかえてください。

- 車両が前進しているときにRを選択した低速走行時はRに切りかわることがあります。
- 車両が後退しているときにDを選択した低速走行時はDに切りかわることがあります。
- RからMを選択した

■走行中にNを選択した場合

一定以上の速度で走行中にNを選択した場合、シフトレバーをNの位置で保持しなくともNに切りかわります。この場合はブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに確認メッセージが表示され、Nにかわったことを運転者に知らせます。

■リバース警告ブザー

シフトポジションをRにするとブザーが鳴り、Rにあることを運転者に知らせます。

■自動Pポジション切りかえ機能について

次のときは、自動的にシフトポジションがPに切りかわります。

- エンジンスイッチがON、かつシフトポジションがP以外の状態で、車両を停止させエンジンスイッチを押したとき(シフトポジションがPに切りかわったあと、エンジンスイッチがOFFになります) *
- シフトポジションがP以外の状態で、万が一、運転席ドアを開け、次の条件をすべて満たしているとき
 - ・エンジンスイッチがON
 - ・運転席シートベルトを着用していない

- ・ ブレーキペダルを踏んでいない
シフトポジションが P に切りかわったあと、車両を発進させるときは、シフトレバーを操作してください。
- 走行中にエンジンを緊急停止したあと、停車したとき
- シフトポジションが P 以外の状態で、バッテリーの電圧が低下したとき
- * 停車直前など、極低速走行時にエンジンスイッチを押すと、自動的にシフトポジションが P に切りかわる場合があります。必ず車両が完全に停止している状態でエンジンスイッチを押してください。

■ シフトポジションが P から切りかわらない場合は

バッテリーあがりの可能性があります。
バッテリーがあがってしまった場合の対処法は、P.480 を参照してください。



警告

■ シフトレバーについて

- シフトレバーのノブを取りはずしたり、純正品以外のノブを取り付けたりしないでください。また、ものをぶら下げたりしないでください。シフトレバーが定位置にもどらなくなって、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 意図せぬシフトポジションの切りかわりを防止するため、操作時以外はシフトレバーにふれないでください。

■ P ポジションスイッチについて

- 車が動いているときは、P ポジションスイッチにふれないでください。
停車直前など、極低速走行中に P ポジションスイッチを押すと、シフトポジションが P に切りかわることがあるため、車が急停止して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 意図せぬシフトポジションの切りかわりを防止するため、操作時以外は P ポジションスイッチにふれないでください。



注意

■ シフトポジションの切りかえ操作について

P から P 以外、および P 以外から P への切りかえ操作を短時間にくり返し行わないでください。そのような操作を行うと、システム保護のため、一定時間 P からの切りかえができなくなることがあります。その場合は、時間をおいてから操作し直してください。

■ 車を降りるとき（運転席のみ）

シフトポジション表示灯が P であることと、パーキングブレーキ表示灯が点灯していることを確認してから、ドアを開け、降車してください。

エコドライブモードの選択

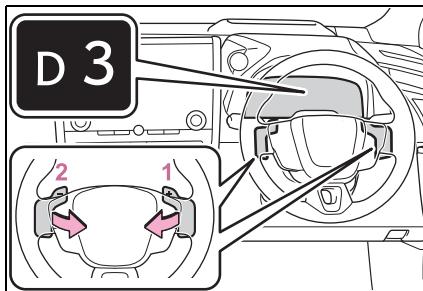
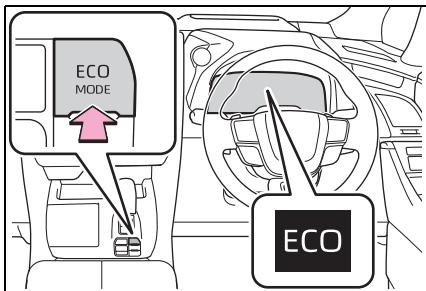
車両駆動力とエアコンの作動を抑え、燃費を向上させる走行に適しています。

エコドライブモードに切りかえるときは、スイッチを押す。

“ECO” 表示灯が点灯します。

もう一度スイッチを押すと、通常走行モードにもどります。

エコドライブモードが ON の状態は、エンジンスイッチを OFF にしても記憶されています。



□ 知識

■ エコドライブモード時のエアコン作動について

エコドライブモードは、暖房／冷房の作動や風量を抑制して、燃費向上を図っています。（→P.371）空調の効きをよりよくしたいときは、風量を調整するか、エコドライブモードを解除してください。

D ポジションでレンジ選択するには

パドルシフトスイッチの“－”または“＋”側を操作すると、一時的にレンジを選択する走行へ切りかわります。

パドルシフトスイッチの“－”側を操作したとき、走行状態に適したエンジンブレーキ力を得られるレンジに切りかえます。パドルシフトスイッチの“＋”側を操作したときは、現在のレンジより1つ上のレンジに切りかえます。レンジを選択することで、使用するギヤ段の上限を制限し、不要なシフトアップを抑えたり、エンジンブレーキ力を切りかえることができます。

1 シフトアップ

2 シフトダウン

D1 から D8 レンジのあいだで選択されているレンジがメーターに表示されます。通常走行にもどすときは、パドルシフトスイッチの“＋”側を一定時間以上保持します。

■ シフトレンジ機能

メーター表示	機能
D2～D8	スピードや走行条件に応じて、1速から選択したギヤまで自動的にかわります。
D1	ギヤが1速に固定されます。

シフトレンジの数字が小さい方がエンジンブレーキ力は大きくなります。

□ 知識

■ D ポジションでのレンジ選択の自動解除

次のとき、自動的に D ポジションでのレンジ選択が解除されます。

- 停車したとき

- アクセルペダルを一定時間以上踏み続けたとき

- シフトポジションを D 以外にしたとき

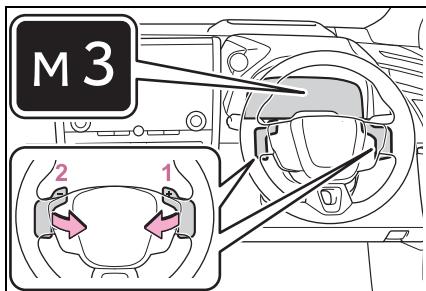
■ シフトダウン制限警告ブザー

安全や走行性能を確保するため、シフトダウン操作には制限があり、パドルシフ

トスイッチを操作してもシフトダウンできない場合があります。(このときブザーが2回鳴ります)

M モードでギヤ段選択するには

シフトポジションをMになると、Mモードに切りかわります。パドルシフトスイッチの操作で思い通りのギヤ段を選択し、運転することができます。



1 シフトアップ

2 シフトダウン

M ポジションでは、次の場合を除いてパドルシフトスイッチを操作しない限り、変速しません。また、車速が低い場合はシフトアップ操作をしても変速しません。

- 車速が低下した場合（シフトダウンのみ）
- エンジン冷却水が低温のときや、オートマチックトランスミッションフルードが高温または低温のときなど、エンジンやオートマチックトランスミッションの保護が必要な場合

□ 知識

■ シフトダウン制限警告ブザー

安全や走行性能を確保するため、シフト

ダウン操作には制限があり、パドルシフトスイッチを操作してもシフトダウンできない場合があります。(このときブザーが2回鳴ります)

自動Pポジション切り替え機能を作動させずに、シフトポジションをNに保持したいときは

● 次の操作を行うと、シフトポジションがPに切りかわるまでの間、自動Pポジション切り替え機能を作動させずに、シフトポジションをNに保持することができます。

- 1 エンジンが始動しているときにシフトレバーを操作し、シフトポジションをNに切りかえる
- 2 シフトレバーを定位置（●）にもどす
- 3 シフトレバーをNの位置に操作しブザーが鳴るまで保持する
- 4 ブザーが鳴ったあと、5秒以内にエンジンスイッチを押す

シフトポジションがNのままエンジンが停止します。*

ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに“N保持中 解除するにはPスイッチを押してください”が表示されたことを必ず確認してください。

- シフトポジションをN以外にするには、Pポジションスイッチを押して一旦シフトポジションをPに切りかえてください。
- 必ずエンジンが始動している状態で操作してください。
エンジン停止状態では、シフトポジションをNに保持できない

場合があります。

- * この状態を維持したい場合は、エンジンスイッチを操作しないでください。エンジンスイッチを繰り返し操作すると、自動的にシフトポジションが P に切りかわったあと、エンジンスイッチが OFF になります。

注意

- 自動 P ポジション切り替え機能を作動させずに、シフトポジションを N に保持したいときは

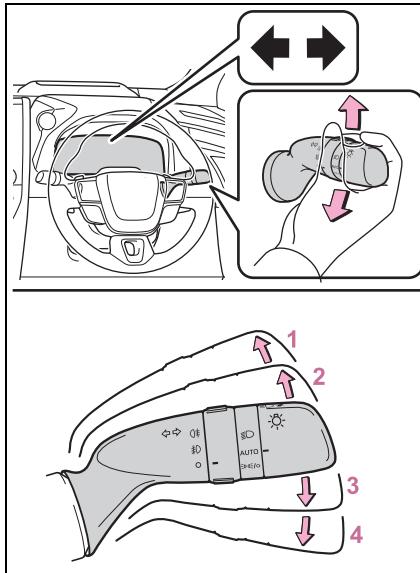
必ずエンジンが始動状態であることを確認してください。

エンジン始動状態以外で操作を行うと、P ポジションに切り替わるおそれがあります。

方向指示レバー

操作のしかた

レバー操作により、次のように運転者の意思を表示することができます。



1 左折

2 左側へ車線変更（レバーを途中まで動かして離す）

左側方向指示灯が 5 回点滅します。

3 右側へ車線変更（レバーを途中まで動かして離す）

右側方向指示灯が 5 回点滅します。

4 右折

知識

■ 作動条件

エンジンスイッチが ON のとき

■ 表示灯の点滅が異常に速くなったとき

各方向指示灯が正常に点滅しているか、

確認してください。

パーキングブレーキ

自動または手動でパーキングブレーキをかける・解除することができます。

オートモードのときは、シフトポジションの操作に応じてパーキングブレーキが自動で作動します。

また、オートモードのときでも手動でパーキングブレーキをかける・解除することができます。

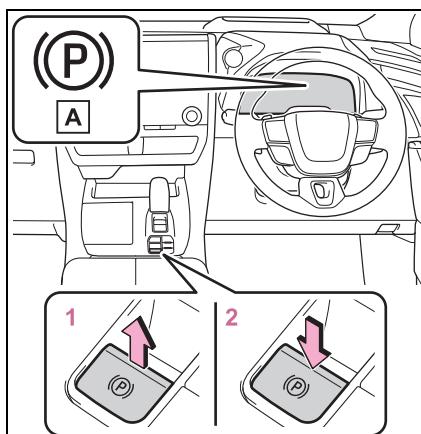
操作のしかた

■ マニュアルモード

手動でパーキングブレーキをかける・解除することができます。

4

運転



A パーキングブレーキ表示灯

- 1 スイッチを引き、パーキングブレーキをかける

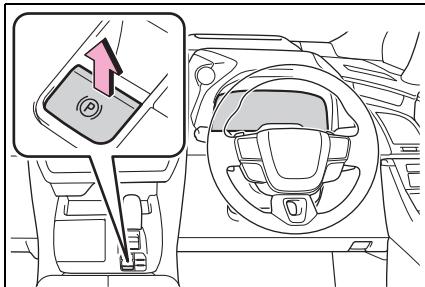
パーキングブレーキ表示灯が点灯します。緊急時、走行中にパーキングブレーキをかける必要があるとき、スイッチを引き続けてください。

2 スイッチを押し、パーキングブレーキを解除する

- ・ブレーキペダルを踏みながら操作してください。
- ・パーキングブレーキ自動解除機能により、アクセルペダルを踏むことでパーキングブレーキを解除することができます。アクセルペダルを踏むときはゆっくり踏んでください。(→P.182)
解除後、パーキングブレーキ表示灯が消灯します。パーキングブレーキ表示灯が点滅した場合は、再度スイッチを操作してください。(→P.450)

■ オートモードを ON にする

停車中に、ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが出るまでスイッチを引き続ける。



オートモードを ON になると、パーキングブレーキが次のように作動します。

- シフトポジションをPからP以外にすると、パーキングブレーキが解除され、パーキングブレーキ表示灯が消灯します。
- シフトポジションをP以外からPにすると、パーキングブレーキがかかり、パーキングブレーキ表示灯が点灯します。

シフトポジションおよび P ポジションスイッチは、停車した状態でブレーキペダ

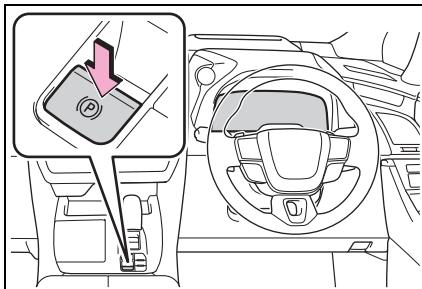
ルを踏みながら操作してください。

急なシフト操作を行ったときやブレーキペダルが十分に踏み込まれていないときに、オートモードが作動しない場合があります。その場合は、手動でパーキングブレーキを操作してください。
(→P.181)

- エンジンを停止すると、パーキングブレーキがかかり、パーキングブレーキ表示灯が点灯します。

■ オートモードを OFF にする

停車中に、ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが出るまでスイッチを押し続ける。



□ 知識

■ パーキングブレーキの作動

- エンジンスイッチが ON 以外では、パーキングブレーキスイッチによる解除はできません。
- エンジンスイッチが ON 以外では、オートモード（かける・解除する）は作動しません。

■ パーキングブレーキ自動解除機能について

次の条件をすべて満たしたとき、アクセルペダルを踏むことによりパーキングブレーキを解除することができます。

- 運転席ドアが閉まっているとき
 - 運転席シートベルトを着用しているとき
 - シフトポジションが前進もしくは後退の位置にある
 - エンジン警告灯やブレーキ警告灯が消灯している
- アクセルペダルを踏むときはゆっくり踏んでください。

アクセルペダルを踏んでもパーキングブレーキが解除しない場合、手動で解除してください。

オートモードではシフトポジションを P から P 以外にすると、パーキングブレーキが自動的に解除されます。

■パーキングブレーキ自動作動機能について

下記の条件をすべて満たしたとき、パーキングブレーキが作動します。

- ブレーキを踏んでいない
- 運転席のドアが開いている
- 運転席のシートベルトを装着していない
- シフトポジションがPもしくはN以外の位置にある
(アドバンストパーク作動中はシフトポジションがPのみ。)
- エンジン警告灯やブレーキ警告灯が消灯している。

■マルチインフォメーションディスプレイに“EPB が連続で操作されました しばらくお待ちください”と表示されたときは

短時間に作動をくり返すと、システムの過熱防止のために作動制限があります。その場合は、操作を控えてください。1 分程度でもとの状態にもどります。

■マルチインフォメーションディスプレイに“EPB 動作が途中で停止しました”または“EPB 現在 使用できません”と表示されたときは

パーキングブレーキスイッチを操作してください。何度か操作してもメッセージが消えない場合は、システムに異常があるおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

■パーキングブレーキの作動音

パーキングブレーキが作動するとき、モーターの音（“ ウィーン ” という音）が聞こえることがあります、異常ではありません。

■パーキングブレーキ表示灯について

- パーキングブレーキをかけたとき、エンジンスイッチのモードによって、次のようにパーキングブレーキ表示灯が点灯します。

ON：パーキングブレーキを解除するまで点灯します。
ON 以外：約 15 秒間点灯します。

- パーキングブレーキをかけた状態でエンジンスイッチを OFF にしたとき、パーキングブレーキ表示灯が約 15 秒間点灯したままになりますが、異常ではありません。

■パーキングブレーキスイッチが故障したとき

自動的にオートモードが ON になります。

■駐車するとき

→P.161

■パーキングブレーキ未解除警告ブザー

パーキングブレーキをかけたまま走行すると、警告ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに“EPB がロックされています”が表示されます。（車速が 5km/h をこえたとき）

■ ブレーキ警告灯が点灯したときは

→P.445

■ 冬季のパーキングブレーキの使用について

→P.365



警告

■ 駐車するとき

お子さまだけを車の中に残したままにしないでください。お子さまが誤ってパーキングブレーキを解除し、車が動き出して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ パーキングブレーキ自動動作動機能について

パーキングブレーキ自動動作動機能を日常のパーキングブレーキ操作のかわりには絶対に使用しないでください。本機能は運転者のパーキングブレーキかけ忘れによって起こる事故を軽減するための機能です。機能に頼ったり、安全を委ねて駐車をしたりすると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 故障などでかかったままになったとき

パーキングブレーキがかかったまま走行すると、ブレーキ部品が過熱し、ブレーキの効きが悪くなったり、早く摩耗したりするおそれがあります。この場合は、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。



注意

■ 駐車するとき

車から離れるときは、シフトポジションを P にし、パーキングブレーキをかけてください。

車が動かないことを確認してください。

■ システムに異常が発生したら

安全な場所に車を停め、警告メッセージを確認してください。

■ バッテリーがあがったとき

パーキングブレーキシステムを作動させることはできません。（→P.480）

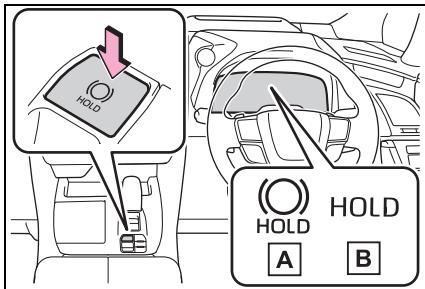
ブレーキホールド

シフトポジションが D・M・N または P でブレーキホールドシステムが ON のとき、ブレーキペダルを踏んで停車するとブレーキがかかったまま保持されます。シフトポジションが D または M のとき、アクセルペダルを踏むと同時に解除され、スムーズに発進できます。

システムを作動させるには

スイッチを押して、ブレーキホールドシステムを ON にする
ブレーキホールドスタンバイ表示灯

A (緑) が点灯します。ブレーキ保持中はブレーキホールド作動表示灯**B** (黄) が点灯します。



知識

■システムの作動条件

次のときはブレーキホールドシステムを ON にできません。

- 運転席ドアが閉まっていない
- 運転席シートベルトを着用していない
- マルチインフォメーションディスプレイに、“EPB 動作が途中で停止しまし

た” や “EPB 故障 販売店で点検してください” が、表示されている

ブレーキホールドシステムが ON のときに上記いずれかを検出したときは、システムが OFF になり、ブレーキホールドスタンバイ表示灯（緑）が消灯します。ブレーキ保持中に検出した場合は、さらに警告音と共にマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示され、自動的にパーキングブレーキがかかります。

■ブレーキ保持について

●ブレーキ保持中にブレーキペダルが踏まれていない状態が約 3 分継続すると、自動的にパーキングブレーキがかかります。このときはブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

●急坂路ではブレーキ保持できないことがあります、その場合運転者が、ブレーキをかける必要があります。このときブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。表示された画面の指示に従ってください。

●ブレーキ保持中にシステムを OFF にするときは、ブレーキペダルをしっかりと踏み、もう一度スイッチを押してください。

●パーキングブレーキを自動的に作動させたくない場合は、ブレーキホールドスイッチを押してスタンバイ表示灯（緑）が消灯したのを確認してからエンジンスイッチを OFF にしてください。

■ブレーキ保持中にパーキングブレーキが自動的にかかったとき

発進時は次のいずれかの操作でパーキングブレーキを解除してください。

- 運転席シートベルトを着用した状態でアクセルペダルを踏む

- ブレーキペダルを踏みながら、パーキングブレーキスイッチを操作して手動で解除する

操作したあとパーキングブレーキ表示灯が消灯したことを確認してください。
（→P.181）

■ トヨタ販売店で点検が必要なときは

ブレーキホールドシステムの作動条件を満たしているときに、ブレーキホールドスイッチを押してもブレーキホールドスタンバイ表示灯（緑）が点灯しないときはシステムの異常が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ マルチインフォメーションディスプレイに“BrakeHold 故障 販売店で点検してください”や“EPB 故障 販売店で点検してください”が表示されたときは

システムに異常があるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ 警告メッセージ・警告ブザーについて

操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージ・警告ブザーで注意をうながします。マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。

■ ブレーキホールド作動表示灯（黄）が点滅したときは

→P.450

⚠ 警告

■ 急坂路では

急坂路でブレーキホールドシステムを使用するときは注意してください。急坂路ではブレーキホールドシステムにてブレーキを保持できないことがあります。

また、勾配によってはシステム自体が作動しないことがあります。

■ すべりやすい路面では

タイヤのグリップ限界をこえて停車させることはできません。すべりやすい路面での使用は控えてください。

⚠ 注意

■ 駐車するとき

ブレーキホールドは長時間駐車するための機能ではありません。ブレーキ保持中にエンジンスイッチを OFF になると、保持が解除されて車が動き出す場合があります。エンジンスイッチを操作するときは、ブレーキペダルを踏み、シフトポジションを P にして、パーキングブレーキをかけてください。

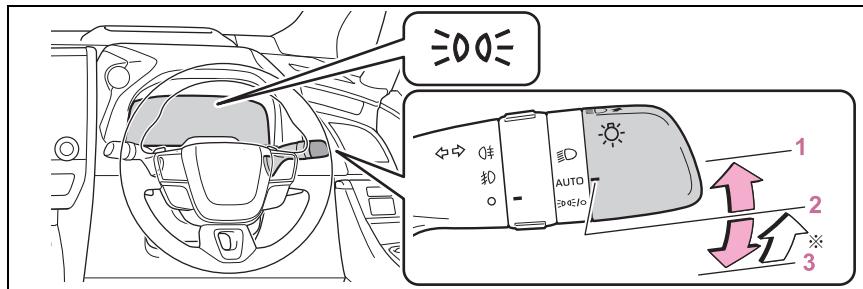
ランプスイッチ

自動または手動でヘッドライトなどを点灯・消灯できます。

点灯／消灯のしかた

■ 点灯する

次のように  スイッチを操作すると、ランプが点灯します。



* スイッチを **3** の位置へ操作し手を離すと、自動的に **2** の位置へもどります。

	点灯状態	
ポジション	周囲が明るいとき	周囲が暗いとき
1	ヘッドライト・スマートランプが点灯	
2 AUTO ※1	LED デイライト (→P.188) が 点灯	ヘッドライト・スマートランプ が点灯
3 ※2	スマートランプが点灯	スマートランプが点灯 ※2

上記の表のスマートランプは、車幅灯・尾灯・番号灯・インストルメントパネルランプを意味します。

*¹操作するたびに、**2 AUTO**による点灯状態と **3** による点灯状態が切りかわります。

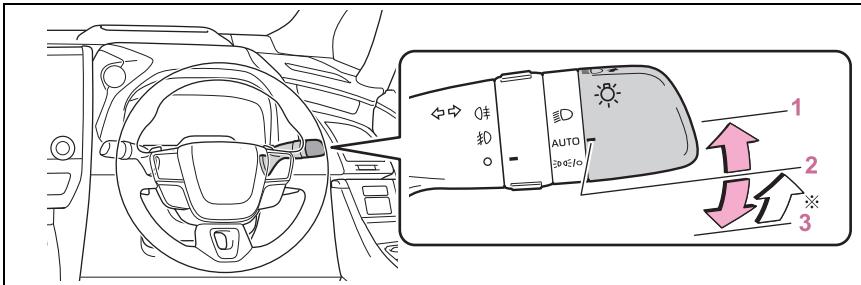
*²停車中のみ点灯可能。車両を発進させると **2 AUTO**による点灯状態に切りかわります。

■ 消灯する

 スイッチを **3** の位置で 1 秒以上保持すると、次のように作動します。

消灯中に **1** または **3** の位置へ操作すると消灯状態が解除されま

す。



* スイッチを **3 明るい** の位置へ操作し手を離すと、自動的に **2 AUTO** の位置へもどります。

点灯状態		
ポジション	周囲が明るいとき	周囲が暗いとき
3 明るい	ヘッドライト・スマートランプ・LED デイライト (→P.188) が消灯	ヘッドライト・スマートランプ が消灯*

上記の表のスマートランプは、車幅灯・尾灯・番号灯・インストルメントパネルランプを意味します。

* 停車中のみ消灯可能。車両を発進させると消灯状態が解除されます。

□ 知識

■ AUTO モードの作動条件

エンジンスイッチが ON のとき

■ LED デイライト機能

日中での走行時、自車が他の運転者から見やすくなるように、エンジン始動後、パーキングブレーキを解除し、ランプスイッチを AUTO にすると、LED デイライトが自動で点灯します。(車幅灯より明るく点灯します)

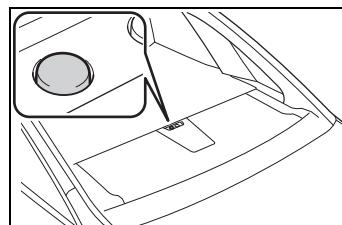
LED デイライトは夜間の使用を意図したものではありません。

■ 自動で点灯／消灯する明るさについて

周囲の明るさに応じて自動的にランプが点灯／消灯します。日中走行中でも周囲の環境や明るさによって、ヘッドライトが自動点灯する場合があります。

■ ライトセンサーについて

センサーの上にものを置いたり、センサーをふさぐようなものをフロントウインドウガラスに貼らないでください。周囲からの光がさえぎられると、自動点灯・消灯機能が正常に働かなくなります。



■ ランプ消し忘れ防止機能

エンジンスイッチを OFF にするとすべてのランプが自動的に消灯します。

再びランプを点灯する場合は、エンジンスイッチを ON にするか、一度ランプス

イッチをAUTOにしてから $\text{ AUTO } \rightarrow \text{ OFF }$ または $\text{ OFF } \rightarrow \text{ AUTO }$ の位置にします。

■ ランプ消し忘れ警告ブザー

エンジンスイッチがACCまたはOFFのとき、ランプが点灯している状態で運転席ドアを開けると、ランプ類の消し忘れを警告するブザーが鳴ります。

■ オートレベリングシステム

通行人や対向車がまぶしくないように、乗車人数・荷物の量などによる車の姿勢の変化に合わせて、ヘッドライトの光軸を自動で調整します。

■ 節電機能

車両のバッテリーあがりを防止するため、エンジンスイッチがOFFの状態でランプが点灯している場合、節電機能が働き約20分後すべてのランプが自動消灯します。

エンジンスイッチをONにすると節電機能は解除されます。

次のいずれかを行った場合、節電機能はいったん解除され、再度節電機能が働き、約20分後すべてのランプが自動消灯します。

● ランプスイッチを操作したとき

● ドアを開閉したとき

■ ドアを解錠するとき（おむかえ照明機能）

ランプスイッチがAUTOの位置で車両周辺が暗いとき、スマートエントリー＆スタートシステムまたはワイヤレスリモコンでドアを解錠すると、車幅灯が自動で点灯します。

■ ワイパー連動ヘッドライト点灯機能

日中の走行時、ランプスイッチが

AUTOでワイパーを作動してしばらくすると、自車が他車から見やすくなるように

ヘッドライトが自動点灯します。※

※ トヨタ販売店での設定変更が必要です。

■ マルチインフォメーションディスプレイに“ヘッドライトシステム故障 販売店で点検してください”が表示されたときは

システムに異常があるおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ カスタマイズ機能

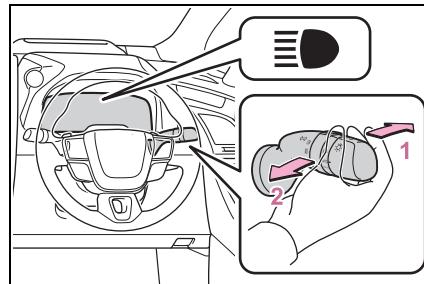
ライトセンサーの感度の設定などを変更できます。（カスタマイズ一覧：→P.493）



注意

■ バッテリーあがりを防止するために
エンジンを停止した状態でランプ類を長時間点灯しないでください。

ハイビームにするには



1 ヘッドライト点灯時ハイビームに切り替え

レバーをもとの位置へもどすとロービームにもどります。

2 レバーを引いているあいだ、ハイビームを点灯

ランプが消灯していても、ハイビームが点灯します。レバーを離すと、ロービームにもどる、または消灯します。

コーナリングランプ

ヘッドライト（ロービーム）点灯時、かつ車速が約30km/h以下のとき、次のいずれかの条件を満たすと、夜間走行時の交差点や駐車時に優れた視認性を確保するため、コーナリングランプが追加点灯し車両進行方向を照射します。

- ハンドルを操作したとき
- 方向指示レバーを操作したとき
- シフトポジションがRのとき
(左右両側のコーナリングランプが点灯)

□ 知識

■コーナリングランプ制御について

点灯した状態で30分間経過すると、自動で消灯します。

AHS（アダプティブハイビームシステム）

アダプティブハイビームシステムは、フロントウインドウガラス上部に設置された前方カメラにより前方車両のランプや街路灯などの明るさを判定し、ヘッドライトの配光を制御します。

⚠ 警告

■安全にお使いいただくために

アダプティブハイビームシステムを過信しないでください。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけ、必要に応じて手動でハイビームとロービームを切りかえてください。

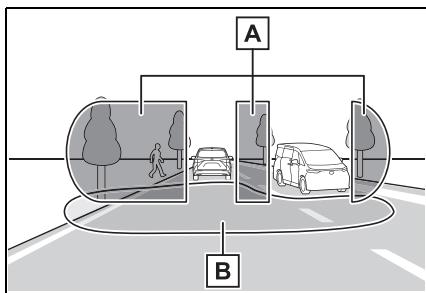
■アダプティブハイビームシステムの誤作動を防ぐために

- システムをOFFにする必要があるとき：→P.207

システムの制御

- 車速に応じて、ハイビームの明るさと照らす範囲を調整します。
- カーブを走行しているとき、進行方向側をハイビームでより明るく照らします。
- 前方車両の周辺を遮光したハイビームを点灯します。（遮光ハイビーム）

前方車両へのまぶしさを緩和しつつ、前方視界の確保を補助します。



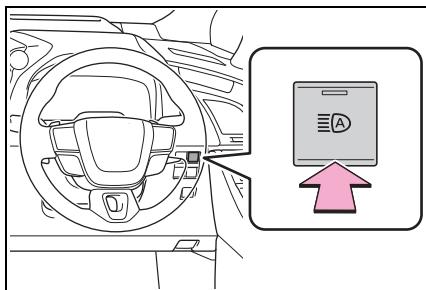
A ハイビームで照らす範囲

B ロービームで照らす範囲

- 先行車との距離に応じて、ロービームの照らす範囲を調整します。

アダプティブハイビームシステムを使うには

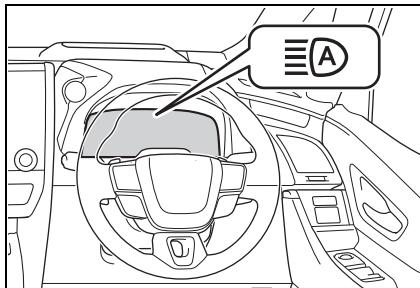
- 1 アダプティブハイビームシステムスイッチを押す



- 2 ランプスイッチをAUTOまたは

- の位置にする
レバーがロービームの位置にあるとき、アダプティブハイビームシステムが作動

し、AHS 表示灯が点灯します。



知識

■システムの作動条件

- 次の条件をすべて満たすと、ハイビームが点灯し、システムが作動します。
 - ・ 車速が約 15km/h 以上 *
 - ・ 車両前方が暗い
- ※ 車速が約 30km/h 以上になると、カーブ走行時に進行方向側を明るく照らします。
- 次の条件をすべて満たすと、前方車両の位置に応じて遮光ハイビームに切りかわります。
 - ・ 車速が約 15km/h 以上
 - ・ 車両前方が暗い
 - ・ 前方にランプを点灯した車両がいる
 - ・ 前方の道路沿いの街路灯などの光が少ない
- 次の条件のいずれかのとき、ロービームに切りかわります。
 - ・ 車速が約 12km/h 以下
 - ・ 車両前方が明るい
 - ・ 前方車両の台数が多い
 - ・ 前方の道路沿いの街路灯などの光が多い

■前方カメラの検知について

- 次のような状況では、ハイビームが自動で遮光ハイビームに切りかわらない場合があります。
 - ・ 車両が割り込んできたとき
 - ・ 他車が前方を横切ったとき

- ・連続するカーブや中央分離帯・街路樹などで前方車両が見え隠れするとき
 - ・前方車両が離れた車線から接近してきたとき
 - ・前方車両が遠方を走行しているとき
 - ・前方車両が無灯火のとき
 - ・前方車両のランプ類の照度が低いとき
 - ・前方車両が自車のヘッドライトなどの強い光を反射しているとき
 - ・センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.212
- 前方車両のフォグランプにより、ハイビームが遮光ハイビームに切りかわる場合があります。
- 街路灯や信号・広告などの照明、または標識・看板・反射板（リフレクター）などの反射物によりハイビームが遮光ハイビームに切りかわる場合や切りかわらない場合、または遮光範囲が変化する場合があります。
- 次の原因により、遮光範囲の追従速度やロービームへの切りかえのタイミングが変化する場合があります。
- ・前方車両のランプの明るさ
 - ・前方車両の動きや向き
 - ・前方車両との車間距離
 - ・前方車両のランプが片側のみ点灯しているとき
 - ・前方車両が二輪車のとき
 - ・道路の状態（勾配やカーブ、路面状況など）
 - ・乗車人数や荷物の量
- ヘッドライトの配光制御が運転者の感覚に合わない場合があります。
- 自転車などの軽車両は検知しない場合があります。
- 次のような状況では、周囲の明るさが正確に検知されず、ハイビームが歩行者や前方車両などの迷惑になる場合や、ロービームが継続する場合があります。このような場合は、手動でハイビームとロービームを切りかえてください。
- ・周囲にヘッドライトや尾灯などに似た光があるとき
 - ・前方車両のランプが無灯火のときや、ランプに汚れや変色があったり光軸がずれているとき
 - ・ハイビームとロービームをひんぱんに切りかえているとき
 - ・ハイビームの点灯が不適切と思われるとき、またはほかの運転者・付近の歩行者の迷惑になるとと思われるとき
 - ・システムをOFFにする必要があるとき：→P.207
 - ・センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.212

■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。（カスタマイズ一覧：→P.493）

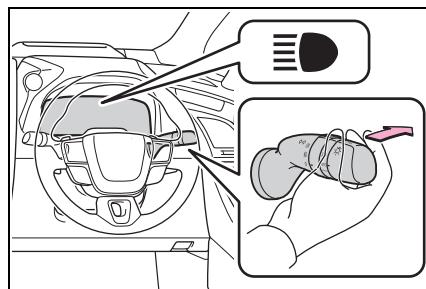
手動制御に切りかえるには

■ハイビームへの切りかえ

レバーを前方へ押す

AHS表示灯が消灯し、ハイビーム表示灯が点灯します。

アダプティブハイビームシステムにもどすには、再度レバーをもとの位置にもどします。

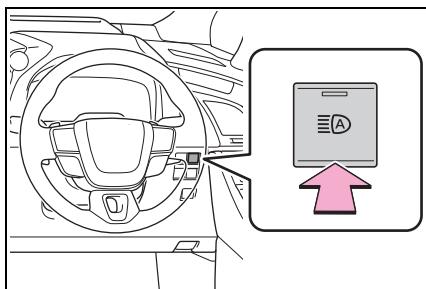


■ロービームへの切りかえ

アダプティブハイビームシステムスイッチを押す

AHS表示灯が消灯します。

アダプティブハイビームシステムにもどすには、再度スイッチを押します。

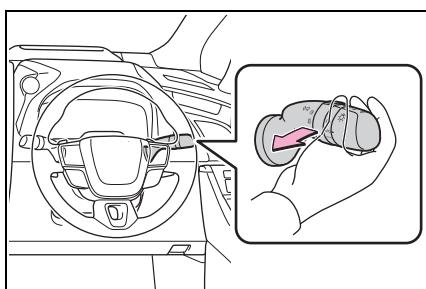


一時的なロービームへの切り替え

ハイビームの使用に問題がある、または他の運転者・付近の歩行者の迷惑になると思われるときに使用します。

レバーを手前に引き、もとの位置にもどす

レバーを引いているあいだはハイビームが点灯しますが、レバーがもとの位置にもどるとしばらくのあいだロービームが点灯します。その後、再度アダプティブハイビームシステムが作動します。



AHB（オートマチックハイビーム）

オートマチックハイビームは、フロントウインドウガラス上部に設置された前方カメラにより前方車両のランプや街路灯などの明るさを判定し、自動的にハイビームとロービームを切り替えます。

⚠️ 警告

■ 安全にお使いいただくために

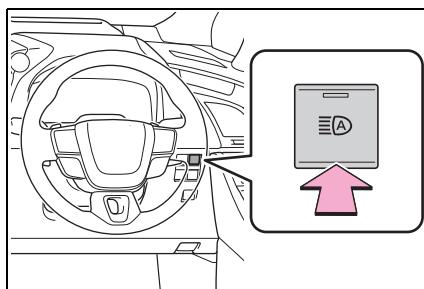
オートマチックハイビームを過信しないでください。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心掛け、必要に応じて手動でハイビームとロービームを切りかえてください。

■ オートマチックハイビームの誤作動を防ぐために

- システムを OFF にする必要があるとき：→P.207

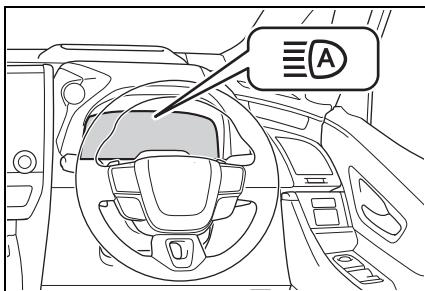
オートマチックハイビームを使うには

1 オートマチックハイビームスイッチを押す



2 ランプスイッチを AUTO または ⚡ の位置にする

レバーがロービームの位置にあるとき、オートマチックハイビームシステムが作動し、AHB 表示灯が点灯します。



□ 知識

■ ハイビームとロービームの自動切り替え条件

●次の条件をすべて満たすと、ハイビームを点灯します。

- ・車速が約 30km/h 以上
- ・車両前方が暗い
- ・前方にランプを点灯した車両がない
- ・前方の道路沿いの街路灯などの光が少ない

●次の条件のいずれかのときはロービームが点灯します。

- ・車速が約 25km/h 以下
- ・車両前方が明るい
- ・前方車両がランプを点灯している
- ・前方の道路沿いの街路灯などの光が多い

■ 前方カメラの検知について

●次の状況では、ハイビームが自動でロービームに切りかわらない場合があります。

- ・車両が割り込んできたとき
- ・他車が前方を横切ったとき
- ・連続するカーブや中央分離帯、街路樹などで前方車両が見え隠れするとき
- ・前方車両が離れた車線から接近してきたとき
- ・前方車両が遠方を走行しているとき
- ・前方車両が無灯火のとき

- ・前方車両のランプ類の照度が低いとき
- ・前方車両が自車のヘッドライトなどの強い光を反射しているとき
- ・センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.212

●前方車両のフォグランプにより、ハイビームがロービームに切りかわる場合があります。

●街路灯や信号・広告などの照明、または標識・看板などの反射物によりハイビームがロービームに切りかわる場合や、ロービームが継続する場合があります。

●次の原因により、ハイビームとロービームの切りかえのタイミングが変化する場合があります。

- ・前方車両のランプの明るさ
- ・前方車両の動きや向き
- ・前方車両との車間距離
- ・前方車両のランプが片側のみ点灯しているとき
- ・前方車両が二輪車のとき
- ・道路の状態（勾配やカーブ、路面状況など）
- ・乗車人数や荷物の量

●ハイビームとロービームが運転者の感覚に合わず切りかわる場合があります。

●自転車などの軽車両は検知しない場合があります。

●次の状況では、周囲の明るさが正確に検知されず、ハイビームが歩行者や前方車両などの迷惑になる場合や、ロービームが継続する場合があります。このような場合は、手動でハイビームとロービームを切りかえてください。

- ・周囲にヘッドライトや尾灯などに似た光があるとき
- ・前方車両のランプが無灯火のときや、ランプに汚れや変色があつたり光軸がずれているとき
- ・ハイビームとロービームをひんぱんに切りかえているとき

- ・ハイビームの点灯が不適切と思われるとき、またはほかの運転者・付近の歩行者の迷惑になると思われるとき
- ・システムを OFF にする必要があるとき：→P.207
- ・センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.212

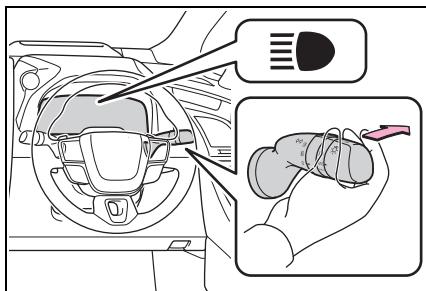
手動制御に切りかえるには

■ ハイビームへの切りかえ

レバーを前方へ押す

AHB 表示灯が消灯し、ハイビーム表示灯が点灯します。

オートマチックハイビームにもどすには、再度レバーをもとの位置にもどします。

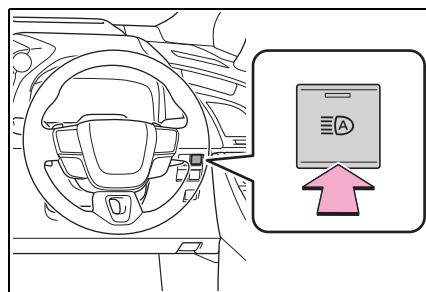


■ ロービームへの切りかえ

オートマチックハイビームスイッチを押す

AHB 表示灯が消灯します。

オートマチックハイビームにもどすには、再度オートマチックハイビームスイッチを押します。

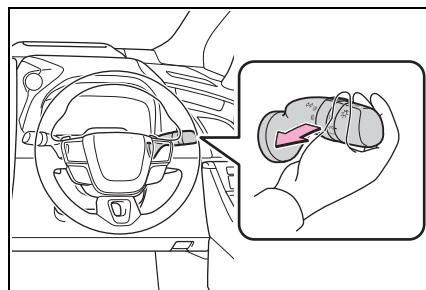


一時的なロービームへの切りかえ

ハイビームの使用に問題がある、または他の運転者・付近の歩行者の迷惑になると思われるときに使用します。

レバーを手前に引き、もとの位置にもどす

レバーを引いているあいだはハイビームが点灯しますが、レバーがもとの位置にもどるとしばらくのあいだロービームが点灯します。その後、再度オートマチックハイビームが作動します。



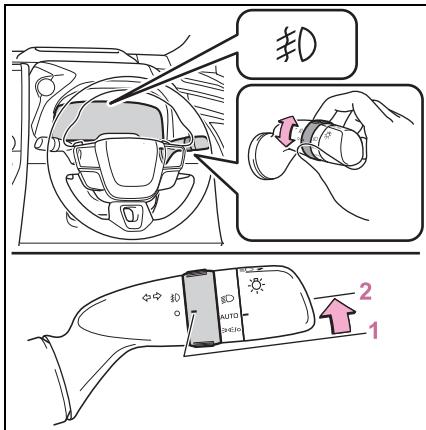
フォグランプスイッチ

雨や霧などの悪天候下では、前方の視界を確保するためにフロントフォグランプを、後続車に自車の存在を知らせるためにリヤフォグランプ★を点灯させます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

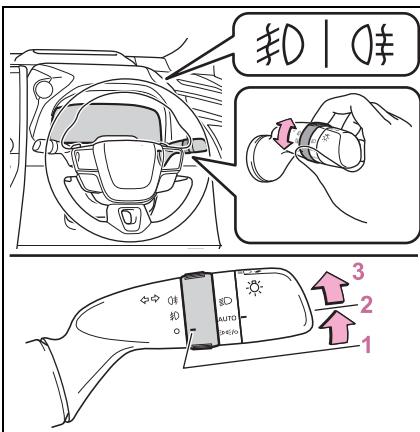
操作のしかた

▶ フロントフォグランプ装着車



- 1 ○ 消灯する
- 2 ⚡ 点灯する

▶ フロント&リヤフォグランプ装着車



- 1 ○ 消灯する
- 2 ⚡ フロントフォグランプを点灯する
- 3 ⚡ フロント&リヤフォグランプを点灯する

手を離すと ⚡ の位置までもどります。

再度操作すると、リヤフォグランプのみ消灯します。

知識

■点灯条件

▶ フロントフォグランプ装着車

ヘッドライトまたは車幅灯が点灯しているときに使用できます。

▶ フロント&リヤフォグランプ装着車

フロントフォグランプ：ヘッドライトまたは車幅灯が点灯しているときに使用できます。

リヤフォグランプ：フロントフォグランプが点灯しているときのみ使用できます。

■リヤフォグランプ★について

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

- リヤフォグランプが点灯しているときは、メーター内の表示灯が橙色に点灯します。
- 雨や霧、雪などで視界が悪いときに後続車に自分の車の存在を知らせるために使用します。視界が悪いとき以外に使用すると後続車の迷惑になる場合があります。必要なとき以外は使用しないでください。



- バッテリーあがりを防止するために**
エンジンを停止した状態でランプ類を長時間点灯しないでください。

ワイパー&ウォッシャー(フロント)

レバー操作でワイパーの作動を自動／手動に切りかえたり、ウォッシャーを作動させたりすることができます。

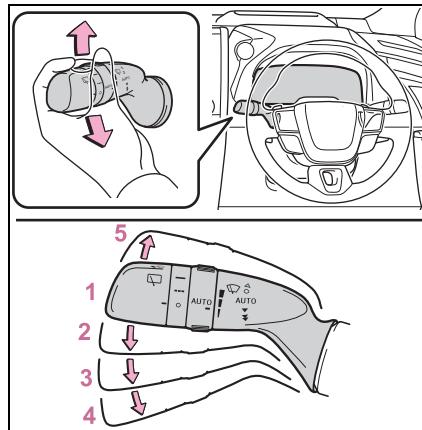


- フロントウインドウガラスが乾いているとき**

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

操作のしかた

次のように レバーを操作すると、ワイパーまたはウォッシャーが作動します。



1 ○ 停止

2 AUTO AUTO モード

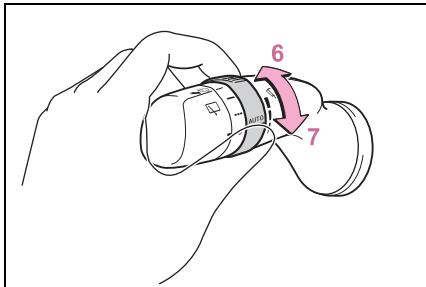
3 ▼ 低速作動

4 ▼ 高速作動

5 △ 一時作動

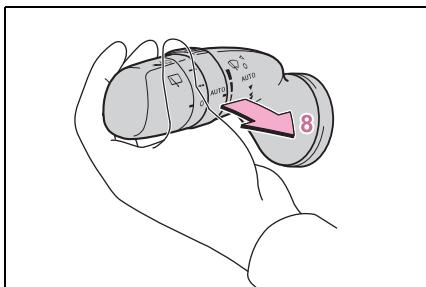
AUTO を選択しているとき、雨滴量と車速に応じてワイパーが作動します。

AUTO が選択されているときは、次のようにツマミをまわして、雨滴センサーの感度を調整できます。



6 雨滴センサーの感度調整（高）

7 雨滴センサーの感度調整（低）



8 ♫ ウォッシャー液を出す

レバーを手前に引くとワイパーと連動してウォッシャーが作動します。

□ 知識

■ 作動条件

エンジンスイッチが ON のとき

■ 液だれ防止作動

ウォッシャー液を噴射するとワイパーが数回作動し、その後、液だれ防止のためにさらに 1 回作動します。

ただし、走行中は液だれ防止作動は働き

ません。

■ 音声対話サービスでの操作について★

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

音声対話サービスを使用して次の操作をすることができます。

● ワイパーを 1 回のみ作動

● フロントウインドウガラス洗浄用のウォッシャー液を出す（停車中のみ操作可能）

音声対話サービスについては、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

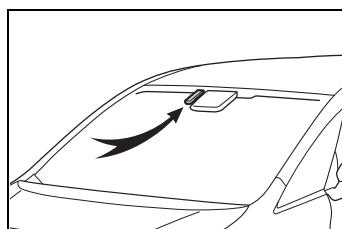
■ 車速による作動への影響

低速作動選択時は停車時のみ間欠作動へ切りかわります。（雨滴センサーの感度調整が最高に調整されているときは、低速作動を続けます）

■ 雨滴感知センサー

● 雨滴感知センサーが雨滴量を判定します。

光学センサーを使用しているため、フロントウインドウガラスに朝日や夕日が断続的にあたるときや、虫などで汚れたときに、正しく作動しないことがあります。



● エンジンスイッチが ON のときにワイパーを AUTO モードになると、動作確認のためワイパーが 1 回作動します。

● AUTO モードのとき雨滴センサーの感度調整を（高）側へ調整すると、動作確認のためワイパーが 1 回作動します。

●雨滴感知センサーの温度が85°C以上または-15°C以下のときは、AUTO作動しないことがあります。その場合は、AUTOモード以外でワイパーを使用してください。

■フロントドア開運動ワイパー停止機能

AUTOモード選択中にシフトポジションがPにあり、ワイパーが作動しているとき、フロントドアを開けるとワイパーの水しぶきが車両の近くにいる人にかかるのを防ぐためにワイパーの作動が停止します。フロントドアを閉めると作動を再開します。

■ウォッシャー液が出ないとき

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないとときは、ノズルのつまりを点検してください。

■走行中にエンジンを緊急停止したとき

エンジンを停止したときにワイパーが作動していた場合は、高速作動でワイパーの作動が継続します。車両停止後にエンジンスイッチをONになると通常作動を再開し、運転席ドアを開けるとワイパーの作動を停止します。



警告

■AUTOモード時のワイパー作動について

AUTOモードでは、センサーにふれたり、フロントウインドウガラスに振動があるなどの要因で不意にワイパーが作動するおそれがあります。ワイパーで指などを挟まないように注意してください。

■ウォッシャーを使用するときの警告

寒冷時はフロントウインドウガラスが暖まるまでウォッシャー液を使用しないでください。ウォッシャー液がフロントウインドウガラスに凍り付き、視界不良を起こして思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



注意

■ウォッシャー液が出ないとき

ウォッシャースイッチを操作し続けないでください。

ポンプが故障するおそれがあります。

■ノズルがつまたときは

ノズルがつまたときはトヨタ販売店へご連絡ください。

ピンなどで取り除かないでください。

ノズルが損傷するおそれがあります。

■雨滴感知センサー

フロントウインドウガラスに撥水コーティングを行うと雨滴感知センサーが雨滴量を正確に感知できず、オート作動が正常に作動しないことがあります。

■バッテリーあがりを防止するために

エンジンを停止した状態でワイパーを長時間作動しないでください。

ワイパー＆ウォッシャー（リヤ）

レバー操作でワイパーを作動させたり、ウォッシャーを作動させたりすることができます。

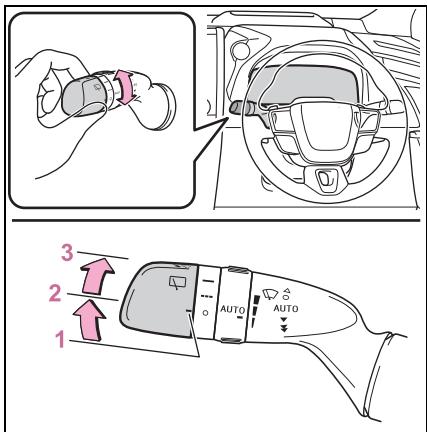
⚠ 注意

- リヤウインドウガラスが乾いているときは

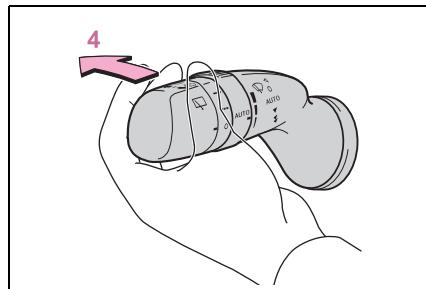
ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

操作のしかた

次のように  スイッチを操作すると、リヤワイパーが作動します。



- 1 ○ 停止
- 2 --- 間欠作動
- 3 — 通常作動



4 ウォッシャー液を出す

レバーを前方へ押すとワイパーと連動してウォッシャーが作動します。
カメラ洗浄システムも連動して作動します。*

* カメラ洗浄システムについては、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

□ 知識

■ 作動条件

エンジンスイッチが ON のとき

■ ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

■ バックドア開運動リヤワイパー停止機能

停車状態でリヤワイパーが作動しているときにバックドアを開けると、ワイパーの水しぶきが車両の近くにいる人にかかるのを防ぐためにワイパーの作動が停止します。バックドアを閉めると作動を再開します。*

* トヨタ販売店での設定変更が必要です。

■ リバース連動機能

フロントワイパーが作動中、かつリヤワイパーを作動させていないとき、シフトポジションを R にすると、リヤワイパーが自動で 1 回作動します。

⚠ 注意

- ウオッシャー液が出ないときは
ウオッシャースイッチを操作し続けないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。
- ノズルがつまつたときは
ノズルがつまつたときはトヨタ販売店へご連絡ください。
ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。
- バッテリーあがりを防止するために
エンジンを停止した状態でワイパーを長時間作動しないでください。

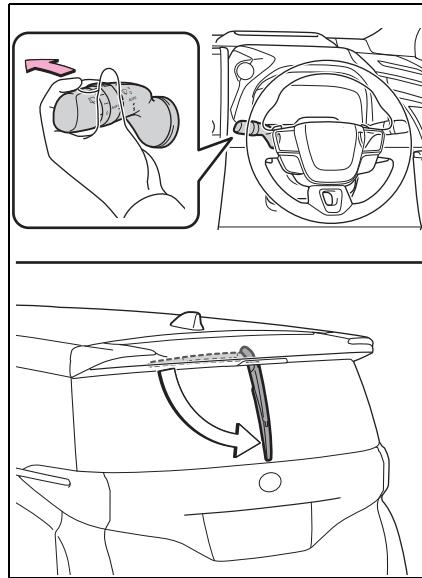
リヤワイパーの停止位置切り替え

リヤワイパーは使用していないとき、リヤスピオナーに格納されています。寒冷時やワイパーゴムを交換するときは、ワイパーの停止位置を格納位置からサービスポジションに切りかえてください。

■ サービス pozi ショ n へ切りかえる

- 1  スイッチを ○ の位置にする
- 2 エンジンスイッチを OFF にする
- 3 エンジンスイッチを OFF にしたあと約 45 秒以内に、ワイパーレバーを前方に押し  の位置で約 2 秒以上保持する

ワイパーがサービスポジションに移動します。



□ 知識

■ リヤワイパーを格納位置にもどすには
エンジンスイッチが ON の状態で、次のいずれか条件を満たしたときにリヤワイパーは格納位置にもどります。

- ・ リヤワイパースイッチを操作したとき
- ・ 車速が約 7km/h 以上
- ・ シフトポジションを R にしたとき

給油口の開け方

給油する前に

- ドアとドアガラスを閉め、エンジンスイッチを OFF にしてください。
- 燃料の種類を確認してください。

知識

■ 燃料の種類について

- 無鉛プレミアムガソリン
- バイオ混合ガソリン（プレミアム）

■ バイオ混合ガソリンについて

エタノールの混合率 10% 以下、または ETBE の混合率 22% 以下のガソリン（酸素含有率 3.7% 以下）を使用することができます。

■ 給油扉が開いているとき（助手席側スライドドア）

→P.100



■ 給油するときは

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと火災を引き起こすなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 給油前にボデーなどの金属部分にふれて体の静電気を除去してください。除去したあとは給油が完了するまで、車内にもどったり、他の人やものにふれないでください。また、給油口に静電気を除去していない人を近付けないでください。
静電気を帯電した人が給油口に近付くと、放電による火花で燃料に引火するおそれがあります。

- キャップはツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けてください。また、キャップをゆるめたときに、“シュー”という音がする場合は、その音が止まるまでキャップを保持してください。

すぐに開けると、気温が高いときなどに、給油口から燃料が噴き出るおそれがあります。

- 気化した燃料を吸わないようにしてください。
燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもあります。
- 噫煙しないでください。
- 給油口にノズルを確実に挿入してください。
- 繰ぎ足し給油をしないでください。
- 正常に給油できない場合は、スタンドの係員を呼んで指示に従ってください。

注意

■ 給油するとき

- 燃料をこぼさないでください。塗装が損傷する可能性があります。

- 無鉛プレミアムガソリン（無鉛ハイオク）が入手できないときは、無鉛レギュラーガソリンを使用することができますが、次のような状態になるおそれがあります。

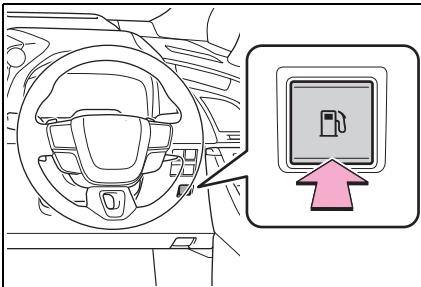
- ・ エンジンからの異音や振動など（ノッキング）が発生する
- ・ エンジンの出力が低下する
- その他の燃料（粗悪ガソリン・軽油・灯油・高濃度バイオ混合ガソリン※）を使用しないでください。その他の燃料を使用すると、次のような状態になるおそれがあります。

⚠ 注意

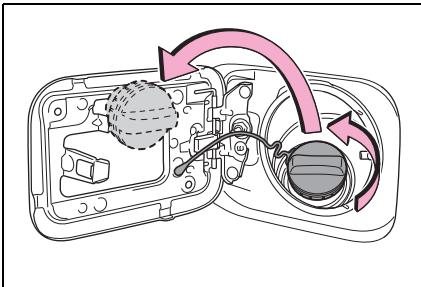
- ・エンジンからの異音や振動など（ノック）が発生する
 - ・エンジンの出力が低下する
 - ・エンジンの始動性が悪くなる
 - ・排気制御システムが正常に機能しない
 - ・燃料系部品が損傷する
- * エタノール混合率 10% をこえるもの、または ETBE 混合率 22% をこえるもの

給油口を開けるには

- 1 給油扉オーブナースイッチを押す



- 2 キャップをゆっくりまわして開け、ホルダーにはめ込む



□ 知識

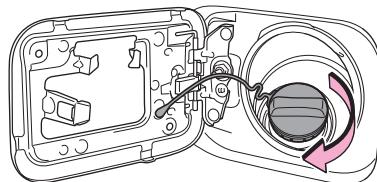
■ 給油扉が開かないとき

トヨタ販売店にご相談ください。

給油口を閉めるには

キャップを“カチッ”と音がするまでまわして閉める

手を離すと、キャップが逆方向に少しもどります。



⚠ 警告

■ キャップが正常に閉まらないとき

必ずトヨタ販売店へご連絡ください。正常に閉まらないキャップをそのまま使用したり、純正品以外のキャップを使用すると、火災などを引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

ソフトウェアアップデートを確認する（Toyota Safety Sense／アドバンスト ドライブ【渋滞時支援】装着車）

T-Connectご利用契約中のお客様は通信モジュール（DCM）を使ってソフトウェアアップデートを実施することで、システムのアップデート・機能の変更／追加ができます。

⚠ 警告

■ 安全にお使いいただくために

- Toyota Safety Sense／アドバンスト ドライブ（渋滞時支援）は、ソフトウェアを更新することで各機能の取り扱い方法が変わることがあります。正しい取り扱い方法を知らずにシステムを使用すると、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- トヨタ公式 Web サイトにある、システムのソフトウェアバージョンに合ったデジタル取扱説明書をお読みいただいた上でご使用ください。

Toyota Safety Sense／アドバンスト ドライブ（渋滞時支援）の取扱説明書での記載内容について

本取扱説明書では、Ver.2までの情報を記載しています。Toyota Safety Sense／アドバンスト ドライブ（渋滞時支援）各機能の制御内容・取り扱い・警告／注意事項などの最新情報については、トヨタ公式 Web サイトにあるデジタル取扱説明書で確認することができます。

納車後にソフトウェア更新がされた場合は、ご使用前に必ずシステムのソフトウェアバージョンに合った取扱説明書をお読みください。

□ 知識

■ ご使用にあたっての留意事項

- お客様の安全に関する問題や法規上の問題が発生したときは、一時的に一部の機能を作動不可にすることがあります。あらかじめご了承ください。
- T-Connect 利用契約が未契約／未更新の場合、無線通信によるソフトウェアアップデートは行われません。

自車の Toyota Safety Sense／アドバンスト ドライブ（渋滞時支援）のバージョンに合った取扱方法をお読みいただくには

納車後にソフトウェア更新がされた場合には、システムのソフトウェアバージョンを確認した上で、トヨタ公式 Web サイトにアクセスする必要があります。

■ マルチメディアディスプレイでバージョンを確認する

運転支援機能の更新に関するお知らせ、または運転支援アップデートアプリケーションから現在のソフトウェアバージョンを確認することができます。

- 1 メインメニューの  を選択する
- 2 “運転支援アップデート”を選択する

■ 自車の Toyota Safety Sense／アドバンスト ドライブ(渋滞時支援)のバージョンに合った取扱方法を読む

- 1 パソコンやスマートフォンから、以下 URL にアクセスする

URL	QR コード
https://manual.toyota.jp/safetysu/	

- 2 事前に確認したバージョンが含まれたファイルを選択する



■ デジタル取扱説明書について

ご希望の場合、印刷した冊子を購入することもできます。詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

ソフトウェアを更新する

ソフトウェアアップデートがある場合、マルチメディアディスプレイに通知画面が表示されます。画面の指示に従ってください。

ソフトウェアを更新することで、各機能の取り扱い方法が変わったり、機能が追加されたりすることがあります。

変更・追加された内容は、トヨタ公式 Web サイトにあるデジタル取扱説明書で確認することができます。



■ ソフトウェアアップデートについて留意事項

- 一度ソフトウェアアップデートを実施すると、前のバージョンにもどすことはできません。
- 通信環境や更新内容によって、ソフトウェアアップデートに数時間かかることがあります。エンジンスイッチを OFF にすると更新は中断されますが、再度 ON にすると

前回の続きから再開します。

- ソフトウェアアップデートの実施中でも Toyota Safety Sense／アドバンスト ドライブ（渋滞時支援）を使用することができます。
- 次のようなときは自動でソフトウェアアップデートを実施することがあります。
 - ・ システムの不具合など、お客様の安全に関わる問題が発生したとき ※
 - ・ 法規上の問題が発生したとき ※
 - ・ 取り扱い方法や性能に影響がない、軽微な修正を行うとき

※ すべての更新内容がインストールされ、ソフトウェアが最新の状態になることがあります。

■ 運転支援機能の更新通知、または運転支援アップデートアプリケーションで確認できること

次の項目を確認、または実行できます。

- ソフトウェアのバージョン、更新内容、注意事項、使い方などの表示
- ソフトウェアの更新履歴表示へのリンク
- ソフトウェアの更新

Toyota Safety Sense

Toyota Safety Sense は、運転支援装置によって運転者を補助し、安全で快適なドライブを支援します。



■ Toyota Safety Sense について

Toyota Safety Sense は運転者の安全運転を前提としたシステムであり、事故被害や運転負荷の軽減に寄与することを目的としています。

本システムは認識性能・制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

■ 安全にお使いいただくために

- システムを過信しないでください。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。本システムはあらゆる状況で動作するものではなく、支援には限界があります。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- お客様ご自身で作動テストを行わないでください。

対象や状況によってはシステムが正常に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- 走行操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージ・警告ブザーで注意をうながします。ディスプレイに警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。

- 外部の騒音やオーディオの音などにより、警報ブザーが聞きとりにくい場合があります。また、路面状況などにより、システムの作動を感じにくい場合があります。

■ システムを OFF にする必要があるとき

次のときは、システムを OFF にしてください。

システムが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 過積載やパンクで車両が傾いているとき

- 過度な高速走行をしているとき

- けん引時

- トラック／船舶／列車などに積載するとき

- 車両をリフトで上げ、タイヤを空転させるとき

- 点検でシャシーダイナモやフリーローラーなどを使用するとき

- オフロード走行やスポーツ走行をするとき

- 洗車機を使用するとき

- センサーヤやセンサー周辺への衝撃などによりセンサーの向きがずれいるとき、変形しているとき

- センサーヤやライトをさえぎるような装備品を装着しているとき

⚠️ 警告

- 応急用タイヤ・タイヤチェーンなどを装着しているとき、タイヤパンク応急修理キットで修理したとき
- タイヤの残り溝が十分にないとき、または空気圧が不足しているとき
- メーカー指定のサイズ以外のタイヤを装着しているとき
- 事故や故障などにより走行不安定なとき

運転支援装置

- AHS（アダプティブハイビームシステム）
→P.190
- AHB（オートマチックハイビーム）
→P.193
- PCS（プリクラッシュセーフティ）
→P.216
- LTA（レントレーシングアシスト）
→P.225
- LDA（レーンディパーチャーラート）
→P.234
- LCA（レーンチェンジアシスト）
→P.230
- FCTA（フロントクロストラフィックアラート）
→P.244

■ PDA（プロアクティブドライビングアシスト）

→P.239

■ 発進遅れ告知機能

→P.246

■ RSA（ロードサインアシスト）

→P.248

■ レーダークルーズコントロール

→P.251

■ クルーズコントロール

→P.261

■ ドライバー異常時対応システム

→P.264

■ ドライバーモニター

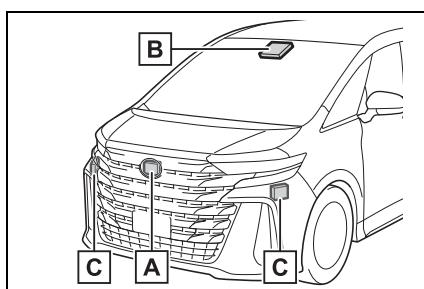
→P.215

Toyota Safety Sense で使用するセンサー

複数のセンサーにより、システムの作動に必要な情報を認識します。

■ 周囲の状況を検出するセンサー

▶ フロント

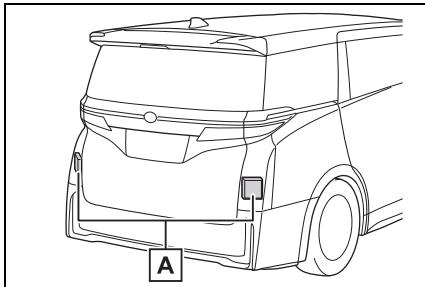


A 前方レーダー

B 前方カメラ

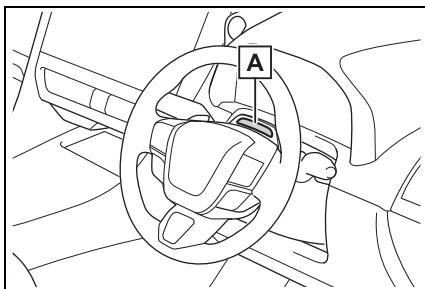
C 前側方レーダー

▶ リヤ



A 後側方レーダー

■ 運転者の状態を検出するセンサー



A ドライバーモニターカメラ

⚠ 警告

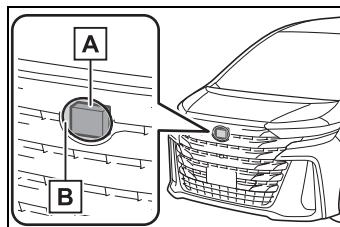
■ レーダーの故障や誤作動を防ぐために

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、レーダーが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- レーダーとレーダー専用カバーは常にきれいにしておく

レーダー前面やレーダー専用カバー前後面に汚れ・水滴・雪などが付着した場合は、取り除いてください。

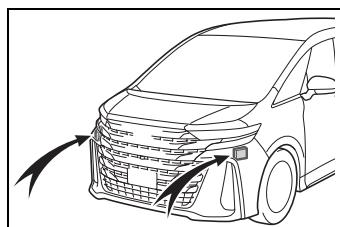
お手入れをする際は、レーダーやレーダー専用カバーを傷付けないよう、やわらかい布で汚れをふき取ってください。



A レーダー

B レーダー専用カバー

- 前側方レーダー装着車：前側方レーダー周辺のフロントバンパーは常にきれいにしておく



- レーダーやレーダー専用カバー周辺にアクセサリーを付けたり、ステッカー（透明なものも含む）などを貼ったりしない

- レーダー周辺への衝撃を避ける
レーダー／フロントグリル／フロントバンパーに衝撃を受けた際は、必ずトヨタ販売店で点検を受けてください。

- レーダーを分解しない

⚠ 警告

- レーダーやレーダー専用カバーを改造、塗装したりしない。純正部品以外に交換しない。
- 次のようなときは、レーダーの再調整が必要です。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。
 - レーダーを脱着や交換したとき
 - フロントバンパー／フロントグリルを交換したとき

■ヒーター機能付レーダー専用カバーについて★

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

レーダー専用カバーに雪が堆積する可能性があるとシステムが判断した場合、ヒーターが自動的に作動します。お手入れなどでレーダー専用カバー周辺にふれるときは、十分に冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。

■前方カメラの故障や誤作動を防ぐために

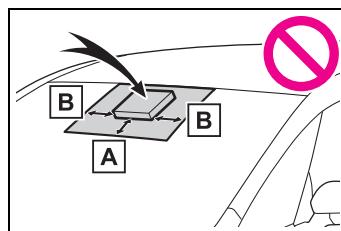
次のことをお守りください。

お守りいただかないと、前方カメラが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死につながるおそれがあります。

- フロントウインドウガラスは常にきれいにしておく

- フロントウインドウガラス外側に汚れ・油膜・水滴・雪などが付着した場合は、取り除いてください。
- フロントウインドウガラスにガラスコーティング剤を使用していても、前方カメラ前部に水滴などが付着した場合は、ワイパーでふき取ってください。
- フロントウインドウガラス内側の前方カメラ取り付け部が汚れた場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

- フロントウインドウガラスの前方カメラ前部（図に示す範囲内）にステッカー（透明なものを含む）などを貼り付けない



A 約 4cm

B 約 4cm

- 前方カメラ前部のフロントウインドウガラスが曇ったり、結露したり、凍結したりした場合は、エアコンの機能を使用する

- 前方カメラ前部のフロントウインドウガラスの水滴をワイパーが正しくふき取れないときは、ワイパーゴムまたはワイパークリーナーを交換する

- フロントウインドウガラスにフィルムを貼らない

⚠️ 警告

- フロントウインドウガラスに傷・ひびなどが生じた場合は、そのまま放置せずに交換する
フロントウインドウガラスの交換後は、前方カメラの再調整が必要です。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。
- 前方カメラに液体をかけない
- 前方カメラに強い光を照射しない
- 前方カメラのレンズを汚したり、傷を付けたりしない
フロントウインドウガラス内側を掃除するときは、ガラスクリーナーがレンズに付着しないようにしてください。また、レンズにはふれないでください。
レンズに汚れ・傷がある場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
- 前方カメラに強い衝撃を加えない
- 前方カメラの取り付け位置や向きを変更したり、取りはずしたりしない
- 前方カメラを分解しない
- インナーミラーなどの前方カメラ周辺部品や天井を改造しない
- ボンネット・フロントグリル・フロントバンパーに、前方カメラの視界をさえぎる可能性のあるアクセサリーを取り付けない
詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。
- ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボードなど）を積むときは、前方カメラの視界をさえぎらないようにする
- ヘッドランプなどのランプ類を改造しない

■ フロントウインドウガラスの前方カメラ取り付け部について

フロントウインドウガラスが曇る可能性があるとシステムが判断した場合、ヒーターにより前方カメラ周辺のフロントウインドウガラスの曇り取りが自動的に作動します。お手入れなどで前方カメラ周辺にふれるときは、十分にフロントガラスが冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。

■ ドライバー モニター カメラの取り扱いについて

次のことをお守りください。
お守りいただかないとい、ドライバー モニター カメラの故障や誤作動によりシステムが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ドライバー モニター カメラおよびその周辺に強い衝撃を与えない
強い衝撃を受けると、ドライバー モニター カメラの位置や向きがずれ、運転者を正しく検知できなくなるおそれがあります。必ずトヨタ販売店で点検を受けてください。
- ドライバー モニター カメラを分解・改造しない
- ドライバー モニター カメラおよびその周辺にアクセサリーを付けたり、ステッカー（透明なものを含む）などを貼ったりしない
- ドライバー モニター カメラおよびその周辺に液体をかけない
- ドライバー モニター カメラの前にものを置いたり、覆ったりしない
- ドライバー モニター カメラのレンズを傷付けない

⚠ 警告

- ドライバー モニター カメラのレンズをさわったり、汚したりしない
レンズに指紋や汚れが付着した場合は、レンズを傷付けないよう乾いたやわらかい布でふき取ってください。
- お手入れする際は、樹脂を腐食させるような洗剤・有機溶剤を使用しない



知識

■ センサーが正しく作動しないおそれがあるとき

- 車両の高さや傾きが変わるような改造をしているとき
- フロントウインドウガラスが汚れているときや、曇っているとき、ひび割れや破損があるとき
- 外気温が高温または低温のとき
- センサー前面に泥、雨滴、雪、虫、ゴミなどが付着したとき
- 悪天候時（雨・霧・雪・砂嵐など）
- 前方に水／雪／土ぼこりなどの巻き上げや水蒸気・煙があるとき
- 夜間やトンネル内など暗い場所でヘッドライトを点灯していないとき
- ヘッドライトのレンズが汚れて照射が弱いとき
- ヘッドライトの光軸がずれているとき
- ヘッドライトが故障しているとき
- 対向車のヘッドライト光／太陽光／反射光などが前方カメラに入射しているとき
- 急激な明るさの変化があるとき
- テレビ塔／放送局／発電所／レーダー搭載車両など、強い電波やノイズが発生する場所の近くを走行するとき

- ワイパープレードがセンサーの視界をさえぎっているとき

- 周囲に次のようなレーダーの電波を反射するものがあるとき

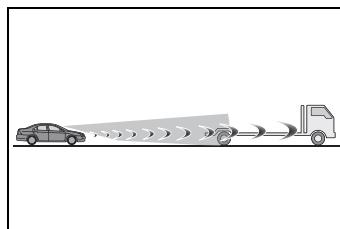
- ・ トンネル
- ・ トラス橋
- ・ 砂利道
- ・ 輻のある雪道
- ・ 壁
- ・ 大型トラック
- ・ マンホール
- ・ ガードレール
- ・ 鉄板

- 周囲に段差や突起物があるとき

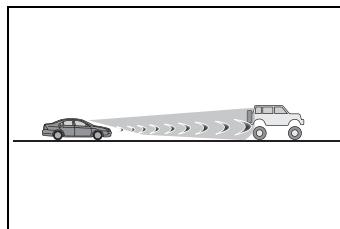
- 超小型モビリティなどのように対象車両の全幅が狭いとき

- 空荷のトラックなど対象車両の前端・後端面積が小さいとき

- 低床トレーラーなど対象車両の前端・後端が低い位置にあるとき



- 対象車両の最低地上高が極端に高いとき



- 対象車両の荷台から荷物がはみ出しているとき

- 対象車両の一部が布で覆われているなど金属の露出が少ない車両のとき

- トラクター・サイドカーなど対象車両が特殊な形状のとき
 - 対象車両との車間距離が極端に短くなったとき
 - 対象車両の位置がずれているとき
 - 対象車両に雪や泥などが付着しているとき
 - 次のような道路を走行しているとき
 - ・ 急なカーブや曲がりくねった道
 - ・ 急な上り坂や下り坂など、路面勾配が変化する道
 - ・ 左右に傾きのある道
 - ・ 路面に深いわだちがある道
 - ・ 整備されていない荒れた道
 - ・ 起伏や段差が多い道路
 - ハンドル操作が不安定なとき
 - 車線内の自車の位置が一定でないとき
 - 本システム部品もしくはブレーキ等の関連部品が冷えている・過熱している・ぬれているなど
 - ホイールアライメントがずれているとき
 - 凍結路・積雪路・砂利道などのすべりやすい路面を走行するとき
 - カーブの形状とは異なる経路で走行するとき
 - カーブに対して進入速度が過度に高いとき
 - 駐車場や車庫、カーエレベータなどに出入りするとき
 - 駐車場内を走行するとき
 - 生い茂った草・垂れ下がった枝・垂れ幕など自車に覆い被さるような障害物がある場所を走行するとき
 - 風が強いとき
- 車線を検知できないおそれがあるとき**
- 車線の幅が極端に狭い、または広いとき

き

- 車線変更をした直後、または交差点を通過した直後
 - 工事によって規制された車線、または仮設の車線を走行しているとき
 - 周囲に車線もしくは類似の構造物、模様、影があるとき
 - 同一車線上に複数の白線があるとき
 - 車線が明瞭でないとき、濡れた路面を走行しているとき
 - 車線が縁石等の上に引かれているとき
 - コンクリート路のような照り返しなどで明るい路面を走行しているとき
- システムの一部もしくは全てが作動しないとき**
- 本システムもしくはブレーキ、ステアリング等関連システムに異常検出時
 - VSC、TRC 等の安全システムが作動時
 - VSC、TRC 等の安全システムが OFF のとき
- ブレーキの作動音や踏み応えの変化について**
- ブレーキが作動したときにブレーキの作動音が聞こえたり、ブレーキペダルの踏み応えがかわったりすることがあります。異常ではありません。
 - システムの制御によるブレーキ作動中はブレーキペダルがお客様の想定よりも固く感じられたり、ブレーキペダルが沈みこんだりすることがあります。どちらの場合もブレーキの踏み増しは可能です。必要に応じてブレーキを踏み増ししてください。
- ドライバーモニターが正常に作動しないおそれがある状況**
- 次のような状況のとき、ドライバーモニターカメラは運転者の顔を検知できず、機能が正常に作動しないおそれがあります。

す。

- 炎天下での駐車後など、車内が高温のとき
- 強い光（太陽光や後続車のヘッドラランプ光など）がドライバーモニターカメラにあたっているとき
- 周囲の構造物の影響などで、車内の明るさがひんぱんに変化するとき
- 強い光（太陽光や対向車のヘッドラランプ光など）が運転者の顔にあたっているとき
- 眼鏡・サングラスのレンズに車内や車外からの光が映り込んでいるとき
- 助手席や後席の乗員が身を乗り出すなど、ドライバーモニターカメラの検知範囲に複数の顔があるとき
- 前に身を乗り出したり、窓から顔を出したりするなど、顔がドライバーモニターカメラの検知範囲から外れているとき
- ハンドルやハンドルを握る手・腕などでドライバーモニターカメラが隠れたとき
- 帽子を被っているとき
- 眼帯を着用しているとき
- 赤外線を通しにくい眼鏡やサングラスをかけているとき
- コンタクトレンズをついているとき
- マスクを着用しているとき
- 笑ったり、眼を細めたりしているとき
- 眼・鼻・口や、顔の輪郭が隠れているとき
- 眼・鼻・口・顔の輪郭が判定できなくなるような化粧をしているとき
- 眼鏡・サングラスのフレームや髪などで眼が隠れているとき
- 車内に近赤外線光源を搭載した機器（市販のドライバーモニタリングシステムなど）があるとき

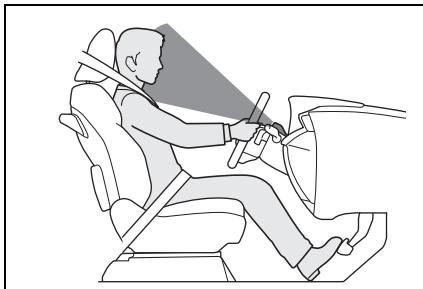
■ レーダーの取り扱い

レーダーセンサーは電波法の基準に適合しています。センサーに印字されているマークはその証明ですので消さないでください。また、製品を分解・改造すると罰せられることがあります。必ず日本国内でご使用下さい。

ドライバーモニター

基本機能

ドライバーモニターカメラで運転者の顔の位置・向きや眼の開閉状態を検知し、運転者が周囲の状況を確認し運転操作できる状態であるかシステムが判断します。



■ 注意喚起

次のようなとき、ブザーとディスプレイ表示で注意喚起を行うことがあります。

- 運転者が脇見していたり眼を閉じているとシステムが判断したとき
- 運転者の顔が検知できなかったり姿勢が崩れているとシステムが判断したとき

■ 顔認証システム

個人特定システムの一機能として、ドライバーモニターは顔認証機能のデバイスとして使われます。

車両での顔認証機能の使い方、他個人特定デバイスとの優先度、連動する車両設定については「マイセッティング」を参照してください。→P.156)

⚠ 警告

■ 安全にお使いいただくために

- ドライバーモニターは運転者の不注意行動や姿勢崩れを未然に防ぐものではありません。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
- ドライバーモニターは運転者の眠気を解消するものではありません。集中力の低下や眠気を感じたら、適度に休憩や仮眠を取り、安全運転に努めてください。

□ 知識

■ 注意喚起

車速が低いときは作動しないことがあります。

■ 顔認証システムについて

ドアを開け閉めすると顔認証が開始されます。

顔認証システムでは、お客様の顔の特徴情報を数値化し、車両に装備されたコンピューター内に保存してマイセッティングにおける認証に利用します。

- お客様の顔の画像／動画や音声を保存することはありません。
- 数値化された顔情報はマイセッティングにおける認証以外での用途では使用いたしません。また、顔情報を読み出すことはできず、第三者へ開示または提供されることはありません。
- 顔情報はお客様自身で削除することができるです。
- 顔情報の取扱いについて、以下項目を同意いただいた上でご利用ください。
 - ・ 顔認証システムは完全な本人認証、照合、識別を保証するものではありません。
 - ・ 顔登録失敗や顔認証失敗が頻発する場合は、ドライバーモニターカメラを清

掃または顔情報を登録し直してください。

- コンピューターに保存した顔情報を読み出したり他の媒体に移行したりすることはできません。消去、部品交換した場合は再度顔情報を登録する必要があります。
- 消去された顔情報は復元することはできません。再度登録を行う必要があります。

■顔認証システムが正しく認識しない場合

本システムは顔の特徴の情報を認証に利用するものです。次の場合、顔登録／認証が正しくできない場合があります。

- 顔の一部（眉、目、鼻、口のいずれか）が隠れている状態
- 眼鏡やサングラス、マスク、マフラー等を着用している
- 正面を向いていない場合
- 髪の毛、ひげ、手、衣服、アクセサリー等で顔の一部が隠れている
- 目を閉じている
- 双子など、顔の特徴情報が極めて似通った非登録者

■ドライバーモニターが正常に作動しないおそれがある状況

→P.213

ドライバーモニターの設定を変更する

ドライバーモニターの設定は、カスタマイズ設定から変更することができます。（→P.502）

PCS（プリクラッシュセーフティ）

進路上の作動対象（→P.217）をセンサーで検出し、衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに、警報やブレーキ力制御により運転者の衝突回避操作を補助します。また、衝突の可能性がさらに高まったと判断したときは、自動的にブレーキを作動させることで、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与します。

必要に応じて、プリクラッシュセーフティのON／OFFや、警報タイミングを切りかえることができます。（→P.225）

⚠ 警告

■安全にお使いいただくために

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
プリクラッシュセーフティを日常のブレーキ操作のかわりには絶対に使用しないでください。本システムはあらゆる状況で衝突を回避または衝突の被害を軽減するものではありません。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 警告

● プリクラッシュセーフティは衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件によりかわります。そのため、常に同じ性能を発揮できるものではありません。

次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。

- ・ 安全にお使いいただくために：
→P.207

■ プリクラッシュセーフティを OFF にするとき

システムを OFF にする必要があるときは：→P.207

システムの作動対象

システムは次のものを作動対象として検出しています。(機能によって、作動対象が異なります)

- 車両
- 自転車 ※
- 歩行者
- 自動二輪車 ※
- 壁

※ 人が乗車している場合のみを作動対象としています。

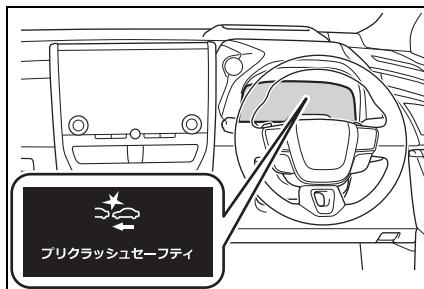
機能一覧

■ 衝突警報

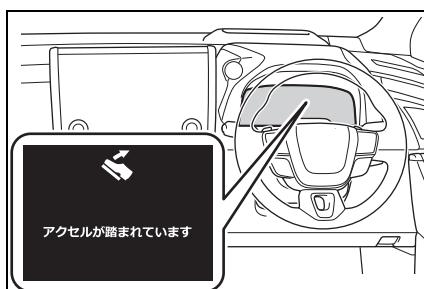
衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、“ピピピ・・・”とブザー音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにア

イコンとメッセージを表示し、回避操作をうながします。

作動対象が車両の場合、緩ブレーキによる警告も行います。



アクセルが強く踏み込まれているとシステムが判断した場合は、図で示すアイコンとメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。



■ プリクラッシュブレーキアシスト

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、運転者のブレーキ操作で不足しているブレーキ力を増強します。

■ プリクラッシュブレーキ

衝突の可能性が高いとシステムが判断したときは、ブレーキが自動でかかり、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の低減に寄与します。

■ 緊急時操舵支援

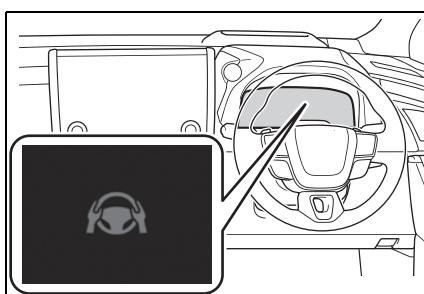
システムが次の条件を全て満たしたと判断した場合、操舵支援を行い、車両の安定性確保と車線逸脱の抑制に寄与します。

作動時には衝突警報に加え、図で示すシンボルがマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

- 衝突する可能性が高い
- 自車線内に回避するための十分なスペースがある
- 運転者の回避操舵があった

運転者の回避操舵にかかわらず、ブレーキとハンドルの制御を行い、衝突回避の支援や衝突被害の軽減に寄与します。

作動時には衝突警報とディスプレイ表示で注意喚起を行います。



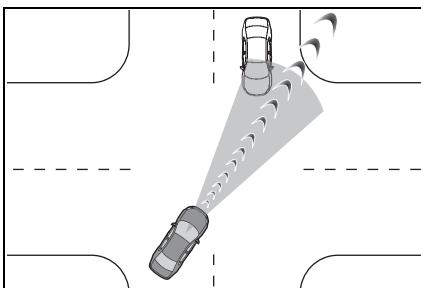
■ 交差点衝突回避支援（右左折）

次のような状況において衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、衝突警報およびプリクラッシュブレーキによる支援を行います。

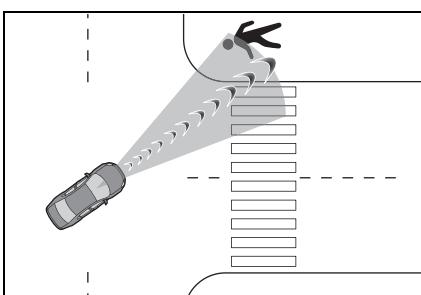
交差点の形状によっては正しく支援できない場合があります。

- 交差点で右折して対向車の進路

を横切るとき



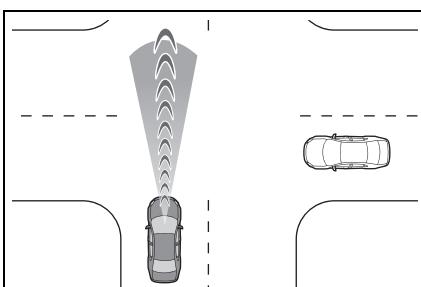
- 右左折中に、横断歩行者や、自転車を検出したとき



■ 交差点衝突回避支援（出合頭車両）

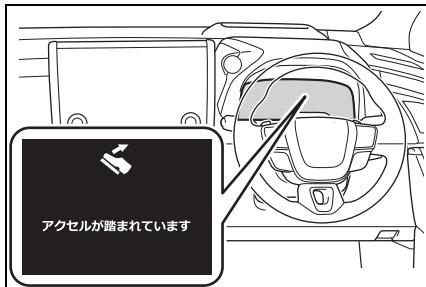
交差点など、側方から接近する車両や自動二輪車との衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、衝突警報およびプリクラッシュブレーキによる支援を行います。

交差点の形状によっては正しく支援できない場合があります。



■ 低速時加速抑制

低速走行時にアクセルペダルが強く踏み込まれ、衝突の可能性があるとシステムが判断したとき、エンジン出力を抑制または弱いブレーキをかけることで加速を抑制します。作動時には、ブザー音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに図で示すアイコンとメッセージを表示します。



⚠ 警告

■ プリクラッシュブレーキについて

- プリクラッシュブレーキが作動したときは、強いブレーキがかかります。
- プリクラッシュブレーキは停止状態を保持する機能ではありません。プリクラッシュブレーキの作動により車両が停止したときは、必要に応じて速やかに運転者自らブレーキをかけてください。
- プリクラッシュブレーキは運転者の操作状態によっては作動しません。運転者がアクセルペダルを強く踏んでいたり、ハンドルを操作したりしていると、運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキが作動しない、または作動が解除される場合があります。

- ブレーキペダルを踏んでいるときは、運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキの作動開始タイミングが遅れる場合があります。

■ 低速時加速抑制について

運転者がハンドルを操作していると、回避操作とシステムが判断し、低速時加速抑制が作動しない、または作動が解除される場合があります。

■ 緊急時操舵支援について

- 緊急時操舵支援は車線逸脱抑制制御が完了したとシステムが判断した段階で作動を解除します。
- 緊急時操舵支援は運転者の操作状態によっては作動しない、または作動中に解除される場合があります。

- ・ 運転者がアクセルペダルを強く踏んでいたり、ハンドルを大きく操作したり、ブレーキを踏んでいたり、方向指示レバーを操作すると、運転者の回避操作とシステムが判断し、緊急時操舵支援が作動しない場合があります。
- ・ 緊急時操舵支援作動中に、アクセルペダルを強く踏んだり、ハンドルを大きく操作したり、ブレーキを踏んでいると、運転者の回避操作とシステムが判断し、緊急時操舵支援の作動が解除される場合があります。
- ・ 緊急時操舵支援作動中に、ハンドルを保持したりシステムと逆方向にハンドル操作した場合には、緊急時操舵支援の作動が解除されます。

知識

■ プリクラッシュセーフティ各機能の作動条件

プリクラッシュセーフティが ON で、前方の作動対象と衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに作動します。

ただし、次のときシステムは作動しません。

- バッテリー端子を脱着したあと、しばらく走行するまでのあいだ
- シフトポジションが R のとき
- VSC OFF 表示灯が点灯しているとき（衝突警報のみ作動可能状態になります）

各機能の作動速度、作動解除は次のとおりです。

● 衝突警報

作動対象	自車速度	相対速度
先行車両、静止車両	約 5 ~ 180km/h	約 5 ~ 180km/h
対向車両	約 30 ~ 180km/h	約 80 ~ 220km/h
自転車	約 5 ~ 80km/h	約 5 ~ 80km/h
歩行者	約 5 ~ 80km/h	約 5 ~ 80km/h
先行自動二輪車、静止自動二輪車	約 5 ~ 180km/h	約 5 ~ 80km/h
対向自動二輪車	約 30 ~ 180km/h	約 30 ~ 180km/h

衝突警報が作動中にハンドルを大きく操作するか、すばやく操作すると、衝突警報が解除される場合があります。

● プリクラッシュブレーキアシスト

作動対象	自車速度	相対速度
先行車両、静止車両	約 30 ~ 180km/h	約 10 ~ 180km/h
自転車	約 30 ~ 80km/h	約 30 ~ 80km/h
歩行者	約 30 ~ 80km/h	約 30 ~ 80km/h
先行自動二輪車、静止自動二輪車	約 30 ~ 180km/h	約 10 ~ 80km/h

● プリクラッシュブレーキ

作動対象	自車速度	相対速度
先行車両、静止車両	約 5 ~ 180km/h	約 5 ~ 180km/h
対向車両	約 30 ~ 180km/h	約 80 ~ 220km/h
自転車	約 5 ~ 80km/h	約 5 ~ 80km/h

作動対象	自車速度	相対速度
歩行者	約 5 ~ 80km/h	約 5 ~ 80km/h
先行自動二輪車、静止自動二輪車	約 5 ~ 180km/h	約 5 ~ 80km/h
対向自動二輪車	約 30 ~ 180km/h	約 30 ~ 180km/h

プリクラッシュブレーキ作動中に次の操作をすると、プリクラッシュブレーキの作動が解除される場合があります。

- ・アクセルペダルを強く踏み込む
- ・ハンドルを大きく操作する、またはすばやく操作する

●緊急時操舵支援

方向指示灯が点滅しているときは、緊急時操舵支援が作動しません。

作動対象	自車速度	相対速度
先行車両、静止車両、自転車、歩行者、自動二輪車	約 40 ~ 80km/h	約 40 ~ 80km/h
先行車両、静止車両、自転車、歩行者、自動二輪車	アクティブ操舵機能：※ ~ 80km/h	アクティブ操舵機能：※ ~ 80km/h

* 下限速度：プリクラッシュブレーキでは回避が困難な速度

緊急時操舵支援作動中に次の操作をすると、緊急時操舵支援の作動が解除される場合があります。

- ・アクセルペダルを強く踏み込む
- ・ハンドルを大きく操作する、またはすばやく操作する
- ・ブレーキペダルを踏む

●交差点衝突回避支援（右左折）

方向指示灯が点滅していないときは、対向車に対する交差点右左折支援が作動しません。

作動対象	自車速度	対向車速度	相対速度
対向車両	約 5 ~ 40km/h	約 5 ~ 75km/h	約 10 ~ 115km/h
歩行者	約 5 ~ 30km/h	—	約 5 ~ 40km/h
自転車	約 5 ~ 30km/h	—	約 5 ~ 50km/h
対向自動二輪車	約 5 ~ 40km/h	約 5 ~ 75km/h	約 10 ~ 115km/h

●交差点衝突回避支援（出合頭車両）

作動対象	自車速度	相手車速度	相対速度
車両、自動二輪車 (側面)	約 5 ~ 60km/h	約 50km/h 以下	約 5 ~ 60km/h

自車速度が約 40km/h 以上 のときは、相手車速度が約 40km/h 以下の場合しか作動しません。

相手車速度が自車速度以下の場合しか作動しません。

●低速時加速抑制

方向指示灯が点滅しているときは、低速時加速抑制が作動しません。

作動対象	自車速度	相対速度
先行車両、静止車両、歩行者、自転車、壁	約 0 ~ 15km/h	約 0 ~ 15km/h

低速時加速抑制の作動中に次の動作をすると、低速時加速抑制の作動が解除されます。

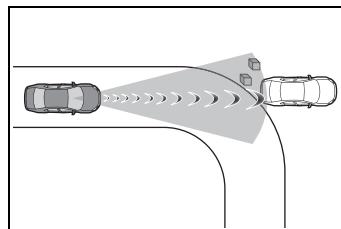
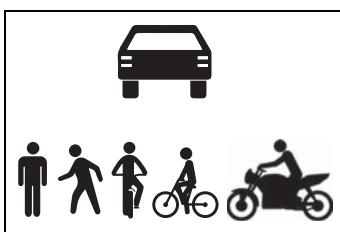
- ・アクセルペダルを離す
- ・ハンドルを大きく操作する、またはすばやく操作する

■作動対象の検出

大きさ・輪郭・動きなどから検出します。周囲の明るさや、作動対象の動き・姿勢・角度などによっては、作動対象を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

図は作動対象として検出する対象のイメージです。

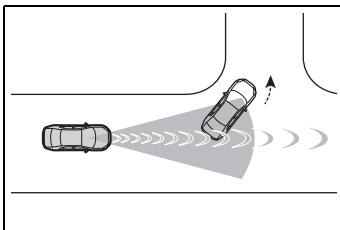
- ・車線を変更して作動対象などを追いこすとき
- ・作動対象などに急接近したとき
- ・道路脇の作動対象や物体（ガードレール・電柱・木・壁など）に近付いたとき
- ・カーブ入り口の道路脇に作動対象や物体などが存在するとき



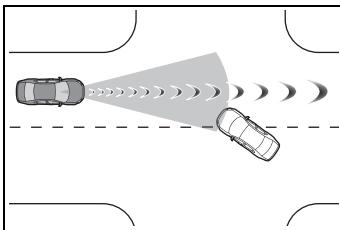
■衝突の可能性が高くなくてもシステムが作動するおそれがあるとき

- 例えば次のような状況では、システムが衝突の可能性が高いと判断し、作動するおそれがあります。
 - ・作動対象などのすぐそばを通過するとき

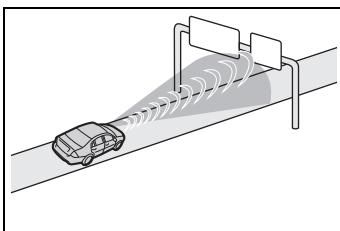
- ・自車の前方に作動対象との区別がつきにくい模様・ペイントがあるとき
- ・車線変更や右左折している作動対象などを追い抜くとき



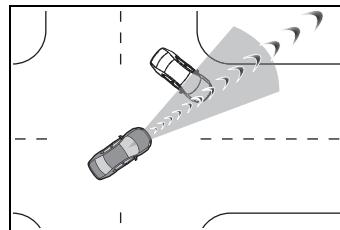
- 右左折待ちの作動対象などとそれ違うとき



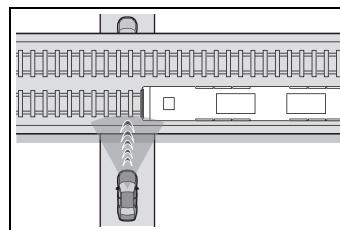
- 作動対象などが自車進路内に入る手前で停止または進路変更したとき
- 道路上方に物体（道路標識や看板など）がある場所を走行するとき



- ETC ゲートや駐車場のゲートなどの開閉バーに接近したとき
- 右左折中に、対向車／対向二輪車／横断歩行者／横断自転車が自車の前方を通過したとき
- 右左折中に、対向車／対向二輪車／横断歩行者／横断自転車の手前を通過しようとしたとき
- 右左折中に、対向車／対向二輪車／横断歩行者／横断自転車が自車進路に入る手前で停止や進路変更したとき
- 交差点内で右折中、対向車が右折しているとき、または左折しているとき



- 対向車の進路に接近するようにハンドルを操作したとき
- 道路上方／下方を移動するものがあるとき

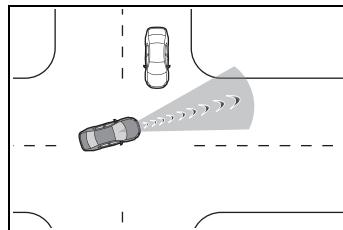


■システムが正常に作動しないおそれがあるとき

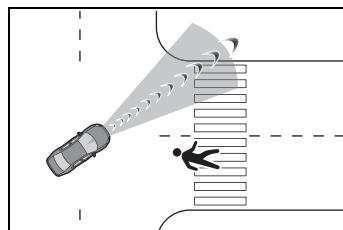
- 例えば次のような状況では、前方センサーが作動対象を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。
- 自車に向かって作動対象が近付いてくるとき
- 自車や作動対象がぶらついているとき
- 作動対象が急な動きをしたとき（急ハンドル・急加速・急減速など）
- 作動対象に急接近したとき
- 作動対象が壁やフェンス・ガードレール・マンホール・路面の鉄板、他の車両などのそばにいるとき
- 上方に構造物がある場所の下に作動対象がいるとき
- 作動対象の一部が他のもので隠れているとき（大きな荷物や傘、またはガードレールなど）
- 作動対象が複数重なっているとき
- 作動対象が太陽光などの強い光を反射しているとき
- 作動対象の色合いか白系統で、極端に

明るく見えるとき

- ・作動対象の色合いや明るさが背景に溶け込んでいるとき
- ・作動対象が割り込んできたり、飛び出してきたりしたとき
- ・斜めを向いている前方車両に近付いたとき
- ・子供用自転車、大きい荷物を載せた自転車、2人以上乗車している自転車、前傾姿勢で乗車している自転車、または特殊な形状の自転車（チャイルドシート装着車・タンデム自転車など）
- ・歩行者・自転車の大きさが約1m以下、または約2m以上のとき
- ・歩行者・自転車の全身の輪郭があいまいなとき（レインコート・ロングスカートを着用している場合など）
- ・歩行者が前かがみになっている、またはしゃがんでいるとき
- ・歩行者・自転車の移動速度が速いとき
- ・歩行者がベビーカー・車いす・自転車などを押しているとき
- ・周囲が薄暗い（朝方・夕方など）、または周囲が暗い（夜間やトンネル内など）など、作動対象が背景に溶け込んでいるとき
- ・エンジンを始動したあと、走行を開始してしばらくのあいだ
- ・右左折中および右左折後の数秒間
- ・カーブ走行中およびカーブを曲がりきってからの数秒間
- ・右折中に、対向車が自車の走行する車線よりも3つ以上離れた車線を走行しているとき
- ・右折中に、自車の向きが対向車線に対する正対方向から大きく外れているとき



- ・右左折中に、歩行者や自転車が自車の後方から追い抜くように前方にでてくるとき



- ・交差点で出会い頭に大型トラック／けん引トレーラーなど全長の長い車両が接近してくるとき

●上記に加えて、例えば次のような状況では緊急時操舵支援が作動しないおそれがあります。

- ・作動対象に近づきすぎたとき
- ・回避するための十分なスペースがない、または回避先に物があるとき
- ・対向車がいるとき

●上記に加えて、例えば次のような状況では壁を作動対象として検知できず、低速時加速抑制が作動しないおそれがあります。

- ・ガラス扉や網目状のフェンスなど壁の背面が透けているとき
- ・壁が傾いていたり、高さが低いとき
- ・壁がポールなど幅の狭いもののとき
- ・壁が生垣など草木のとき
- ・壁に路面などが映りこんでいるとき
- ・自車が壁に斜めに近づくとき

PCS の設定を変更する

- PCS の作動／非作動は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。 (→P.499)
- エンジンスイッチが ON になるとシステムは ON になります。
- システムを OFF にすると、PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。
- カスタマイズ設定から、PCS の設定を変更することができます。 (→P.499)
- 衝突警報の作動タイミングを変更すると、緊急時操舵支援（アクティブ操舵機能を除く）のタイミングも変更されます。

“遅い”を選択した場合、緊急時操舵支援（アクティブ操舵機能を除く）はほとんどの場合作動しません。
- 運転者が脇見をしているとシステムが判断した場合は、ユーザー設定に関わらず、衝突警報・緊急時操舵支援が“早い”のタイミングで作動します。
- レーダークルーズコントロール制御中はユーザー設定に関わらず、衝突警報が“早い”のタイミングで作動します。
- アドバンスト ドライブ（渋滞時支援）制御中はユーザー設定に関わらず、衝突警報が“早い”のタイミングで作動します。

LTA (レーントレーシングアシスト)

LTA の機能

- 車線が整備された道路を走行中かつ、レーダークルーズコントロールの作動中に、車線や先行車／周辺車を前方カメラやレーダーで認識し、車線維持に必要なハンドルの操作を支援します。

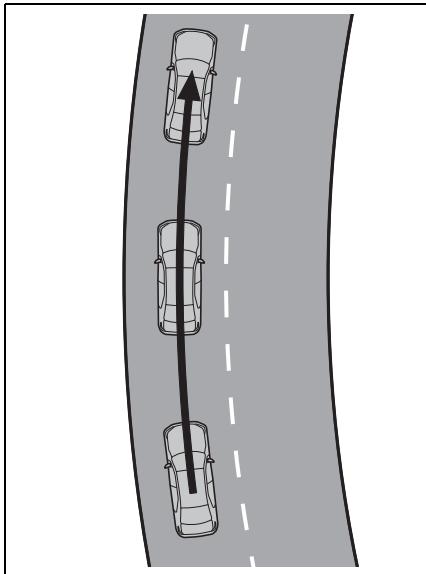
高速道路や自動車専用道路で使用してください。

レーダークルーズコントロールが作動していないとき LTA は作動しません。

渋滞のときなど車線が見えにくい、または見えない場合、先行車／周辺車の軌跡を利用して支援を行います。

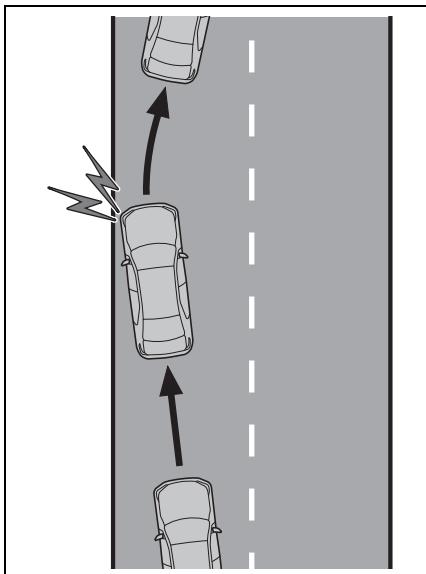
ハンドル操作をしなかったり、ハンドルをしっかりと握っていない状態での運転が続いたりしたときは注意喚起が行われ、機能が一時的に解除されます。

機能が解除されたときはハンドルをしっかりと握り直してください。



- 車両が車線から逸脱した場合、ディスプレイの表示および、ブザーにより注意をうながします。

ブザー吹鳴時は、道路状況を確認の上、ハンドルを慎重に操作して、車線内の中央付近にもどってください。



⚠️ 警告

■ LTAをお使いになる前に

- LTAを過信しないでください。LTAは自動で運転する装置でも前方への注意を軽減する装置でもないため、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、ハンドル操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。また、長時間の運転などによる疲労時は適切に休憩をとってください。
- 適切な運転操作をしなかったり、注意を怠ったりすると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- LTAを使用しないときは、LTAスイッチでシステムをOFFにしてください。

□ 知識

■ 機能の作動条件

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

- システムが車線を認識しているとき、または先行車／周辺車の軌跡を認識しているとき
- レーダークルーズコントロールが作動しているとき
- 車線の幅が約3～4mのとき
- 方向指示レバーを操作していないとき
- 急カーブを走行していないとき
- 一定以上の加減速がないとき
- 大きな操舵力でハンドルを操作していないとき
- 手放し運転に対する注意喚起（→P.227）が行われていないとき
- 車線中央付近を走行しているとき

■機能の一時解除

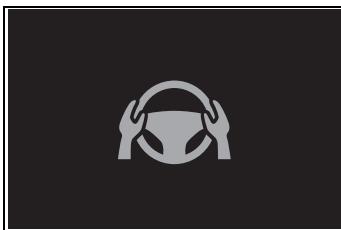
- 機能の作動条件（→P.226）が満たされなくなった場合、一時的に機能が解除されますが、ふたたび作動条件が満たされると、自動的に復帰します。
- 機能作動中に、作動条件が満たされなくなった場合、“ピピッ”とブザー音で、一時的に機能が解除されたことをお知らせする場合があります。
- 機能によるステアリング制御は、運転者のハンドル操作によって修正することができます。

■LTA 中の車線逸脱警報について

- LDA の警報手段をハンドル振動に変更していても、LTA 作動中は車線逸脱時にブザーによる警報を実施します。
- 車線変更に相当するハンドル操作を検知した場合、システムは車線逸脱とは判断せず、警報も作動しません。

■手放し運転に対する注意喚起について

- 手放し運転をしているとシステムが判断したとき、ハンドル保持をうながすメッセージと図で示すシンボルがマルチインフォメーションディスプレイに表示され注意喚起を行います。ハンドルを握ったとシステムが判断すると、注意喚起を停止します。システムを使用する際は注意喚起にかかるわらず、常にハンドルをしっかりと握ってください。



- 操作しない状態が続くと注意喚起が行われ、機能が一時的に解除されます。運転者のハンドル操作が小さい状態が

続いたときも同様に注意喚起が行われます。

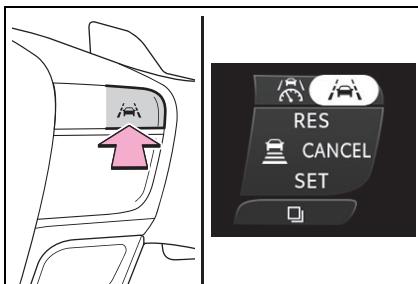
■手放し運転に対する注意喚起が正常に作動しないおそれがあるとき

- 車両の状態やハンドル操作状態、路面状況によっては注意喚起が行われないおそれがあります。
- 次の状況では、手放しを検知する性能が低下または検知できなくなるおそれがあります。
 - ・ハンドルにカバーを取り付けたとき
 - ・運転者が手袋をしているとき
 - ・ハンドルに異物が付着しているとき
 - ・部分ウッド部、革の継ぎ目、スポーク部等のセンサ線が無い部分を握っているとき
- 次の状況では、手放しをしても手放し運転警告が作動せず、LTA が継続することがあります。
 - ・ハンドルに手以外の物が接触しているとき
 - ・ハンドルに、物や腕等を広い範囲で近づけるとき

システムの ON / OFF を変更する

LTA の ON / OFF を切り替えるには LTA スイッチを押す

LTA が ON のときは LTA 表示灯が点灯します。

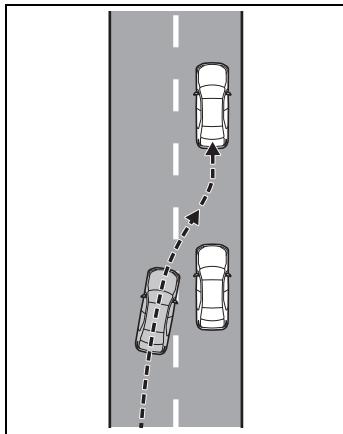


⚠ 警告

■ 機能が正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、各機能が正しく作動せず車線から逸脱するおそれがあります。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、本機能を過信せずにハンドル操作で進路を修正してください。

- 先行車／周辺車が車線変更したとき
(先行車／周辺車の動きに合わせて自車も車線変更するおそれがあります)



- 先行車／周辺車がふらついたとき
(先行車／周辺車の動きに合わせて自車もふらついて走行しレーンをはみ出すおそれがあります)
- 先行車／周辺車が車線から逸脱したとき
(先行車／周辺車の動きに合わせて自車も車線から逸脱するおそれがあります)
- 先行車／周辺車がレーン内を右、または左に片寄って走行したとき
(先行車／周辺車の動きに合わせて自車も片寄って走行しレーンをはみ出すおそれがあります)
- 周囲に移動物、構造物があるとき
(移動物、構造物と自車の位置によっては自車がふらついて走行するおそれがあります)
- 横風を受けているときなど、周辺車両の走行によって発生する風の影響を受けているとき
- センサーが正しく作動しないおそれがあるとき : →P.212
- 車線を検知できないおそれがあるとき : →P.213
- システムを OFF にする必要があるとき : →P.207

ディスプレイ表示とシステムの作動状況

LTA の作動状態を示しています。

表示灯	車線表示	ステアリングアイコン	状態
			LTA がスタンバイ中
			LTA が作動中
			車両が点滅している側の車線から逸脱している

LCA（レーンチェンジアシスト）

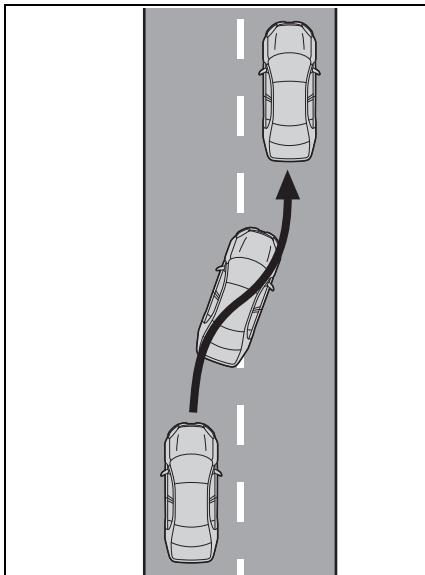
LCA の機能

LTA と連携し、車線変更に必要なハンドル操作を支援します。

高速道路や自動車専用道路で使用してください。

ステアリング制御は、運転者のハンドル操作によって修正することができます。

分岐・合流路での車線変更は作動の対象外です。



⚠️ 警告

■ LCA をお使いになる前に

- LCA を過信しないでください。

LCA は自動で運転する装置でも車線変更先の並走車や急な接近車両等への注意を軽減する装置でもないため、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、ハンドル操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。

また、車線変更してはいけない車線（対向車線、路肩等）に対して LCA を使用しないでください。

- 適切な運転操作をしなかったり、注意を怠ったりすると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

□ 知識

■ 機能の作動条件

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

- LTA が作動しているとき
- カスタマイズメニューでレーンチェンジアシストを ON に設定したとき
- 自車速度が約 70 ~ 130km/h のとき
- システムが高速道路または自動車専用道路（一部を除く）と認識しているとき
- システムが車線を変更する側の白線を破線と認識しているとき
- 車線を変更する先に車両が存在しないとき
- ナビゲーションシステムの地図データが正常に取得できているとき
- 大きな操舵力でハンドルを操作していないとき
- 手放し運転に対する注意喚起（→P.227）が行われていないとき

- エンジン始動後、システムが一度でも車両後方の移動物を検知しているとき

■機能の解除

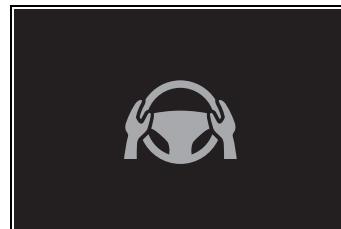
次のような状況では、LCA が作動途中で解除されることがあります。その際に、ディスプレイの表示およびブザーにより、機能が解除されたことをお知らせする場合があります。

- 作動条件が満たされなくなった場合
(→P.230)
- システムが車線を認識できなくなったとき
- 方向指示レバーを 2 段目の位置
(→P.231) へ操作したとき
- 方向指示レバーを車線変更をする方向とは逆方向に操作したとき
- 運転者によるハンドルやブレーキ、アクセルなどの操作をシステムが検知したとき
- 手放し運転に対する注意喚起
(→P.231) が行われているとき

急な接近車両を検出した場合には、ブザー音、ディスプレイ表示で警報を行うとともに、小さな操舵力をハンドルに加えることで、接近車両へ近づかないよう支援を行う場合があります。

■手放し運転に対する注意喚起について

手放し運転をしているとシステムが判断したとき、ハンドル保持をうながすメッセージと図で示すシンボルがマルチインフォメーションディスプレイに表示され注意喚起を行います。ハンドルを握ったとシステムが判断すると、注意喚起を停止します。システムを使用する際は注意喚起にかかわらず、常にハンドルをしっかりと握ってください。



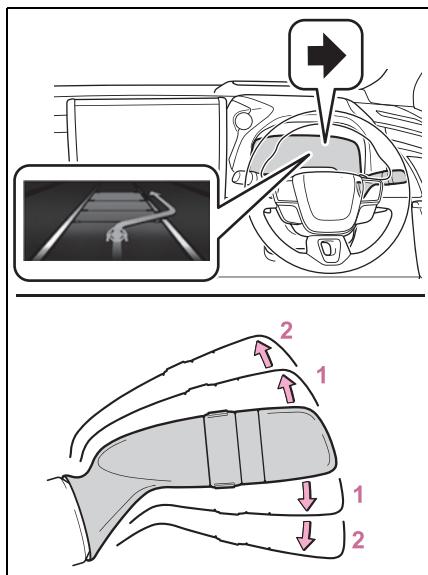
■手放し運転に対する注意喚起が正常に作動しないおそれがあるとき

- 車両の状態やハンドル操作状態、路面状況によっては注意喚起が行われないおそれがあります。
- 次の状況では、手放しを検知する性能が低下または検知できなくなるおそれがあります。
 - ・ ハンドルにカバーを取り付けたとき
 - ・ 運転者が手袋をしているとき
 - ・ ハンドルに異物が付着しているとき
 - ・ 部分ウッド部、革の継ぎ目、スポーツ部等のセンサ線が無い部分を握っているとき
- 次の状況では、手放しをしても手放し運転警告が作動せず、LCA が継続することあります。
 - ・ ハンドルに手以外の物が接触しているとき
 - ・ ハンドルに、物や腕等を広い範囲で近づけるとき

LCA の作動方法

方向指示レバーを 1 段目の位置で保持すると、車線変更方向の表示とともにシステムが作動します。

LCA を利用せず方向指示レバーを 1 段目の位置で保持して車線変更する場合は LCA のカスタマイズ設定を OFF してください。



- 自車の走行車線と、車線変更先の車線の間が白線の破線でないとき

システムの ON / OFF を変更する

LCA の ON / OFF は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。 (→P.500)

- 1 1段目 : LCA 作動位置
- 2 2段目 : LCA 非作動位置

⚠ 警告

■ LCA を使用してはいけない状況

- 片側 1 車線の道路を走行しているとき

ディスプレイ表示とシステムの作動状況

LCA の作動状態を示しています。

LCA 表示	ステアリング アイコン	状態
灰色矢印／緑色線 		LCA がスタンバイ状態
青色矢印／白色線 		LCA が作動中

LCA 表示	ステアリング アイコン	状態
	 灰色	LCA 作動中に自車に接近してくる車両を検知した
なし	 灰色	LCA 作動中に車線を検知できなくなった

LDA（レーンディパー チャーアラート）

基本機能

車線または走路^{*}からの逸脱の可能性を警告するとともに、車線または走路^{*}からの逸脱を避けるためのハンドル操作の一部を支援します。

車線または走路^{*}を前方カメラで認識します。

* アスファルトと草・土などの境界や、縁石、ガードレールなどの構造体

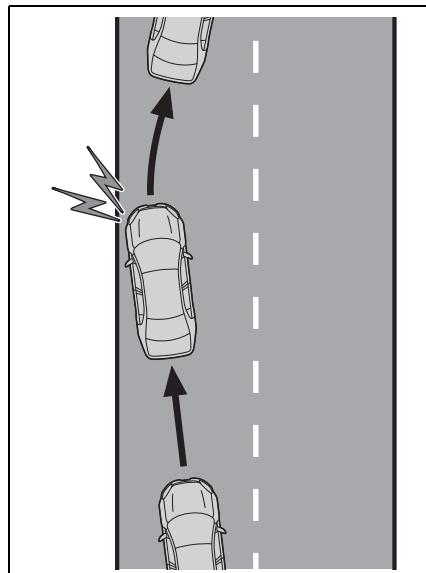
■ 車線逸脱警報機能

車両が車線または走路^{*}から逸脱する可能性がある場合にディスプレイの表示および、警報ブザーまたはハンドルの振動により注意をうながします。

道路状況を確認の上、ハンドルを慎重に操作して、車線または走路^{*}内の中央付近にもどってください。

方向指示灯の点滅中であっても、となりの車線を走行中の車両と衝突する可能性があるとシステムが判断した場合、車線逸脱警報機能が作動します。

* アスファルトと草・土などの境界や、縁石、ガードレールなどの構造体



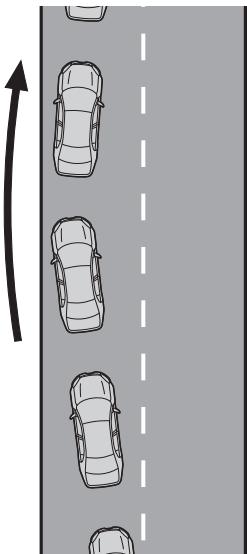
■ 車線逸脱抑制機能

車両が車線または走路^{*}から逸脱する可能性がある場合に、逸脱を避けるために必要なハンドル操作の一部を支援します。

ハンドル操作をしなかったり、ハンドルをしっかりと握っていない状態での運転が続いたりしたときは、一定時間ディスプレイの表示と警報ブザーで注意喚起が行われます。

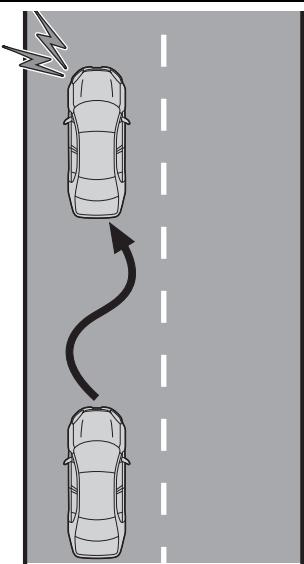
方向指示灯の点滅中であっても、となりの車線を走行中の車両と衝突する可能性があるとシステムが判断した場合、車線逸脱抑制機能が作動します。

* アスファルトと草・土などの境界や、縁石、ガードレールなどの構造体



■ 休憩提案機能

車両がふらついて走行しているときに、ディスプレイの表示およびブザーにより休憩をうながします。



■ 警告

■ LDAをお使いになる前に

- LDAを過信しないでください。LDAは自動で運転する装置でも前方への注意を軽減する装置でもないため、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、ハンドル操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。また、長時間の運転などによる疲労時は適切に休憩をとってください。
- 適切な運転操作をしなかったり、注意を怠ったりすると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

□ 知識

■ 各機能の作動条件

● 車線逸脱警報／抑制機能

次の条件をすべて満たしたときに作動します。

- ・ 車速が約 50km/h 以上のとき

車線の周囲に車両、自動二輪車、自転車、歩行者を検知した場合は約 40km/h 以上のときに作動することができます。

対象が縁石、ガードレールなどの構造体の場合は約 35km/h 以上のときに作動します。(カスタマイズメニューで低車速支援を作動にしたとき)

- ・ システムが車線または走路^{*}を認識しているとき（車線または走路^{*}が片側しかないとき、認識している方向のみ作動します）
- ・ 車線の幅が約 3m 以上のとき
- ・ 方向指示レバーを操作していないとき（方向指示灯方向に車両がいる場合は除く）
- ・ 急カーブを走行していないとき
- ・ 一定以上の加減速がないとき
- ・ 車線変更に相当する程度の操舵力でハンドルを操作していないとき

- ・VSC または TRC を OFF にしていない
- ※ アスファルトと草・土などの境界や、縁石、ガードレールなどの構造体

■機能の一時解除

作動条件（→P.235）が満たされなくなった場合、一時的に機能が解除されますが、ふたたび作動条件が満たされると、自動的に復帰します。

■車線逸脱警報／抑制機能の作動について

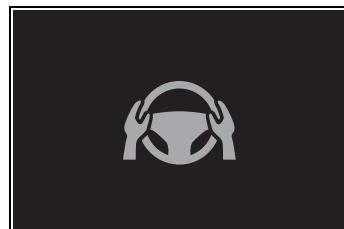
- 車速や路面の状況、逸脱の程度などにより、車線逸脱抑制機能の作動を感じなかったり、車線逸脱抑制機能が作動しなかったりすることがあります。
- カスタマイズで振動を選択していても状況によって警報ブザーが吹鳴する場合があります。
- 走路[※]がはっきり見えない場合、または直線的でない場合は走路逸脱に対する警報、抑制が作動しない場合があります。
- 意図的に歩行者や駐車車両を避けたと判断した場合に警報、抑制が作動しない場合があります。
- となりの車線を走行中の車両と衝突する可能性を判断できない場合があります。
- 運転者の状態に応じて、走路逸脱に対する警報、抑制のタイミングが変化します。
- 車線逸脱抑制機能によるハンドル操舵支援は、運転者のハンドル操作によって修正することができます。

[※] アスファルトと草・土などの境界や、縁石、ガードレールなどの構造体

■手放し運転に対する注意喚起について

次の状況では、ハンドル操作をうながすメッセージとアイコンのディスプレイの表示、および警報ブザーにより注意喚起

を行います。システムを使用する際は注意喚起にかかわらず、常にハンドルをしっかりと握ってください。



- 車線逸脱抑制機能によるハンドル操舵支援中にハンドル操作をしなかったり、ハンドルをしっかりと握っていない状態だとシステムが判断したとき

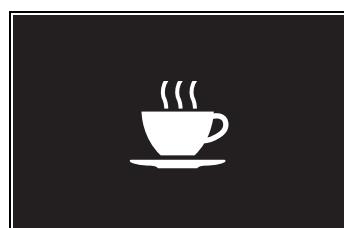
ハンドル操舵支援の回数が増えるごとに、警報ブザーの継続時間が長くなります。ハンドルを操作したとシステムが判断しても一定時間警報ブザーが鳴り続けます。

■休憩提案機能について

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

- 車速が約 50km/h 以上のとき
- 車線の幅が約 3m 以上のとき

車両の状態や路面状況によっては休憩提案が行われない場合があります。



LDA の設定を変更する

- LDA の作動／非作動は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。（→P.500）
- カスタマイズ設定から、LDA の設定を変更することができます。

(→P.500)

⚠️ 警告

■機能が正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、各機能が正しく作動せず車線から逸脱するおそれがあります。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、本機能を過信せずにハンドル操作で進路を修正してください。

- アスファルトと草・土などの境界や、縁石、ガードレールなどの構造体が不明瞭または直線的ないとき

- 横風を受けているときなど、周辺車両の走行によって発生する風の影響を受けているとき
- 車線を検知できないおそれがあるとき：→P.213
- センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.212
- システムの一部もしくは全てが作動しないとき：→P.213
- システムをOFFにする必要があるとき：→P.207

ディスプレイ表示とシステムの作動状況

車線逸脱抑制機能によるハンドル操舵支援、または車線逸脱警報の作動状態をディスプレイ表示で示します。

表示灯	車線表示	ステアリングアイコン	状態
 黄色点灯	消灯	消灯	システムが非作動
消灯	 灰色	消灯	システムが車線を認識していない
消灯	 白色	消灯	システムが車線を認識している
 黄色点滅	 黄色点滅	消灯	点滅している側の車線に対して車線逸脱警報機能が作動中

表示灯	車線表示	ステアリングアイコン	状態
 緑色	 緑色	 緑色	点灯している側の車線に対して車線逸脱抑制機能が作動中
 黄色点滅	 黄色点滅	 緑色	点滅している側の車線に対して車線逸脱警報機能／抑制機能が作動中

PDA（プロアクティブドライビングアシスト）

プロアクティブドライビングアシストは、作動対象（→P.240）を検出した場合、対象に近づきすぎないように、ブレーキやハンドルの操作を支援します。

⚠ 警告

■ 安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。

● プロアクティブドライビングアシストは日常のブレーキ操作、ステアリング操作の一部を支援し、作動対象に近づきすぎないように支援することを目的としていますが、支援の範囲には限りがあります。

必要に応じて運転者自らブレーキやステアリング操作を行ってください。次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。
(→P.241)

● プロアクティブドライビングアシストは前方への注意を軽減する装置ではありません。システムが正常に機能していても運転者が認識している周囲の状況とシステムが検知している状況が異なる場合があります。注意義務は運転者にあり、危険性の判断・安全の確保は運転者が行う必要があります。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡事故につながる恐れがあります。

● わき見運転やぼんやり運転などを許容するシステムでも、視界不良を補助するシステムでもありません。運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

■ プロアクティブドライビングアシストを OFF にするとき

● センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.212

● システムを OFF にする必要があるとき：→P.207

システムが作動する状況と対象

プロアクティブドライビングアシストは、次のように自車が走行中の状況に応じて、作動内容と作動対象を切りかえます。

機能	状況	作動内容	作動対象
障害物先読みアシスト (OAA)	道路を横断中の作動対象を検知したとき	衝突の可能性を軽減するため、ブレーキ操作の一部を支援します。	●歩行者 ●自転車運転者
	道路脇の作動対象を検知したとき	作動対象に近づきすぎないよう、周囲の状況に応じてハンドル操作やブレーキ操作の一部を支援します。 ハンドル操作の支援は自車線から逸脱しない範囲で行います。	●歩行者 ●自転車運転者 ●駐車車両
減速アシスト (DA)	先行車を検出したとき、または隣接車の割り込みを検出したとき	車間距離が近づきすぎないようにブレーキ操作の一部を支援します。	●先行車 ●自動二輪車
	自車前方にカーブを検出したとき	前方のカーブに対して自車の速度が速いと判定した場合、ブレーキ操作の一部を支援します。	なし
	信号のある交差点で右左折するとき	右左折する交差点に対して自車の速度が速いと判定した場合、ブレーキ操作の一部を支援します。	なし
操舵アシスト (SA)	車線を認識しているとき	運転操作を先読みして、ハンドル操作を支援します。	なし



知識

■システムの作動車速

- 道路を横断する作動対象に対する支援

約 30 ~ 60km/h

- 道路脇の作動対象に対する支援

約 30 ~ 60km/h

- 先行車に対する減速支援

約 20km/h 以上

- カーブに対する減速支援

約 20km/h 以上

- 信号のある交差点に対する右左折時の減速支援

約 30 ~ 80km/h (信号のある交差点で方向指示レバーを操作したとき)

- 車線に対する操舵支援

約 10 ~ 140km/h

■システムの作動が停止するとき

- 次のときシステムは作動を停止します。
 - ・レーダークルーズコントロール、またはクルーズコントロールをセットしたとき
 - ・PCSがOFFのとき
 - ・システムの一部もしくは全てが作動しないとき：→P.213
 - ・シフトポジションがP、RまたはNのとき
- 次のときブレーキ操作の支援は作動を停止します。
 - ・車速が約15km/h以下のとき
 - ・周囲の状況からシステムが判断した目標の速度に到達したとき
- 次のときシステムは作動を停止する場合があります。
 - ・運転支援装置によるブレーキ制御、出力抑制が作動したとき
(例：プリクラッシュセーフティ、ドライブスタートコントロール)
 - ・作動対象が遠ざかったとシステムが判断した場合
 - ・車線が検出できなくなった場合
 - ・ブレーキ操作を行った場合
 - ・アクセル操作を行った場合
 - ・一定以上の操舵力でハンドルを操作した場合
 - ・方向指示レバーを左折または右折の位置へ操作したとき(信号のある交差点に対する右左折時の減速支援を除く)



■システムが正常に作動しないおそれがあるとき

- 車線を検知できないおそれがあるとき：→P.213
- 作動対象などが自車進路内に入る手前で停止したとき
- ガードレールや柵などの奥にいる作動対象のすぐそばを通過するとき

- 車線を変更して作動対象などを追いこすとき
- 車線変更や右左折している作動対象などを追い抜くとき
- 物体(ガードレール・電柱・木・壁・柵・ポール、工事用コーン、ポストなど)が周囲に存在するとき
- 自車の前方に作動対象との区別がつきにくい模様・ペイントがあるとき
- 道路上方に構造物(天井の低いトンネル・道路標識・看板など)がある場所を走行するとき
- 雪道、轍のある道路や凍結路を走行するとき
- 自車に向かって作動対象が近づいてくるとき
- 自車や作動対象がふらついているとき
- 作動対象の動きが変化したとき(方向転換、急加速、急減速など)
- 作動対象に急接近したとき
- 先行車・自動二輪車が自車の中心軸からずれているとき
- 上方に構造物がある場所の下に作動対象がいるとき
- 作動対象の一部が他のもので隠れているとき(大きな荷物や傘、またはガードレールなど)
- 作動対象が複数重なっているとき
- 作動対象が太陽光や他車両からのヘッドライトなどの強い光を反射しているとき
- 作動対象の色合いが白系統で、極端に明るく見えるとき
- 作動対象の色合いや明るさが背景に溶け込んでいるとき

⚠ 警告

- 作動対象が割り込んできたり、飛び出したりしたとき
- 横向き、斜め、または自車方向を向いている前方車両に近付いたとき
- 駐車車両が横向き、斜め向きのとき
- 子供用自転車、大きい荷物を載せた自転車、2人以上乗車している自転車、または特殊な形状の自転車（チャイルドシート装着車・タンデム自転車など）
- 歩行者・自転車運転者の大きさが約1m以下、または約2m以上のとき
- 歩行者・自転車運転者の全身の輪郭があいまいなとき（レインコート・ロングスカートを着用している場合など）
- 歩行者・自転車運転者が前かがみになっている、またはしゃがんでいるとき
- 歩行者・自転車運転者の移動速度が速いとき
- 歩行者がベビーカー・車いす・自転車などを押しているとき
- 周囲が薄暗い（朝方・夕方など）、および周囲が暗い（夜間やトンネル内など）ため、作動対象が周囲に溶け込んでいるとき
- 車線幅が約4m以上あるとき
- 車線幅が約2.5m以下のとき
- エンジンを始動したあと、走行を開始してしばらくのあいだ
- 右左折中および右左折後の数秒間
- 進路変更中および進路変更後の数秒間

- 作動対象がカーブ進入前、カーブ走行中およびカーブを曲がり切ってからの数秒間に存在するとき
- 信号機の灯色が黄色のとき
- 信号機が一灯式や二灯式のとき

プロアクティブドライビングアシストの設定を変更する

- プロアクティブドライビングアシストの作動／非作動は、カスタマイズ設定から切りかえることができます。（→P.500）
- プロアクティブドライビングアシストの設定は、カスタマイズ設定から変更することができます。（→P.500）

システムの作動表示

状況に応じて、ディスプレイに次のような表示灯やアイコンを表示します。

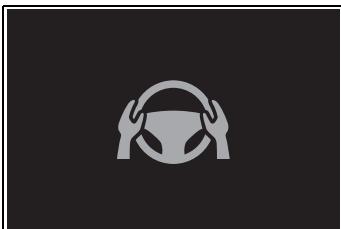
アイコンの種類によっては、ディスプレイを運転支援機能情報に切り替えないと表示されません。

表示	意味
	<ul style="list-style-type: none"> ●白色：作動対象監視中 ●緑色：道路を横断する作動対象に対する支援または道路脇の作動対象に対する支援が作動中
	道路を横断中、または道路脇の歩行者を検知して、ブレーキまたはハンドルの操作を支援している
 	道路脇の車両を検知して、ブレーキまたはハンドルの操作を支援している
	<ul style="list-style-type: none"> ●道路脇の作動対象へ近づきすぎないように、ハンドルの操作を支援している ●操舵支援が作動中
	先行車に対する減速支援が作動中
	適正な車間距離を確保するよう注意喚起している
	カーブに対する減速支援が作動中
	信号のある交差点に対する減速支援が作動中

□ 知識

■ **手放し運転に対する注意喚起について**
次の状況では、ハンドル保持をうながすメッセージと図で示すシンボルがディス

プレイに表示され注意喚起を行います。ハンドルを握ったとシステムが判断すると、注意喚起を停止します。システムを使用する際は注意喚起にかかわらず、常にハンドルをしっかりと握ってください。



FCTA（フロントクロストラフィックアラート）

自車が低速で交差点などへ進入するとき、交差する車両の接近を検知して運転者へ注意喚起を行います。

- 道路を横断する作動対象に対する支援または道路脇の作動対象に対する支援が作動中に、手放し運転をしているとシステムが判断したとき

さらに操作しない状態が続くとブザーが鳴り、注意喚起が行われます。運転者のハンドル操作が小さい状態が続いたときも同様に注意喚起が行われます。

■先行車への減速支援終了後の注意喚起について

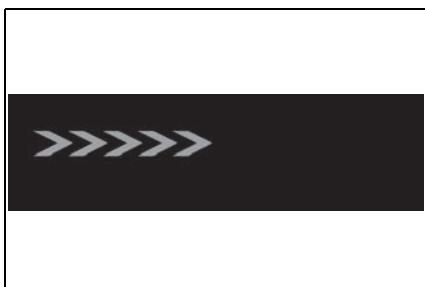
先行車への減速支援が終了後、ドライバーによるブレーキまたはアクセル操作が無く、先行車へ接近したとき、ディスプレイ表示の点滅とブザーによって注意喚起し、減速をうながします。ドライバーがブレーキまたはアクセルを操作したとシステムが判断した場合、注意喚起を停止します。



システムの制御

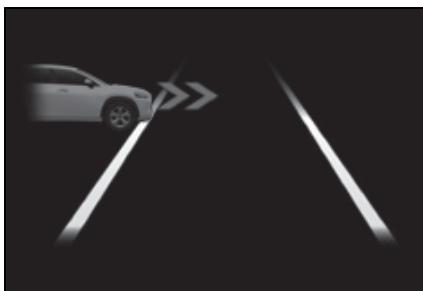
- 運転者へ前方を交差する車両が接近していることを、ディスプレイの表示で知らせます。

- ・ ヘッドアップディスプレイ



- 前方を交差する車両が接近しているにも関わらず、運転者が発進しようとしている可能性があるとシステムが判断した場合、さらに、ディスプレイ表示とブザーによって注意喚起し、減速をうながします。

- ・ マルチインフォメーションディスプレイ



⚠️ 警告

■ 安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。FCTAは前方を交差する車両の存在を運転者に知らせる補助的なシステムです。システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。注意喚起の表示内容は、実際の交通状況と異なる場合があります。一定時間経過後に注意喚起が消えますが、周囲に車両や歩行者がいないことを示すものではありません。

□ 知識

■ FCTA システムの作動条件

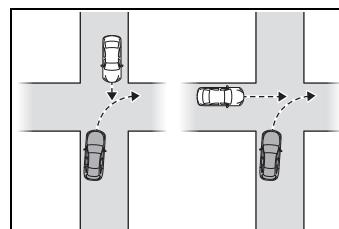
システムは、次の条件をすべて満たしているときに作動します。

- シフトポジションが P・R 以外にあるとき
- 自車速度が約 15km/h 以下のとき
- 前方を交差する接近車両の速度が約 10 ~ 60km/h であるとき
- 先行車がないとき
- アクセルを強く踏み込んでいないとき
- ブレーキを強く踏み込んでいないとき

■ 検知対象となる車両の接近が無くてもシステムが作動するおそれがあるとき

例えば次のような状況では、検知対象となる車両が存在しない場合でもシステムが作動するおそれがあります。

- 道路脇の構造物（ガードレール・標識・電柱・街灯・木・草・壁など）に近付いたとき
- 路上駐車している車両等の横をすり抜けるとき
- 自車から遠方で車両や歩行者が交差するとき
- 自車線脇の駐車場等を車両や歩行者が移動しているとき
- 自転車や歩行者が歩道を通行しているとき
- 車両や歩行者が自車から遠ざかるとき
- 交差車両が減速し停止するとき
- 交差車両が自車直前で右左折するとき
- 歩行者が自車に接近するとき
- 対向車が右左折するとき
- 交差車両より先に自車が交差点を通過するとき
- 信号待ち時に交差車両が接近するとき
- 右左折など旋回時に交差車両が存在するとき



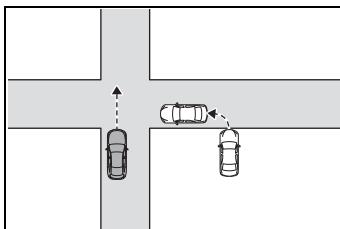
- 前方から車両が接近し、すれちがうとき
- 後方から車両が接近し、追い抜かれるとき
- 自車が車両や歩行者と並走するとき

- 自車側面に車両や歩行者が接近するとき

- システムが正常に作動しないおそれがあるとき

例えば次のような状況では、前側方センサーが対象となる車両を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

- 交差車両が急な動きをしたとき（急ハンドル・急加速・急減速など）



- 交差車両が自車進行方向に対し斜めに接近するとき

- 交差車両が自車から遠方を交差するとき

- 自車と交差車両のあいだに障害物があるとき

- 複数台の車両が狭い間隔で連続して接近するとき

- センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.212

- システムの一部もしくは全てが作動しないとき：→P.213

FCTA の設定を変更する

- FCTA の作動／非作動は、カスタマイズ設定から切りかえることができます。（→P.499）
- カスタマイズ設定から、FCTA の設定を変更することができます。（→P.499）

発進遅れ告知機能

先行車の発進または信号が青にかわったあと、自車が停止し続けた場合、告知音とマルチインフォメーションディスプレイの表示でお知らせする機能です。

先行車発進告知機能

前の車に続いて停止中、先行車が発進しても停止し続けた場合にお知らせします。

信号切替り告知機能

信号が青（方向指示器と同一方向の青矢印信号も含む）にかわっても停止し続けた場合にお知らせします。

知識

■作動条件

次のいずれかの条件を満たしたときに作動します。

- シフトポジションが P・R 以外でブレーキペダルを踏んで、停止している、またはシフトポジションが N で停止しているとき

- ブレーキホールドが作動中のとき

- レーダークルーズコントロールが作動していて、制御停車中のとき

■発進遅れ告知機能が正しく作動しない恐れがある状況

例えば次のような状況では、前方カメラとレーダーが対象を検出できず、システムが正常に作動しない場合があります。

- 先行車がオートバイ・自転車などのとき

- 車両や樹木、看板などにより信号を正しく認識できないとき
- 右左折や車線変更などのために、ハンドルを大きくまわしたとき
- センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.212

■先行車が発進していなくても告知する場合があるとき

例えば次のような状況では、先行車が発進したと判断し、システムが作動する場合があります。

- 先行車がいない状態での停止時に、交差点の先にいる車両や自車の正面を横切る車両などを先行車として認識したとき
- 自車と先行車とのあいだに、ほかの車両が割り込んだり通過したりしたとき

■信号機が青にかわっていなくても告知する場合があるとき

例えば次のような状況では、信号が青にかわったと判断し、システムが作動する場合があります。

- 道路標識や看板などの信号機でないものを信号機と認識したとき
- 歩行者用、または自転車用の信号機の形状が自動車用と似ているとき
- 交差側や遠くの交差点にある信号機など、自車の対象ではない信号機を認識したとき
- 日照条件などにより、正しく自車対象の信号機を判別できないとき

発進遅れ告知機能の設定を変更する

カスタマイズ設定から発進遅れ告知機能の設定を切りかえることができます。（→P.501）

システムのON／OFFを変更する

発進遅れ告知機能の作動／非作動は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。
（→P.501）

RSA (ロードサインアシスト)

前方カメラまたはナビゲーションシステム（情報を取得した場合）を使って特定の道路標識や信号などを認識し、ディスプレイ表示やブザーで運転者にお知らせします。

警告

■ 安全にお使いいただくために

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
- RSA は、道路標識などの情報を知ることで運転の支援を行いますが、支援の範囲には限りがあります。運転者は常に道路標識などに従い、ご自身で適切な運転操作をしてください。

■ RSA を使用してはいけない状況

システムを OFF にする必要があるとき：→P.207

■ 機能が正常に作動しないおそれのある状況

センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.212

ディスプレイ表示機能

- 前方カメラまたはナビゲーションシステム（情報を取得した場合）によって道路標識などを認識すると、ディスプレイに表示します。
- 複数の道路標識を表示できます。車の仕様によっては表示される標識が制

限される場合があります。

知識

■ 標識表示の作動条件

次の条件を満たしたとき、標識の表示を行います。

- システムが標識を認識しているとき
- 次の状況では、標識の表示が消えることがあります。

- 一定の距離を走行中、新しい標識が認識されないとき

- 右左折等により走行する道路が変わったとシステムが判定したとき

- 終わりを示す補助標識を認識したとき

■ 表示機能が正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、システムが正常に標識を認識できず、正しい標識の表示がされない場合があります。

- 標識に汚れ・色あせ・傾きや曲がりがあるとき

- 電光標識のコントラストが低いとき

- 標識の全体または一部が、木・電柱などで隠れているとき

- 前方カメラが標識を認識する時間が短いとき

- 運転の状況（曲がる・車線変更等）が誤って判断されたとき

- 標識が高速道路の分岐した直後、または合流直前の隣の車線にあるとき

- 先行車の後部分にステッカーが貼っているとき

- システムが対応している標識と類似した標識が認識されたとき

- 側道の速度標識が前方カメラの認識範囲内に入ったとき

- ロータリー（環状交差路）を走行して

いるとき

- トラックなどの車両を対象にした標識を認識したとき
- ナビゲーションシステムの地図情報が古いとき
- ナビゲーションシステムを利用できないとき

マルチインフォメーションディスプレイとナビゲーションシステムに表示される最高速度標識が異なる場合があります。

告知機能

次の状況では、システムが運転者に告知（例えば、強調表示やブザー吹鳴）します。

- 速度超過告知：自車の車速がディスプレイに表示されている制限速度より一定の速度を超過したときには、強調表示やブザーにより注意をうながします。
- 車両進入禁止告知：進入禁止の標識を認識し、自車が進入禁止区域に進入したとシステムが判定したときには、強調表示やブザーにより注意をうながします。
- 赤信号告知：赤信号を認識している場合に、信号を見落として交差点に進入する可能性があるとシステムが判定したときには、強調表示やブザーにより注意をうながします。

知識

■ 告知機能の作動条件

- 速度超過告知に対する作動条件

次の条件を満たしたとき作動します。

- ・ 最高速度を表示しているとき

- 車両進入禁止告知に対する作動条件

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

- ・ 進入禁止標識を2つ以上認識しているとき
- ・ 進入禁止標識の間を通過するとき

- 赤信号告知に対する作動条件

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

- ・ システムが信号機や路面ペイントを認識しているとき
- ・ 車速が約20～70km/hのとき
- ・ 一定以上の減速がないとき
- ・ 方向指示レバーを操作していないとき
- ・ 一定以上のハンドル操作をしていないとき
- ・ 先行車がないとき

■ 告知機能が正常に作動しないおそれのある状況

- 表示機能の項目に加えて、次のような状況では告知対象があるのにシステムが作動しないおそれがあります。

- ・ 右左折等により標識が検知できないとき
- ・ 信号機が矢印信号のとき
- ・ 信号機が点滅信号のとき
- ・ 信号機の庇で発光部の一部が隠れているとき
- ・ ルーバー信号機で発光部が見えづらいとき
- ・ 停止線などの路面ペイントが先行車などで隠れているとき
- ・ 停止線などの路面ペイントがかすれているとき
- ・ 停止線に対し信号機が遠くにあるとき
- ・ 交差点間の距離が近いとき

- 表示機能の項目に加えて、次のような状況では告知対象がないのにシステムが作動するおそれがあります。

- ・ 標識が通常とは異なる大きさのとき
- ・ 標識や信号機が多数あるとき
- ・ 自車が走行するレーンではない側道や

分岐地点などの標識や信号機を認識したとき

- ・作動対象の標識、信号機や路面ペイントとは区別がつきにくい模様・光源・ペイントがあるとき
- ・信号機の灯色が黄色のとき
- ・信号機が矢印信号のとき
- ・予告信号があるとき

RSA の設定を変更する

RSA の設定は、カスタマイズ設定から変更することができます。
(→P.501)

ディスプレイ表示および告知される道路標識などの種類

- 次の種類の道路標識を表示します。

ただし、規定外の道路標識、新しく導入された道路標識は表示されない場合があります。

	最高速度
	はみ出し通行禁止
	車両進入禁止
	転回禁止
	一時停止
	赤信号

- 車の仕様によっては、表示される標識が一か所に重複する場合があります。

レーダークルーズコントロール

車両前方の先行車の有無・先行車との車間距離を判定して、先行車との適切な車間距離を確保する制御をします。また、車間距離切りかえスイッチを操作して、希望の車間距離に設定することもできます。

高速道路や自動車専用道路で使用してください。

!**警告**

■安全にお使いいただくために

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
 - レーダークルーズコントロールは運転者の操作の一部を支援し、操作負担を軽減するためのシステムで、支援の範囲には限りがあります。
- 次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。
- システムが正しく作動しないおそれのある状況：→P.256
- 設定速度は、制限速度・交通の流れ・路面環境・天候などを考慮して適切に設定してください。設定速度の確認は、運転者が行う必要があります。

● システムが正常に機能していても、運転者が認識している先行車の状況とシステムが検知している状況が異なる場合があります。従って注意義務・危険性の判断・安全の確保は運転者が行う必要があります。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■システムの支援内容に関する注意点

システムの支援には限界があるため、次の点に注意してください。システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●運転者が見る過程での支援内容

レーダークルーズコントロールは、自車と設定された先行車との車間距離を検知するのみであり、わき見やぼんやり運転を許容するシステムでも、視界不良を補助するシステムでもありません。

走行中に限らず、運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。

●運転者が判断する過程での支援内容

レーダークルーズコントロールは、自車と設定された先行車との車間距離が適正かどうかを判断しており、それ以外の判断はしません。このため、危険性があるかどうかなど運転者は自ら安全の判断をする必要があります。

●運転者が操作する過程での支援内容

レーダークルーズコントロールは、先行車への追突を防止する機能はありません。このため、危険性があれば運転者自らが安全を確保する必要があります。

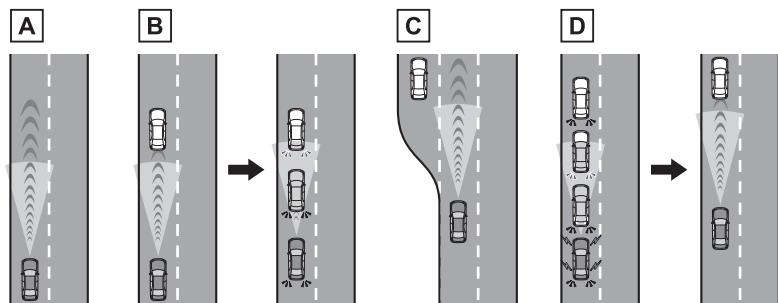
⚠ 警告

■ レーダークルーズコントロールを使用してはいけない状況

次の状況では、レーダークルーズコントロールを使用しないでください。適切な制御が行われず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 歩行者や自転車等が混在している道
- 高速道路や自動車専用道路の出入口
- 接近警報がひんぱんに鳴るとき
- センサーが正しく作動しないおそれがあるとき : →P.212
- システムを OFF にする必要があるとき : →P.207

基本機能



【A】定速走行 :

先行車がいないとき

運転者が設定した速度で定速走行します。

下り坂走行で設定車速を超えた時、設定車速が点滅し警報ブザーが吹鳴します。

【B】減速走行一追従走行 :

設定した速度より、遅い先行車が現れたとき

先行車を検知すると自動で減速し、より大きな減速が必要な場合はブレーキがかかります（このとき制動灯が点灯します）。先行車の車速変化に合わせて、運転者の設定した車間距離になるように追従走行します。十分に減速できない状態で先行車に接近した場合は、接近警報を鳴らします。

C 加速走行：

設定した速度より、遅い先行車がいなくなったとき

設定速度まで加速し、定速走行にもどります。

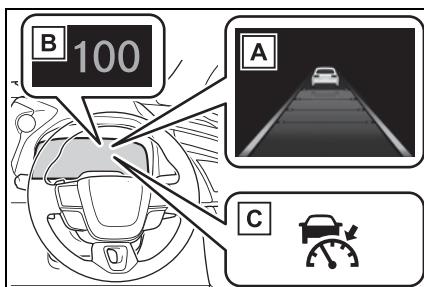
D 発進：

先行車が停止したときは、続いて停止します（制御停車）。先行車の発進後、RESスイッチを押すか、アクセルペダルを踏むと追従走行にもどります（発進操作）。自車が発進操作を行わなかった場合は、制御停車を続けます。

高速道路／自動車専用道路の一部を走行中に先行車が停止したときは、続いて停車します。停車してから約3分以内に先行車が発進したとシステムが判断すると、ブザーとディスプレイ表示でお知らせし、先行車に続いて発進します。（再発進可能時間延長）

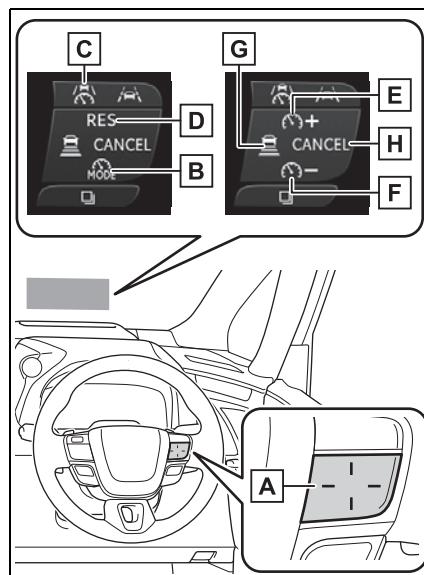
システムの構成部品

■ メーター表示



A マルチインフォメーションディスプレイ
B 設定速度
C 表示灯

■ 操作スイッチ



A 状況や設定によって、スイッチの機能がかわります。
スイッチに触れると、各スイッ

チの機能がヘッドアップディスプレイに表示されます。ヘッドアップディスプレイが OFF のときはマルチインフォメーションディスプレイに表示されます

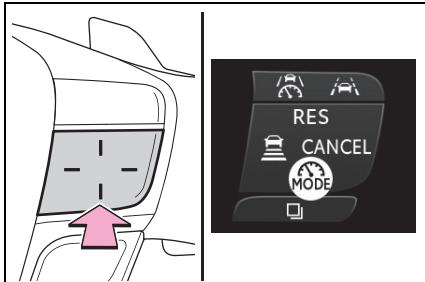
- B** 走行支援モード選択スイッチ
- C** 走行支援スイッチ
- D** RES スイッチ
- E** + スイッチ
- F** - スイッチ
- G** 車間距離切りかえスイッチ
- H** キャンセルスイッチ

レーダークルーズコントロールを使用する

■ 速度を設定する

- 1 走行支援モード選択スイッチを押して、レーダークルーズコントロールを選択する

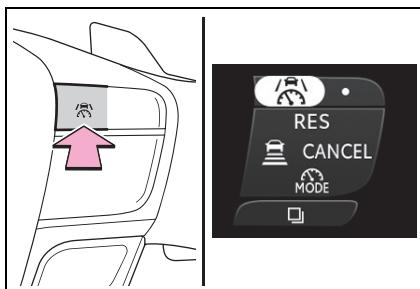
レーダークルーズコントロール表示灯が点灯します。



- 2 希望の車速（約 30km/h 以上）までアクセルペダル操作で加速／減速し、走行支援スイッチを押して速度を設定する

マルチインフォメーションディスプレイに設定した速度が表示されます。

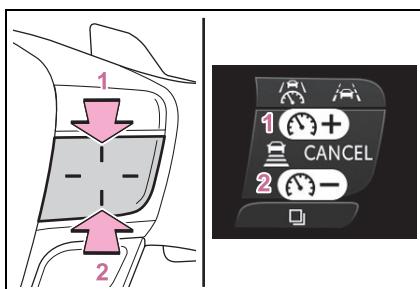
スイッチを離したときの車速で定速走行できます。



■ 設定速度をかえる

- スイッチで設定速度をかえる

設定速度をかえるには、希望の速度が表示されるまで + スイッチまたは - スイッチを押します。



1 速度を上げる

2 速度を下げる

短押し調整：スイッチを押す

長押し調整：スイッチを押し続けて速度をかえ、希望の速度で手を離す

設定速度は、次のとおりに増減されます：

短押し調整：スイッチを操作することに 1km/h

長押し調整：スイッチを押し続けているあいだ、5km/h ずつ

カスタマイズメニューから、設定速度の変化量を変更することができます。

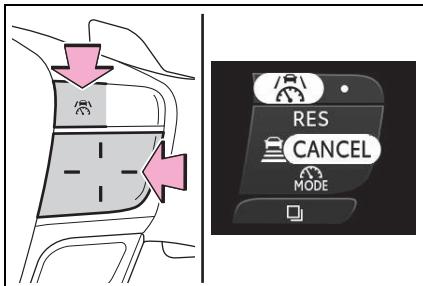
- アクセルペダルで設定速度を上げる

- 1 設定したい車速になるまで、アクセルペダルを踏んで加速する
- 2 +スイッチを押す

■ 制御を解除する・復帰させる

- 1 制御を解除するには、キャンセルスイッチまたは走行支援スイッチを押す

ブレーキペダルを踏んだときも解除されます。(制御停車中は、ブレーキペダルを踏んでも解除されません)

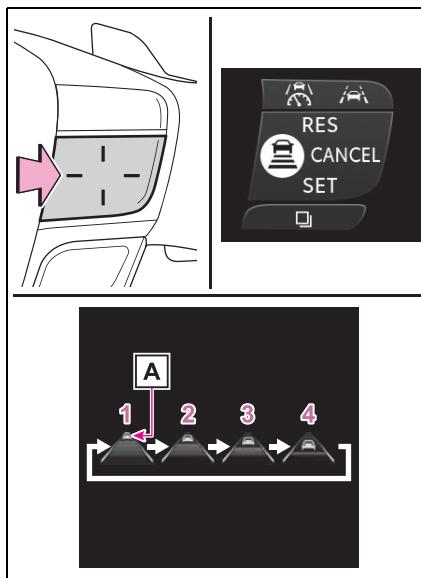


- 2 制御を復帰させるには、RESスイッチを押す

■ 車間距離を変更する

スイッチを押すごとに次のように車間距離を切り替えます。

先行車がいる場合、先行車マーク**A**も表示されます。



イラスト番号	車間距離	距離の目安（車速100km/hの場合）
1	最長	約 70m
2	長	約 60m
3	中	約 45m
4	短	約 30m

車速に応じて実際の車間距離は増減します。また、制御停車時は設定にかかわらず状況に応じた車間距離で停車します。

□ 知識

■ 設定条件について

- シフトポジションがDのとき設定できます。
- 車速が約30km/h以上のとき、希望の設定速度に設定できます。
- ・ 車速が約30km/h未満のときに設定すると、約30km/hに設定されます。
- ・ 車速がシステムの上限を超えているときに設定すると、設定速度の上限に設定されます。

■車速設定後の加速について

通常走行と同様にアクセルペダル操作で加速できます。加速後、車速が設定速度にもどります。ただし、車間制御モード時は先行車との距離を保持するため車速が設定速度以下になることもあります。

■追従走行中の停車制御について

- 制御停車中にRESスイッチを押した場合、約3秒以内に先行車が発進すれば追従走行にもどります。
- 先行車に続いて停車したあと約3秒以内に先行車が発進した場合、追従走行にもどります。

■車間制御モードの自動解除

次のとき、自動的に車間制御モードが解除されます。

- 運転支援装置によるブレーキ制御、出力抑制が作動したとき
(例: ブリクラッシュセーフティ、ドライブスタートコントロール)
- パーキングブレーキが作動したとき
- 急坂路で制御停車したとき
- 制御停車中に次を検出したとき
 - ・運転席シートベルトを着用していない
 - ・運転席ドアが開いた
 - ・車両が停止したあと約3分経過した
- システムの一部もしくは全てが作動しないとき: →P.213

■レーダークルーズコントロールの警告メッセージ・警告ブザー

安全にお使いいただくために: →P.207

■センサーが正しく検知しないおそれのある先行車

次のような場合にシステムによる減速が不十分な場合はブレーキペダルを、加速が必要な場合はアクセルペダルを、状況

に応じて操作してください。

センサーが正しく車両を検知できず、接近警報(→P.257)も作動しないおそれがあります。

- 割込み車両、離脱車両の車線変更が極端に速い、または遅いとき
- 自車が車線変更しているとき
- 先行車が低速で走行中のとき
- 同じ車線に停車中の車がいるとき
- 同じ車線を二輪車が走行中のとき

■システムが正しく作動しないおそれのある状況

次の状況では、必要に応じてブレーキペダルで減速(場合によってアクセルペダルを操作)してください。

センサーが正常に車両を検知できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

- 先行車が急ブレーキをかけたとき
- 渋滞時等、低速で車線変更したとき

■再発進可能時間延長の作動条件

次の条件をすべて満たしているときに作動します。

- 自動車専用道路など限定された道路を走行中
- 先行車が存在し、システムが先行車を検知できている
- 先行車と自車のあいだに他車が割り込んでいない
- 先行車が入れかわっていない
- クリアランスソナーおよび前側方レーダーが前方の物体を検知していない
- 運転者が前方を向いているとドライバーモニターが判断している
- ハンドルを操作していない
- ブレーキペダルを操作していない

接近警報

追従走行中の他車の割り込みなど、十分な減速ができない状態で先行車に接近したときは、表示の点滅とブザーで運転者に注意をうながします。その場合は、ブレーキペダルを踏むなど適切な車間距離を確保してください。

■ 警報されないとき

車間距離が短くても、次のような場合は警報されないことがあります。

- 先行車と自車の車速が同じか先行車の方が速いとき
- 先行車が極端な低速走行をしているとき
- 速度を設定した直後
- アクセルペダルを踏んだとき

カーブ速度抑制機能

カーブを認識すると車速の抑制を開始します。カーブが終了すると車速の抑制が終了します。

状況に応じて設定速度まで復帰します。先行車に割り込まれる等で、追従走行が優先された場合も車速抑制は終了します。



知識

■ カーブ速度抑制機能が作動しないおそれがある状況

次のような状況では、カーブ速度抑制機能が作動しない場合があります。

- 緩やかなカーブを走行しているとき
- アクセルペダルを操作しているとき
- 極端に短いカーブを走行しているとき

ドライバーモニター連携機能

ドライバーモニターによる注意喚起が表示されている場合、加速を抑制します。

ドライバーモニターによる注意喚起の表示が消えた場合、加速抑制を終了します。

車線変更時の補助機能

約 80km/h 以上で走行中に追い越し車線側へ車線変更する場合、方向指示レバーの操作と連動して設定速度まで加速することで、追い越しを支援します。

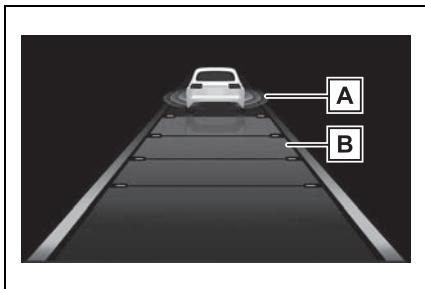
約 80km/h 以上で走行中に自車より遅い車両の後方へ車線変更する場合、方向指示レバーの操作と連動して緩減速することで、車線変更を補助します。

通信利用型レーダークルーズコントロール (ITS Connect 装着車)

先行車の加減速の情報を通信で取得することにより、先行車の加減速に素早く追従して車間距離や速度の変動を抑制し、スムーズな追従走行に寄与します。また、先行

車が認識できなくなった場合は自動的に通常のレーダークルーズコントロールに切りかわります。

先行車も通信利用型レーダークルーズコントロールに対応している場合に自動的に作動します。



A 先行車通信マーク

B 車間距離表示

□ 知識

■ 通信利用型レーダークルーズコントロールについて

- 本機能によって、車間制御モードの速度や車間距離設定が変更されることはありません。
- 先行車が通信利用型レーダークルーズコントロールに対応していないときは、本機能は作動しません。
- 先行車や周囲の車両の走行状態によっては、スムーズな追従走行が行われない場合や、自車の速度や先行車との車

間距離に影響がおよぶ場合があります。必要に応じてブレーキ・アクセルを操作してください。

■ 通信利用型レーダークルーズコントロールが作動しないおそれがある状況

次のような状況では、通信利用型レーダークルーズコントロールが作動しない、または通信利用型レーダークルーズコントロールから通常のレーダークルーズコントロールに切りかわる場合があります。

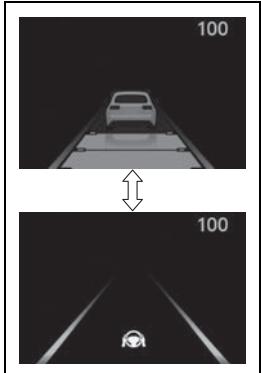
- 先行車との通信が途絶したとき
- センサーが先行車を誤って検知したとき
- トンネルやビル街などで、自車または先行車のGPS受信状態や通信状態が悪化しているとき
- 追従していた先行車が車線変更などで離脱したとき
- 通信していた先行車とのあいだに、通信利用型レーダークルーズコントロールに対応していない車両が割りこんできたとき

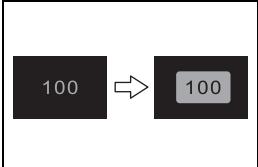
レーダークルーズコントロールの設定を変更する

レーダークルーズコントロールの設定は、カスタマイズ設定から変更することができます。
(→P.500)

ディスプレイ表示とシステムの作動状況

レーダークルーズコントロールの作動状態を示しています。

表示灯	マルチインフォメーションディスプレイ表示	状態
 白色		設定車間距離：灰色 レーダークルーズコントロール OFF
 緑色		設定車間距離：青色 設定速度：緑色 定速走行
 緑色		設定車間距離：青色 設定速度：緑色 先行車：白色 追従走行
 緑色		設定車間距離：橙色 点滅 設定速度：緑色 先行車：橙色点滅 接近警報
 緑色		設定車間距離：灰色 設定速度：白色 先行車：灰色 アクセルペダルによる加速中

表示灯	マルチインフォメーションディスプレイ表示	状態
 緑色		設定速度：反転表示 設定速度超過時
 緑色		設定車間距離：灰色 設定速度：白色 先行車：灰色 制御停車

クルーズコントロール

アクセルペダルを踏まなくても、一定の車速で走行できます。

高速道路や自動車専用道路で使用してください。

警告

■ 安全にお使いいただくために

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
- 設定速度は、制限速度・交通の流れ・路面環境・天候などを考慮して適切に設定してください。設定速度の確認は、運転者が行う必要があります。

■ クルーズコントロールを使用してはいけない状況

次の状況では、クルーズコントロールを使用しないでください。適切な制御が行われず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

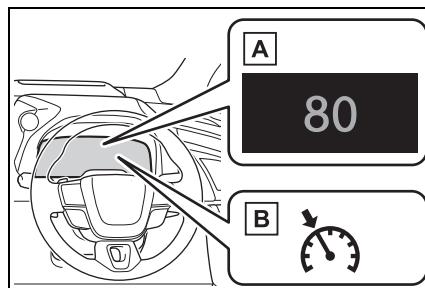
- 急カーブのある道
- 曲がりくねった道
- 雨天時や、凍結路・積雪路などのすべりやすい路面
- 急な下り坂や急で勾配の変化が激しい坂

急な下り坂では車速が設定速度以上になることがあります。

- システムを OFF にする必要があるとき：→P.207

システムの構成部品

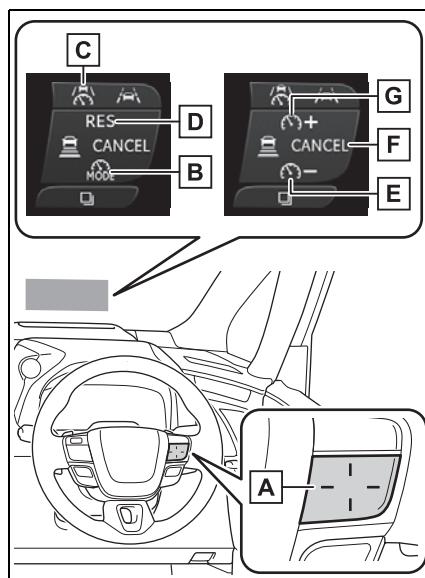
■ メーター表示



A 設定速度

B クルーズコントロール表示灯

■ 操作スイッチ



A 状況や設定によって、スイッチの機能がかわります。

スイッチに触れると、各スイッチの機能がヘッドアップディスプレイに表示されます。ヘッドアップディスプレイが OFF のときはマルチインフォメーション

ンディスプレイに表示されます

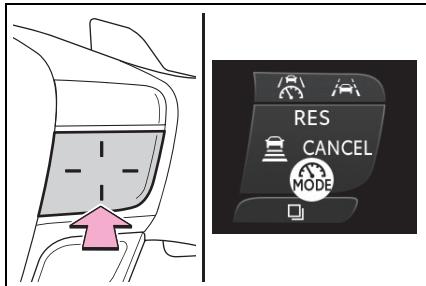
- B** 走行支援モード選択スイッチ
- C** 走行支援スイッチ
- D** RES スイッチ
- E** レスイッチ
- F** キャンセルスイッチ
- G** +スイッチ

クルーズコントロールを使用する

■ 速度を設定する

- 走行支援モード選択スイッチを押してクルーズコントロールを選択する

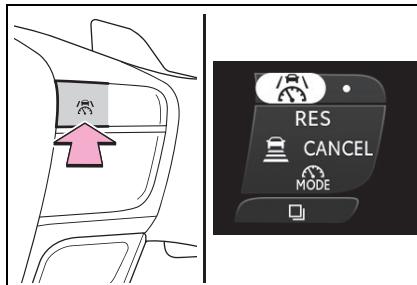
クルーズコントロール表示灯が点灯します。



- 希望の車速（約30km/h以上）までアクセルペダル操作で加速／減速し、走行支援スイッチを押して速度を設定する

スイッチを離したときの車速で定速走行

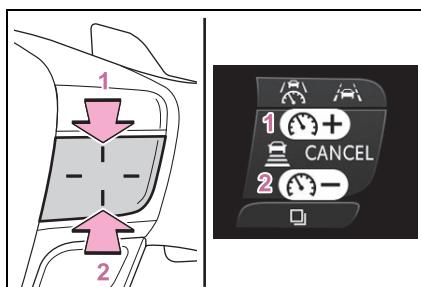
できます。



■ 設定速度をかえる

- スイッチで設定速度をかえる

設定速度をかえるには、希望の速度が表示されるまで+スイッチまたは-スイッチを押します。



1 速度を上げる

2 速度を下げる

設定速度は、次のとおりに増減されます：

微調整：スイッチを押すごとに1km/h

大幅調整：スイッチを押し続けているあいだ連続して変化

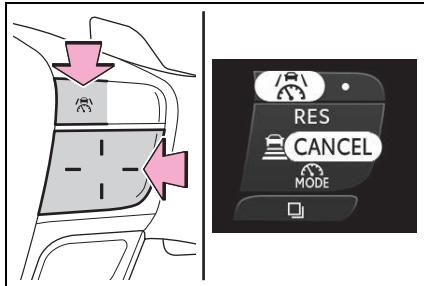
- アクセルペダルで設定速度を上げる

1 設定したい車速になるまで、アクセルペダルを踏んで加速する

2 +スイッチを押す

■ 制御を解除する・復帰させる

- 1 制御を解除するには、キャンセルスイッチまたは走行支援スイッチを押す
ブレーキペダルを踏んだときも解除されます。



- 2 制御を復帰させるには、RESスイッチを押す

□ 知識

■ クルーズコントロールの自動解除

次のとき、自動的にクルーズコントロールが解除されます。

- 設定速度より車速が約 16km/h 以上低下したとき
- 車速が約 30km/h 未満になったとき
- 運転支援装置によるブレーキ制御、出力抑制が作動したとき
(例: ブリクラッシュセーフティ、ドライブスタートコントロール)
- パーキングブレーキが作動したとき
- システムの一部もしくは全てが作動しないとき : →P.213

4

運転

ディスプレイ表示とシステムの作動状況

クルーズコントロールの作動状態を示しています。

表示灯	マルチインフォメーションディスプレイ表示	状態
白色		なし クルーズコントロール OFF
緑色	100	設定速度：緑色 定速走行
緑色	100 ➡ 100 	設定速度：反転表示 設定速度超過時

ドライバー異常時対応システム

ドライバー異常時対応システムは、走行中の運転者が、急病などにより運転の継続が困難になった場合に、自動的に車線内で自車を減速、停車させるシステムです。

LTA（レーントレーシングアシスト）制御中に、手放しなどの無操作運転状態からシステムが運転者が異常状態であると判断すると、車線内で減速、停車し、衝突事故の回避・衝突被害の低減に寄与します。

アドバンスト ドライブ（渋滞時支援）制御中のハンドル保持警告に運転者が反応しない場合も減速・停車します。

⚠ 警告

■ 安全にお使いいただくために

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。ドライバー異常時対応システムは、運転者が急病などにより運転の継続が困難になった場合を対象とするシステムであり、居眠り運転や注意散漫な運転、体調が悪い場合の運転を対象とするものではありません。

● ドライバー異常時対応システムは、システムが運転者による運転の継続が困難と判断した場合に、自車線内で減速、停車を行うことで、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件によりかわります。そのため、常に同じ性能を発揮できるものではありません。また、作動には条件があり、作動条件を満たさない場合は作動しません。

- システム作動後、異常から復帰できた場合には、速やかに運転を再開するか、路肩へ避難し、三角表示板および発炎筒を設置して後続車両に停車していることをお知らせください。
- システム作動後、同乗者は運転者への救護措置をはじめとした必要な危険防止措置をとり、路側帯やガードレールの外側などの安全な場所にすみやかに退避してください。
- 本システムは運転者の異常をハンドルの操作状態などで判断しています。正常な運転者が意図的に無操作を続けた場合には、システムが作動することがあります。また、運転者が異常状態であっても、ハンドルにもたれかかるなどシステムが手放し運転と判断できない場合は、システムが作動しないことがあります。
- ドライバーモニターが正常に作動しないおそれがある状況：→P.213

システム概要

本システムは4つの状態に分けられます。「警告1フェーズ」、「警告2フェーズ」で運転者への注意喚起や速度抑制を実施しながら、運転者の正常／異常判定を行いま

す。システムが、運転者が異常状態であると判断した場合には「減速停車フェーズ」、「停車保持フェーズ」で自車を減速、停車させます。

□ 知識

■ 作動条件

次の条件をすべて満たすと作動します。

- システムが自動車専用道路と認識しているとき

システムが誤って一般道を自動車専用道路と認識する場合があります。

- LTA を ON にしているとき

または、アドバンスト ドライブ（渋滞時支援）制御中のとき

- 自車速が約 50km/h 以上

アドバンスト ドライブ（渋滞時支援）作動中は 50km/h 以下でも作動します。

■ 作動解除条件

次のいずれかの状況では作動解除されます。

- LTA 制御がキャンセルされたとき（LTA スイッチを押した場合など）

- レーダークルーズコントロール制御がキャンセルされたとき

- ドライバー操作が検出されたとき（ハンドルを握る、ブレーキ操作、アクセル操作、パーキングブレーキ操作、非常点滅灯スイッチ操作、方向指示レバー操作）

- 自車が一般道を走行しているとシステムが判断したとき

- 停止保持中、シフトポジションを P にした状態で走行支援スイッチを押したとき

- エンジンスイッチをONからOFFにしたとき

- システムの一部もしくは全てが作動しないとき：→P.213

■ 作動解除時の LTA 制御

システムの作動が解除された場合、LTA 制御がキャンセルされる場合があります。

■ 警告 1 フェーズ

手放し運転警告がされてからも運転操作がない場合、ブザー（断続音）とディスプレイ表示により注意喚起を行い、運転者の正常／異常判定を行います。一定時間以内にハンドル保持などの運転者による操作がされなかった場合、警告 2 フェーズに移行します。

ドライバー異常の検出状況によっては警告 1 フェーズを経由せず警告 2 フェーズから制御が開始される場合があります。

■ 警告 2 フェーズ

ブザー（早い断続音）とディスプレイ表示により注意喚起を行い、ゆるやかに車速を減速させます。一定時間以内にハンドル保持などの運転者による操作がされなかった場合には、システムが運転者が異常状態であると判断し、減速停車フェーズに移行します。

異常状態から復帰するまでオーディオのミュート（消音）が継続します。

車両の減速時に道路環境等の要因によって、ストップランプが点灯する場合があります。

ある程度減速すると、非常点滅灯（ハザードランプ）が点滅します。システムの作動が終了しても、非常点滅灯（ハザードランプ）の点滅は継続します。

減速停車フェーズ

運転者が異常状態にあると判断し、ブザー（連続音）とディスプレイ表示で運転者に注意喚起を行うとともに、ゆるやかに減速して車両を停車させます。減速と同時に、ストップランプの点灯、非常点滅灯（ハザードランプ）の点滅とホーン吹鳴によって周囲に緊急事態であることをお知らせします。車両が停車すると停車保持フェーズに移行します。

■ 警告

■ ヘルプネット自動接続について

ヘルプネット自動接続は、T-Connect通信エリア内、かつT-Connect契約がされている場合にのみ行われます。T-Connect通信エリア外やT-Connect未契約、T-Connect契約が未更新の場合は接続が行われず、警察・救急への通報が行われません。あらかじめ通信エリアとご自身のT-Connect契約をご確認の上、システムをご利用ください。

停車保持フェーズ

停車後、パーキングブレーキが自動でかかります。引き続きブザー（連続音）で注意喚起を行うとともに、非常点滅灯（ハザードランプ）の点滅とホーンによって周囲に緊急事態を知らせます。また、ドア解錠やヘルプネット自動接続による運転者の救命・救護要請（ヘルプネット契約時のみ）を行います。

知識

■ ヘルプネット自動接続について

ヘルプネット自動接続後、ヘルプネットのオペレーターからの声掛けに対して車内からの応答がない場合、救命・救護のために救急や警察へ通報を行います。

■ 作動解除後の機能制限

減速停車フェーズに移行後は、ドライバー異常時対応システムの作動が解除されっていてもエンジンを再始動するまで次の機能が使用できなくなります。

- LTA
- LCA
- アドバンスト ドライブ（渋滞時支援）

アドバンスト ドライブ（渋滞時支援）

アドバンスト ドライブ（渋滞時支援）は、運転者による状況確認のもと、一部を除く、高速道路・自動車専用道路の本線での車線維持・加減速・停車・発進を支援するシステムです。また、緊急時には減速・停車し、衝突事故の回避・衝突被害の低減に寄与します。

アドバンスト ドライブ（渋滞時支援）を支援するセンサー

- 周囲の状況を検出するセンサー
(→P.208)
- 運転者の状態を検出するセンサー
(→P.209)

知識

- システムの一部もしくは全てが作動しないとき

→P.213

- ブレーキの作動音や踏み応えの変化について

→P.213

- ドライバーモニターが正常に作動しないおそれがある状況

→P.213

ドライバー異常時対応システム

→P.264

レーダークルーズ再発進可能時間延長

→P.252

渋滞時支援機能

渋滞時支援機能は、一部を除く、高速道路・自動車専用道路の本線において運転者による状況確認の下で車線維持・加減速・停車を支援するシステムです。

作動条件をすべて満たした場合、渋滞時支援機能が作動します。

システム作動中はハンドルから手を離すことが可能です。
(→P.269)

レーダークルーズコントロール、LTA（レーントレーシングアシスト）の内容をご理解いただいた上で、渋滞時支援機能をお使いください。

サービスエリア／パーキングエリア、料金所などに進入する際や、車線変更時は運転者自身の操作で運転を行ってください。

警告

■安全にお使いいただくために

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。システムを過信せず、常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

- 渋滞時支援機能は自動で運転するシステムではありません。

本システムは道路の形状・状態・交通状況や運転者の状態に応じて、運転者への情報提供や運転支援を行います。常に周囲の状況を把握した上で、運転者の責任においてシステムを使用してください。

⚠ 警告

- 渋滞時支援機能は周囲の状況・道路の状態、運転者の状態によっては作動しない、または作動を中断することがあります。また、常に同じ性能を発揮できるものではありません。機能の作動条件をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。
- 渋滞時支援機能の認識性能・制御性能には限界があるため、システム作動中であっても運転者自身の操作で安全を確保する必要があります。また本システムの操舵アシストは、渋滞中の緩やかな操舵に限定した機能であり、本機能作動中は LDA の逸脱抑制機能は作動しません。何らかの理由で車線を逸脱しそうになった場合は運転者は自らの責任で運転操作してください。
- システムが正常に作動していたとしても、運転者が認識している周囲の状況とシステムが検知している状況が異なる場合があります。従って注意義務・危険性の判断・安全の確保は運転者が行う必要があります。システムに頼ったり安全を委ねる運転をしたりすると、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 渋滞時支援機能作動中でも運転者での操作が必要となる状況があるため、運転者自身で視界を確保する必要があります。
- 渋滞時支援機能は状況に応じてディスプレイ表示でハンドルの保持を促すことがあります。ハンドルを保持し、運転者自身の操作で安全を確保してください。

● 渋滞時支援機能は、次のものを検出しません。必要に応じて自らハンドル・アクセル・ブレーキなどの操作をし回避してください。思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ・ 路上落下物
- ・ 車線外（路肩など）にいる車両
- ・ くぼみ・陥没・ひび割れなどの破損した道路
- ・ 工事区間
- ・ 隣接する並走車両や壁
- ・ 動物

■ 機能を使用してはいけない状況

次のような状況では渋滞時支援機能を使用しないでください。適切な制御が行われず、思わぬ事故につながり、重大な障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- システムを OFF にする必要があるとき

→P.207

- センサーが正しく作動しないおそれがあるとき

→P.212

- 車線を検知できないおそれがあるとき

→P.213

■ 機能が正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では渋滞時支援機能が正常に作動しないおそれがあります。必要に応じて運転者自身で操作してください。

- 水しぶきがかかったとき

- 外気温が高温または低温のとき

警告

- 自車の前方に割り込みがあったとき
- 合流してくる車線があるとき
- 見通しが悪い状況で走行しているとき
- 車両姿勢が変化しているとき
- タイヤの接地面の状態が、左右で著しく異なる場所を走行しているとき
- 中央分離帯がポール等で区切られている暫定供用区間や中央分離帯がない自動車専用道路を走行しているとき
- 自車と他車の速度差が大きいとき
- 地図情報が正常に更新されていないとき
- レーダーの故障や誤作動を防ぐために
→P.209
- 前方カメラの故障や誤作動を防ぐために
→P.210
- フロントウィンドウガラスの前方カメラ取り付け部について
→P.211

知識

■機能の作動条件

次の条件を満たしたとき作動します。

- システムが車線および先行車／周辺車の軌跡を認識しているとき
- レーダークルーズコントロールおよびレントレーシングアシストが作動しているとき
- 方向指示レバーを操作していないとき
- 急なカーブを走行していないとき

- 車線中央付近を走行しているとき
- ドライバーの前方監視状態を検知しているとき
- 高速道路・自動車専用道路の本線にて渋滞走行しており、車速が約40km/h以下であるとき（渋滞開始時など、一部条件下では、約30km/h以下で機能が開始します）
- 運転席ドアが閉まっている
- 運転席シートベルトを締めている
- アドバンスト ドライブ（渋滞時支援）のカスタマイズがOFFに設定されていないとき
- システムを構成する機能や部品が正常な状態であるとき
- PCS カスタマイズがOFFに設定されていないとき
- レーダークルーズコントロールの再発進可能時間延長カスタマイズがOFFに設定されていないとき

■機能の一時解除

- 機能の作動条件が満たされなくなった場合、一時的に機能が解除されますが、ふたたび作動条件が満たされると、自動的に復帰します。
- 機能作動中に作動条件が満たされなくなった場合、ブザー音と表示で一時的に機能が解除されたことをお知らせする場合があります。お知らせに対して運転者の反応がなかった場合、ドライバー異常時対応システムが作動することがあります。それぞれの表示の意味については以下をご覧ください。
(→P.270)

■制御走行中の運転操作について

- アクセルペダル

通常走行と同様、アクセルペダルを踏むことで加速できます。

約10km/h以上で走行中にアクセルペダル

ルを踏んだときには、機能が解除されます。

● ブレーキペダル

通常走行と同様、ブレーキペダルを操作することができます。ただし、制御走行は解除されます。

● ハンドル

通常走行と同様、ハンドルを操作することができます。一定以上ハンドルを操作すると、制御走行が解除されることがあります。

■ ディスプレイに警告メッセージが表示されているとき

● “Advanced Drive 使用できません 販売店で点検”

渋滞時支援機能が正常に作動しなくなっているおそれがあります。販売店で点検をうけてください。

● “Advanced Drive 使用できません 停車支援機能作動履歴有”

ドライバー異常時対応システムが作動したため、一時的にシステムが使用できません。使用するには、エンジンスイッチを OFF にしたあとで再度 ON してください。

アドバンスト ドライブ（渋滞時支援）の設定を変更する

渋滞時支援機能の作動／非作動は、カスタマイズメニューから切り替えることができます。（→P.502）

ディスプレイ表示とシステムの作動状況

以下の表示を用いて渋滞運転支援システムの作動状態を示しています。

ディスプレイ表示	状態	対処
	渋滞時支援機能が作動中	—
	渋滞時支援機能終了を事前に告知	ハンドルを保持する
	渋滞時支援機能終了を告知	ハンドルを保持する
	レーダークルーズコントロール／LTA の両方、またはいずれかの作動が終了したことを通知	速やかに運転者自身でハンドルを保持し、運転操作を行う
	割り込みや周辺車両の動きに応じた運転操作が必要であることを告知	運転者自身で周辺環境に応じて、ハンドル・アクセル・ブレーキの操作を行う

ITS Connect★

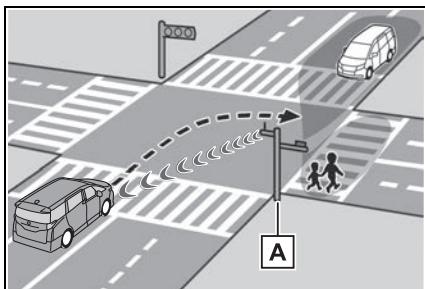
★ : グレード、オプションなどにより、
装備の有無があります。

ITS Connect は、交通情報や周辺車両の情報を受信することにより、安全運転や快適な運転を支援するシステムです。

ITS Connect の概要

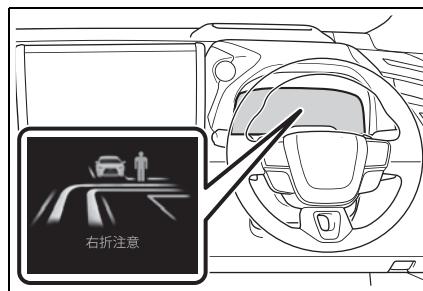
■ 安全運転を支援する通知・案内・注意喚起

ITS Connect は、道路に設置された DSSS* 用路側装置や通信機を搭載した車両と無線通信することで、見通しが悪い交差点の交通状況などの情報を受信します。



A 路側装置

受信した情報は、状況に応じて通知・案内や注意喚起としてマルチインフォメーションディスプレイなどに表示され、運転者に注意を促すことにより安全運転を支援します。



* DSSS (Driving Safety Support Systems) とは、運転者の認知・判断の遅れや誤りによる交通事故を未然に防止することを目的とするシステムで、警察庁が推進しているプロジェクトです。

■ 通信利用型レーダークルーズコントロール

先行車との通信により受信した加速／減速情報をレーダークルーズコントロールの制御に利用し、よりスムーズな追従走行に寄与することで快適な運転を支援します。詳細は P.257 を参照してください。

□ 知識

■ ITS Connect 機器に関する情報

- 本製品は、トロンフォーラム (www.tron.org) の T-License2.0 に基づき T-Kernel ソースコードを利用しています。

- フリー／オープンソースソフトウェア情報について

本製品はフリー／オープンソースソフトウェアを含んでいます。このようなフリー／オープンソースソフトウェアのライセンス情報やソースコードの両方またはどちらか片方は以下の URL で入手することができます。

<https://www.denso.com/global/enopensource/v2x/toyota/>

- 本機は、ITS Connect 推進協議会が規定する相互接続性確認試験に適合しています。

機種名：DTU-1030

型式認定番号：10008

- 本システムは、周波数 760MHz の電波を発信するため、お車を海外へ持ち込んだ場合はその国の関連法規に違反する場合があります。

■ ITS Connect に関するお問い合わせについて

ITS Connect に関するお問い合わせ（機器の調子・機能・使用方法や路側装置の整備計画など）はトヨタ販売店にお問い合わせください。



警告

■ 安全にお使いいただくために

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
ITS Connect はあらゆる状況で安全運転の支援をするものではありません。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ITS Connect は安全運転の支援を目的として設計していますが、その効果はさまざまな条件によりかかり、常に同じ性能を発揮できるものではありません。

「システムが正常に作動しないおそれがあるとき」(→P.275) をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。

■ ITS Connect について

- 次のような状況では、ITS Connect は作動しません。

- ・ 交差点に DSSS 用路側装置が設置されていないとき
- ・ 先行車や接近してくる車両に通信機が搭載されていないとき

- 交差点に進入する方向によっては、作動する通知・案内・注意喚起が異なる場合があります。

■ 右折時注意喚起（DSSS 用路側装置との通信）について

DSSS 用路側装置が設置された交差点であっても、DSSS 用路側装置の種類や交差点に進入する方向によっては、対向車のみを検知し、歩行者に対する注意喚起をしない場合があります。そのため、注意喚起の表示内容が実際の交通状況と異なる場合があります。「割り込み表示による通知・案内・注意喚起」(→P.273) をお読みいただき、必ず自らの目視による安全確認を行ってください。

■ 右折時注意喚起（通信機を搭載した車両との通信）・出会い頭注意喚起について

通信機を搭載した車両が接近してきても、地図データと実際の道路状況が異なるときは、交差点付近であることが判断できず、注意喚起をしなかったり、注意喚起の表示内容が実際の交通状況と異なる場合があります。



注意

■ ITS Connect 機器取り扱いの注意

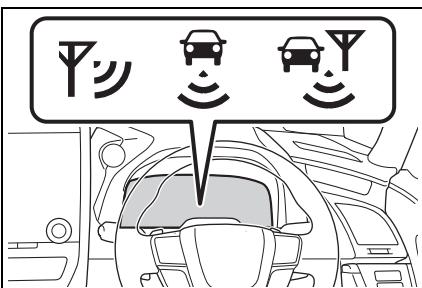
- ITS Connect 機器は電波法の基準に適合しています。ITS Connect 機器に貼り付けられているラベルはその証明ですのではござないでください。

⚠ 注意

- ITS Connect 機器を分解・改造すると、法律により罰せられることがあります。

ITS Connect アイコンの見方

ITS Connect の機能が利用可能なとき、メーターに次のアイコンを表示して通信の接続状態をお知らせします。



アイコン	接続状態
	道路に設置された DSSS 用路側装置から必要な情報を取得できている
	通信機を搭載した車両から必要な情報を取得できている
	道路に設置された DSSS 用路側装置、および通信機を搭載した車両、両方から必要な情報を取得できている

割り込み表示による通知・案内・注意喚起

状況に応じて、次の通知・案内・注意喚起をマルチインフォメーションディスプレイに割り込み表示します。

右折時注意喚起、赤信号注意喚起、出会い頭注意喚起はヘッドアップディスプレイにも割り込み表示します。

出会い頭注意喚起はパノラミックビューモニターにも表示します。

■ 右折時注意喚起 (DSSS 用路側装置との通信)

交差点で右側方向指示灯を点滅させて右折待ちをしているときに、対向車や歩行者がいるにもかかわらず発進しようとしているなど、対向車や右折先の歩行者を見落している可能性があるとシステムが判断したときに、ブザーと表示で注意喚起を行います。

交差点に設置されている DSSS 用路側装置（感知器）の種類によって、注意喚起の表示は次のように異なります。

- 対向車および歩行者を感知する交差点



▶ 対向車のみを感知する交差点



- ・注意喚起の表示内容は、実際の交通状況と異なる場合があります。
- ・一定時間経過後に注意喚起が消えますが、周囲に車や人がいないことを示すものではありません。

■ 右折時注意喚起（通信機を搭載した車両との通信）

DSSS用路側装置が設置されていない交差点で、地図データを用いることにより右側方向指示灯を点滅させて右折待ちをしているときに、通信機を搭載した対向車がいるにもかかわらず発進しようとしているなど、対向車を見落している可能性があるとシステムが判断したときに、ブザーと表示で注意喚起を行います。



- ・注意喚起の表示内容は、実際の交通状況と異なる場合があります。

す。

- ・一定時間経過後に注意喚起が消えますが、周囲に車や人がいないことを示すものではありません。

■ 出会い頭注意喚起

地図データを用いることにより交差点で停車しているときに、右または左方向から交差点に進入してくる車両がいるにもかかわらず発進しようとしているなど、接近する右または左方向の車両を見落している可能性があるとシステムが判断したときに、ブザーと表示で注意喚起を行います。

低速走行中にも、表示による注意喚起を行います。

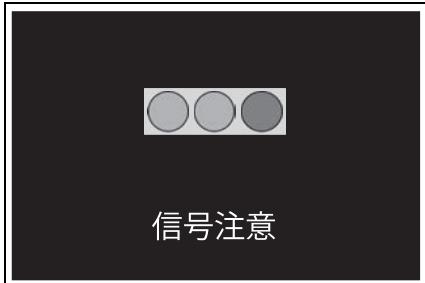


- ・注意喚起の表示内容は、実際の交通状況と異なる場合があります。
- ・一定時間経過後に注意喚起が消えますが、周囲に車や人がいないことを示すものではありません。

■ 赤信号注意喚起

赤信号の交差点手前にさしかかってもアクセルペダルを踏み続けているなど、赤信号を見落している可能性があるとシステムが判断したときに、ブザーと表示で注意喚

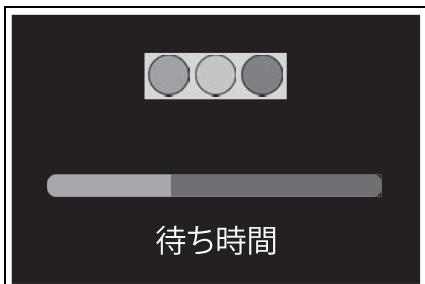
起を行います。



■ 信号待ち発進準備案内

赤信号で停車したとき、青信号にかわるまでの待ち時間の目安をバー表示で表します。

待ち時間が残り少なくなるとバー表示が消え、まもなく信号がかかることを表します。



■ 緊急車両存在通知

緊急車両（救急車）がサイレンを鳴らして近辺を走行しているときに、ブザーと音声案内により、自車に対する緊急車両のおおよその方向・距離・進行方向を表示します。

緊急車両の距離と進行方向が表示されていないときは、自車のすぐ近くに緊急車両がいることを表します。



知識

■ 交差点ごとの作動する通知・案内・注意喚起について

道路に設置されている DSSS 用路側装置の種類により発信している情報が異なるため、交差点によって作動する通知・案内・注意喚起は異なります。

■ システムが正常に作動しないおそれがあるとき

- 例えば次のような状況などでは、車両の位置や向きを正しく特定できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

- ・ 高いビルや高い街路樹に囲まれているとき
- ・ トンネルや高架下を通過しているとき
- ・ エンジンを始動してから、しばらく走行するまでの間

- 例えば次のような状況などでは、正しく通信ができず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

- ・ 周囲に大型車が走行しているときなど、通信が遮られたとき
- ・ 通信を妨害する電波が発せられているとき
- ・ DSSS 用路側装置の向きが変わってしまっているとき
- ・ DSSS 用路側装置がメンテナンス中や故障しているとき
- ・ 他車両の通信機が故障しているとき
- 右折時注意喚起（DSSS 用路側装置との通信）は、次のような状況などでは

- 正常に作動しないおそれがあります。
 - ・交差点内で一旦停止せずに右折しようとしたとき
 - ・周囲の環境や天候、DSSS 用路側装置の劣化などの影響により、対向車や歩行者の検知性能が低下しているとき
 - ・対向車や歩行者が周囲の建物や別の車両に隠れているとき
 - ・DSSS 用路側装置の検知範囲外に対向車や歩行者がいるとき
 - ・DSSS 用路側装置から受信した情報が誤っているとき
- 右折時注意喚起（通信機を搭載した車両との通信）は、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。
- ・交差点内で一旦停止せずに右折しようとしたとき
 - ・地図データと実際の道路状況が異なるため、交差点付近であることが判断できないとき
 - ・相手通信車両から受信した情報が誤っているとき
- 出会い頭注意喚起は、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。
- ・交差点手前で一旦停止せずに通過しようとしたとき
 - ・地図データと実際の道路状況が異なるため、交差点付近であることが判断できないとき
 - ・相手通信車両から受信した情報が誤っているとき
- 赤信号注意喚起は、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。
- ・遅い速度で走行しているとき
 - ・停車しているとき
 - ・交差点付近の側道や駐車場内の通路など、DSSS 路側装置が設置された道路と並行する場所を走行しているとき
 - ・DSSS 用路側装置から受信した情報が誤っているとき
- 信号待ち発進準備案内は、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。
 - ・前方の信号機が青信号、黄信号または矢印信号のとき
 - ・青信号にかわるまでの待ち時間が残り少ないと
 - ・停車していないとき
 - ・交差点付近の側道や駐車場など、DSSS 路側装置が設置された道路と並行する場所に停車しているとき
 - ・DSSS 用路側装置から受信した情報が誤っているとき
- 緊急車両存在通知は、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。
- ・緊急車両と自車の距離が一定以上離れているとき
 - ・緊急車両が自車から遠ざかる方向に走行しているとき
 - ・立体交差付近を走行しているとき
 - ・緊急車両から受信した情報が誤っているとき

各機能の設定変更

マルチメディアディスプレイのカスタマイズ設定から、次の機能の設定を変更することができます。

● 支援タイミング

次の機能の支援タイミング（早い／遅い）を切り替えることができます。※¹（初期設定：早い）

- ・右折時注意喚起
- ・出会い頭注意喚起
- ・赤信号注意喚起

● 信号情報

次の機能の ON / OFF を切り替えることができます。※²（初期設定：ON）

- ・赤信号注意喚起

- ・信号待ち発進準備案内

● 道路環境情報

次の機能の ON / OFF を切り替えることができます。※² (初期設定 : ON)

- ・右折時注意喚起
- ・出会い頭注意喚起 ※³

● 緊急車両通知

緊急車両存在通知の ON / OFF を切り替えることができます。(初期設定 : ON)

● 通信利用型クルーズ

通信利用型レーダークルーズコントロールの ON / OFF を切り替えることができます。(初期設定 : ON)

※¹各機能の支援タイミングを個別に変更することはできません。

※²「信号情報」または「道路環境情報」に含まれる各機能を個別に ON / OFF することはできません。

※³FCTA の注意喚起が非作動のときは作動しません。



■ 出会い頭注意喚起の支援タイミングについて

出会い頭注意喚起の支援タイミングは、FCTA の注意喚起タイミングと連動して変更されます。

Stop & Start システム

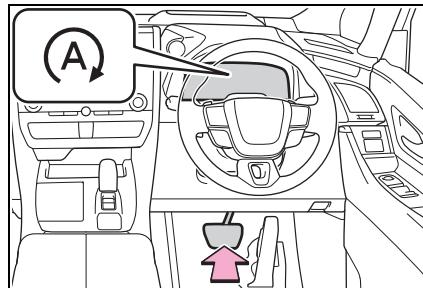
赤信号や交差点などの一時的な停車中、燃費向上やアイドリング騒音低減のため、エンジンスイッチを操作することなく、ブレーキペダルなどの操作によってエンジンを停止・再始動させるシステムです。

Stop & Start システムの作動

■ エンジンが停止する

シフトポジションを D で走行中、ブレーキペダルを踏み車両を完全に停止させると、エンジンが自動的に停止します。

Stop & Start システムによるエンジン停止中は表示灯が点灯します。



■ エンジンが再始動する

ブレーキペダルから足を離すと、エンジンが再始動します。

エンジンが再始動すると表示灯は消灯します。

■ ブレーキホールドシステムが作動しているとき

Stop & Start システムによるエンジン停止中に、ブレーキペダルから足を離しても、エンジン停止状態を継続します。

- Stop & Start システムによるエンジン停止中に、アクセルペダルを踏むと、エンジンが再始動します。
- Stop & Start システムによるエンジン停止中に、エンジンが自動的に再始動してもブレーキホールドシステムによるブレーキ保持は継続します。但し、ブレーキホールドシステムの作動条件（→P.185）が満たされなくなつた場合を除きます。

■ レーダークルーズコントロールシステムが作動しているとき

- レーダークルーズコントロールによる停車時、ブレーキペダルを踏まなくてもエンジンが自動的に停止します。
- 先行車が発進すると、エンジンが再始動します。
- Stop & Start システムによりエンジンが自動的に再始動してもレーダークルーズコントロールによる停車は継続します。



知識

■ 使用にあたり知っておいていただきたいこと

- Stop & Start システムによるエンジン停止中にエンジンスイッチを押した場合、エンジンは自動で再始動しないため、通常のエンジン始動操作（→P.170）でエンジンを始動してください。
- Stop & Start システムによりエンジンが再始動するとき、一時にアクセサリーソケットやアクセサリーコンセントなどが使用できないことがありますが異常ではありません。
- 電装品・無線機の取り付け・取りはず

しは Stop & Start システムに悪影響をおよぼす可能性があります。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

- 長時間停車する場合には、エンジンスイッチを OFF にしエンジンを停止してください。
- Stop & Start システムの作動によるエンジン停止状態からエンジンが再始動するとき、一時にハンドルが重く感じことがあります。

■ 作動条件

- 次の条件がすべて満たされたとき、Stop & Start システムが作動可能状態になります。
 - 一度、走行したあと
 - ブレーキペダルをしっかりと踏んでいるとき
(レーダークルーズコントロールシステムによる停車中を除く)
 - シフトポジションが D もしくは P のとき
 - 運転席シートベルトを着用しているとき
 - 運転席ドアが閉まっているとき
 - フロントデフロスターが OFF のとき
 - アクセルペダルを踏んでいないとき
 - エンジンが十分暖まっているとき
 - 外気温が -5 ℃ 以上のとき
 - ボンネットが閉まっているとき
(→P.279)
- 次の状況では、Stop & Start システムによるエンジン停止が行われない場合がありますが異常ではありません。
 - エアコンを使用しているとき
 - 定期的な充電中のとき
 - バッテリーが十分に充電されていないとき（例：長期間の駐車後などバッテリーの充電量が低下、電気負荷が大きい、バッテリー液温が低い、バッテリーが劣化）※
 - ブレーキ倍力装置の負圧が低下したとき

- ・エンジン再始動後の経過時間が短いとき
- ・渋滞などで、断続的に停車するとき
- ・エンジン冷却水温やトランスマッショングリップ油温が低いとき、または高すぎるととき
- ・勾配が急な坂道で停車したとき
- ・標高が高いとき
- ・バッテリー液温が低いとき、または高すぎるととき
- ・バッテリーを脱着した後、しばらくの期間

- Stop & Start システムによるエンジン停止中、次のときはエンジンが自動的に再始動します。(Stop & Start システムによるエンジン停止を再度行うには、一度走行してください)
 - ・エアコンを使用しているとき
 - ・フロントデフロスターを ON にしたとき
 - ・シフトポジションを D または P 以外にしたとき
 - ・運転席シートベルトをはずしたとき
 - ・運転席ドアを開けたとき
 - ・Stop & Start キャンセルスイッチを押したとき
 - ・アドバンストパークを作動させたとき
 - ・アクセルペダルを踏んだとき
 - ・坂道などで車両が動き出したとき
 - ・先行車が発進したとき（先行車発進告知機能有効時のみ）

- Stop & Start システムによるエンジン停止中、次のときはエンジンが自動的に再始動する場合があります。(Stop & Start システムによるエンジン停止を再度行うには、一度走行してください)
 - ・ブレーキペダルをさらに強く踏み込む、またはポンピングブレーキをしたとき
 - ・エアコンを使用しているとき
 - ・エアコンに関わる操作をしたとき（デフロスタースイッチなど）
 - ・バッテリーの充電量が低下しているとき

き

※ エンジン停止が行われない状態が継続する場合があります。

■ボンネットを開けたとき

- Stop & Start システムによるエンジン停止中にボンネットを開けたときは、Stop & Start システムによるエンジン停止状態からエンスト状態に移行され、エンジンが自動で再始動しません。その場合は通常のエンジン始動操作(→P.170)でエンジンを始動してください。

- ボンネットが開いている状態でエンジンを始動したときは、ボンネットを閉めても Stop & Start システムは作動しません。ボンネットを閉め一度エンジンスイッチを OFF にし、30 秒以上待ってからエンジンを始動してください。

■ Stop & Start システムによるエンジン停止中のエアコン作動について

オート設定でエアコンを使用しているときに、Stop & Start システムによりエンジンが停止した場合は、冷房時の温度上昇や暖房時の温度低下を抑えるため、ファンの風量を弱めたり、停止したりすることがあります。

空調の効きを優先したいときは、Stop & Start キャンセルスイッチを押し、Stop & Start システムを非作動にして下さい。

- フロントウインドウガラスが曇ったとき

フロントデフロスターと送風を ON にしてください。(→P.373)

断続的にフロントウインドウガラスが曇るときは、Stop & Start キャンセルスイッチを押し、Stop & Start システムを非作動にしてください。

- エアコン吹き出し口から臭いが発生したとき

Stop & Start キャンセルスイッチを押して Stop & Start システムの作動を非作動にしてください。

■ エアコンがONのときのアイドリングストップ時間の長さの切りかえについて

メーターディスプレイの画面

(→P.502) から、エアコンが ON のときの Stop & Start システムによるエンジン停止時間の長さを切りかえることができます。(エアコンが OFF のときの Stop & Start システムによるエンジン停止時間の長さは切りかえできません)

■ アイドリングストップ時間などStop & Start システムの作動表示

→P.83

■ メーターディスプレイのメッセージについて

次のとき、メーターディスプレイに

 と、メッセージが表示されること

があります。

● Stop & Start システムによるエンジン停止が行われないとき

 “ブレーキをもう少し 踏んでください”

・ ブレーキペダルを踏む力が足りない
→ ブレーキペダルを踏み足すと作動します。

 “専用バッテリー非装着”

・ Stop & Start システム専用品以外のバッテリーを装着した可能性がある
→ Stop & Start システムが作動しません。トヨタ販売店で点検を受けてください。



“バッテリー 充電中”

- ・ バッテリーの充電量が低下している可能性がある

→ バッテリー充電を優先するため、一時的にアイドリングストップを禁止していますが、エンジンをしばらく作動させると作動可能状態になります。

- ・ リフレッシュ充電中の可能性がある

→ 最大 1 時間のリフレッシュ充電が完了すると作動可能状態になります。

- ・ 長期間（1 時間以上）にわたって継続的に表示される

→ バッテリ劣化の可能性がありますので販売店に相談してください



“アイドリングストップ できま

せん”

- ・ 一時的にアイドリングストップを禁止している

→ エンジンをしばらく作動させると作動可能状態になります。

- ・ ボンネットが開いている状態でエンジンを始動した可能性がある

→ ボンネットを閉め一度エンジンスイッチを OFF にして、30 秒以上待ってからエンジンを始動すると作動可能状態になります。



“作動準備中”

- ・ 標高が高い

- ・ ブレーキ倍力装置の負圧が低下している

→ ブレーキ倍力装置の負圧が所定値まで生成されると作動可能状態になります。



“エアコン優先”

- ・ 外気温が高い、または低いときにエア

コンを使用している

→エアコンの設定温度と室内温度の差が小さくなると作動可能状態になります。

- ・フロントデフロスターをONにしている

- Stop & Start システムによるエンジン停止中にエンジンが自動的に再始動したとき



“作動準備中”

- ・ブレーキペダルをさらに踏み込んだ、またはポンピングブレーキをした

→走行することによりブレーキ倍力装置の負圧が所定値まで生成されると作動可能状態になります。



“エアコン優先”

- ・エアコンを使用している
- ・フロントデフロスターをONにした



“バッテリー 充電中”

- ・バッテリーの充電量が低下している可能性がある

→エンジンをしばらく作動させることでバッテリーが充電されると作動可能状態になります。

■ ブザーが鳴ったとき

Stop & Start システムによるエンジン停止中、シフトポジションがDレンジでアイドリングストップ中に運転席ドアが開いたときは警告ブザーが鳴ると同時にStop & Start 表示灯が点滅します。ブザーを止めるには運転席ドアを閉めて下さい。

■ Stop & Start システム保護機能

- 大音量でオーディオを使用しているとき、バッテリーの消費を抑えるためにオーディオを自動的にOFFにする場合

があります。オーディオを再度使用するには、エンジンスイッチをOFFにして3秒以上待ってからACCまたはONにしてください。

- バッテリーの端子をはずして再接続したときに、オーディオが作動しないことがあります。いったんエンジンスイッチをOFFにし、次の操作を2回繰り返すことでオーディオが作動します。
- ・エンジンスイッチをONにし、再度エンジンスイッチをOFFにする

■ バッテリーを交換するとき

→P.482

■ Stop & Start キャンセル表示灯が点滅したままのとき

システムに異常があるおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

- マルチインフォメーションディスプレイに“アイドリングストップ 故障 販売店で点検してください”が表示されたとき

システムに異常があるおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

⚠ 警告

■ Stop & Start システムが作動しているとき

換気が悪い場所では、Stop & Start システムを非作動にしてください。エンジンが自動的に再始動する場合があるため、排気ガスが充満し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- Stop & Start システムによるエンジン停止中（Stop & Start 表示灯が点灯中）は、車から離れないでください。エンジンが自動的に始動する場合があるため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 警告

- Stop & Start システムによるエンジン停止中 (Stop & Start 表示灯が点灯中) は、必要に応じてブレーキペダルを踏み、パーキングブレーキをかけてください。

⚠ 注意

■ Stop & Start システムを正常に作動させるために

次のようなときは Stop & Start システムが正常に作動しないおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

- 運転席シートベルトを着用しているときに、メーター内のシートベルト非着用警告灯が点滅するとき
- 運転席シートベルトをはずしているときに、メーター内のシートベルト非着用警告灯が点灯しないとき
- 運転席ドアを閉めているにもかかわらず、メーターディスプレイにドア開警告表示が表示される、またはインテリアランプがドア開閉連動 ON (→P.383) のときにインテリアランプが点灯するとき
- 運転席ドアを開けているにもかかわらず、メーターディスプレイにドア開警告表示が表示されない、またはインテリアランプがドア開閉連動 ON (→P.383) のときにインテリアランプが点灯しないとき

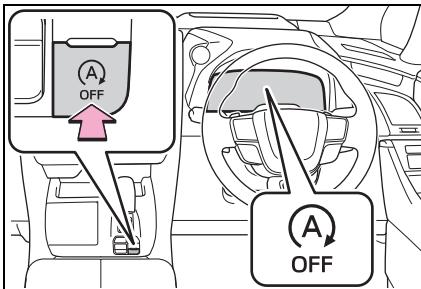
Stop & Start システムを非作動にするには

Stop & Start システムを非作動にするには Stop & Start キャンセルスイッチを押して下さい。

Stop & Start キャンセル表示灯が点灯

します。

もう一度 Stop & Start キャンセルスイッチを押すと、作動可能状態にもどり、Stop & Start キャンセル表示灯が消灯します。



■ Stop & Start システムの自動再開

Stop & Start システムを Stop & Start キャンセルスイッチによって非作動にしていても、一度エンジンスイッチを OFF にしてからエンジンを始動することによって、Stop & Start システムは自動的に作動可能状態にもどります。

坂道発進補助機能

Stop & Start システムによるエンジン停止後、エンジンが再始動し駆動力が発生するまでのあいだ、ブレーキ力を一時的に保持し坂道での車両後退を抑制します。駆動力が発生すると、保持していたブレーキ力を自動的に解除します。

- 坂道だけでなく、平坦な場所でも作動します。
- ブレーキから音が発生することがありますが異常ではありません。
- ブレーキペダルの踏み応えが変

わったり、振動が発生したりすることがありますが異常ではありません。

BSM（ブラインドスポットモニター）

ブラインドスポットモニターは、リヤバンパー内側にある後側方レーダーセンサーを使用し、運転者による車線変更時の判断を支援するシステムです。

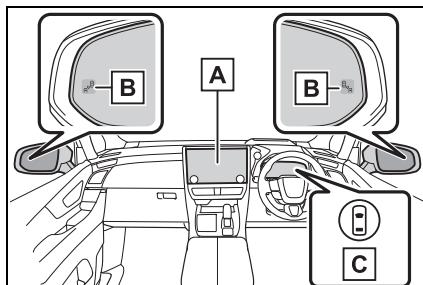
⚠ 警告

■ 安全にお使いいただくために

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
- ブラインドスポットモニターは、ドアミラーの死角領域に入った車両の存在とその死角領域に急速に接近してくる車両の存在を運転者に提供する、補助的なシステムです。本システムだけで安全な車線変更の可否を判断できるものではないため、システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、運転者は自らの目視とミラーによる安全確認を起こす必要があります。

システムの構成部品



A マルチメディアディスプレイ

ブラインドスポットモニターの ON / OFF を切り替えます。

B ドアミラーインジケーター

ドアミラーの死角領域に車両を検知したとき、または後方からその死角領域に急速に接近てくる車両を検知したときは、検知した側のドアミラーインジケーター（→P.64）が点灯します。検知した側に方向指示レバーを操作している場合は、ドアミラーインジケーターが点滅し、ブザーが鳴ります。

C 運転支援情報表示灯

ブラインドスポットモニターが OFF のときに点灯し、マルチinfeldフォーメーションディスプレイにメッセージが表示され

■後側方レーダーセンサーの取り扱いについて

本製品は各国の電波法に適合しています。製品表面の印字はその証明ですので、消さないでください。製品を改造しないでください。改造すると認証番号が無効となります。



C5-001

警告

■システムを正しく作動させるために

ブラインドスポットモニターのセンサーは、車両リヤバンパー内側に左右ひとつずつ設置されています。システムを正しく作動させるために次のことをお守りください。

ます。

□ 知識

■ドアミラーインジケーターの視認性について

強い日差しのもとでは、ドアミラーインジケーターが見えづらいことがあります。

■ブザー音の聞こえ方について

大音量のオーディオや周辺環境などで大きな音がする場合、ブザー音が聞こえづらくなる場合があります。

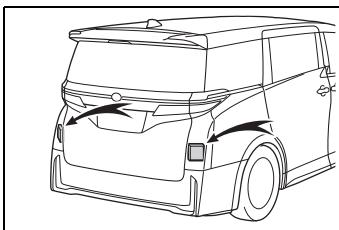
■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。

（→P.493）

⚠️ 警告

- センサー周辺のリヤバンパーは常にきれいにしておく
センサー周辺のリヤバンパーに汚れや着雪がある場合、警告表示とともにシステムが作動しなくなることがあります。その場合、汚れや雪を落としたあと、BSM機能の作動条件(→P.287)でしばらく走行してください(目安:約10分)。それでも警告表示が消えない場合はトヨタ販売店にて点検を受けてください。



- センサーヤやセンサー周辺のリヤバンパーにアクセサリーを付けたり、ステッカー(透明なものを含む)やアルミテープなどを貼ったりしない
- センサー周辺のリヤバンパーを塗装しない
- センサー周辺のリヤバンパーへの強い衝撃を避ける
センサーの位置や向きが少しでもずれると、車両を正しく検知できなくなったり、装置が正常に動作しなくなるおそれがあります。
次のような場合には、必ずトヨタ販売店にて点検を受けてください。
 - ・ センサーヤやセンサー周辺に強い衝撃を受けた
 - ・ センサー周辺のリヤバンパーなどに傷や凹みがある、一部が外れている
 - センサーを分解しない

- センサーヤやセンサー周辺のリヤバンパーを改造しない
- センサーヤやリヤバンパーの脱着や交換が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
- センサーはリヤバンパー表面の塗装の影響を受けやすく、正しい修理をしないと警告表示とともにシステムが作動しなくなることがあります。塗装修理の際はトヨタ販売店にご相談下さい。

ブラインドスポットモニターのON / OFF を切りかえるには

ブラインドスポットモニターのON / OFFは、カスタマイズメニューから切りかえることができます。(→P.493)

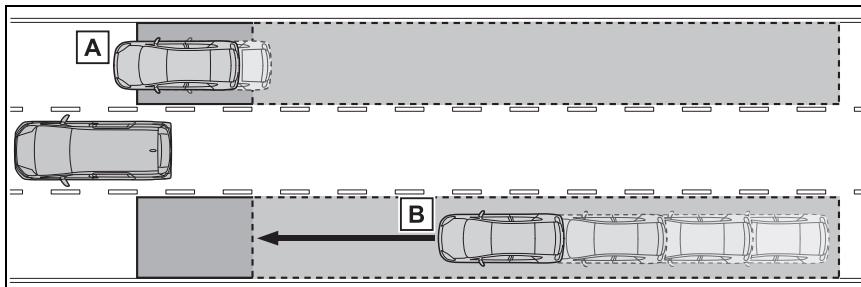
ブラインドスポットモニターがOFFになると、運転支援情報表示灯(→P.64)が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

エンジンスイッチがONになるたび、ブラインドスポットモニターはONになります。

ブレインドスポットモニターの作動

■ 走行中に検知できる車両

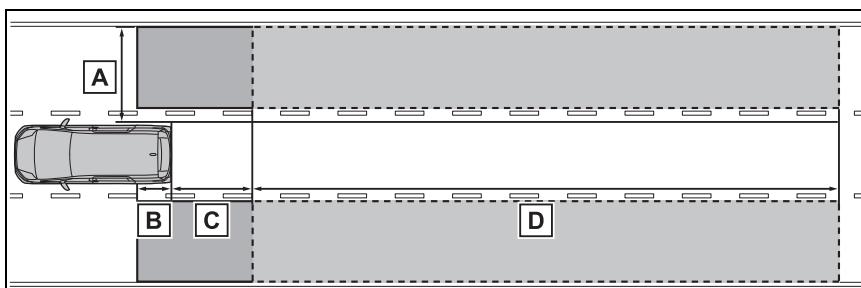
ブレインドスポットモニターは後側方レーダーセンサーにより隣の車線を走行する次の車両を検知し、ドアミラーのインジケーターによってその車両の存在を運転者に知らせます。



- A** ドアミラーに映らない領域（死角領域）を併走する車両
- B** 後方からドアミラーに映らない領域（死角領域）に急速に接近していく車両

■ 走行中に検知できる範囲

次の範囲に入った車両を検知します。



検知できる範囲：

- A** 車両の両側面について、側面から約 0.5m 離れた面から約 3.5m の領域 ^{※1}
- B** リヤバンパーから約 1m 前方の領域 ^{※2}
- C** リヤバンパーから約 3m 後方の領域
- D** リヤバンパーから後方約 3m ~ 70m の領域 ^{※3}

^{※1}車両側面から外側に約 0.5m は検知しません。

*²自車が追い越される場合には、リヤバンパーから約3m前方まで車両の検知を継続します。

*³自車と他車の速度差が大きいほど、ドアミラーインジケーターは他車がより遠くにいる状況で点灯・点滅します。

■ 関連機能

隣の車線を走行する車両の検知を用いた機能がLDA（レーンディパー チャーアラート）にあります。本機能の作動条件などの詳細についてはP.234を参照してください。

知識

■ 作動条件

次の条件をすべて満たしているときに作動します。

- エンジンスイッチがONのとき
- ブラインドスポットモニターがONのとき
- シフトポジションがR以外のとき
- 車速が約10km/h以上のとき

■ センサーが車両を検知する条件

ブラインドスポットモニターは、次のような状況で検知範囲に入った車両を検知します。

- 隣の車線を走行する他車に自車が追いこされるとき
- 小さい速度差で隣の車線を走行する他車を追いこすとき
- 他車が車線変更中に検知範囲に進入するとき

■ システムが検知しない条件

ブラインドスポットモニターは、次のような車両や車両以外のものを検知対象としません。

- 小型のオートバイ・自転車・歩行者など*
- 対向車
- ガードレール・壁・標識・駐車車両など

どの静止物*

- 同じ車線を走行する後続車*
 - 2つ隣の車線を走行する他車*
 - 大きい速度差で自車が追い越す他車*
- *状況によっては検知をすることがあります。

■ ブザーが鳴らない条件

次のような状況では、方向指示レバーを操作していてもドアミラーインジケーターは点滅しますが、ブザーは鳴りません。

- 方向指示レバーを継続して操作したまま、2台目の車両を検知したとき
- 大きい速度差で隣の車線を走行する他車を追い越すとき*

*状況によってはブザーが鳴ることがあります。

■ システムが正しく作動しないおそれがある状況

- 次のような状況では車両を正しく検知しないおそれがあります。
 - ・センサーヤやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
 - ・泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーヤやセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき
 - ・大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどの濡れた路面を走行するとき

- ・複数台の他車が狭い間隔で連続して接近するとき
 - ・自車と後続車の車間距離が短いとき
 - ・検知範囲に入る他車と自車の速度差が大きすぎるとき
 - ・自車と他車の速度差に変化があるとき
 - ・検知範囲に入る他車と自車の速度がほとんど等しいとき
 - ・停止状態から発進した際に、検知範囲に他車が存在し続けたとき
 - ・急勾配の上り・下りが連続した坂道や道路のくぼみ等を走行しているとき
 - ・きついカーブや連続したカーブ、起伏がある場所を走行するとき
 - ・車線の幅が広い、もしくは車線の端を走行するなど、隣の車線の他車が自車から離れすぎているとき
 - ・車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリーを装着しているとき
 - ・検知範囲に入る他車と自車の高さに差がありすぎるとき
 - ・ブラインドスポットモニターを ON にした直後
 - ・けん引しているとき
- 特に次のような状況では不要な検知が増えることがあります。
- ・センサー やセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
 - ・ガードレールや壁などとの距離が短い状況で、それらが検知範囲に入ったとき
 - ・急勾配の上り・下りが連続した坂道や道路のくぼみ等を走行しているとき
 - ・車線の幅が狭い、もしくは車線の端を走行するなど、隣の車線以外を走行する車両が検知範囲に入ったとき
 - ・きついカーブや連続したカーブ、起伏がある場所を走行するとき
 - ・タイヤがスリップ（空転）しているとき
 - ・自車と後続車の車間距離が短いとき
 - ・車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリーを装着しているとき

後方車両接近告知

後方車両接近告知は、リヤバンパー内側にある後側方レーダーセンサーを使用し、運転者に後方車両の接近をお知らせすることで、回避要否の判断を支援するシステムです。

⚠ 警告

■ 安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

後方車両接近告知は自車の後方から接近してくる車両の存在を運転者に提供する補助的なシステムです。

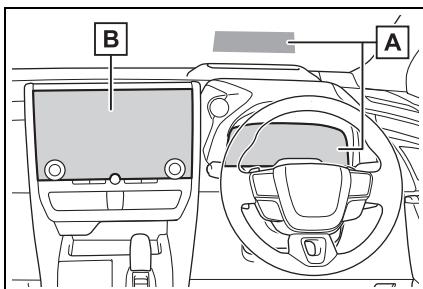
後方車両接近告知を使用していても状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、運転者は自らの目視による安全確認をおこなう必要があります。

システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ システムを正しく作動させるために

→P.284

システムの構成部品



A マルチインフォメーションディスプレイ・ヘッドアップディスプレイ

後方車両の通行を妨げる可能性がある場合、メッセージとブザーでお知らせします。

B マルチメディアディスプレイ

後方車両接近告知の ON / OFF を切りかえます。

後方車両接近告知の ON / OFF を切りかえるには

後方車両接近告知の ON / OFF は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。
(→P.493)

□ 知識

■ ブザー音の聞こえ方について

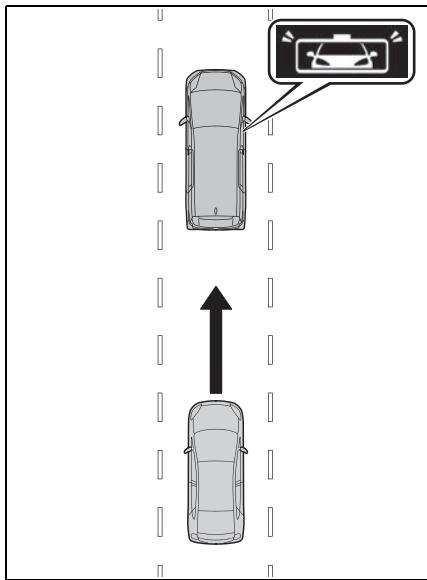
大音量のオーディオや周辺環境などで大きな音がする場合、ブザー音が聞こえづらくなる場合があります。

■ カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。
(→P.493)

後方車両接近告知の作動

後方車両接近告知は後側方レーダーセンサーにより自車の後方から接近してくる車両を検知し、マルチインフォメーションディスプレイまたはヘッドアップディスプレイの表示とブザーによってその車両の存在を運転者に知らせます。



□ 知識

■ 後方車両接近告知の作動条件

後方車両接近告知は、次の条件をすべて満たしているときに作動します。

- エンジンスイッチが ON のとき
- 後方車両接近告知が ON のとき
- シフトポジションが R 以外のとき
- 車速が約 60km/h 以上のとき
- 方向指示レバーを操作していないとき
- ブレーキペダルを踏んでいないとき
- 前回作動から約 5 分以上経過していること

■ センサーが車両を検知する条件

後方車両接近告知は、同じ車線を走行する後方車両が近づいた状況のとき、検知範囲に入った車両を検知します。

■ システムが検知しない条件

後方車両接近告知は、次のような車両や車両以外のものを検知対象としません。

- 小型のオートバイ・自転車・歩行者など

ど*

- ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物*

- 対向車

- 隣の車線を走行する他車*

* 状況によっては検知をすることがあります。

■ 後方車両接近告知が正しく作動しないおそれがある状況

● 次のような状況では後方車両を正しく検知しないおそれがあります。

- ・ センサーヤやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
- ・ 泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーヤやセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき
- ・ 大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどの濡れた路面を走行するとき
- ・ 急勾配の上り・下りが連続した坂道や道路のくぼみ等を走行しているとき
- ・ けん引しているとき
- ・ 後方車両と自車の中心がずれているとき
- ・ 斜め後方から車両が近付いてくるとき
- ・ 自車の後方に他車が急に割り込んできたとき
- ・ 他車の前方に割り込んだとき
- ・ 後方車両の周辺に他車が存在するとき
- ・ 後方車両の周辺にガードレールや壁などの静止物があるとき
- ・ 後続車が自車に接近した後、一度離れて再度接近してきたとき
- ・ 後続車が自車から離れていくとき
- ・ 後続車が自車を追い越そうとしているとき
- ・ きついカーブや連続したカーブ、起伏がある場所を走行するとき
- ・ 後続車の高さが自車と違いがありすぎるとき
- 特に次のような状況では、後続車の接

近の可能性がなくてもシステムが作動するおそれがあります。

- ・センサー やセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
- ・けん引しているとき
- ・自車の周辺に複数台の他車が存在するとき
- ・自車が右左折するときに後続車が自車の真後ろを通過したとき
- ・後方車両が近距離から自車を追い越したとき
- ・車線の幅が狭い、もしくは車線の端を走行するなど、隣の車線を走行する車両が検知範囲に入ったとき
- ・後方車両の周辺に複数の車両が存在するとき
- ・道路上方に物体（道路標識や看板など）がある場所を走行するとき
- ・後方車両の周辺にガードレールや壁などの静止物があるとき
- ・カーブ中に隣接車両がいるとき
- ・他車の前方に割り込んだとき

周辺車両接近時サポート (録画機能、通報提案機能)

周辺車両接近時サポートは、リヤバンパー内側にある後側方レーダーセンサーを使用して至近距離の後方車両を検知し、運転者へ対処方法を提案するシステムです。

ドライブレコーダー（前後方）※が装着されている車両は、ドライブレコーダー（前後方）の録画機能を使用して、状況を自動で記録します。

※ 標準装備、メーカーオプションまたはメーカーパッケージオプションのドライブレコーダー（前後方）装着の場合に限ります。用品（販売店オプション）のドライブレコーダーではご利用になれません。

⚠ 警告

■ 安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

周辺車両接近時サポートは後方車両が至近距離まで接近したときの対処方法を運転者に提案する補助的なシステムです。

周辺車両接近時サポートを使用していても状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、運転者は自らの目視による安全確認をおこなう必要があります。

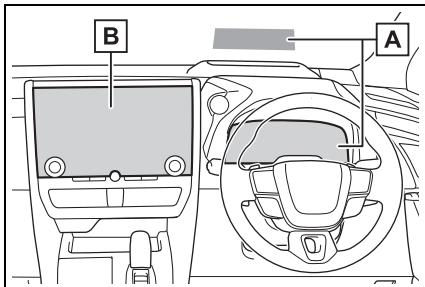
システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 警告

- システムを正しく作動させるために

→P.284

システムの構成部品



- A** マルチインフォメーションディスプレイ・ヘッドアップディスプレイ

警察への通報またはヘルプネットへの接続を提案します。

- B** マルチメディアディスプレイ

周辺車両接近時サポートの ON / OFF を切り替えます。

周辺車両接近時サポートの ON / OFF を切りかえるには

周辺車両接近時サポートの ON / OFF は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。
→P.493)

□ 知識

■ 音声の聞こえ方について

大音量のオーディオや周辺環境などで大きな音がする場合、音声が聞こえづらくなる場合があります。

周辺車両接近時サポートの作動

後方車両が至近距離まで接近したときに、マルチインフォメーションディスプレイまたはヘッドアップディスプレイと音声で下記の対処方法を提案します。

ドライブレコーダー装着車は、後方車両の映像を記録します。

■ 通報提案

携帯電話をマルチメディアとハンズフリー接続しているときは、ハンズフリー電話での警察への通報を提案します。

通報する場合は、マルチインフォメーションディスプレイまたはヘッドアップディスプレイで“はい(YES)”を選択してください。

ハンズフリー電話の詳細については、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。



■ ヘルプネット接続提案

ヘルプネットを契約しているときは、ヘルプネットセンターへの通報を提案します。

通報する場合は、ヘルプネットボタンを押してください。

ヘルプネットの詳細については、

別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。



■ イベント録画（ドライブレコーダー【前後方】装着車）

車両後方の映像をイベント録画します。

ドライブレコーダー（前後方）の詳細については、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

知識

■ イベント録画の通知（ドライブレコーダー【前後方】装着車）

通報提案もヘルプネット接続提案もしない場合は、イベント録画が記録されたことを通知します。

■ 周辺車両接近時サポートの作動条件

周辺車両接近時サポートは、次の条件をすべて満たしているときに作動します。

- エンジンスイッチが ON のとき
- 周辺車両接近時サポートが ON のとき
- シフトポジションが R 以外のとき
- 車速が約 60km/h 以上のとき
- 方向指示レバーを操作していないとき
- ブレーキペダルを踏んでいないとき
- 前回作動から約 10 分以上経過していること

■ 通報提案の作動条件

通報提案は、次の条件をすべて満たしているときに作動します。

- 携帯電話がマルチメディアと Bluetooth® でハンズフリー接続されているとき
- Bluetooth® ワードマークおよびロゴは登録商標であり、Bluetooth SIG, Inc. が所有権を有します。
- 携帯電話の電波が圏外でないとき
- 携帯電話が着信中、発信中、通話中でないとき

■ ヘルプネット接続提案の作動条件

- 通報提案がされていないとき
- ヘルプネットの契約がされている

■ センサーが車両を検知する条件

周辺車両接近時サポートは、同じ車線を走行する後方車両が至近距離にいる状態が続いた状況のとき、検知範囲に入った車両を検知します。

■ システムが検知しない条件

周辺車両接近時サポートは、次のような車両や車両以外のものを検知対象としません。

- 小型のオートバイ・自転車・歩行者など*
- ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物*
- 対向車
- 隣の車線を走行する他車*

* 状況によっては検知をすることがあります。

■ 周辺車両接近時サポートが正しく作動しないおそれがある状況

- 次のような状況では後方車両を正しく検知しないおそれがあります。

- ・センサー やセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
 - ・泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサー やセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき
 - ・大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどの濡れた路面を走行するとき
 - ・急勾配の上り・下りが連続した坂道や道路のくぼみ等を走行しているとき
 - ・けん引しているとき
 - ・後方車両と自車の中心がずれているとき
 - ・斜め後方から車両が近付いてくるとき
 - ・自車の後方に他車が急に割り込んできたとき
 - ・他車の前方に割り込んだとき
 - ・後方車両の周辺に他車が存在するとき
 - ・後方車両の周辺にガードレールや壁などの静止物があるとき
 - ・きついカーブや連続したカーブ、起伏がある場所を走行するとき
 - ・後続車の高さが自車と違いがありすぎるとき
- 特に次のような状況では、後続車の接近がなくてもシステムが作動するおそれがあります。
- ・センサー やセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
 - ・けん引しているとき
 - ・自車の周辺に複数台の他車が存在するとき
 - ・自車が右左折するときに後続車が自車の真後ろを通過したとき
 - ・後方車両が近距離から自車を追い越したとき
 - ・車線の幅が狭い、もしくは車線の端を走行するなど、隣の車線を走行する車両が検知範囲に入ったとき
 - ・後方車両の周辺に複数の車両が存在するとき
 - ・道路上方に物体（道路標識や看板など）がある場所を走行するとき

後方車両への接近警報

後方車両への接近警報は、リヤバンパー内側にある後側方レーダーセンサーを使用し、後方車両からの追突の可能性が高いと判断したときに、非常点滅灯を高速点滅させて後方車両に注意をうながすシステムです。

⚠ 警告

■ 安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

後方車両への接近警報は自車の後方から接近してくる車両に追突される可能性が高いと判断したときに、非常点滅灯を高速点滅させて後方車両に注意をうながす補助的なシステムです。

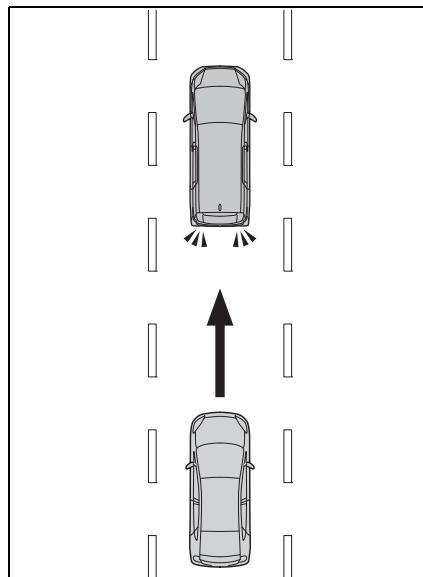
後方車両への接近警報を使用していても状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、運転者は自らの目視による安全確認をおこなう必要があります。

システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ システムを正しく作動させるために

→P.284

示し、後方車両の接近を運転者に知らせます。



後方車両への接近警報の作動

同じ車線を走行する後方車両を後側方レーダーセンサーで検出し、追突の可能性が高いと判断したときに、非常点滅灯を高速点滅させて後方車両に注意をうながします。このときマルチインフォメーションディスプレイにメッセージを表

□ 知識

■ 後方車両への接近警報の作動条件

次の条件を満たしたときシステムが作動します。

- エンジンスイッチが ON のとき
- シフトポジションが R 以外のとき
- 方向指示レバーを操作していないとき
- 自車から見た後方車の接近速度が約 30km/h ~ 100km/h の間
- 自車の車速が約 10km/h 以下、または前進時でブレーキを踏んでいる

■ センサーが車両を検知する条件

後方車両への接近警報は、同じ車線を走行する後方車両が追突の可能性が高い状況のとき、検知範囲に入った車両を検知します。

■ システムが検知しない条件

後方車両への接近警報は、次のような車

両や車両以外のものを検知対象としません。

● 小型のオートバイ・自転車・歩行者など*

● ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物*

● 対向車

● 隣の車線を走行する他車*

* 状況によっては検知をすることがあります。

■ 後方車両への接近警報が正しく作動しないおそれがある状況

● 次のような状況では後方車両を正しく検知しないおそれがあります。

・ センサーヤやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき

・ 泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーヤやセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき

・ 大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどのぬれた路面に停車、または走行しているとき

・ 急勾配の上り・下りが連続した坂道や道路のくぼみ等を走行しているとき

・ けん引しているとき

・ 後方車両と自車の中心がずれているとき

・ 斜め後方から車両が近付いてくるとき

・ 自車の後方に他車が急に割り込んできたとき

・ 後方車両の周辺に他車が存在するとき

・ 後方車両の周辺にガードレールや壁などの静止物があるとき

・ 車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリーを装着しているとき

・ 後続車の高さが自車と違いがありすぎるとき

● 特に次のような状況では、衝突の可能性がなくともシステムが作動するおそ

れがあります。

・ センサーヤやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき

・ けん引しているとき

・ 自車の周辺に複数台の他車が存在するとき

・ 右左折待ちで停車したときなどに、自車の真うしろを車両が通過するとき

・ 道路脇に停車したときなどに、車両が真横を通過するとき

・ 後方車両が近距離から自車を追い越したとき

・ 後方車両が近距離まで急接近したとき

・ 後方車両の周辺にガードレールや壁などの静止物があるとき

セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中後突対応）

セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中後突対応）は、リヤバンパー内側にある後側方レーダーセンサーを使用し、停車中に後方車両からの追突の可能性が非常に高いと判断したときに、自動的にブレーキを制御することで、二次衝突による被害の軽減に寄与するシステムです。

警告

■安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中後突対応）は停車中に同じ車線を走行する後方車両からの追突の可能性が非常に高いと判断したときに、自動的にブレーキを制御する補助的なシステムです。

セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中後突対応）を使用していても状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、運転者は自らの目視による安全確認をおこなう必要があります。

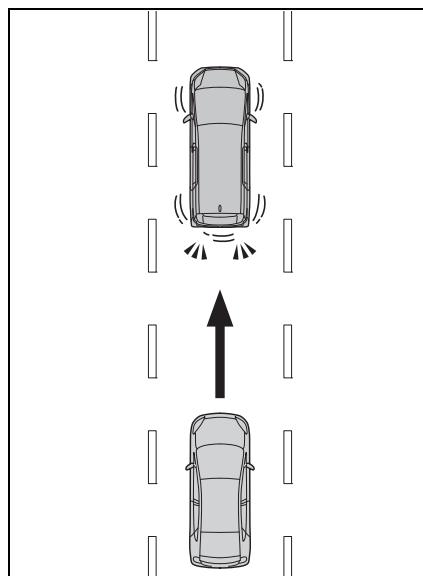
システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■システムを正しく作動させるために
→P.284

セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中後突対応）の作動

セカンダリーコリジョンブレーキ

（停車中後突対応）は、停車中に同じ車線を走行する後方車両を後側方レーダーセンサーで検出し、追突の可能性が非常に高いと判断したときに、自動的にブレーキと制動灯を制御することで、追突後の自車速度を減速させ二次衝突による被害の軽減に寄与します。



知識

■セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中後突対応）の作動条件

次の条件を満たしたときシステムが作動します。

- エンジンスイッチが ON のとき
- シフトポジションが R 以外のとき *
- 方向指示レバーを操作していないとき
- 前回作動から約 7 分以上経過していること
- 自車から見た後方車の接近速度が約 30km/h ~ 100km/h の間
- 自車の車速が約 0km/h のとき

* シフトポジションが N のときはブレーキペダル・パーキングブレーキ・ブレーキホールドをいずれも操作していないときは作動しません。

■ センサーが車両を検知する条件

セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中後突対応）は、同じ車線を走行する後方車両が追突の可能性が非常に高い状況のとき、検知範囲に入った車両を検知します。

■ システムが検知しない条件

セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中後突対応）は、次のような車両や車両以外のものを検知対象としません。

- 小型のオートバイ・自転車・歩行者など*

- ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物*

- 対向車

- 隣の車線を走行する他車*

* 状況によっては検知をすることがあります。

■ セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中後突対応）が正しく作動しないおそれがある状況

- 次のような状況では後方車両を正しく検知しないおそれがあります。

- ・ センサーヤやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき

- ・ 泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーヤやセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき

- ・ 大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどのぬれた路面に停車しているとき

- ・ 急勾配の上り・下りが連続した坂道や道路のくぼみ等を走行しているとき

- ・ けん引しているとき

- ・ 停車した直後に後方車両が接近したとき
- ・ 後方車両と自車の中心がずれているとき
- ・ 斜め後方から車両が近付いてくるとき
- ・ 自車の後方に他車が急に割り込んできたとき
- ・ 後方車両の周辺に他車が存在するとき
- ・ 後方車両の周辺にガードレールや壁などの静止物があるとき
- ・ 後続車の高さが自車と違いがありすぎるとき
- ・ 車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリーを装着しているとき

● 特に次のような状況では、追突される可能性がなくてもシステムが作動するおそれがあります。

- ・ センサーヤやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
- ・ けん引しているとき
- ・ 右左折待ちで停車したときなどに、自車の真うしろを車両が通過するとき
- ・ 道路脇に停車したときなどに、他車が真横を通過するとき
- ・ 後方車両が近距離から自車を追い越したとき
- ・ 後方車両が近距離まで自車に急接近したとき
- ・ 自車の周辺に複数台の他車が存在するとき
- ・ 後方車両の周辺にガードレールや壁などの静止物があるとき
- ・ 停車間際・発進直後に後方車両が接近したとき
- ・ 走行中にすべりやすい路面などでのブレーキ操作により、自車のタイヤがロックしたときに後方車両が接近したとき
- ・ 洗車機で洗車しているとき

安心降車アシスト

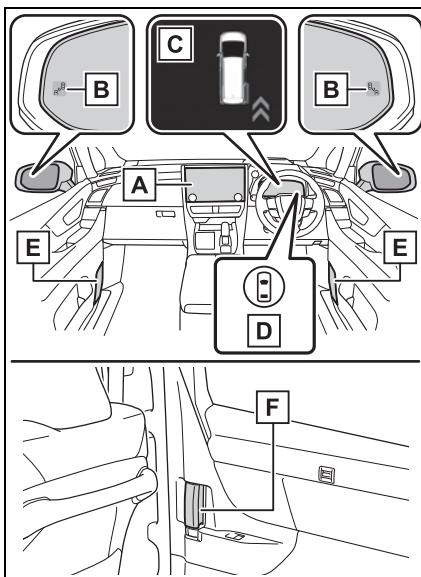
安心降車アシストは、リヤバンパー内側にある後側方レーダーセンサーを使用し、各席乗員による降車時のドアまたは人と車両・自転車の衝突可能性の判断の支援をすることで、事故被害低減に貢献するシステムです。また、パワースライドドアについては、自動開閉作動を停止することで、事故被害低減に貢献します。

⚠ 警告

■ 安全にお使いいただくために

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
- 安心降車アシストは、停車中に接近してくる車両や自転車の存在を乗員に提供する補助的なシステムです。本システムだけで安全を判断できるものではないため、システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、乗員は自らの目視やミラーなどによる安全確認を行う必要があります。

安心降車アシストのシステム構成部品



A マルチメディアディスプレイ

安心降車アシストの ON / OFF を切りかえます。

B ドアミラーインジケーター

開いたドア（バックドアを除く）または降車した人と衝突する可能性がある車両・自転車を検知したときは、検知した側のドアミラーインジケーター（→P.64）が点灯します。検知している側のドアを開いた場合やパワースライドドア自動開閉作動が停止された場合は、ドアミラーインジケーターが点滅します。ただし、パワースライドドアが自動閉作動している場合は、ドアミラーインジケーターは点滅せず点灯します。

C マルチインフォメーションディスプレイ

衝突の可能性がある状態でドアの開放をした場合、またはパワースライドドアの

自動開作動が停止された場合に、対象のドアをメーターに表示します。また、ドアミラーインジケーターが点灯した状態でドアが開けられた場合などは、上記に加えてブザーで警報を行います。ただし、パワースライドドアが閉作動している場合は、メーターの表示およびブザーによる警報は行いません。

D 運転支援情報表示灯

安心降車アシストが OFF のときに点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

E スピーカー

ドアミラーインジケーターが点滅した場合に音声にてシステムが作動したことを見知らせます。音声による通知が行われた後は、そのドアが全閉されるまで音声による再通知は実施されません。

F パワースライドドア

ドアミラーインジケーターが点灯中で、ドアまたは人と車両・自転車の衝突の可能性が高い場合はパワースライドドア開スイッチを使用しても自動開作動しません。また、スライドドアが自動開作動中に衝突する可能性のある車両・自転車を検知し、一定時間警報ブザーが継続した場合、自動開作動を停止します。



知識

■ ドアミラーインジケーターの視認性について

強い日差しのもとでは、ドアミラーインジケーターが見えづらいことがあります。

■ ブザー音の聞こえ方について

大音量のオーディオや周辺環境などで大きな音がする場合、ブザー音が聞こえづらくなる場合があります。

■ 音声の通知について

以下のとき、音声による通知は実施され

ません。

- 車内に乗員がいないと推定されるとき※
- ドアを開いて乗車後、エンジンをかけまるまで
- エンジン停止後 3 分以上経過した場合
- マルチメディアディスプレイの言語設定で音声発話に対応していない言語が設定されている場合
- 外部より全ドアが施錠されている場合
- エンジン停止後、同一のドアが開いている状態が 1 分以上継続している場合
- マルチメディアディスプレイの ACC フルスタマイズ (→P.493) が ON となっている状態で、エンジンが停止されている場合
- マルチメディアディスプレイの駐車支援音量設定が OFF となっている場合
- パワースライドドアが開いた状態で音声による通知が行われ、そのドアが全閉されていないとき

* 各席毎に、走行前のドア開閉で乗車、走行後のドア開閉で降車と判断します。

■ パワースライドドアの自動開作動の停止について

- パワースライドドア開閉スイッチまたはインサイドドアハンドルを操作した場合に作動します。それ以外の操作で自動開作動を行った場合、作動しません。
- パワードアオフスイッチが ON のとき、またはスライドドアの自動開閉機能 (パワースライドドア) がついていないときは作動しません。
- ミラーインジケーター点灯中に全閉状態からインサイドドアハンドルを操作した場合、ドアが少し開いてから自動開作動を停止します。
- パワードアオフスイッチが ON のときは安心降車アシストに関わらずパワース

ライドドアの自動開閉動作は作動しません。

■ カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。→P.493)



警告

- システムを正しく作動させるために

→P.284

安心降車アシストの ON / OFF を切りかえる

安心降車アシストの ON / OFF は、カスタマイズメニューから切

りかえることができます。
(→P.493)

安心降車アシストが OFF になると、運転支援情報表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

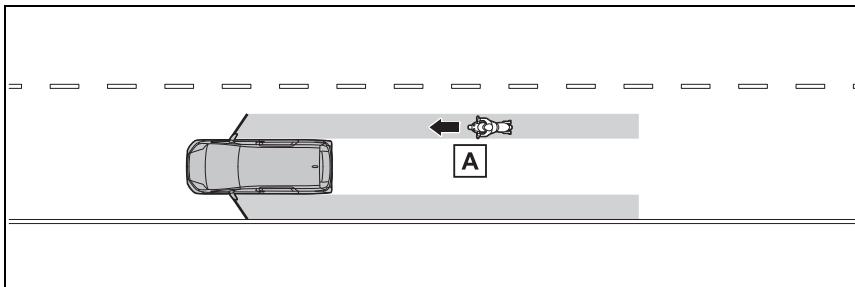
エンジンスイッチが ON になるたび、安心降車アシストは ON になります。※

* エンジンスイッチ OFF 後、すぐにエンジンスイッチを ON にした場合は、安心降車アシストが ON にならない場合があります。

安心降車アシストの作動

■ 安心降車アシストが検知できる対象

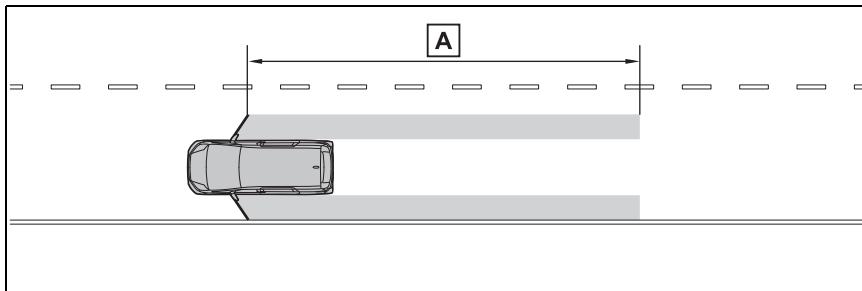
安心降車アシストは後側方レーダーセンサーにより自車の後方を走行する次の車両・自転車を検知し、ドアミラーインジケーター、ブザー、メーターの表示、および音声通知によってその車両の存在を乗員に知らせます。



A ドア（バックドアを除く）を開けたときにドアまたは人と衝突する可能性が高いと判断された車両・自転車

■ 安心降車アシストが検知できる範囲

次の範囲に入った車両・自転車を検知します。



A フロントドアから後方約 45m の領域^{*}

* 接近する車両・自転車の速度が速いほど、ドアミラーインジケーターは車両・自転車がより遠くにいる状況で点灯・点滅します。

知識

■ 安心降車アシストの作動条件

次の条件をすべて満たしているときに作動します。

- エンジンスイッチが ON のとき、エンジン OFF 後 3 分以内、およびドアを開けて車内に乗り込んでから 3 分以内（ドア開閉が行われた場合は、作動継続時間がさらに延長される場合があります）
- 安心降車アシストが ON のとき
- 停車中
- シフトポジションが R 以外のとき

■ センサーが車両を検知する条件

安心降車アシストは、次のような状況で検知範囲に入った車両を検知します。

- 停車している自車と並行に走行する車両や自転車がドア（バックドアを除く）を開けた範囲付近を通過するとき

■ システムが車両を検知しない条件

- 安心降車アシストは、次のような車両・自転車や車両・自転車以外のものを検知対象としません。
- ・ 接近する車両・自転車の速度が遅いとき^{*}

- ・ ドア（バックドアを除く）を開いたときに、衝突する可能性が低いと判断された車両・自転車^{*}
- ・ 真うしろから接近する車両・自転車^{*}
- ・ 前方から接近する車両・自転車^{*}
- ・ ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物^{*}
- ・ 歩行者・動物など^{*}

* 状況によっては検知をすることあります。

- 安心降車アシストは、次のような状況では作動しません。
- ・ エンジン OFF 後に 3 分以上経過した場合（ドア開閉が行われた場合は、作動継続時間が延長される場合があります）
- ・ 自車が完全に停車していないとき

■ システムがパワースライドドアの自動開閉動作を停止したときの開き方

接近してくる車両・自転車が通過、または進路変更したあと、周囲を確認してから再度車内のインサイドドアハンドルまたはパワースライドドア開閉スイッチを操作してください。緊急時など警報中にドアを開きたい場合は、周囲の安全を確認したうえでインサイドドアハンドルを再度操作してください。

■システムが正しく作動しないおそれがある状況

- 次のような状況では車両や自転車を有效地に検知しないおそれがあります。

- ・センサー やセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
- ・泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサー やセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき
- ・大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどのぬれた路面に停車しているとき
- ・隣の駐車車両に後続する車両や自転車
- ・後方で急な進路変更をして接近する車両や自転車
- ・発進した直後の車両や自転車
- ・バックドアが開いているとき
- ・車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリーやスロープを装着しているとき
- ・後方に駐車車両や壁・標識などの静止物や人がいるとき
- ・道路に対して傾いて停車しているとき
- ・接近する車両や自転車の周囲に走行する車両があるとき
- ・接近する車両や自転車が壁・標識などの静止物の横を走行しながら接近しているとき
- ・車両や自転車が高速で接近するとき
- ・けん引しているとき
- ・急勾配の坂道に停車しているとき
- ・カーブの途中や終了地点に停車しているとき

- 特に次のような状況では不要な検知が増えることがあります。

- ・センサー やセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
- ・自車の後方からずれた状態で車両や自転車が接近するとき
- ・道路に対して傾いて停車しているとき
- ・斜めに駐車している後方を車両や自転

車が接近するとき

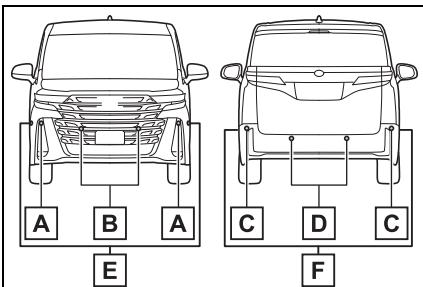
- ・後方に駐車車両や壁・標識などの静止物や人がいるとき
- ・後方で急な進路変更をして接近する車両や自転車
- ・接近する車両や自転車が壁・標識などの静止物の横を走行しながら接近しているとき
- ・バックドアが開いているとき
- ・車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリーやスロープを装着しているとき
- ・車両や自転車が高速で接近するとき
- ・けん引しているとき
- ・急勾配の坂道に停車しているとき
- ・カーブの途中や終了地点に停車しているとき
- ・隣接車線に停止している車両の後ろから車両や自転車が接近するとき

クリアランスソナー

クリアランスソナーは、車両と壁などの静止物とのおおよその距離を超音波センサーによって検知して、マルチメディアディスプレイの距離表示とブザー音、音声案内で運転者にお知らせします。

システムの構成部品

■ センサーの種類



- [A] フロントコーナーセンサー
- [B] フロントセンターセンサー
- [C] リヤコーナーセンサー
- [D] リヤセンターセンサー
- [E] フロントサイドセンサー
- [F] リヤサイドセンサー

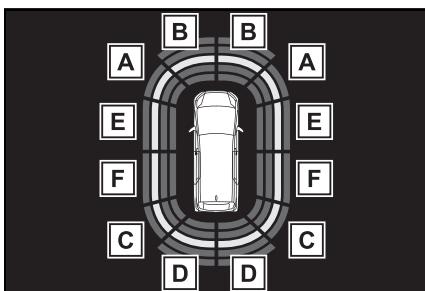
■ クリアランスソナーの表示のしかた

壁などの静止物を検知すると、マルチメディアディスプレイに表示されます。

マルチメディアディスプレイまたはリヤカメラ非装着車は、静止物を検知しているときに、クリアラ

ンスソナー検知表示灯が点灯します。 (→P.64)

▶ マルチメディアディスプレイの表示



- [A] フロントコーナーセンサー作動表示
- [B] フロントセンターセンサー作動表示
- [C] リヤコーナーセンサー作動表示
- [D] リヤセンターセンサー作動表示
- [E] フロントサイドセンサー作動表示
- [F] リヤサイドセンサー作動表示

クリアランスソナーの ON / OFF を切りかえるには

クリアランスソナーの ON / OFF は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。
(→P.493)

クリアランスソナー機能が OFF のときは、クリアランスソナー OFF 表示灯 (→P.64) が点灯します。

OFF (非作動) に切りかえて、クリアラ
ンスソナーを停止させた場合、再度、カ
スタマイズメニュー (→P.493) から
ON (作動) に切りかえないシステム
は復帰しません。

(エンジンスイッチを OFF にしたあとで再度 ON にしても、復帰しません)

ただし、マルチメディアディスプレイまたはリヤカメラ非装着車は、シフトポジションを R にすると自動的に ON (作動) になり、クリアランスソナー OFF 表示灯が消灯します。

またこのとき、クリアランスソナー機能の ON / OFF を切りかえることができません。

クリアランスソナー機能の設定自体は変更されません。



警告

■ 安全にお使いいただくために

本システムは認識性能／制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

■ システムを正しく作動させるために

必ず次のことをお守りください。
正常に作動しないことがあります。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。守れないときはシステムを OFF してください。

- センサーに傷を付けたりせずに、常にきれいにしておいてください。
- センサー付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート・フォグラランプ・フェンダーポール・無線アンテナなど）を取り付けないでください。
- センサー周辺へ衝撃を与えないでください。衝撃を受けた際はトヨタ販売店で点検を受けてください。前後のバンパーやグリルの脱着や交換が必要な場合はトヨタ販売店にご相談ください。
- 改造・分解・塗装をしないでください。

- ライセンスプレートカバーを取り付けないでください。
- 適正なタイヤ空気圧を維持してください。
- 純正品以外のサスペンションを取り付けないでください。

■ 洗車時の注意

- 高圧洗車機を使用して洗車するときは、センサー部に直接水をあてないでください。強い水圧により衝撃が加わり、正常に作動しなくなるおそれがあります。
- スチームを使用した洗車機などで洗車するときは、スチームをセンサー部に近付けすぎないようにしてください。スチームにより、正常に作動しなくなるおそれがあります。



知識

■ 作動条件

- エンジンスイッチが ON のとき
- クリアランスソナー機能が ON のとき
- 車両の速度が約 10km/h 以下のとき
- シフトポジションが P 以外にあるとき
- マルチメディアディスプレイまたはリヤカメラ非装着車は、シフトポジションを R にすると、クリアランスソナー機能を OFF (非作動) に設定している場合でも、自動的に ON (作動) になり、クリアランスソナー OFF 表示灯が消灯します。

クリアランスソナー機能の設定自体は変更されません。

■ センサーの検知について

- センサーの検知範囲は車両前部と後部のバンパー周辺に限られます。
- 静止物の形状・条件によって検知できる範囲が短くなることや、検知できな

いことがあります。

- センサーが静止物に近付きすぎると検知できないことがあります。
- 静止物を検知してから、表示が出る（ブザーが鳴る）までに多少時間がかかります。低速走行時の場合でも表示が出る（ブザーが鳴る）までに、静止物まで約30cm以内に接近するおそれがあります。
- オーディオ・エアコン使用時は、音楽やファンの音などにより、ブザーの音が聞き取りづらくなる場合があります。
- 他システムのブザー音などにより本システムの音が聞き取りづらくなる場合があります。
- メーター故障時はブザーの音が鳴らないことがあります。

■ システムが正しく検知できないことがある静止物

静止物の形状・条件によっては検知できる範囲が短くなることや、次のようなものは検知しないことがあります。注意して運転してください。

- 針金・フェンス・ロープなどの細いもの
- 編・雪などの音波を吸収しやすいもの
- 锐角的な形のもの
- 背の低いもの
- 背が高く上部が張り出しているもの

特に人は衣類の種類によっても検知できない場合がありますので、常に目視で確認してください。

■ システムが正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、センサーが正常に作動しないことがあります。

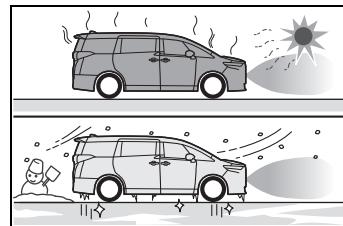
- センサーに水滴・氷・雪・泥などが付着したとき（取り除けば、正常に復帰

します）

- センサー部が凍結したとき（解ければ、正常に復帰します）

特に低温時には凍結などにより異常表示が出たり、壁などの静止物があっても検知しないことがあります。

- 炎天下や寒冷時



- 凸凹道・坂道・砂利道・草むら走行時など

- 他車のホーン・オートバイのエンジン音・大型車のエアブレーキ音・他車のセンサーなど超音波を発生するものが近付いたとき

- 大雨や水しぶきがかかったとき

- センサーに静止物が近付きすぎたとき

- 超音波を反射しにくい歩行者（例：ギャザーやフリルの多いスカートなど）

- 地面に対して垂直でないもの、車両進行方向に対して直角でないもの、凸凹なもの、波打っているものが検知範囲にあるとき

- 風が強いとき

- 霧・雪・砂嵐などの悪天候のとき

- 作動対象物と車両のあいだに検知できない対象物があるとき

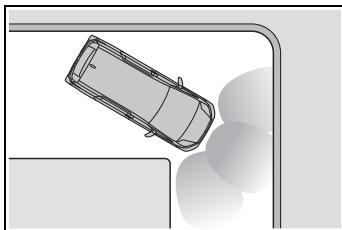
- 車・オートバイ・自転車・歩行者などの作動対象が車両の横から割り込んだり、飛び出してきたとき

- 衝突などで、センサーの方向がずれたとき

- センサー付近にけん引フック・輸送用フック・バンパープロテクター・バン

パートリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノープラウ）などを取り付けたとき

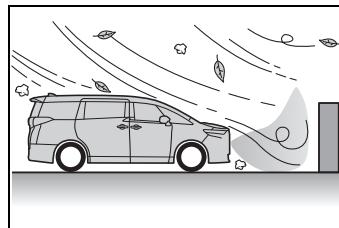
- 積載状況などにより車高が著しく変化したとき（ノーズアップ・ノーズダウンなど）
 - 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
 - タイヤチェーン・応急用タイヤ・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき
 - けん引しているとき
- 衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況**
- 次のような状況では、衝突の可能性がなくてもシステムが作動する場合があります。
- 狹い道路を走行するとき



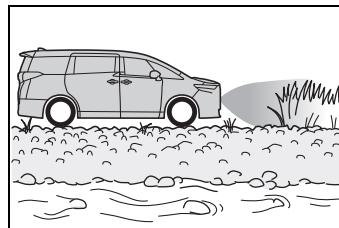
- 垂れ幕や旗やのれん、垂れ下がった枝、遮断機（踏切のバー・ETC のバー・駐車場のバーなど）に向かって走行するとき
- 地面にわだちや穴がある場合
- 排水溝などの金属のフタ（グレーチング）走行時
- 急な登坂路や降坂路を走行するとき
- 冠水している道路でセンサーに水がかぶったとき
- センサーに水滴・氷・雪・泥などが付着したとき（取り除けば、正常に復帰します）
- 大雨や水しぶきがかかったとき

● 霧・雪・砂嵐などの悪天候のとき

● 風が強いとき



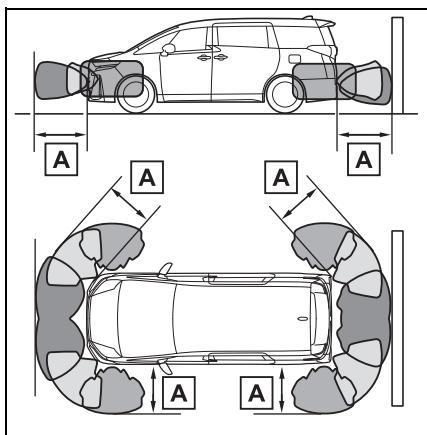
- 他車のホーン・オートバイのエンジ音・大型車のエアブレーキ音・他車のセンサーなど超音波を発生するものが近付いたとき
- 積載状況などにより車高が著しく変化したとき（ノーズアップ・ノーズダウンなど）
- 衝突などで、センサーの方向がずれたとき
- 背の高い縁石や直角の縁石に向かって進んだとき
- 立体駐車場や工事現場などで柱（H形鋼など）の付近を走行するとき
- 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
- 凸凹道・坂道・砂利道・草むら走行時など



- タイヤチェーン・応急用タイヤ・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき
- けん引しているとき

距離表示の見方

■ 静止物を検知できる範囲



A 約 200cm

検知できる範囲は図のとおりです。ただし、静止物がセンサーに近付きすぎると検知できません。

静止物の形状・条件によっては、検知できる距離が短くなることや、検知できないことがあります。

■ 検知距離とブザー音

静止物までのおおよその距離	ブザー音
フロントセンターセンサー： 約 200cm ~ 100cm	
リヤセンターセンサー： 約 200cm ~ 150cm	なし（表示のみ）
コーナーセンサー： 約 200cm ~ 60cm	
サイドセンサー： 約 200cm ~ 165cm	
フロントセンターセンサー： 約 100cm ~ 60cm*	
リヤセンターセンサー： 約 150cm ~ 60cm*	断続音
サイドセンサー： 約 165cm ~ 60cm*	

静止物までのおおよその距離	ブザー音
サイドセンサー以外： 約 60cm ~ 45cm*	
サイドセンサー： 約 60cm ~ 40cm*	速い断続音
サイドセンサー以外： 約 45cm ~ 30cm*	
サイドセンサー： 約 40cm ~ 30cm*	非常に速い断続音
約 30cm 以下	連続音

* 自動ミュート機能あり (→P.309)

音声案内とブザー音

静止物を検知すると、ブザーが鳴ります。

ブザー音と同時に音声案内を行います。

- 静止物との距離が近付くと、ブザーの断続時間が短くなります。静止物との距離が約 30cm 以下のとき、ブザーは断続音「ピピ」から連続音「ピー」になります。

- 複数のセンサーが同時に静止物を検知しているときは、もっとも近い静止物との距離に合わせたブザー音が鳴ります。

- ブザー吹鳴後、静止物との距離が近付かない場合は、自動でブザーが消音されます。(自動ミュート機能)



■ ブザー音量調整

カスタマイズメニューから、クリアランスソナー、RCTA、RCD の音量を一括で切りかえることができます。(→P.493)

■ ブザー音の一時ミュート（消音）について

マルチメディアディスプレイに一時ミュート（消音）スイッチが表示されているときにこのスイッチを押すと、一時的にブザー音を消すことができます。

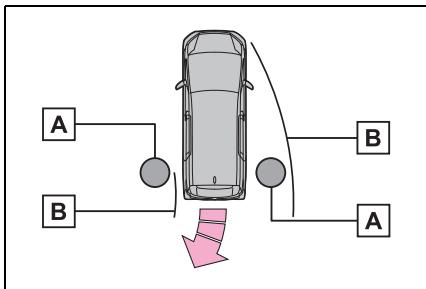
クリアランスソナー、RCTA、RCD のブザー音が一括でミュート（消音）されます。

●次のとき、自動でミュート（消音）が解除されます。

- ・シフトポジションを切りかえたとき
- ・車速が一定値以上になったとき
- ・センサー異常やシステムが一時使用不可となったとき
- ・使用中の機能を OFF にしたとき
- ・エンジンスイッチを OFF にしたとき

巻き込み警報機能

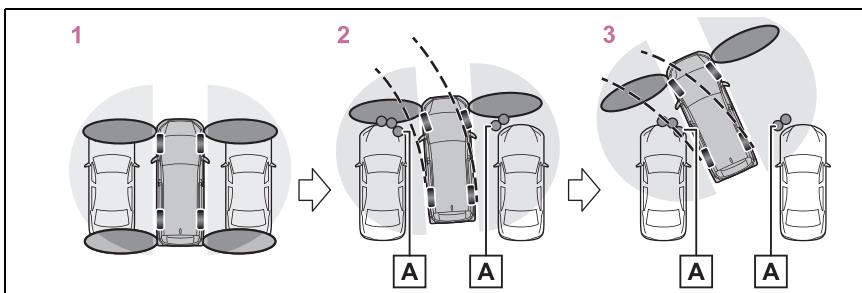
サイドエリアの静止物が車両の経路内にある場合に、表示とブザーで運転者に知らせます。



A 静止物

B 計算した車両経路

走行中にサイドセンサーまたはサイドカメラで静止物を検知します。車両が移動して静止物がサイドセンサーまたはサイドカメラで検知できない位置にあった場合も、車両の位置を計算することで静止物の位置を算出し、車両の経路内に静止物がある場合に、巻き込み警報機能が作動します。



A サイドセンサーまたはサイドカメラで検知した静止物

- 1 停車時はサイドエリアの静止物の検知は行いません。
- 2 車両移動中に静止物を検知
- 3 サイドセンサーまたはサイドカメラで静止物を直接検知していない状態でも、表示とブザーで知らせます。

□ 知識

■巻き込み警報機能の作動条件

- エンジン始動後、車両が約 7m 移動するあいだ
- シフトポジションが R のとき
- シフトポジションを R から D にしたあと、車両が約 7m 移動するあいだ
- が押され、マルチメディアディスプレイが表示されているとき
- フロントまたはリヤセンサーが静止物を検知しているとき

■サイドエリアの静止物の検知について

- サイドエリアの静止物は、センサーまたはカメラで直接検知するのではなく、車両前後のサイドセンサーまたはサイドカメラで検知したあと車両の位置を計算することで静止物の位置を算出します。そのためエンジンスイッチを ON にしたあと、しばらく走行してセンサーまたはカメラでサイドエリアのスキャンが完了するまでは、サイドエリアに静止物があっても検知できない場合があります。
- サイドセンサーまたはサイドカメラで車・人・動物などがサイドセンサーまたはサイドカメラの検知範囲から出て

も検知している状態が継続します。

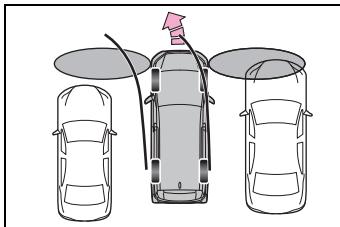
⚠ 警告

■ サイドセンサーまたはサイドカメラについて

次のとき、クリアランスソナーが正常に作動しないことがあります。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。注意して運転してください。

- エンジンスイッチをONにした直後の発進時、フロントサイドセンサーで検知できないような小さい車両や静止物が隣にあるとき。

下図の場合、前進しても左側にある車両を検知できないため、巻き込み防止警報機能は作動しません。



- サイドセンサーまたはサイドカメラで検知できない位置に静止物がある場合や、人がいる場合
- サイドエリアのスキャン完了後でも、車・人・動物などが車両の横からサイドエリアに侵入してきた場合は検知できません。
- サイドミラーが閉じられているときは、障害物を検知できません。
- バッテリーを脱着したときやあがったときはサイドミラーの開閉を実施してください。

RCTA（リヤクロストラフィックアラート）

RCTA（リヤクロストラフィックアラート）機能はリヤバンパー内側にあるブラインドスポットモニターの後側方レーダーセンサーを使用し、運転者の目視だけでは感知しづらい領域の確認を補助する機能です。後退時に運転者を支援します。

⚠ 警告

■ 安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者があります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

RCTA 機能は自車の右後方または左後方から接近してくる車両の存在を運転者に提供する補助的なシステムです。

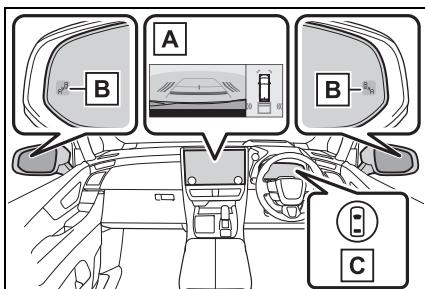
RCTA 機能を使用していても状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、運転者は自らの目視による安全確認をおこなう必要があります。

システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ システムを正しく作動させるために

→P.284

システムの構成部品



A マルチメディアディスプレイ

マルチメディアディスプレイ上で RCTA 機能の ON / OFF を切りかえます。

また、自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、マルチメディアディスプレイに検知した側の RCTA アイコン (→P.313) が点灯します。

イラスト * は両後方から車両が接近している例です。

* 表示画面は、グレード、オプションなどにより異なる場合があります。

B ドアミラーインジケーター

自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、両側のドアミラーインジケーター (→P.64) が点滅し、ブザーが鳴ります。

C 運転支援情報表示灯

RCTA が OFF のときに点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

設定のしかた

RCTA の ON / OFF は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。 (→P.493)

RCTA 機能が OFF のとき、運転

支援情報表示灯 (→P.64) が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

エンジンスイッチが ON になるたび、RCTA 機能は ON になります。

知識

■ ドアミラーインジケーターの視認性について

強い日差しのもとでは、ドアミラーインジケーターが見えづらいことがあります。

■ RCTA ブザー音の聞こえ方について

大音量のオーディオなど大きな音がする場合、RCTA ブザー音が聞こえづらくなる場合があります。

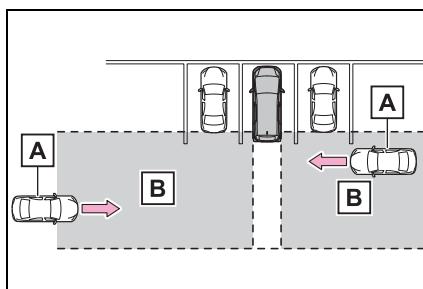
■ 後側方レーダーセンサーについて

→P.284

RCTA 機能

■ RCTA 機能の作動

RCTA 機能は後側方レーダーセンサーにより自車の右後方または左後方から接近している車両を検知し、ドアミラーのインジケーターとブザーによってその車両の存在を運転者に知らせます。



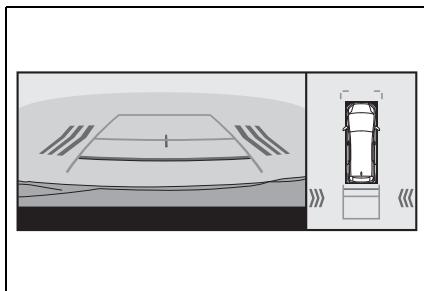
A 接近車両

B 接近車両を検知できる範囲

RCTA アイコンの表示

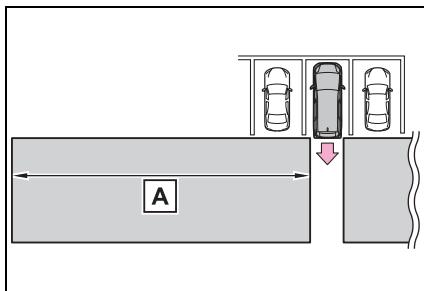
自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、マルチメディアディスプレイ上に次の表示をします。

例：両方向から車両が接近しているとき



RCTA 機能で検知できる範囲

次の範囲に入った車両を検知します。



速度が速い車両に対しては、より離れた位置で警報ブザーを鳴らします。

例：

接近車両の速度	A 警報距離（概算）
56km/h（速い）	30m
8km/h（遅い）	4m

知識

RCTA 機能の作動条件

RCTA 機能は、次の条件をすべて満たしているときに作動します。

- エンジンスイッチが ON のとき
- RCTA 機能が ON のとき
- シフトポジションが R のとき
- 自車の車速が約 15km/h 以下のとき
- 接近する他車の車速が約 8km/h ~ 56km/h のあいだのとき

ブザーの音量調整について

カスタマイズメニューから、RCTA、クリアランスソナー、RCD の音量を一括で切りかえることができます。（→P.493）

ブザー音の一時ミュート（消音）

作動対象を検知した場合、マルチメディアディスプレイ上に一時ミュート（消音）スイッチが表示されます。

これを押すとクリアランスソナー、RCTA、RCD のブザー音が一括でミュート（消音）されます。

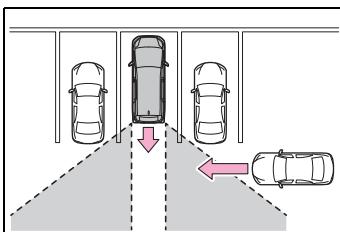
一時ミュート（消音）が解除されるとき：

- シフトポジションを切りかえたとき
- 車速が一定値以上になったとき
- センサー異常やシステムが一時使用不可となったとき
- 使用中の機能を OFF にしたとき
- エンジンスイッチを OFF にしたとき

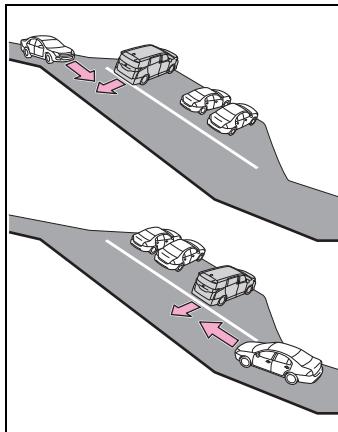
システムが検知しない車両について

RCTA 機能は、次のような車両や車両以外のものを検知対象としません。

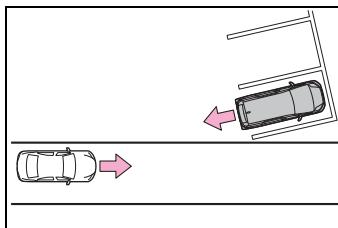
- 真後ろから接近する車両
- 自車の隣の駐車スペースで後退する車両
- 障害物のためにセンサーが検知できない車両



とき



● 斜めの駐車場から出庫するとき

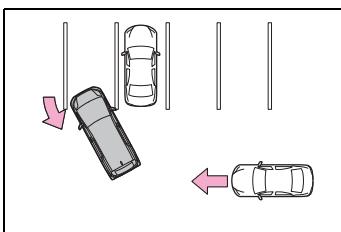


- RCTA 機能を ON にした直後
- RCTA 機能を ON にした状態で、エンジンをかけた直後
- 障害物のためにセンサーが車両を検知できないとき
- けん引しているとき
- 検知範囲に入る他車と自車の高さに差がありすぎるとき
- 炎天下や寒冷時
- ローダウンサスペンションや、純正と異なるサイズのタイヤを取り付けたとき
- 車高が極端に変化しているとき（ノーズアップ、ノーズダウンなど）
- 自車が旋回しているとき

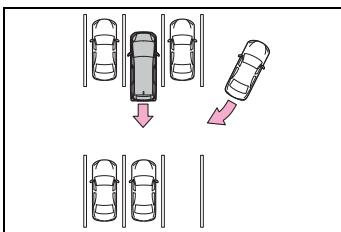
- ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物*
- 小型のオートバイ・自転車・歩行者など*
- 自車から遠ざかる車両
- 自車の隣の駐車スペースから接近する車両*
- センサーと接近車両との距離が近すぎる場合
- * 状況によっては検知をすることがあります。
- システムが正常に作動しないおそれがある状況

RCTA 機能は、次のような状況では車両を有効に検知しないおそれがあります。

- センサー やセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
- 泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサー やセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき
- 大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどのぬれた路面を走行するとき
- 複数台の他車が狭い間隔で連続して接近するとき
- 車両が高速で接近するとき
- センサー付近にけん引フック・バンパー・プロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノープラウ）などを取り付けたとき
- 勾配の変化が激しい坂で後退している



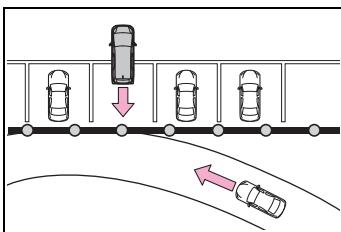
- 旋回しながら車両が近付いてきたとき



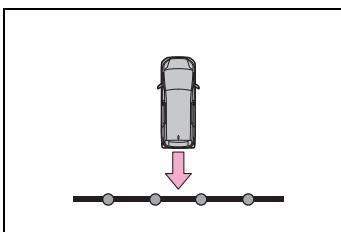
- 衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況

RCTA 機能は、特に次のような状況では不要な検知が増えることがあります。

- 駐車場に面した道を車両が走行しているとき



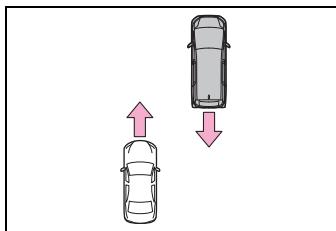
- 車両後方に電波の反射しやすい金属（ガードレール・壁・標識・駐車車両など）が存在するとき



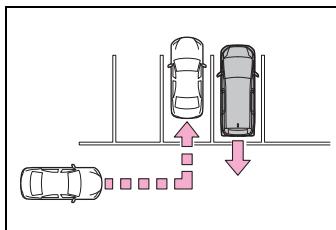
- センサー付近にけん引フック・バンパー・プロテクター・バンパー・トリム・

サイクルキャリア・除雪装置（スノープラウ）などを取り付けたとき

- 車両が自車の横を通過するとき



- 自車の近くで旋回していく移動物が存在するとき



- 自車近くに室外機などの回転体があるとき

- センサーに向けてスプリンクラーなどによる水の飛散があったとき

- 動いているもの（旗・排気ガス・大粒の雨や雪・路面の雨水など）

- ガードレールや壁などとの距離が短い状況で、それらが検知範囲に入ったとき

- グレーチングや側溝

- 炎天下や寒冷時

- ローダウンサスペンションや、純正と異なるサイズのタイヤを取り付けたとき

- 車高が極端に変化しているとき（ノーズアップ・ノーズダウンなど）

- けん引しているとき

RCD（リヤカメラディテクション）

車両後退時、リヤカメラが後方の歩行者を検知すると、ブザーとマルチメディアディスプレイ上の表示により注意喚起を行います。

⚠ 警告

■ 安全にお使いいただくために

本システムは認識性能・制御性能に限界があります。

システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

■ システムを正しく作動させるために

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- カメラに傷を付けたりせずに、常にきれいにしておいてください。
- カメラ付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート、フォグランプ等）を取り付けないでください。
- カメラ周辺へ衝撃を与えないでください。衝撃を受けた際はトヨタ販売店で点検を受けてください。
- カメラを分解・改造・塗装しないでください。
- カメラにアクセサリー・ステッカーを付けないでください。
- リヤバンパーに市販の保護パーツ（バンパートリム等）を取り付けないでください。
- 適正なタイヤ空気圧を維持してください。
- バックドアを完全に閉めてください。

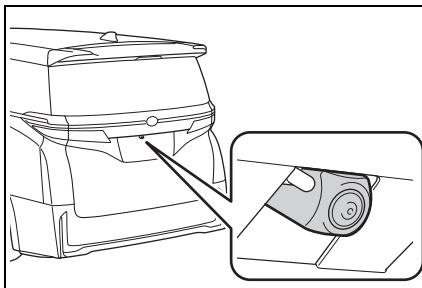
■ RCD の機能を OFF にすると

次のときはシステムを OFF にしてください。RCD 機能が正常に作動しないことがあります。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

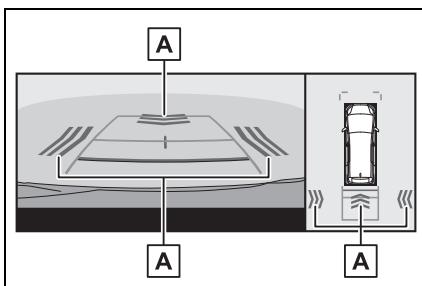
- 上記の内容が守られないとき
- 純正品以外のサスペンションを取り付けたとき

システムの構成部品

リヤカメラの位置



RCD の表示



A 歩行者検知表示

車両後方の歩行者を検知すると、自動的に表示されます。

システムを作動させるには

RCD の ON/OFF は、カスタマイズメニューから切りかえることが

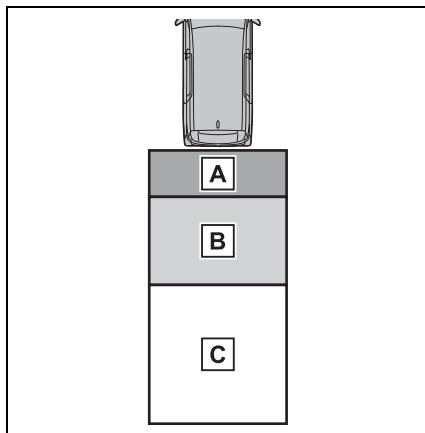
できます。→P.493)

RCD が OFF のとき、運転支援情報表示灯 (→P.64) が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

エンジンスイッチが ON になるたび、RCD は ON になります。

歩行者を検知した場合

車両後方エリアに歩行者がいる場合や、車両後方に向かって歩行者が接近してくるのをリヤカメラが検知した場合、下記のようにブザーとマルチメディアディスプレイの歩行者検知表示で運転者に注意を促します。



A 歩行者が[A] エリアにいる場合

ブザー：くり返し吹鳴

歩行者検知表示：点滅

B 歩行者が[B] エリアにいる場合

ブザー（自車静止時）：3 回吹鳴

ブザー（自車移動時および歩行者接近時）：くり返し吹鳴

歩行者検知表示：点滅

C C エリアにいる歩行者と自車が、接触する可能があるとシステムが判断した場合
ブザー：くり返し吹鳴
歩行者検知表示：点滅

□ 知識

■ 作動条件

- エンジンスイッチが ON のとき
- RCD 機能が ON のとき
- シフトポジションが R にあるとき
- アドバンストパークが作動中でないとき

■ ブザーの音量調整

カスタマイズメニューから、クリアランスナー、RCTA、RCD の音量を一括で切りかえることができます。→P.493)

■ ブザー音の一時ミュート（消音）

作動対象を検知した場合、マルチメディアディスプレイ上に一時ミュート（消音）スイッチが表示されます。スイッチを押すとクリアランスナー、RCTA、RCD のブザー音が一括でミュート（消音）されます。

次のいずれかの操作をすると、自動的にミュート（消音）を解除します：

- シフトポジションを切りかえたとき
- 車速が一定値以上になったとき
- センサー異常やシステムが一時使用不可となったとき
- 使用中の機能を OFF にしたとき
- エンジンスイッチを OFF にしたとき
- システムが正常に作動しないおそれがあるとき
 - 例えば、次のような歩行者はカメラが正しく検知できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

- ・前かがみになっている、またはしゃがんでいる人
 - ・寝転んでいる人
 - ・走っている人
 - ・自車や建物の影から突然現れる歩行者
 - ・自転車やスケートボード等に乗っている人
 - ・合羽やロングスカートなどを着ていて、全身の輪郭があいまいな歩行者
 - ・カートや荷物、傘等により体の一部が隠れている歩行者
 - ・夜間の歩行者や周囲の色とよく似た色の服装の歩行者
- 例えば、次のような状況ではカメラが対象となる歩行者を検知できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。
- ・悪天候（雨、雪、霧等）
 - ・レンズに汚れ（泥、融雪剤等）や傷があるとき
 - ・強い光がカメラに直接あたっているとき
 - ・明暗差があるとき（ガレージや地下駐車場の開いたシャッター付近等）
 - ・夜間（日没後）や薄暗い駐車場
 - ・カメラの位置や向きがずれているとき
 - ・けん引フックを取り付けているとき
 - ・カメラレンズ上に水滴が流れているとき
 - ・車高が極端に変化しているとき（ノーズアップ、ノーズダウンなど）
 - ・タイヤチェーン・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき
 - ・ローダウンサスペンションや、純正と異なるサイズのタイヤを取り付けたとき
 - ・リヤカメラ付近に市販の電装部品（光学式ナンバープレート、フォグラランプなど）を取り付けているとき
 - ・リヤバンパーに市販の保護パーツ（バンパートリムなど）を取り付けているとき
 - ・けん引しているとき

■ システムが作動するおそれがあるとき

- 例えば、次のようなものに対しては、衝突の可能性がなくともシステムが作動するおそれがあります。
 - ・立体物（柱、パイロン、フェンス、駐車車両等）
 - ・移動物（通行車両、バイク等）
 - ・動いている物（旗、排気ガス、大粒の雨や雪、路面の雨水等）
 - ・路面に模様があるとき（白線、横断歩道、石畳、路面電車のレール、補修痕、落ち葉、砂利等）
 - ・金属のフタ（グレーチング）や側溝
 - ・水たまりや濡れた路面への物体の映り込み
 - ・影
- 例えば、次のような状況では、衝突の可能性がなくともシステムが作動するおそれがあります。
- ・路肩や段差があるとき
 - ・勾配変化があるとき
 - ・車高が極端に変化しているとき（ノーズアップ、ノーズダウンなど）
 - ・リヤカメラ付近に市販の電装部品（光学式ナンバープレート、フォグラランプ等）を取り付けているとき
 - ・リヤバンパーに市販の保護パーツ（バンパートリム等）を取り付けているとき
 - ・カメラの位置や向きがずれているとき
 - ・けん引フックを取り付けているとき
 - ・カメラレンズ上に水滴が流れているとき
 - ・カメラが汚れているとき（泥、融雪剤等）
 - ・点滅する光源があるとき（ハザードランプ等）
 - ・タイヤチェーン・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき
 - ・けん引しているとき
- 検知を妨げる状況
- ・オーディオの音量が大きい場合や周囲が騒がしい場合、ブザーの警報音が聞

- こえない場合があります
- ・高温／低温環境では、ディスプレイの表示が見にくい場合があります

PKSB（パーキングサポートブレーキ）

PKSB（パーキングサポートブレーキ）は、駐車時などの低速走行時に作動対象を検知した場合、警報と自動ブレーキ抑制で作動対象との衝突被害の低減に寄与するシステムです。

駐車支援機能

システムは次のものを作動対象として検出しています。（機能によって、作動対象が異なります。）

- パーキングサポートブレーキ（前後方静止物）：→P.323
- パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）：→P.326
- パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）：→P.328
- パーキングサポートブレーキ（周囲静止物）：→P.323

⚠ 警告

■ 安全にお使いいただくために

システムを過信しないでください。システムを過信すると思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。必ず車両周辺の安全を確認しながら運転してください。

道路状況、車両状態および天候など、状況によっては作動しない場合があります。

センサー、レーダーでの検知には限界があります。必ず車両周辺の安全を確認しながら運転してください。

⚠ 警告

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。PKSB（パーキングサポートブレーキ）は作動対象への衝突を緩和し、衝突被害低減に寄与できる場合がありますが、状況によっては作動しない場合もあります。
- PKSB（パーキングサポートブレーキ）は、完全に車両を停止させるシステムではありません。また、車両を停止させることができたとしても、ブレーキ制御は約2秒で解除されるため、すぐにブレーキペダルを踏んでください。
- 故意に車や壁に向かって走行するなど、システムの作動を確認する行為は大変危険です。絶対におやめください。

■ パーキングサポートブレーキを OFF にするとき

次のときは、PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF にしてください。衝突の可能性がなくてもシステムが作動する場合があります。

- 点検などで、シャシーローラー・シャシーダイナモ・フリーローラーなどを使用する場合
- 船舶・トラックなどへ積載する際の進入時
- ローダウンサスペンションや、純正と異なるサイズのタイヤを取り付けた場合
- 積載状況などにより車高が著しく変化した場合（ノーズアップ、ノーズダウンなど）

- センサー付近にけん引フック・輸送用フック・バンパー・プロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノープラウ）などを取り付けたとき
- 自走式洗車機を利用する場合
- 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
- オフロード走行やスポーツ走行をするとき
- タイヤの空気圧が適正でないとき
- 著しく摩耗したタイヤを装着しているとき
- タイヤチェーン・応急用タイヤ・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき
- けん引しているとき

■ サスペンションの取り扱いについて

車高や車の傾きが変化すると、センサーが作動対象物を正しく検知できなくなり、システムが正しく作動しなくなるおそれがあり危険です。サスペンションの改造はしないでください。

システムを作動させるには

パーキングサポートブレーキ ON / OFF は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。（→P.493）

PKSB（パーキングサポートブレーキ）が OFF のとき、運転支援情報表示灯（→P.64）が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

OFF（非作動）に切りかえて、PKSB（パーキングサポートブレーキ）を停止させた場合、再度、

カスタマイズメニュー
 (→P.493) から ON (作動) に切りかえないとシステムは復帰しません。

(エンジンスイッチを OFF にしたあとで再度 ON にしても、復帰しません)

エンジン出力抑制制御・ブレーキ制御の表示・ブザーについて

エンジン出力抑制制御・ブレーキ制御が作動したときは、ブザーでお知らせするとともに、マルチメディアディスプレイおよびマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

出力抑制制御は状況により、加速制限制御から出力最大抑制制御のいずれかが作動します。

● エンジン出力抑制制御作動中 (加速制限制御)

一定以上の加速をシステムが制限しているとき：

マルチメディアディスプレイ表示：表示なし

マルチインフォメーションディスプレイ表示：“加速抑制中です”

運転支援情報表示灯：消灯のまま

ブザー：吹鳴なし

● エンジン出力抑制制御作動中 (出力最大抑制制御)

通常よりやや強めのブレーキ操作が必要だとシステムが判断したとき：

マルチメディアディスプレイ表示：“ブレーキ！”

マルチインフォメーションディスプレイ表示：“ブレーキ！”

運転支援情報表示灯：消灯のまま

ブザー：ピー（単発音）

● ブレーキ制御作動中

急ブレーキが必要だとシステムが判断したとき：

マルチメディアディスプレイ表示：“ブレーキ！”

マルチインフォメーションディスプレイ表示：“ブレーキ！”

運転支援情報表示灯：消灯のまま

ブザー：ピー（単発音）

● システム作動により車両停止

ブレーキ制御作動後に車両が停止したとき：

マルチメディアディスプレイ表示：“ブレーキを踏んでください”

マルチインフォメーションディスプレイ表示：“アクセルが踏まれています ブレーキを踏んでください”

アクセルが踏まれていない場合は“ブレーキを踏んでください”が表示されます。

運転支援情報表示灯：点灯

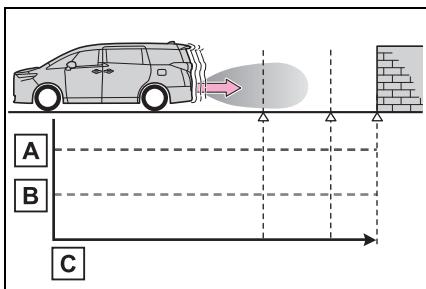
ブザー：ピピピピ（連続音）

PKSB（パーキングサポートブレーキ）の作動について

PKSB（パーキングサポートブレーキ）は、衝突の可能性がある作動対象（壁などの静止物、後方接近車両や後方歩行者）を検知したとき、エンジンの出力を抑制することにより車速の上昇を抑えます。（エンジン出力抑制制御：図2）また、そのままアクセルペダルを踏み続けた場合は、ブレーキをかけ減速させます。（ブレーキ制

御：図 3)

- 図 1 (PKSB [パーキングサポートブレーキ] 非作動時)

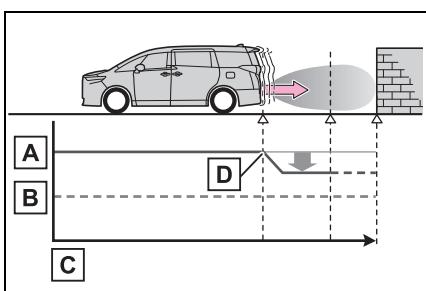


■ A エンジン出力

■ B 制動力

■ C 時間

- 図 2 (エンジン出力抑制制御時)



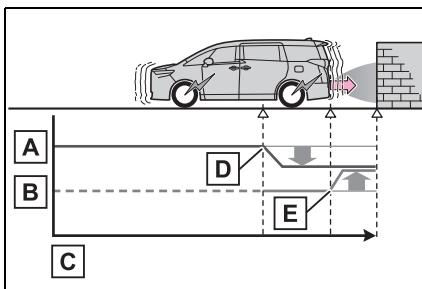
■ A エンジン出力

■ B 制動力

■ C 時間

- D エンジン出力抑制制御開始 (作動対象と衝突の可能性があるとシステムが判断したとき)

- 図 3 (エンジン出力抑制制御かつブレーキ制御時)



■ A エンジン出力

■ B 制動力

■ C 時間

- D エンジン出力抑制制御開始 (作動対象と衝突の可能性があるとシステムが判断したとき)

- E ブレーキ制御開始 (作動対象と衝突の可能性が非常に高いとシステムが判断したとき)

□ 知識

- PKSB (パーキングサポートブレーキ) が作動したときは

システム作動により車両が停止した場合、PKSB (パーキングサポートブレーキ) が停止して、運転支援情報表示灯が点灯します。また、PKSB (パーキングサポートブレーキ) が作動した場合でもブレーキ制御は約 2 秒で解除されるため、そのまま発進できます。また、ブレーキペダルを踏んでも解除されるため、再度アクセルペダルを踏むと発進できます。

- PKSB (パーキングサポートブレーキ) 作動後の復帰について

システム作動により PKSB (パーキングサポートブレーキ) が停止したときに、PKSB (パーキングサポートブレーキ) を復帰させたい場合は、再度、PKSB (パーキングサポートブレーキ) を ON にするか、エンジンスイッチをいったん

OFFにしてから、再度ONにしてください。

また、次の状況でも自動的にPKSB（パーキングサポートブレーキ）が復帰し、運転支援情報表示灯が消灯します。（→P.64）

- シフトポジションをPにする
- 進行方向の作動対象がなくなった状態で走行する
- 車両の進行方向を切りかえる

■クリアランスソナーのブザーについて

クリアランスソナーのON／OFFに関係なく（→P.304）、PKSB（パーキングサポートブレーキ）を停止させていなければ（→P.320）、ブレーキ制御とエンジン出力抑制制御が作動すると、クリアランスソナーのブザーも鳴り、作動対象とのおよその距離をお知らせします。

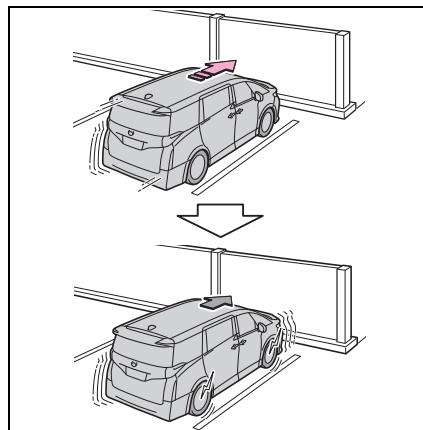
パーキングサポートブレーキ（前後方静止物／周囲静止物）

駐車時や低速走行時において、壁などの静止物への衝突のおそれがあるときや、アクセルペダルの踏み間違いや踏みすぎによる急発進、および、シフトポジション選択を誤っての発進時に、センサーが前後進行方向の静止物を検知するとシステムが作動し、衝突を緩和し衝突被害低減に寄与します。

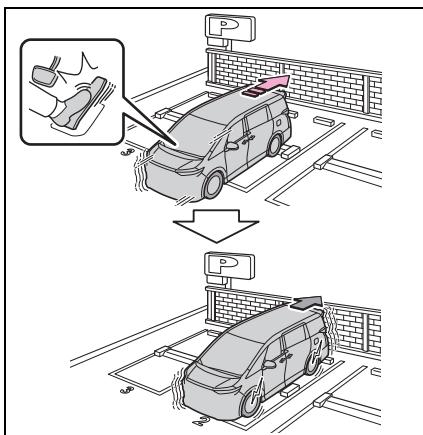
システム作動例（前後方静止物）

次のようなときに進行方向の静止物を検知してシステムが作動します。

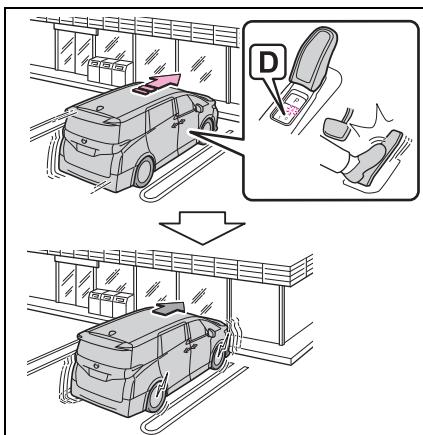
■低速走行時にブレーキペダルを踏み損なってしまった、または踏み遅れてしまったとき



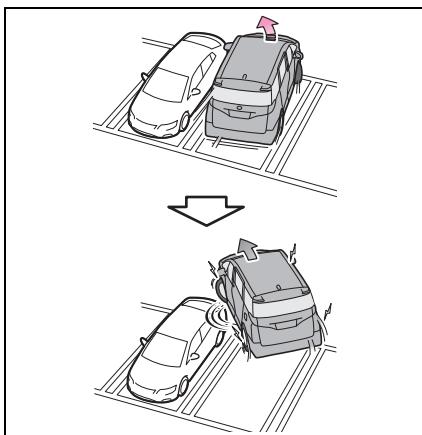
■ アクセルペダルを踏みすぎてしまったとき



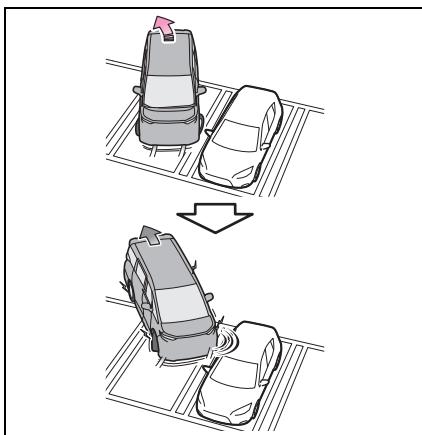
■ 誤ってシフトポジションを D にして前進してしまったとき



■ 前進中に内輪差で巻き込みによる衝突



■ 後退中に外輪差で巻き込みによる衝突



システム作動例（周囲静止物）

次のようなときに周囲の静止物を検知してシステムが作動します。

センサーの種類

→P.304

⚠ 警告

■ システムを正しく作動させるために

→P.305

⚠ 警告

■ 万一、踏切内などで PKSB (パーキングサポートブレーキ) が誤って作動したときは

→P.322

■ 洗車時の注意

→P.305

□ 知識

■ パーキングサポートブレーキ（前後方静止物）の作動開始条件

運転支援情報表示灯が点灯 (→P.63, 64) しておらず、次の条件をすべて満たすと作動します。

● エンジン出力抑制制御

- ・ PKSB (パーキングサポートブレーキ) を ON (作動) にしているとき
- ・ 車速が約 15km/h 以下
- ・ 車両進行方向に作動対象となる静止物があるとき (約 2 ~ 4m 先まで)
- ・ 衝突回避には、通常よりやや強めのブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

● ブレーキ制御

- ・ エンジン出力抑制制御作動中
- ・ 衝突回避には、急ブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

■ パーキングサポートブレーキ（周囲静止物）の作動開始条件

前後方静止物の作動条件に加えて、次の条件のいずれかを満たすと作動します。

● エンジン始動後、車両が約 7m 前進するあいだ

● シフトポジションが R のとき

● シフトポジションを R から D にしたあと、車両が約 7m 前進するあいだ

■ パーキングサポートブレーキ（前後方静止物／周囲静止物）の作動終了条件

次のいずれかの条件のときに作動が終了します。

● エンジン出力抑制制御

- ・ PKSB (パーキングサポートブレーキ) を OFF (非作動) にしたとき
- ・ 通常のブレーキ操作で衝突回避が可能になったとシステムが判断したとき
- ・ 車両進行方向の作動対象となる静止物がなくなったとき (約 2 ~ 4m 先まで)

● ブレーキ制御

- ・ PKSB (パーキングサポートブレーキ) を OFF (非作動) にしたとき
- ・ ブレーキ制御により車両が停止して約 2 秒が経過したとき
- ・ ブレーキ制御により車両が停止したあとに、ブレーキペダルを踏んだとき
- ・ 車両進行方向の作動対象となる静止物がなくなったとき (約 2 ~ 4m 先まで)

■ パーキングサポートブレーキ（前後方静止物／周囲静止物）の検知範囲について

パーキングサポートブレーキ（前後方静止物／周囲静止物）の検知範囲は、クリアランスソナーの検知範囲 (→P.308) とは異なります。そのため、クリアランスソナーが静止物との接近をお知らせしても、パーキングサポートブレーキ（前後方静止物／周囲静止物）は作動を開始していない場合があります。

■ システムが正常に作動しないおそれのある状況

→P.306

■ 衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況

→P.307

■衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況（周囲静止物）

- 前後方静止物の作動条件（→P.325）に加えて、次のような状況では、センサーが検知しないおそれがあります。
- 縦列駐車時など側方の幅寄せする場合（→P.345）

■サイドエリアの静止物の検知について

- サイドエリアの静止物は、センサーまたはカメラで直接検知するのではなく、車両前後のサイドセンサーまたはサイドカメラで検知したあと車両の位置を計算することで静止物の位置を算出します。そのためエンジンスイッチをONにしたあと、しばらく走行してセンサーまたはカメラでサイドエリアのスキャンが完了するまでは、サイドエリアに静止物があっても検知できない場合があります。
- サイドセンサーまたはサイドカメラで車・人・動物などがサイドセンサーまたはサイドカメラの検知範囲から出ても検知している状態が継続します。

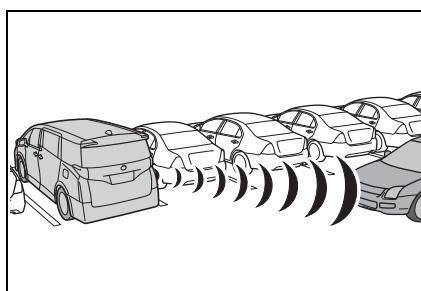
パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）

後側方レーダーセンサーで自車の右後方または左後方から接近している車両を検知し、システムが衝突の危険性があると判断した場合にブレーキ制御することで、接近車両への衝突を緩和し衝突被害軽減に寄与します。

システム作動例

次のようなときに進行方向の車両を検知してシステムが作動します。

■後退時、車両接近中にブレーキペダルを踏み損なってしまった、または踏み遅れてしまったとき



センサーの種類

→P.284

⚠ 警告

■システムを正しく作動させるために

→P.284

知識

■ パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）の作動開始条件

運転支援情報表示灯が点灯（→P.63, 64）しておらず、次の条件をすべて満たすと作動します。

● エンジン出力抑制制御

- ・ PKSB（パーキングサポートブレーキ）を ON（作動）にしているとき
- ・ 車速が約 15km/h 以下
- ・ 後側方から接近する車両の車速が約 8km/h 以上
- ・ シフトポジションが R のとき
- ・ 後側方からの接近車両への衝突回避には、通常よりやや強めのブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

● ブレーキ制御

- ・ エンジン出力抑制制御作動中
- ・ 後側方からの接近車両への衝突回避には、急ブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

■ パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）の作動終了条件

次のいずれかの条件のときに作動が終了します。

● エンジン出力抑制制御

- ・ PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にしたとき
- ・ 通常のブレーキ操作で衝突回避が可能になったとき
- ・ 自車後側方への接近車両がなくなったとき

● ブレーキ制御

- ・ PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にしたとき
- ・ ブレーキ制御により車両が停止して約 2 秒が経過したとき
- ・ ブレーキ制御により車両が停止したあとに、ブレーキペダルを踏んだとき

■ システムが正常に作動しないおそれのある状況

→P.314

■ 衝突の可能性がなくともシステムが作動する状況

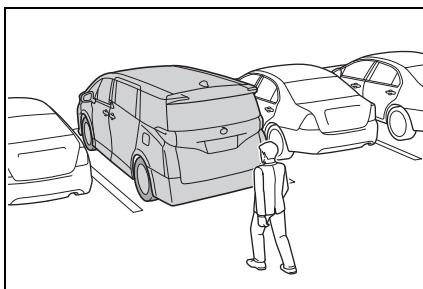
→P.315

パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）

車両後退時、リヤカメラが検知した車両後方にいる歩行者と接触する可能性が高いとシステムが判断した場合は、警報やブレーキ制御により、後方歩行者との衝突を緩和し、衝突被害軽減に寄与します。

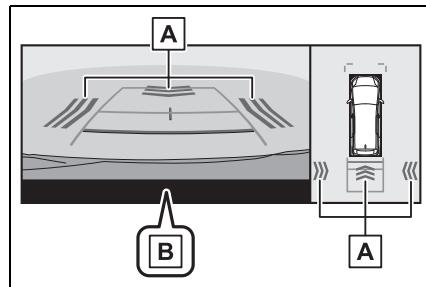
システム作動例

後退時、歩行者が車両後方に接近中、ブレーキペダルを踏み損なってしまった、または踏み遅れてしまったときにシステムが作動します。



後方歩行者の画面表示

車両後方の歩行者を検知すると自動的にマルチメディアディスプレイ上に表示され、回避操作を促します。



A 歩行者検知表示

B “ブレーキ！”

⚠️ 警告

■ 万一、パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）が誤って作動したときは

パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）作動後はすぐにブレーキを踏んでください。（ブレーキを踏むとシステムは解除されます。）

■ パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）を正しくお使いいただくために

→P.316

□ 知識

■ パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）の作動開始条件

運転支援情報表示灯が点灯（→P.63, 64）しておらず、次の条件をすべて満たすと作動します。

● エンジン出力抑制制御

- ・PKSB（パーキングサポートブレーキ）をON（作動）にしているとき
- ・車速が15km/h以下
- ・シフトポジションがRのとき
- ・自車後方に歩行者がいるとき
- ・衝突回避には、通常よりやや強めのブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

● ブレーキ制御

- ・ エンジン出力抑制制御作動中
- ・ 後方歩行者との衝突回避には、急ブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

■ パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）の作動終了条件

次のいずれかの条件のときに作動が終了します。

● エンジン出力抑制制御

- ・ PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にしたとき
- ・ 通常のブレーキ操作で衝突回避が可能になったとき
- ・ 後方歩行者がいなくなった、または検知できなくなったとき

● ブレーキ制御

- ・ PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にしたとき
- ・ ブレーキ制御により車両が停止して約 2 秒が経過したとき
- ・ ブレーキ制御により車両が停止したあとに、ブレーキペダルを踏んだとき

■ パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）の復帰について

→P.322

■ パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）の検知範囲について

パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）の検知範囲は、RCD の検知範囲（→P.317）とは異なります。そのため、RCD が後方歩行者との接近をお知らせしても、パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）は作動を開始していない場合があります。

■ システムが正常に作動しないおそれがあるとき

→P.317

■ システムが作動するおそれがあるとき

→P.318

プラスサポート（販売店装着オプション）

プラスサポートは、お客様の運転を補助し、より安全なドライブを支援します。

プラスサポートを使用するためには、プラスサポート用スマートキー（以下、サポキー）が必要です。プラスサポートおよびサポキーは販売店装着オプションです。

プラスサポートでできること

プラスサポートを使用すると、機能の追加や、音声案内シーンの追加でより安心なドライブを支援します。また、通常の電子キーとは異なるカスタマイズ設定が可能です。

■ 機能の追加

- 急アクセル時加速抑制
- 交差点対向車注意喚起

■ 音声案内シーンの追加（進入禁止区内間に進入した場合など）

対象機能：

- PCS（プリクラッシュセーフティ）
- RSA（ロードサインアシスト）
- 急アクセル時加速抑制
- PKSB（パーキングサポートブレーキ）

■ 通常の電子キーとは異なるカスタマイズ設定

対象機能：

- PCS（プリクラッシュセーフティ）
- LDA（レーンディバーチャーアラート）
- RSA（ロードサインアシスト）
- BSM（ブラインドスポットモニター）
- PDA（プロアクティブドライビングアシスト）
- RCTA（リアクロストラフィックアラート）
- PKSB（パーキングサポートブレーキ）
- 安心降車アシスト
- クリアランスソナー

知識

■ カスタマイズ初期値の変更

カスタマイズ設定から、各システムの設定を変更することができます。

サポキーで起動した場合、通常の電子キーとは異なる設定でシステムが作動します。

サポキーで起動後に変更した設定はサポキーにのみ記憶されます。通常キーには記憶されません。

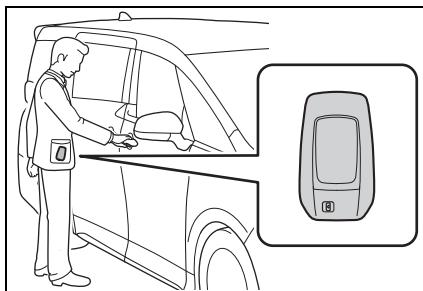
より安全に運転いただくため、通常の電子キーでは設定の変更ができる音声案内など、一部の項目が作動状態に固定されます。

プラスサポートを使用するには

■ プラスサポートを始動するには

- 1 サポキーを携帯していることを確認して、ドアを解錠する
(→P.86, 92)

エンジンスイッチが OFF 以外の状態でドアが施錠されているときは、サポキーでドアを解錠しても、プラスサポートは作動可能になりません。



2 通常の手順でエンジンを始動する (→P.170)

3 “プラスサポートで起動中 急加速を制限します”というメッセージが表示され、プラスサポート表示灯が点灯したことを確認する

エンジンスイッチを OFF にするまで、プラスサポートが作動可能な状態になります。

エンジンの始動後は、プラスサポート表示灯が点灯していることを必ず確認してください。プラスサポート表示灯が点灯していないときは、プラスサポートが作動しません。また、プラスサポートが必要なときは、プラスサポート表示灯が消灯していることを必ず確認してください。



4 ステアリングスイッチの□を押してメッセージを非表示にする

メッセージ表示後約30秒経過するまで、またはスイッチ操作によりメッセージを非表示とするまで、“プラスサポートで起動中 急加速を制限します”的メッセージは表示されたままになります。

■ プラスサポートが不要なときは

標準装備の電子キーを携帯してドアを解錠し、エンジンを始動してください。プラスサポートが非作動になり、標準車と同様の制御になります。

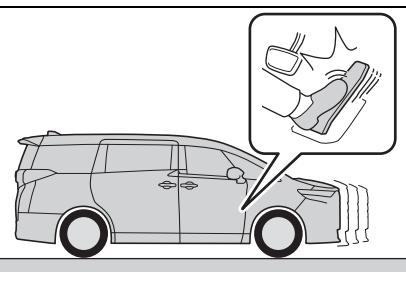


警告

■ プラスサポートを正しく使用するために

- 必ずサポキーを携帯していることを確認してください。標準装備の電子キーを携帯しているときは、プラスサポートが始動しません。
- サポキーと標準装備の電子キーを同時に携帯しないでください。プラスサポートが始動しない場合があります。
- エンジンの始動後は、プラスサポート表示灯が点灯していることを必ず確認してください(→P.64)。プラスサポート表示灯が点灯していないときは、プラスサポートが作動しません。また、プラスサポートが不要なときは、プラスサポート表示灯が消灯していることを必ず確認してください。

クセルペダルが速く強く踏み込まれたとシステムが判断したとき、エンジンの出力を抑制することで、車両が急加速しないように制御します。



警告

■ 安全にお使いいただくために

システムを過信しないでください。システムを過信すると思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。必ず車両周辺の安全を確認しながら運転してください。

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。急アクセル時加速抑制は、状況によっては作動しない場合もあります。
- 急アクセル時加速抑制は衝突を防止するシステムではありません。車両を自動で停止させる機能はないため、加速抑制後も車両は惰性で動きます。周囲の交通状況を確認の上、必ずご自身でブレーキペダルを踏んでください。

急アクセル時加速抑制について

低速走行(約30km/h以下)中に、ペダルの踏み間違いなどでア

⚠️ 警告

- 急アクセル時加速抑制は意図せぬ急加速の防止を補助する機能ですが、走行状況によっては、加速が必要なときにもエンジンの出力が抑制される場合があります。安全、かつ環境に優しい運転をするためにも、日頃からアクセルペダルはゆっくり操作するように心がけてください。
- お客様ご自身で急アクセル時加速抑制の作動テストを行わないでください。状況によってはシステムが正常に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ 急アクセル時加速抑制が作動したとき

急アクセル時加速抑制が作動すると、エンジンの出力を抑制します。すみやかにアクセルペダルから足を離して、ブレーキペダルを踏んでください。アクセルペダルを踏み込んだままでいると、しばらくしたあとに車両が加速し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ 右左折・車線変更するとき

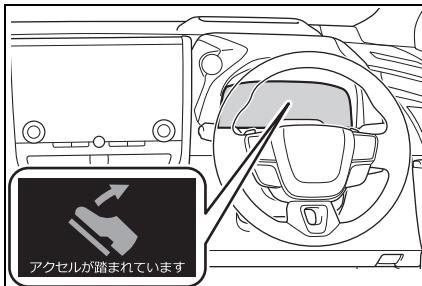
必ず方向指示灯を点滅させてください。方向指示灯が点滅していないと、急アクセル時加速抑制によりエンジンの出力が抑制され、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

急アクセル時加速抑制が作動したとき

急アクセル時加速抑制が作動したときは、ブザーや音声発話でお知らせするとともに、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

メッセージが表示されたときは、すみや

かにアクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏んでください。



□ 知識

■ 急アクセル時加速抑制の作動条件

プラスサポートが始動したあと、次の条件をすべて満たした場合、急アクセル時加速抑制が作動します。

- シフトポジションが P・N 以外のとき
- 車速が約 30km/h 以下のとき
- アクセルペダルを速く強く踏み込んだとき（アクセルペダルを踏み込む速度と踏み込み量が一定以上のとき）

次の条件のいずれかを満たした場合、エンジンの出力抑制量を少なくし、前進時は約 30km/h、後退時は約 12km/h^{*}までゆるやかに加速します。

- 加速抑制作動中にアクセルペダルを約 5 秒間踏み続けたとき
- 加速抑制作動後すぐにアクセルペダルを速く強く踏み直したとき

^{*} 状況によっては所定の速度以下に抑制できない場合があります

■ 急アクセル時加速抑制が作動しないとき

次の場合は、加速が必要な場合を考慮し、急アクセル時加速抑制が作動しません。アクセルペダルをゆっくり操作し、安全運転を心がけてください。

- 方向指示灯の点滅中、または消灯した

あと約2秒間（前進時）

- ブレーキペダルを踏んでいるとき、またはブレーキペダルを離したあと約2秒間（前進時）

- 急な上り坂に自車がいるとき

■ システムが正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況ではシステムが正常に作動しない場合があります。

● 車両姿勢の変化

- ・ 積載状況などにより車両姿勢が大きく傾いたとき（ノーズアップ・ノーズダウンなど）
- ・ ローダウンサスペンション、純正と異なる径のタイヤなどを取り付けたとき

● 周辺環境の影響

- ・ 坂道・凸凹道・砂利道などの非舗装路を走行しているとき
- ・ 雪道などスリップが発生するような場所を走行しているとき
- ・ 坂道の出口など車両姿勢が急激に変化したとき
- ・ スピードブレイカーや縁石など大きな段差を乗り越えるとき

■ 加速したい場面でシステムが作動するおそれのある状況

次のような状況では踏み間違いでなくてもシステムが作動する場合があります。アクセルを離してゆっくり踏み直してください。

● 車両姿勢の変化

- ・ 積載状況などにより車両姿勢が大きく傾いたとき（ノーズアップ・ノーズダウンなど）
- ・ ローダウンサスペンション、純正と異なる径のタイヤなどを取り付けたとき

● 周辺環境の影響

- ・ 坂道・凸凹道・砂利道などの非舗装路を走行しているとき
- ・ 雪道などスリップが発生するような場

所を走行しているとき

- ・ 坂道の入り口など車両姿勢が急激に変化したとき
- ・ スピードブレイカーや縁石など大きな段差を乗り越えるとき

● 運転操作の影響

- ・ 車線変更や右折などで方向指示灯を点滅させずに急いで加速しようとしたとき
- ・ 惯性走行から急いで加速しようとしたとき
- ・ ETCゲート通過後に急加速したとき
- ・ ブレーキホールドによるブレーキ保持中に急発進しようとしたとき

交差点対向車注意喚起について

交差点で接近してくる対向車がいるときに右折しようとする場合、ブザーと表示で注意喚起を行います。

交差点対向車注意喚起が作動したとき

交差点対向車注意喚起が作動したときは、ブザーでお知らせするとともに、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。



知識

■ 交差点対向車注意喚起の作動条件

方向指示灯が点滅していないときは、交差点対向車注意喚起が作動しません。

作動対象	自車速度	対向車速度
対向車両	約 15 ~ 30km/h	約 10km/h 以上
対向自動二輪車	約 15 ~ 30km/h	約 25km/h 以上

トヨタチームメイトアドバンストパーク

機能概要

アドバンストパークは、画面表示や音声／ブザー音による操作案内および、ハンドル操作、アクセル、ブレーキ、シフトチェンジの全操作を車両が支援するとともに、俯瞰映像に車両周辺の死角や目標駐車位置などを常に表示し、安全／安心でスムーズな駐車や出庫を実現するシステムです。

また、パノラミックビューモニター^{*}で、障害物の位置をディスプレイのカメラ映像上に表示することで、運転者に周辺状況をわかりやすく伝えます。

アシストが開始してから目標駐車位置到達まで方向指示灯を自動的に点滅させることにより、周囲へ駐車中であることをお知らせします。

駐車時の路面や自車の状況／目標駐車位置までの距離などにより、設定した目標駐車位置に到達できない場合があります。

^{*} パノラミックビューモニターの詳細は、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

機能一覧

■ 並列前向き／バック駐車機能

目標駐車位置の横に停車した状態から、目標駐車位置までアシストを行います。 (→P.341)

■ 並列前向き／バック出庫機能

並列駐車状態からアシストを開始し、駐車スペースから出られる位置までアシストを行います。

(→P.344)

■ 縦列駐車機能

目標駐車位置の横に停車した状態から、目標駐車位置までアシストを行います。(→P.345)

■ 縦列出庫機能

縦列駐車状態からアシストを開始し、駐車スペースから出られる位置までアシストを行います。

(→P.348)

■ メモリ機能

事前に登録した駐車スペースまでアシストを行います。(→P.350)



警告

■ 安全にお使いいただくために

本システムは認識性能／制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

- 一般の車と同様、必ず車両周辺の安全を直接確認しながら慎重に前進または後退してください。
- システムを使用するときは、必ず車両周辺の安全を直接確認してください。必要であれば、減速、停車のためにブレーキを踏んでください。
- 駐車するときは、必ず目標駐車位置に車を駐車できるかを確認してから操作を行ってください。

●駐車時の路面や自車の状況、駐車スペースまでの距離などにより、駐車スペースを認識できなかったり、最後までアシストできないことがあります。

●本システムは適切な経路で切り返し位置の案内を出しますが、隣接車両への接近など、運転者が不安に感じた場合は、任意のタイミングでブレーキを踏んでからシフトポジションを切りかえてください。ただし、切り返し回数が多くなったり、駐車精度が悪化することがあります。

●次のようなものは検知できないことがあるため、周辺の安全を直接確認し、接触のおそれがある場合はブレーキを踏んで停車してください。

- ・針金／フェンス／ロープなどの細いもの
- ・綿／雪などの音波を吸収しやすいもの
- ・鋭角的な形のもの
- ・背の低いもの（縁石やブロックなど）
- ・背が高く上部が張り出しているもの
- 駐車スペース内に障害物が存在しても、検出できずにアシストすることができます。
- 周辺の車両や障害物／車止め／人などに接触しそうなときは、ブレーキペダルを踏んで停車し、アドバンストパークメインスイッチを押してシステムを中止してください。

⚠️ 警告

- マルチメディアディスプレイだけを見ながら走行することは絶対にしないでください。画面に映っている映像と実際の状況は異なることがあります、画面だけを見て走行すると車をぶつけたり、思わぬ事故を引き起こすことがあります。走行するときは、必ず目視やミラーなどで周辺の安全を直接確認してください。
- 外気温が低い場合、画面が暗くなったり、映像が薄れることができます。特に動いているものの映像が歪む、または画面から見えなくなることがあるため、必ず周囲の安全を直接目で確認しながら運転してください。
- 次のとき、アドバンストパークによる停車保持が解除され、車両が動き出すことがあります。思わぬ事故につながるおそれがあるため、ただちにブレーキペダルを踏んでください。
 - ・ 作動中に運転席のドアが開けられたとき
 - ・ 作動中に一定時間システムの指示に従わなかったとき
 - ・ 作動中に一定時間ブレーキペダルを踏んで停車しているとき
 - ・ 作動中に故障が発生したとき
- 使用中はハンドルが回転するため、次の点に注意してください。
 - ・ ネクタイ／スカーフ／腕などを巻き込むことがあります。上体をハンドルに近付けないでください。また、お子さまがハンドルに近付かないよう注意してください。
 - ・ 爪が長いとハンドルが回転する際にけがをすることがあります。

・ 万一のときは、ブレーキペダルを踏んで停車し、アドバンストパークメインスイッチを押してシステムを中止してください。

- 使用中は窓から手を出さないでください。

■ アドバンストパークを正しく作動させるために

必ず次のことをお守りください。お守りいただかないと、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 次のような状況では使用しないでください。

- ・ 駐車場以外の場所
- ・ 砂地／砂利地のような駐車スペースのない整備されていない駐車場
- ・ 傾斜／段差のある平坦でない駐車場
- ・ 機械式駐車場
- ・ 車両下部に接触して固定する装置がある駐車場
- ・ 凍結したり、すべりやすい路面、または雪道
- ・ 真夏の炎天下でアスファルトが溶けているようなとき
- ・ 車両周辺に障害物があるとき
- ・ 目標駐車位置（青色の枠の中）や自車と目標駐車位置とのあいだに障害物があるとき
- ・ 目標駐車位置（青色の枠の中）や自車と目標駐車位置とのあいだに側溝があるとき
- ・ 出庫方向に穴や側溝があるとき
- ・ 人や車両などの通行量が多いとき
- ・ 駐車スペースの確保が困難な場所（車両が入らないほど狭いなど）
- ・ カメラのレンズの汚れ／西日／影／雪などで画面が見にくいとき

⚠️ 警告

- ・タイヤチェーン／応急用タイヤを使用しているとき
- ・ドアまたはバックドアが完全に閉まっていないとき
- ・窓から手を出しているとき
- ・降雪や豪雨の場合
- メーカー出荷時装着タイヤ以外のタイヤは使用しないでください。アドバンストパークが正常に作動しないことがあります。また、タイヤを交換すると、画面に表示される線や枠の表示位置に誤差が生じることがあります。タイヤを交換するときはトヨタ販売店にご相談ください。
- 次のような状況では、設定した位置にアシストできない場合があります。
 - ・タイヤが極端に摩耗していたり、空気圧が低いとき
 - ・極端に重いものを積んでいるとき
 - ・車両の片側にだけ荷物などを積んで車両が傾いているとき
 - ・駐車場にロードヒーター（路面凍結防止用のヒーター）が設置されているとき
 - ・タイヤを縁石などに強くあてて、ホイールアライメントが正常でないとき
 - ・アシスト中に歩行者や通行車両を検知したとき
 - ・区画線と認識してしまうようなもの（光／建物の映り込み／段差／側溝／路面ペイント／引き直し線など）があるとき

上記以外で設定位置と車両の位置が大きくずれる場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

⚠️ 注意

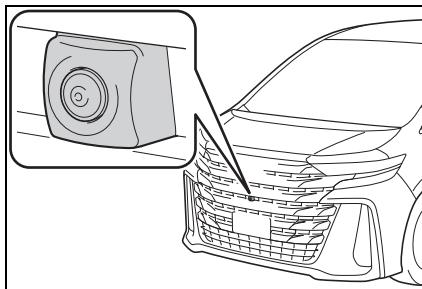
■アドバンストパークをお使いいただくために

バッテリーを脱着したときやあがったときはドアミラーの開閉を実施してください。

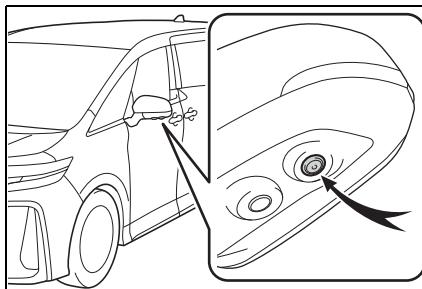
アドバンストパークで使用するカメラとセンサーの種類

カメラとセンサーにより駐車車両を検出して、駐車位置を特定しやすくします。

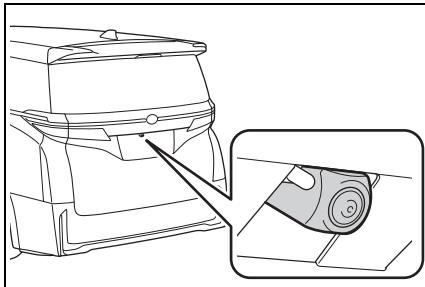
▶ フロントカメラ



▶ サイドカメラ



▶ リヤカメラ



▶ センサー

→P.304



■ カメラの映像について

特殊なカメラを使用しているため、実際と異なる色味で表示されることがあります。

■ 使用上の注意点について

次の内容は、別冊「マルチメディア取扱説明書」／駐車支援システム／パノラミックビューモニターを参照してください。

● 画面の映る範囲について

● カメラについて

● 画面と実際の路面との誤差について

● 画面と実際の立体物との誤差について

■ カメラとセンサーの検知範囲について

● 駐車車両が目標駐車位置の奥にある場合は、距離が遠くなるため検出できないことがあります。駐車車両の形状や条件によっては検出距離が短くなったり、検出できないことがあります。

● 柱や壁など駐車車両以外は検出できないことがあります。また、検出できても目標駐車位置がずれることができます。

■ 区画線認識が正常に作動しないおそれのある状況

● 次のような状況では、路面の区画線を検出することができない場合があります。

- ・ 区画線のない駐車場（駐車スペースがロープ、ブロックなどでつくられている場合）
- ・ 区画線がかすれや汚れなどによってはっきり見えないと
- ・ 路面が白っぽく白線とのコントラスト差が小さいとき（コンクリート路面に白線など）
- ・ 路面の区画線が黄色と白以外の色のとき
- ・ 夜間や地下、立体駐車場など周囲が暗いとき
- ・ 降雨時や雨上がりなど、路面がぬれて光っていたり、水たまりがあるとき
- ・ 朝日や夕日など、太陽の光がカメラに入ると
- ・ 積雪や融雪剤があるとき
- ・ 路面補修痕、路面表示などやポールなどの障害物があるとき
- ・ 路面の色や明るさが一様でないとき
- ・ カメラにお湯や水をかけたときなど、レンズが曇っているとき
- ・ 自車の影や木陰などの影響を受けてしまった場合
- ・ カメラのレンズが汚れたり、水滴が付着しているとき

● 次のような状況では、目標駐車位置を誤認識する場合があります。

- ・ 路面補修痕、路面標示などや車止め、ポールなどの障害物があるとき
- ・ 降雨時や雨上がりなど、路面がぬれて光っていたり、水たまりがあるとき
- ・ 車両周辺が暗いときや逆光のとき
- ・ 路面の色や明るさが一様でないとき
- ・ 勾配がついている駐車場
- ・ ゼブラゾーンのある駐車スペース
- ・ 駐車車両の影響を受けてしまった場合（駐車車両の影、駐車車両のグリルやサ

イドステップなど)

- ・カメラの視界をさまたげるようなアクセサリーを取り付けたとき
- ・区画線のかすれや汚れなどによってはっきり見えないとき
- ・自車の影や木陰などの影響を受けてしまった場合

■センサーの検知について

→P.305

■センサーが正しく検知できないことがある静止物

→P.306

■センサーが正常に作動しないおそれのある状況

→P.306

■衝突の可能性がなくてもアシストが作動しない状況

→P.307

⚠ 警告

■カメラとセンサーの取り扱いについて

- カメラのレンズの特性により、画面に映る人や障害物は、実際の位置や距離と異なります。詳しくは、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

- センサーが正常に作動しなくなり、思わぬ事故につながるおそれがありますので、クリアランスソナー使用時の注意を参照してください。
(→P.304)

- 次のとき、センサーが正常に作動しないことがあります、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。注意して運転してください。

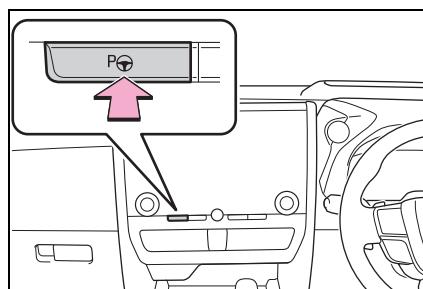
・目標駐車位置の隣に駐車車両があるにもかかわらず、駐車枠が目標駐車位置から大きくずれた位置に表示されるときは、センサーの角度がずれているおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

・センサーが検知する範囲には、アクセサリー用品などを取り付けないでください。

アドバンストパークのON/OFFを変更する

アドバンストパークメインスイッチを押す

アシスト中にスイッチを押すと、アシストを中止します。



□ 知識

■アドバンストパークの作動条件

次の条件をすべて満たしているときにアシストを開始できます。

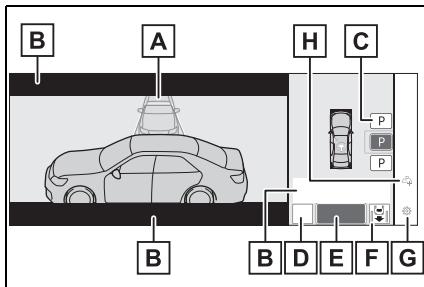
- ブレーキペダルを踏んでいる
- 停車している
- 運転席シートベルトを着用している
- ハンドルを操作していない
- アクセルペダルを踏んでいない
- ドアおよびバックドアが閉まっている
- ドアミラーが格納されていない
- パーキングブレーキがかかっていない

- レーダークルーズコントロールが作動していない
- ABS／VSC／TRC／PCS／PKSB が作動していない
- 急勾配でない
- TRC または VSC を OFF にしていない
アシストを開始できないときは、マルチメディアディスプレイのメッセージを確認してください。(\rightarrow P.357)

アドバンストパークのガイド画面を使う

マルチメディアディスプレイに表示されます。

▶ ガイド画面（開始時）



- A** 目標駐車枠（青色）
- B** アドバイス表示
- C** 駐車形態切りかえスイッチ
複数表示された場合は、スイッチの表示状態により次のことができます。
- P** または **P**：他の駐車可能な位置に変更
- P** または **P**：選択されている駐車位置
- P**：縦列駐車機能への切りかえ
- P**：並列前向き／バック駐車機能への切りかえ

D “MODE” スイッチ

メモリ機能と、並列前向き／バック駐車機能、縦列駐車機能を切り替えます。
(\rightarrow P.352)

E “開始” スイッチ

駐車アシストを開始します。

F 並列駐車向き切りかえスイッチ

並列前向き駐車機能と並列バック駐車機能を切り替えます。

：並列前向き駐車への切りかえ

：並列バック駐車への切りかえ

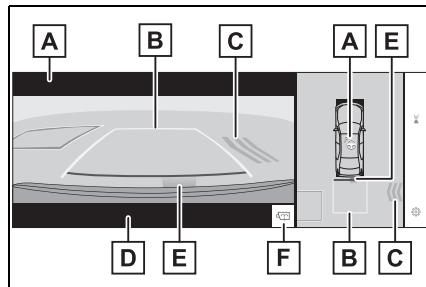
G カスタマイズ設定スイッチ

アドバンストパークの設定画面に切りかれります。(\rightarrow P.355)

H 登録開始スイッチ

駐車スペースの登録を開始します。

▶ ガイド画面（後退時）



A 作動中アイコン

アドバンストパークが作動中に表示されます。

B ガイド線（黄色と赤色）

車両の前端部または後端部から目標停車位置までの距離（黄色）^{※1}と約 0.3m 先（赤色）を示しています。

C 移動物警報アイコン

D 緊急ブレーキ制御の作動表示

“ブレーキ！”と表示されます。

■クリアランスソナー表示

→P.304

■リヤカメラウォッシャースイッチ※2

短く押す：

リヤカメラ洗浄が一定時間作動します。

長押しする：

リヤカメラウォッシャースイッチを押し続けている間、リヤカメラ洗浄が作動します。

*1 2.5m 以上の位置に目標停車位置がある場合は、横線（黄色）が非表示になります。

*2 カメラ洗浄システムについては、別冊「マルチメディア取扱説明書」／駐車支援システム／パノラミックビューモニターを参照してください。

□知識

■クリアランスソナーの割り込み表示について

アドバンストパーク作動中は、クリアランスソナーの ON / OFF (→P.304) に関係なく、クリアランスソナーが障害物を検知すると、ガイド画面に自動的にクリアランスソナー表示が割り込み表示されます。

■アドバンストパーク作動中の緊急ブレーキ制御の作動について

アドバンストパーク作動中は、衝突の可能性がある移動物または静止物を検知したとき、エンジン出力抑制制御／ブレーキ制御が作動します。

ブレーキ作動後はアドバンストパークの作動を中断し、ブレーキの作動がマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■音声案内について

システムの作動状態、運転者への操作案内を音声でお知らせします。

音量はマルチメディアシステムの設定に連動します。

■ブザー音について

他システムや周囲の音により、本システムのブザー音が聞き取りづらくなることがあります。

■アドバンストパーク作動中にマルチメディアディスプレイが黒くなったときは

無線の電波による影響を受けているか、システムに何らかの異常が発生しているおそれがあります。無線のアンテナをカメラ近くに設置している場合は、できるだけ離して設置してください。無線のアンテナがカメラの近くになく、エンジンスイッチを一度 OFF にしてから再度エンジンを始動しても画面が正常に表示されない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

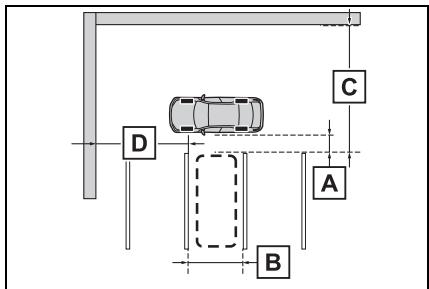
アドバンストパークの並列前向き／バック駐車機能を使う

目標駐車位置の中央がほぼ真横に見える位置で停車し、駐車スペースが検出できれば、並列前向き／バック駐車機能を使用することができます。また、駐車スペースなどの状況により、切り返しが必要な場合は、切り返し操作もアシストします。

並列前向き／バック駐車機能を使用して駐車する

1 目標駐車位置の中央がほぼ真横に見える位置で車両を停車する

▶ 区画線がある場合



A 約 1m *

B 約 2.5m *

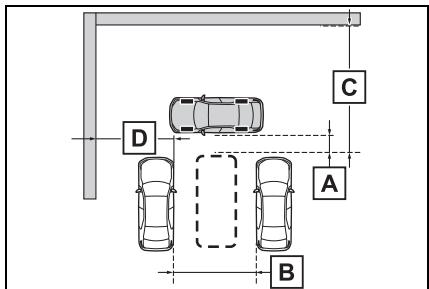
C 約 6m 以上 *

D 約 5.5m 以上 *

片側しか区画線がない場合でも作動します。

* 駐車スペースとして検出させるための目安です。周囲の環境によっては検出できないことがあります。

▶ 隣接車両がある場合



A 約 1m *

B 約 3m 以上 *

C 約 6m 以上 *

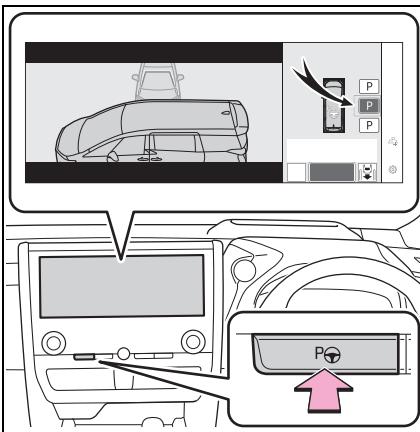
D 約 5.5m 以上 *

片側しか隣接車両がいない場合でも作動します。

* 駐車スペースとして検出させるための

目安です。周囲の環境によっては検出できないことがあります。

- 2 アドバンストパークメインスイッチを押し、マルチメディアディスプレイに駐車可能なスペースが表示されたことを確認する



● 自車が駐車できるスペースがある場合に目標駐車枠が表示されます。

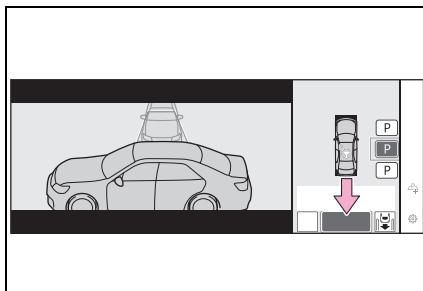
● 縦列駐車が可能な場合、駐車スペースを選択して、(P)にタッチすると縦列駐車機能に切りかわります。

● 駐車向きの変更が可能な場合、駐車スペースを選択して、(▼)もしくは(▲)にタッチすると、駐車向きが変更できます。

● 環境によっては使用できない場合があります。マルチメディアディスプレイの表示内容を参考に別の駐車スペースで使用してください。

- 3 “開始”スイッチにタッチする

“ピッ”という音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに作動中のメッセージを表示して、アシストが開始されます。



- ブレーキペダルを離すと、“前進します”または“後退します”的音声案内と表示が出たあと、前進／後退が始まります。
- アシストを中止するには、アドバンストパークメインスイッチを押します。

アシストが中止されると“Advanced Park を中止しました”的音声案内と表示が出ます。

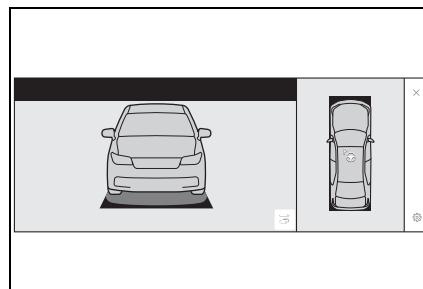
周辺の車両や障害物／人／溝などに近いと感じたときは：→P.343

4 車両が目標駐車位置に停車するまで、音声案内とアドバイス表示の指示に従って操作する

車両が停車したら、“Advanced Park を終了しました”的音声案内と表示が出たあと、駐車アシストを終了します。

マルチメディアディスプレイの [○] にタッチすると、駐車アシスト完了画面の

車両が回転します。



知識

■周辺の車両や障害物／人／溝などに近いと感じたときは

ブレーキペダルを踏んで停車し、進行方向とは逆のシフトポジションに切りかえてください。このときアシストは中断されますが、マルチメディアディスプレイの“再開”スイッチにタッチするとシフトポジションの方向へアシストを再開します。

■ブレーキが作動したとき

ブレーキが作動したときにブレーキの作動音が聞こえることがあります、異常ではありません。



注意

■並列前向き／バック駐車機能を使用するときは

● 黄色のガイド線の中や自車と目標駐車位置とのあいだに障害物がないことを必ず確認してください。黄色のガイド線の中や自車と目標駐車位置とのあいだに障害物がある場合は中止してください。

● 路面に段差や勾配があると正しい位置に目標駐車位置を設定できないため、駐車位置がずれたり、車両が傾くことがあります。このような場所では使用しないでください。

⚠ 注意

- 狹いスペースに駐車するときは隣接車両に接近します。接触しそうなときは、ブレーキペダルを踏んで停車してください。
- 駐車車両の車幅が狭いときや駐車車両が路肩側に極端に近いときは、駐車をアシストする位置も路肩に接近します。接触、脱輪しそうなときはブレーキペダルを踏んで停車し、アドバンストパークメインスイッチを押してシステムを解除してください。

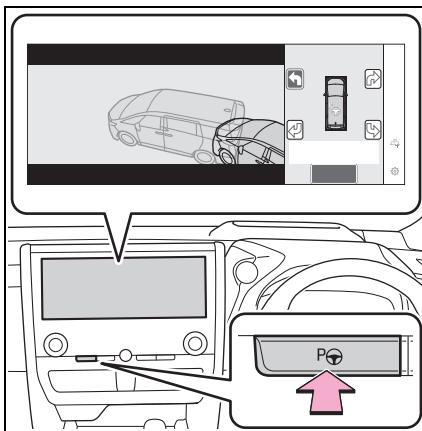
アドバンストパークの並列前向き／バック出庫機能を使う

並列駐車スペースから出庫する際、システムが出庫可能と判断すれば、並列前向き／バック出庫機能を使用することができます。また、周辺の環境により、切り返しが必要な場合は、切り返し操作もアシストします。

並列前向き／バック出庫機能を使用して出庫する

- 1 ブレーキを踏み、シフトポジションが P の状態でアドバンストパークメインスイッチを押し、マルチメディアディスプレ

イが出庫方向を選択する画面に切りかわったことを確認する

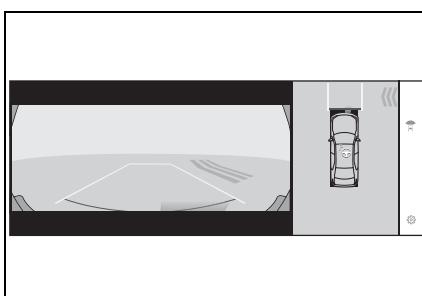


- 2 マルチメディアディスプレイ上の矢印で、出庫したい方向を選択する

方向指示レバーを使って操作する場合は、左右方向のみ選択することができます。

- 3 ブレーキペダルを踏んで“開始”スイッチにタッチする

“ピッ”という音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに作動中のメッセージを表示して、アシストが開始されます。



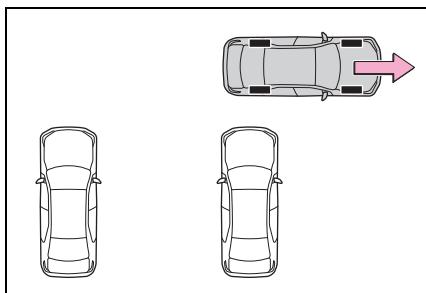
アシストを中止するにはアドバンストパークメインスイッチを押します。

アシストが中止されると“Advanced Park を中止しました”的音声案内と表示が出ます。

周辺の車両や障害物／人／溝などに近いと感じたときは：→P.343

4 車両が出庫可能位置に到達するまで、音声案内とアドバイス表示の指示に従って操作する

車両が出庫可能な位置に到達すると“ハンドルを操作すると終了できます”的メッセージが表示され、ハンドル操作すると、“Advanced Park を終了しました”的音声案内と表示が出たあと、アシストが終了します。走行中にアシストを終了するので、そのままハンドルを持ち、前進してください。ハンドル操作がない場合は、出庫完了位置に停車するため、ブレーキペダルまたはアクセルを踏むと終了できます。



□ 知識

■周辺の車両や障害物／人／溝などに近いと感じたときは

→P.343

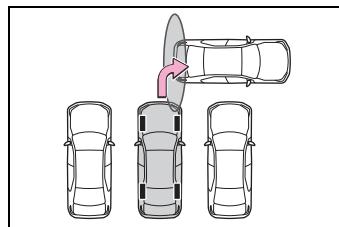
■並列前向き／バック出庫機能について

並列駐車から出庫する以外の目的では、並列前向き／バック出庫機能を使用しないでください。万が一、誤ってアシストを開始してしまった場合は、ブレーキペダルを踏んで停車し、アドバンストパークメインスイッチを操作してアシストを中止してください。

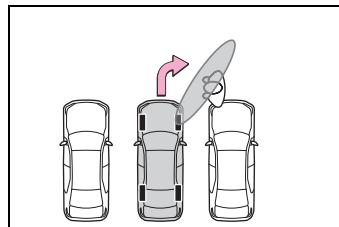
■並列前向き／バック出庫機能が作動しない状況

次のような状況では並列前向き／バック出庫は作動しません。

- 出庫方向に駐車待ちの車両がある場合



- フロントまたはリヤのセンター／コーナーセンサー付近に壁／柱などの障害物がある場合や、人がいる場合



■ブレーキが作動したとき

→P.343

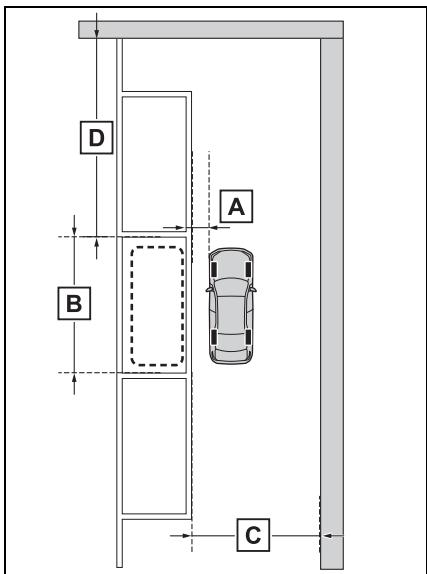
アドバンストパークの縦列駐車機能を使う

目標駐車位置の中央がほぼ真横に見える位置で停車し、駐車スペースが検出できれば、縦列駐車機能を使用することができます。また、駐車スペースなどの状況により、切り返しが必要な場合は、切り返し操作もアシストします。

縦列駐車機能を使用して駐車する

1 目標駐車位置の中央がほぼ真横に見える位置で停車する

▶ 区画線がある場合



A 約 1m *

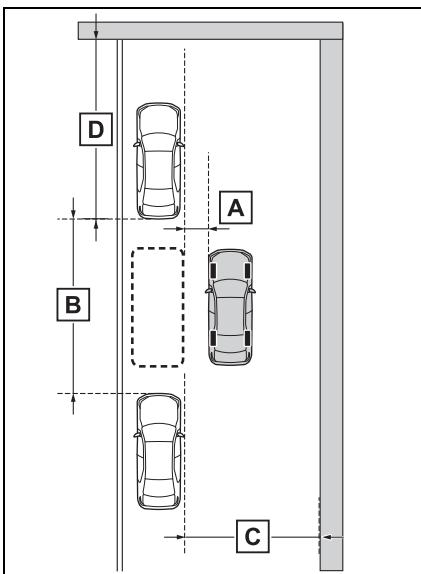
B 約 6m *

C 約 4.5m 以上 *

D 約 8m 以上 *

* 駐車スペースとして検出させるための目安です。周囲の環境によっては検出できないことがあります。

▶ 駐車車両がある場合



A 約 1m *

B 約 7m 以上 *

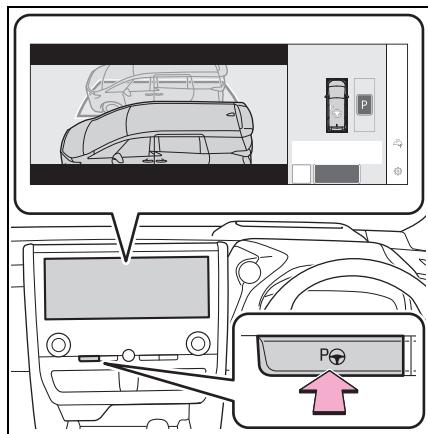
C 約 4.5m 以上 *

D 約 8m 以上 *

* 駐車スペースとして検出させるための目安です。周囲の環境によっては検出できないことがあります。

2 アドバンストパークメインスイッチを押し、マルチメディアディスプレイに駐車可能なス

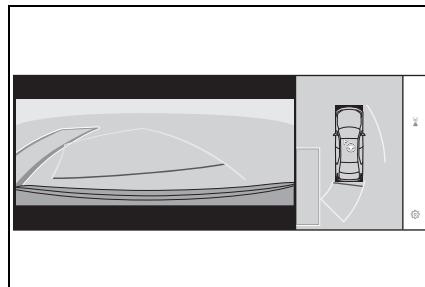
ペースが表示されたことを確認する



- 自車が駐車できるスペースがある場合に目標駐車枠が表示されます。
 - 並列前向き／バック駐車が可能な場合、駐車スペースを選択して、**P**にタッチすると並列前向き／バック駐車機能に切りかわります。
 - 周囲の環境によっては使用できないことがあります。マルチメディアディスプレイの表示内容を参考に別の駐車スペースで使用してください。
- 3 “開始”スイッチにタッチする**

“ピッ”という音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに作動中のメッセージを表示して、アシストが開始

されます。



- ブレーキペダルを離すと、“前進します”の音声案内と表示が出たあと、前進が始まります。
- アシストを中止するには、アドバンストパークメインスイッチを押します。

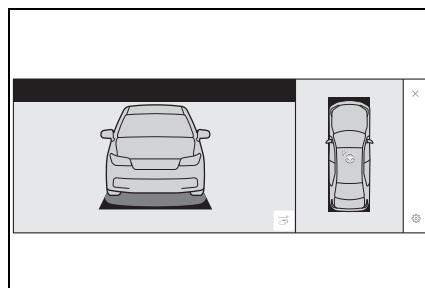
アシストが中止されると“Advanced Park を中止しました”的音声案内と表示が出ます。

周辺の車両や障害物／人／溝などに近いと感じたときは：→P.343

4 車両が目標駐車位置に停車するまで、音声案内とアドバイス表示の指示に従って操作する

車両が停車したら、“Advanced Park を終了しました”的音声案内と表示が出たあと、駐車アシストを終了します。

マルチメディアディスプレイの**□**にタッチすると、駐車アシスト完了画面の車両が回転します。



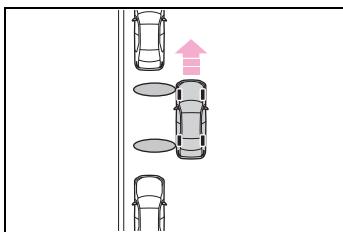
知識

- 周辺の車両や障害物／人／溝などに近いと感じたときは

→P.343

- “駐車できる場所が見つかりません”が表示されたときは

駐車位置の横に停車しても駐車車両を検知できていない場合があります。駐車車両を検知できる位置まで進むと開始できる場合があります。



- ブレーキが作動したとき

→P.343

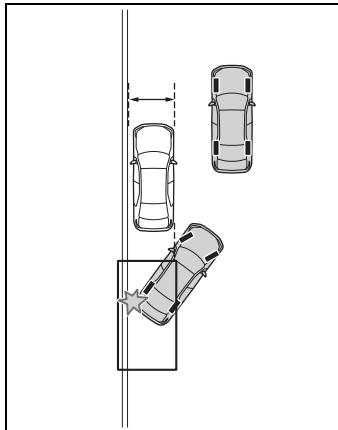
注意

- 縦列駐車機能を使用するときは

- 黄色のガイド線の中や自車と目標駐車位置とのあいだに障害物がないことを必ず確認してください。黄色のガイド線の中や自車と目標駐車位置のあいだに障害物がある場合は、縦列駐車機能は中断／中止されます。

- 路面に段差や勾配があると正しい位置に目標駐車位置を設定できないため、駐車位置がずれたり、車両が傾くことがあります。このような場所では、縦列駐車機能は使用しないでください。

- 隣接車両の車幅が狭いときや駐車車両が路肩側に極端に近いときは、駐車をアシストする位置も路肩に接近します。接触、脱輪しそうなときはブレーキペダルを踏んで停車し、メインスイッチを押してシステムを解除してください。



- 駐車スペースの奥側に壁などがある場合は、通路に少しばみ出した位置に目標駐車位置が設定されることがあります。

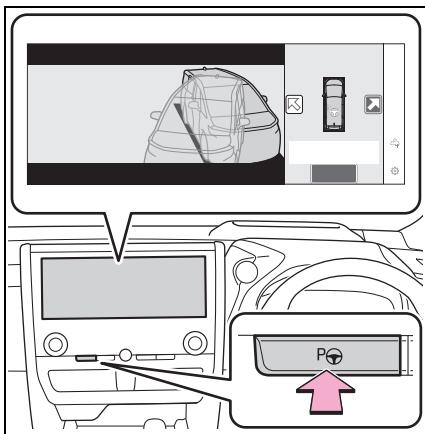
アドバンストパークの縦列出庫機能を使う

縦列駐車スペースから出庫する際、システムが出庫可能と判断すれば、縦列出庫機能を使用することができます。また、周辺の環境により、切り返しが必要な場合は、切り返し操作もアシストします。

縦列出庫機能を使用して出庫する

- 1 ブレーキを踏み、シフトポジションが P の状態でアドバンストパークメインスイッチを押

し、マルチメディアディスプレイが出庫方向を選択する画面に切りかわったことを確認する



- 2 マルチメディアディスプレイ上の矢印で、出庫したい方向を選択する**

方向指示レバーを使って操作する場合は、左右方向のみ選択することができます。

- 3 ブレーキペダルを踏んで“開始”スイッチにタッチする**

“ピッ”という音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに作動中のメッセージを表示して、アシストが開始されます。

アシストを中止するにはアドバンストパークメインスイッチを押します。

アシストが中止されると“Advanced Park を中止しました”的音声案内と表示が出ます。

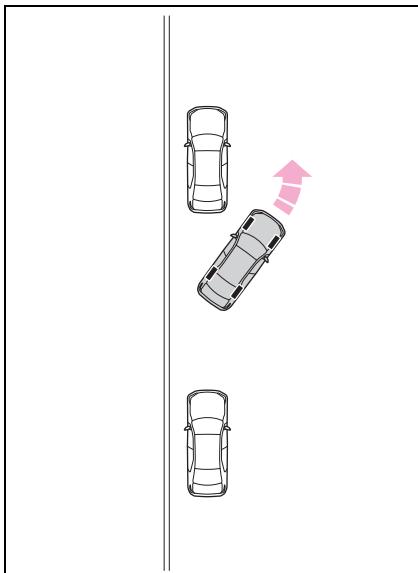
周辺の車両や障害物／人／溝などに近いと感じたときは：→P.343

- 4 車両が出庫可能位置に停車するまで、音声案内とアドバイス表示の指示に従って操作する**

車両が出庫可能な位置に到達すると“ハンドルを操作すると終了できます”的

メッセージが表示され、ハンドル操作すると、“Advanced Park を終了しました”的音声案内と表示が出たあと、アシストが終了します。走行中にアシストを終了するので、そのままハンドルを持ち、前進してください。

ハンドル操作がない場合は、出庫完了位置に停車するため、ブレーキペダルまたはアクセルを踏むと終了できます。



□ 知識

■周辺の車両や障害物／人／溝などに近いと感じたときは

→P.343

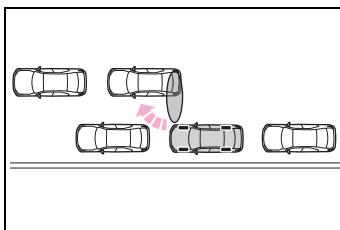
■縦列出庫機能について

縦列駐車から出庫する以外の目的では、縦列出庫機能を使用しないでください。万が一、誤ってアシストを開始してしまった場合は、ブレーキペダルを踏んで停車し、アドバンストパークメインスイッチを操作してアシストを中止してください。

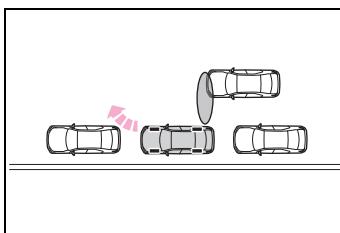
■ 縦列出庫機能が作動しない状況

次のような状況では縦列出庫機能は作動しません。

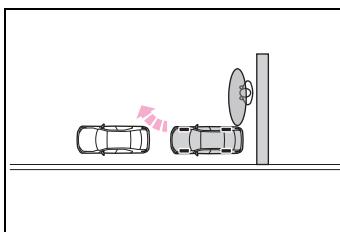
- 出庫方向に信号待ちの車両がある場合



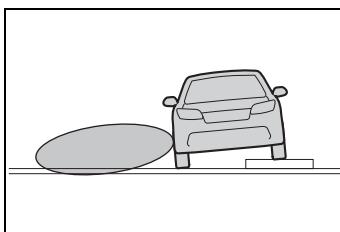
- 出庫方向の後方に車両が待っている場合



- フロントまたはリヤのサイドセンサー付近に壁／柱などの障害物がある場合や、人がいる場合



- 縁石に乗り上げて駐車し、サイドセンサーが路面を検知している場合



- 車両の前方に駐車車両がない場合

- 車両の前端と駐車車両との間隔があきすぎている場合

■ ブレーキが作動したとき

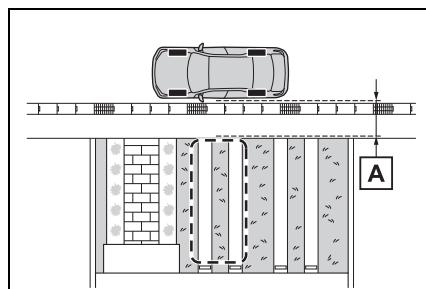
→P.343

アドバンストパークのメモリ機能を使う

事前に駐車スペースを登録することで、区画線や隣接車両のいない駐車スペースでも使用することができます。登録できる駐車スペースは3つです。

駐車スペースの登録

- 1 目標駐車位置の中央がほぼ真横に見える位置で停車する

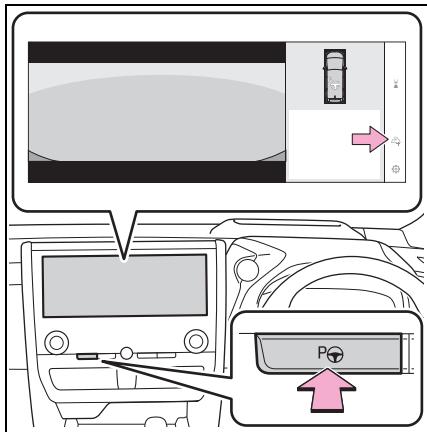


A 約 1m

- 2 アドバンストパークメインスイッチを押し、Pにタッチする

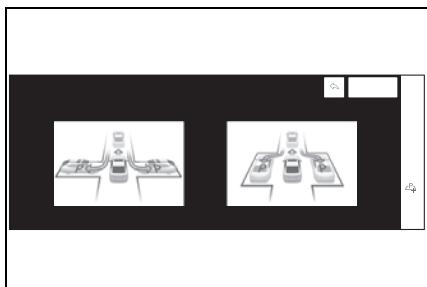
区画線や隣接車両のいない駐車スペースでアドバンストパークメインスイッチを押した場合、“駐車できる場所が見つかりません”と表示されることがあります

が、続けて ▾Pにタッチしてください。



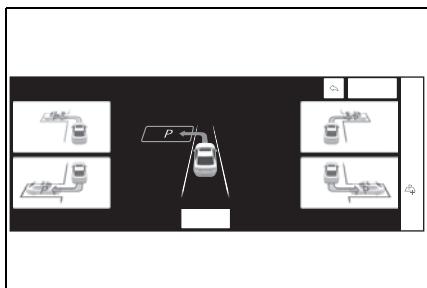
3 並列（前向き／バック）駐車または縦列駐車を選択する

アシスト可能な駐車スペースのみが表示されます。

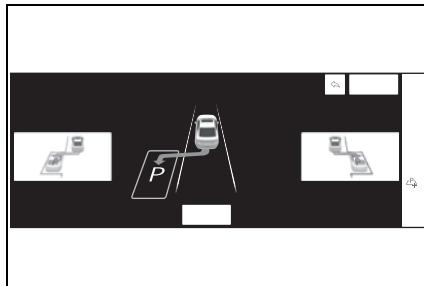


4 駐車の向きを選択する

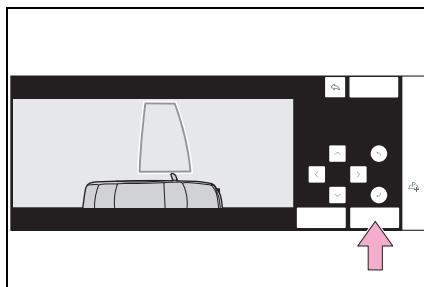
手順3で並列（前向き／バック）駐車を選択した場合：



手順3で縦列駐車を選択した場合：



5 登録する駐車スペースの位置を方向キーで調整し、“設定完了”スイッチにタッチする



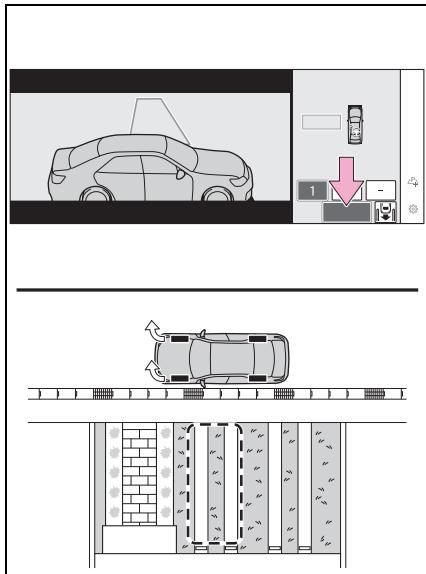
6 “開始”スイッチにタッチする

“ピッ”という音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに作動中のメッセージを表示して、アシストが開始されます。

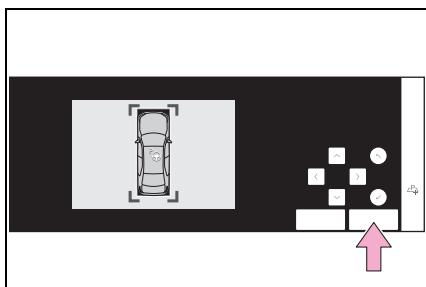
ブレーキペダルを離すと、“前進します”的音声案内と表示が出たあと、前進が始まります。

周辺の車両や障害物／人／溝などに近い

と感じたときは : →P.343



- 7 車両が目標駐車位置に停車するまで、音声案内とアドバイス表示の指示に従って操作する
 - 8 車両が停車したら登録する位置を確認して、必要に応じて方向キーで調整したら、“登録”スイッチにタッチする
- マルチメディアディスプレイに“登録を完了しました”と表示されます。

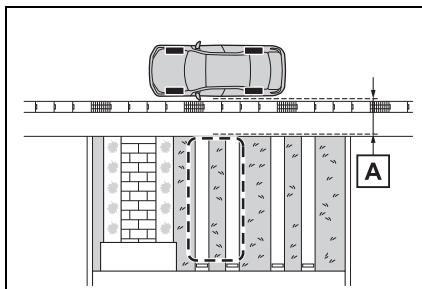


- 太枠内に障害物がない位置で登録してください。
- 調整できる範囲には限りがあり

ます。

メモリ機能を使用して登録した駐車スペースに駐車する

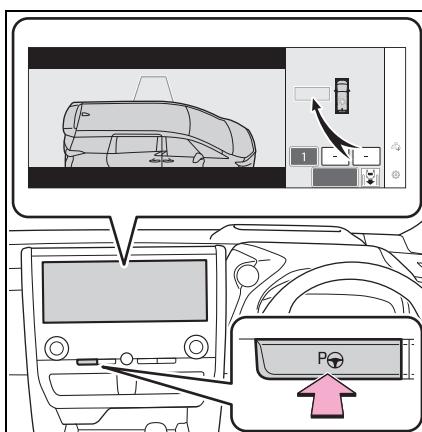
- 1 目標駐車位置の中央がほぼ真横に見える位置で停車する



A 約 1m

- 2 アドバンストパークメインスイッチを押し、マルチメディアディスプレイに駐車可能なスペースが表示されたことを確認する

“MODE”スイッチが表示されたときは、スイッチをタッチすることで、メモリ機能と、並列前向き／バック駐車機能、縦列駐車機能を切りかえることができます。



3 駐車したいスペースを選択し、“開始”スイッチにタッチする

このあとの手順は、並列前向き／バック駐車機能の手順 3 以降と同じです。
→P.341)

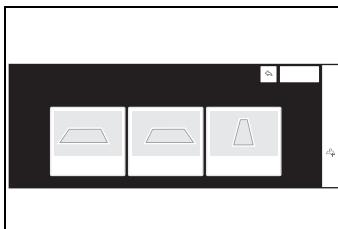


■周辺の車両や障害物／人／溝などに近いと感じたときは

→P.343

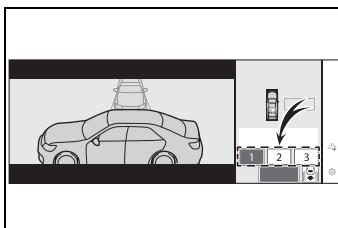
■登録した駐車スペースを上書きするときは

登録した駐車スペースのメモリが上限になっている状態で にタッチすると、上書きするメモリを選択して、新しいメモリを登録することができます。



■登録した駐車スペースが複数あるときは

駐車スペースを選択してから、“開始”にタッチします。



■ブレーキが作動したとき

→P.343

注意

■メモリ機能を使用するときは (→P.343, 348)

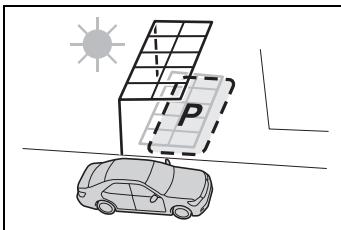
●メモリ機能は、事前に登録した駐車スペースへアシストするシステムです。路面や自車の状況、周囲の環境が登録時と異なる場合、正しく駐車位置を認識できなかったり、最後までアシストできなかったりする場合があります。

●次のような状況では、駐車スペースの登録を実施しないでください。設定した位置に登録できない、または次回以降のアシストができなくなる場合があります。

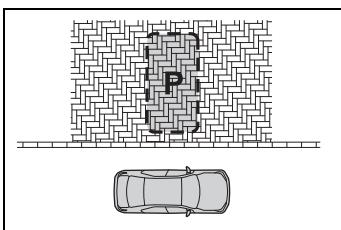
- ・カメラのレンズが汚れたり、水滴が付着しているとき
 - ・雨雪が降っているとき
 - ・夜間（周囲が暗いとき）
- 次のような環境では、駐車スペースの登録を実施できない場合があります。
- ・道幅と駐車位置に十分なスペースがない駐車場
 - ・駐車スペース周辺にシステムが認識できる路面模様がない駐車場

⚠ 注意

- 次のような環境で駐車スペースの登録をした場合、次回以降のアシストが開始できない、または設定した位置にアシストできない場合があります。
- 駐車スペースに影が出ているとき（カーポートがある駐車場など）



- 駐車スペースに落ち葉／ゴミ（次回以降なくなる、または移動する可能性があるもの）が落ちているとき
- 駐車スペース周辺の路面が同一の模様で構成されているとき（レンガなど）



- 次のような状況では、設定した位置にアシストできない場合があります。
- 自車の影や木陰などの影響を受けてしまった場合
- 設定した駐車スペースに障害物があるとき
- システム作動中に歩行者や通行車両を検知したとき
- アシスト開始時の車両停車位置が登録したときと異なるとき

- 輪止めなどにより、設定した駐車スペースに到達できないとき
- 駐車スペース周辺の路面模様が変化したとき（路面の経年劣化、リフォーム等）
- 日照条件が登録したときと異なるとき（天気／時間帯）
- 朝日や夕日など、太陽の光がカメラに入るとき
- 路面の色や明るさが一様でないとき
- 駐車スペースに一時的な光（他車のライトや防犯用ライトなど）が差し込んでいるとき
- 駐車スペース周辺の路面が同一の模様で構成されているとき
- 駐車スペース周辺の路面に低い突起物のようなものがあるとき
- 勾配がある駐車場
- カメラにお湯や水をかけたときなど、レンズが曇っているとき
- カメラのレンズが汚れたり、水滴が付着しているとき
- カメラの視界をさまたげるようなアクセサリーを取り付けたとき
登録中に制御終了した場合は、再度登録し直してください。
- メモリ機能を登録するとき、路面から模様を検出できない場所では、“登録に必要な駐車目標が見つかりません”と表示されることがあります。
- メモリ機能を使用するときは、停めたい駐車スペースの真横に停車してください。正しく駐車位置を認識できなかったり、最後までアシストできなかったりする場合があります。

⚠ 注意

- カメラ部をぶつけたときや、パノラミックビューモニター映像のつながりが著しくずれている場合、メモリ機能を使用しないでください。
- カメラ故障時／交換時は、カメラの取り付け角度が変わるために、メモリ機能の登録をやり直す必要があります。

アドバンストパークを中止／中断する

■ アシストが中止されるとき

次のような状況のとき、アドバンストパークのアシストを中止します。ハンドルをしっかり持ち、ブレーキペダルをしっかり踏んで車両を停止してください。

システムが解除されているため、最初からやり直すか、通常通りハンドルを操作して駐車してください。

- アドバンストパークメインスイッチを押した
- シフトポジションを P に変更した
- パーキングブレーキをかけた
- ドアまたはバックドアを開けた
- 運転席シートベルトをはずした
- ドアミラーを格納した
- TRC / VSC を OFF にした
- TRC / VSC / ABS が作動した
- エンジンスイッチを押した
- システムがアシスト継続できない駐車環境と判断した

● システム異常

- 停止中にマルチメディアディスプレイ上で“中止”にタッチした

■ アシストが中断されるとき

次のような状況のとき、アドバンストパークのアシストを中断します。

マルチメディアディスプレイの指示に従うことでアシストを再開できます。

また、アシストが中断されている時にブレーキを踏みながらシフトポジションを 2 回変更した場合は、そのシフトポジションのままアシストを中止します。ただし、シフトポジションを変更してアシストが中断した場合は、1 回のシフトポジション変更によりアシストを中止します。

- ハンドルを操作した
- アクセルペダルを踏んだ
- シフトポジションを変更した
- 衝突の可能性がある移動物または静止物を検知し、エンジン出力抑制制御・ブレーキ制御が作動した
- カメラスイッチを押した

アドバンストパークの設定を変更する

マルチメディアディスプレイの にタッチして、“Advanced Park” にタッチします。

■ 音声案内

音声案内の ON / OFF を設定で

きます。

■ 速度モード

アシスト中の自車の速度を設定できます。

メモリ機能で登録時は設定できません。

■ 障害物回避距離

アシスト中に回避する障害物との距離を設定できます。

■ 優先駐車方法

並列前向き／バック駐車と縦列駐車のどちらでも駐車可能なとき、優先的に表示する駐車方法を設定できます。

■ 優先駐車向き

並列前向き駐車と並列バック駐車がどちらも可能なときに、優先的に表示する駐車向きを選択できます。

■ 優先出庫方向（並列）

並列前向き出庫と並列バック出庫で左右どちらへも出庫可能なときに、優先的に表示する方向を選択できます。

■ 優先出庫方向（縦列）

縦列出庫で左右どちらへも出庫可能なときに、優先的に表示する方向を選択できます。

■ 駐車時の映像

並列前向き／バック駐車中、縦列駐車中に表示するカメラ映像の画角の設定ができます。

■ 出庫時の映像

並列前向き／バック出庫中、縦列出庫中に表示するカメラ映像の画

角の設定ができます。

■ 駐車進路調整

駐車アシスト中の進路が外側にふくらんでしまうとき、内側に寄つてしまふときの進路を調整できます。

タイヤがすり減ったりしたとき、駐車進路が駐車する場所の中心からずれてしまいます。その場合、駐車進路を調整してください。

■ 道幅調整

駐車アシスト開始時、前進するときの横方向の移動量を調整できます。

■ 駐車位置調整（前向き）

並列前向き駐車の駐車完了位置を調整できます。（メモリ機能は除く）

■ 駐車位置調整（バック）

並列バック駐車の駐車完了位置を調整できます。（メモリ機能は除く）

■ 後部取付部品設定

車両後部にトレーラーヒッチなどを取り付けたとき、後方障害物との接触を防ぐために、車両後部の長さを調整できます。

■ 登録した駐車場所の消去

メモリ機能で登録した駐車スペースを消去できます。アシスト中とメモリ機能の登録中は消去できません。

注意

- 「駐車位置調整（前向き）」、「駐車位置調整（バック）」による調整により、車止めや縁石など低いものへ接触するおそれがあるため、注意して使用してください。
- 周辺の車両や障害物／車止め／縁石などに接触しそうなときは、ブレーキペダルを踏んで停車し、アドバンストパークメインスイッチを押してシステムを中止してください。

マルチメディアディスプレイに表示されるアドバンストパークのメッセージ

アドバンストパークの作動状態や操作のアドバイスなどをマルチメディアディスプレイに表示します。メッセージが表示されたときは、内容に従って対処してください。

知識

■ “駐車できる場所が見つかりません”が表示されたときは

駐車スペース、または認識できる駐車枠がある場所に移動して使用してください。

■ “この環境では使用できません”が表示されたときは

別の場所に移動して使用してください。

■ “出庫可能なスペースがありません”が表示されたときは

自車前後と駐車車両との間隔が狭い、または出庫方向に障害物があるなどの状況により、縦列出庫機能を使用できません。

周囲の状況を確認した上で、運転者自身の操作で出庫してください。

■ “速度が調整できません”が表示されたときは

傾斜や段差のある場所で使用したときに、速度が調整できないとシステムが判断すると、アシストを中止します。

平坦な場所で使用してください。

■ “障害物を検知しました”が表示されたときは

衝突の可能性がある移動物または静止物を検知したため、エンジン出力抑制制御・ブレーキ制御が作動し、アシストを中断します。

周囲の状況を確認してください。アシストを再開するときは、マルチメディアディスプレイの“再開”スイッチにタッチしてください。

■ “登録に必要な駐車目標が見つかりません”が表示されたときは

駐車スペースを認識できない駐車場で△Pにタッチしたときに表示されます。

システムが認識できる路面模様がある駐車場で操作してください。（→P.353）

運転を補助する装置

走行の安全性や運転性能を確保するため、走行状況に応じて次の装置が自動で作動します。ただし、これらの装置は補助的なものなので、過信せずに運転には十分に注意してください。

運転を補助する装置について

■ ABS（アンチロックブレーキシステム）

急ブレーキ時やすべりやすい路面でのブレーキ時にタイヤのロックを防ぎ、スリップを抑制します。

■ ブレーキアシスト

急ブレーキ時などに、より大きなブレーキ力を発生させます。

■ VSC（ビークルスタビリティコントロール）

急なハンドル操作や、すべりやすい路面で旋回するときに横すべりを抑え、車両の姿勢維持に寄与します。

■ S-VSC（ステアリングアシステッドビークルスタビリティコントロール）

ABS・TRC・VSC・EPSを協調して制御します。

すべりやすい路面などの走行で急なハンドル操作をした際に、ハンドル操作力を制御することで、車両の方向安定性確保に貢献します。

■ TRC（トラクションコントロール）

すべりやすい路面での発進時や加

速時にタイヤの空転を抑え、駆動力確保に貢献します。

■ ヒルスタートアシストコントロール

上り坂で発進するときに、車が後退するのを緩和します。

■ EPS（エレクトリックパワーステアリング）

モーターを利用して、ハンドル操作を補助します。

■ ダイナミックトルクコントロール4WD（4WD車）

通常走行時からコーナリング時、登坂時、発進時、加速時や雪や雨などによりすべりやすい路面などでさまざまな走行状況に応じてFF（前輪駆動）走行状態から4WD（4輪駆動）走行状態まで自動的に制御し、安定した操作性、走行安定性に寄与します。

■ 緊急ブレーキシグナル

急ブレーキ時に非常点滅灯を自動的に点滅させることにより、後続車に注意をうながし、追突される可能性を低減させます。

■ セカンダリーコリジョンブレーキ

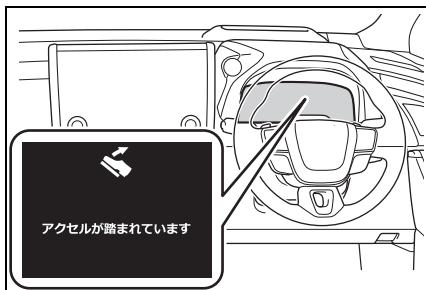
SRSエアバッグのセンサーが衝突を検知して作動したとき、自動的にブレーキと制動灯を制御することで、車両を減速させ二次衝突による被害の軽減に寄与します。

■ 衝突時の急加速抑制

SRSエアバッグのセンサーが軽度の衝突を検知したときに、急アクセルによるエンジン出力を自動的に抑制することで、二次衝突によ

る被害の軽減に寄与します。

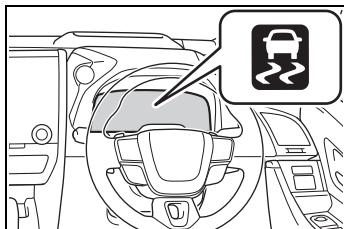
システム作動時はブザー、音声案内とマルチインフォメーションディスプレイのメッセージでお知らせします。



■ 知識

■ TRC・VSC が作動しているとき

TRC・VSC が作動しているときは、スリップ表示灯が点滅します。

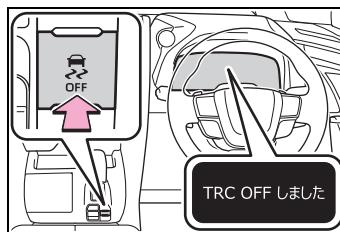


■ TRC を停止するには

ぬかるみや砂地、雪道などから脱出するときに、TRC が作動していると、アクセルペダルを踏み込んでエンジンの出力が上がりらず、脱出が困難な場合があります。

このようなときに を押すことにより、脱出しやすくなる場合があります。

TRC を停止するには を押す



マルチインフォメーションディスプレイに “TRC OFF しました” と表示されます。

もう一度 を押すと、システム作動可能状態にもどります。

■ TRC と VSC を停止するには

TRC と VSC を停止するには停車時に

を押し 3 秒以上保持する

VSC OFF 表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに “TRC OFF しました” と表示されます。※

もう一度 を押すと、システム作動可能状態にもどります。

※ ブリクラッシュブレーキアシスト・ブリクラッシュブレーキの作動も停止します（衝突警報のみ作動可能状態になります）。PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。
(→P.220)

■ を押さなくてもマルチインフォメーションディスプレイに “TRC OFF しました” が表示されたとき

TRC が一時的に作動できない状態になっています。表示が継続する場合はトヨタ販売店にご相談ください。

■ ヒルスタートアシストコントロールの作動条件

次のときシステムが作動します。

- シフトポジションが P または N 以外(前

進または後退での上り坂発進時)

- 車両停止状態

- アクセルペダルを踏んでいない

- パーキングブレーキがかかっていない

- エンジンスイッチが ON

■ヒルスタートアシストコントロールの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

- シフトポジションを P または N にした

- アクセルペダルを踏んだ

- ブレーキペダルを踏んで、かつパーク イングブレーキをかけた

- ブレーキペダルから足を離して最大2秒 経過した

- エンジンスイッチを OFF にした

■ABS・ブレーキアシスト・TRC・VSC・ヒルスタートアシストコントロールの作動音と振動

- エンジン始動時や発進直後、ブレーキ ペダルをくり返し踏んだときなどに、 エンジンルームから作動音が聞こえることがあります、異常ではありません。

- 上記のシステムが作動すると、次のような現象が発生することがあります、異常ではありません。
 - ・車体やハンドルに振動を感じる
 - ・車両停止後もモーター音が聞こえる
 - ・ABS の作動時に、ブレーキペダルが小刻みに動く
 - ・ABS の作動終了後、ブレーキペダルが少し奥に入る

■TRC や VSC の自動復帰について

TRC や VSC を作動停止にしたあと、以下のときはシステム作動可能状態にもどります。

- エンジンスイッチを OFF にしたとき

- (TRC のみを作動停止にしている場合)

車速が高くなったとき

ただし、TRC と VSC の作動を停止している場合は、車速による自動復帰はありません。

■衝突時の急加速抑制について

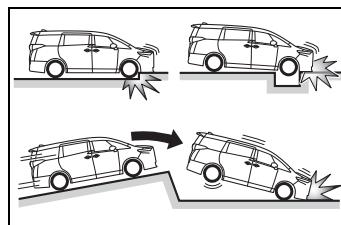
- 次の条件をすべて満たすと、システム が作動します。

- ・車速が約 60km/h 以下のとき
- ・SRS エアバッグのセンサーが車両前方 に軽度の衝突を検知したとき
- ・衝突の直前にブレーキ操作をしていな いとき
- ・アクセルペダルを早く強く踏み込んだ
※ あとに衝突した、または衝突後にア クセルペダルを早く強く踏み込んだ※ とき

※ アクセルペダルを踏み込む速度と踏み込み量が一定以上のとき

- 次のような状況では衝突していなくとも、システムが作動する場合があります。

- ・縁石や歩道の端など、固いものにぶつ かったとき
- ・深い穴や溝に落ちたり、乗りこえたとき
- ・ジャンプして地面にぶつかったり、道 路から落下したとき



- アクセルペダルを離すとシステムの作動が解除されます。

■EPS の効果が下がるとき

停車中か極低速走行中に長時間ハンドル をまわし続けると、EPS システムのオー

バーヒートを避けるため、EPS の効果が下がりハンドルが重く感じられるようになります。

その場合は、ハンドル操作を控えるか、停車し、エンジンを停止してください。

10 分程度でもとの状態にもどります。

■緊急ブレーキシグナルの作動条件

次のときシステムが作動します。

- 非常点滅灯が点滅していないこと
- 車速 55km/h 以上
- 車両の減速度から急ブレーキであるとシステムにより判断された

■緊急ブレーキシグナルの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

- 非常点滅灯を点滅させた
- 車両の減速度から急ブレーキではないとシステムにより判断された

■セカンダリーコリジョンブレーキの作動条件

走行中に SRS エアバッグのセンサーが衝突を検知して作動したとき。ただし構成部品が破損した場合システムは作動しません。

■セカンダリーコリジョンブレーキの解除条件

次のいずれかのとき自動的にシステムが解除されます。

- 車速が約 0km/h になったとき
 - 作動して一定時間経過したとき
 - アクセルペダルを大きく踏み込んだとき
 - マルチインフォメーションディスプレイに 4WD システムに関するメッセージが表示されたとき（4WD 車）
- それぞれ、次のように対処してください。
- “4WD システム高温 2WD 走行に切替

わりました”

過熱のため 4WD システムが一時解除され、前輪駆動走行に切りかわりました。エンジンをかけたまま安全な場所に停車してください。※

しばらくして表示が消えれば、4WD システムが自動的に復帰します。表示が消えないときは、すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

- “4WD システム故障 2WD 走行になります 販売店で点検”

4WD システムに異常が発生しています。すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

* 停車時は表示が消えるまでエンジンを停止しないでください。

■警告

■ABS の効果を發揮できないとき

- タイヤのグリップ性能の限界をこえたとき（雪に覆われた路面を過剰に摩耗したタイヤで走行するときなど）
- 雨でぬれた路面やすべりやすい路面での高速走行時に、ハイドロブレーニング現象が発生したとき

■ABS が作動することで、制動距離が通常よりも長くなる可能性があるとき

ABS は制動距離を短くする装置ではありません。特に次の状況では、常に速度を控めめにして前車と安全な車間距離をとってください。

- 泥・砂利の道路や積雪路を走行しているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 道路のつなぎ目など、段差をこえたとき
- 凹凸のある路面や石だらみなどの悪路を走行しているとき

⚠ 警告

■ TRC や VSC の効果を発揮できないときは

すべりやすい路面では、TRC や VSC が作動していても、車両の方向安定性や駆動力が得られないことがあります。車両の方向安定性や駆動力を失うような状況では、特に慎重に運転してください。

■ ヒルスタートアシストコントロールの効果を発揮できないときは

- ヒルスタートアシストコントロールを過信しないでください。急勾配の坂や凍った路面ではヒルスタートアシストコントロールが効かないことがあります。
- ヒルスタートアシストコントロールはパーキングブレーキのように車を長時間駐車するための機能ではありませんので、同機能を坂道での駐停車のために使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ スリップ表示灯が点滅しているときは

TRC・VSC が作動中であることを知らせています。常に安全運転を心がけてください。無謀な運転は思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。表示灯が点滅したら特に慎重に運転してください。

■ TRC や VSC を OFF にするときは

TRC や VSC は駆動力や車両の方向安定性を確保しようとするシステムです。そのため、必要なとき以外は TRC・VSC を作動停止状態にしないでください。TRC や VSC を作動停止状態にしたときは、路面状況に応じた速度で、特に慎重な運転を心がけてください。

■ タイヤまたはホイールを交換するときは

4 輪とも指定されたサイズで、同じメーカー・ブランド・トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用し、推奨された空気圧にしてください。
(→P.492)

異なったタイヤを装着すると、ABS・TRC・VSC など、運転を補助するシステムが正常に作動しません。タイヤ、またはホイールを交換するときは、トヨタ販売店に相談してください。

■ タイヤとサスペンションの取り扱い

問題があるタイヤを使用したり、サスペンションを改造したりすると、運転を補助するシステムに悪影響をおよぼし、システムの故障につながるおそれがあります。

■ セカンダリーコリジョンブレーキについて

セカンダリーコリジョンブレーキを過信しないでください。本システムは、二次衝突による被害の軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件によりかわります。システムを過信すると重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 衝突時の急加速抑制

● 衝突時の急加速抑制を過信しないでください。本システムは、二次衝突による被害軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件によりかわります。システムを過信すると重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 **警告**

- 本システムは急加速を抑制するものであり、ブレーキを作動させるものではありません。必要に応じてブレーキペダルを操作してください。

寒冷時の運転

寒冷時に備えて、準備や点検など正しく処置していただいた上で適切に運転してください。

冬を迎える前の準備について

- 次のものはそれぞれ外気温に適したものをお使いください。
 - ・ エンジンオイル
 - ・ 冷却水
 - ・ ウォッシャー液
- バッテリーの点検を受けてください。
- 冬用タイヤ（4輪）やタイヤ チェーン※（前2輪）を使用してください。
タイヤは4輪とも指定サイズで同一銘柄のものを、タイヤ チェーン※はタイヤサイズに合ったものを使用してください。（タイヤについて：→P.423）
- * 19インチタイヤ装着車には、タイヤ チェーンを取り付けないでください。

□ 知識

■ タイヤチェーンについて

- ▶ 17インチタイヤ装着車
取り付け・取りはずし・取り扱い方法については次の指示に従ってください。
- 安全に作業できる場所で行う
- 前2輪に取り付ける
- タイヤチェーンに付属の取扱説明書に従う
- 取り付け後約0.5～1.0km走行したら締め直しを行う

▶ 17インチタイヤ非装着車

タイヤとボディの隙間が狭いため、タイヤ チェーンを装着できません。



警告

■ 冬用タイヤ装着時の警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

- 指定サイズのタイヤを使用する
- 空気圧を推奨値に調整する
- 装着する冬用タイヤの最高許容速度や制限速度をこえる速度で走行しない
- 冬用タイヤを装着する際は、必ず4輪とも装着する

■ タイヤチェーンを装着するとき（17インチタイヤ装着車）

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、安全に車を運転することができずに、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 装着したチェーンに定められた制限速度、もしくは30km/hのどちらか低い方をこえる速度で走行しない
- 路面の凹凸や穴を避ける
- 急加速・急ハンドル・急ブレーキやシフト操作による急激なエンジンブレーキの使用は避ける
- カーブの入り口手前で十分減速して、車のコントロールを失うのを防ぐ
- LTA（レントレーシングアシスト）を使用しない
- LDA（レーンディパーチャーラート）を使用しない



■ タイヤチェーンの使用について(17インチタイヤ装着車)

この車両に適合したトヨタ純正タイヤチェーンのご使用をおすすめします。なお、トヨタ純正品以外のタイヤチェーンの中には、使用すると車体にあたり、走行のさまたげになるおそれがあるものもあります。市販のタイヤチェーンを使用する場合は、車体に干渉しないことをあらかじめご確認ください。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

運転する前に

状況に応じて次のことを行ってください。

- ドアやワイパーが凍結したときは無理に開けたり動かしたりせず、ぬるま湯をかけるなどして氷を溶かし、すぐに水分を十分にふき取ってください。
- フロントウインドウガラス前の外気取り入れ口に雪が積もっているときは、エアコンのファンを正常に作動させるために、雪を取り除いてください。
- 外装ランプ・ドアミラー・ドアガラス・車両の屋根・タイヤの周辺やブレーキ装置に雪や氷が付いているときは、取り除いてください。
- 乗車する前に靴底に付いた雪をよく落としてください。

知識

■ 寒冷地用ワイパープレードについて

- 降雪期に使用する寒冷地用ワイパープ

レードは、雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムで覆っています。トヨタ販売店で各車指定のブレードをお求めください。

- 高速走行時は、通常のワイパープレードよりガラスがふき取りにくくなることがあります。その場合には速度を落としてください。



■ ガラスに付いた氷を除去するとき

氷をたたいて割らないでください。ガラスがひび割れるおそれがあります。

運転するとき

ゆっくりスタートし、車間距離を十分にとって控えめな速度で走行してください。

駐車するとき

- パーキングブレーキのオートモードを OFF にしてください。パーキングブレーキが自動的に作動し、ブレーキ装置が凍結して解除できなくなるおそれがあります。

また、次のシステムの使用は控えてください。オートモードを OFF にしても、パーキングブレーキが自動的に作動します。

- ・ ブレーキホールドシステム
- ・ アドバンストパーク

- パーキングブレーキをかけると、ブレーキ装置が凍結して解除できなくなるおそれがあります。パーキングブレーキはかけずに、シフトポジションを P にして駐車し、必ず輪止め※をしてくだ

さい。

輪止めをしないと、車が動き思
わぬ事故につながるおそれがあ
り危険です。

- パーキングブレーキがオート
モードのときは、シフトポジ
ションを P にしたあとにパー
キングブレーキを解除してくだ
さい。(\rightarrow P.182)

パーキングブレーキスイッチを押しなが
ら、エンジンスイッチを OFF してくだ
さい。

- パーキングブレーキをかけずに
駐車するときは、シフトポジ
ションを P にした状態でシフト
ポジションが動かないことを確
認してください。

- 寒冷時にブレーキ部品がぬれた
状態で車を駐車したままにすると、凍結するおそれがあります。

* 輪止めは、トヨタ販売店で購入するこ
とができます。

5-1. エアコンの使い方

ALL AUTO 制御.....	368
フロントオートエアコン	369
リヤオートエアコン	377
ステアリングヒーター／シートヒー ター／シートベンチレーター	380

5-2. 室内灯のつけ方

室内灯一覧	383
-------------	-----

5-3. 収納装備

収納装備一覧	386
ラゲージルーム内装備	391

5-4. その他の室内装備の使い方

その他の室内装備	393
----------------	-----

ALL AUTO 制御★

エアコンの設定温度・外気温・車室内温度などに応じて、フロント席のシートヒーターやシートベンチレーター・ステアリングヒーターがそれぞれ自動制御されます。
各システムの調整の手間を省き、快適な状態を維持するよう制御します。

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ALL AUTO 制御を使用する

- 1 エアコン操作画面（→P.369）でエアコンオプション画面表示スイッチを選択する
- 2 “All auto” を選択する

スイッチの作動表示灯が点灯し、エアコン・フロント席のシートヒーター／シートベンチレーター・ステアリングヒーターがオート設定で作動します。

いずれかのシステムを手動で操作すると、作動表示灯が消灯しますが、操作した機能以外のオート設定は継続します。

各システムの作動について

■ エアコン（→P.369）

運転席および助手席の設定温度を別々に調整することができます。

■ シートヒーター／シートベンチレーター（→P.380）

エアコンの設定温度・外気温などに応じて、暖房・換気が自動的に切りかわります。また、暖房・換気が OFF になることもあります。

助手席のシートヒーターやシートベンチレーターは、乗員を検知してオート設定で作動します。

■ ステアリングヒーター（→P.380）

エアコンの設定温度・外気温などに応じて自動で作動します。



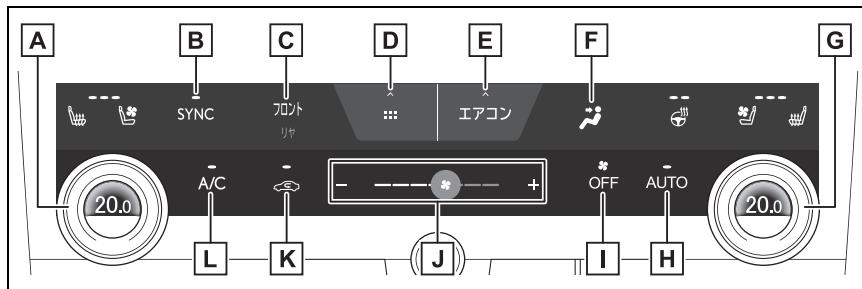
■ シートヒーター／シートベンチレーターの作動について

シートヒーター／シートベンチレーターのスイッチでオート設定にした場合は、乗員の検知を行いません。

フロントオートエアコン

“AUTO”スイッチをONにすることで、設定温度に合わせて吹き出し口と風量を自動で調整します。

エアコン操作スイッチについて



- A** 助手席側温度調整スイッチ
- B** “SYNC” スイッチ（運動モード）
- C** フロント／リヤ切りかえスイッチ
- D** ショートカット画面表示スイッチ
いくつかの機能へのショートカットアイコンが表示されます。
- E** エアコンオプション画面表示スイッチ
- F** 吹き出し口切りかえスイッチ
- G** 運転席側温度調整スイッチ
- H** “AUTO” スイッチ
- I** “OFF” スイッチ
- J** 風量調整スイッチ
- K** 内外気切りかえスイッチ
- L** “A/C” スイッチ

■ 温度を調整する

設定温度を上げるときは温度調整スイッチを右へまわし、下げるときは左へまわします。

“SYNC”スイッチのインジケー

ターが点灯しているときは、運転席側の設定温度調整に合わせて助手席側の設定温度とリヤ席の設定温度が調整されます。

“SYNC”スイッチのインジケー

ターが消灯しているときに

“SYNC”スイッチを選択する
と、“SYNC”スイッチのインジケーターが点灯し、助手席側の設定温度とリヤ席の設定温度が運転席側と同じ設定温度になります。

助手席側温度調整スイッチを操作すると
“SYNC”スイッチのインジケーターが
消灯し、助手席側の設定温度だけを調整
できます。

リヤ席の温度設定を操作したときも
“SYNC”スイッチのインジケーターが
消灯し、リヤ席の設定温度だけを調整で
きます。

“A/C”スイッチのインジケーターが消
灯している場合は、送風または暖房で使
用できます。

助手席およびリヤ席の設定温度操作によ
り、運転席と助手席およびリヤ席の設定
温度を別々に設定できます。(独立モー
ド)

■ 風量を切りかえる

風量を増やすときは風量調整スイッチの“+”を選択するか、風量調整スイッチのアイコンを右へスライドします。風量を減らすときは風量調整スイッチの“-”を選択するか、風量調整スイッチのアイコンを左へスライドします。

“OFF”スイッチを選択すると、ファン
が止まります。

“-”スイッチを選択し続ける、または
風量調整スイッチのアイコンを左方向へ
スライドすることでもファンが止まりま
す。

■ 吹き出し口を切りかえる

吹き出し口切りかえスイッチを選
択する

選択するたびに吹き出し口が切りかわ
ります。

ます。

吹き出し口の切りかえ設定により、風が
出る位置や風量が変化します。



: 上半身に送風



: 上半身と足元に送風



: 足元に送風



: 足元に送風／ガラスの曇

りを取る

■ 内気循環／外気導入を切りかえ る

トンネルや渋滞などで、汚れた外
気を車内に入れたくないときや、
外気温度が高いときに冷房効果を
高めたい場合は、内気循環にすると
効果的です。

内外気切りかえスイッチを選択す
る

スイッチを選択するたびに内気循環／外
気導入が切りかわります。内気循環を選
択しているときはインジケーターが点灯
します。

設定温度や室内温度などにより、自動的
に切りかわる場合があります。

□ 知識

■ 外気24℃以上でのエアコン作動中の内 外気切りかえについて

- エアコンによる消費電力を抑えるため
に自動で内気循環に切り替わる場合が
あります。これによりガソリンの消費
も抑えることができます。

- エンジンスイッチをONすると内気循環に切りかわります。
- 内外気切りかえスイッチ操作により内気循環／外気導入をいつでも選択できます。

■ フロント席集中送風モード (S-Flow)

スイッチ操作によりフロント席のみへの送風と全席への送風を切りかえることができます。無駄な冷暖房を抑えることで、燃費の向上に貢献します。

- 1 エアコンオプション画面表示スイッチを選択する (→P.369)
- 2 “S-Flow” スイッチを選択する
- スイッチが ON : フロント席のみへの送風
- スイッチが OFF : 全席への送風



■ 送風の自動制御について

フロント席のみへの送風に切りかえた場合でも、リヤ席に乗員がいると自動的に全席に送風されることがあります。

■ エコ空調モード

エコ空調モードに切りかえると、燃費を優先するために空調の効きを抑えます。

- 1 エアコンオプション画面表示スイッチを選択する (→P.369)
- 2 “Eco Heat/Cool” スイッチを選択する
- エコ空調モードでは燃費性能を優先させるため、空調が次のように制御されます。空調の効きをよくしたいときは、エコ空調

モードを解除してください。

- ・ エンジン回転数やコンプレッサーの作動を制御し、暖房／冷房の能力を抑制します。
- ・ オート設定での使用時、ファンの風量を抑制します。
- エコドライブモード時は自動でエコ空調モードに切りかわっていますが、その場合でも“Eco Heat/Cool”を選択するとエコ空調モードを解除することができます。

■ 車内を急速に温める (Max heat) ★

“Max heat” を ON にすると、車内を急速に温めるために、空調設定が一括で切り替わります。

- 1 ショートカット画面表示スイッチを選択する (→P.369)
- 2 “Max heat” スイッチを選択する
- エアコンの運転席側設定温度が“Hi”になり、“AUTO”スイッチが ON になります。
- 運転席側シートヒーターの設定が強になります。
- ステアリングヒーターの設定が強になります。
- 次の場合、助手席側シートヒーター／ベンチレーターの設定が“AUTO”になります。
 - ・ “All auto” が ON のとき
 - ・ 助手席に乗員がいるとき
- “SYNC” のインジケーターが点灯しているときは、助手席の設定温度とリヤ席の設定温度も“Hi”になります。

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 車内を急速に冷やす (Max cool) ★

“Max cool” を ON にすると、車内を急速に冷やすために、空調設定が一括で切り替わります。

- 1 ショートカット画面表示スイッチを選択する (→P.369)
 - 2 “Max cool” スイッチを選択する
- エアコンの運転席側設定温度が “Lo” になり、“AUTO” スイッチが ON になります。
 - 運転席側シートベンチレーターの設定が強になります。
 - 次の場合、ステアリングヒーターの設定が “AUTO” になります。
 - ・ “All auto” が ON のとき
 - 次の場合、助手席側シートヒーター／ベンチレーターの設定が “AUTO” になります。
 - ・ “All auto” が ON のとき
 - ・ 助手席に乗員がいるときとシステムが判断したとき
 - “SYNC” のインジケーターが点灯しているときは、助手席の設定温度とリヤ席の設定温度も “Lo” になります。
- ★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ ナノイー X^{*1, 2}について

エアコンにはナノイー X 発生装置が搭載されています。この装置は運転席窓側とコンソールボックスの吹き出し口からナノイー X を放

出し、車室内を快適な空気環境に導きます^{*3}。

- 1 エアコンオプション画面表示スイッチを選択する (→P.369)
 - 2 “nanoe™ X” スイッチを選択する
- ナノイー X が ON のとき、ファンが作動すると、自動的にナノイー X 発生装置が作動します。
 - ナノイー X 発生装置が作動中、次の条件で効果を発揮します。
 - ・ 吹き出し口が上半身に送風、上半身と足元に送風、足元に送風のとき
 - ・ 運転席窓側とコンソールボックスの吹き出し口が開いているとき
 - ナノイー X 発生装置作動時は、微量のオゾンが発生し、かすかに臭うことがあります。森林など、自然界に存在する程度の量なので、人体に影響はありません。
 - ナノイー X 発生装置作動中、かすかに作動音が聞こえることがあります。故障ではありません。
 - ・ ナノイー X 発生装置が作動するまでに多少時間がかかることがあります。
 - ・ 作動直後は作動音が大きい場合があります。

^{*1} nanoe、ナノイーおよび nanoe マークは、パナソニック ホールディングス株式会社の商標です。

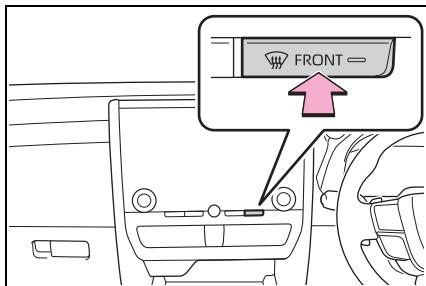
^{*2} ナノイー X は、ナノイーに比べて、効果の元である OH ラジカルをより多く含む微粒子イオンです。

^{*3} 温湿度環境、風量・風向きによってはナノイーの効果が十分に得られない場合があります。

■ フロントウインドウガラスの曇りを取りる

フロントデフロスターは、フロントウインドウの曇りを取りるために使用します。

フロントデフロスタースイッチを押す



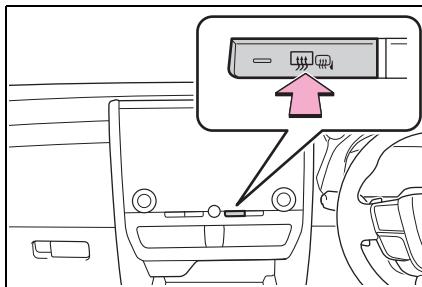
除湿機能が作動し、風量が増えます。内気循環をしている場合は、外気導入にしてください。(自動的に外気導入に切りかわることがあります)

風量を強くし、設定温度を上げると、より早く曇りを取ることができます。曇りが取れたら再度フロントデフロスタースイッチを押すと前のモードにもどります。

■ リヤウインドウデフォッガー&ミラーヒーター

リヤウインドウガラスの曇りを取りときや、ドアミラーから雨滴や霜を取るときに使用してください。

リヤウインドウデフォッガー&ミラーヒータースイッチを押す



リヤウインドウデフォッガーを作動させると、ミラーヒーターが同時に作動し、曇りを取ることができます。

リヤウインドウデフォッガーとミラーヒーターは、しばらくすると自動的にOFFになります。

■ ウィンドシールドデアイサー ★

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

フロントウインドウガラスとワイパークリアードの凍結を防ぐために使用してください。

1 エアコンオプション画面表示スイッチを選択する (→P.369)

2 “デアイサー”スイッチを選択する

ウィンドシールドデアイサーは、しばらくすると自動的にOFFになります。

知識

■ 換気とエアコンの臭いについて

● 車室外の空気を車室内に取り入れたいときは、外気導入にしてください。

● エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。

● エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために：

- ・ 駐車時は外気導入しておくことをおすすめします。
- ・ オート設定での使用時にはエアコン始動直後、しばらく送風が停止する場合があります。
- 駐車時に自動的に外気導入に切りかえることにより駐車中の換気をうながし、始動時に発生する臭いを緩和します。
- “Max heat”について
 - “Max heat”スイッチでは設定をOFFにできません。
 - “Max heat”スイッチを操作後、エアコンの温度調整スイッチで設定温度を調整することができます。
 - “All auto”がONの時は、“AUTO”スイッチをONにすることで、シートヒーター、シートベンチレーター、ステアリングヒーターも設定温度に合わせて自動調整されます。
 - 各機能をお好みで調整頂くことができます。

- “Max cool”について
 - “Max cool”スイッチでは設定をOFFにできません。
 - “Max cool”スイッチを操作後、エアコンの温度調整スイッチで設定温度を調整することができます。
 - “All auto”がONの時は、“AUTO”スイッチをONにすることで、シートヒーター、シートベンチレーター、ステアリングヒーターも設定温度に合わせて自動調整されます。
 - 各機能をお好みで調整頂くことができます。

■ ガラスの曇りについて

- 車室内の湿度が高いときはガラスが曇りやすくなります。その場合は、“A/C”スイッチをONにすると、吹き出し口から除湿された風が出るため、効

果的に曇りを取ることができます。

- “A/C”スイッチをONからOFFになると、ガラスが曇りやすくなります。
- 内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。

■ 音声対話サービスについて

音声対話サービスを使用して、エアコンを操作することができます。

詳しくは、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

■ エアコンフィルターについて

→P.426

■ カスタマイズ機能

マルチメディアディスプレイの“車両カスタマイズ”で、“AUTO”スイッチがONのときに連動する機能を設定できます。排ガスセンサの検知感度もカスタマイズ設定できます。(→P.493)



■ ナノイーX発生装置について

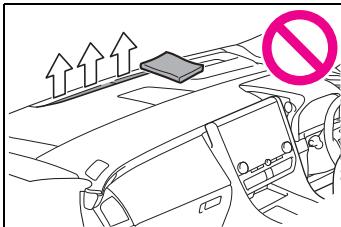
高電圧の部品を含むため、分解／修理はしないでください。修理が必要な場合は、トヨタ販売店にお問い合わせください。

■ フロントウインドウガラスの曇りを防止するために

- 外気の湿度が非常に高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは、フロントデフロースタースイッチを押さないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげる場合があります。

⚠ 警告

- 吹き出し口を遮るようなものを置かないでください。送風がさえぎられ、暑りが取れにくくなることがあります。



■ リヤウインドウデフォッガー&ミラーヒーター作動中の警告

ドアミラーの表面が非常に熱くなります。やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

■ ウィンドシールドデアイサー★作動中の警告

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

フロントウインドウガラス下部およびフロントピラー横の表面が熱くなります。やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

⚠ 注意

■ バッテリーあがりを防ぐために

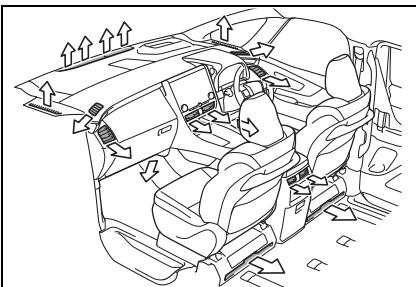
エンジン停止中は、エアコンを必要以上に使用しないでください。

■ ナノイーX発生装置の損傷を防ぐために

運転席側の吹き出し口の近くでスプレーを使用したり、吹き出し口にものをはめ込んだり貼ったりしないでください。システムが正常に働かなくなるおそれがあります。

吹き出し口の配置・操作

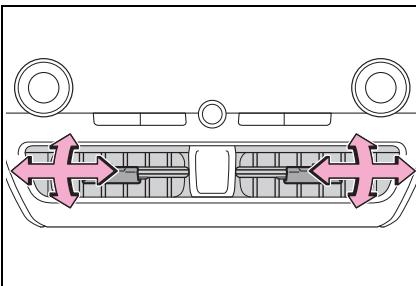
■ 吹き出し口の配置



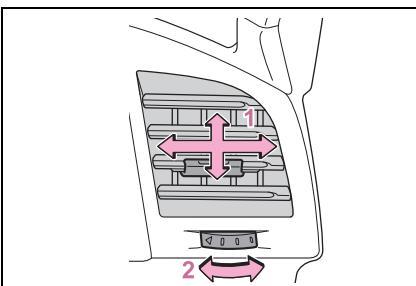
■ 風向きの調整と吹き出し口の開閉

次のように操作して、風向きの調整や吹き出し口の開閉をします。

▶ フロントセンター



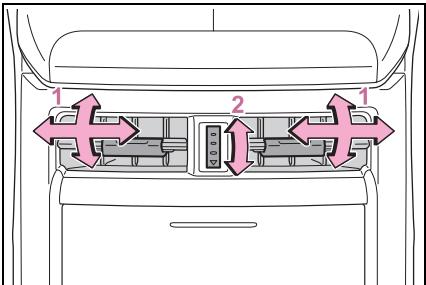
▶ フロントサイド



1 風向きを調整する

2 吹き出し口を開閉する

► リヤ★



1 風向きを調整する

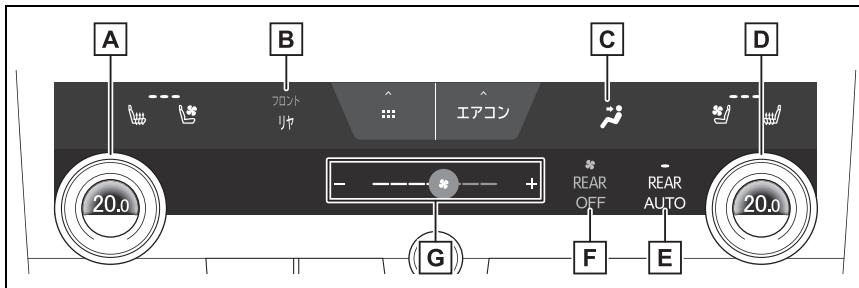
2 吹き出し口を開閉する

★ : グレード、オプションなどにより、
装備の有無があります。

リヤオートエアコン

“AUTO”スイッチをONにすることで、設定温度に合わせて吹き出し口と風量を自動で調整します。

リヤエアコン操作について（マルチメディアディスプレイ）



- [A] 助手席側温度調整スイッチ
- [B] フロント／リヤ切りかえスイッチ
- [C] 吹き出し口切りかえスイッチ
- [D] 運転席側温度調整スイッチ
- [E] “AUTO”スイッチ
- [F] “OFF”スイッチ
- [G] 風量調整スイッチ

■ 温度を調整する

設定温度を上げるときは温度調整スイッチを右へまわし、下げるときは左へまわします。

■ 風量を切りかえる

風量を増やすときは風量調整スイッチの“+”を選択するか、風量調整スイッチのアイコンを右へスライドします。風量を減らすときは風量調整スイッチの“-”を選択するか、風量調整スイッチのアイコンを左へスライドします。

“OFF”スイッチを選択すると、ファンが止まります。

“-”スイッチを選択し続ける、または風量調整スイッチのアイコンを左方向へスライドすることでもファンが止まります。

■ 吹き出し口を切りかえる

吹き出し口切りかえスイッチを選択する

選択するたびに吹き出し口が切りかわります。



: 上半身に送風



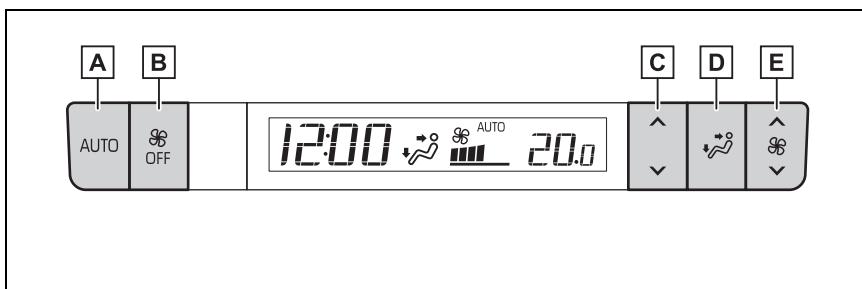
: 足元に送風



: 上半身と足元に送風

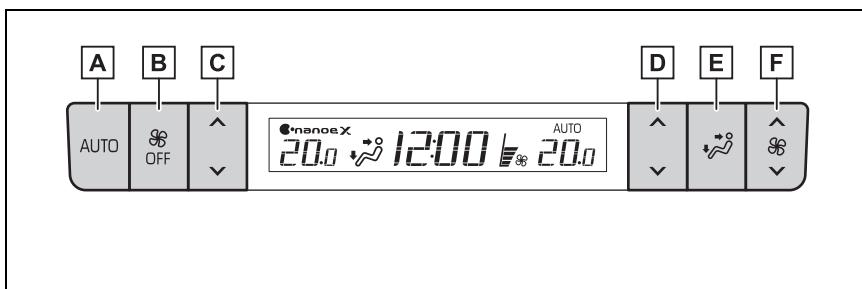
リヤエアコン操作について（リヤエアコン操作パネル）

▶ タイプ A



- A** “AUTO” スイッチ
- B** “OFF” スイッチ
- C** 温度調整スイッチ
- D** 吹き出し口切りかえスイッチ
- E** 風量調整スイッチ

▶ タイプ B



- A** “AUTO” スイッチ
- B** “OFF” スイッチ
- C** 助手席側温度調整スイッチ

- D 運転席側温度調整スイッチ**
- E 吹き出し口切りかえスイッチ**
- F 風量調整スイッチ**

■ 温度を調整する

設定温度を上げるときは温度調整スイッチの“ \wedge ”を、下げるときは“ \vee ”を押します。

■ 風量を切りかえる

風量を増やすには風量調整スイッチの“ \wedge ”を、減らすには“ \vee ”を押します。

“OFF”スイッチを押すと、ファンが止まります。

■ 吹き出し口を切りかえる

吹き出し口切りかえスイッチを押す

押すたびに吹き出し口が切りかわります。



: 上半身に送風



: 上半身と足元に送風



: 足元に送風

各席の温度を設定する

次のいずれかの操作をすることで、リヤ席の温度を設定できます。

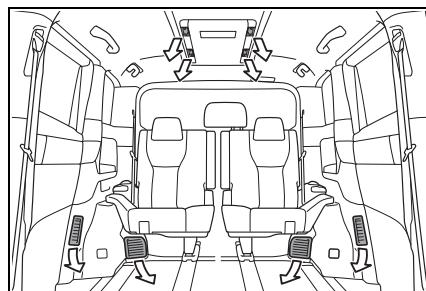
- “SYNC”インジケーターが点灯しているときに運転席の温度を設定する

リヤ席の温度が運転席と同じ温度に設定されます。

- リヤエアコン操作画面もしくはリヤエアコン操作パネルでリヤ席の温度を設定する

吹き出し口の配置・操作

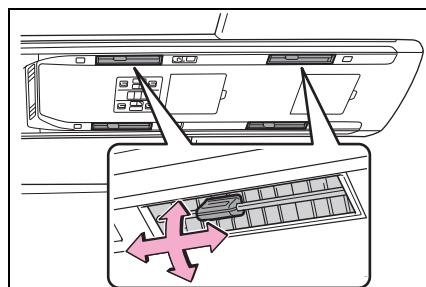
■ 吹き出し口の配置



■ 風向きの調整と吹き出し口の開閉

次のように操作して、風向きの調整や吹き出し口の開閉をします。

風向きを車両後方側いっぱいに調整すると、吹き出し口を閉じることができます。



 注意

- バッテリーあがりを防ぐために
エンジン停止中は、エアコンを必要以上に使用しないでください。

ステアリングヒーター／シートヒーター／シートベンチレーター

● ステアリングヒーター

ハンドルのグリップ部を暖めることができます。

● シートヒーター

シートの表面を暖めることができます。

● シートベンチレーター

シート内部に装備されたファンで換気することにより、シート表面の通気をよくします。

 警告

■ 低温やけどについて

次の方がステアリングヒーター／シートヒーターにふれないようにご注意ください。

● 乳幼児、お子さま・お年寄り・病人・体の不自由な方

● 皮膚の弱い方

● 疲労の激しい方

● 深酒や眠気をさそう薬（睡眠薬・風邪薬など）を服用された方

 注意

■ シートヒーターの損傷を防ぐために

凹凸のある重量物をシートの上に置いたり、針金や針などの鋭利なものを突き刺したりしないでください。

■ バッテリーあがりを防ぐために

エンジンが停止した状態で使用しないでください。

ステアリングヒーター

マルチメディアディスプレイの
[] を選択する。

スイッチを選択するたびに、作動状態が次のように切りかわります。

AUTO → 強（2 個点灯）→ 弱（1 個点灯）→ OFF

作動中は、スイッチ上のインジケーターと、レベルインジケーター（赤）が点灯します。AUTO 作動中は “AUTO” が点灯します。



■ 作動条件

エンジンスイッチが ON のとき

■ カスタマイズ機能

マルチメディアディスプレイの “車両カスタマイズ” で、ステアリングヒーターの温度を設定できます。（→P.493）

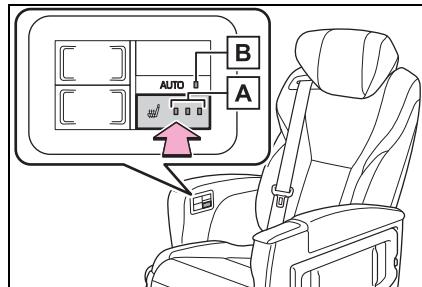
AUTO → 強（3 個点灯）→ 中（2 個点灯）→ 弱（1 個点灯）→ OFF

作動中は、レベルインジケーター（黄）

[A] が点灯します。

AUTO 作動中は AUTO インジケーター

[B] が点灯します。



シートヒーター

■ フロント

マルチメディアディスプレイの
[] または [] を選択する。

スイッチを選択するたびに、作動状態が次のように切りかわります。

AUTO → 強（3 個点灯）→ 中（2 個点灯）→ 弱（1 個点灯）→ OFF

作動中は、スイッチ上のインジケーターと、レベルインジケーター（赤）が点灯します。AUTO 作動中は “AUTO” が点灯します。

■ セカンドシート

スイッチを押す

スイッチを押すたびに、作動状態が次のように切りかわります。



■ シートヒーターの作動条件

エンジンスイッチが ON のとき

■ カスタマイズ機能

マルチメディアディスプレイの “車両カスタマイズ” で、フロントシートヒーターの温度を設定できます。（→P.493）



■ 異常加熱や低温やけどを防ぐために

シートヒーターを使用するときは次のことをお守りください。

- 長時間連続使用しないでください。
- 毛布・クッションなどを使用しないでください。

シートベンチレーター

■ フロント

マルチメディアディスプレイの

[] または [] を選択する。

スイッチを選択するたびに、作動状態が

次のように切りかわります。

AUTO→強（3個点灯）→中（2個点灯）→弱（1個点灯）→OFF

作動中は、スイッチ上のインジケーターと、レベルインジケーター（青）が点灯します。AUTO作動中は“AUTO”が点灯します。

■ セカンドシート

スイッチを押す

スイッチを押すたびに、作動状態が次のように切りかわります。

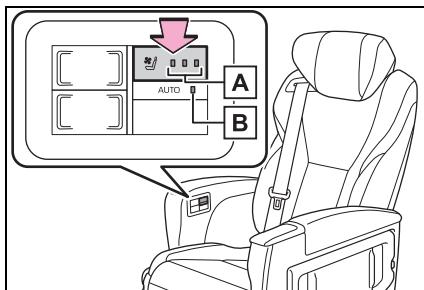
AUTO→強（3個点灯）→中（2個点灯）→弱（1個点灯）→OFF

作動中は、レベルインジケーター（黄緑）

A が点灯します。

AUTO作動中は AUTO インジケーター

B が点灯します。



■ 作動条件

エンジンスイッチが ON のとき

■ エアコン運動制御モードについて

フロントシートベンチレーターが強のとき、エアコンの風量に応じてフロントシートベンチレーターの風量が強くなります。

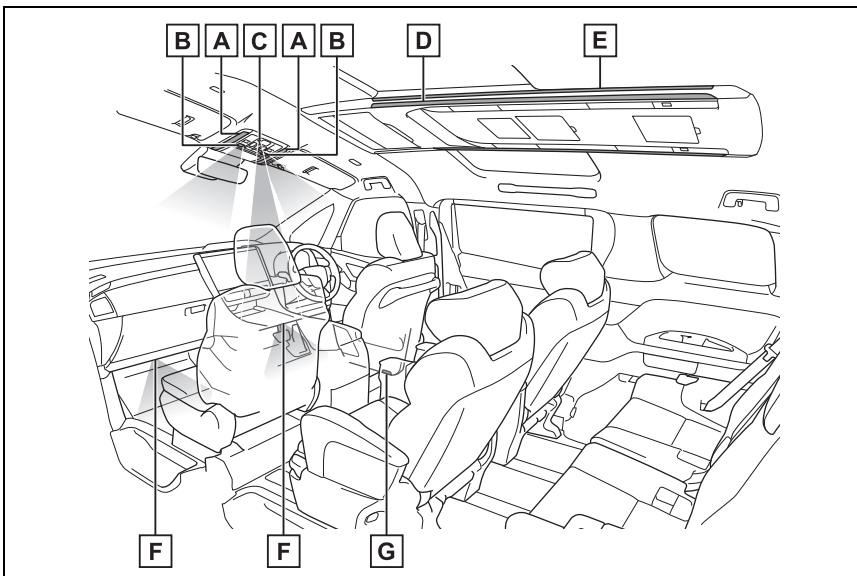
■ カスタマイズ機能

マルチメディアディスプレイの “車両力

スタマイズ” で、フロントシートベンチレーターの温度を設定できます。
（→P.493）

室内灯一覧

室内灯の位置



- A** ルームランプ（→P.384）／フロントパーソナルランプ（→P.384）
- B** フロントパーソナルランプ（→P.384）
- C** センターコンソールランプ
- D** リヤパーソナルランプ（→P.384）
- E** ルーフカラーイルミネーション（→P.385）
- F** フロント足元照明
- G** ドアカーテシランプ

知識

■イルミネーテッドエントリーシステム

電子キーの検知・ドアの施錠／解錠・ドアの開閉・エンジンスイッチのモードにより、各部の照明が自動的に点灯・消灯します。

■バッテリーあがりを防ぐために

エンジンスイッチを OFF にしたときに、室内灯が点灯したままの場合、約 20 分後に自動消灯します。

■室内灯の自動点灯について

SRS エアバッグの作動時または後方から強い衝撃を受けたときは、室内灯が約 20 分間自動で点灯します。

手動操作で消灯することができますが、二次災害を防ぐため、安全が確保できるまでは消灯しないことをおすすめします。(衝撃の度合いや事故の状況によっては点灯しないことがあります)

■ 音声対話サービスでの操作について★

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

音声対話サービスを使用して室内灯を操作することができます。音声対話サービスについては、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

■ カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。(カスタマイズ一覧 : →P.493)



注意

■ バッテリーあがりを防止するために

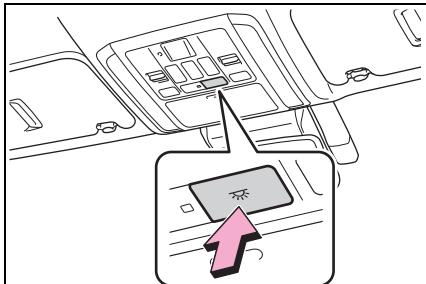
エンジンが停止した状態で、長時間ランプを点灯しないでください。

ルームランプを操作するには

ランプを点灯・消灯する

リヤパーソナルランプも連動して点灯・消灯します。

ドアポジション（ドア運動）が ON のときは、ドアが開くとランプが点灯します。

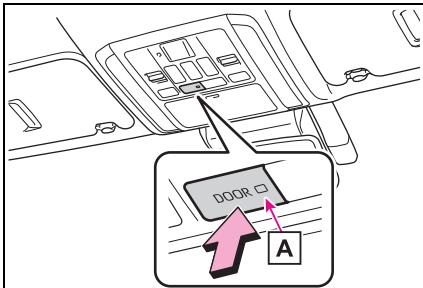


■ ドアポジション（ドア運動）を ON にする

ドア運動スイッチを押す

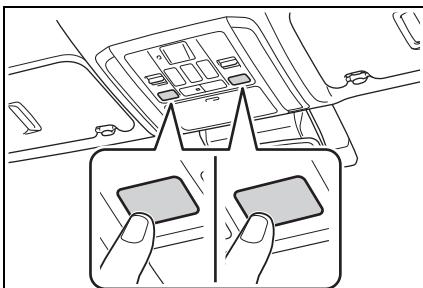
スイッチの作動表示灯[A]が点灯します。

ドアの開閉に連動してランプの点灯・消灯が切りかわります。



フロントパーソナルランプを操作するには

ランプを点灯・消灯する



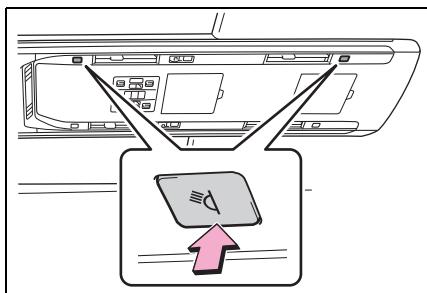
リヤパーソナルランプを操作するには

■ 個別で操作する

ランプを点灯・消灯する

スイッチを押すたびに明るさを 4 段階に切りかえることができます。

スイッチを押し続けると、どの段階の明るさからでも消灯します。

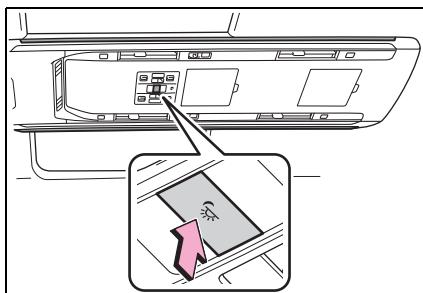


■一括で操作する

ランプを点灯・消灯する

スイッチを押すたびに明るさを4段階に切りかえることができます。

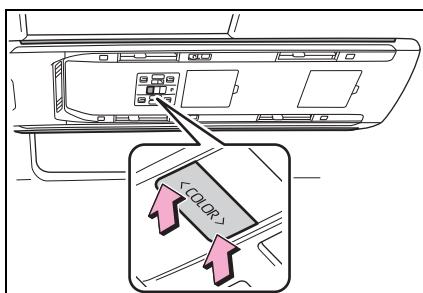
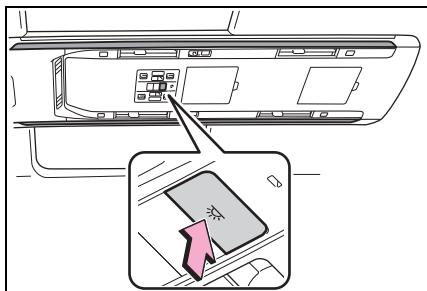
スイッチを押し続けると、どの段階の明るさからでも消灯します。



■色を変える

スイッチを押す

スイッチを押すたびに15色から選択できます。



ルーフカラーイルミネーションを操作するには

■点灯・消灯する

スイッチを押す

スイッチを押すたびに明るさを4段階に切りかえることができます。

スイッチを押し続けるとどの段階の明るさからでも消灯します。

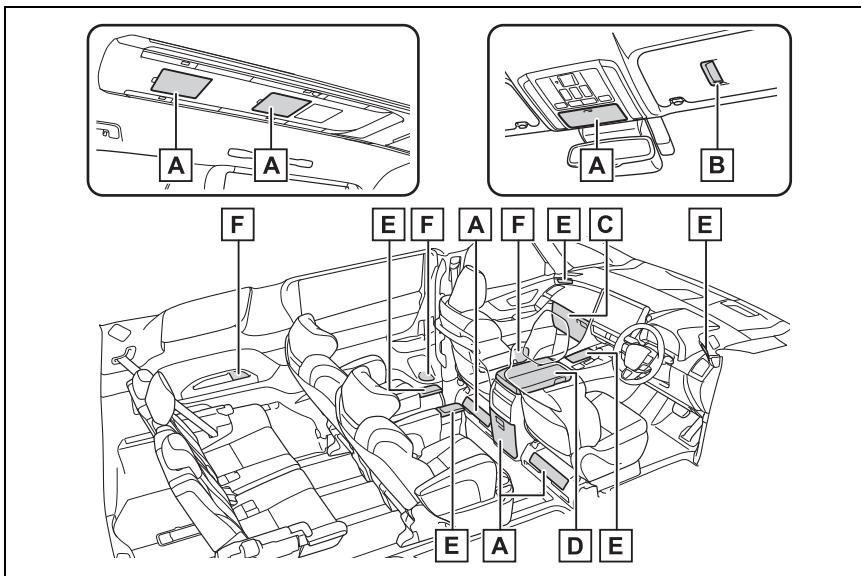
知識

■ルーフカラーイルミネーションについて

ルーフカラーイルミネーションが部分的に点灯している、またはカラーが混ざって点灯しているときは、使用しないでトヨタ販売店で点検を受けてください。

収納装備一覧

収納装備の位置



- A** 小物入れ（→P.389）
- B** チケットホルダー（→P.389）
- C** グローブボックス（→P.387）
- D** コンソールボックス（→P.387）
- E** カップホルダー（→P.387）
- F** ボトルホルダー（→P.388）

!**警告**

■ 収納装備に放置してはいけないもの

メガネ・ライターやスプレー缶を収納装備内に放置したままにしないでください。

放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。

● 室温が高くなったときの熱や、他の収納物との接触などにより、メガネが変形やひび割れを起こす

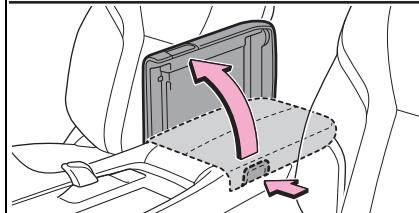
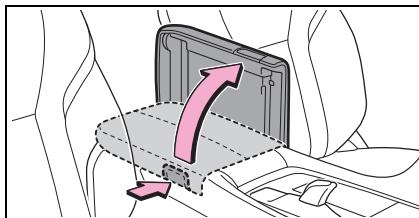
● 室温が高くなったときにライターやスプレー缶が爆発したり、他の収納物との接触でライターが着火したりスプレー缶のガスがもれるなどして火災につながる

⚠ 警告

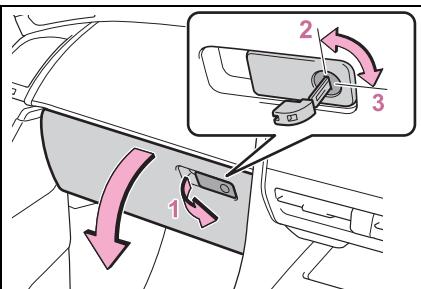
■ 収納装備を使用しないとき

収納装備を使わないときは、フタを必ず閉じてください。

急ブレーキや急旋回時などに、開いたフタに体があたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。



グローブボックスを使うには



- 1 開ける（レバーを引く）
- 2 メカニカルキーで解錠
- 3 メカニカルキーで施錠

□ 知識

■ グローブボックスランプ

車幅灯点灯時は、グローブボックス内のランプが点灯します。

コンソールボックスを使うには

ボタンを押してフタを開ける
左右どちらからでも開けることができます。

⚠ 注意

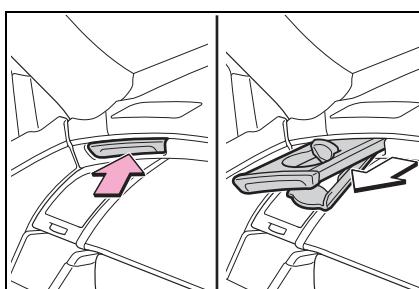
■ コンソールボックスの損傷を防ぐために

コンソールボックスが開いた状態で、開いている方向に無理な力をかけないでください。

カップホルダーを使うには

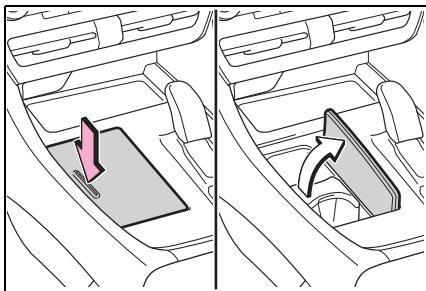
■ フロント

押して開ける



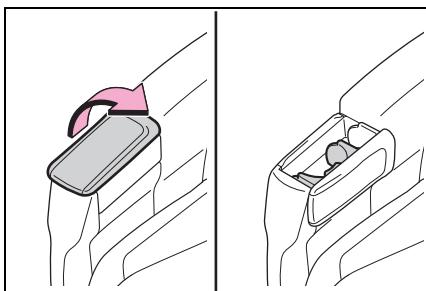
■ センターコンソールボックス

押して開ける



■ セカンドパワーシート

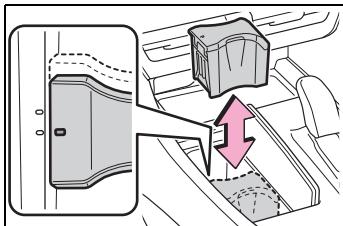
カバーを開ける



□ 知識

■ カップホルダーの仕切りについて

- 位置を調整することができます。
- 清掃のために取りはずすことができます。



⚠ 警告

■ 収納してはいけないもの

カップホルダーにはカップや缶以外のものを置かないでください。また、フタを閉じているときでも、ものを収納しないでください。急ブレーキや事故により落ちてけがをするおそれがあります。

- やけどを防ぐために、カップホルダーに温かい飲み物を置くときはフタを閉めておいてください。
- フロントシートカップホルダーを使用するとき、背の高いカップを置くと、運転者の視界をさまたげ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

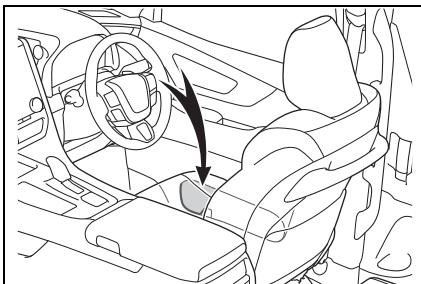
⚠ 注意

■ フロントシートカップホルダーを使用するとき

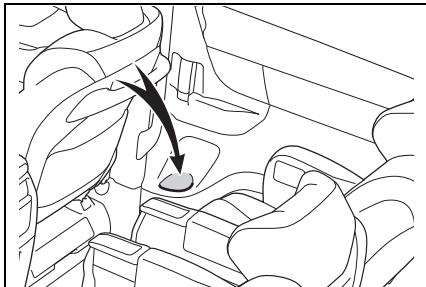
フロントシートのカップホルダーを使用するときは、過度の負荷を与えないでください。また、車に乗り降りする際に手をついたり、体があたったりしないように注意してください。

ボトルホルダーを使うには

■ フロントドア

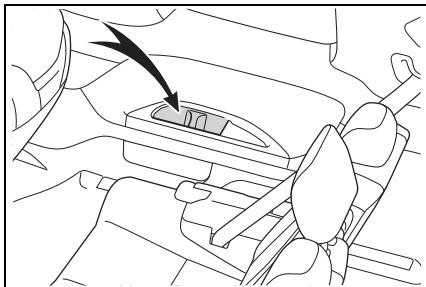


■ スライドドア



■ クォータートリム

運転席側は 2 つ、助手席側は 1 つになります。



■ ボトルホルダーについて

- ペットボトルのフタを必ず閉めてから収納してください。
- ペットボトルの大きさ・形によっては収納できないことがあります。



■ 収納してはいけないもの

ボトルホルダーにはペットボトル以外のものを置かないでください。急ブレーキをかけたときや衝突時に収納していたものが飛び出し、けがをするおそれがあります。

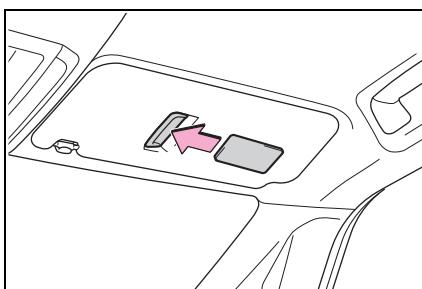


■ 収納してはいけないもの

- ボトルホルダーには、ジュースなどが入っている紙コップ・ガラス製のコップなどを収納しないでください。ジュースなどがこぼれたり、ガラス製品が割れたりするおそれがあります。

- スライドドアを開ける前にスライドドアのボトルホルダーを使用していないことを確認してください。ドアの開閉を妨げたりドアを損傷するおそれがあります。

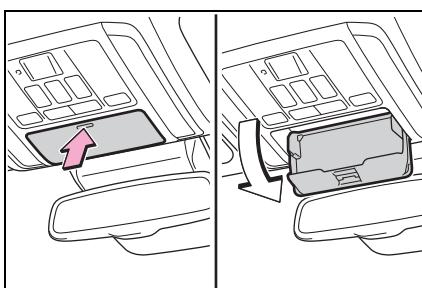
チケットホルダーを使うには



小物入れ

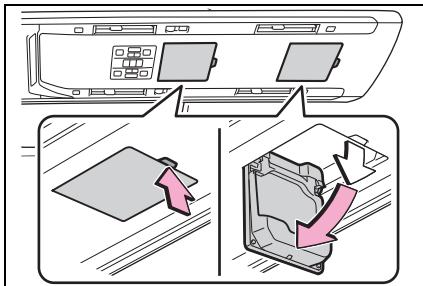
■ オーバーヘッドコンソール（フロント）

押して開ける



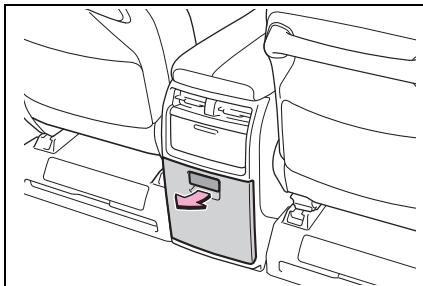
■ オーバーヘッドコンソール（リヤ）

押して開ける



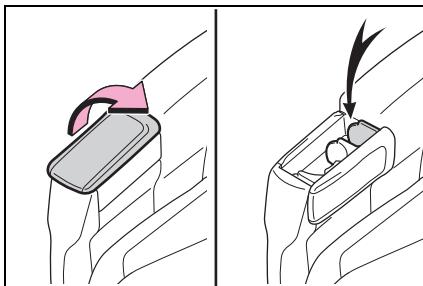
■ コンソールボックス後部

ノブを引いて開ける

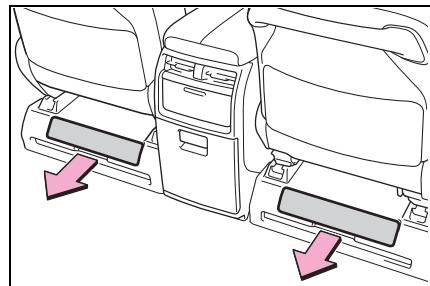


■ セカンドパワーシート

カバーを開ける



■ フロントシート下部



警告

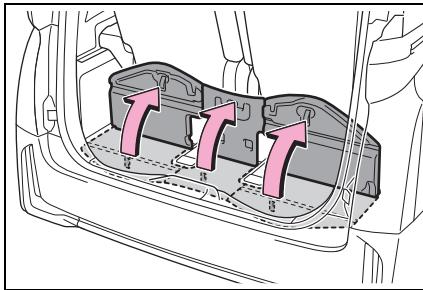
■ オーバーヘッドコンソールの小物入れを使用するとき

オーバーヘッドコンソールに 200g 以上のものを入れないでください。
200g 以上のものを入れると、オーバーヘッドコンソールが開き収納されているものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

ラゲージルーム内装備

デッキボード

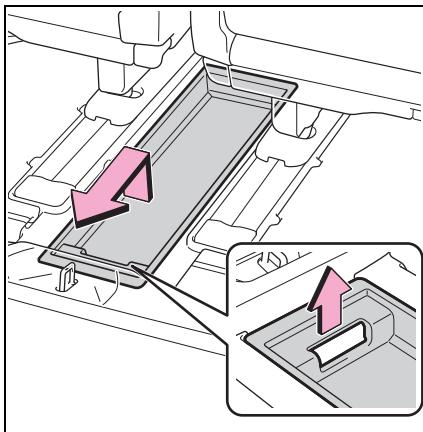
ストラップを持ってデッキボードを上げる



知識

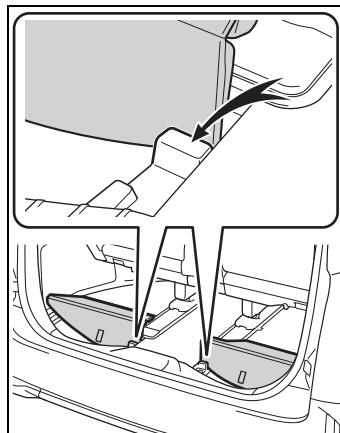
■ ラゲージボックスについて

ラゲージボックスは取りはずすことができます。



■ デッキボードについて

左右のデッキボードを折り曲げて図のくぼみにかけることができます。



警告

■ デッキボードを取りはずしたときは

デッキボードを取りはずしたときは、走行前に必ずもとどおりに取り付けてください。取りはずしたまま走行すると、急ブレーキをかけたときなどにデッキボードや収納していたものが飛び出し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

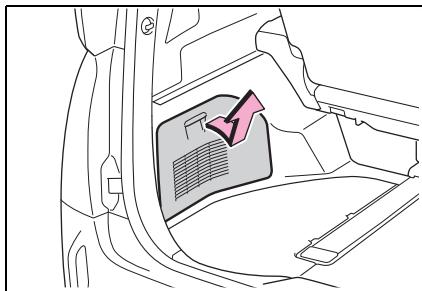
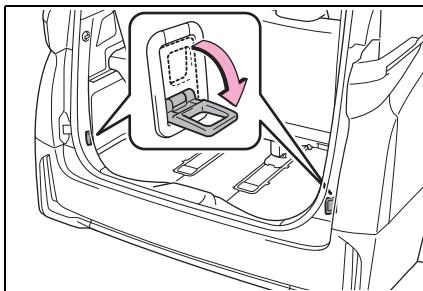
■ 破損を防ぐために

破損を防ぐために、デッキボードの上に立ったり、無理な力をかけたりしないでください。

デッキフック

フック起こして使用する

デッキフックを使って荷物を固定することができます。



⚠ 警告

■ デッキフックを使用しないときは

デッキフックを使用しないときは、けがをしないように、必ずもとの位置にもどしておいてください。

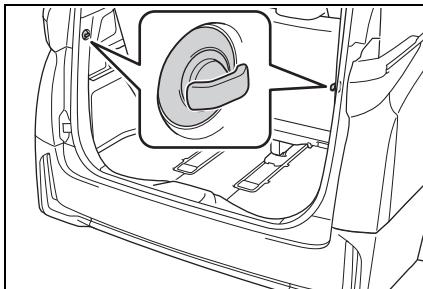
⚠ 警告

■ 走行中の警告

走行中はカバーを閉じてください。事故や急ブレーキの際に傷害につながるおそれがあります。

ネットフック

積荷ネットなどをかけるときに使用する



⚠ 注意

■ 破損を防ぐために

ネットフックの破損を防ぐために、3kg以上のものをフックに吊り下げないでください。

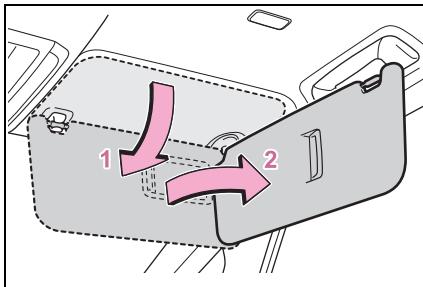
フックが折れたり、走行中にはずれたりするおそれがあります。

ラゲージルーム小物入れ

カバーを開ける

その他の室内装備

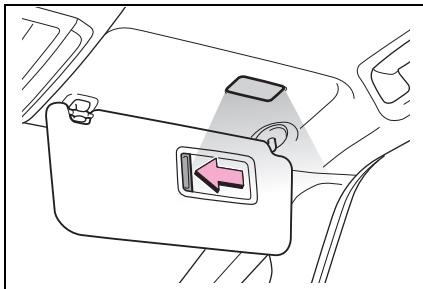
サンバイザーを使うには



- 1 前方をさえぎるには、バイザーを下ろす
- 2 側方をさえぎるには、バイザーを下ろした状態でフックからはずし、横へまわす

バニティミラーを使うには

カバーをスライドして開ける
カバーを開けるとバニティミラーランプ
が点灯します。

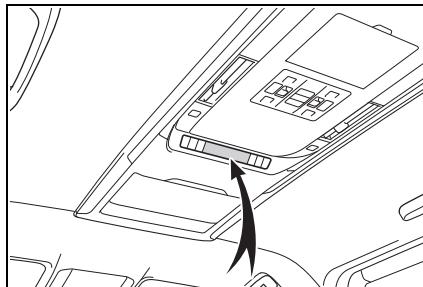


注意

- バッテリーあがりを防ぐために
エンジンが停止した状態で、長時間ランプを点灯しないでください。

時計

マルチメディアディスプレイと同じ時刻を表示します。



知識

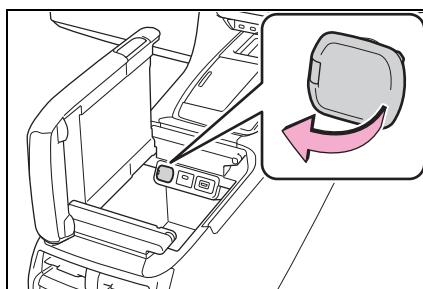
■ 作動条件

エンジンスイッチが ON のとき

アクセサリーソケットを使うには

DC12V/10A (消費電力 120W)
未満の電気製品を使用するときの
電源としてお使いください。

フタを開けて使用する



知識

■ 作動条件

エンジンスイッチが ACC、ON またはマルチメディアシステムの電源が ON のとき

■アクセサリーソケットを使用するとき
(Stop & Start システム装着車)

Stop & Start システムの作動により、エンジン停止状態からエンジンが再始動するとき、一時的にアクセサリーソケットが使用できないことがあります、異常ではありません。

■エンジンスイッチを OFF にするとき

モバイルバッテリーなどの、充電機能を備えた電気製品をはずしてください。接続したままにしておくと、エンジンスイッチを正常に OFF にすることはできなくなる場合があります。



■アクセサリーソケットを使用しないときは

異物が入ったり、飲料水などがかからつたりしないように、使用しないときはフタを閉めておいてください。

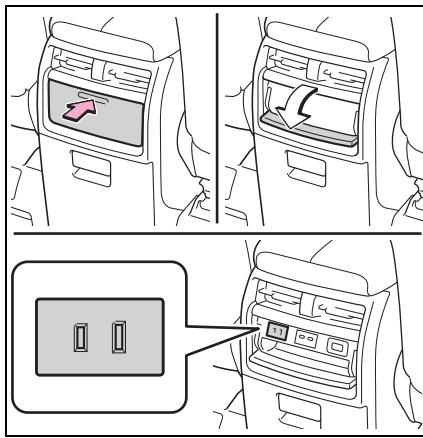
■バッテリーあがりを防ぐために

エンジンが停止した状態で、アクセサリーソケットを使用しないでください。

アクセサリーコンセントを使うには

AC100V で最大消費電力 100W 以下の電気製品を使うときの電源としてお使いください。

ふたを開けて使用する



■知識

■使用条件

エンジンスイッチが ON のとき

■アクセサリーコンセントを使用するとき (Stop & Start システム装着車)

Stop & Start システムの作動により、エンジン停止状態からエンジンが再始動するとき、一時的にアクセサリーコンセントが使用できないことがあります、異常ではありません。



■ヒューズが切れるのを防ぐために

AC100V で最大消費電力 100W 以上の電気製品を使用しないでください。消費電力が 100W をこえる電気製品を使用すると、保護回路が作動して電源を遮断します。

■ショートや故障を防ぐために

アクセサリーコンセントに異物が入ったり、飲料水などがかからつたりしないように、使用しないときは、フタを閉めておいてください。

⚠ 注意

■ バッテリーあがりを防止するために

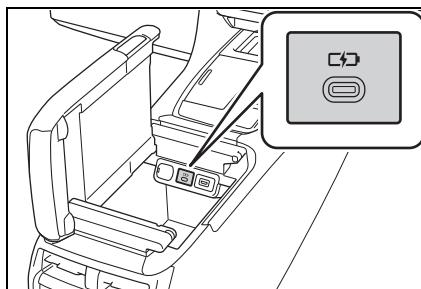
エンジンが停止した状態でアクセサリーコンセントを長時間使用しないでください。

■ 正しく作動しないおそれがある電気製品

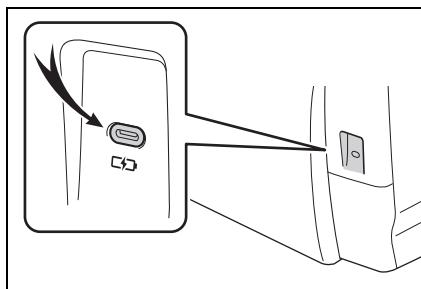
次のような AC100V の電気製品は、消費電力が 100W 以下の場合でも正常に作動しないおそれがあります。

- 起動時のピーク電力が高い電気製品
- 精密なデータを処理する計測機器
- 電源周波数の切り替え (50 / 60Hz) のある機器
- 極めて安定した電力供給を必要とする他の電気製品

■ フロントコンソール



■ セカンドパワーシート

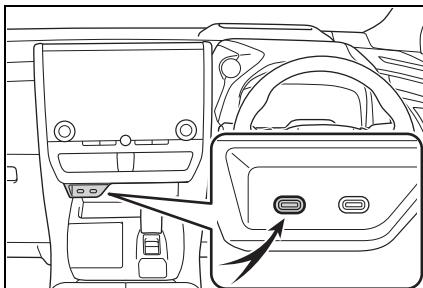


充電用 USB Type-C 端子

DC5V/3.0A (消費電力 15W)
の電源としてお使いください。
この USB Type-C 端子は充電専用
でありデータ転送などは行えませ
ん。

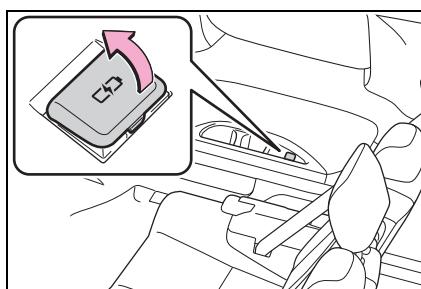
また、使用する機器によっては、
正常に充電できない場合がありま
す。ご使用になる機器に付属の取
扱説明書もお読みください。

■ インストルメントパネル



■ リヤクォータートリム

ふたを開ける



□ 知識

■ 作動条件

エンジンスイッチが ACC、ON またはマ
ルチメディアシステムの電源が ON のとき

■ 正常に働かないおそれのある状況

- DC5V/3.0A (消費電力 15W) をこえ

る電力を要求する機器を接続したとき

- パソコンと通信を行う機器を接続したとき

- 接続機器の電源が OFF のとき（機器により異なります）

- 炎天下に駐車したあとなど、車室内の温度が高いとき

■ 使用する外部機器について

一部の機器では、充電中に充電がいったん停止後、再充電を開始する場合がありますが、故障ではありません。



■ 注意

■ 充電用 USB Type-C 端子の損傷を防ぐために

- 端子部に異物を入れないでください。
- 水や液体をかけないでください。
- 強い力や衝撃を加えないでください。
- 分解や改造、取りはずしをしないでください。

■ 外部機器の損傷を防ぐために

- 機器を車室内に放置しないでください。車室内が高温となり、故障の原因になります。

- 機器が接続されているときに、外部機器や外部機器のケーブルを押し下げたり、不要な力を加えたりしないでください。

■ バッテリーあがりを防ぐために

エンジンが停止した状態で、充電用 USB Type-C 端子を長時間使用しないでください。

ワイヤレス充電器（おくだけ充電）を使うには

ワイヤレスパワーコンソーシアム（WPC）によるワイヤレス充電規格 Qi に適合したスマートフォンや

モバイルバッテリーなどの携帯機器を充電エリアに置くだけで、携帯機器を充電することができます。

適合機器は WPC のホームページ (<https://www.wirelesspowerconsortium.com/>) でご確認いただけます。

ワイヤレス充電器より大きい携帯機器には本機能を使用できません。また、携帯機器によっては、正常に作動しない場合があります。ご使用になる携帯機器に付属の取扱説明書もお読みください。

■ 「Qi」マークについて

「Qi」、Qi マークは、ワイヤレスパワーコンソーシアム（WPC）の商標です。

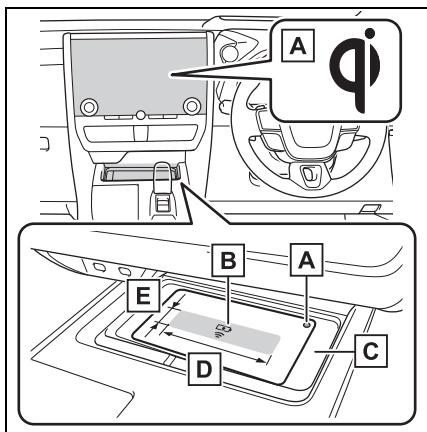


■ 「おくだけ充電」マークについて

「おくだけ充電」、「おくだけ充電」ロゴは、株式会社 NTT ドコモの登録商標です。



■ 各部の名称



A 作動表示灯

B 充電エリア *

C 充電トレイ

D 約 10 cm

E 約 2.5 cm

* ワイヤレス充電器内の充電用コイルは、携帯機器内の充電用コイル位置まで充電エリア内を移動することができます。携帯機器のコイル中心が充電エリア内に入っていれば充電が可能です。

また、2つ以上の携帯機器を同時に充電エリアに置くと、正しく充電用コイルを検出できず、充電できないことがあります。

■ 充電する

携帯機器を置く

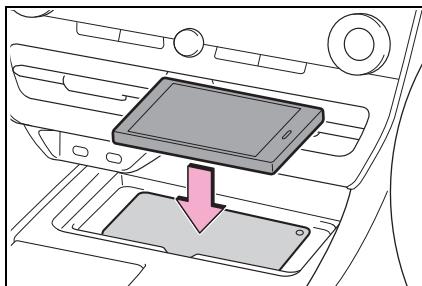
携帯機器の充電面を下にして、機器の中央が充電エリアの中央に来るよう置いください。

充電中は充電トレイ上の作動表示灯が橙色に点灯します。

充電が行われないときは、「機能が正常に働かないおそれのある状況」(→P.401)

をご確認ください。

充電が完了するとワイヤレス充電器側の作動表示灯が緑色に点灯します。



■ 再充電機能

- 充電が完了し、充電停止状態が一定時間経過すると充電を再開します。

- 充電エリア内で携帯機器が大きく動くと、充電用コイルがはずれて充電がいったん停止しますが、充電エリア内に充電用コイルの中心がある場合は、ワイヤレス充電器内の充電用コイルがその付近まで移動して充電を再開します。充電エリア外まで携帯機器が動くと、充電が停止します。充電エリアの中央付近に携帯機器を置き直してください。

■ 急速充電機能

- 次の携帯機器に対しては急速充電が行えます。

- ・ WPC の Ver1.3.2 に準拠した、急速充電に対応した携帯機器
- ・ 7.5W 充電に対応した iOS を搭載している iPhone (iPhone 8 以降の機種)
- ・ Galaxy 独自の急速充電規格に対応した携帯機器

- 急速充電に対応した携帯機器を充電すると、自動的に急速充電機能に切りかわります。

■ 作動表示灯の点灯状況

作動表示灯		状況
充電トレイ側	マルチメディアディスプレイ側	
消灯	非表示	マルチメディア電源が OFF、またはエンジンスイッチが OFF のとき
緑（点灯）	灰	待機中（充電可能状態）※1
		充電完了時 ※2
橙（点灯）	青	充電中

※1 待機中は充電用の電力は出力していません。この状態で金属製のものを充電エリアに置いても、加熱されることはありません。

※2 携帯機器によっては、充電完了後も表示灯が橙色に点灯し続ける場合があります。

■ ワイヤレス充電器が正しく作動しない状況

ワイヤレス充電器が正しく作動しない状況と、想定される原因の対処方法は次のとおりです。

作動表示灯		想定される原因・対処方法
充電トレイ側	マルチメディアディスプレイ側	
橙（1秒間に1回の点滅をくり返す）	灰	車両とワイヤレス充電器の通信不良 → エンジンが始動しているときは、一度エンジンを停止し、再始動してください。 エンジンスイッチのモードが ACC のときは、一度エンジンを始動してください。（→P.170）
緑（1秒間に1回の点滅をくり返す）	非表示	ワイヤレス充電器とマルチメディアシステムの通信異常 → エンジンが始動しているときは、一度エンジンを停止し、再始動してください。 エンジンスイッチのモードが ACC のときは、一度エンジンを始動してください。（→P.170）

作動表示灯		想定される原因・対処方法
充電トレイ側	マルチメディアディスプレイ側	
緑（点灯）	青	AM放送局を自動選局している → AM放送局の自動選局が完了するのをお待ちください。また、自動選局が完了しないときは、自動選局を停止させてください。
		スマートエントリー＆スタートシステムが電子キーの検出を行っている。 → 電子キーの検出が完了するのをお待ちください。
緑（点灯）	灰	異物検知： 充電エリア内に金属製の異物があり、異物の異常過熱防止機能が働いた → 充電エリア内にある異物を取り除いてください。
		携帯機器のずれ・充電面からの浮き： 携帯機器の充電用コイルの中心が充電エリアからはずれた、レンズの凸量が大きい、又はケースが厚いため、異常過熱防止機能が働いた → 携帯機器を充電トレイから取り出し、5秒後に充電トレイの中央付近に置き直してください。また、ケースやカバーを携帯機器に装着している場合は、はずしてください。

作動表示灯		想定される原因・対処方法
充電トレイ側	マルチメディアディスプレイ側	
緑（点灯）	灰	<p>携帯機器のバッテリー保護機能： 満充電に達する前に、携帯機器のバッテリー保護機能により充電が停止した → 携帯機器の仕様のため、設定を確認してください。</p> <p>電子キーの検出状態が継続： 車両カスタマイズによってマルチメディア機能を利用しているとき、電子キーが確定されず検出状態が継続された → エンジンスイッチを ACC または ON にして、キーを確定させてください。</p>
橙（4回連続の点滅をくり返す）	灰	<p>ワイヤレス充電器内の温度が一定値を超えたことによる安全停止 → いったん充電を停止し、携帯機器を充電エリアから取り出して、温度が下がるまでしばらく待ってから充電を開始してください。</p>

□ 知識

■ 使用条件

エンジンスイッチが ACC、ON またはマルチメディアシステムの電源が ON のとき

■ 使用できる携帯機器について

- ワイヤレス充電規格 Qi 準拠機器を使用できます。ただし、Qi Ver1.0 及び 1.3.2 以降および Qi2 規格の MPP (Magnet Power Profile) に対応した携帯機器に対しては、互換性を保証しているものではありません。
- 携帯電話やスマートフォンをはじめとする携帯機器を対象とした 5W 以下の低電力給電を対象としています。
- ただし、次の携帯機器に対しては、5W をこえる充電に対応しています。
・ 7.5W の充電に対応した iPhone に対しては、7.5W 以下の充電に対応して

います。

- ・ Galaxy 独自の充電規格に準拠した携帯機器に対して、10W 以下の充電に対応しています。
- ・ WPC 規格の Ver1.3.2 に規定されている EPP 出力に準拠した携帯機器に対しては、15W 以下の充電に対応しています。

■ スマートエントリー＆スタートシステムの使用について

充電動作中にスマートエントリー＆スタートシステムが電子キーの検出を行うと、一時的に充電を停止します。電子キーが検出されると、充電は自動的に再開します。

■ 携帯機器にカバーやアクセサリーを付けるときは

携帯機器に、「Qi」非対応のカバーやアクセサリーを付けた状態で充電しないでください。カバー（一部メーカー純正品を

含む) やアクセサリーの種類によっては充電できない場合があります。また、Qi2に対応していないため、Qi2に対応したアクセサリーおよびカバーを装着した状態では充電できない場合があります。充電エリアに携帯機器を置いても充電が行われないときは、カバーやアクセサリーをはずしてください。

■充電中のAMラジオ放送連携機能

- 充電中、AMラジオにノイズが入る場合、充電の周波数を自動で切りかえてノイズを低減します。
- AMラジオを自動選局中は、充電によって発生するノイズで誤選局しないよう、一時的に充電を停止します。選局が終了すると、充電は自動的に再開します。

■充電中についての留意事項

- 車室内に電子キーを検出できない場合は、充電することができません。ドアの開閉時は、一時的に充電が停止することがあります。
- 充電中は、ワイヤレス充電器と携帯機器が温かくなりますが、異常ではありません。充電中に携帯機器が温かくなったときは、携帯機器側の保護機能により、充電が停止することがあります。この場合、携帯機器の温度が十分に下がってから、再度、充電を行ってください。

また、ワイヤレス充電器内の温度を下げるためファンが作動することがありますか、異常ではありません。

■作動中の音について

エンジンスイッチを押してACCまたはONに変更したとき、および携帯機器を検出中は“ジー”や“カチッ”と作動音がしますが、異常ではありません。

■清掃について

→P.416

■機能が正常に働かないおそれのある状況

次のような場合は正常に充電しない場合があります。

- 携帯機器が満充電のとき
- 有線接続で携帯機器を充電中のとき
- 充電エリアと携帯機器のあいだに異物があるとき
- 充電により、携帯機器の温度が高温になっているとき
- 炎天下などにより、充電エリア付近の温度が35℃以上になっているとき
- 携帯機器の充電面を上にして置いたとき
- 折りたたみ式等の小型の携帯機器の充電コイルが充電エリアからはずれているとき
- 携帯機器が充電トレイよりも大きいとき
- 近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき
- 電子キーが車内にないとき
- 携帯機器の充電面と充電エリアのあいだに次のようなものを挟んだり、装着したとき
 - ・厚みがあるケースやカバー
 - ・充電面が平面状ではなく、段差や傾斜があるケースやカバー
 - ・厚みがあるデコレーション
 - ・指リングやストラップなどのアクセサリー
 - ・カメラレンズを保護するカバー
- 携帯機器の充電面にカメラなどの突起があり、携帯機器の充電面と充電エリアとのあいだにすき間ができるとき
- 携帯機器が、次のような金属製のものに接していたり、覆われたりしている

とき

- ・アルミ箔などの金属の貼られたカード
- ・アルミ箔を使用したタバコの箱
- ・金属製の財布やかばん
- ・小銭
- ・カイロ
- ・CD や DVD などのメディア
- ・金属製のデコレーション
- ・金属製のケースやカバー
- ・携帯機器の充電面側に磁石が入った手帳型ケース
- 近くで電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき
- 2つ以上の携帯機器を同時に充電エリアに置いたとき
- S ペン (Galaxy 端末付属のタッチペン) 内蔵の端末 (Note シリーズ等) をご使用の場合、S ペンを挿入したままトレイに置いたとき

また、上記以外で、充電が正常に行われない、または、作動表示灯が点滅したままのときは、ワイヤレス充電器の異常が考えられます。トヨタ販売店へお問い合わせください。

■スマートフォンの OS を更新したとき

スマートフォンの OS バージョンを更新したとき、充電の仕様が大きく変更されることがあります。WPC の対応バージョンが変更された場合、急速充電機能が使えなくなる場合があります。詳しくは各メーカーのホームページ情報等をご確認ください。

■商標について

- iPhone は、米国および他の国々で登録された Apple Inc. の商標です。なお、iPhone の商標はアイホン株式会社のライセンスにもとづき使用されています。
- Galaxy は、Samsung Electronics Co.,Ltd. の商標または登録商標です。

▲ 警告

■運転中の注意

携帯機器を充電する場合、安全のため、運転者は運転中に携帯機器本体の操作をしないでください。

■走行中の注意

コードレスヘッドフォンなど小型軽量の携帯機器は、走行中に充電しないでください。非常に軽量のため充電トレイから飛び出し、思わぬ事故の原因になるおそれがあり危険です。

■電波がおよぼす影響について

植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器などの医療用電気機器を装着されている方は、ワイヤレス充電器のご使用にあたっては医師とよくご相談ください。ワイヤレス充電器の動作が医療用電気機器に影響を与えるおそれがあります。

■故障ややけどを防ぐために

次のことをお守りください。

お守りいただかない装置の故障や損傷、車両火災、発熱によるやけど、または感電につながるおそれがあります。

- 充電中に、充電エリアと携帯機器のあいだに金属物を挟まない
- 充電エリアにアルミなどのシールや金属製のものを貼り付けない
- 携帯機器本体および外付けのケースやカバーなどに対して、充電エリアと接触する側に、アルミなどのシールや金属製のものを貼り付けたまま充電しない
- 小物入れがわりにものを置かない
- 強い力や衝撃をかけない
- 分解や改造、取りはずしをしない

⚠ 警告

- 指定された携帯機器以外は充電しない
- 磁気を帯びたものを近付けない
- 充電エリアに、ほこりがかぶった状態で充電しない
- 布などをかぶせて充電しない

⚠ 注意

■ 故障やデータ破損を防止するために

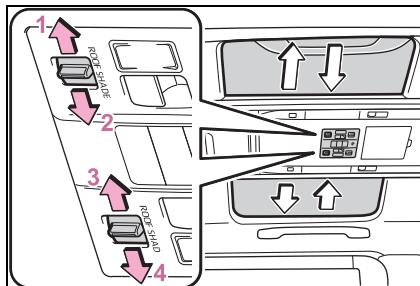
- 充電中に、充電エリアにクレジットカード・ETCカードなどの磁気カードや磁気記録メディアなどを近付けると、磁気の影響によりデータが消えるおそれがあります。さらに、車の電子キーを充電中の携帯端末上や空きスペースに置くと磁気の影響により電子キーが作動しなくなるおそれがあります。また、腕時計などの精密機器を近付けると、こわれたりするおそれがありますので、近付けてください。
- 携帯機器の充電面と充電エリアのあいだに、交通系ICカードなど非接触型ICカードを挟んだまま充電しないでください。ICチップが非常に高温になり、携帯機器やICカードが破損するおそれがあります。特に、非接触型ICカードを取り付けられるケースやカバーを携帯機器に装着したまま充電しないようにご注意ください。
- 携帯機器は車室内に放置しないでください。炎天下など車室内が高温となり、故障の原因になります。

■ バッテリーあがりを防止するために

エンジンを停止した状態で、ワイヤレス充電器を長時間使用しないでください。

ルーフサンシェード

■ 個別で操作する

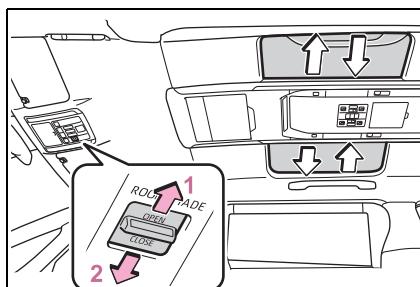


- 1 助手席側ルーフサンシェードを開ける※
- 2 助手席側ルーフサンシェードを閉める※
- 3 運転席側ルーフサンシェードを開める※
- 4 運転席側ルーフサンシェードを開ける※

※途中で停止するときは、スイッチを軽く押します。

■ 一括で操作する

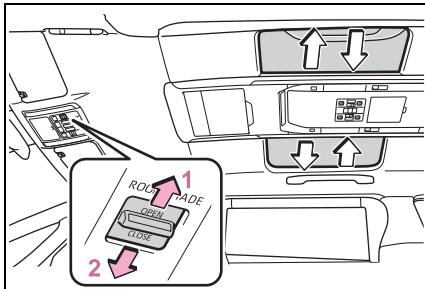
▶ サイドサンシェード非装着車



- 1 開ける※
- 2 閉める※

※途中で停止するときは、スイッチを軽く押します。

▶ サイドサンシェード装着車



- 1 開ける***
2 閉める*

*途中で停止するときは、スイッチを軽く押します。

□ 知識

■ ルーフサンシェードの作動条件

エンジンスイッチが ON のとき

■ 音声対話サービスでの操作★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

音声対話サービスを使用して、ルーフサンシェードの操作をすることができます。
音声対話サービスについては、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

■ ルーフサンシェードの挟み込み防止機能

- ルーフサンシェードを閉めるとき、異物の挟み込みを感じると、作動が停止し少し開きます。
- 挟み込み防止機能が作動したときは、再度スイッチの閉める側を押しても、完全に反転作動が停止するまでは閉まる方向に動きません。
- ルーフサンシェードは、周囲の状況や走行状況により衝撃があった場合、反転作動することがあります。

■ ルーフサンシェードの作動について

短時間にルーフサンシェードの開閉をくり返すと、モーターのオーバーヒート防止のために作動制限することがあります。その場合は操作を控えてください。しばらくするととの状態にもどります。

■ ルーフサンシェードの自動全開／自動全閉機能が作動しないとき

次の手順で初期化を行ってください。

- 1 エンジンスイッチを ON にする
- 2 スイッチの閉める側を押し続ける

全閉付近の位置まで閉じ、停止します。その後、開く方向に作動してから全閉位置で停止します。

途中でスイッチから手をはなすと、最初からやり直しとなります。

以上の操作を行っても自動全開／自動全閉機能が作動しない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ ルーフサンシェードを開閉するとき

- ルーフサンシェードを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首を挟んだり巻き込んだりしないように注意してください。



⚠️ 警告

- お子さまには、ルーフサンシェードの操作をさせないでください。ルーフサンシェードに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。
- ルーフサンシェードの挟み込み防止機能**
- 挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、ルーフサンシェードが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを押し続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。

■ やけどやけがを防ぐために

ルーフの下側とルーフサンシェードのすき間にはふれないでください。手を挟んでやけどをするおそれがあります。また、車を直射日光のあたる場所に長時間駐車するとルーフの下側が熱くなるため、やけどをするおそれもあります。

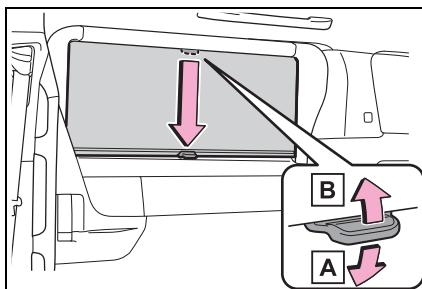
サイドサンシェード（マニュアルタイプ）

ツマミを解除の位置**A**にして引き出す

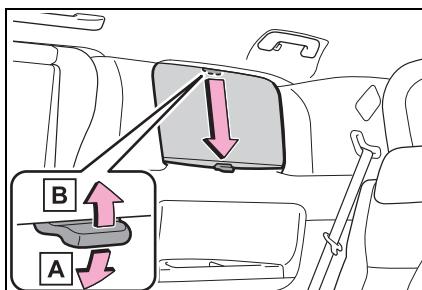
ツマミを固定の位置**B**にするとお好みの位置で止める事ができます。

もどすときはツマミを解除の位置**A**にしてゆっくりと格納します。

▶ リヤドアガラス



▶ リヤクオーターガラス



⚠️ 注意

■ 正常に機能させるために

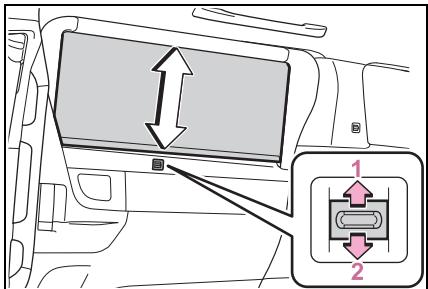
次のことをお守りください。

- 開閉のさまたげになる部分にものを置かない
- サイドサンシェードにものを貼らない
- スライドドアが開閉しているときは、リヤドアガラスのサイドサンシェードを操作しない
- 収納するときに傾けた状態で収納しない。
傾けた状態で収納すると、スクリーン部のしわの原因になります。

サイドサンシェード（電動タイプ）

■ 個別で操作する

▶ リヤドアガラス

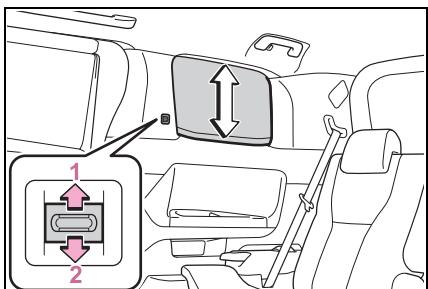


1 開ける*

2 閉める*

*途中で停止するときは、スイッチを軽く押します。

▶ リヤクオーターガラス

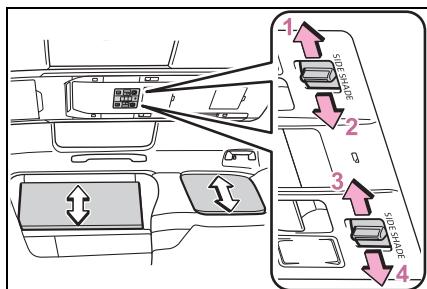


1 開ける*

2 閉める*

*途中で停止するときは、スイッチを軽く押します。

■ 右側／左側を一括で操作する



1 助手席側サイドサンシェードを閉める*

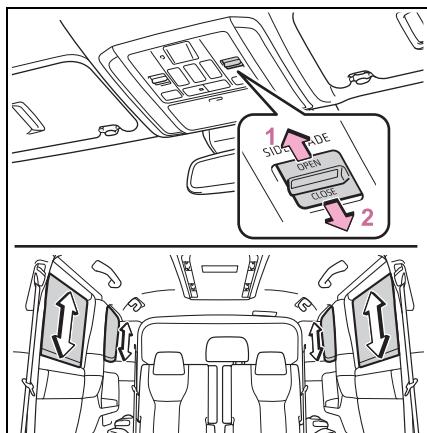
2 助手席側サイドサンシェードを開ける*

3 運転席側サイドサンシェードを開ける*

4 運転席側サイドサンシェードを閉める*

*途中で停止するときは、スイッチを軽く押します。

■ 全てのサイドサンシェードを一括で操作する



1 開ける*

2 閉める*

*途中で停止するときは、スイッチを軽く押します。

く押します。

□ 知識

■ 作動条件

- エンジンスイッチが ON のとき
- リヤドアガラスが閉まっているとき
(リヤドアガラスのみ)

■ 音声対話サービスでの操作★

- ★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

音声対話サービスを使用して、サイドサンシェードの操作をすることができます。

音声対話サービスについては、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

■ サイドサンシェードの挟み込み防止機能

- サイドサンシェードを閉めるとき、異物の挟み込みを感知すると、作動が停止し少し開きます。
- 挟み込み防止機能が作動したときは、再度スイッチの閉める側を押しても、完全に反転作動が停止するまでは閉まる方向に動きません。
- サイドサンシェードは、周囲の状況や走行状況により衝撃があった場合、反転作動することがあります。

■ サイドサンシェードの作動について

短時間にサイドサンシェードの開閉をくり返すと、モーターのオーバーヒート防止のために作動制限することがあります。その場合は操作を控えてください。しばらくするともとの状態にもどります。

■ リヤドアガラスのサイドサンシェードについて

- サイドサンシェードが閉まっているときにリヤドアガラスを開けると、サイドサンシェードも開きます。

● リヤドアガラスが開いているときにサイドサンシェードを操作しても、ブザーが鳴りサイドサンシェードは作動しません。

■ サイドサンシェードが正常に開閉しないとき

サイドサンシェードを開閉することができないときは、開閉できないサイドサンシェードのスイッチで、次の操作をおこなってください。

- 1 エンジンスイッチを ON にする。
- 2 スイッチの開ける側を押し続け、サイドサンシェードを全開にする。
全開にならない場合は停止した位置で次の手順に進んでください。
- 3 いったんスイッチから手を離して、再度スイッチの開ける側を約 10 秒以上押し続ける。
- 4 いったんスイッチから手を離して、再度スイッチの開ける側を約 1 秒以上押し続ける。
サイドサンシェードが全開位置以外で停止している場合は、サイドサンシェードが全開になります。全開にしたあと、さらにスイッチを約 1 秒以上押し続けてください。
- 5 スイッチの閉める側を押し続け、サイドサンシェードを全閉にしたあと、さらにスイッチを約 1 秒以上押し続ける。

途中でスイッチから手をはなすと、最初からやり直しとなります。

以上の操作をおこなっても正常に作動しない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

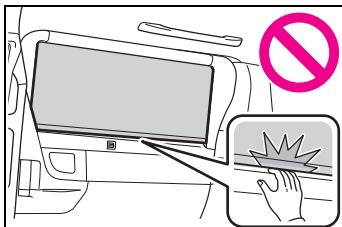
▲ 警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 警告

■ サイドサンシェードを開閉するとき

- サイドサンシェードを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首を挟んだり巻き込んだりしないように注意してください。



- お子さまには、サイドサンシェードの操作をさせないでください。
サイドサンシェードに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

■ サイドサンシェードの挟み込み防止機能

- 挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、サイドサンシェードが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

■ サイドサンシェード作動中は

サイドサンシェードが作動しているとき、サイドサンシェードの留め金部分や溝に指を置かないでください。

巻き込まれてけがをするおそれがあります。

⚠ 注意

■ 正常に機能させるために

次のことをお守りください。

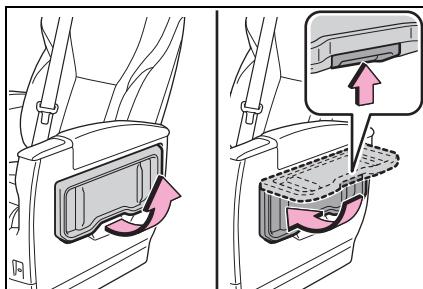
- サイドサンシェードのモーターや他の部分に負荷をかけすぎない
- 開閉のさまたげになる部分にもの置かない
- サイドサンシェードにものを貼らない
- 溝をきれいに保つ
- 長時間サイドサンシェードの操作を続けない

サイドテーブル

サイドテーブルを引き起こす

サイドテーブルがロックしていることを確認してください。

格納するときは、レバーを上に引いてテーブルを押します。



⚠ 警告

■ サイドテーブルについて

サイドテーブルを使用するときは次の警告をお守りください。

お守りいただかないと事故や急ブレーキの際に傷害につながるおそれがあり危険です。

- サイドテーブルの上に乗ったり、重いものをのせないでください。
- 使用しないときは、けがをしないように、必ずもとの位置にもどしてください。

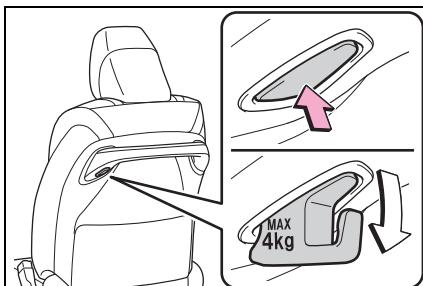
⚠ 注意

■ サイドテーブルの損傷を防ぐために

テーブルの破損を防ぐために、重いものをのせないでください。

買い物フック

フックを引き起こす



⚠ 警告

■ 買い物フックを使用しないときは

使用しないときは、けがをしないように、必ずもとの位置にもどしておいてください。

⚠ 注意

■ 買い物フックの損傷を防ぐために

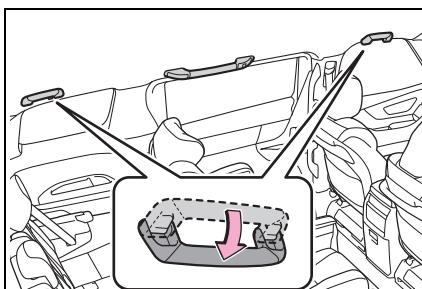
買い物フックの破損を防ぐために、4kg以上のものをフックに吊り下げないでください。

フックが折れたり、走行中にはずれたりするおそれがあります。

アシストグリップを使うには

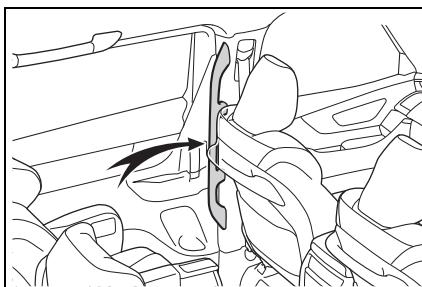
■ タイプ A

天井に取り付けられているアシストグリップは、走行中にシートに座っている状態で体を支えるときにお使いください。



■ タイプ B

乗降時などでは、ピラーに取り付けられているアシストグリップをお使いください。



⚠ 警告

■ アシストグリップについて（タイプA）

アシストグリップは、乗降時やシートから立ち上がるときなどに使用しないでください。

⚠ 注意

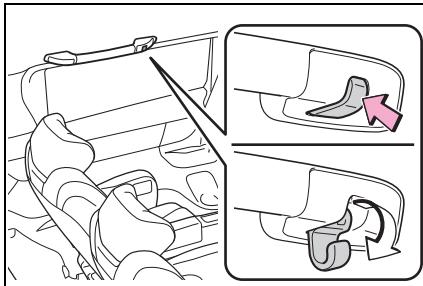
■ アシストグリップの破損を防ぐために

破損を防ぐために、アシストグリップに重いものをかけたり、過度の負荷をかけないでください。

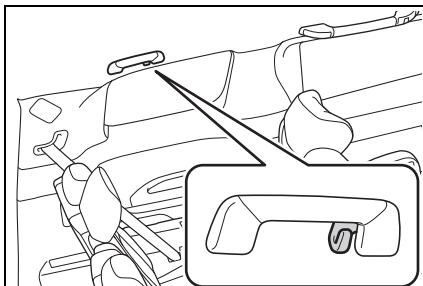
コートフック

コートフックは、アシストグリップに付いています。

■ リヤサイドパネル



■ リヤクォーターパネル



⚠ 警告

■ コートフックへかけてはいけないもの

ハンガーや他の硬いもの、鋭利なものをかけないでください。
SRS カーテンシールドエアバッグがふくらんだときにそれらのものが飛び、重大な傷害または死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■ コートフックの破損を防ぐために

- コートフックに重いものをかけたり、過度の負荷をかけないでください。
- リヤサイドパネルにあるコートフックを使用するときは、スライドドアを開閉する際にドアへ引っかからないように注意してください。

お手入れのしかた

6

6-1. お手入れのしかた

外装の手入れ	412
内装の手入れ	416

6-2. 簡単な点検・部品交換

ボンネット	419
ガレージジャッキ	421
ウォッシャー液の補充	422
タイヤについて	423
タイヤ空気圧について	425
エアコンフィルターの交換	426
電子キーの電池交換	428
ヒューズの点検・交換	430
外装のランプの交換	432

外装の手入れ

お手入れは、部位や素材にあつた適切な方法で実施してください。

手入れの作業要領

- 水を十分かけながら車体・足まわり・下まわりの順番に上から下へ汚れを洗い落とす
- 車体はスポンジやセーム皮のようなやわらかいもので洗う
- 汚れがひどいときはカーシャンプーを使用し、水で十分洗い流す
- 水をふき取る
- 水のはじきが悪くなったときは、ワックスがけを行う

ボデーの表面の汚れを落としても水が玉状にならないときは、車体の温度が冷えているときにワックスをかける（およそ体温以下を目安としてください）

なお、ボデーコート・ホイールコート・ガラスコートなど、トヨタケミカル商品を施工された場合は、お手入れ方法が異なります。

詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

知識

■セルフリストアリングコートについて

お車のボデーには、洗車などによる小さなすり傷を自然に復元する、傷付きにくい塗装を使用しています。

● 新車時から5～8年のあいだ、効果が持続します。

● 傷が復元するまでの時間は、傷の深さや周囲の温度により変化します。なお、お湯をかけて塗装を温めると、復元するまでの時間が短くなる場合があります。

● 鍵や硬貨などによる深い傷は復元できません。

● 成分にコンパウンド（磨き粉）が含まれるワックス類は使用しないでください。

■自動洗車機を使うとき

- お車を洗う前に：
 - ・ ドアミラーを格納する
 - ・ パワースライドドアを停止する
(→P.100)
 - ・ パワーバックドアを停止する
(→P.116)

車両前側から洗車してください。また、走行前は必ずドアミラーを復帰状態にもどしてください。

● ブラシで車体などに傷が付き、塗装を損なうことがあります。

● 洗車機によっては、リヤスピailerが引っかかり洗車できない場合や傷付いたり、破損したりするおそれがあります。

● Nポジションに保持したままにする必要があるときは、P.179を参照してください。

● パーキングブレーキの解除が必要なときは、ブレーキホールドシステムをOFFにしてパーキングブレーキを解除し、Nポジションを保持したままエンジンスイッチをACCにしてください。
(→P.181)

■高压洗浄機を使うとき

室内に水が入るおそれがあるため、ノズルの先端をドアやガラスの開閉部に近付けすぎたり、同じ場所に連続してあてたりしないでください。

■スマートエントリー＆スタートシステムについて

電子キーを携帯して洗車などで水をドアハンドルにかけた場合、施錠・解錠動作をくり返すことがあります。その場合は次のような処置をして、洗車などをしてください。

- 電子キーを車両から2m以上離れた場所に保管する
(電子キーの盗難に注意してください)
- 電子キーを節電モードに設定し、スマートエントリー＆スタートシステムの作動を停止する(→P.118)

■ホイール・ホイールキャップについて

- 中性洗剤を使用し、早めに汚れを落としてください。
- 洗剤を使用したあとは放置せずに水で十分洗い流してください。
- 塗装の損傷を防ぐため、次のことを必ずお守りください。
 - ・酸性・アルカリ性および研磨剤の入った洗剤を使用しない
 - ・硬いブラシを使用しない
 - ・夏場の走行後や駐車後でホイールが熱いときは、洗剤を使用しない

■ブレーキパッドやディスクローターについて

水にぬれた状態のまま駐車しておくと、錆びて貼り付くことがあります。洗車後は低速で走行し、ブレーキを数回かけて乾燥させてから駐車してください。

■バンパーについて

研磨剤入りの洗剤でこすらないようにしてください。

■フロントドアガラスの撥水コーティングについて

撥水効果を長持ちさせるため、次のことに注意してください。

- フロントドアガラス表面の泥などの汚

れを落とす

- 汚れは早めにやわらかい湿った布などで清掃する
- コンパウンド（磨き粉）が入ったガラスクリーナーやワックスを使用しない
- 金属製の道具で霜取りをしない

■メッキ部分のお手入れについて

メッキ部分の汚れが落ちにくい場合は、次の方法でお手入れをしてください。

- 中性洗剤を水で約5%にうすめてやわらかい布に含ませふき取る
- 乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取る
- 油分を含んだ汚れはアルコール系ウェットティッシュなどで油を浮かせてからふき取る

警告

■洗車をするとき

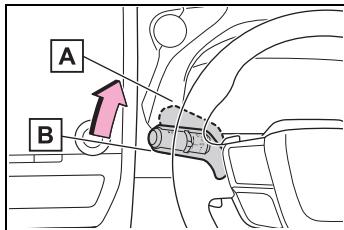
エンジンルーム内に水をかけないでください。電気部品などに水がかかると、車両火災につながるおそれがあり危険です。

⚠ 警告

■ フロントウインドウガラスを清掃するとき

ワイパー・スイッチを OFF にしてください。

AUTO モードになっていると、次のようなときにワイパーが不意に作動し、指などを挟み重大な傷害を受けたり、ワイパー・ブレードなどを損傷するおそれがあります。



A OFF

B AUTO

- 雨滴センサー上部のフロントウインドウガラスに手でふれたとき
- 水分を含んだ布などを雨滴センサーに近付けたとき
- フロントウインドウガラスに衝撃を与えたとき
- 車内から雨滴センサー本体にふれるなどして衝撃を与えたとき

■ 排気管について

排気管は排気ガスにより高温になります。洗車などでふれる場合は、十分に排気管が冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。

■ リヤバンパー・フロントバンパーについて

リヤバンパーまたはフロントバンパーの塗装に傷がつくと、次のシステムが正常に作動しなくなるおそれがあります。トヨタ販売店にご相談ください。

- Toyota Safety Sense
- BSM
- 安心降車アシスト
- クリアランスソナー
- RCTA
- FCTA
- PKSB
- 後方車両接近告知
- 周辺車両接近時サポート
- 後方車両への接近通報
- セカンダリーコリジョンブレーキ
(停車中後突対応)

⚠ 注意

■ 塗装の劣化や車体・部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために

- 次のような場合は、ただちに洗車してください。
 - ・ 海岸地帯を走行したあと
 - ・ 凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
 - ・ コールタール・花粉・樹液・鳥のふん・虫の死がいなどが付着したとき
 - ・ ばい煙・油煙・粉じん・鉄粉・化学物質などの降下が多い場所を走行したあと
 - ・ ほこり・泥などで激しく汚れたとき
 - ・ 塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき

⚠ 注意

● 塗装に傷が付いた場合は、早めに補修してください。

● ホイール保管時は、腐食を防ぐために汚れを落とし、湿気の少ない場所へ保管してください。

■ ランプの清掃

● 注意して洗ってください。有機溶剤や硬いブラシは使用しないでください。

ランプを損傷させるおそれがあります。

● ランプにワックスがけを行わないでください。

レンズを損傷するおそれがあります。

■ 自動洗車機を使用するとき

ワイパー・スイッチを OFF にしてください。

AUTO モードになっていると、不意にワイパーが作動してワイパー・ブレードなどを損傷するおそれがあります。

■ 高圧洗浄機を使用するときは

● 洗浄時に高圧洗浄機でカメラやカメラ周辺に直接水をあてないでください。

高い水圧により衝撃が加わり、装置が正常に作動しなくなるおそれがあります。

● エンブレム裏に搭載されているレーダーに直接水をかけないでください。部品故障の原因になるおそれがあります。

● ノズルの先端を、下記部品の結合部やブーツ類（ゴムまたは樹脂製のバー）、コネクタ類に近付けすぎないでください。

高い水圧がかかることにより、部品が損傷するおそれがあります。

・ 駆動系部品

・ ステアリング部品

・ サスペンション部品

・ ブレーキ部品

● モール、バンパーなど樹脂部分は変形、損傷するおそれがあるため、洗浄ノズルと車体との距離を 30cm 以上離してください。また、同じ場所へ連続して水をあてないでください。

● フロントウインドウガラス下部へ連続して水をあてないでください。エアコンの空気取り入れ口があり、エアコンが正常に作動しなくなるおそれがあります。

● 高圧洗浄機で車両の下まわりを洗浄しないでください。

■ ワイパー・アームを起こすときは

必ず運転席側を先に立ててから助手席側を立ててください。また、もとにもどすときは、必ず助手席側から先にもどしてください。

内装の手入れ

お手入れは、部位や素材に合った適切な方法で実施してください。

室内の手入れをするには

- 掃除機などでほこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布でふき取る
- 汚れが落ちない場合は、中性洗剤を水で約1%にうすめてやわらかい布に含ませふき取る
水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤・水分をふき取る



知識

■ カーペットの洗浄について

カーペットは常に乾いた状態を保つことをおすすめします。洗浄には、市販の泡タイプクリーナーがご利用になります。スポンジまたはブラシを使用して泡をカーペットに広げ、円を描くように塗り込んでください。直接水をかけたりせず、ふき取ってから乾燥させてください。

■ シートベルトの取り扱いについて

刺激の少ない洗剤とぬるま湯で、布やスポンジを使って洗ってください。
シートベルトのすり切れ・ほつれ・傷などを定期的に点検してください。

■ スーパーUVカットガラスについて

- ドアガラスが汚れているときは、早めに水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいて清掃してください。
- ドアガラスの汚れがひどいときは、ドアガラスの開閉をくり返さないでください。

■ デジタルインナーミラーのお手入れについて

→P.142



警告

■ 車両への水の浸入

- 車内に水をかけたり液体をこぼしたりしないでください。

電気部品などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。

- SRSエアバッグの構成部品や電気配線をぬらさないでください。
(→P.34)

電気の不具合により、SRSエアバッグが作動したり、正常に機能しなくなり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ワイヤレス充電器（おくだけ充電）
(→P.396) をぬらさないでください。

発熱によるやけど、または感電により重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 内装の手入れをするときは（特にインストルメントパネル）

艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウインドウガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ シート周辺の注意

車内を清掃するときや、シートの下に落としたものを拾うときなど、シートの下に手を入れるときは十分注意してください。シートレール、シートの土台部分などにあたり、けがをするおそれがあります。

注意

■清掃するとき使用する溶剤について

- 変色・しみ・塗装はがれの原因になるため、次の溶剤は使用しないでください。

- ・シート・デジタルインナーミラー・ハンドル以外の部分：ベンジン・ガソリンなどの有機溶剤や酸性またはアルカリ性の溶剤・染色剤・漂白剤
- ・シート・デジタルインナーミラー・シンナー・ベンジン・アルコール・その他の酸性やアルカリ性の溶剤
- ・ハンドル：シンナーなどの有機溶剤、アルコール類を含むクリーナー

- 艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルやその他内装の塗装のはがれ・溶解・変形の原因になるおそれがあります。

■床に水がかかると

水で洗わないでください。

オーディオやフロアカーペット下にある電気部品に水がかかると、車の故障の原因になったり、ボーテが錆びるおそれがあります。

■フロントウインドウガラスの内側を掃除するときは

前方カメラのレンズに、ガラスクリーナーが付着しないようにしてください。また、レンズにはふれないでください。
(→P.208)

■リヤウインドウガラス／リヤクォーターガラスの内側を掃除するときは

- 熱線やアンテナを損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、熱線やアンテナにそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいてください。

- 熱線やアンテナを引っかいたり、損傷させないように気を付けてください。

■スーパーUVカットガラスを清掃するとき

ドアガラスを清掃するときは、コンパウンドまたは研磨剤入り用品（ガラスクリーナー・洗剤・ワックスなど）を使用しないでください。コーティングを損傷させるおそれがあります。

本革部分の手入れをするには

- 掃除機などでほこりや砂を取り除く
- うすめた洗剤をやわらかい布に含ませ、汚れをふき取る
ウール用の中性洗剤を水で約5%にうすめて使用してください。
- 水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤をふき取る
- 乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取り、風通しのよい日陰で乾燥させる

知識

■本革部分のお手入れの目安

品質を長く保つため、年に2回程度の定期的なお手入れをおすすめします。

注意

■革の傷みを避けるために

皮革の表面の劣化や損傷を避けるために、次のことをお守りください。

- 革に付着したほこりや砂はすぐに取り除く

 注意

- 直射日光に長時間さらさないようにする
特に夏場は日陰で車を保管する
- ビニール製・プラスチック製・ワックス含有のものは、車内が高温になると革に張り付くおそれがあるため、革張りの上に置かない

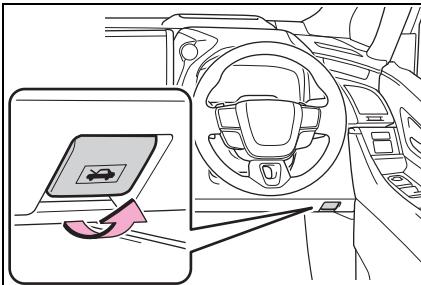
合成皮革部分の手入れをするには

- 掃除機などでほこりを取り除く
- 中性洗剤を水で約1%にうすめてやわらかい布に含ませふき取る
- 水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤・水分をふき取る

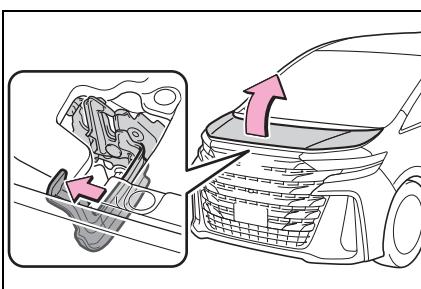
ボンネット

ボンネットを開けるには

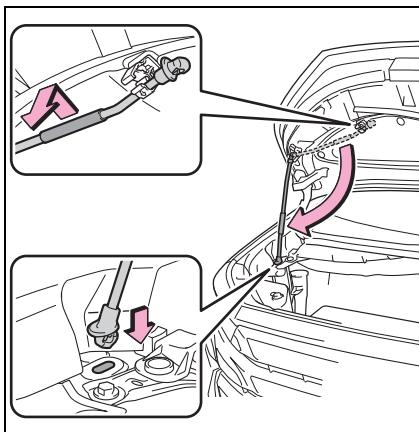
- ボンネット解除レバーを引く
ボンネットが少し浮き上がります。



- レバーを引いてボンネットを開ける



- ボンネットステーをステー穴に挿し込む



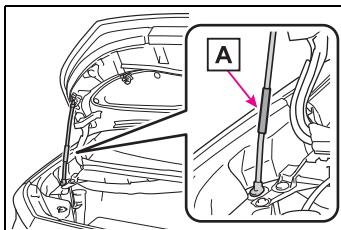
ボンネットを閉めるには

- ボンネットを支えながら、ボンネットステーをはずしてホルダーに格納する
- 車体から約 20cm の高さまで、ボンネットをゆっくりおろす
- ボンネットを落として閉め、ロックされていることを確認する

□ 知識

■ ボンネットを開くとき

ボンネットステーは樹脂部分を持って取り扱ってください。また、走行直後にボンネットを開ける必要がある場合は、ボンネットステーが熱くなっていることがあるため、金属部分にふれないよう、特に注意してください。



A 樹脂部分

⚠ 警告

■ ボンネットを開けたときは

エンジンスイッチをOFFにしても、しばらくのあいだ冷却ファンが作動する場合があります。冷却ファンが回転しているときはエンジンルーム内にふれたり、近付いたりしないでください。

■ 走行前の確認

ボンネットがしっかりとロックされていることを確認してください。

ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開いて、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ けがを防ぐために

走行後のエンジンルーム内は高温になっています。熱くなった部品にさわるとやけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。

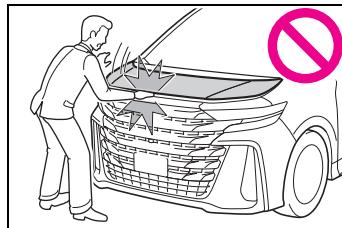
■ エンジンルーム点検後の確認

エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れていると、故障の原因になったり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

■ ボンネットを閉めるとき

手などを挟まないように注意してください。

重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



■ ボンネットステーをステー穴に挿し込んだあとは

ボンネットが頭や体の上に落ちてこないように、正しく挿し込まれているか確認してください。

⚠ 注意

■ ボンネットへの損傷を防ぐために

ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。ボンネットがへこむおそれがあります。

閉め方：→P.419

■ ボンネットを閉めるときは

ボンネットステーをステー穴から取りはずし、クリップに正しくもどしてください。ステーを正しくもどさない状態でボンネットを閉めると、ボンネットやステーが損傷するおそれがあります。

ガレージジャッキ

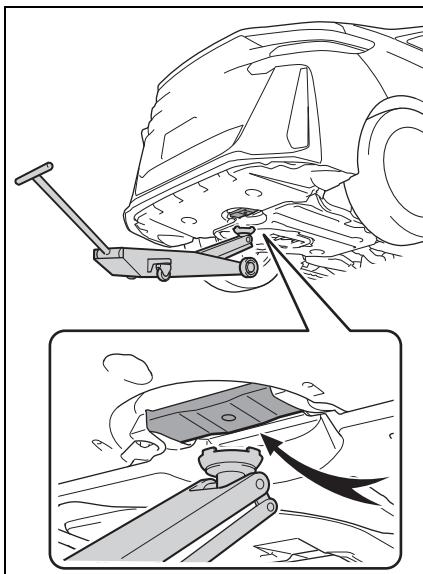
ガレージジャッキを使用するときは、ガレージジャッキに付属の取扱説明書に従って、安全に作業してください。

ガレージジャッキを使用して車両を持ち上げるときは、正しい位置にガレージジャッキをセットしてください。

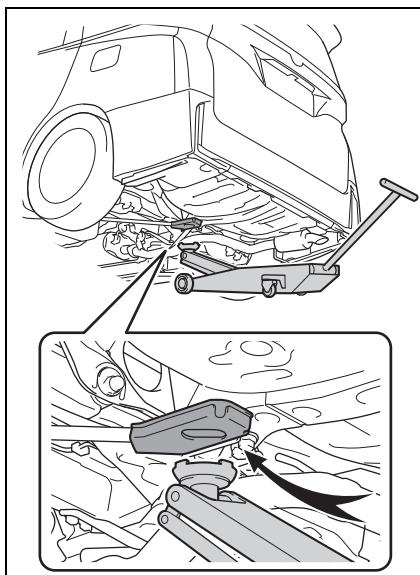
正しい位置にセットしないと、車両が損傷したり、けがをすることがあります。

ジャッキポイントの位置を確認する

■ フロント側



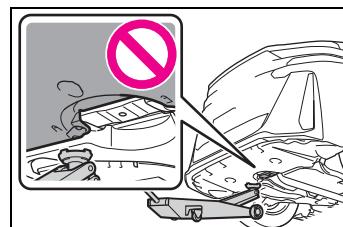
■ リヤ側



注意

■ 車両の前側をジャッキアップするときは

ジャッキの受け皿が車両下部の樹脂リバーにかかっていないことを確認してください。樹脂リバーにジャッキがかかるたま状態でジャッキアップすると、フロントサスペンションの部品が損傷することがあります。

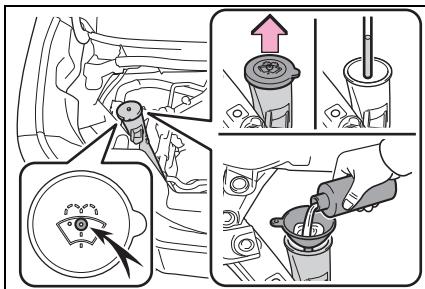


ウォッシャー液の補充

補充をするには

ウォッシャー液が減っているときは、ウォッシャー液を補充してください。

キャップの中央部を指で押さえたまま、まっすぐ引き上げると、ウォッシャー液量を確認することができます。



警告

■ ウォッシャー液を補充するとき

エンジンが熱いときやエンジンがかかっているときは、ウォッシャー液を補充しないでください。

ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、エンジンなどにかかると出火するおそれがあり危険です。



注意

■ ウォッシャー液について

ウォッシャー液のかわりに、せっけん水やエンジン不凍液などを入れないでください。塗装にしみが付くことや、ポンプが故障してウォッシャー液が出なくなるおそれがあります。

■ ウォッシャー液のうすめ方

必要に応じて水でうすめてください。水とウォッシャー液の割合は、ウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にしてください。

タイヤについて

タイヤの点検は、法律で義務付けられています。日常点検として必ずタイヤを点検してください。

タイヤの摩耗を均等にし寿命をのばすために、タイヤローション（タイヤ位置交換）を5,000kmごとに行ってください。

タイヤの点検項目

タイヤは次の項目を点検してください。

点検方法は別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

● タイヤ空気圧

空気圧の点検は、タイヤが冷えているときに行ってください。

- タイヤの亀裂・損傷の有無
- タイヤの溝の深さ
- タイヤの異常摩耗（極端にタイヤの片側のみが摩耗していたり、摩耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど）の有無

□ 知識

■ タイヤ空気圧の数値

► 225/65R17 102H

前輪：230kPa (2.3kg/cm²) *

後輪：230kPa (2.3kg/cm²) *

► 225/55R19 103H XL

前輪：260kPa (2.6kg/cm²) *

後輪：260kPa (2.6kg/cm²) *

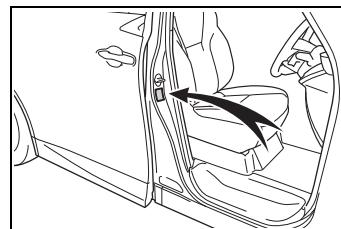
▶ 応急用タイヤ★

前輪：420kPa (4.2kg/cm²) *

タイヤの指定空気圧は、運転席側のタイヤ空気圧ラベルで確認することができます。

* タイヤが冷えているときの空気圧

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



■ タイヤ関連の部品を交換するとき

タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットを交換するときは、トヨタ販売店にご相談ください。

■ 応急用タイヤについて（応急用タイヤ装着車）

応急用タイヤは指定の場所（→P.469）に搭載し、留め具をしっかりと締め付けて、確実に固定してください。応急用タイヤの留め具がゆるんでいると、走行中に異音が発生することがあります。

⚠ 警告

■ 点検・交換時の警告

必ず次のことをお守りください。

お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 工場出荷時に設定されているサイズ以外のタイヤは使用しない

次のようなおそれがあります。

⚠ 警告

- ・ハンドルを回った際に、タイヤと車体が干渉する
- ・最低地上高が確保できない
- ・操縦安定性の悪化による横転事故
- ・ABS／VSC が正しく作動しない
- タイヤはすべて同一メーカー・同一銘柄・同一トレッドパターンで、摩耗差のないタイヤを使用する
- メーカー指定サイズ以外のタイヤやホイールを使用しない
- ラジアルタイヤ・バイアスベルテッドタイヤ・バイアスプライタイヤを混在使用しない
- サマータイヤ・オールシーズンタイヤ（マッド＆スノータイヤ）・冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）を混在使用しない
- 他の車両で使用していたタイヤを使用しない

以前どのように使用されていたか不明のタイヤは使用しない

■異常があるタイヤの使用禁止

異常があるタイヤをそのまま装着していると、走行時にハンドルをとられたり、異常な振動を感じることがあります。また、次のような事態になり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 破裂などの修理できない損傷を与える
- 車両が横すべりする
- 車両の本来の性能（燃費・車両の安定性・制動距離など）が発揮されない

■異常があるホイールの使用禁止

亀裂や変形などがあるホイールは使用しないでください。走行中にタイヤの空気が抜けて、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■走行中に空気もれが起こったら

走行を続けないでください。タイヤまたはホイールが損傷することがあります。

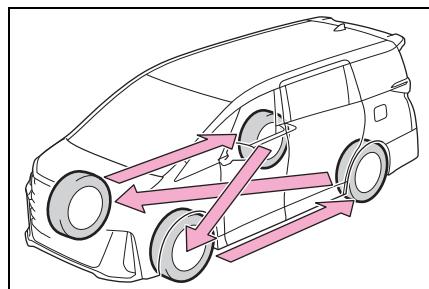
■悪路走行に対する注意

段差や凹凸のある路上を走行するときは注意してください。タイヤの空気が抜けて、タイヤのクッション作用が低下します。また、タイヤ・ホイール・車体などの部品も損傷するおそれがあります。

タイヤローテーションをするには

図で示すようにタイヤのローテーションを行います。

タイヤの摩耗状態を均一にし、寿命をのばすために、トヨタは定期点検ごとのタイヤローテーションをおおすすめします。



タイヤ空気圧について

タイヤの空気圧を適正に維持するため、タイヤの空気圧点検を月に1回以上実施してください。

□ 知識

■ タイヤ空気圧が適正でない場合

適切に調整されていないタイヤ空気圧で走行すると、次のようなことが起こる場合があります。

- 燃費の悪化
- 乗り心地や操縦安定性の低下
- 摩耗によるタイヤ寿命の低下
- 安全性の低下

ひんぱんにタイヤ空気圧が低下する場合は、トヨタ販売店でタイヤの点検を受けてください。

■ タイヤ空気圧の点検のしかた

タイヤ空気圧の点検の際は、次のことをお守りください。

- タイヤが冷えているときに点検する
- タイヤ空気圧ゲージを必ず使用する
タイヤの外観だけでは空気圧が適正かどうか判断できません。
- 走行後はタイヤの発熱により空気圧が高くなります。異常ではありませんので減圧しないでください。
- 荷物を積んだり、多人数で乗車するときは荷重を不均等にかけないようにする

⚠ 警告

■ タイヤの性能を発揮するために

適正なタイヤ空気圧を維持してください。

タイヤ空気圧が適正に保たれていないと、次のようなことが起こるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 過度の摩耗
- 偏摩耗
- 操縦安定性の低下
- タイヤの過熱による破裂
- タイヤとホイールのあいだから空気もれ
- ホイールの変形、タイヤの損傷
- 走行時にタイヤが損傷する可能性の増大
(路上障害物、道路のつなぎ目や段差など)

⚠ 注意

■ タイヤ空気圧の点検・調整をしたあとは

タイヤのバルブキャップを確実に取り付けてください。

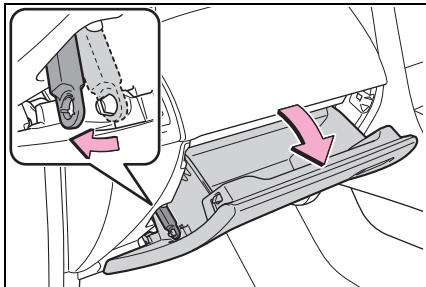
バルブキャップをはずしていると、ほこりや水分がバルブに入り空気がもれ、タイヤの空気圧が低下するおそれがあります。

エアコンフィルターの交換

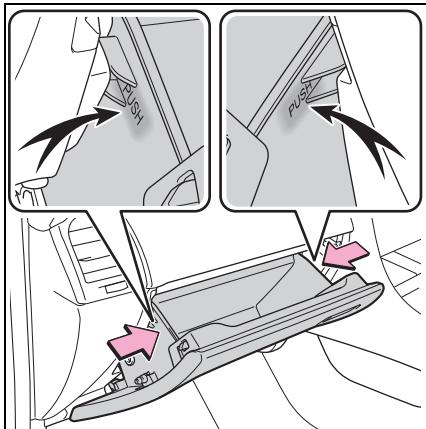
エアコンを快適にお使いいただくために、エアコンフィルターを定期的に交換してください。

交換するには

- 1 エンジンスイッチを OFF にする
- 2 グローブボックスを開き、ダンパーステーのピンをはずす

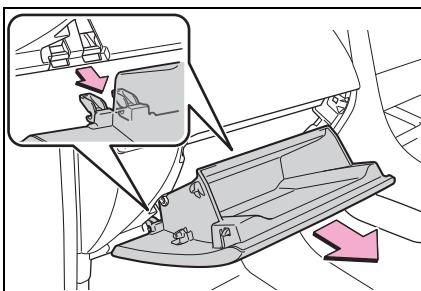


- 3 グローブボックス側面を内側に押して上部のツメを片側ずつはずし、グローブボックスを支えながらゆっくりと全開させる

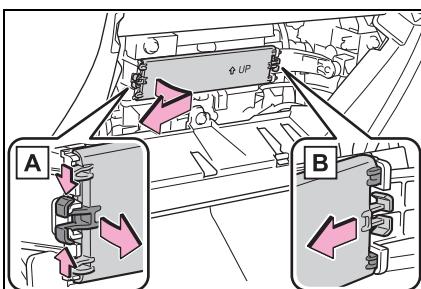


- 4 グローブボックスがいっぱいまで開いた状態から、少しだけ持ち上げた位置で手前に引き、グローブボックス下部の結合部をはずす

軽く引いても結合部がはずれない場合は、無理に引っ張らず、持ち上げる量を微調整しながら手前に引いてください。



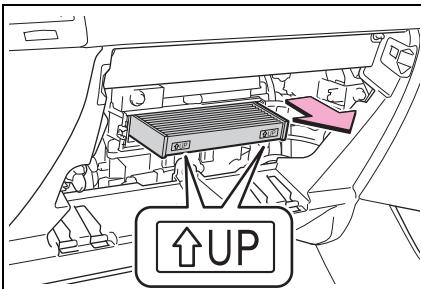
- 5 フィルターカバーのロックをはずし (A)、ツメからフィルターカバーを抜き (B)、フィルターカバーを取りはずす



- 6 フィルターケースからフィルターを取りはずし、新しいフィルターと交換する

「↑ UP」マークの矢印が上を向くよう

に取り付けます。



7 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

知識

■エアコンフィルターの交換について

エアコンフィルターは下記の時期を目安に交換してください。

15000km[7500km^{*1}]ごと、ただし
12ヶ月をこえないこと^{*2}

^{*1}大都市や寒冷地など、交通量や粉じん
の多い地区

^{*2}芳香剤などの使用により脱臭寿命が著
しく低下する場合があります。エアコ
ンの臭いが気になりだしたらフィル
ターを交換してください。

■エアコンの風量が減少したときは

フィルターの目詰まりが考えられます
ので、フィルターを交換してください。



■エアコンを使用するときの注意

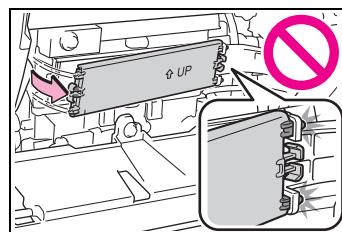
- フィルターを装着せずにエアコンを
使用すると、故障の原因になること
があります。必ずフィルターを装着
してください。
- フィルターは、交換するタイプです。
水洗いやエアブローによる清掃はし
ないでください。

■グローブボックスを取りはずすとき

必ず指定の手順（→P.426）に従って
取りはずしてください。正しい方法で
取りはずさないと、グローブボックス
下部の結合部が破損するおそれがあり
ます。

■フィルターカバーの破損を防ぐため に

フィルターカバーのロックをはずすと
きに、フィルターカバーを矢印の方向
に動かす際は、ツメに無理な力がかかる
ないように注意してください。ツメが
破損するおそれがあります。



電子キーの電池交換

電池が消耗しているときは、新しい電池に交換してください。

□ 知識

- 電子キーの電池が消耗していると
次のような状態になります。
- スマートエントリー＆スタートシステム・ワイヤレス機能が作動しない
- 作動距離が短くなる

事前に準備するもの

電池交換をするには、次のものを準備してください。

- マイナスドライバー
- 小さいマイナスドライバー
- リチウム電池：CR2450

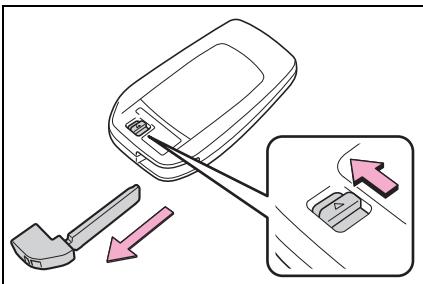
□ 知識

■ リチウム電池 CR2450 の入手

電池はトヨタ販売店・時計店およびカメラ店などで購入できます。

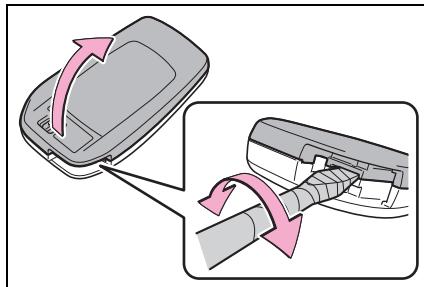
電池を交換するには

- 1 ロックを解除してメカニカルキーを抜く



2 カバーをはずす

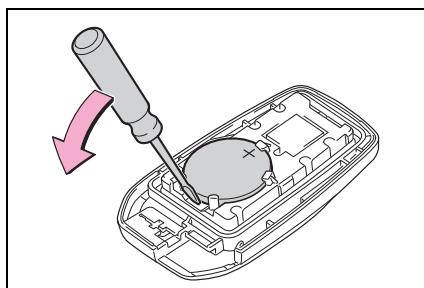
傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



3 消耗した電池を取り出す

カバーをはずしたときに、上側のカバーに電子キーのモジュールが貼り付き、電池面が隠れている場合があります。この場合、電子キーのモジュールをひっくり返し、図のように電池が見える状態で作業してください。

新しい電池は、+極を上にして取り付けます。



- 4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

⚠ 警告

■ 電子キーの電池について

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

- 誤って電池を飲み込まないように注意してください。化学熱傷のおそれがあります。
- 電子キーにはコイン電池もしくはボタン電池が使われています。電池を飲み込むと、わずか2時間で重度の化学熱傷を引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 新しい電池および取りはずした電池は、お子さまにさわらせないでください。
- カバーがしっかり閉まらない場合はそのまま使用せず、お子さまの手の届かない場所に保管し、トヨタ販売店で点検を受けてください。
- 誤って電池を飲み込んだ、または体の一部に入れてしまった場合は、すぐに医師の診察を受けてください。
- 電池の爆発や可燃性の液体またはガスの漏れを防ぐために**
- 同じタイプの電池と交換してください。異なったタイプの電池を使用すると、電池が爆発するおそれがあります。
- 極端に温度の高いところや、高度が高く極端に気圧が低いところに電池を持ち込まないでください。
- 電池を燃やしたり、つぶしたり、切ったりしないでください。

■交換後、正常に機能させるために

次のことを必ずお守りください。

- ぬれた手で電池を交換しない
錆の原因になります。
- 電池以外の部品に、ふれたり動かしたりしない
- 電極を曲げない

注意

■電池を交換するときは

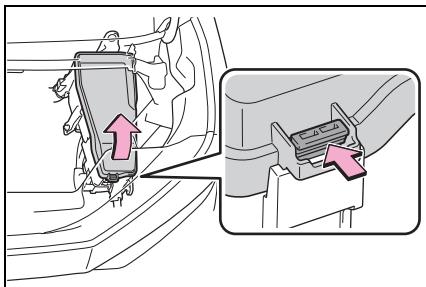
適切なサイズのマイナスドライバーを使用してください。無理な力がかかると、カバーが変形したり破損したりするおそれがあります。

ヒューズの点検・交換

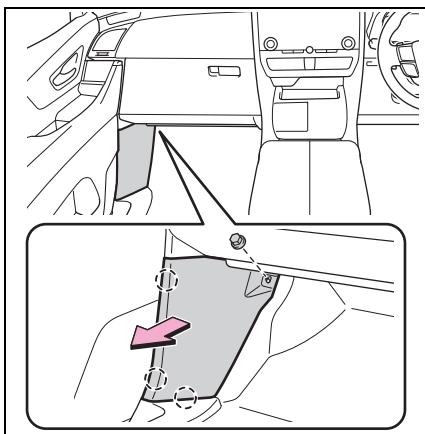
ランプがつかないときや電気系統の装置が動かないときは、ヒューズ切れが考えられます。ヒューズの点検を行ってください。

ヒューズの点検・交換をするには

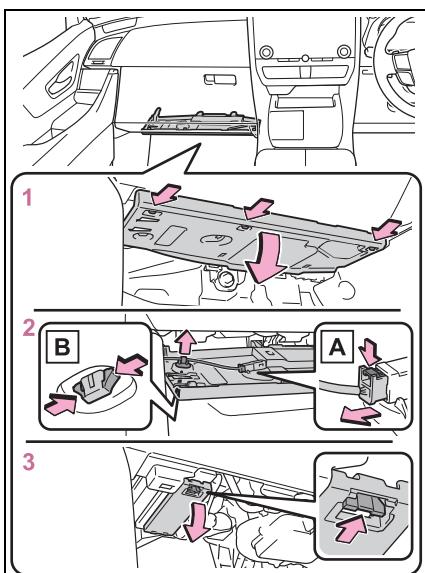
- 1 エンジンスイッチを OFF にする
- 2 ヒューズボックスを開ける
 - ▶ エンジルーム
ツメを押しながら、カバーを持ち上げます。



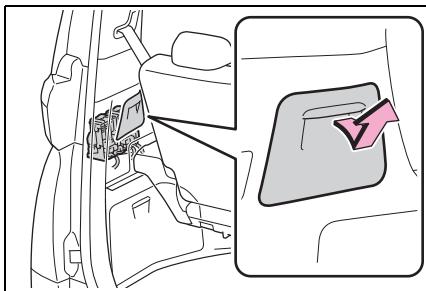
- ▶ 助手席足元（インストルメントパネル）
ナットを取りはずし、カウルサイドパネルを取りはずします。



足元のカバーを取りはずします。

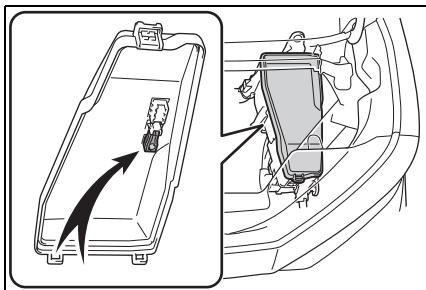


- 1 ツメを押してアンダーカバーを取りはずします。
 - 2 ツメを押してコネクター **A** と固定部 **B** を取りはずします。
 - 3 ツメを押してロックをはずし、カバーを取りはずします。
- ▶ ラゲージルーム内
カバーを取りはずします。



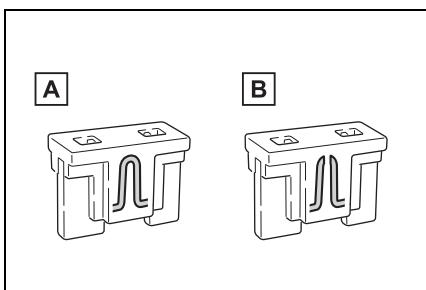
3 ヒューズを引き抜く

ヒューズはずしでヒューズを引き抜くことができます。



4 ヒューズが切れていないか点検する

ヒューズボックスの表示に従い、規定容量のヒューズに交換します。



A 正常

B ヒューズ切れ

知識

■ヒューズを交換したあとは

- カバーを取り付けるときは、ツメをしっかりと取り付けてください。
- 交換してもランプ類が点灯しないときは、ランプを交換してください。
(→P.432)
- 交換しても再度ヒューズが切れる場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■バッテリーからの回路に過剰な負荷がかかると

配線が損傷を受ける前にヒューズが切れるように設計されています。

■ランプなどの電装部品を交換するとき

この車両に指定されているトヨタ純正品のご使用をおすすめします。一部の電装部品は過電流を防止する専用回路に接続されているため、この車両指定のトヨタ純正品以外は使用できない場合があります。

警告

■車の故障や、車両火災を防ぐために

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

- 規定容量以外のヒューズ、またはヒューズ以外のものを使用しないでください。
- 必ずトヨタ純正ヒューズか同等品を使用してください。
- ヒューズやヒューズボックスを改造しないでください。

 注意

■ヒューズを交換する前に

ヒューズが切れた原因が電気の過剰負荷だと判明したときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

外装のランプの交換

外装のランプが点灯しないときは、トヨタ販売店で交換してください。

 知識

■LED ランプについて

すべてのランプは、数個の LED で構成されています。もし LED がひとつでも点灯しないときは、トヨタ販売店で交換してください。

■レンズ内の水滴と曇り

レンズ内の一時的な曇りは、機能上問題ありません。ただし、次のようなときは、トヨタ販売店にご相談ください。

- レンズ内側に大粒の水滴が付いている
- ランプ内に水がたまっている

■ランプなどの電装部品を交換するとき

→P.431

7-1. まず初めに

故障したときは	434
非常点滅灯（ハザードランプ）.....	435
発炎筒.....	435
車両を緊急停止するには.....	436
水没・冠水したときは.....	437
車中泊が必要なときは.....	438

7-2. 緊急時の対処法

けん引について	439
フューエルポンプシャットオフシス テム	444
警告灯がついたときは.....	445
警告メッセージが表示されたときは	451
パンクしたときは（タイヤパンク応 急修理キット装着車）.....	458
パンクしたときは（応急用タイヤ装 着車）.....	468
エンジンがかからないときは ..	476
キーをなくしたときは.....	477
電子キーが正常に働かないときは	478
バッテリーがあがったときは ..	480
オーバーヒートしたときは ..	483
スタックしたときは.....	486

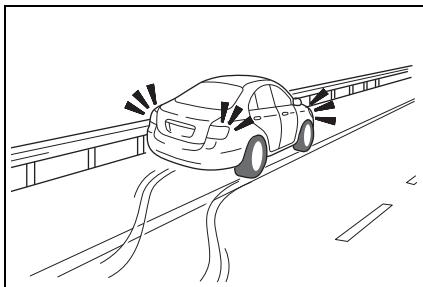
故障したときは

故障のときはすみやかに次の指示に従ってください。

対処のしかた

- 非常点滅灯（→P.435）を点滅させながら、車を路肩に寄せ停車する

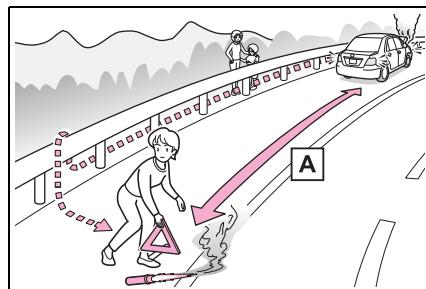
非常点滅灯は、故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。



- 高速道路や自動車専用道路では、次のことに従う

- 1 同乗者を避難させる
- 2 車両の 50m 以上後方 (A) に発炎筒（→P.435）と停止表示板を置くか、停止表示灯を使用する
 - ・ 見通しが悪い場合はさらに後方に置いてください。
 - ・ 発炎筒は、燃料もれの際やトンネル内では使用しないでください。

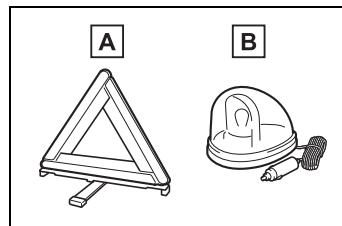
- 3 その後、ガードレールの外側などに避難する



知識

■ 停止表示板・停止表示灯について

- 高速道路や自動車専用道路でやむを得ず駐停車する場合は、停止表示板または停止表示灯の表示が、法律で義務付けられています。



A 停止表示板

B 停止表示灯

- 停止表示板のご購入については、トヨタ販売店にお問い合わせください。

非常点滅灯（ハザードランプ）

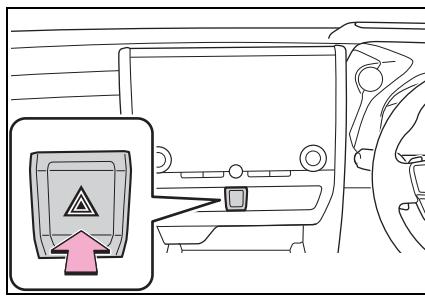
故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるために使用してください。

点滅させるには

スイッチを押す

すべての方向指示灯が点滅します。

もう一度押すと消灯します。



□ 知識

■ 非常点滅灯について

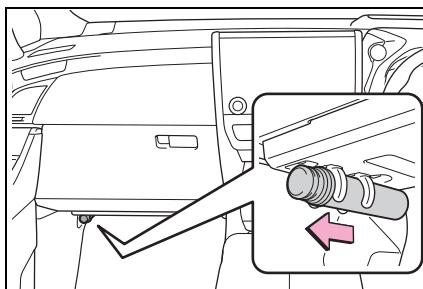
- エンジン停止中に非常点滅灯を長時間使用すると、バッテリーがあがるおそれがあります。
- SRS エアバッグの作動時または後方から強い衝撃を受けたときは、非常点滅灯が自動で点滅します。
非常点滅灯スイッチを 2 回押すか、約 20 分経過すると消灯します。（衝撃の度合いや事故の状況によっては点滅しないことがあります。）

発炎筒

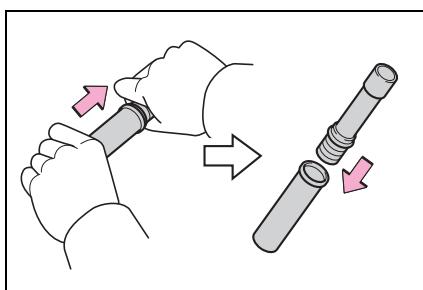
高速道路や踏切などでの故障・事故時に非常信号用として使用します。
(トンネル内や可燃物の近くでは使用しないでください)
発炎時間は約 5 分です。非常点滅灯と併用してください。

発炎筒を使うには

- 1 助手席足元の発炎筒を取り出す



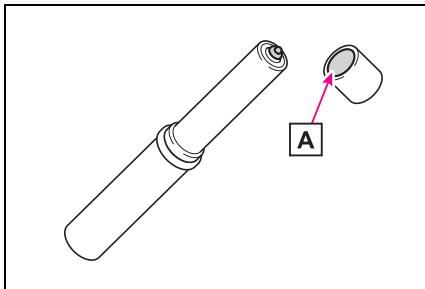
- 2 本体をまわしながら抜き、本体を逆さにして挿し込む



- 3 先端のフタを取り、すり薬 A で発炎筒の先端をこすり、着火させる

必ず車外で使用してください。
着火させる際は、筒先を顔や体に向けな

いでください。



□ 知識

■ 発炎筒の交換について

本体に表示してある有効期限が切れる前に、トヨタ販売店でお求めください。有効期限が切れると、着火しなかったり、炎が小さくなる場合があります。

⚠ 警告

■ 発炎筒を使用してはいけない場所

次の場所では、発炎筒を使用しないでください。

煙で視界が悪くなったり、引火するおそれがあるため危険です。

- トンネル内

- ガソリンなど可燃物の近く

■ 発炎筒の取り扱いについて

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- 使用中は、発炎筒を顔や体に向けたり、近付けたりしない

- 発炎筒は、お子さまにさわらせない

車両を緊急停止するには

万一、車が止まらなくなったときの非常時のみ、手順に従って車を停止させてください。

車を停止するには

1 ブレーキペダルを両足でしっかりと踏み続ける

ブレーキペダルをくり返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。

2 シフトポジションを N にする

▶ シフトポジションが N になった場合

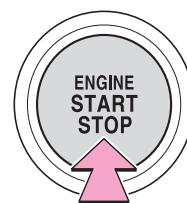
3 減速後、車を安全な道路脇に停める

4 エンジンを停止する

▶ シフトポジションが N にならない場合

3 ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させる

4 エンジンスイッチを 2 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押してエンジンを停止する



5 車を安全な道路脇に停める

知識

■緊急停止したときは

バッテリーの消費電力を抑えるためにエアコンなどの一部機能の作動を制限することがあります。

警告

■走行中にやむを得ずエンジンを停止するとき

走行中にエンジンを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、バッテリーの残量や使用状況によっては、車両が停止する前に操作力補助がなくなり、ハンドルとブレーキの操作が困難になるおそれがあるため、車のコントロールがしにくくなり危険です。エンジンを停止する前に、十分に減速するようにしてください。

水没・冠水したときは

この車両は水深が深い道路を行なうように設計されていません。冠水路または冠水のおそれがある道路は、走行しないでください。車両が水没や漂流することが予想される場合は、車内に留まると危険です。落ち着いて次のように対処してください。

- ドアを開けることができる場合、ドアを開けて車外に出てください。
- ドアを開けることができない場合、パワーウィンドウスイッチでドアガラスを開けて避難経路を確保してください。
- ドアガラスが開けられる場合、窓から車外に出てください。
- 水没によりドアおよびドアガラスを開けることができない場合、落ち着いて車内外の水圧差がなくなるまで車内が浸水するのを待ってからドアを開けて車外に出てください。

車外の水位がドア高さの半分をこえると、水圧で車内からドアを開けることができなくなります。

知識

■水位がフロアをこえると

水位がフロアをこえて時間が経過すると、電気装置が損傷し、パワーウィンドウやパワースライドドアが作動しなくなったり、エンジンが停止し、車が移動できなくなるおそれがあります。

■緊急脱出用ハンマー[※]の使用について

合わせガラスは、緊急脱出用ハンマーで割ることができません。この車両のドアガラスとリヤウインドウガラスに合わせガラスは使用されていません。

* 詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

⚠ 警告**■走行中の警告**

冠水路または冠水のおそれがある道路は、走行しないでください。車両が故障して動かくなり、水没や漂流から死亡につながるおそれがあります。

車中泊が必要なときは**⚠ 警告**

車中泊としてお車をご利用になる場合は、エコノミークラス症候群や熱中症、一酸化炭素中毒などのリスクを伴うため十分注意してください。

- 詳しい注意事項などを以下の URL で確認することができます。

[https://www.toyota.co.jp/jpn/
sustainability/social_contribution/
tdrs/emergency](https://www.toyota.co.jp/jpn/sustainability/social_contribution/tdrs/emergency)



けん引について

けん引は、できるだけトヨタ販売店または専門業者にご依頼ください。その場合は、レッカー車または、車両運搬車を使用することをおすすめします。



■長い下り坂でけん引するときは

レッカー車または、車両運搬車でけん引してください。他車にけん引してもらうと、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

他車によるけん引が不可能な状況

次の場合は、パーキングロックにより前輪が固定されている可能性があるため、他車にロープでけん引してもらうことはできません。トヨタ販売店または専門業者にご依頼ください。

- シフト制御システムに異常があるとき（→P.172, 452）
- エンジンイモビライザーシステムに異常があるとき（→P.57）
- スマートエントリー＆スタートシステムに異常があるとき（→P.478）
- バッテリーがあがったとき（→P.480）

けん引の前に販売店への連絡が必要な状況

次の場合は、駆動系の故障が考えられるため、トヨタ販売店または

専門業者へご連絡ください。

- エンジンはかかるが車が動かない
- 异常な音がする

レッカー車でけん引するとき

- ▶ 前向きにけん引するときは（FF車）



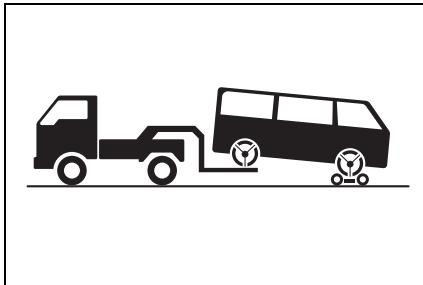
パーキングブレーキを解除する
オートモードを OFFにしてください。
(→P.182)

- ▶ 前向きにけん引するときは（4WD車）



台車を使用して後輪を持ち上げる

▶ うしろ向きにけん引するときは



台車を使用して前輪を持ち上げる

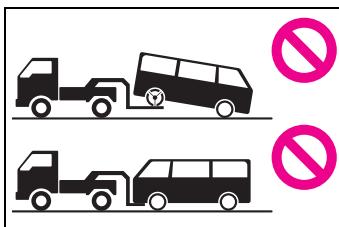
⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ レッカー車でけん引するとき

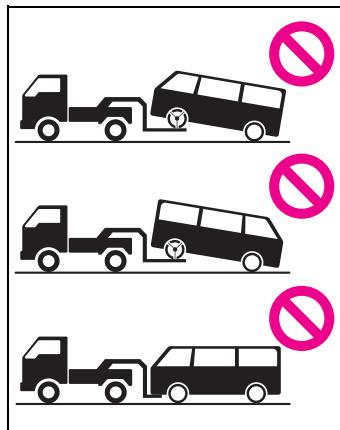
▶ FF 車

必ず前輪を持ち上げるか、4輪とも持ち上げた状態で運搬してください。前輪が地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品が破損するおそれがあります。



▶ 4WD 車

4輪とも持ち上げた状態で運搬してください。タイヤが地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品が破損したり車が台車から飛び出したりするおそれがあります。



⚠ 注意

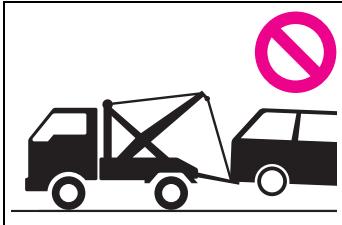
■ Stop & Strat システム装着車をけん引するときは

4輪すべてを接地した状態でけん引が必要な場合は、システム保護のため、けん引される前にいったんエンジンスイッチを OFFにしてから、エンジン始動またはエンジンスイッチを ONにしてください。

⚠ 注意

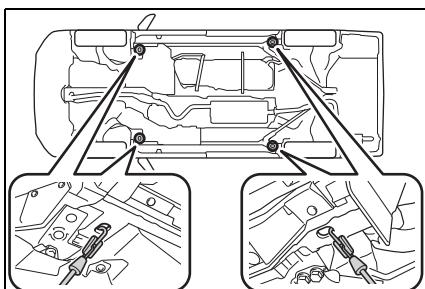
■ レッカーカーでけん引するとき

車両の損傷を防ぐために図のようなレッカーカーではけん引しないでください。

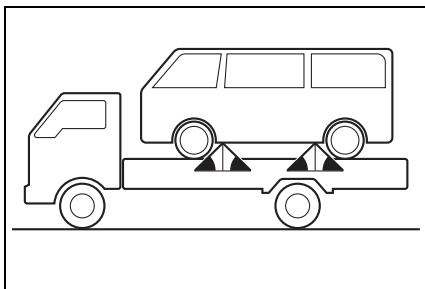


車両運搬車を使用するとき

車両運搬車で輸送するときは、図の場所で固縛する



鎖やケーブルなどを使用して車両を固縛する場合は図に黒く示す角度が45°になるように固縛する



⚠ 注意

■ 車両運搬車に車を固縛するとき

ケーブル等を過度に締め付けすぎないでください。車両の損傷につながるおそれがあります。

他車にけん引してもらうとき

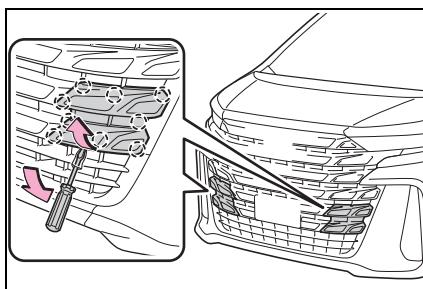
他車にけん引してもらうときは、けん引フックを取り付ける必要があります。手順に従って取り付けてください。

- 1 ラゲージルーム内のホイールナットレンチ★、けん引フックを取り出す（→P.459, 469）

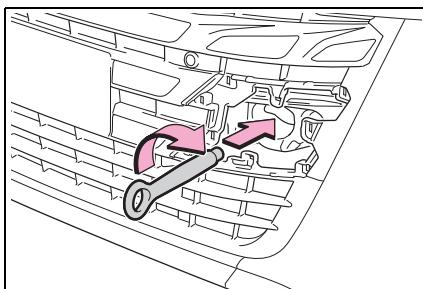
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

- 2マイナスドライバーを使ってフタをはずす

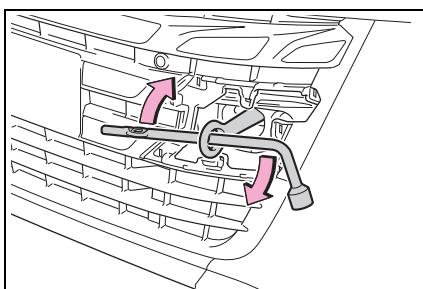
傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



- 3 けん引フックを穴に挿し込んでまわし、軽く締める**



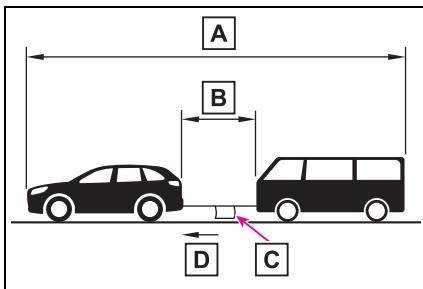
- 4 ホイールナットレンチや金属の固い棒などを使い確実に取り付ける**



- 5 車体に傷が付かないようにロープをけん引フックにかける**

車体に傷が付かないように注意してください。また、前進方向でけん引してください。

- 6 ロープの中央に白い布を付ける**
布の大きさ：0.3m 平方（30cm × 30cm）以上



A 25m 以内

B 5m 以内

C 白い布

D けん引方向

- 7 運転者はけん引される車両に乗り、エンジンを始動する**

エンジンが始動しないときは、エンジンスイッチを ON にしてください。

- 8 けん引される車両のシフトポジションを N にしてから、パーキングブレーキを解除する**

オートモードを OFF にしてください。
(→P.182)

けん引中は、ロープがたるまないよう、減速時なども前の車の速度に合わせてください。

□ 知識

■ けん引フックの使用目的

けん引フックはけん引してもらうときに使うものであり、他車をけん引するためのものではありません。

■ 他車にけん引してもらうときに

エンジンが停止しているとブレーキの効きが悪くなったり、ハンドル操作が通常より重くなったりします。

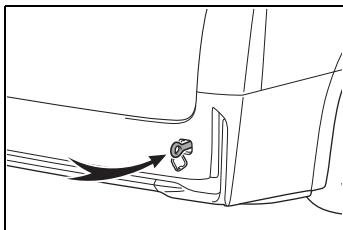
■ ホイールナットレンチについて

● 応急用タイヤ非装着車：トヨタ販売店で購入することができます。

● 応急用タイヤ装着車：ラゲージルームに搭載されています。(→P.469)

■ 緊急用フックについて

雪の吹きだまりなどでスタックして走行できなくなったとき、やむを得ず他車に引っ張り出してもらうために使用することができます。他車をけん引することはできません。

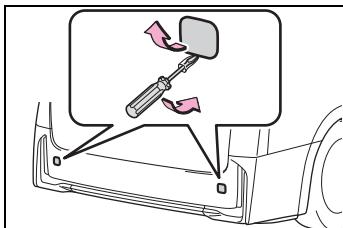


■緊急用フックを取り付けるには

緊急用フックを取り付けるときは、手順に従って取り付けてください。

- 1 ラゲージルーム内のホイールナットレンチ★、けん引フックを取り出す
（→P.459, 469）
- ★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。
- 2マイナスドライバーを使ってフタをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



- 3 けん引フックを穴に挿し込んでまわし、軽く締める
- 4 ホイールナットレンチや金属の固い棒などを使い確実に取り付ける

▲警告

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■他車にけん引してもらうときの運転について

- けん引フックやロープに過剰な負荷をかける急発進などを避けてください。けん引フックやロープが破損し、その破片が周囲の人などにあたり、重大な傷害を与えるおそれがあります。
- エレクトロシフトマチックタイプシフトレバー装着車：パーキングロックにより前輪が固定され、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。次のことをしないでください

- ・運転席シートベルトを外し、運転席のドアを開ける
- ・エンジンスイッチを OFF にする

■けん引フックを車両に取り付けるとき

指定の位置にしっかりと取り付けてください。指定の位置にしっかりと取り付けていないとけん引時にフックがはずれるおそれがあります。

△注意

■車両の損傷を防ぐために

- 他車にけん引してもらうときは次のことを必ずお守りください。
- ・ワイヤーロープは使用しない
- ・速度 30km/h 以下、距離は車両積載車までの移動など、できるだけ短距離にとどめる
- ・前進方向でけん引する
- ・サスペンション部などにロープをかけない
- この車両で他車やボート（トランク）などをけん引しないでください。

⚠ 注意**■緊急用フックについて**

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、装置の変形や車両の損傷などにつながるおそれがあります。

- やむを得ない場合以外は使用しないでください。
- 緊急用フックで他車をけん引しないでください。

フューエルポンプシャットオフシステム

エンジン停止時および SRS エアバッグ作動時は、フューエルポンプシャットオフシステムが作動し、燃料供給を停止し、燃料もれを最小限に抑えます。

エンジンを始動するには

システムが作動したあと、エンジンを始動するには、次の手順に従ってください。

- 1 エンジンスイッチを ACC または OFF にする
- 2 エンジンを再始動する

⚠ 注意**■エンジンを始動する前に**

車両下をよく確認してください。
地面に燃料もれを見つけた場合は、燃料システムに損傷があり、修理する必要があります。その場合はエンジンを再始動しないでください。

警告灯がついたときは

警告灯が点灯または点滅したままの場合は、落ち着いて次のように対処してください。なお、点灯・点滅しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

警告灯・警告ブザーへの対応

■ ブレーキ警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 (赤色)	<ul style="list-style-type: none"> ●ブレーキ液の不足 ●ブレーキ系統の異常 <p>→ ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。 走行を続けると危険です。</p>

■ ブレーキ警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 (黄色)	<ul style="list-style-type: none"> ●回生ブレーキシステムの異常 ●電子制御ブレーキシステムの異常 ●パーキングブレーキシステムの異常 <p>→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。</p>

■ 高水温警告灯※（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	<p>エンジン冷却水の高温異常</p> <p>→ ただちに安全な場所に停車し、対処方法（→P.483）に従ってください。</p>

* メッセージと一緒にマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■ 充電警告灯※（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	<p>充電系統の異常</p> <p>→ ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。</p>

* メッセージと一緒にマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■ 油圧警告灯※（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	エンジンオイル圧力の異常 → ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。

* メッセージと一緒にマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■ エンジン警告灯

警告灯	警告内容・対処方法
	●エンジン電子制御システムの異常 ●電子制御スロットルの異常 → ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。

■ SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	●SRS エアバッグシステムの異常 ●プリテンショナー付きシートベルトシステムの異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ ABS & ブレーキアシスト警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	●ABS の異常 ●ブレーキアシストの異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ ペダル誤操作警告灯※（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	ブザーが鳴った場合： ●ブレーキオーバーライドシステムの異常 ●ドライブスタートコントロールの異常 ●ドライブスタートコントロール作動時 → マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。 ブザーが鳴らなかつた場合： ブレーキオーバーライドシステム作動時 → アクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏んでください。

* メッセージと一緒にマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■ パワーステアリング警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 (赤色)	EPS（エレクトリックパワーステアリング）の異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
 (黄色)	

■ 燃料残量警告灯

警告灯	警告内容・対処方法
	<p>▶ FF 車（前輪駆動） 燃料の残量が約 11.3L 以下になった</p> <p>▶ 4WD 車（4 輪駆動） 燃料の残量が約 9.8L 以下になった → 燃料を補給する</p>

■ 運転席・助手席シートベルト非着用警告灯（警告ブザー※）

警告灯	警告内容・対処方法
	<p>運転席・助手席シートベルトの非着用 → シートベルトを着用する 助手席乗員がいるときは、助手席乗員もシートベルトを着用してください。</p>

* 運転席・助手席シートベルト非着用警告ブザー：

運転席・助手席シートベルト非着用のまま車速が一定以上になると、警告ブザーが一定時間断続的に鳴ります。

■ リヤ席シートベルト非着用警告灯※¹（警告ブザー※²）

警告灯	警告内容・対処方法
	<p>リヤ席シートベルトの非着用 → シートベルトを着用する</p>

*¹リヤ席の乗員の有無に関わらず、リヤ席ドアが開閉された場合にも一定時間点灯します。

*²リヤ席シートベルト非着用警告ブザー：

リヤ席シートベルト非着用（いずれかのシートベルト脱着により、リヤ席シートベルト非着用警告灯が点灯している状態）のまま車速が一定以上になると、警告ブザーが一定時間継続的に鳴ります。

■ Stop & Start キャンセル表示灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	Stop & Start システムの異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ PCS 警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	PCS（プリクラッシュセーフティ）の異常が考えられます。 → マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。 プリクラッシュセーフティが OFF、または VSC（ビークルスタビリティコントロール）システムが停止しているときも点灯します。

■ LTA 表示灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	LTA（レーントレーシングアシスト）の異常が考えられます。 → マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。

■ LDA 表示灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	LDA（レーンディパーサーチアラート）の異常が考えられます。 → マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。

■ PDA 表示灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	PDA（プロアクティブドライビングアシスト）の異常が考えられます。 → マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。

■ クルーズコントロール表示灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	クルーズコントロールの異常が考えられます。 → マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。

■ レーダークルーズコントロール表示灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 (黄色)	レーダークルーズコントロールの異常が考えられます。 →マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。

■ 運転支援情報表示灯

警告灯	警告内容・対処方法
	<p>次のシステムに異常が考えられます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●PCS（プリクラッシュセーフティ） ●LDA（レーンディバーチャーアラート） ●後方車両への接近警報 ●後方車両接近告知 ●セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中後突対応） <p>→マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。</p> <p>次のシステムのいずれかが異常、または停止しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●PKSB（パーキングサポートブレーキ） ●RCD（リヤカメラディテクション） ●BSM（ブラインドスポットモニター） ●RCTA（リヤクロストラフィックアラート） ●安心降車アシスト <p>→マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。</p>

■ クリアランスソナー OFF 表示灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	<p>クリアランスソナーの異常</p> <p>→ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。</p> <p>センサー部の汚れなどによりシステムが一時的に使用できない</p> <p>→マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。 (→P.455)</p>

■ スリップ表示灯

警告灯	警告内容・対処方法
	<ul style="list-style-type: none"> ●VSC（ビーカルスタビリティコントロール）システムの異常 ●TRC（トラクションコントロール）システムの異常 ●ヒルスタートアシストコントロールシステムの異常 <p>→ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。</p>

■ パーキングブレーキ表示灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 (点滅)	パーキングブレーキが完全にかかっていない、または解除されていない可能性がある → パーキングブレーキスイッチを再度操作してください。 パーキングブレーキが解除されていないときは点灯します。解除後、消灯すれば正常です。

■ ブレーキホールド作動表示灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 (点滅)	ブレーキホールドシステムの異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

□ 知識

■ 警告ブザーについて

状況によっては、外部の騒音やオーディオの音などにより、ブザー音が聞こえない場合があります。

■ シートベルト非着用警告灯の乗員検知センサーの作動について

- 助手席に乗員がいなくても、シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して警告灯が点滅し、ブザーが鳴ることがあります。

- 助手席に座布団などを敷くと、センサーが乗員を検知せず警告灯が作動しないことがあります。

■ パワーステアリング警告灯／警告ブザーについて

バッテリーの充電が不十分な場合、または一時的に電圧が下がった場合に警告灯が点灯し、警告ブザーが鳴ることがあります。

▲ 警告

■ 警告灯の点灯や警告ブザーの吹鳴に合わせて、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたとき

メッセージの内容に従って対処してください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ ABS 警告灯とブレーキ警告灯が同時に点灯したときは

ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店にご連絡ください。

ABS またはブレーキアシストシステムに異常が発生しているだけでなく、強めのブレーキの際に車両が不安定になるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

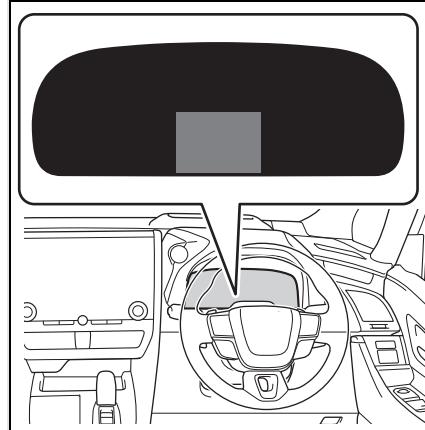
⚠ 警告

■ パワーステアリング警告灯が点灯したときは

黄色に点灯したときは操作力補助が制限され、赤色に点灯したときは操作力補助がなくなるため、ハンドル操作が非常に重くなることがあります。
ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。

警告メッセージが表示されたときは

マルチインフォメーションディスプレイには、システムの故障や誤った操作をしたときの警告、メンテナンスが必要であることをお知らせするメッセージが表示されます。メッセージが表示されたときは、メッセージの内容に従って対処してください。



処置後に再度メッセージが表示されたときは、トヨタ販売店へご連絡ください。

メッセージと警告作動

メッセージの内容によって警告灯や警告ブザーの作動が次のように切りかわります。販売店で点検をするように表示されたときは、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

警告灯	警告ブザー*	警告内容
—	あり	<ul style="list-style-type: none"> 走行にかかわるシステムの故障や、そのまま放置すると思わぬ危険を招くおそれがあるなどの重要なメッセージを意味します。 車両への損傷や、思わぬ危険を招くおそれがあるなどのメッセージを意味します。
点灯または点滅	あり	表示されたシステムに故障のおそれがあるなどのメッセージを意味します。
—	なし	<ul style="list-style-type: none"> 電装品の故障や状態、メンテナンスのお知らせなどのメッセージを意味します。 車両を正しく操作していない場合や、操作方法のアドバイスなどを意味します。

* メッセージを最初に表示したときに作動します。



知識

■ 警告メッセージについて

文中の警告メッセージの表示は、使用状況や車両の仕様により実際の表示と異なる場合があります。

■ 警告ブザーについて

→P.450

■ 販売店での点検をうながすメッセージが表示されたときは

警告メッセージで名称が表示されたシステム、または部位などに問題が発生しています。すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ 各部の操作に関するメッセージが表示されたときは

- アクセルペダル・ブレーキペダルの操作に関するメッセージが表示されたときは

- PCS（プリクラッシュセーフティ）やレーダークルーズコントロールなどの運転支援システムの作動中、ブレーキ操作に関する警告メッセージが表示される場合があります。

メッセージが表示されたときは、必ず減速、または画面で指示された操作を行ってください。

- ブレーキオーバーライドシステムが作動したときに、警告メッセージが表示されます。（→P.162）
- ドライブスタートコントロールが作動したときに、警告メッセージが表示されます（→P.167, 319）。画面の指示に従って対処してください。

● エンジンスイッチの操作に関するメッセージが表示されたときは

正しい手順で始動操作をしていないときや、誤操作の可能性があるときなどに、エンジンスイッチの操作に関するアドバイスが表示されます。

画面の指示に従って操作し直してください。

●各部の開閉状態や、消耗品の補充などに関するメッセージ・画像が表示されたときは

画面の表示、または警告灯で指示された部位を確認し、開いているドアを閉めたり、消耗品を補充したりするなどの対処を行ってください。

●シフト操作に関するメッセージが表示されたときは

誤ったシフトポジションの選択や、停車中の意図せぬ車両の動き出しなどを防止するため、自動的にシフトポジションが切りかわったり、シフトレバーの操作が指示されたりすることがあります。その場合は、画面の指示に従ってシフトポジションを変更してください。

■取扱書の確認をうながすメッセージが表示されたときは

●次のメッセージが表示されたときは、対処方法に従ってください。

・ “エンジン冷却水高温” (→P.483)

●次のメッセージが表示されたときは、故障している可能性があります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

- ・ “スマートエントリー＆スタートシステム故障”
- ・ “エンジン系故障”
- ・ “アクセル系故障”
- ・ “シフトシステム故障 駐車時は パーキングブレーキ をかけ 取扱書確認”
- ・ “Pスイッチ故障 駐車時は パーキングブレーキ をかけ 取扱書確認”
- ・ “シフトシステム不作動 駐車時 パーキングブレーキ をかけ 取扱書確認”
- ・ “シフトシステム故障 取扱書確認”
- ・ “シフトシステム故障 安全な場所に停車して 取扱書確認”
- ・ “バッテリ充電不足 シフト切りかえできません 取扱書確認”

●次のメッセージが表示されたときは、故障している可能性があります。ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。

- ・ “故障のためブレーキ力が低下”
- ・ “エンジン油圧不足”

●次のメッセージが表示されたときは、ガス欠になっている可能性があります。ただちに安全な場所に停車し、燃料残量が少ない場合は給油してください。

- ・ “エンジン停止”

■ “エンジンオイル量不足 補充するか、交換してください” が表示されたときは

エンジンオイルが不足しているときにメッセージが表示されます。エンジンオイル量を点検し、オイルを補給してください。

また、傾斜路などに停車したときに表示される場合があります。水平な路面に移動し、メッセージが表示されるか確認してください。

■ “エンジン停止のためハンドルが重くなります” が表示されたときは

走行中にエンジンが停止したときにメッセージが表示されます。

ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。

■ “バッテリー保護のため自動で電源を OFF しました” が表示されたときは

自動電源 OFF 機能が作動したときにメッセージが表示されます。

次回エンジン始動時にエンジン回転数を少し高めにして約5分間その回転数を保持し、バッテリーを充電してください。

■ “駐車時はPレンジに入れてください” が表示されたときは

シフトポジションが P 以外でエンジンス

イッチをOFFにせずに運転席ドアが開いたときにメッセージが表示されます。駐車時はPにしてください。

■ “N レンジです アクセルを緩めて希望レンジに切りかえてください” が表示されたときは

シフトポジションがNで、アクセルペダルを踏んだときにメッセージが表示されます。

アクセルペダルから足を離し、シフトポジションをDまたはRにしてください。

■ “シフトシステム故障 シフト切りかえ不可 安全な場所まで走行し 停車” または “シフトシステム故障 走行を継続できません” が表示されたときは

シフト制御システムが故障しています。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ “アクセルを戻してください” が表示されたときは

次の機能が作動したときに表示されます。アクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏んでください。

- ・ ドライブスタートコントロール
(→P.167)

- ・ プラスサポート（販売店装着オプション）(→P.329)

■ “機能停止 周辺監視用カメラ視界不良 取扱書を確認” が表示されたときは

次のいずれかのシステムが停止しています。

- RCD（リヤカメラディテクション）

- PKSB（パーキングサポートブレーキ）

後方カメラの汚れや付着物を取り除いてください。

■ “機能故障 販売店で点検” が表示されたときは

次のいずれかのシステムが停止しています。

- PCS（プリクラッシュセーフティ）

- LDA（レーンディバーチャーラート）

- LTA（レントレーシングアシスト）

- LCA（レーンチェンジアシスト）

- AHB（オートマチックハイビーム）

- AHS（アダプティブハイビームシステム）

- レーダークルーズコントロール

- RSA（ロードサインアシスト）

- 発進遅れ告知

- PDA（プロアクティブドライビングアシスト）

- BSM（ブラインドスポットモニター）

- RCTA（リヤクロストラフィックアラート）

- 後方車両接近告知

- セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中後突対応）

- 後方車両への接近警報

- 周辺車両接近時サポート

- 安心降車アシスト

- クリアランスソナー

- PKSB (パーキングサポートブレーキ)

● RCD (リアカメラディテクション)
すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ “機能停止 取扱書を確認”が表示されたときは

次のいずれかのシステムが停止しています。

- PCS (プリクラッシュセーフティ)

- LDA (レーンディビーチャーラート)

- LTA (レントレーシングアシスト)

- LCA (レーンチェンジアシスト)

- AHB (オートマチックハイビーム)

- AHS (アダプティブハイビームシステム)

- レーダークルーズコントロール

- RSA (ロードサインアシスト)

- PDA (プロアクティブドライビングアシスト)

- BSM (ブラインドスポットモニター)

- RCTA (リヤクロストラフィックアラート)

- 後方車両接近告知

- セカンダリーコリジョンブレーキ
(停車中後突対応)

- 後方車両への接近警報

- 周辺車両接近時サポート

- 安心降車アシスト

- クリアランスソナー

- PKSB (パーキングサポートブレーキ)

- RCD (リアカメラディテクション)

次の対処法に従ってください。

- ・ バッテリー電圧を確認する
- ・ Toyota Safety Sense で使用するセンサーに付着物がないか確認し、あった場合には取り除いてください。
(→P.208)
- ・ バックドアが開いていないか確認してください。

センサーが正しく作動していないおそれがあります。
(→P.212, 287, 303, 314, 317)

- ・ BSM (ブラインドスポットモニター)、RCTA (リヤクロストラフィックアラート)、後方車両接近告知、セカンダリーコリジョンブレーキ (停車中後突対応)、後方車両への接近警報、周辺車両接近時サポート、安心降車アシストで使用するセンサー周辺のリヤバンパーに付着物がないか確認し、ある場合は取り除いてください。
(→P.284)
- ・ クリアランスソナー、PKSB (パーキングサポートブレーキ)、RCD (リアカメラディテクション) で使用するセンサーとカメラに付着物がないか確認し、あった場合には取り除いてください。
(→P.304, 316)
- ・ センサーが正しく作動しなくなる状況が解決すると、表示が消える場合があります。

■ “機能停止 前方カメラ視界不良 取扱書を確認”が表示されたときは

次のいずれかのシステムが停止しています。

- PCS (プリクラッシュセーフティ)
- LDA (レーンディパーチャーラート)
- LTA (レーントレーシングアシスト)
- LCA (レーンチェンジアシスト)
- AHB (オートマチックハイビーム)
- AHS (アダプティブハイビームシステム)
- レーダークルーズコントロール
- RSA (ロードサインアシスト)
- 発進遅れ告知
- PDA (プロアクティブドライビングアシスト)

次の対処法に従ってください。

- ・ ワイパー機能を使って、フロントワインドウガラスの汚れや付着物を取り除く。
- ・ エアコン機能を使って、フロントワインドウガラスの曇りを取り除く。
- ・ ボンネットを閉じる、またはステッカーを剥がすなど、カメラの視界を遮らないようにする。

■ “機能停止 前方カメラ作動温度範囲外常温までお待ちください”が表示されたときは

次のいずれかのシステムが停止しています。

- PCS (プリクラッシュセーフティ)

- LDA (レーンディパーチャーラート)

- LTA (レーントレーシングアシスト)

- LCA (レーンチェンジアシスト)

- AHB (オートマチックハイビーム)

- AHS (アダプティブハイビームシステム)

- レーダークルーズコントロール

- RSA (ロードサインアシスト)

- 発進遅れ告知

- PDA (プロアクティブドライビングアシスト)

次の対処法に従ってください。

- ・ 炎天下での駐車時など、前方カメラが高温のときは、エアコンでカメラ周辺の温度を下げる
- ・ 特に駐車時に太陽光を反射するサンシェードなどをフロントウインドウガラスに使用すると前方カメラが高温になりやすくなります
- ・ 極寒での駐車時など、前方カメラが低温の時は、エアコンで前方カメラ周辺の温度を上げる

■ “機能停止 前方レーダー汚れ 汚れを除去してください”が表示されたときは

次のいずれかのシステムが停止しています。

- PCS (プリクラッシュセーフティ)

- LTA (レーントレーシングアシスト)

- LCA (レーンチェンジアシスト)

- レーダークルーズコントロール

● 発進遅れ告知

● PDA (プロアクティブドライビングアシスト)

次の対処法に従ってください。

- ・レーダーおよびレーダー専用カバーに付着物がないか確認し、あった場合には取り除いてください。(\rightarrow P.209)
- ・砂漠・草原・郊外などの、周辺車両や構造物が少ない広々とした地域を走行すると表示される場合があります。車両周辺に構造物や車両などが存在する場所まで走行すると、表示が消える場合があります。

■ “機能停止 前方レーダー作動温度範囲外 常温までお待ちください” が表示されたときは

次のいずれかのシステムが停止しています。

● PCS (プリクラッシュセーフティ)

● LTA (レントレーシングアシスト)

● LCA (レーンチェンジアシスト)

● レーダークルーズコントロール

● 発進遅れ告知

● PDA (プロアクティブドライビングアシスト)

レーダー周辺の温度が作動条件外です。

適切な温度になるまでお待ちください。

■ “機能停止 前方レーダー向き調整中 取扱書を確認” が表示されたときは

次のいずれかのシステムが停止しています。

● PCS (プリクラッシュセーフティ)

● LTA (レントレーシングアシス

ト)

● LCA (レーンチェンジアシスト)

● レーダークルーズコントロール

● 発進遅れ告知

● PDA (プロアクティブドライビングアシスト)

次の対処法に従ってください。

- ・レーダーおよびレーダー専用カバーに付着物がないか確認し、あった場合には取り除いてください。(\rightarrow P.209)
- ・レーダーの向きがずれている可能性があり、レーダーが走行中に自動で再調整しています。しばらく走行を続けてください。

■ “条件を満たしていないため 開始できません 取扱書を確認” が表示されたときは

LCA の作動条件を満たしていないため使用できません。(\rightarrow P.230)

すべての作動条件を満たしているときに、再度方向指示レバーを操作してください。

■ “クルーズコントロール 使用できません 取扱書を確認してください” が表示されたときは

次のいずれかのシステムが停止しています。

● レーダークルーズコントロール

● クルーズコントロール

走行支援スイッチを短時間に繰り返し操作したときにメッセージが表示されることがあります。走行支援スイッチを短く確実に押してください。

- “ドライバーモニター作動温度範囲外 常温までお待ちください”が表示されたときは

次のシステムが停止しています。

- ドライバーモニター
- アドバンスト ドライブ（渋滞時支援）
- “ドライバーモニター使用できません 確認ください”が表示されたときは
ドライバーモニターカメラのレンズが汚
れている可能性があります。
レンズを傷付けないよう乾いたやわらか
い布で汚れをふき取ってください。

警告

- 警告灯の点灯や警告ブザーの吹鳴に
合わせて、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが
表示されたときは

→P.450

パンクしたときは（タイヤ パンク応急修理キット装着車）

タイヤパンク応急修理キット装着車には、応急用タイヤ、
ジャッキ、ジャッキハンドル、
ホイールナットレンチが搭載さ
れています。

タイヤがパンクしたときは、タイ
ヤパンク応急修理キットで応
急修理することができます。釘
やネジなどが刺さった程度の軽
度なパンクを応急修理できます。
(パンク補修液 1本につき、応急
修理できるタイヤは 1本です)
パンクしたタイヤの損傷状況に
より、応急修理キットでは応急
修理できない場合があります。
(→P.459)

タイヤパンク応急修理キットで
応急修理したタイヤの修理・交
換については、トヨタ販売店に
ご相談ください。

警告

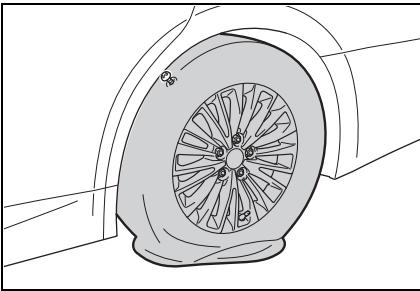
- タイヤがパンクしたときは

パンクしたまま走行しないでください。
短い距離でも、タイヤとホイールが修
理できないほど損傷したり、思わぬ事
故につながるおそれがあり危険です。

応急修理する前に

- 地面が固く平らで安全な場所に
移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトポジションを P にする

- エンジンを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる
(→P.435)
- パワードアオフスイッチをONにする(→P.100)
- タイヤの損傷程度を確認する
釘やネジなどが刺さっている場合のみ、
タイヤを応急修理してください。
 - ・ タイヤに刺さっている釘やネジなどは抜かないでください。抜いてしまうと穴が大きくなりすぎ、応急修理ができなくなることがあります。
 - ・ パンク補修液がもれないようにするために、パンク箇所が分かっている場合は、パンク箇所が上になるように車両を移動してください。



知識

■ 応急修理キットで修理できないパンク

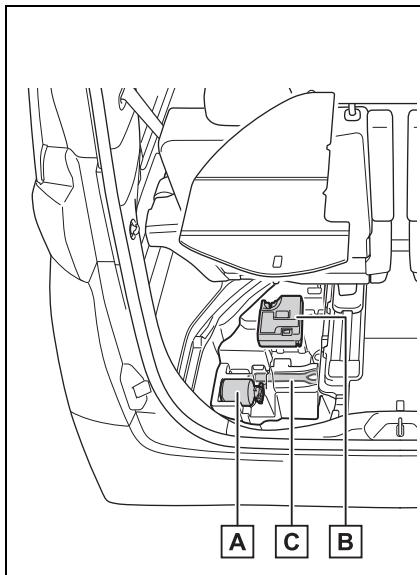
次の場合は、応急修理キットでは応急修理できません。トヨタ販売店にご連絡ください。

- タイヤ空気圧が不十分な状態で走行してタイヤが損傷しているとき
- タイヤ側面など、接地面以外に穴や損傷があるとき
- タイヤがホイールから明らかにはずれているとき
- タイヤに4mm以上の切り傷や刺し傷があるとき

- ホイールが破損しているとき
- 2本以上のタイヤがパンクしているとき
- 1本のタイヤに2箇所以上の切り傷や刺し傷があるとき
- 補修液の有効期限が切れているとき

**タイヤパンク応急修理キットと
工具の搭載位置**

► A タイプ

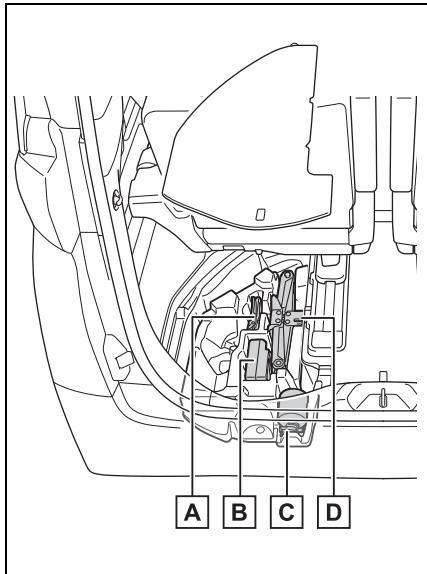


A タイヤパンク応急修理キット
(ボトル)

B タイヤパンク応急修理キット
(コンプレッサー)

C けん引フック

▶ B タイプ



A 輪止め ※1

B タイヤパンク応急修理キット
(コンプレッサー)

C タイヤパンク応急修理キット
(ボトル)

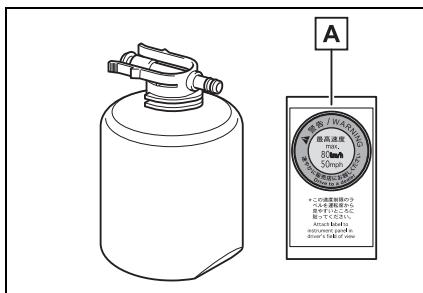
D ジャッキ ※1, 2

※1 輪止め、ジャッキは工場出荷時には搭載されていませんが、トヨタ販売店で購入することができます。詳しくはトヨタ販売店におたずねください。

※2 ジャッキの使い方 (→P.471)

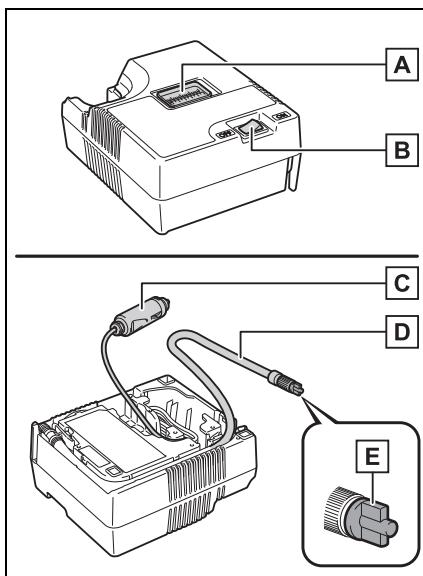
タイヤパンク応急修理キットの内容／各部の名称

■ ボトル



A 速度制限ラベル

■ コンプレッサー



A 空気圧計

B 電源スイッチ

C 電源プラグ

D ホース

E 空気逃がしキャップ

知識

■ 応急修理キットについて

- パンク補修液ボトル1本でタイヤ1本を1回応急修理できます。使用したパンク補修液の交換は、トヨタ販売店にご相談ください。
- コンプレッサーは、くり返し使用できます。
- 外気温度が-40℃～60℃のときに使用できます。
- 応急修理キット搭載車両の装着タイヤ専用です。指定タイヤサイズ以外のタイヤや、他の用途には使用しないでください。
- パンク補修液が衣服に付着すると、シミになる場合があります。
- パンク補修液がホイールやボディーに付着した場合、放置すると取れなくなるおそれがあります。ぬれた布などですみやかにふき取ってください。
- 応急修理キット作動中は、大きな音がしますが故障ではありません。
- タイヤ空気圧の点検や調整には使用しないでください。

■ 応急修理キットの点検について

- パンク補修液の有効期限の確認は定期的に行ってください。
有効期限はボトルに表示されています。
- 有効期限が切れたパンク補修液は使用しないでください。応急修理キットによる修理が正常にできない場合があります。
- 有効期限が切れる前に交換してください。交換については、トヨタ販売店にご相談ください。

■ 補修液を廃棄するときは

補修液には環境に有害な物質が含まれています。補修液のボトル、および補修液

の廃棄が必要な際は、トヨタ販売店、または都道府県知事の許可を受けた、専門の廃棄物処理業者に処理をご依頼ください。

警告

■ タイヤがパンクしているときは

タイヤがパンクした状態で走行を続けないでください。

短い距離でもパンクしたタイヤで走行すると、タイヤおよびホイールが損傷し修理できなくなります。パンクした状態で走行を続けると、タイヤ側面に円周状の溝ができる場合があります。この状態で応急修理キットを使用すると、タイヤが破裂する危険があります。

■ 応急修理キットについて

- 応急修理キットは指定の位置に収納してください。
急ブレーキ時などに応急修理キットが飛び出したりして破損したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 応急修理キットはお客様の車専用です。他の車には使わないでください。他の車に使うと思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 指定タイヤサイズ以外のタイヤや他の用途には使用しないでください。
パンク修理が完全に行われず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ パンク補修液について

- 誤って飲み込むと健康に害があります。その場合はできるだけたくさん水を飲み、ただちに医師の診察を受けてください。

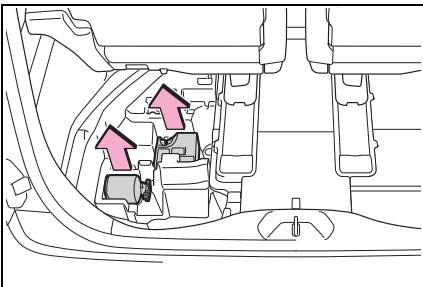
⚠ 警告

- もし目に入ったり、皮膚に付着したりした場合には、水でよく洗い流してください。それでも異常を感じたときは、医師の診察を受けてください。

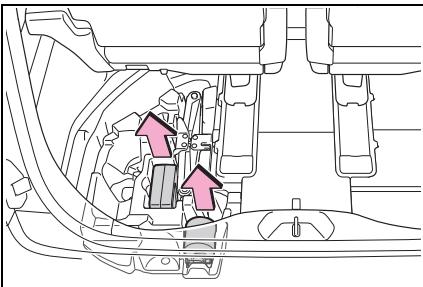
応急修理キットを取り出すには

- 助手席側のサードシートをいちばん前まで移動させる
(→P.126)
- 助手席側のデッキボードを取りはずす
- 応急修理キットを取り出す

▶ A タイプ



▶ B タイプ

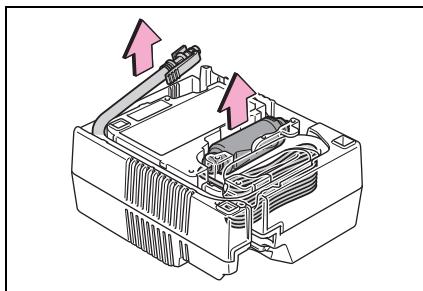


応急修理をするには

- 応急修理キットをビニール袋から取り出す

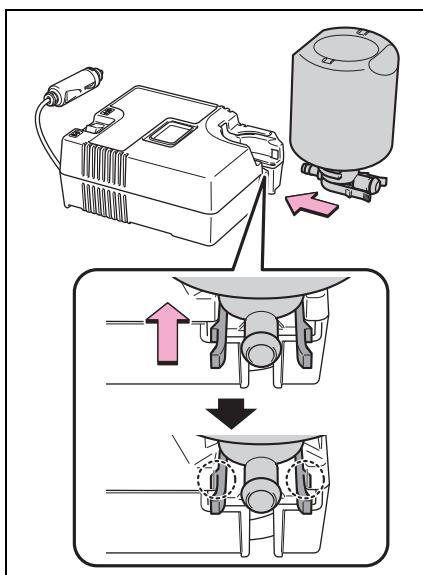
ボトルに同封されているラベルは指定の位置へ貼り付けます。(手順 10 へ)

- コンプレッサーからホースを取りはずし、電源プラグを取り出す



- ボトルをコンプレッサーに接続する

図のように、ボトルをまっすぐコンプレッサーに挿入・接続し、ボトルのツメが穴に隠れていることを確認してください。

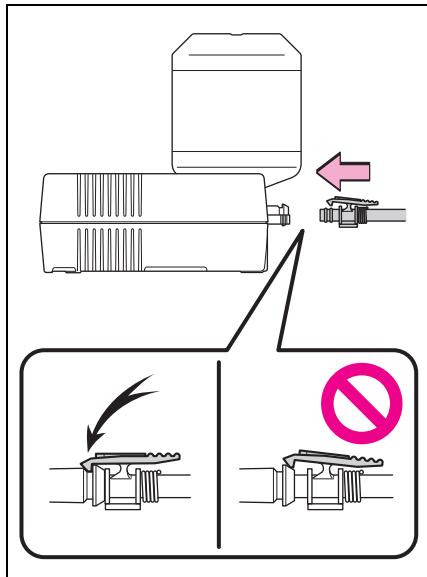


- ホースをボトルに取り付ける

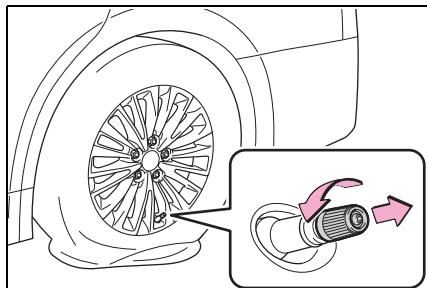
図のように、ボトルにホースがしっかりと

接続しているか確認してください。

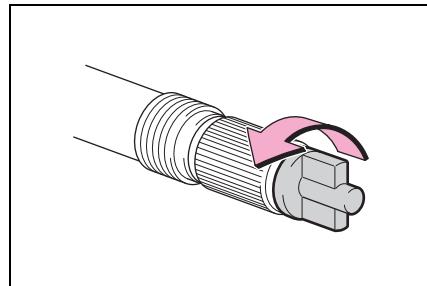
なくさないように保管してください。



- 5 パンクしたタイヤのバルブからバルブキャップを取りはずす**

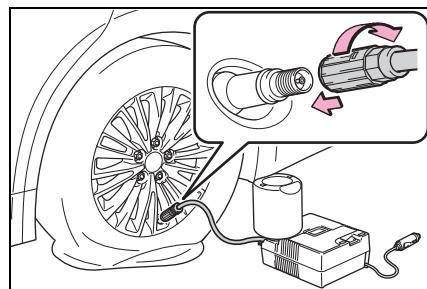


- 6 ホースをのばし、ホースから空気逃がしキャップを取りはずす**
空気逃がしキャップは再度使用するため、

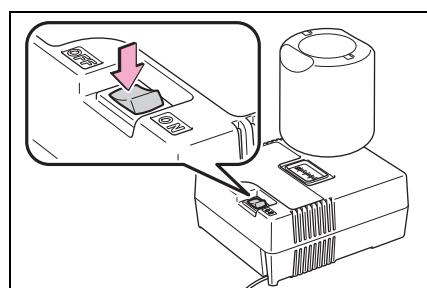


- 7 ホースをパンクしたタイヤのバルブに接続する**

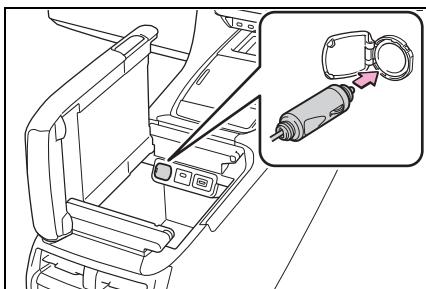
ホース先端を時計まわりにまわしてしっかりと最後までねじ込みます。



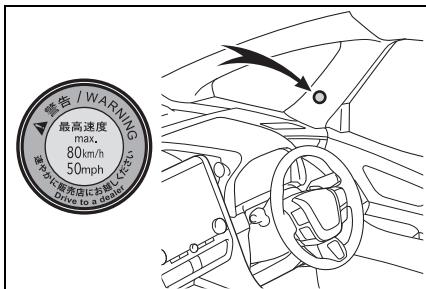
- 8 コンプレッサーのスイッチが OFF であることを確認する**



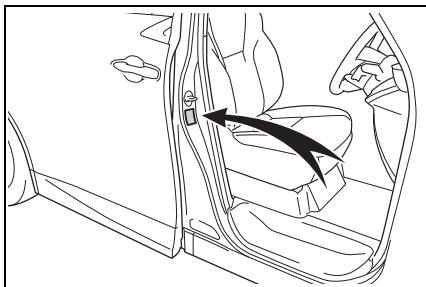
- 9** コンプレッサーの電源プラグをアクセサリーソケットに挿し込む（→P.393）



- 10** 運転席から見やすい位置に、付属のラベルを貼り付ける

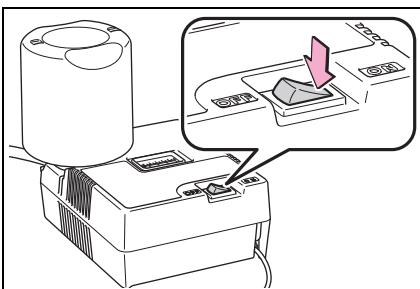


- 11** タイヤの指定空気圧を確認する
運転席側の空気圧ラベルで確認することができます。（→P.423）

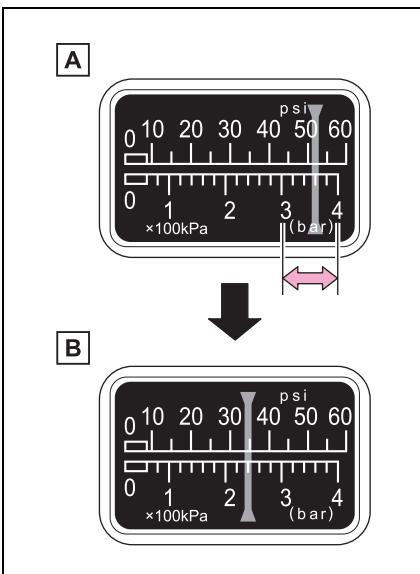


- 12** エンジンを始動する
（→P.170）

- 13** コンプレッサーのスイッチをONにし、パンク補修液と空気を充填する



- 14** 空気圧が指定空気圧になるまで空気を充填する



A 一時的に空気圧計が 300 ~ 400kPa (3.0 ~ 4.0kg/cm²) まで上昇し、徐々に減少します。

B スイッチを ONにしてから約 1 ~ 5 分程度で実際の空気圧になります。

空気圧を確認するときは、コンプレッ

サーのスイッチを OFFにしてください。空気の入れすぎに注意して、指定空気圧になるまで充填・確認をくり返してください。

充填までに必要な時間は、約 5 ~ 20 分です（外気温により異なります）。25 分以上充填しても指定空気圧にならない場合は、応急修理できません。コンプレッサーのスイッチを OFFにして、トヨタ販売店にご連絡ください。

空気を入れすぎたときは、指定空気圧になるまで空気を抜いてください。
（→P.423, 492）

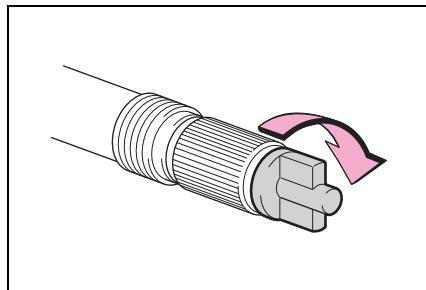
15 コンプレッサーのスイッチが OFFであることを確認した上で、アクセサリーソケットから電源プラグを抜き、タイヤのバルブからホースを取りはずす

ホースを取りはずすときにパンク補修液がもれる可能性があります。

16 バルブキャップを応急修理したタイヤのバルブに取り付ける

17 ホース先端に空気逃がしキャップを取り付ける

空気逃がしキャップを取り付けないとパンク補修液がもれ、車や衣服などが汚れる可能性があります。

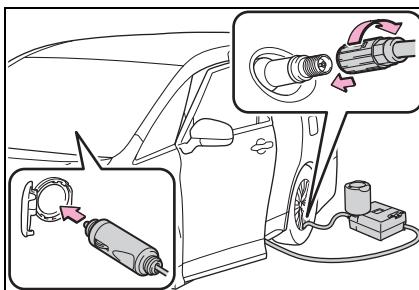


18 いったん、ボトルとコンプレッサーを接続したままラゲージルーム内に収納する

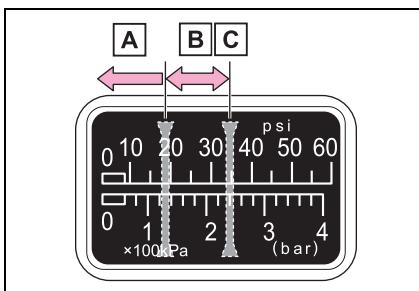
19 タイヤ内のパンク補修液を均等に広げるために、ただちに約 5km、速度 80km/h 以下で安全に走行する

20 走行後、平坦な場所に停車して再度、応急修理キットを接続する

ホースを接続する前に、空気逃がしキャップを取りはずしてください



21 コンプレッサーのスイッチを数秒間 ONにしてから再度 OFFし、空気圧を確認する



A 空気圧が 130kPa (1.3kg/cm²) 未満の場合：応急修理できません。トヨタ販売店にご連絡ください。

B 空気圧が 130kPa (1.3kg/cm²) 以上、指定空気圧未満の場合：手順 **22** へ

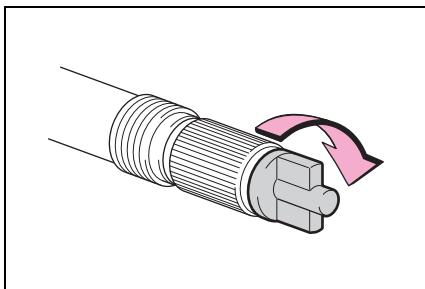
C 空気圧が指定空気圧

(→P.423, 492) の場合：手順 23へ

22コンプレッサーのスイッチをONにして指定空気圧まで空気を充填し、再度約5km走行後にあらためて手順**20**から実施する

23ホース先端に空気逃がしキャップを取り付ける

空気逃がしキャップを取り付けないとパンク補修液がもれ、車や衣服などが汚れる可能性があります。



24ボトルとコンプレッサーを接続したままラゲージルーム内に収納する

25急ブレーキ・急加速・急ハンドルを避け、走行距離が約100km以内、80km/h以下の速度で、トヨタ販売店まで慎重に運転する

タイヤの修理・交換、応急修理キットの処理についてはトヨタ販売店にご相談ください。

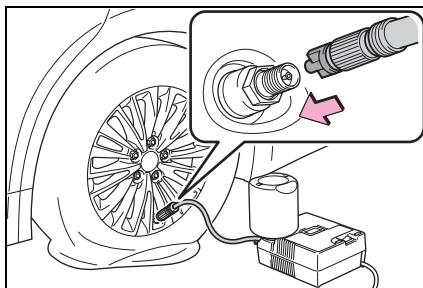
トヨタ販売店でタイヤを修理・交換するときに、パンク補修液注入済みであることを必ずお伝えください。

□ 知識

■ 空気を入れすぎてしまったとき

1 タイヤからホースを取りはずす

2 ホース先端に空気逃がしキャップを取り付け、キャップの突起部をタイヤのバルブに押しあて、空気を抜く



3 ホースから空気逃がしキャップを取りはずし、ホースを再接続する

4 コンプレッサーのスイッチを数秒間ONにし、OFFにしてから空気圧計を確認する

指定空気圧より低いときは、再度、コンプレッサーのスイッチをONにし、指定空気圧になるまで空気を充填してください。

■ 応急修理後のタイヤのバルブについて

応急修理キットを使用したときは、タイヤのバルブを新品に交換してください。

■ 警告

■ パンクしたタイヤを応急修理するときは

- 車両を安全で平坦な場所に停止させてください。
- 走行直後、ホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください。走行直後のホイールやブレーキまわりは高温になっている可能性があるため手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。

⚠ 警告

- タイヤを車両に取り付けた状態で、バルブとボトルのホースをしっかりと接続してください。ホースの接続が不十分な場合、空気がもれたり、パンク補修液が飛散したりするおそれがあります。
- 空気充填中にボトルのホースがはずれると、圧力でホースが暴れ大変危険です。
- 空気充填後は、ボトルのホースを取りはずすときや空気を抜くときにパンク補修液が飛散する場合があります。
- 作業手順に従って応急修理を行ってください。
手順どおりに行わないとパンク補修液が噴出する場合があります。
- 破裂の危険があるので、応急修理キットの作動中は補修中のタイヤから離れてください。タイヤに亀裂や変形が発生している場合、ただちにコンプレッサーのスイッチをOFFにし、修理を中止してください。
- 応急修理キットは、長時間作動させるとオーバーヒートする可能性があります。40分以上連続で作動させないでください。
- 応急修理キットが作動すると部分的に熱くなります。使用中、または使用後の取り扱いには注意してください。ボトルとコンプレッサー接続箇所付近の金属部分は特に熱くなるのでふれないでください。
- 速度制限ラベルは指定位置以外に貼らないでください。ハンドルのパッド部分などのSRSエアバッグ展開部に貼ると、SRSエアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。

■ 捕修液を均等に広げるための運転について

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

- 低速で慎重に運転してください。特にカーブや旋回時には注意してください。
- 車がまっすぐ走行しなかったり、ハンドルをとられたりする場合は、運転を中止し、次のことを確認してください。
 - ・ タイヤを確認してください。タイヤがホイールからはずれている可能性があります。
 - ・ 空気圧を確認してください。
130kPa (1.3kg/cm²) 未満の場合は、タイヤが大きなダメージを受けている可能性があります。

⚠ 注意

■ 応急修理をするときは

- タイヤに刺さった釘やネジを取り除かずに応急修理を行ってください。取り除いてしまうと、応急修理キットでは応急修理ができなくなる場合があります。
- 応急修理キットに防水機能はありません。降雨時などは、水がかからないようにして使用してください。
- 砂地などの砂ぼこりの多い場所に直接置いて使用しないでください。砂ぼこりなどを吸い込むと、故障の原因になります。
- 応急修理キットは倒れた状態では正常に作動しません。必ず立ててご使用ください。



■ 応急修理キットについて

- 応急修理キットはDC12V専用です。他の電源での使用はできません。
- 応急修理キットにガソリンがかかると、劣化するおそれがあります。ガソリンがかからないようにしてください。
- 応急修理キットはビニール袋に入れて砂ぼこりや水を避けて収納してください。
- 応急修理キットは指定の位置に収納し、お子さまが誤って手をふれないようご注意ください。
- 分解・改造などは絶対にしないでください。また、空気圧計などに衝撃を与えないでください。故障の原因になります。

パンクしたときは（応急用タイヤ装着車）

パンクしたタイヤを、備え付けの応急用タイヤと交換してください。

（タイヤについての詳しい説明はP.423を参照してください）



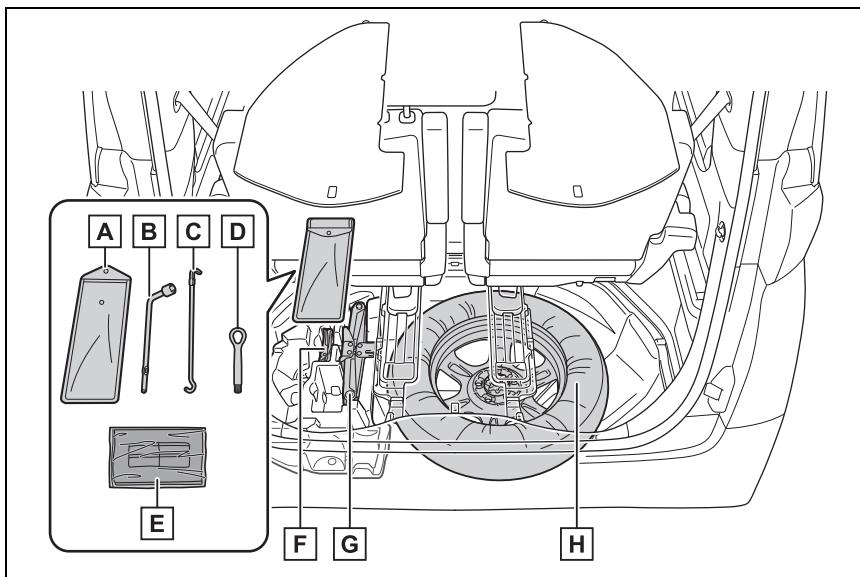
■ タイヤがパンクしたときは

パンクしたまま走行しないでください。短い距離でも、タイヤとホイールが修理できないほど損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

ジャッキで車体を持ち上げる前に

- 地面が固く平らで安全な場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトポジションをPにする
- エンジンを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる
(→P.435)
- パワードアオフスイッチをONにする (→P.100)

工具とジャッキの位置



- A** 工具袋
- B** ホイールナットレンチ
- C** ジャッキハンドル
- D** けん引フック
- E** 汚れ防止シート
- F** 輪止め*
- G** ジャッキ
- H** 応急用タイヤ

* 輪止めは工場出荷時には搭載されていませんが、トヨタ販売店で購入することができます。詳しくは販売店におたずねください。

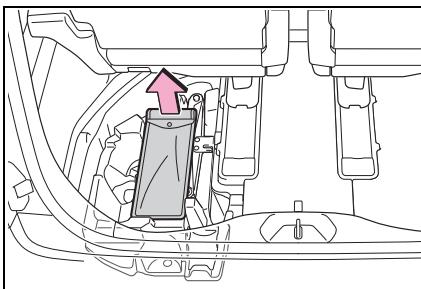
⚠ 警告

■ ジャッキの使用について

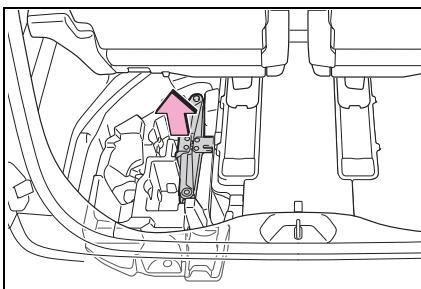
- 次のことをお守りください。
- ジャッキの取り扱いを誤ると、車が落下して重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ジャッキはタイヤ交換・タイヤチェーン取り付け・取りはずし以外の目的で使用しない
 - ジャッキは必ずこの車両用のものを使用し、他の車のジャッキを使用しないこと
 - この車両用のジャッキはお客様の車にしか使うことができないため、他の車に使用しないこと
 - ジャッキはジャッキセット位置に正しくかける
 - ジャッキで支えられている車の下に体を入れない
 - 車がジャッキで支えられている状態で、エンジンを始動したり車を走らせない
 - 車内に人を乗せたまま車を持ち上げない
 - 車を持ち上げるときは、ジャッキの上または下にものを置かない
 - 車を持ち上げるときは、タイヤ交換できる高さ以上に上げない
 - 車の下にもぐり込んで作業する場合は、ジャッキスタンドを使用する
 - 車を下げるときは、周囲に人がいないことを確認し、人がいるときは声をかけてから下げる

工具袋・ジャッキを取り出すには

- 1 助手席側のサードシートをいちばん前まで移動させる
(→P.126)
- 2 助手席側のデッキボードを取りはずす
- 3 工具袋を取り出す



4 ジャッキを取り出す

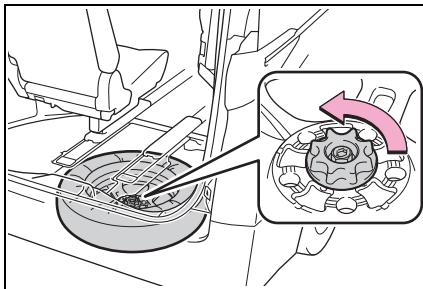


応急用タイヤを取り出すには

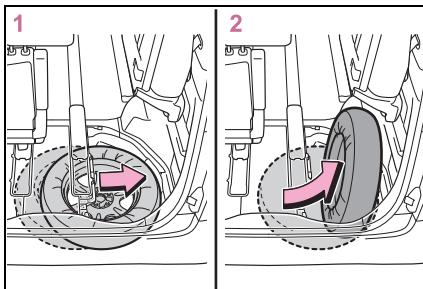
- 1 運転席側のサードシートをはね上げる (→P.132)
- 2 運転席側のデッキボードを取りはずす
- 3 留め具を取りはずす

応急用タイヤの留め具が固くてまわらないときは、車載のレンチを使用してください。(タイヤを固定するときは、留め具を手で取り付けてください。レンチなど

の工具は使用しないでください)



- 4 次の要領で応急用タイヤを車両右側から取り出す



- 1 応急用タイヤを右側に引き出す
- 2 上に向かって転がす要領で応急用タイヤを取り出す
- 5 応急用タイヤカバーを取りはずす

!**警告**

■応急用タイヤを収納するとき

ボディーと応急用タイヤとのあいだに、指などを挟まないように注意してください。

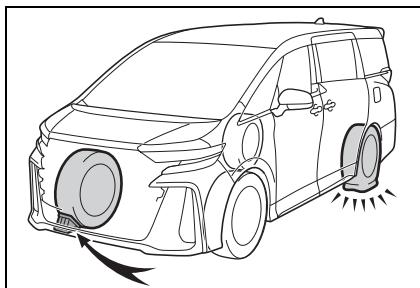
!**注意**

■搭載場所から応急用タイヤを取り出すとき

応急用タイヤのホイール部分をつかんで取り出してください。応急用タイヤカバーをつかんで取り出そうとすると、応急用タイヤカバーが損傷するおそれがあります。

パンクしたタイヤを交換するには

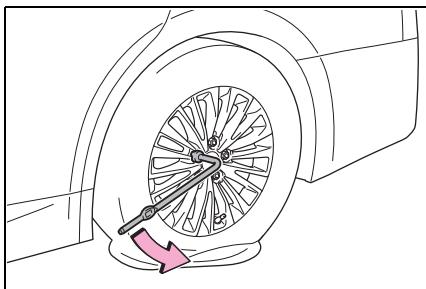
- 1 輪止め※をする



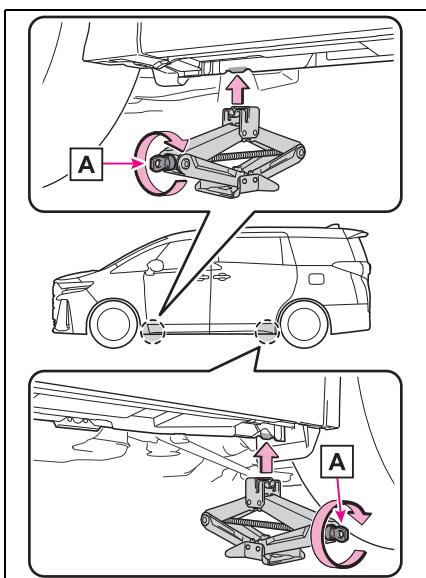
パンクしたタイヤ		輪止めの位置
前輪	左側	右側後輪うしろ
	右側	左側後輪うしろ
後輪	左側	右側前輪前
	右側	左側前輪前

* 輪止めは、トヨタ販売店で購入することができます。

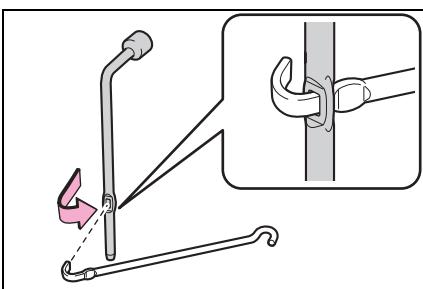
- 2 ナットを少し（約1回転）ゆるめる**



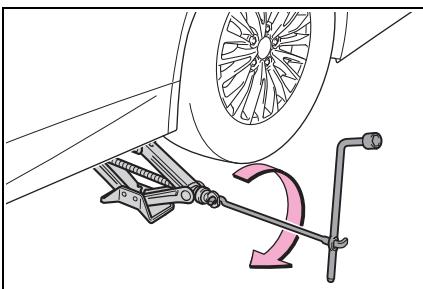
- 3 ジャッキのA部を手でまわして、ジャッキの溝をジャッキセット位置にしっかりかける**



- 4 ジャッキハンドルとホイールナットレンチを図のように組み合わせる**

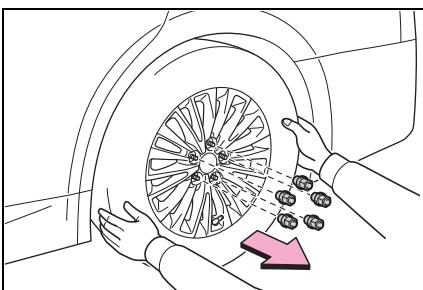


- 5 タイヤが地面から少し離れるまで、車体を上げる**



- 6 ナットすべてを取りはずし、タイヤを取りはずす**

タイヤを直接地面に置くときは、ホイールの表面に傷が付かないよう表面を上にします。



⚠ 警告

■ タイヤ交換について

- 走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください

走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっているため、タイヤ交換などで手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。

- タイヤ交換などをする際は、パワードアオフスイッチ（→P.100）をONにしてください。ONにしないと、誤ってパワースライドドアスイッチ／パワーバックドアスイッチを操作したときにスライドドア／バックドアが動き、指や手などを挟んでけがをするおそれがあります。

- 次のことをお守りいただかないとナットがゆるみ、ホイールがはずれ落ち、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ねじ部にオイルやグリースを塗らない

ナットを締めるときに必要以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。ナットを取り付けるときに、オイルやグリースがねじ部に付いている場合はふき取ってください。

- タイヤを交換したあとは、速やかに締め付けトルクを確認してください。

締め付けトルク：140N・m
(1428kgf・cm)

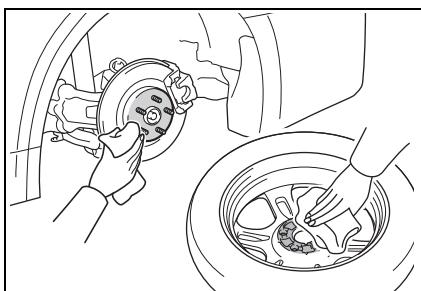
- タイヤを交換したあとは、速やかに締め付けトルクを確認してください。お客様ご自身で締め付けトルクの確認ができない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

- タイヤの取り付けには、使用しているホイール専用のホイールナットを使用し、トヨタ純正品以外のホイールナットなどは使用しないでください。
- ボルトやナットのねじ部や、ホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、トヨタ販売店で点検を受ける

応急用タイヤを取り付けるには

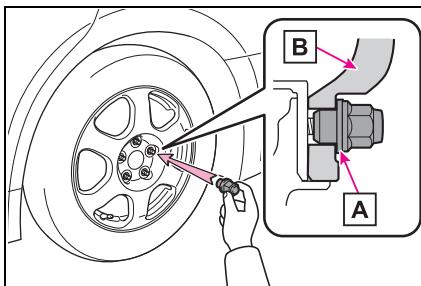
1 ホイール接触面の汚れをふき取る

ホイール接触面が汚れていると、走行中にナットがゆるみ、タイヤがはずれるおそれがあります。

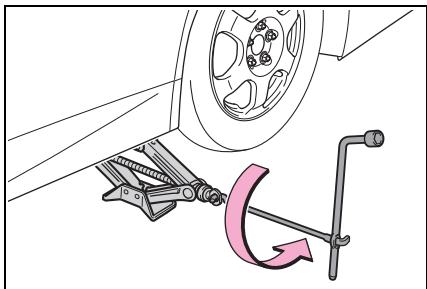


2 応急用タイヤを取り付け、タイヤががたつかない程度まで手でナットを仮締めする

ナットの座金AがホイールBにあたるまでまわします。

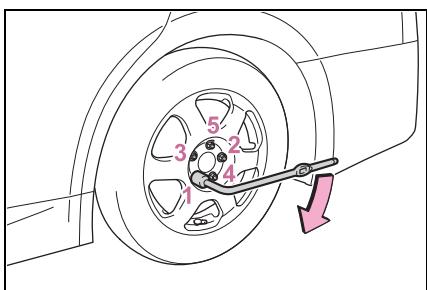


3 車体を下げる



- 4 ホイールナットレンチを使用し、図の番号順でナットを2、3度しっかりと締め付ける

締め付けトルク：
140N・m (1428kgf・cm)



- 5 すべての工具・ジャッキ・パンクしたタイヤを収納する

パンクしたタイヤは、応急用タイヤ格納位置に格納できません。ラゲージルームに収納してください。(→P.474)

□ 知識

■応急用タイヤについて

- タイヤの側面に TEMPORARY USE ONLY と書かれています。応急用にのみ使用してください。
- 空気圧を必ず点検してください。
(→P.492)

■応急用タイヤを装着しているとき

標準タイヤ装着時にくらべ車高が低くな

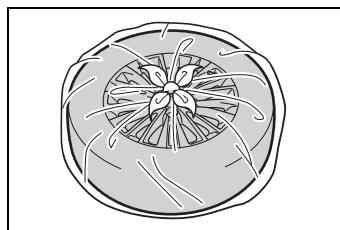
る場合があります。

■雪道・凍結路で前輪がパンクしたときは(17インチタイヤ装着車)

- 1 後輪を応急用タイヤと交換する
- 2 パンクした前輪をはずした後輪と交換する
- 3 タイヤチェーンを前輪に装着する

■標準タイヤの格納について

標準タイヤは、応急用タイヤが格納してある場所には格納できません。パンクなどではずした標準タイヤは、汚れ防止シートに包んでラゲージルームに格納してください。



⚠ 警告

■応急用タイヤを使用するときは

- お客様のお車専用になっているため、他の車には使用しないでください。
- 同時に2つ以上の応急用タイヤを使用しないでください。
- できるだけ早く通常のタイヤと交換してください。
- 急加速・急ハンドル・急ブレーキ・急減速・急旋回は避けてください。

■応急用タイヤを装着しているとき

正確な車両速度が検出できない場合があり、次のシステムが正常に作動しなくなるおそれがあります。

- ・ ABS
- ・ ブレーキアシスト
- ・ VSC

⚠️ 警告

- ・ TRC
- ・ レーダークルーズコントロール
- ・ PCS（プリクラッシュセーフティ）
- ・ EPS
- ・ LTA（レーントレーシングアシスト）
- ・ LDA（レーンディバーチャーアラート）
- ・ クリアランスソナー
- ・ パーキングサポートブレーキ
- ・ ナビゲーションシステム
- ・ パノラミックビューモニター
- ・ BSM（ブラインドスポットモニター）
- ・ RCTA（リヤクロストラフィックアラート）
- ・ 後方車両への接近通報
- ・ 安心降車アシスト
- ・ 後方車両接近告知
- ・ 周辺車両接近時サポート
- ・ セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中後衝突対応）
- ・ AHS（アダプティブハイビームシステム）
- ・ トヨタチームメイト アドバンストパーク

■ 応急用タイヤ使用時の速度制限

応急用タイヤを装着しているときは、80km/h以上の速度で走行しないでください。応急用タイヤは、高速走行に適していないため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ ジャッキや工具を使用したあとは

走行前に正しい位置に格納されているか確認してください。正しく格納されていないと、事故や急ブレーキの際、重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

⚠️ 注意

■ 応急用タイヤ装着中の注意

応急用タイヤ装着中は、標準タイヤ装着時にくらべ車高が変化します。段差を乗りこえるときは注意してください。

■ 応急用タイヤ使用時のタイヤチェーン装着

応急用タイヤには、タイヤチェーンを装着しないでください。

タイヤチェーンが車体側にあたり、走行に悪影響をおよぼすおそれがあります。

エンジンがかからないときは

正しいエンジンのかけ方
(→P.170) に従っても、エンジンがかからないときは、次の状況の中であてはまるものを確認し、適切に対処してください。

スターターは正常にまわっているのにエンジンがかからない場合

次の原因が考えられます。

- 燃料が入っていない可能性があります。
給油してください。
- 燃料を吸い込みすぎている可能性があります。
再度、正しい手順 (→P.170) に従って、エンジンをかけてください。
- エンジンイモビライザーシステムに異常がある可能性があります。(→P.57)
- シフト制御システムに異常がある可能性があります。※
(→P.119)

* シフトポジションを P から切りかえることができない可能性があります。

スターターがゆっくりまわる／室内灯・ヘッドライトが暗い／ホーンの音が小さい、または鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- バッテリーあがりの可能性があ

ります。(→P.480)

- バッテリーのターミナルがゆるんでいる可能性があります。

スターターがまわらない場合

電子キーの電池切れやヒューズ切れなど、電気系統異常の可能性があります。異常の種類によっては、エンジンを一時的な処置でかけることができます。(→P.476)

スターターがまわらない／室内灯・ヘッドライトが点灯しない／ホーンが鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- バッテリーあがりの可能性があります。(→P.480)
- バッテリーのターミナルがはずれている可能性があります。

対処の方法がわからないとき、あるいは対処をしてもエンジンがかからないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

緊急時の始動について

通常のエンジン始動操作でエンジンが始動しないときは、次の手順でエンジンが始動する場合があります。

緊急時以外は、この方法で始動させないでください。

- 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認するため、パーキングブレーキスイッチを引く(→P.181)

メーター内のパーキングブレーキ表示灯

が点灯します。

2 エンジンスイッチを ACC^{*1} に
する ^{*2}

3 ブレーキペダルをしっかりと踏ん
でエンジンスイッチを約 15 秒
以上押し続ける

上記の方法でエンジンが始動して
も、システムの故障が考えられま
す。ただちにトヨタ販売店で点検
を受けてください。

^{*1}カスタマイズメニューで ON / OFF
を切りかえることができます。
(→P.493)

^{*2}ACCがない場合は、エンジンスイッ
チを ON にしたあとにエンジンス
イッチを OFF にして、5 秒以内に次
の手順を実施してください。

キーをなくしたときは

キーナンバープレートに打刻さ
れたキーナンバーと残りのキー
から、トヨタ販売店でトヨタ純
正品の新しいキーを作ることができます。

キーナンバープレートは車の中
以外の安全な場所（財布の中な
ど）に保管してください。



注意

■電子キーを紛失したとき

電子キーを紛失した状態で放置すると、
盗難の危険性が極めて高くなります。
車両に付属している残りの電子キーを
すべてお持ちの上、ただちにトヨタ販
売店にご相談ください。

電子キーが正常に動かないときは

電子キーと車両間の通信がさまたげられたり（→P.119）、電子キーの電池が切れたときは、スマートエントリー＆スタートシステムとワイヤレスリモコンが使用できなくなります。このような場合、次の手順でドアを開けたり、エンジンを始動したりすることができます。

知識

■電子キーが正常に動かないときは

- 車両カスタマイズ機能でスマートエントリー＆スタートシステムの設定を確認し、非作動になっている場合には、作動可能に設定変更してください。（→P.497）
- 電子キーが節電モードに設定されていないことを確認してください。設定されている場合は解除してください。（→P.118）
- 電子キーの機能が停止している可能性があります。（→P.119）



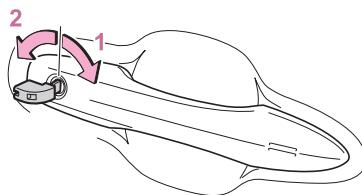
注意

■スマートエントリー＆スタートシステムの故障などで販売店に車両を持っていくとき

車両に付属しているすべての電子キーをお持ちください。

ドアの施錠・解錠

メカニカルキー（→P.88）を使って次の操作ができます。（運転席ドアのみ）

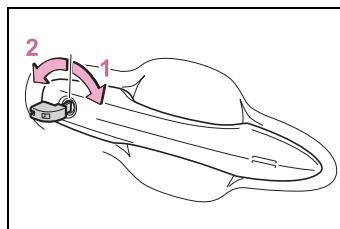


1 全ドア施錠

2 全ドア解錠

知識

■キー連動機能



1 ドアガラスが閉まる（まわし続ける）※

2 ドアガラスが開く（まわし続ける）※

* トヨタ販売店での設定が必要です。



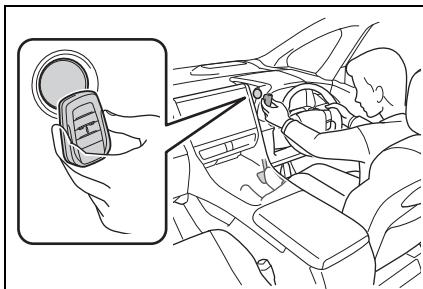
警告

■メカニカルキーを使ってドアガラスを操作するとき

ドアガラスに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、メカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

エンジンを始動するには

- 1 シフトポジションが P の状態でブレーキペダルを踏む
- 2 図のように、スイッチが付いている側を表にして、電子キーでエンジンスイッチにふれる
電子キーを認識するとブザーが鳴り、ON へ切りかわります。
車両カスタマイズ機能でスマートエントリー＆スタートシステムの設定が非作動になっている、かつ ACC カスタマイズが ON のときは、ACC へ切りかわります。



- 3 ブレーキペダルをしっかりと踏み込んで、マルチインフォメーションディスプレイに  とメッセージが表示されていることを確認する
- 4 エンジンスイッチを短く確実に押す

処置をしても作動しないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

□ 知識

■ エンジンの停止方法

通常のエンジンの停止方法と同様に、パーキングブレーキをかけ、シフトポジションを P にしてエンジンスイッチを押します。

■ 電子キーの電池交換

ここで説明しているエンジンの始動方法は一時的な処置です。電池が切れたときは、ただちに電池の交換をおすすめします。（→P.428）

■ オートアラームについて

メカニカルキーで施錠した場合、オートアラームが設定されません。なお、オートアラーム設定中にメカニカルキーで解錠すると、警報が鳴りますのでご注意ください。（→P.58）

■ エンジンスイッチのモードの切りかえ

エンジン始動方法の手順 3 で、ブレーキペダルから足を離してエンジンスイッチを押すとエンジンが始動せず、スイッチを押すごとにモードが切りかわります。（→P.172）

バッテリーがあがったときは

バッテリーがあがった場合、次の手順でエンジンを始動することができます。

エンジンを再始動するには

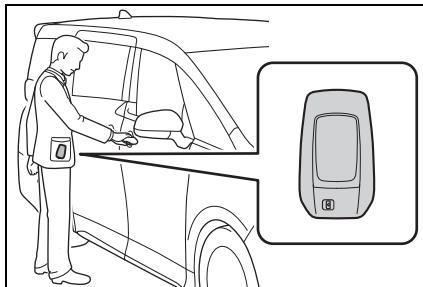
ブースターケーブルと 12V のバッテリー付き救援車があれば、手順に従って、エンジンを始動させることができます。

1 電子キーを携帯していることを確認する

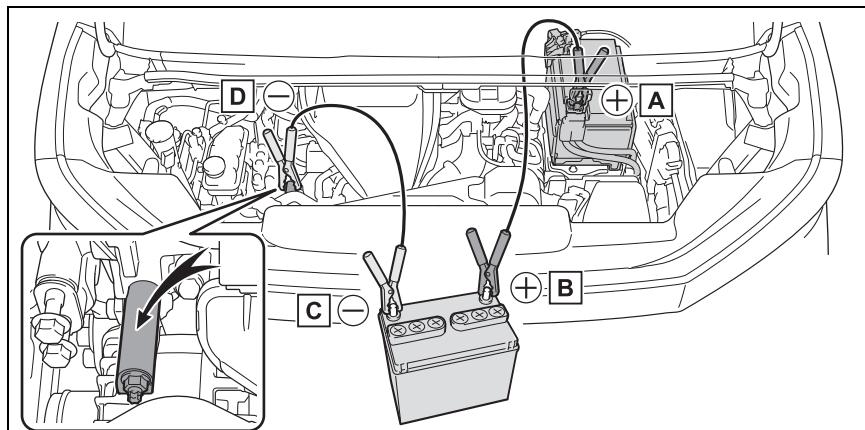
2 赤色のブースターケーブルを自車のバッテリーの+端子A**につなぎ、もう一方の端を救援車のバッテリーの+端子**B**につなぐ。その後、黒色のブースターケーブルを救援車のバッテリーの-端子**C**につなぎ、もう一方の端を金属部**D**につなぐ**

ブースターケーブルは、指定の端子および接続箇所に届くものを使用してください。

ブースターケーブル接続時、場合によっては、オートアラームが作動し自動的にドアが施錠されます。（→P.59）



2 ボンネットを開ける
（→P.419）



A バッテリーの+端子（自車）

B バッテリーの+端子（救援車）

C バッテリーの-端子（救援車）

D 図に示す金属部

- 4 救援車のエンジンをかけ、回転を少し高めにして、約5分間自家車のバッテリーを充電する
- 5 救援車のエンジン回転を維持したまま、エンジンスイッチをいったんONにしてからエンジンを始動する
- 6 エンジンが始動したら、ブースターケーブルをつないだときと逆の順ではすす

エンジンが始動しても、早めにトヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

■バッテリーあがり時の始動について

この車両は、押しがけによる始動はできません。

■バッテリーあがりを防ぐために

- エンジンが停止しているときは、ランプやオーディオの電源を切ってください。
- 渋滞などで長時間止まっているときは、不必要的電装品の電源を切ってください。
- ACCカスタマイズがOFFのときは、エンジンスイッチがOFFの状態でもマルチメディアシステムに電源が供給されます。マルチメディアシステムの電源をOFFにしてください。詳しくは、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。
- バッテリーがあがってしまったときは
- コンピューターに記憶されている情報が消去されます。バッテリーがあがったときはトヨタ販売店で点検を受けてください。

- 初期設定が必要な機能があります。
(→P.508)

■バッテリー端子をはずすときは

バッテリー端子をはずすと、コンピューターに記憶されている情報が消去されます。バッテリー端子をはずすときは、トヨタ販売店にご相談ください。

■バッテリーの充電について

バッテリーの電力は、車両を使用していないあいだも、一部の電装品による消費や自然放電のために、少しずつ消費されています。そのため、車両を長期間放置すると、バッテリーがあがってエンジンを始動できなくなるおそれがあります。(バッテリーは走行中に自動で充電されます)

■バッテリーあがり時や取りはずし時など

- バッテリー脱着直後はスマートエントリー＆スタートシステムによるドアの解錠ができない場合があります。解錠できなかった場合はワイヤレスリモコン、またはメカニカルキーで解錠・施錠を実施してください。
- バッテリー脱着後、最初の始動操作ではエンジンが始動できないことがありますが異常ではありません。再度始動操作を行ってください。
- 車両は常に電源の状態を記憶しています。バッテリー脱着時、車両はバッテリーをはずす前の状態に復帰します。バッテリーを脱着する際は、エンジンスイッチをOFFにしてから行ってください。バッテリーがあがる前の状態が不明の場合、バッテリー接続時は特に注意してください。
- バッテリーがあがった場合は、Pから他のポジションに切りかえることができ

ない可能性があります。その場合は、前輪が固定されているため、前輪を持ち上げないと車両の移動ができません。

■バッテリーを交換するときは

- 欧州規格バッテリーを使用してください。
- 交換前と同一のケースサイズ（LN3）、20 時間率容量（20HR）が同等（65Ah）以上、かつ性能基準（CCA）が同等（600A）以上のバッテリーを使用してください。
- ・ ケースサイズが異なると、バッテリーが正しく固定されません。
- ・ 20 時間率容量が小さいと、車両を使用していない時期が短い期間であってもバッテリーがあがって、エンジンの始動ができなくなるおそれがあります。
- 装着されているバッテリーは、Stop & Start システム専用品です。LN3 またはそれ以上の性能を持つバッテリーと交換してください。適切なバッテリーをご使用いただかない場合、バッテリー保護のために Stop & Start システムの作動が制限されます。さらにバッテリーの早期劣化や、最悪の場合にはエンジンが再始動しなくなるおそれがあります。
- 詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。



■バッテリー端子をはずすときは

必ず-端子を先にはずしてください。
+端子を先にはずすと、+端子が周辺の金属部分にふれた場合、火花が発生し火災につながるおそれがあるほか、感電し重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■バッテリーの引火または爆発を防ぐために

バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険ですので、火や火花が発生しないよう、次のことをお守りください。

- ブースターケーブルは正しい端子または接続箇所以外に接続しない
- +端子に接続したブースターケーブルの先を付近のブラケットや未塗装の金属部に接触させない
- ブースターケーブルは+側と-側の端子を絶対に接觸させない
- バッテリー付近では、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こさない

■バッテリーの取り扱いについて

バッテリー内には有毒で腐食性のある酸性の電解液が入っており、また関連部品には鉛または鉛の混合物を含んでいるので、取り扱いに関し、次のことを必ずお守りください。

- バッテリーを取り扱うときは保護メガネを着用し、液（酸）が皮膚・衣服・車体に付着しないようにする
- 必要以上、顔や頭などをバッテリーに近付けない
- 誤ってバッテリー液（酸）が体に付着したり目に入ったりした場合、ただちに大量の水で洗い、すぐに医師の診察を受ける
また、医師の診察を受けるまで、水を含ませたスポンジや布を患部にあてておく
- 誤ってバッテリー液（酸）を飲み込んだ場合、多量の水を飲んで、すぐに医師の診察を受ける

⚠ 警告

- バッテリーの支柱・ターミナル・その他の関連部品の取り扱い後は手を洗う
- お子さまをバッテリーに近付けない
- **バッテリーのマイナス端子について**
ボデーに接続されたバッテリーのマイナス端子をはずさないでください。誤ってはずすとプラス端子と接触し、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■ ブースターケーブルの取扱いについて

ブースターケーブルを接続したり、取りはずすときは、冷却ファンやベルトに巻き込まれないように十分注意してください。

■ ブースターケーブルを接続するときは

指定の端子および接続箇所以外にブースターケーブルを接続しないでください。電子機器に悪影響をおよぼしたり、破損につながったりするおそれがあります。

■ バッテリーを取りはずすときは

バッテリーをエアクリーナーなどの周辺部品に落下させないように十分注意してください。

オーバーヒートしたときは

次のような場合は、オーバーヒートの可能性があります。

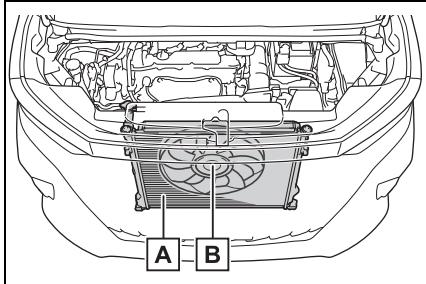
- 水温計（→P.67）の表示がレッドゾーンに入ったり、エンジンの出力が低下する（スピードが出ないなど）
- マルチインフォメーションディスプレイに“エンジン冷却水高温 安全な場所に停車して取扱書を確認してください”が表示される
- エンジンルームから蒸気が出る

対処方法

■ 水温計の表示がレッドゾーンに入ったり、マルチインフォメーションディスプレイに“エンジン冷却水高温 安全な場所に停車して取扱書を確認してください”が表示されたとき

- 1 安全な場所に停車し、エアコンをOFFにしてから、エンジンを停止する
- 2 蒸気が出ている場合：
蒸気が出なくなったことを確認してから、注意してボンネットを開ける
蒸気が出ていない場合：
注意してボンネットを開ける
- 3 エンジンが十分に冷えてから、ラジエーターコア部（放熱部）やホースなどからの冷却水もれを点検する
多量の冷却水もれがある場合は、ただち

にトヨタ販売店に連絡してください。

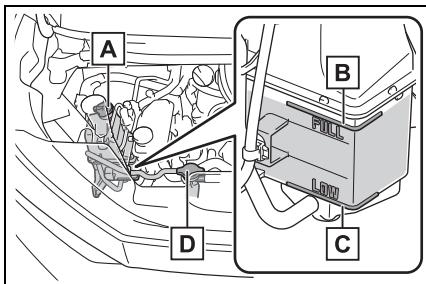


A ラジエーター

B ファン

- 4** 冷却水の量がリザーバータンクの“FULL”／“MAX”（上限）と“LOW”／“MIN”（下限）のあいだにあるかを点検する

● エンジン



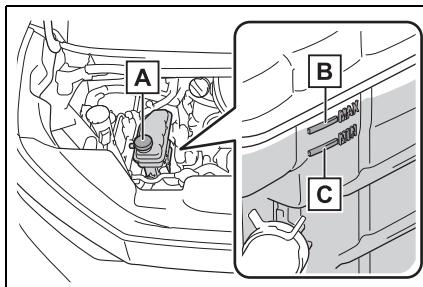
A リザーバータンク

B “FULL”（上限）

C “LOW”（下限）

D ラジエーターキャップ

● インタークーラー



A リザーバータンク

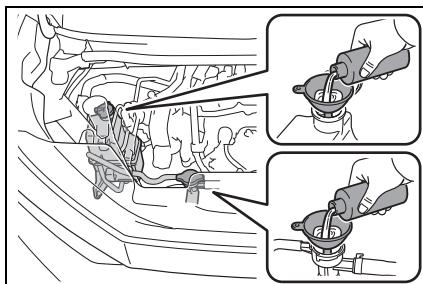
B “MAX”（上限）

C “MIN”（下限）

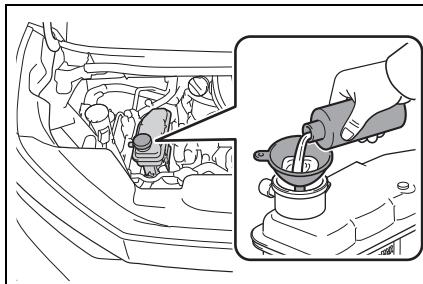
- 5** 冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する

冷却水がない場合は、応急措置として水を補給してください。

● エンジン



● インタークーラー



- 6** エンジンを始動し、エアコンを作動させてラジエーター冷却用のファンが作動しているか、お

およびラジエーターコアやホースなどから冷却水もれがないことを再度確認する

エンジンが冷えた状態での始動直後は、エアコンをONにすることでファンが作動します。ファンの音や風で確認してください。わかりにくいときは、エアコンのON・OFFをくり返してください。(ただし、氷点下となる寒冷時はファンが作動しないことがあります)

- 7 ファンが作動していない場合：
すぐにエンジンを停止し、
トヨタ販売店に連絡する
ファンが作動している場合：
最寄りのトヨタ販売店で点検を受ける

⚠ 警告

■ エンジンルームを点検しているとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。

- エンジンルームから蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。エンジンルーム内が高温になっています。
- 冷却ファンが回転しているときはエンジンルーム内にふれたり、近付いたりしないでください。

ファンなどの回転部分にふれたり、近付いたりすると、手や着衣(特にネクタイ／スカーフ／マフラーなど)が巻き込まれたりして、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

冷却ファンはエアコンが作動しているときや、冷却水の温度が高いときに自動で作動します。

また、エンジンスイッチをOFFにしても数分間作動することがあります。

- エンジンおよびラジエーターが熱い場合は、冷却水リザーバータンクのキャップや、ラジエーターのキャップを開けないでください。

高温の蒸気や冷却水が噴き出すおそれがあります。

⚠ 注意

■ 冷却水を入れるとき

エンジンが十分に冷えてからゆっくり入れてください。

エンジンが熱いときに急に冷たい冷却水を入れると、エンジンが損傷するおそれがあります。

■ 冷却系統の故障を防ぐために

次のことをお守りください。

- 異物(砂やほこりなど)を冷却水に混入させない
- 市販の冷却水用添加剤を使用しない

スタックしたときは

ぬかるみや砂地・雪道などでタイヤが空転したり埋まり込んで動けなくなつたときは次の方法を試みてください。

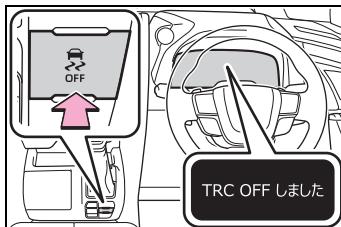
脱出するには

- 1 パーキングブレーキをかけシフトポジションを P にして、エンジンを停止する
- 2 前輪周辺の土や雪などを取り除く
- 3 前輪の下に木や石などをあてがう
- 4 エンジンを再始動する
- 5 シフトポジションを確実に D または R にし、パーキングブレーキを解除して注意しながらアクセルペダルを踏む



脱出しにくいとき

OFF スイッチを押して TRC を OFF してください。



⚠ 警告

■ 脱出するとき

前進と後退をくり返してスタックから脱出する場合、他の車・ものまたは人との衝突を避けるため周囲に何もないことを確認してください。

スタックから脱出するとき、車が前方または後方に飛び出すおそれがありますので、特に注意してください。

■ シフトレバーを操作するとき

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。

車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■ トランスミッションやその他の部品への損傷を避けるために

- 前輪が空転するのを避け、必要以上にアクセルペダルを踏まないでください。
- 上記の方法で脱出できなかつた場合、けん引による救援が必要です。

8-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など） **488**

8-2. カスタマイズ機能

ユーザー カスタマイズ機能一覧 **493**

8-3. 初期設定

初期設定が必要な項目 **508**

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）

使用するオイルや液類の品質により、お車の寿命は著しく左右されます。

お車には、最も適した弊社純正オイル・液類（以下、「指定銘柄」といいます）のご使用をおおすすめします。

指定銘柄以外を使用される場合は、指定銘柄に相当する品質のものをご使用ください。

燃料

指定燃料	容量 [L] (参考値)
・ 無鉛プレミアムガソリン（無鉛ハイオク）※1	► FF (前輪駆動) 75
・ バイオ混合ガソリン（プレミアム）※2	► 4WD (4 輪駆動) 65

*1 無鉛レギュラーガソリンを使用することもできます。その場合、エンジン性能を十分に発揮できません。

*2 エタノールの混合率 10% 以下、または ETBE の混合率 22% 以下のガソリン（酸素含有率 3.7% 以下）を使用することができます。

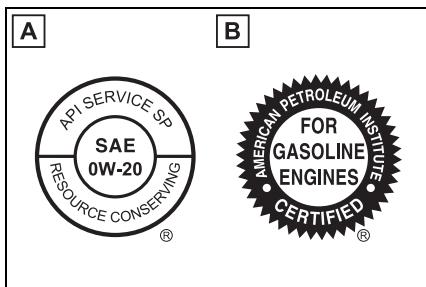
エンジンオイル

指定銘柄	容量 [L] (参考値 *)	
	オイルのみ交換	オイルとオイルフィルター交換
推薦： トヨタ純正モーターオイル SP 0W-20 —API SP/RC, ILSAC GF-6A, SAE 0W-20 適合： トヨタ純正モーターオイル SP 5W-30 —API SP/RC, ILSAC GF-6A, SAE 5W-30	5.0	5.3

* エンジンオイルの容量は交換する際の目安です。オイル量の確認は、エンジンの暖機後に停止し、5 分以上経過してからレベルゲージで行ってください。

■ 指定エンジンオイル

API 規格 SP/RC、SN PLUS/RC、SN/RC か、ILSAC 規格に合致したオイルをご使用ください。OW-20 は、新車時に工場充填されている推奨オイルであり、優れた省燃費性能を発揮できます。OW-20 が入手困難な場合は、5W-30 もご使用いただけます。なお、ILSAC 規格合格油の缶には ILSAC CERTIFICATION (イルサックサーティフィケーション) マークがついています。

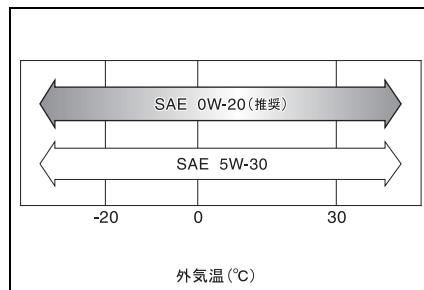


A API マーク

B ILSAC CERTIFICATION マーク

■ エンジンオイル推奨粘度

下記図に基づき、外気温に適した粘度のものをご使用ください。



オイル粘度について（例として OW-20 で説明します）：

- OW-20 の OW は、低温時のエンジン始動特性を示しています。W の前の数値が小さいほど冬場や寒冷時のエンジン始動が容易になります。
- OW-20 の 20 は、高温時の粘度特性を示しています。粘度の高い（数値が大きい）オイルは、高速または高負荷走行に適しています。

ラジエーター

指定銘柄	容量 [L] (参考値)	
	ガソリンエンジン	インターフーラー
トヨタ純正スーパーロングライフクーラント		
凍結保証温度		
濃度 30% - 12° C	10.8	2.1
濃度 50% - 35° C		

トランスミッション

指定銘柄	容量 [L] (参考値 *)
トヨタ純正オートフルード WS	7.3

* 交換が必要な際はトヨタ販売店にご相談ください。

⚠ 注意

■ トランスミッションフルードについて

指定銘柄以外のフルードを使用すると、振動・異音の発生や、故障などの原因になるおそれがあります。

トランスファー（4WD 車）

指定銘柄	容量 [L] (参考値 *)
トヨタ純正ディファレンシャルギヤオイル LT (API GL-5 SAE 75W-85)	0.45

* 交換が必要な際はトヨタ販売店にご相談ください。

⚠ 注意

■ トランスファーフルードについて

指定銘柄以外のフルードを使用すると、振動・異音の発生や、故障などの原因になるおそれがあります。

リヤディファレンシャル（4WD 車）

指定銘柄	容量 [L] (参考値 *)
トヨタ純正ディファレンシャルギヤオイル LT (API GL-5 SAE 75W-85)	0.5

* 交換が必要な際はトヨタ販売店にご相談ください。

⚠ 注意

■ リヤディファレンシャルフルードについて

指定銘柄以外のフルードを使用すると、振動・異音の発生や、故障などの原因になるおそれがあります。

ブレーキ

■ ブレーキフルード

指定銘柄
トヨタ純正ブレーキフルード 2500H-A

■ ブレーキペダル ^{※1}

項目	基準値 [mm]
遊び	1 ~ 6
踏み込んだときの床板とのすき間 ^{※2}	156.7

^{※1} ブレーキペダルの点検に併せて、エンジンが作動している状態のとき、ブレーキ警告灯（赤色）が点灯していないことも必ず確認してください。
 （警告灯が点灯した場合の対処については、P.445 を参照してください）

^{※2} エンジンが作動している状態で 490N (50kgf) の踏力をかけたときの床板とのすき間の最小値

■ パーキングブレーキ

項目	パーキングブレーキ表示灯の状態
パーキングブレーキスイッチを 1 秒以上 2 秒以内で押したとき	消灯
パーキングブレーキスイッチを 1 秒以上 2 秒以内で引いたとき	点灯

このとき、ブレーキ警告灯（黄色）が点灯していないことを確認してください。
 （警告灯が点灯した場合の対処については、P.445 を参照してください）

ウォッシャータンク

容量 [L] (参考値)
2.5

タイヤ・ホイール

■ サイズ・空気圧

タイヤサイズ		ホイールサイズ	タイヤが冷えているとき の空気圧 kPa (kg/cm ²)	
			前輪	後輪
標準タイヤ	225/65R17 102H	17 × 6 1/2J	230 (2.3)	230 (2.3)
	225/55R19 103H XL	19 × 7J	260 (2.6)	260 (2.6)
応急用タイヤ★	T165/80D17 104M	17 × 4T	420 (4.2)	

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ ホイールナット締め付けトルク

トルク [N・m (kgf・cm)]	
標準タイヤ	140 (1428)
応急用タイヤ★	

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

車両仕様

名称	型式	エンジン	駆動方式
ヴェルファイア	TAHA40W	T24A-FTS (2.4L ガソリン)	FF (前輪駆動)
	TAHA45W		4WD (4 輪駆動)

ユーザーカスタマイズ機能一覧

お車に装備されている各種の機能は、ご希望に合わせてトヨタ販売店で作動内容を変更することができます。また、マルチメディアディスプレイの操作により、設定を変更することができる機能もあります。

一部の車両カスタマイズ設定は、マイセッティングと連動して設定が変更されます。（→P.156）

設定を変更するには

■ で設定するには

- 1 マルチメディアディスプレイの  を選択する
- 2 “車両カスタマイズ” または “運転支援” を選択する
- 3 一覧表示された中から設定を変更する項目を選択する

作動・非作動を変更できる機能では、
 (作動) ·  (非作動) を選択します。

音量やセンサーの感度などを変更できる機能では、バー上のアイコンをスライドしてレベルを調整します。

■ で設定するには

- 1 マルチメディアディスプレイの  を選択する
- 2 “運転支援” を選択する

車両カスタマイズ設定一覧

機能によっては、他の機能と連動して設定がかわるものもあります。詳し

3 一覧表示された中から設定を変更する項目を選択する

作動・非作動の設定は、選択するたびに切りかわります。

作動状態を選択すると、項目が強調表示されます。



■ カスタマイズ設定を行うとき

安全な場所に停車し、パーキングブレーキをかけ、シフトポジションを P にしてください。また、バッテリー上がりを防ぐため、エンジンが作動している状態で操作を行ってください。

■ について

一部の車両カスタマイズ設定は、 からも設定を変更することができます。



■ マルチメディアディスプレイでカスタマイズ設定を行うとき

エンジンを始動した状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



■ カスタマイズを行うときは

バッテリー上がりを起こす可能性がありますので、確実にエンジンが作動している状態で実施してください。

くはトヨタ販売店へお問い合わせください。

A マルチメディアディスプレイの画面操作で設定変更可能

B トヨタ販売店で設定変更可能

■ オートアラーム (→P.58)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B
メカニカルキーを使って解錠したときのアラーム解除	なし	あり	—	○

■ メーター、マルチインフォメーションディスプレイ (→P.62, 67)

言語や単位などの一部の項目は、マルチメディアディスプレイの設定に連動してメーター、マルチインフォメーションディスプレイの表示も変更されます。設定の変更については、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

機能の内容	初期設定	変更後	A	B
メーター表示タイプ*	タイプ2	タイプ1	○	—
		タイプ3		—
メーターデザインタイプ	スマート	カジュアル	○	—
		タフ		—
		スポーティー		—
エコドライブインジケーター ランプ	あり	なし	○	—
提案サービス*	あり	あり（停車中のみ）	○	○
		なし		
制動灯表示灯	あり	なし	○	—

* マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ ヘッドアップディスプレイ (→P.73)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B
ヘッドアップディスプレイ表 示*	あり	なし	○	—
ヘッドアップディスプレイ表 示タイプ*	スタンダード	フル	○	—
		ミニマム		—

機能の内容	初期設定	変更後	A	B
ヘッドアップディスプレイの明るさ	標準	任意の照度	○	—
ヘッドアップディスプレイの表示位置	標準	任意の位置	○	—
ヘッドアップディスプレイの傾き調整	標準	任意の傾き	○	—

* マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ ステアリングスイッチ (→P.78)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B
右側ステアリングスイッチお気に入り機能 *	画面切り替え／調整	カスタム	○	—
左側ステアリングスイッチお気に入り機能 *	オーディオ	エアコン	○	—
		カスタム	—	○
スイッチセンサー高感度モード（防寒手袋モード）*	なし	あり	○	—
表示開始感度	標準	高感度	—	○
		OFF	—	○
タイムアウト時間	標準	短	—	○
		長	—	○

* マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ ドアロック (→P.92, 478)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B
車速感応オートドアロック *	あり	なし	○	○
シフトポジションを P 以外にしたときの全ドア施錠（シフト操作連動ドアロック）*	なし	あり	○	○

機能の内容	初期設定	変更後	[A]	[B]
シフトポジションを P にしたときの全ドア解錠（シフト操作連動アンロック）※	あり	なし	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
運転席ドアを開けたときの全ドア解錠（運転席ドア開連動アンロック）※	なし	あり	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

* マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ パワースライドドア（→P.96）

機能の内容	初期設定	変更後	[A]	[B]
ブザー音色	ブザー A	ブザー B	<input type="radio"/>	—
		ブザー C	<input type="radio"/>	—
ブザー音量	大	小	<input type="radio"/>	—
		Off	<input type="radio"/>	—

■ パワーバックドア（→P.107）

機能の内容	初期設定	変更後	[A]	[B]
パワーバックドア開度調節	開度 5	お好みの位置（高さ）※	<input type="radio"/>	—
		開度 1 ~ 5	<input type="radio"/>	—
ブザー音量	大	小	<input type="radio"/>	—
		中	<input type="radio"/>	—

* バックドアのスイッチ操作で設定します。（→P.115）

■ スマートエントリー＆スタートシステム、ワイヤレスドアロック共通（→P.92, 117）

機能の内容	初期設定	変更後	[A]	[B]
作動の合図（ブザー音量調整）※	レベル 5	OFF	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
		レベル 1 ~ 7	<input type="radio"/>	—
作動の合図（非常点滅灯）※	あり	なし	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

機能の内容	初期設定	変更後	A	B
解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠までの時間※	30秒	60秒	—	○
		120秒	—	○
半ドア警告ブザー	あり	なし	—	○

* マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ スマートエントリー&スタートシステム（→P.117）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B
スマートエントリー&スタートシステム	あり	なし	○	○
連続ロック操作の有効回数	2回	無制限	—	○
降車オートロック機能	なし	あり	—	○
パワーバックドア閉作動中降車オートロック機能	なし	あり	—	○
接近時オートアンロック機能	なし	あり	—	○

■ ワイヤレスドアロック（→P.86, 92）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B
ワイヤレスリモコンの  スイッチでのパワー バックドアを開くときの操作	1回押し続ける	1回押し	—	○
		2回押し		
		非作動		

■ ポジションメモリー（→P.152）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B
降車時の運転席シート前後移動量※	標準	OFF	○	○
		少なめ		
降車時のステアリング移動	上下のみ	前後のみ	○	—
		全て作動		
		OFF		

* マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ ドアミラー (→P.146)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B
オート電動格納作動	ドアの施錠・解錠と連動	OFF エンジンスイッチと連動	—	○

■ パワーウィンドウ (→P.149)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B
メカニカルキー連動開閉機能	なし	あり	—	○
ワイヤレスリモコン連動開閉機能	なし	あり	—	○
ワイヤレスリモコン連動開閉作動の合図 (ブザー)	あり	なし	—	○

■ エンジンスイッチ (→P.172)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
ACC カスタマイズ ACC の ON / OFF を切りかえる	ON / OFF	○	○

■ ランプ自動点灯・消灯システム (→P.187)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B
ライトセンサーの感度調整 [*]	より暗い	より明るい 明るい 標準 暗い	○	○
ワイパー連動ヘッドライト点灯機能	なし	あり	—	○
ランプ消し忘れ防止機能	エンジンスイッチを OFF にする	フロントドアまたはスライドドアを開ける	—	○

* マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ ランプ (→P.187)

機能の内容	初期設定	変更後	[A]	[B]
LED デイライト	あり	なし	—	○
おもてなし照明の制御	あり	なし	—	○

■ AHS (アダプティブハイビームシステム) (→P.190)

機能の内容	カスタマイズ設定	[A]	[B]
アダプティブハイビームシステム	ON / OFF*	—	○
車速に応じた、ハイビームの明るさと照らす範囲の調整	15km/h / 30km/h / 80km/h	—	○
カーブを走行しているとき、進行方向側のハイビームを明るく照らす	ON / OFF	—	○
先行車との距離に応じた、ロービームの照らす範囲の調整	ON / OFF	—	○
雨天時用のハイビーム配光制御	ON / OFF	—	○
市街地用の配光制御	ON / OFF	—	○

* OFF に変更しても、ハイビームとロービームが自動的に切りかわります。

(→P.193)

■ PCS (プリクラッシュセーフティ) (→P.216)

機能の内容	カスタマイズ設定	[A]	[B]
プリクラッシュセーフティ	ON / OFF	○	—
警報タイミング*	遅い／標準／早い	○	—

* マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ FCTA (フロントクロストラフィックアラート) (→P.244)

機能の内容	カスタマイズ設定	[A]	[B]
フロントクロストラフィックアラート	ON / OFF	○	—
注意喚起タイミング*	遅い／標準／早い	○	—

* マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ LDA (レーンディパーチャーアラート) (→P.234)

機能の内容	カスタマイズ設定	[A]	[B]
レーンディパーチャーアラート*	ON／OFF	<input type="radio"/>	—
警報タイミング*	標準／早い	<input type="radio"/>	—
警報手段*	ハンドル振動／ブザー	<input type="radio"/>	—
低車速支援*	ON／OFF	<input type="radio"/>	—

* マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ LCA (レーンチェンジアシスト) (→P.230)

機能の内容	カスタマイズ設定	[A]	[B]
レーンチェンジアシスト*	ON／OFF	<input type="radio"/>	—

* マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ レーダークルーズコントロール (DRCC) (→P.251)

機能の内容	カスタマイズ設定	[A]	[B]
再発進可能時間延長*	ON／OFF	<input type="radio"/>	—
加速度設定*	弱／中／強	<input type="radio"/>	—
速度設定(短押し)*	1km/h／5km/h／10km/h	<input type="radio"/>	—
速度設定(長押し)*	1km/h／5km/h／10km/h	<input type="radio"/>	—
ガイド文言表示*	ON／OFF	<input type="radio"/>	—
カーブ速度抑制*	OFF／弱／中／強	<input type="radio"/>	—

* マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ PDA (プロアクティブドライビングアシスト) (→P.239)

機能の内容	カスタマイズ設定	[A]	[B]
プロアクティブドライビングアシスト(PDA)*	ON／OFF	<input type="radio"/>	—
支援感度*	低い／中間／高い	<input type="radio"/>	—
操舵アシスト(SA)*	ON／OFF	<input type="radio"/>	—

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
減速アシスト (DA) *	ON / OFF	<input type="radio"/>	—
障害物先読みアシスト (OAA) *	ON / OFF	<input type="radio"/>	—

* マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ 発進遅れ告知 (→P.246)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
先行車 *	ON / OFF	<input type="radio"/>	—
信号 *	ON / OFF	<input type="radio"/>	—
告知タイミング *	早い／標準／遅い	<input type="radio"/>	—

* マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ RSA (ロードサインアシスト) (→P.248)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
ロードサインアシスト *	ON / OFF	<input type="radio"/>	—
速度標識超過告知方法 *	無／表示／表示とブザー	<input type="radio"/>	—
その他告知方法 *	無／表示／表示とブザー	<input type="radio"/>	—
速度超過告知車速 *	10km/h / 5km/h / 2km/h	<input type="radio"/>	—

* マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ 休憩提案 (→P.234)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
休憩提案	ON / OFF	<input type="radio"/>	—

■ ITS Connect★ (→P.271)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
支援タイミング	遅い／早い	<input type="radio"/>	—
信号情報	ON / OFF	<input type="radio"/>	—
道路環境情報	ON / OFF	<input type="radio"/>	—
緊急車両通知	ON / OFF	<input type="radio"/>	—
通信利用型クルーズ	ON / OFF	<input type="radio"/>	—

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ アドバンスト ドライブ（渋滞支援）（→P.267）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
アドバンストドライブ*	ON／OFF	<input type="radio"/>	—

* マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ ドライバーモニター（→P.215）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
注意喚起*	ON／OFF	<input type="radio"/>	—

* マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ Stop & Start システム（→P.277）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B
エアコンが ON の時のアイドリングストップ時間の切替	Normal	Long	<input type="radio"/>	—

■ BSM（ブラインドスポットモニター）（→P.283）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
ブラインドスポットモニター機能	あり／なし	<input type="radio"/>	—
ドアミラーインジケーターの明るさ*	暗い／明るい	<input type="radio"/>	—
接近車両を知らせるタイミング（感度）*	遅い／普通／早い	<input type="radio"/>	—
ブザー警報*	あり／なし	<input type="radio"/>	—

* マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ クリアランスソナー（→P.304）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
クリアランスソナー機能* ¹	あり／なし	<input type="radio"/>	—
ブザー音量* ^{1, 2}	レベル1／レベル2／レベル3	<input type="radio"/>	—

*¹ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

*²クリアランスソナー、リヤクロストラフィックアラート、リヤカメラディテクショ

ンの音量調整は連動しています。

■ RCTA (リヤクロストラフィックアラート) (→P.311)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
リヤクロストラフィックアラート機能	On / Off	<input type="radio"/>	—
リヤクロストラフィックアラート作動時のブザー音量 ※1,2	レベル1 / レベル2 / レベル3	<input type="radio"/>	—

*1マイセッティングと連動して設定が変更されます。

*2クリアランスソナー、リヤクロストラフィックアラート、リヤカメラディテクションの音量調整は連動しています。

■ RCD (リヤカメラディテクション) (→P.316)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
RCD 機能	ON / OFF	<input type="radio"/>	—

■ PKSB (パーキングサポートブレーキ) (→P.319)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
PKSB (パーキングサポートブレーキ) 機能*	ON / OFF	<input type="radio"/>	—

* マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ トヨタチームメイト アドバンストパーク* (→P.334)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B
音声案内	あり	なし	<input type="radio"/>	—
速度モード	標準	遅め	<input type="radio"/>	—
		速め		
障害物回避距離	標準	遠い	<input type="radio"/>	—
優先駐車方法	並列	縦列	<input type="radio"/>	—
優先駐車向き	バック	前向き	<input type="radio"/>	—
優先出庫方向（並列）	左	右	<input type="radio"/>	—
優先出庫方向（縦列）	右	左	<input type="radio"/>	—
駐車時の映像	ノーマル	ワイド	<input type="radio"/>	—

機能の内容	初期設定	変更後	A	B
出庫時の映像	ワイド	ノーマル	○	—
駐車進路調整	0 (中央)	−3 (内側) ~ +3 (外側)	○	—
道幅調整	標準	やや狭い	○	—
		狭い		
駐車位置調整 (前向き)	0 (中央)	−3 (後) ~ +3 (前)	○	—
駐車位置調整 (バック)	0 (中央)	−3 (後) ~ +3 (前)	○	—
後部取付部品設定	取付なし	10cm		
		20cm	○	—
		30cm		
		40cm		
登録した場所の消去	—	—	○	—

* ガイド画面を表示することで設定を変更することができます。(→P.340)

■ 後方車両接近告知 (→P.289)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
後方車両接近告知機能 *	あり / なし	○	—
接近車両を知らせるタイミング (感度) *	遅い / 標準 / 早い	—	○

* マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ 周辺車両接近時サポート (→P.291)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
周辺車両接近時サポート機能 *	あり / なし	○	—

* マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ 安心降車アシスト (→P.299)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
安心降車アシスト機能	On／Off	<input type="radio"/>	—
ドアミラーインジケーター表示※	あり／なし	<input type="radio"/>	—
接近車両検知の感度※	低い／普通／高い	<input type="radio"/>	—

* マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ ドライブスタートコントロール (→P.167)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B
後退速度の抑制制御	あり	なし*	<input type="radio"/>	—

* 「なし」に変更しても、エンジンスイッチをONにするたびに「あり」に戻ります。

■ リヤシートリマインダー (→P.102)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B
後席置忘れ防止の表示*	あり	なし	<input type="radio"/>	—

* マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ エアコン (→P.369)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B
AUTOスイッチがONのとき、連動して外気導入と内気循環を自動的に切りかえる*	する	しない	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
AUTOスイッチをONにしたとき、A/Cスイッチが連動してONになる*	する	しない	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
排ガスセンサー感度調節*	標準	-3～3 OFF	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

* マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ シートヒーター／シートベンチレーター（→P.380）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B
運転席自動シートヒーター／ベンチレーター AUTO 作動時の温度調整※	標準	-2（涼しめ）～+2（暖かめ）	○	○
助手席自動シートヒーター／ベンチレーター AUTO 作動時の温度調整※	標準	-2（涼しめ）～+2（暖かめ）	○	○
左側リヤシートヒーター／ベンチレーター AUTO モード時の温度または風量調整※	標準	-2（涼しめ）～+2（暖かめ）	○	○
右側リヤシートヒーター／ベンチレーター AUTO モード時の温度または風量調整※	標準	-2（涼しめ）～+2（暖かめ）	○	○

* マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ ステアリングヒーター（→P.380）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B
ステアリングヒーター AUTO 作動時の温度調整※1, 2	標準	-2（低め）～2（高め）	○	○

*1 マイセッティングと連動して設定が変更されます。

*2 マルチメディアディスプレイには “作動時間” と表示される場合がありますが、温度調整の設定項目になります。

■ イルミネーション（→P.383）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B
室内灯の消灯までの時間※1	15秒	OFF	○	—
		7.5秒		
		30秒		
エンジンスイッチ OFF 後の作動	あり	なし	—	○
接近時の照明の点灯	あり	なし	—	○
解錠時の照明の点灯	あり	なし	—	○

機能の内容	初期設定	変更後	A	B
室外照明の消灯までの時間 ※1	15秒	OFF	○	—
		7.5秒		
		30秒		
イルミネーションの点灯 ※2	あり	なし	○	—
照明色の選択 ※1	ベージュ	カスタム	○	—
輝度の調整 ※1	5	9～1	○	—
		OFF		

※1マイセッティングと連動して設定が変更されます。

※2なしのときは室内灯のドア連動も作動しなくなります。



知識

■車両カスタマイズについて

- “スマートエントリー＆スタートシステム”が“なし”的場合、“解錠されるドアの選択”の設定はできません。
- 解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠が作動した合図は、“作動の合図（非常点滅灯）”・“作動の合図（ブザー音量調整）”の設定に依存します。

初期設定が必要な項目

次の項目はバッテリーを再接続したり、メンテナンスを行ったあとなどに、システムを正しく作動させるために初期設定が必要です。

初期設定が必要な項目

項目	初期設定が必要なとき	参照先
パワースライドドア	・ バッテリーの充電・交換後の再接続時	P.101
パワーバックドア	・ ヒューズ交換時	P.112
パワーウィンドウ		P.149
ルーフサンシェード★	正常に動かないとき	P.404
サイドサンシェード★		P.407

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

さくいん

こんなときは（症状別さくいん）	510
車から音が鳴ったときは（音さくいん）	512
アルファベット順さくいん	514
五十音順さくいん	516

こんなときは（症状別さくいん）

お困りの際は、トヨタ販売店にご連絡いただく前にまず次のことを確認してください。

施錠／解錠／ドアの開閉ができない



キーをなくした

- メカニカルキーをなくした場合、トヨタ販売店でトヨタ純正の新しいメカニカルキーを作ることができます。（→P.477）
- 電子キーをなくすと盗難の危険性が極めて高くなるため、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。（→P.477）



施錠・解錠できない

- キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？（→P.428）
- エンジンスイッチが ON になつていませんか？
施錠するときは、エンジンスイッチを OFF にしてください。（→P.172）
- 電子キーを車内に置き忘れていませんか？
施錠するときは、電子キーを携帯していることを確認してください。
- 電波状況により、機能が正常に

働いていない可能性があります。
(→P.119)



スライドドアが開かない

- チャイルドプロテクターがかっていませんか？

チャイルドプロテクターがかかっていると車内からは開きません。いったん車外から開けて、チャイルドプロテクターを解除してください。（→P.106）



スライドドアが全開にならない

- 中間ストッパーがかっていませんか？

給油口が開いていると、スライドドアは途中までしか開きません（中間ストッパー位置で停止します）。給油口を閉じ、いったんスライドドアを全閉にしてから、再度スライドドアを開けてください。（→P.100）

故障かな？と思ったら



エンジンが始動できない

- ブレーキペダルをしっかりと踏みながらエンジンスイッチを押していますか？（→P.170）
- シフトポジションは P になっていますか？（→P.170）
- キーが車内の検知される場所にありますか？（→P.118）
- キーの電池が消耗、または電池

が切れていませんか？
このときは、一時的な方法でエンジンを始動することができま
す。（→P.478）

- バッテリーがあがっていませんか？（→P.480）



**パワーウィンドウスイッチを操
作してもドアガラスが開閉しな
い**

- ウィンドウロックスイッチが押
されていませんか？

ウィンドウロックスイッチが押
されていると、運転席以外のパ
ワーウィンドウは操作できなく
なります。（→P.151）



**エンジンスイッチが自動的に
OFF になった**

- 一定時間 ACC または ON（エン
ジンがかかっていない状態）に
しておくと、自動電源 OFF 機能
が作動します。（→P.173）



**警告音・アラーム・ホーンが鳴り
だした**

- 警告音が鳴りだしたときは、「車
から音が鳴ったときは（音さく
いん）」（→P.512）をご確認く
ださい。



**警告灯や警告メッセージが表示
されたとき**

- 警告灯や警告メッセージが表示
されたときは、P.445、451
をご確認ください。

トラブルが発生した



タイヤがパンクした

- 応急用タイヤ装着車

車を安全な場所に停め、パンクしたタイ
ヤを応急用タイヤに交換してください。
（→P.468）

- タイヤパンク応急修理キット装
着車

車を安全な場所に停め、タイヤパンク応
急修理キットでパンクしたタイヤを応急
修理してください。（→P.458）



立ち往生した

- ぬかるみ・砂地・雪道などで動
けなくなったときの脱出方法を
試してください。（→P.486）

車から音が鳴ったときは（音さくいん）

次の状況のとき、車の状態や誤操作などをお知らせするために警告音が鳴ります。

車に乗るとき／降りるとき

状況	原因	詳細
解錠したとき	盗難防止装置（オートアラーム）が作動した ※	P.58
ドアを開閉したとき	シフトポジションがP以外になっている	P.451
	窓が開いている（エンジン停止中のみ）	P.150
	盗難防止装置（オートアラーム）が作動した ※	P.58
	後方から自動車・自転車が接近している	P.299
エンジンを停止したとき	電子キーの電池残量が少なくなっている	P.86
施錠しようとしたとき（施錠できないとき）	いずれかのドアが確実に閉まっていない	P.94
	電子キーを車内に置き忘れている	P.118

* スマートエントリー＆スタートシステム・ワイヤレスリモコンを使ってドアまたはバックドアを解錠するか、エン

ジンスイッチをACCまたはONにするか、エンジンを始動すると、警報を解除することができます。

走行しているとき

状況	原因	詳細
走り出したとき	いずれかのドア・ボンネットが確実に閉まっていない	P.96
	パーキングブレーキが解除されていない	P.183
	シートベルトを着用していない ※1	P.447
シフトダウンしたとき	無効なシフト操作をした ※2	P.174
ブレーキペダルを踏んだとき（きしみやひっかき音）	ブレーキパッドが摩耗している おそれがある	P.164
先行車に接近したとき	レーダークルーズコントロールを使用している	P.257
前方の障害物と衝突しそうになったとき	PCS（プリクラッシュセーフティ）が作動した	P.217
車線から逸脱しそうになつたとき	LTA（レーントレーシングアシスト）	P.225
	LDA（レーンディパーチャーアラート）を使用している	P.234

状況	原因	詳細	状況	原因	詳細
車線変更時、後方から車が接近しているとき	LCA（レーンチェンジアシスト）を使用している	P.231	対向車や右折先の歩行者がいるときに右折しようとしたとき		
低速で交差点などへ進入するとき、交差する車両の接近を検知したとき	FCTA（フロントクロストラフィックアラート）が作動した	P.244	左右から交差点に進入する車がいるときに発進しようとしたとき		
前の車が発進または信号が青に替わっても停車し続けたとき	発進遅れ告知機能が作動した	P.246	赤信号の交差点に進入しそうになったとき	ITS Connect ★ が作動した	P.271
制限速度より一定の速度を超過したとき	RSA（ロードサインアシスト）が作動した	P.248	緊急車両（救急車）がサイレンを鳴らして近辺を走行しているとき		
はみ出し通行禁止の道路で追い越しをかけたとき			自車の後方から接近てくる車両を検知したとき	後方車両接近告知が作動した	P.295
無操作運転が継続されたとき	ドライバー異常時対応システムが作動した	P.264	後退時に後方の歩行者を検知したとき	RCD（リヤカメラディテクション）が作動した	P.316
障害物との距離が近付いたとき	クリアランスソナーが作動した	P.304			
後退時に左右からの車を検知したとき	RCTA（リヤクロストラフィックアラート）が作動した	P.311			

*1 助手席に荷物を置いている場合にもブザーが鳴ることがあります。

*2 シフトポジションの切り替えが無効になるときや、自動的に N ポジションに切りかわる場合があります。その場合は適切なシフトポジションに切り替えてください。

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

アルファベット順さくいん

A/C	
(エアコン)	369
ABS	
(アンチロックブレーキシステム)	358
ACC	172
AHB	
(オートマチックハイビーム) ..	193
AHS	
(アダプティブハイビームシステム)	190
ALL AUTO 制御	368
BSM	
(ブラインドスポットモニター)	283
EDR	
(イベントデータレコーダー)	9
EPS	
(エレクトリックパワーステアリング)	358
FCTA	
(フロントクロストラフィックアラート)	244
FF	
(フロントエンジンフロントドライブ)	492
HUD	
(ヘッドアップディスプレイ)	73
ILSAC CERTIFICATION	
(イルサックサーティフィケーション)	489
ISOFIX	
(アイソフィックス／イソフィックス)	42
ITS Connect	271
通信利用型レーダークルーズコントロール.....	257
LCA	
(レーンチェンジアシスト)	230
LDA	
(レーンディバーチャーアラート)	234
LED	
(ライトエミッティングダイオード)	187, 432
LTA	
(レーントレーシングアシスト)	225
PCS	
(プリクラッシュセーフティ)	216
PDA	
(プロアクティブドライビングアシスト)	239
PKSB	
(パーキングサポートブレーキ)	319
RCD	
(リヤカメラディテクション)	316
RCTA	
(リヤクロストラフィックアラート)	311
RSA	
(ロードサインアシスト)	248
S-Flow	
フロント席集中送風モード.....	371
SRS	
(サプリメンタルレストRAINTシステム)	34
Toyota Safety Sense	207
AHB (オートマチックハイビーム)	193
AHS (アダプティブハイビームシステム)	190
FCTA (フロントクロストラフィックアラート)	244
LCA (レーンチェンジアシスト)	230
LDA (レーンディバーチャーア	

ラート)	234
LTA (レントレーシングアシス ト)	225
PCS (プリクラッシュセーフティ)	216
PDA (プロアクティブドライビン グアシスト)	239
RSA (ロードサインアシスト)	248
クルーズコントロール	261
ソフトウェアアップデートを確認す る	204
ドライバーモニター	215
ドライバー異常時対応システム	264
レーダークルーズコントロール	251
発進遅れ告知機能	246
TRC	
(トラクションコントロール)	358,
486	
VSC	
(ビーコルスタビリティコントロー ル)	358

五十音順さくいん

あ

アースポイント（バッテリーあがりの処置）	480
アウターミラー（ドアミラー）	146
BSM（ブラインドスポットモニター）	283
RCTA（リヤクロストラフィックアラート）	311
安心降車アシスト	299
格納のしかた	147
操作	146
ポジションメモリー	152
ミラーヒーター	373
リバース連動機能	147
アクセサリーコンセント	394
アクセサリーソケット	393
アシストグリップ	409
足元照明	383
アダプティブハイビームシステム（AHS）	190
アドバンストドライブ（渋滞時支援）	267
ソフトウェアアップデートを確認する	204
アドバンストパーク	334
カスタマイズ設定	355
縦列出庫機能	348
縦列駐車機能	345
設定	339
中止／中断	355
並列前向き／バック出庫機能	344
並列前向き／バック駐車機能	341
メモリ機能	350
アラーム	
オートアラーム	58
警告ブザー	445
安心降車アシスト	299
アンチロックブレーキシステム（ABS）	
.....	358

アンテナ

スマートエントリー＆スタートシステム	117
--------------------	-----

い

イージークローザー

スライドドア	100
バックドア	111

イグニッションスイッチ（エンジンスイッチ）

エンジン始動のしかた	170
自動電源 OFF 機能	173
車両を緊急停止するには	436
モードの切りかえ	172

位置交換（タイヤローテーション）

424

イベントデータレコーダー（EDR）

9

イルミネーテッドエントリーシステム

383

インジケーター（表示灯）

64

インストルメントパネル照度調整スイッチ

71

インテリアランプ（室内灯）

383

う

ワインカー（方向指示灯）

180	
電球（バルブ）の交換	432
方向指示レバー	180

ウインドウ

ウインドシールドデアイサー	373
ウォッシャー	197, 200
パワーウィンドウ	149
リヤウインドウデフォッガー	373

ウインドウロックスイッチ

151

ウインドシールドデアイサー

373

ウォッシャー

197, 200

液の補充	422
------	-----

スイッチ	197, 200
------	----------

タンク容量	491	エンジンスイッチ (イグニッションスイッチ)	170
冬の前の準備・点検	364	エンジンの始動方法	170
動きなくなったときは (スタック)	486	オーバーヒート	483
雨滴感知式ワイパー	197	緊急時の停止方法	436
運転		タコメーター	67
雨の日の運転	161	ポンネット	419
運転を補助する装置	358	エンジンイモビライザーシステム	57
寒冷時の運転	364	エンジンオイル	488
正しい運転姿勢	27	冬の前の準備・点検	364
手順	161	メンテナンスデータ	488
運転支援システム情報表示	80	油圧警告灯	446
運転席シートベルト非着用警告灯 ...	447	容量	488
え			
エアコン	369, 377	エンジン回転計 (タコメーター)	67
「ナノイーX」	372	エンジンスイッチ (イグニッションスイッチ)	170
ALL AUTO 制御	368	自動電源 OFF 機能	173
オートエアコン	369, 377	車両を緊急停止するには	436
曇り取り (フロントガラス)	373	モードの切りかえ	172
フィルターの清掃	426	エンジンフード (ポンネット)	419
フロント席集中送風モード (S-Flow)	371	開け方	419
リヤオートエアコン	377	警告ブザー	96
エアバッグ	34	エンジンルーム	419
SRS エアバッグ警告灯	446	エンジンルームから蒸気が出ている ...	483
改造・廃棄	39	お	
警告ブザー	446	オイル (エンジンオイル)	488
作動条件	35	応急用タイヤ	468
正しい姿勢	27	空気圧	492
配置	34	交換方法	468
エコ空調モード	371	オーディオシステム連携表示	82
エコモード	177	オートアラーム	58
エレクトリックパワーステアリング (EPS)	358	オートエアコン	377
機能	358	オートドアロック・アンロック機能 ..	96
パワーステアリング警告灯	447	オートマチックハイビーム (AHB) ..	193
エンジン		オートレベルリングシステム (ヘッドランプ)	189
エンジンイモビライザーシステム	57		
エンジンが始動できない	476		

オーバーヒート	483
オープナー	
給油扉	203
バックドア	108, 116
ボンネット	419
おくだけ充電（ワイヤレス充電器）	396
お子さまを乗せるとき	41
ウインドウロックスイッチ	151
お子さまの安全のために	41
キーの電池	428
サイドサンシェードに関する警告	408
シートベルトの着用	30
チャイルドシート	42
チャイルドシートの取り付け	42
発炎筒の取り扱いに関する警告	436
バックドアに関する警告	107
バッテリーに関する警告	482
パワーウィンドウに関する警告	150
ルーフサンシェードに関する警告	404
オドメーター／トリップメーターディスプレイ	70
ODO TRIP スイッチ	70
表示項目	70

か

カーテシランプ	383
カーテンシールドエアバッグ	34
カーペット	
洗浄	416
フロアマットの取り付け方	26
外気温度表示	67
外装の電球（バルブ）.....	432
買い物フック	409
カスタマイズ機能	493
型式	492
カップホルダー	387
カメラ	
サイドカメラ	337

前方カメラ	208
デジタルインナーミラー	142
ドライバーモニター	215
フロントカメラ	337
リヤカメラ	337
ガラスの曇り取り（リヤウインドウデフォッガー）	373
ガラスの曇り取り	
前方カメラ取り付け部	211
ガレージジャッキ	421
冠水路走行	166
寒冷時の運転	364

き

キー	86
エンジンが始動できない	476
キーナンバープレート	86
キーの構成	86
キーレスエントリー	88, 117
キーをなくした	477
正常に動かない	478
施錠・解錠ができない	478
電子キー	86
電池が切れた	428
メカニカルキー	88
ワイヤレスリモコン	88
キーレスエントリー	
スマートエントリー＆スタートシステム	117
ワイヤレスドアロック	88
きしみやひっかき音が聞こえる（ブレイキパッドウェアインジケーター） ..	164
給油	202
給油のしかた	202
メンテナンスデータ	488
緊急時シートベルト固定機構	31
緊急始動機能	476

緊急時の対処

エンジンが始動できない	476
オーバーヒートした	483
キーの電池が切れた	428, 478
キーをなくした	477
警告灯がついた	445
警告メッセージが表示された	451
けん引	439
故障した	434
車中泊が必要なときは	438
車両を緊急停止する	436
水没・冠水した	437
スタックした	486
電子キーが正常に働かない	478
発炎筒	435
バッテリーがあがった	480
パンクした	458, 468
緊急ブレーキシグナル	358

く

空気圧（タイヤ）	492
区間距離計（トリップメーター）	70
曇り取り	
前方カメラ取り付け部	211
フロントガラス	373
ミラーヒーター	373
リヤウインドウデフォッガー	373
クラクション（ホーン）	137
クリアランスソナー	304
クリアランスランプ（車幅灯）	187
スイッチ	187
電球（バルブ）の交換	432
クリップ	
フロアマット	26
クルーズコントロール	
クルーズコントロール	261
レーダークルーズコントロール	251

グローブボックス 387**け**

警音器（ホーン）	137
計器類（メーター）	67
警告灯	445
ABS & ブレーキアシスト	446
LDA 表示灯	448
LTA 表示灯	448
PCS	448
PDA 表示灯	448
SRS エアバッグ	446
Stop & Start キャンセル	448
運転支援情報表示灯	449
エンジン	446
クリアランスソナー OFF 表示灯	449
クルーズコントロール表示灯	448
高水温	445
シートベルト非着用	447
充電	445
スリップ表示灯	449
燃料残量	447
パーキングブレーキ表示灯	450
パワーステアリング	447
ブリテンショナー	446
ブレーキ	445
ブレーキホールド作動表示灯	450
ペダル誤操作	446
油圧	446
レーダークルーズコントロール表示灯	449
警告ブザー	
LDA	448
LTA	448
PCS	448
PDA	448
SRS エアバッグ	446
ABS & ブレーキアシスト	446
エンジン	446

クリアランスソナー	449
クルーズコントロール	448
高水温	445
シートベルト非着用	447
シフトダウン制限	178
車線逸脱警報 (LDA)	234
衝突警報 (PCS)	217
接近警報 (レーダークルーズコントロール)	257
手放し運転警告 (LDA)	236
手放し運転警告 (PDA)	243
ドライブスタートコントロール	446
パワーステアリング	447
半ドア	94
半ドア走行時	96
プリテンショナー	446
ブレーキ	445
ブレーキオーバーライドシステム	446
ブレーキホールド	450
ボンネット開	96
油圧	446
レーダークルーズコントロール	449
警告メッセージ	451
化粧ミラー (バニティミラー)	393
けん引	439
けん引のしかた	439
フックの搭載場所	459, 469
フックの取り付け	441

こ**交換**

エアコンフィルター	426
タイヤ	468
電球 (バルブ)	432
電子キーの電池	428
ヒューズ	430
工具 (ツール)	459, 469

降車オートロック機能	92
航続可能距離	69, 81
後退速度の抑制制御 (ドライブスタートコントロール)	167
後退灯 (バックアップランプ)	
電球 (バルブ) の交換	432
後方車両への接近警報	295
コートフック	410
コーナリングランプ	190
電球 (バルブ) の交換	432
小物入れ	389
コンソールボックス	387
コンライト (自動点灯・消灯装置)	187

さ

サードシート	126
シートアレンジ	130
サイドエアバッグ	34
サイドサンシェード	405, 406
サイドテーブル	408
サイド方向指示灯	180
電球 (バルブ) の交換	432
方向指示レバー	180
サイドミラー (ドアミラー)	146
BSM (ブライムスポットモニター)	283
RCTA (リヤクロストラフィックアラート)	311
安心降車アシスト	299
格納のしかた	147
操作	146
ポジションメモリー	152
ミラーヒーター	373
リバース連動機能	147
サンシェード	
サイド	406
リヤ	406
ルーフ	403

サンバイザー 393

し

シート 123, 124, 126

サードシート 126

シートアレンジ 130

セカンドシート 124

正しい運転姿勢 27

チャイルドシート 42

調整 123, 124, 126

手入れ 416

パワーイージーアクセスシステム 152

ヘッドレスト 128

ポジションメモリー 152

メモリーコール機能 154

シートアレンジ 130

シートヒーター 380

ALL AUTO 制御 368

シートベルト 29

お子さまの着用 30

緊急時シートベルト固定機構 31

高さ調整 33

正しく着用するには 30

着け方・はずし方 31

手入れ 416

妊娠中の方の着用 29

非着用警告灯 447

シートベルト非着用警告灯 447

シートベルトプリテンショナー

機能 33

プリテンショナー警告灯 446

シートベンチレーター 380

ALL AUTO 制御 368

室内灯 383

始動のしかた 170

シフトポジション 174

シフトレバー 174

シフトポジションの切り替え 175

操作 174

リバース警告ブザー 176

ジャッキ

ガレージジャッキ 421

車載ジャッキ 459, 469

ジャッキハンドル

..... 459, 469

車幅灯

..... 187

電球（バルブ）の交換 432

ランプスイッチ 187

車両型式

..... 492

車両仕様（スペック）

..... 488

車両データの記録

..... 7

車両を緊急停止するには

..... 436

充電用 USB Type-C 端子

..... 395

瞬間燃費

..... 80, 81

仕様（車両仕様）

..... 488

衝撃感知ドアロック解除システム

..... 93

初期化

..... 508

サイドサンシェード 508

パワーウィンドウ 149

パワースライドドア 101

パワーバックドア 112

ルーフサンシェード 508

初期設定

..... 508

助手席シートベルト非着用警告灯

..... 447

信号切替り告知機能

..... 246

す

水温計 67

スイッチ

LTA 227

ODO TRIP 70

TRC OFF 359

VSC OFF 359

アダプティブハイビームシステム 191

イグニッション 170

インストルメントパネル照度調整 71

ウィンドウロック 151

ウォッシャー	197, 200	メーター操作スイッチ	78
エコモード	177	ステップランプ	102
エンジンスイッチ	170	Stop & Start システム	277
オートマチックハイビーム	193	キャンセルスイッチ	282
クルーズコントロール	261	ストップランプ（制動灯）	
サイドサンシェード	406	制動灯表示灯	66
シート調整	123, 124	電球（バルブ）の交換	432
車間距離切りかえ（レーダークルーズコントロール）	253	スノータイヤ（冬用タイヤ）	364
Stop & Start キャンセル	282	スピードメーター	67
デジタルインナーミラー	138	スペアタイヤ（応急用タイヤ）	468
ドアミラー	146	空気圧	492
ドアロック	95	交換方法	468
パーキングブレーキ	181	スペック（車両仕様）	488
ハザードランプ	435	スマートエントリー＆スタートシステム	
バックドアオープン	109, 116		117
パドルシフト	178, 179	アンテナの位置	117
パワーウィンドウ	149	エンジンの始動	170
パワースライドドア	99	カスタマイズ設定	493
パワースライドドアオフ	100	緊急始動機能	476
パワーバックドア	109	作動範囲	118
ハンドル位置調整	137	正常に動かないとき	478
非常点滅灯（ハザードランプ）	435	節電機能	118
ブレーキホールド	185	電波がおよぼす影響について	122
方向指示レバー	180	ドアの解錠・施錠	92, 108
ホーン（警音器）	137	バックドアの施錠・解錠	108
メーター操作	78	スマールランプ（車幅灯）	187
ランプ	187	電球（バルブ）の交換	432
ルーフサンシェード	403	ランプスイッチ	187
レーダークルーズコントロール	253	スライドドア	96
ワイパー	197, 200	イージクローザー	100
スタック	486	操作	98
ステアリングヒーター	380	パワースライドドア	98
ALL AUTO 制御	368	スリップ表示灯	359
ステアリングホイール（ハンドル）	137		
位置調整	137		
ステアリングヒーター	380		
パワーイージーアクセスシステム	152		
		せ	
清掃	412, 416		
外装	412		
シートベルト	416		

内装	416
ホイール・ホイールキャップ	413
レーダーセンサー	209, 284
制動灯	
電球（バルブ）の交換	432
表示灯	66
セカンドリーコリジョンブレーキ	297, 358
セカンドシート	124
シートアレンジ	130
積算距離計（オドメーター）	70
セキュリティインジケーター	57, 58
接近警報（レーダークルーズコントロール）	257
先行車発進告知機能	246
センサー	
雨滴感知センサー	198
後側方レーダー	208
前側方レーダー	208
前方カメラ	208
前方レーダー	208
デジタルインナーミラー	141
ドライバーモニターカメラ	209
ライトセンサー	188
洗車	412
前照灯（ヘッドライト）	187
オートレベルシステム	189
電球（バルブ）の交換	432
ライトセンサー	188
ランプ消し忘れ防止機能	188
ランプスイッチ	187

そ

走行時間	81
走行情報表示	79
走行モード（ドライブモード）	177
速度計（スピードメーター）	67

た

ターンシグナルランプ（方向指示灯）	180
電球（バルブ）の交換	432
方向指示レバー	180
ダイナミックトルクコントロール4WD	358
タイヤ	423
応急用タイヤ	468
空気圧	425, 492
交換	468
チェーン	364
点検	423
パンクしたときは	458, 468
パンク応急修理キット	458
冬用タイヤ	364
ホイールサイズ	492
ローテーション（位置交換）	424
タイヤが空まわりする（スタックした）	486
タイヤチェーン	364
タコメーター	67

ち

チェーン（タイヤチェーン）	364
チャイルドシート	42
ISOFIX ロアアンカレッジでの取り付け	53
シートベルトでの固定	52
選択方法	42
チャイルドプロテクター	106
駐車ブレーキ（パーキングブレーキ）	181
警告メッセージ	183
操作	181
冬季の注意	365
パーキングブレーキ表示灯	450
ブレーキ警告灯	445

未解除走行時警告ブザー	183
メンテナンスデータ	491

つ

通信利用型レーダークルーズコントロール	257
ツール（工具）	459, 469

て

提案サービス機能	84
ディスプレイ	
ヘッドアップディスプレイ	73, 78
マルチインフォメーションディスプレイ	72, 78
マルチメディアディスプレイ	78
デイライト	188
手入れ	412, 416
外装	412
シートベルト	416
デジタルインナーミラー	142
内装	416
ホイール・ホイールキャップ	413
レーダーセンサー	209, 284
テールランプ（尾灯）	187
電球（バルブ）の交換	432
ランプスイッチ	187
デジタルインナーミラー	138
リヤカメラウォッシャー	200
デジタルキー	89
デッキフック	391
デッキボード	391
デフォッガー（リヤウインドウデフォッガー）	373
電球（バルブ）	
交換要領（外装バルブ）	432
点検基準値（メンテナンスデータ）	488
電子キー	86

作動範囲	118
正常に働かないとき	478
節電機能	118
電池が切れた	478
電池交換	428
電池交換（キー）	428

と

ドア	92
オートドアロック・アンロック機能	96
降車オートロック機能	92
衝撃感知ドアロック解除システム	93
スマートエントリー＆スタートシステム	117
スライドドア	96
チャイルドプロテクター	106
ドアガラス	149
ドアロックスイッチ	95
バックドア	107
ワイヤレスリモコン	92
ドアカーテシランプ	383
ドアミラー	146
BSM	283
RCTA	311
安心降車アシスト	299
格納のしかた	147
操作	146
ポジションメモリー	152
ミラーヒーター	373
リバース運動機能	147
盗難防止装置	
エンジンイモビライザーシステム	57
オートアラーム	58
時計	67, 393
トップテザーアンカレッジ	55
ドライバー異常時対応システム	264
ドライビングポジション	152

ドライビングポジションメモリー	
メモリーコール機能	154
ドライブスタートコントロール	167
急発進の抑制制御	167
後退速度の抑制制御	167
トラクションコントロール (TRC)	358
トランスマッision	174
シフトダウン制限警告ブザー	178
操作	175
パドルシフトスイッチ	178, 179
メンテナンスデータ	490
トリップメーター	70

な

内装	
収納装備	386
手入れ	416
「ナノイー X」	372
ナビゲーションシステム連携表示	73, 82

に

荷物	
積むときの注意	168

ぬ

ぬかるみにはまった (スタッカ)	486
------------------	-----

ね

燃費	
給油後平均燃費	81
瞬間燃費	80, 81
燃費情報	80
平均燃費	80, 81
燃料	488
給油	202

種類	488
燃料計	67
燃料残量警告灯	447
フューエルポンプシャットオフシステム	444
容量	488
燃料計	67

は

パーキングサポートブレーキ (PKSB)	319
後方接近車両	326
後方歩行者	328
前後方静止物／周囲静止物	323
パーキングブレーキ	181
警告メッセージ	183
操作	181
冬季の注意	365
パーキングブレーキ表示灯	450
ブレーキ警告灯	445
未解除走行時警告ブザー	183
メンテナンスデータ	491
パーソナルランプ	384, 385
排気ガス	40
ハイビーム (ヘッドランプ)	189
AHB (オートマチックハイビーム)	193
AHS (アダプティブハイビームシステム)	190
電球 (バルブ) の交換	432
ランプスイッチ	189
ハイマウントストップランプ	
電球 (バルブ) の交換	432
ハザードランプ (非常点滅灯)	435
緊急ブレーキシグナル	358
スイッチ	435
電球 (バルブ) の交換	432
挟み込み防止機能	
サイドサンシェード	406

パワーウィンドウ	149	応急用タイヤ装着車	468
パワースライドドア	101	タイヤパンク応急修理キット装着車	458
パワーバックドア	112	番号灯（ライセンスプレートランプ）	187
ルーフサンシェード	403	電球（バルブ）の交換	432
発炎筒	435	ランプスイッチ	187
バックアップランプ（後退灯）		ハンドル（ステアリングホイール）	137
電球（バルブ）の交換	432	位置調整	137
バックドア	107	ステアリングヒーター	380
イージークローザー	111	パワーイージーアクセスシステム	152
バックドアハンドル	116	メーター操作スイッチ	78
パワーバックドア	109		
バックドアオーブナー	109, 116		
バッテリー			
警告灯	445	ビークルスタビリティコントロール（VSC）	358
交換するとき	482		
バッテリーがあがった	480		
パドルシフトスイッチ	178, 179	ヒーター	
バニティ（化粧用）ミラー	393	エアコン・デフォッガー	369, 377
バニティミラーランプ	393	シートヒーター	380
バルブ（電球）		ステアリングヒーター	380
交換要領（外装のバルブ）	432	前方カメラ	211
パワーイージーアクセスシステム	152	ミラーヒーター	373
パワーウィンドウ	149	リヤオートエアコン	377
ウインドウロックスイッチ	151	レーダー専用カバー	210
閉めることができないときは	149	非常点滅灯（ハザードランプ）	435
初期化	149	緊急ブレーキシグナル	358
操作	149	スイッチ	435
ドアロック連動ドアガラス開閉機能	150	電球（バルブ）の交換	432
挟み込み防止機能	149	尾灯（テールランプ）	187
巻き込み防止	149	電球（バルブ）の交換	432
パワーステアリング	358	ランプスイッチ	187
機能	358	ヒューズ	430
警告灯	447	表示灯	64
パワースライドドア		日よけ	
開け方	98	サイドサンシェード	406
挟み込み防止機能	101	サンバイザー	393
パワードアオフスイッチ	100	ルーフサンシェード	403
パンクした		ヒルスタートアシストコントロール	358

ひ

ふ

ブースターケーブルのつなぎ方	480	フロアマット固定フック	26
フォグランプ	196	フューエルポンプシャットオフシステム	444
スイッチ	196	フューエルメーター	67
電球（バルブ）の交換	432	フューエルリッド（給油口）	202
給油のしかた	202	冬の前の準備（寒冷時の運転）	364
ブザー		冬用タイヤ	364
FCTA（フロントクロストラフィックアラート）	244	ブラインドスポットモニター（BSM）	283
PKSB（パーキングサポートブレーキ）	321	プラスサポート	329
RCD（リヤカメラディテクション）	317	プリクラッシュセーフティ（PCS）	216
RCTA（リヤクロストラフィックアラート）	312	機能	216
休憩提案機能（LDA）	235	PCS 警告灯	448
クリアランスソナー	308	ブレーキ	
シートベルト非着用警告	447	緊急ブレーキシグナル	358
シフトダウン制限警告	178	警告灯	445
車線逸脱警報機能（LDA）	234	パーキングブレーキ	181
衝突警報（PCS）	217	ブレーキホールド	185
スマートエントリー＆スタートシステム	118	メンテナンスデータ	491
接近警報（レーダークルーズコントロール）	257	ブレーキアシスト	358
手放し運転警告（LDA）	236	ブレーキフルード	491
手放し運転警告（PDA）	243	ブレーキホールド	185
ドライバー異常時対応システム	264	プロアクティブドライビングアシスト（PDA）	239
ドライバーモニター	215	フロアマット	26
パーキングブレーキ未解除走行時警告	183	フロントクロストラフィックアラート（FCTA）	244
発進遅れ告知機能	246	フロントシート	123
パワーステアリング	450	正しい運転姿勢	27
半ドア走行時警告	96	調整	123
ブレーキ警告	445	手入れ	416
油圧警告	446	パワーイージーアクセスシステム	152
フック		ヘッドライト	128
買い物フック	409	フロントフォグランプ	
けん引フック	439	スイッチ	196
コートフック	410	電球（バルブ）の交換	432
フロント方向指示灯		フロント方向指示灯	180

電球（バルブ）の交換	432
方向指示レバー	180

へ

平均車速	81
平均燃費	80, 81
ヘッドアップディスプレイ	73
設定	75
走行状況表示	73
ナビゲーションシステム連携	73
ヘッドランプ	187
クリーナー	197
電球（バルブ）の交換	432
ライトセンサー	188
ランプ消し忘れ防止機能	188
ランプスイッチ	187
ヘッドランプオートレベルリングシステム	189
ヘッドライト	128
ベンチレーター（シートベンチレーター）	380

ほ

ホイール	
交換（タイヤ）	468
メンテナンスデータ	492
ホイールナットレンチ	469
方向指示灯	180
電球（バルブ）の交換	432
方向指示レバー	180
ホーン（警音器）	137
ポジションメモリー	152
保証	10
ボトルホルダー	388
ボンネット	419
開け方	419
警告メッセージ	96

ま

マイセッティング	156
Max cool	372
Max heat	371
マルチインフォメーションディスプレイ	72
運転支援システム情報	80
オーディオシステム連携	82
警告メッセージ	451
走行情報表示	79
提案サービス機能	84
ドライブインフォメーション	81
ナビゲーションシステム連携	82
燃費グラフ	80
メーター操作スイッチ	78

み

ミラー	
デジタルインナーミラー	138
ドアミラー	146
パニティミラー	393
ミラーヒーター	373
リヤカメラウォッシャー	200

め

メーター（計器類）	67
計器類	67
警告灯	445
警告メッセージ	451
照度調整	71
時計	67
表示灯	64
マルチインフォメーションディスプレイ	72
メーター	
メーター操作スイッチ	78

メカニカルキー	88
メモリーコール機能	154
メンテナンスデータ	488

ゆ

ユーザーカスタマイズ機能	493
雪道ですべって動けない（スタックした）	486
油脂類	488
ユニバーサルステップ	106

ら

ライセンスプレートランプ（番号灯）	187
電球（バルブ）の交換	432
ランプスイッチ	187
ラジエーター	
オーバーヒート	483
メンテナンスデータ	489

ランプ	
AHB（オートマチックハイビーム）....	193
AHS（アダプティブハイビームシステム）	190
コーナリングランプ	190
室内灯	383
電球（バルブ）の交換	432
非常点滅灯（ハザードランプ）.....	435
フロントフォグラム	196
ヘッドラム	187
方向指示灯（ターンシグナルランプ／ワインカー）	180
ライトセンサー	188
ランプ消し忘れ防止機能	188
リヤフォグラム	196
ランプ消し忘れ防止機能	188

り

リバース運動機能	200
リヤウインドウデフォッガー	373
リヤエアコン	377
リヤカメラデテクション（RCD）....	316
リヤ席シートベルト非着用警告灯	447
リヤフォグラム	196
スイッチ	196
電球（バルブ）の交換	432
リヤ方向指示灯	180
電球（バルブ）の交換	432
方向指示レバー	180

る

ルーフサンシェード	403
-----------------	-----

れ

冷却水	489
冬の前の準備	364
メンテナンスデータ	489
冷却装置（ラジエーター）	489
オーバーヒート	483
メンテナンスデータ	489
レーダークルーズコントロール	251
接近警報	257
レーダー	208
レーンチェンジアシスト（LCA）....	230
レーンディィパーチャーラート（LDA）	234
レントレーシングアシスト（LTA）	225
レバー	
シフト	174
ハンドル位置調整	137
方向指示	180
ボンネット解除	419

ワイパー 197

ろ

ロードサインアシスト (RSA) 248

ロック

ウインドウロック 151

スマートエントリー&スタートシステム
..... 117

スライドドア 96

チャイルドプロテクター 106

ドア 92

バックドア 107

ワイヤレスリモコン 88

わ

ワイパー＆ウォッシャー

ウォッシャー液の補充 422

フロント 197

ワイパー & ウォッシャー

リヤ 200

ワイパーブレード（寒冷地用） 365

ワイヤレス充電器（おくだけ充電）.396

ワイヤレスリモコン 88

作動の合図 94

操作 88

電池の交換 428

半ドア警告ブザー 94

ワックス 412

・ハンズフリー

・T-Connect

・パノラミックビューモニター

・ETC2.0 システム

次の装備は、別冊「マルチメディア取扱説明書」をお読みください。

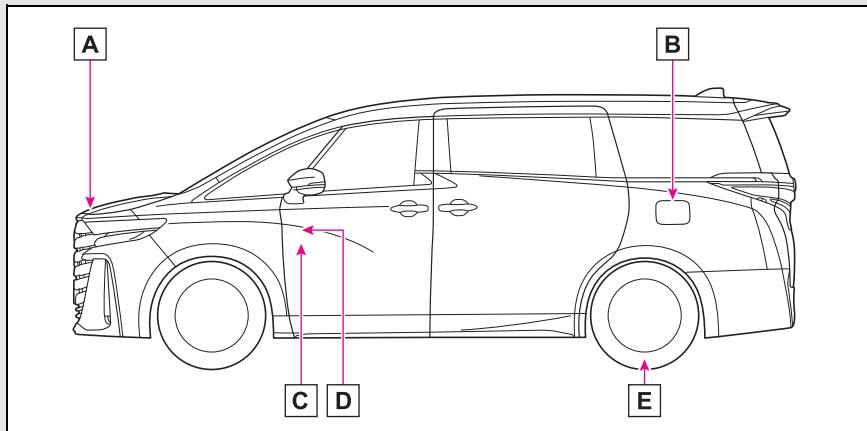
- ・音声対話サービス

- ・ナビゲーションシステム

- ・オーディオ

ガソリンスタンドでの情報

給油や交換などの際に必要になる項目をまとめてあります。



- A** ボンネットフック (→P.419)
- B** 給油口 (→P.203)
- C** ボンネット解除レバー (→P.419)
- D** 給油扉オーブナー (→P.203)
- E** タイヤ空気圧 (→P.492)

燃料の容量（参考値）	▶ FF（前輪駆動） 75 L ▶ 4WD（4輪駆動） 65 L
燃料の種類	P.488
タイヤが冷えているときの空気圧	P.492
エンジンオイル容量（参考値）	P.488
エンジンオイルの種類	P.488

お車の取り扱い方法、故障、修理に関するご相談については、お買い上げ
いただきましたトヨタ販売店、または最寄りのトヨタ販売店へお問合せください。
また、リコール情報については、右記の QR コードからご確認ください。

販売店検索 リコール等情報



トヨタ自動車株式会社 お客様相談センター

所在地 〒450-8711 名古屋市中村区名駅4丁目7番1号



お電話によるお問い合わせ



WEBページからのお問い合わせ



全国共通・フリーコール
0800-700-7700



インターネットフォーム
によるお問い合わせ



チャットによる
お問い合わせ



手話通訳サービス
によるお問い合わせ

各お問い合わせサービスのご利用・受付時間など詳細につきましては右記の QR コードからご確認ください。

「個人情報保護方針」については、https://toyota.jp/privacy_statement/ にて掲載しております。



●ご愛用車のお問い合わせは、自動車検査証（車検証）をご用意いただくと、スムーズな対応が可能です。

●QR コードは（株）デンソーウェーブの登録商標です。

トヨタ自動車株式会社
<https://toyota.jp>



Publication No. M58404V
01-2511
ヴェルファイア